



Cisco Unified Communications Manager 一括管理ガイド、リリース 15

初版：2023年12月18日

シスコシステムズ合同会社

〒107-6227 東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー

<http://www.cisco.com/jp>

お問い合わせ先：シスコ コンタクトセンター
0120-092-255（フリーコール、携帯・PHS含む）

電話受付時間：平日 10:00～12:00、13:00～17:00

<http://www.cisco.com/jp/go/contactcenter/>

【注意】 シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

THE SPECIFICATIONS AND INFORMATION REGARDING THE PRODUCTS IN THIS MANUAL ARE SUBJECT TO CHANGE WITHOUT NOTICE. ALL STATEMENTS, INFORMATION, AND RECOMMENDATIONS IN THIS MANUAL ARE BELIEVED TO BE ACCURATE BUT ARE PRESENTED WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED. USERS MUST TAKE FULL RESPONSIBILITY FOR THEIR APPLICATION OF ANY PRODUCTS.

THE SOFTWARE LICENSE AND LIMITED WARRANTY FOR THE ACCOMPANYING PRODUCT ARE SET FORTH IN THE INFORMATION PACKET THAT SHIPPED WITH THE PRODUCT AND ARE INCORPORATED HEREIN BY THIS REFERENCE. IF YOU ARE UNABLE TO LOCATE THE SOFTWARE LICENSE OR LIMITED WARRANTY, CONTACT YOUR CISCO REPRESENTATIVE FOR A COPY.

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

NOTWITHSTANDING ANY OTHER WARRANTY HEREIN, ALL DOCUMENT FILES AND SOFTWARE OF THESE SUPPLIERS ARE PROVIDED "AS IS" WITH ALL FAULTS. CISCO AND THE ABOVE-NAMED SUPPLIERS DISCLAIM ALL WARRANTIES, EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, THOSE OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NON-INFRINGEMENT OR ARISING FROM A COURSE OF DEALING, USAGE, OR TRADE PRACTICE.

IN NO EVENT SHALL CISCO OR ITS SUPPLIERS BE LIABLE FOR ANY INDIRECT, SPECIAL, CONSEQUENTIAL, OR INCIDENTAL DAMAGES, INCLUDING, WITHOUT LIMITATION, LOST PROFITS OR LOSS OR DAMAGE TO DATA ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THIS MANUAL, EVEN IF CISCO OR ITS SUPPLIERS HAVE BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

Any Internet Protocol (IP) addresses and phone numbers used in this document are not intended to be actual addresses and phone numbers. Any examples, command display output, network topology diagrams, and other figures included in the document are shown for illustrative purposes only. Any use of actual IP addresses or phone numbers in illustrative content is unintentional and coincidental.

All printed copies and duplicate soft copies of this document are considered uncontrolled. See the current online version for the latest version.

Cisco has more than 200 offices worldwide. Addresses and phone numbers are listed on the Cisco website at www.cisco.com/go/offices.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2023 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.



目次

はじめに :

はじめに	xxix
目的	xxix
対象読者	xxix
マニュアルの構成	xxx
関連資料	xxxii
表記法	xxxiii
マニュアルとサービスリクエスト	xxxiv
シスコ製品のセキュリティの概要	xxxiv

第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報	1
新機能および変更された機能に関する情報	1

第 1 部 :

概要	3
----	---

第 2 章

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT)	5
Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツールについて	5
BAT のインストール	7
BAT データ入力ファイル	7
BAT 設定マルチステップ プロセスの実行	7
BAT メニューについて	8
BAT 設定テンプレート	9
標準電話テンプレート	10
CSV データ ファイルによるテンプレート値のオーバーライド	10
テンプレートのオーバーライド例	10

CSV データ ファイルによる新規デバイスの追加	10
CSV データ ファイルによる既存のデバイスの更新	11
CSV データ ファイル形式とカスタム ファイル形式	12
CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する	14
BAT データ入力ファイルの検証	16
データベースへの BAT データ入力ファイル レコードの挿入	17
BAT アプリケーション Web ブラウザに関する考慮事項	18
BAT オンライン ヘルプへのアクセス	18
Cisco Unified Communications Manager バージョンの確認	19

第 II 部 : **ファイルのアップロードとダウンロード** 21

第 3 章 **ファイルのアップロードおよびダウンロード** 23

サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索	23
サーバからのファイルのダウンロード	25
サーバへのファイルのアップロード	25
サーバからのファイルの削除	26

第 III 部 : **電話** 29

第 4 章 **電話テンプレート** 31

データベースへの電話機の追加	31
BAT 電話機テンプレート	32
BAT 電話機テンプレートの検索	32
新しい BAT 電話機テンプレートの作成	34
BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新	34
BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新	35
BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新	36
BAT テンプレート内の話中ランプフィールドの追加または更新	37
BAT テンプレート内の話中ランプフィールド ダイレクト通話パークの追加または更新	38
BAT テンプレート内のインターコムテンプレートの追加または更新	39

BAT 電話機テンプレートの変更	40
BAT 電話機テンプレートのコピー	41
BAT 電話機テンプレートの削除	42
BAT 電話機テンプレート フィールドの説明	42
BAT テンプレートの電話回線フィールドの説明	88
インターコム テンプレートを追加するための BAT テンプレートのフィールドの説明	113
BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データファイルの作成	116
BAT スプレッドシートの電話フィールドの説明	119
Jabber デバイスの更新	150
Jabber デバイスの名前の変更	150

第 5 章
電話ファイル形式 151

テキスト エディタによる電話用 CSV データ ファイルの作成	151
電話ファイル形式の検索	152
CSV データ ファイル用の電話機ファイル形式の設定	153
テキスト エディタを使用したカスタム電話機ファイル形式の作成	153
CSV データ ファイル用のカスタム電話機ファイル形式のコピー	154
CSV データ ファイル用のカスタム ファイル形式の変更	155
既存の CSV データ ファイル形式の削除	156
テキスト ベースのファイル形式と CSV データファイルの関連付け	157

第 6 章
電話レコードの検証 159

CSV データファイルの電話機レコードの確認	159
電話の確認に関する考慮事項	160
電話機レコードの検証関連のトピック	161

第 7 章
電話の挿入 163

Unified Communications Manager への電話の挿入	163
電話の挿入関連のトピック	166

第 8 章
電話の更新 167

クエリを使用した電話機の更新	167
カスタム ファイルを使用した電話機の更新	169
更新パラメータの選択	170
電話の更新フィールドの説明	171

第 9 章**電話の削除 191**

クエリを使用した電話機の削除	191
カスタム ファイルを使用した電話機の削除	193
未割り当ての電話番号の削除	195

第 10 章**電話のエクスポート 197**

電話機レコードのエクスポート	197
エクスポートされる電話機レコードのフィールド	198
電話機レコードのエクスポート	202
エクスポートまたはインポートする複数のユーザ電話機	204
電話のエクスポート関連のトピック	204

第 11 章**電話回線の追加および更新 205**

クエリを使用した電話回線の更新	205
電話回線の更新フィールドの説明	207
既存の電話機および UDP への電話回線の追加	216
BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への電話回線の追加	217
BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合の電話回線フィールドの説明	218

第 12 章**電話のリセット/リスタート 225**

クエリを使用した電話機のリセットまたは再起動	225
カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動	227
クエリを使用した電話のワイプまたはロック	228
カスタム ファイルを使用した電話のワイプまたはロック	230

第 13 章**電話レポート 233**

電話レポートの生成	233
電話レポートの生成	234
電話および IP テレフォニー デバイス レポート	235
ダミー MAC アドレスを含む電話機リストの生成	240

第 14 章 電話の移行 241

SCCP から SIP への電話機の移行	241
電話の移行関連のトピック	243

第 15 章 インターコムの追加および更新 245

インターコム DN の更新	245
インターコム DN の追加	246
[インターコムDNの更新 (Intercom DN Update)] フィールドの説明	247

第 IV 部 : ユーザ 249

第 16 章 ユーザの追加 251

新しいユーザ グループの追加およびユーザの関連付け	251
ユーザの追加	252
BAT スプレッドシートを使用したユーザー用 CSV データファイルの作成	252
BAT スプレッドシートのユーザ データ フィールドの説明	254
ユーザの追加関連のトピック	257

第 17 章 ユーザ テンプレート 259

BAT ユーザ テンプレートの検索	259
新しい BAT ユーザ テンプレートの作成	260
BAT ユーザ テンプレートの変更	261
BAT ユーザ テンプレートのコピー	261
BAT ユーザ テンプレートの削除	262
BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明	262

第 18 章	ユーザの挿入 269
	Unified Communications Manager データベースへのユーザの挿入 269
	ユーザの挿入関連のトピック 271

第 19 章	ユーザの更新 273
	CSV データ ファイルを使用したユーザ情報の更新 273
	更新中の既存のユーザ情報の保持 274
	BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成 275
	BAT スプレッドシートのユーザ データ更新フィールドの説明 276
	Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内のユーザ情報の更新 280
	ユーザ更新の設定 281
	クエリを使用したユーザの更新 285
	ユーザ クエリの更新パラメータの選択 287
	ユーザの更新関連のトピック 288

第 20 章	ユーザの削除 289
	クエリを使用したユーザの削除 289
	カスタム ファイルを使用したユーザの削除 291

第 21 章	ユーザ レコードのエクスポート 293
	ユーザ レコードのエクスポート 293
	ユーザ レコードのエクスポート関連のトピック 295

第 22 章	パスワードおよび PIN のリセット 297
	パスワードと PIN のリセット 297
	クエリを使用したユーザーパスワードおよび PIN のリセット 297
	カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット 300

第 23 章	ユーザ レポートの生成 303
	ユーザ レポートの生成 303

第 24 章	ライン アピアランス 307
	ラインアピアランスの表示 307
	ラインアピアランスのエクスポート 308
	ラインアピアランスの更新 310

第 25 章	エンドユーザ CAPF プロファイル 313
	エンドユーザ CAPF プロファイルの挿入 313
	エンドユーザ CAPF プロファイルの削除 314
	エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート 315
	BAT スプレッドシート エンドユーザ CAPF プロファイルのフィールドの説明 317

第 V 部 :	電話とユーザ 319
---------	-------------------

第 26 章	ユーザ付きの電話 321
	新しい電話機とユーザの追加 321
	BAT スプレッドシートを使用したユーザと電話機の追加 322
	ユーザ付きの電話関連のトピック 322

第 27 章	電話およびユーザ ファイル形式 325
	電話およびユーザ ファイル形式の追加 325
	電話およびユーザ ファイル形式関連のトピック 326

第 28 章	電話とユーザの検証 327
	電話機レコードとユーザ レコードの検証 327
	電話とユーザの検証関連のトピック 328

第 29 章	電話とユーザの挿入 329
	Unified Communications Manager への電話機とユーザの挿入 329
	電話とユーザの挿入関連のトピック 331

第 VI 部 :	マネージャとアシスタント	333
第 30 章	Cisco Unified Communications Manager Assistant	335
	Cisco Unified Communications Manager Assistant 用電話機および回線	335
	Cisco Unified Communications Manager Assistant のプロキシ回線モードでの電話機のセットアップ	336
	Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャ電話テンプレートのデフォルト設定	337
	マネージャおよびアシスタントのプロキシ回線の設定	338
	Cisco Unified Communications Manager Assistant の新しいマネージャ/アシスタント電話機でのプロキシ回線のセットアップ	342
	Cisco Unified Communications Manager Assistant の既存のマネージャ/アシスタント電話機でのプロキシ回線のセットアップ	343
	Cisco Unified Communications Manager Assistant の共有回線モードでの電話機のセットアップ	343
	共有回線モードのマネージャ電話の設定	344
	共有回線モードのアシスタント電話機の設定	345
	マネージャおよびアシスタントの共有回線の設定	345
	マネージャ - アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル	346
	BAT スプレッドシートを使用したマネージャ/アシスタント アソシエーションの追加または更新	347
	BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントの関連付けの追加および更新	347
	デフォルトのマネージャ-アシスタントの CSV データ ファイルの作成	348
	カスタム マネージャ/アシスタント CSV データ ファイルの作成	350
	マネージャ-アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル関連のトピック	351
第 31 章	マネージャとアシスタントの挿入	353
	Cisco Unified Communications Manager へのマネージャ/アシスタント アソシエーションの挿入	353
	マネージャとアシスタントの挿入関連のトピック	355

第 32 章	マネージャとアシスタントの削除 357 Cisco Unified Communications Manager からの特定のマネージャ/アシスタントアソシエーションの削除 357
第 33 章	マネージャの削除 359 Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除 359 クエリを使用したマネージャ アソシエーションの削除 359 カスタム ファイルを使用したマネージャ アソシエーションの削除 361 マネージャの削除関連のトピック 362
第 34 章	アシスタントの削除 363 Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 363 クエリを使用したアシスタントアソシエーションの削除 363 カスタム ファイルを使用したアシスタントアソシエーションの削除 365
第 35 章	マネージャおよびアシスタント レポートの生成 367 Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャとアシスタントに関するレポートの生成 367 レポートログ ファイル 369 マネージャとアシスタントに関するレポートの生成関連のトピック 369
第 VII 部 :	ユーザ デバイス プロファイル 371
第 36 章	ユーザ デバイス プロファイルの管理 373 ユーザ デバイス プロファイルの追加 373 BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成 374 BAT スプレッドシートのユーザ デバイス プロファイル フィールドの説明 376 ユーザ デバイス プロファイル関連のトピック 390
第 37 章	ユーザ デバイス プロファイル テンプレート 391

	ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索	391
	ユーザ デバイス プロファイル 一括管理ツール (BAT) テンプレートの作成	392
	BAT スプレッドシートのユーザ デバイス プロファイル テンプレート フィールドの説明	394
	ユーザ デバイス プロファイル BAT テンプレートの変更	397
	ユーザ デバイス プロファイル テンプレートのコピー	398
	ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの削除	398
<hr/>		
第 38 章	ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式	401
	ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の設定	401
	UDP ファイル形式の検索	401
	UDP ファイル形式の作成	402
	UDP ファイル形式のコピー	404
	UDP ファイル形式の変更	405
	UDP ファイル形式の削除	405
<hr/>		
第 39 章	ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の追加	407
	ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の追加	407
	UDP ファイル形式の作成関連のトピック	408
<hr/>		
第 40 章	ユーザ デバイス プロファイルの検証	409
	ユーザ デバイス プロファイルの検証	409
	ユーザ デバイス プロファイルの検証の制限事項	410
	ユーザ デバイス プロファイルの検証関連のトピック	411
<hr/>		
第 41 章	UDP の生成	413
	ユーザ デバイスに関するユーザ デバイス プロファイルの挿入	413
	ユーザ デバイス プロファイルの生成関連のトピック	415
<hr/>		
第 42 章	ユーザ デバイス プロファイルの更新	417
	クエリを使用した UDP の更新	417
	カスタム ファイルを使用した UDP の更新	418

更新パラメータの選択	420
UDP 更新フィールドの説明	421

第 43 章	ユーザ デバイス プロファイルの削除	427
	クエリを使用した UDP の削除	427
	カスタム ファイルを使用した UDP の削除	429
	UDP の削除関連のトピック	430

第 44 章	ユーザ デバイス プロファイルのエクスポート	431
	すべてのユーザ デバイス プロファイルの詳細形式	431
	固有のユーザ デバイス プロファイル形式	435
	ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート	436

第 45 章	デバイス プロファイルおよびユーザ デバイス プロファイルの回線属性の更新	439
	デバイスおよび UDP 回線の更新	439
	クエリを使用したデバイスおよび UDP 回線の更新	439
	ユーザ デバイス プロファイルの回線更新関連のトピック	442

第 46 章	UDP 回線の追加	443
	既存の UDP への回線の追加	443
	BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加	444
	BAT スプレッドシートの UDP 回線フィールドの説明	446
	UDP 回線の追加関連のトピック	450

第 47 章	UDP レポートの生成	451
	BAT レポートの生成	451
	ユーザ デバイス プロファイル レポートの生成	452
	UDP レポートの生成関連のトピック	454

第 48 章	UDP のインターコム DN の追加および更新	455
	ユーザ デバイス プロファイルのインターコム DN の更新	455

ユーザ デバイス プロファイルへのインターコム DN の追加 456

UDP のインターコム DN 更新フィールドの説明 457

第 VIII 部 :

ゲートウェイ 459

第 49 章

ゲートウェイ テンプレート 461

Cisco ゲートウェイの追加 461

BAT を使用した Cisco VG200 ゲートウェイの追加 461

BAT を使用した Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートの追加 462

BAT を使用した Cisco VG224 ゲートウェイの追加 463

BAT を使用した Cisco VG202 および Cisco VG204 ゲートウェイの追加 464

Cisco VG310 Gateway テンプレートの追加 465

Cisco VG320 Gateway テンプレートの追加 465

Cisco VG350 Gateway テンプレートの追加 466

BAT を使用した Cisco VG410 Gateway の追加 466

BAT を使用した Cisco VG420 Gateway の追加 467

BAT を使用した Cisco VG450 Gateway の追加 468

BAT を使用した Cisco ISR 4461 Gateway の追加 468

ゲートウェイ テンプレートの検索 469

ゲートウェイ テンプレートの追加または編集 471

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 472

Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートへのポートの追加 474

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 474

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加 475

VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートの追加
476

T1 PRI または E1 PRI デバイスの VG200 ゲートウェイ テンプレートへの追加 477

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成 477

Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成 478

FXS ポートの VG224 ゲートウェイ テンプレートへの追加 479

Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成 480

VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加	482
Cisco VG310 Gateway テンプレートの作成	483
Cisco VG320 Gateway テンプレートの作成	483
Cisco VG350 Gateway テンプレートの作成	484
Cisco VG410 Gateway テンプレートの作成	485
Cisco VG420 Gateway テンプレートの作成	485
Cisco VG450 Gateway テンプレートの作成	486
Cisco ISR 4461 Gateway テンプレートの作成	487
ゲートウェイの設定項目	487
VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	488
VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	489
VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	490
VG310 Gateway テンプレートのフィールドの説明	491
VG320 Gateway テンプレートのフィールドの説明	492
VG350 Gateway テンプレートのフィールドの説明	493
VG410 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	494
VG420 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	495
VG450 Gateway テンプレートのフィールドの説明	496
ISR 4461 Gateway テンプレートのフィールドの説明	498
Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明	499
FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明	504
Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでのデジタルアクセス T1 トランクのフィールドの説明	513
Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでの T1 PRI または E1 PRI トランクのフィールドの説明	518
ポートの構成時の設定	533
POTS ポートの設定項目	533
デジタルアクセス T1 用 E & M ポートのフィールドの説明	536
ゲートウェイ設定関連のトピック	538

ゲートウェイ ファイル形式の検索	541
ゲートウェイ ファイル形式の設定	542
CSV データ ファイル用のゲートウェイ ファイル形式の作成	542
既存のゲートウェイ ファイル形式のコピー	543
既存のゲートウェイ ファイル形式の変更	544
CSV データ ファイルからのファイル形式の削除	545
ファイル形式の CSV データ ファイルとの関連付け	545

第 51 章

ゲートウェイの挿入 547

Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成	547
BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG200 ゲートウェイおよび T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS または FXO ポート用の CSV データ ファイルの作成	548
Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用の CSV データ ファイルの作成	550
Cisco VG224 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成	551
BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG224 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成	552
Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成	554
BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG202 および VG204 の FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成	554
Cisco VG310 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成	557
BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG310 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成	557
Cisco VG320 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成	560
BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG320 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成	560
Cisco VG350 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成	562
BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG350 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成	563
Cisco VG410 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成	565
BAT スプレッドシートを使用した VG 410 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成	566
Cisco VG420 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成	568

	BAT スプレッドシートを使用した VG 420 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 568
	Cisco VG450 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 571
	BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG450 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 571
	Cisco ISR 4461 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成 573
	BAT スプレッドシートを使用した Cisco ISR 4461 ゲートウェイ用の CSV データ ファイル の作成 574
	Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 576
<hr/>	
第 52 章	Cisco ゲートウェイの削除 579
	クエリを使用したシスコ ゲートウェイ レコードの削除 579
	Cisco ゲートウェイの削除関連のトピック 581
<hr/>	
第 53 章	Cisco ゲートウェイ レポートの生成 583
	シスコ ゲートウェイ レポートの生成 583
	Cisco ゲートウェイ レポート関連のトピック 585
<hr/>	
第 IX 部 :	強制承認コードおよびクライアント識別コード 587
<hr/>	
第 54 章	クライアント識別コードと強制承認コード 589
	BAT を使用した CMC と FAC のセットアップ 589
	CMC および FAC 機能の実装 590
	BAT.xlt を使用した CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの作成 591
	テキストエディタを使用したクライアント識別コードと強制承認コード用 CSV データ ファ イルの作成 593
	既存の CMC または FAC CSV データ ファイルの編集 593
	CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの設定項目 594
	BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新 595
	データベースの CMC および FAC を更新するための BAT 設定項目 597
	CMC および FAC 設定関連のトピック 597

第 55 章	強制承認コードとクライアント識別コードの削除 599
	コード設定の削除例 599
	強制承認コードとクライアント識別コードの削除 601
	強制承認コードとクライアント識別コード関連のトピック 602

第 X 部 :	コール ピックアップ グループ 603
---------	----------------------------

第 56 章	コール ピックアップ グループの管理 605
	BAT を使用したコール ピックアップ グループの設定 605
	BAT.xlt を使用したコール ピックアップ グループ用 CSV データ ファイルの作成 606
	テキスト エディタを使用したコール ピックアップ グループ用の CSV データ ファイルの作成 607
	既存のコール ピックアップ グループ CSV データ ファイルの編集 608
	コール ピックアップ グループ用 CSV ファイルの設定項目 609
	BAT を使用した CUCM データベース内のコール ピックアップ グループの更新 610
	データベースのピックアップ グループを更新するための BAT 設定項目 611
	コール ピックアップ グループ関連のトピック 612

第 57 章	コール ピックアップ グループの削除 613
	コール ピックアップ グループの削除 613

第 XI 部 :	モビリティ 615
----------	------------------

第 58 章	アクセスリスト 617
	アクセス リストの挿入 617
	アクセス リストの削除 618
	アクセス リストのエクスポート 619

第 59 章	リモート接続先 623
	リモート接続先の挿入 623

リモート接続先の削除	624
リモート接続先のエクスポート	625

第 60 章
リモート接続先プロファイル 629

リモート接続先プロファイルテンプレート	629
リモート接続先プロファイルテンプレートの検索	629
リモート接続先プロファイルテンプレートの作成	631
リモート接続先プロファイルテンプレートでの回線の追加または更新	631
リモート接続先プロファイルテンプレートの削除	632
リモート接続先プロファイルテンプレートのフィールドの説明	632
リモート接続先プロファイルのファイル形式	635
テキスト エディタを使用したリモート接続先用 CSV データ ファイルの作成	635
リモート接続先ファイル形式の検索	636
リモート接続先プロファイルのファイル形式の設定	637
リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成	637
リモート接続先プロファイルのファイル形式のコピー	638
リモート接続先プロファイルのファイル形式の変更	639
リモート接続先プロファイルのファイル形式の削除	640
リモート接続先ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け	640
リモート接続先プロファイルの挿入	641
Cisco Unified Communications Manager でのリモート接続先プロファイルの挿入	641
リモート接続先プロファイルの削除	642
カスタム ファイルを使用したリモート接続先プロファイルの削除	642
エクスポート ユーティリティを使用したリモート接続先プロファイルのエクスポート	644
エクスポート ユーティリティを使用したリモート接続先プロファイルのエクスポート	644
デフォルトのリモート接続先プロファイル ファイル形式	646

第 61 章
モビリティ プロファイル 649

モビリティ プロファイルの挿入	649
モビリティ プロファイルの削除	650
モビリティ プロファイルのエクスポート	651

第 XII 部 :	リージョンマトリクス	655
-----------	------------	-----

第 62 章	リージョンマトリクスの更新	657
	リージョンマトリクスの実装と実装解除	657

第 XIII 部 :	インポート/エクスポート	659
------------	--------------	-----

第 63 章	インポート/エクスポート メニュー	661
	設定データのエクスポート	661
	設定データのエクスポート オプション	663
	ログ ファイル	671
	.tar ファイルの編集	672
	[インポート/エクスポート (Import/Export)]メニュー関連のトピック	673

第 64 章	構成データのインポート	675
	サーバーへの設定のインポート	675
	循環依存関係	678
	インポートまたはエクスポートでサポートされていない項目	679
	オーバーライドのみ	679
	Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード	680
	インポート/エクスポートメニュー関連のトピック	681

第 65 章	インポート ファイルの検証	683
	インポート ファイルの検証項目	683
	インポート ファイルの検証	683
	インポート ファイルの検証関連のトピック	684

第 XIV 部 :	電話の移行	685
-----------	-------	-----

第 66 章	電話の移行の管理	687
--------	----------	-----

電話の移行に関する考慮事項	687
BAT スプレッドシートを使用した電話移行用の CSV データ ファイルの作成	688
電話の移行	689

第 XV 部 :	Extension Mobility Cross Cluster (EMCC)	691
----------	--	-----

第 67 章	Extension Mobility Cross Cluster テンプレート	693
	EMCC テンプレート	693
	EMCC テンプレートの検索	693
	新しい EMCC テンプレートの作成	694
	EMCC テンプレートの削除	695
	BAT EMCC テンプレートのフィールドの説明	696
	EMCC テンプレート関連のトピック	697

第 68 章	EMCC デバイスの挿入、更新、および削除	699
	EMCC デバイスの挿入	699
	EMCC デバイスの更新	700
	EMCC デバイスの削除	701

第 XVI 部 :	Intercompany Media Engine (IME)	703
-----------	--	-----

第 69 章	信頼要素	705
	信頼要素設定の挿入	705
	IME 信頼要素設定の削除	706
	IME 関連のトピック	707

第 70 章	信頼グループ	709
	IME 信頼グループ設定の挿入	709
	IME 信頼グループ設定の削除	710
	IME 信頼グループの設定関連のトピック	711

第 71 章	登録済みグループ	713
	IME 登録済みグループ設定の挿入	713
	IME 登録済みグループ設定の削除	714
	IME 登録済みグループの設定関連のトピック	715

第 72 章	除外グループ	717
	IME 除外グループ設定の挿入	717
	IME 除外グループ設定の削除	718
	IME 除外グループの設定関連のトピック	719

第 73 章	フォールバック プロファイル	721
	フォールバック プロファイル設定の挿入	721
	フォールバック プロファイル設定の削除	722
	フォールバック プロファイルの設定関連のトピック	723

第 XVII 部 :	機密アクセス レベルの設定	725
------------	----------------------	------------

第 74 章	機密アクセス レベルの設定	727
	機密アクセス レベルの設定について	727
	CAL 強制レベル	729
	CAL の制限	729
	機密アクセス レベルのセットアップ	731

第 XVIII 部 :	CUPS	733
-------------	-------------	------------

第 75 章	CUP メニューを使用したライセンスの更新およびエクスポート	735
	CUP および CUPC ユーザ ライセンスの更新とエクスポート	735
	CUPS および CUPC ユーザ ライセンスの追加または更新	736
	すべての CUPS/CUPC ユーザ ライセンス情報をエクスポートする	736

第 XIX 部 :	Tool for Auto-Registered Phones Support	739
第 76 章	Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) の管理	741
	TAPS の概要	741
	TAPS の自動登録オプション	742
	新しい電話機での TAPS の例	742
	TAPS を使用した設定のリロード	743
	保護された電話番号	744
	TAPS ユーザに対する言語プロンプト	744
	TAPS のインストール	745
	UCCX アプリケーション サーバでの TAPS アプリケーションの設定	746
	TAPS サービスのアクティブ化	746
	TAPS の開始、停止、および再起動	747
	TAPS オプションの設定項目	748
	TAPS 自動登録の設定	748
	TAPS セキュア電話番号オプション	749
	セキュアな電話番号の検索	750
	電話番号の制限	750
	電話番号制限の削除	751
	TAPS ログ ファイルの表示	751
	関連項目	752
第 77 章	Tool for Auto-Registered Phone Support (TAPS) ユーザ ロケール	753
	Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール	753
	Tool for Auto-Registered Phone Support プロンプトへの言語の追加	754
	Tool for Auto-Registered Phones Support プロンプトから言語を削除する	755
	新しい電話での TAPS プロンプトの言語の選択	755
	Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール関連のトピック	756
第 XX 部 :	ジョブのスケジュール設定	757

第 78 章	スケジュールしたジョブの管理	759
	Bulk Provisioning Service のアクティブ化	759
	BPS の起動、停止、および再起動	760
	BPS の非アクティブ化とログアウト	761
	BPS に送信されたジョブの検索	761
	送信済みジョブのスケジュール	763

第 XXI 部 :	BAT および TAPS のトラブルシューティング	767
-----------	----------------------------------	------------

第 79 章	BAT および TAPS のトラブルシューティングの管理	769
	構成ファイルを表示するトレースの有効化	769
	設定ファイルのトレースの無効化	771
	BAT ログ ファイル	771
	BAT のトラブルシューティング	772
	管理ページに [一括管理 (Bulk Administration)] メニューが表示されない	772
	完全な一括管理機能にアクセスできない	772
	BAT.xlt ファイルで [BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] ボタンが機能しない	773
	データを CSV 形式でエクスポート中に BAT Excel スプレッドシートでコンパイルエラーが発生する	773
	BAT Excel スプレッドシートが操作に応答しない	773
	データ ファイル (CSV) 形式が電話テンプレート/サンプル ファイルに一致しない	773
	更新された CSV ファイルが [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスに表示されない	774
	スケジュール時刻が過ぎてもジョブが保留中状態のままである	774
	ジョブが保留状態のままである	775
	[ジョブの検索/一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウにジョブが表示されない	775
	テンプレートでポート番号が設定されていない	775
	ダミー MAC アドレス値を使用したい場合にファイルで MAC アドレスの値を使用できない	775
	BAT.xlt スプレッドシートが Microsoft Excel XP (Office XP) で機能しない	776

[電話の移行 - SCCP から SIP (Migrate Phones - SCCP TO SIP)] ウィンドウで SCCP 電話の SIP への移行要求を送信した後も、7940 および 7960 モデルが引き続き SCCP 電話機として表示される	776
レコードが選択したファイル形式に一致しない	776
Microsoft Excel 2007 で BAT.xlt が互換モードで機能している	777
BAT パフォーマンスのトラブルシューティング	777
BAT および TAPS のトラブルシューティング	778
Tool for Auto-Registered Phones Support ログ ファイルの表示	778
Tool for Auto-Registered Phones Support のエラー メッセージ	778
TAPS ルート ポイント番号をダイヤルすると、発信者にビジー トーンが聞こえる	778
Cisco UCCX サーバーの起動時に、JTAPI サブシステムで部分的サービスまたはアウトオブサービスと表示されます。	779
BAT および TAPS のトラブルシューティング関連のトピック	779

第 XXII 部 : **インフラストラクチャ デバイス** 781

第 80 章 **インフラストラクチャ デバイスの管理** 783

BAT を使用したインフラストラクチャ デバイスのセットアップ	783
BAT.xlt を使用したインフラストラクチャ デバイス用 CSV データ ファイルの作成	784
テキストエディタを使用したインフラストラクチャ デバイス用 CSV データ ファイルの作成	784
インフラストラクチャ デバイスの挿入	785
インフラストラクチャ デバイス挿入の例	787

第 XXIII 部 : **ディレクトリ URI とパターンの管理** 789

第 81 章 **ディレクトリ URI とパターンの管理** 791

ローカル ディレクトリ URI と +E.164 パターンのエクスポート	791
非 ILS システムからのディレクトリ URI およびパターンのインポート	792
Directory URI の形式	794

付録 A : **テキストベースの CSV ファイル** 797

電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成	798
電話用 CSV データ ファイル形式	800
ユーザ付き電話機ファイル形式	800
CTI ポート/H.323 クライアント ファイル形式	800
CTI ポート-ユーザおよび H.323 クライアント-ユーザの結合ファイル形式	801
すべての電話の詳細のフィールドのエクスポート オプション	802
電話用 CSV ファイルの例	803
テキストベースの CSV ユーザ ファイルの作成	804
ユーザ ファイル形式	805
ユーザ ファイル形式の更新	806
ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成	807
ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式	808
2つの回線と2つの短縮ダイヤルを含むユーザ デバイス プロファイル	809
ユーザ デバイス プロファイルのエクスポート ファイルのフィールド (すべての詳細オプションを使用)	810
Cisco Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタントの関連付け用のテキストベースの CSV ファイルの作成	811
マネージャおよびアシスタントのファイル形式	812
デフォルトのマネージャ - アシスタント関連付け	812
デフォルトのアシスタント - マネージャ関連付け	812
カスタム マネージャ-アシスタント関連付け	813
Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	813
FXO または FXS トランク用 CSV ファイル形式	814
T1 CAS T1 PRI または E1 PRI トランク ファイル形式	815
Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	816
VG224 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式	817
Cisco VG310 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	817
VG310 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式	818
VG320 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	819
VG320 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式	820
VG350 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	821

VG350 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式	822
VG410 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	822
VG420 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	823
VG450 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	824
VG450 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式	825
ISR 4461 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	826
Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベースの CSV ファイルの作成	827
Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート ファイル形式	828
Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	829
VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV ファイル形式	830
クライアント識別コードおよび強制承認コード用のカスタムのテキストベースの CSV ファイルの作成	830
CMC ファイル形式	832
CMC ファイル形式の更新	832
FAC ファイル形式	833
FAC ファイル形式の更新	833
コール ピックアップ グループ用のテキストベースの CSV ファイルの作成	834
CPG ファイル形式	835
CPG ファイル形式の更新	835
リモート接続先プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成	836
電話移行用のテキストベースの CSV ファイルの作成	837
電話移行ファイル形式	838
IME 信頼要素設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成	838
IME 信頼要素設定ファイルの形式	839
IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成	839
IME 信頼要素設定ファイルの形式	840
IME 登録グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成	840
IME 登録済みグループ設定ファイルの形式	841
IME 除外グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成	842
IME 除外グループ設定ファイルの形式	843
フォールバック プロファイル設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成	843

フォールバック プロファイル設定ファイル形式	844
エンドユーザ CAPF プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成	844
エンドユーザ CAPF プロファイルのファイル形式	845
モビリティ プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成	846
モビリティ プロファイルのファイル形式	847
インフラストラクチャ デバイス用のテキストベースの CSV ファイルの作成	847
関連項目	848

付録 B :	BAT パフォーマンス	851
	BAT パフォーマンス	851



はじめに

ここでは、このマニュアルの目的、対象読者、構成、および表記法について説明し、関連資料を入手する方法を示します。



(注) このマニュアルに記載された内容は、利用可能な最新のシスコ製品に関する情報とは異なる場合があります。最新のマニュアルは、http://www.cisco.com/en/US/products/sw/voicesw/ps556/tsd_products_support_series_home.html の URL にあるシスコ製品のマニュアルページで入手できます。

- [目的 \(xxix ページ\)](#)
- [対象読者 \(xxix ページ\)](#)
- [マニュアルの構成 \(xxx ページ\)](#)
- [関連資料 \(xxxii ページ\)](#)
- [表記法 \(xxxiii ページ\)](#)
- [マニュアルとサービスリクエスト \(xxxiv ページ\)](#)
- [シスコ製品のセキュリティの概要 \(xxxiv ページ\)](#)

目的

『Cisco Unified Communications Manager 一括アドミニストレーションガイド』では、Cisco Unified Communications Manager Administration の [一括管理 (Bulk Administration)] メニューの使用手順について説明します。

対象読者

このドキュメントでは、Cisco Unified Communications Manager システムの管理を担当するネットワーク管理者およびエンジニア向けの情報を提供します。Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration (BAT) の管理には、テレフォニーおよび IP ネットワーキングテクノロジーの知識が必要です。

マニュアルの構成

表 1 に、このガイドの構成を示します。

BAT ツール ユーザ ガイドのレイアウト

章	説明
概要 (3 ページ)	Unified Communications Manager の Bulk Administration : BAT の概要について説明します。
ファイルのアップロードとダウンロード (21 ページ)	ファイルのアップロード/ダウンロード ファイルをアップロードおよびダウンロードする方法について説明します。
電話 (29 ページ)	電話機 電話機、電話機とユーザ、コンピュータテレフォニーインテグレーション (CTI) ポート、および CTI ポートとユーザを、各デバイスまたはその組み合わせを個別に追加するのではなく、まとめて追加する方法について説明します。また、回線、電話サービス、短縮ダイヤルを追加または更新する方法と、電話機を更新および削除する方法についても説明します。
ユーザ (249 ページ)	ユーザー ユーザのバッチを追加、更新、および削除する方法について説明します。
電話とユーザ (319 ページ)	電話とユーザ 1 回の一括トランザクションで Unified Communications Manager サーバにユーザとその電話機のグループを追加する方法について説明します。
マネージャとアシスタント (333 ページ)	マネージャとアシスタント Manager Assistant の関連付けを追加、更新、または削除する方法について説明します。
ユーザ デバイス プロファイル (371 ページ)	ユーザ デバイス プロファイル ユーザ デバイス プロファイルを追加、更新、または削除する方法について説明します。
ゲートウェイ (459 ページ)	ゲートウェイ Cisco VG200 ゲートウェイおよびポートを追加、更新、または削除する方法、および Cisco Catalyst 6000 アナログ インター

	フェイス モジュールの Foreign Exchange Station (FXS) ポートを追加または削除する方法について説明します。また、FXS ポートで使用するゲートウェイ電話番号テンプレートを作成する方法についても説明します。
強制承認コードおよびクライアント識別コード (587 ページ)	強制承認コードおよびクライアント識別コード 強制承認コードとクライアント マター コードの追加、削除
コール ピックアップ グループ (603 ページ)	ピックアップ グループ コール ピックアップ グループを追加、更新、または削除する方法について説明します。
モビリティ (615 ページ)	モビリティ リモート宛先およびリモート宛先プロファイルの挿入、削除、エクスポート
リージョンマトリクス (655 ページ)	リージョンマトリクス BAT を使用して、リージョンマトリクスを実装または実装解除します。
インポート/エクスポート (659 ページ)	[Import/Export (インポート/エクスポート)] Unified Communications Manager データベースを別のサーバ、または変更を加えた同じサーバにインポートまたはエクスポートする方法について説明します。
電話の移行 (685 ページ)	電話の移行 BAT の [電話の移行 (Phone Migration)] メニューについて説明し、電話を一括で移行する手順について詳しく説明します。
Extension Mobility Cross Cluster (EMCC) (691 ページ)	クラスタ間の Extension Mobility (EMCC) BAT の EMCC メニューについて説明し、EMCC を挿入、削除、および更新する方法について詳しく説明します。
Intercompany Media Engine (IME) (703 ページ)	Intercompany Media Service BAT の Intercompany Media Services メニューについて説明し、信頼できる要素、信頼できるグループ、登録済みグループ、除外グループ、およびフォールバック プロファイルの設定を挿入および削除する方法について詳しく説明します。
CUPS (733 ページ)	[CUPS] BAT の CUPS メニューについて説明し、CUPS および CUPC ユーザを更新およびエクスポートするための使用方法について詳しく説明します。

Tool for Auto-Registered Phones Support (739 ページ)	Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) TAPS をインストール、設定、および使用する方法について説明します。
ジョブのスケジュール設定 (757 ページ)	ジョブのスケジュール設定 ジョブをスケジュールしてアクティブ化する方法について説明します。
BAT および TAPS のトラブルシューティング (767 ページ)	BAT と UnifiedCM Auto-Register Phone Tool のトラブルシューティング 一括トランザクション ログ ファイルの一般的なシナリオについて説明し、BAT または UnifiedCM Auto-Register Phone Tool の使用中に発生する可能性のあるさまざまなエラー メッセージの説明と解決策を示します。
Appendix	Appendix 一括トランザクション用のデバイスおよびユーザ用のテキストベースのファイルを作成する方法について説明します。また、さまざまなシナリオのファイル形式の例も示します。

関連資料

関連する CiscoIP Telephony アプリケーションと製品の詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- 『Cisco Unified Communications Manager』のオンラインヘルプ
- Cisco Unified Communications Manager システム設定ガイド
- 『Release Notes for Cisco Unified Communications Manager』
- 『Cisco Unified Communications Manager のインストール』
- 『Cisco Unified Serviceability Administration Guide』
- 『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』
- Cisco VG200 ハードウェア コンフィギュレーションガイド
- Cisco VG200 ソフトウェア コンフィギュレーションガイド
- 『Cisco VG248 Analog Phone Gateway Software Configuration Guide』
- Cisco Unified Communications Manager アドミニストレーションガイド
- Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド
- 『Cisco Unified Communications Manager のトラブルシューティングガイド』

- 『Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide』

表記法

このマニュアルでは、以下の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは太字で示しています。
イタリック体	ユーザーが値を指定する引数は、イタリック体で示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、 screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、太字の screen フォントで示しています。

(注) は、次のように表しています。



(注) 「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。

ワンポイントアドバイスは、次のように表しています。



ワンポイントアドバイス 時間を節約する方法です。ここに紹介している方法で作業を行うと、時間を短縮できます。

ヒントは、次のように表しています。



ヒント 役立つ「ヒント」の意味です。

注意は、次のように表しています。



注意 「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。



警告 「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。

マニュアルとサービスリクエスト

マニュアルの入手方法、テクニカルサポート、その他の有用な情報について、毎月更新される『シスコ製品ドキュメントの最新情報』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『シスコ製品ドキュメントの最新情報』はRSSフィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSSフィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSSバージョン2.0をサポートしています。

シスコ製品のセキュリティの概要

本製品には暗号化機能が備わっており、輸入、輸出、配布および使用に適用される米国および他の国での法律を順守するものとします。シスコの暗号化製品を譲渡された第三者は、その暗号化技術の輸入、輸出、配布、および使用を許可されたわけではありません。輸入業者、輸出業者、販売業者、およびユーザは、米国および他の国での法律を順守する責任があります。本製品を使用するにあたっては、関係法令の順守に同意したものとみなされます。米国および他の国の法律を順守できない場合は、本製品を至急送り返してください。

米国の輸出規制の詳細については、

http://www.access.gpo.gov/bis/ear/ear_data.html で参照できます。



第 1 章

新機能および変更された機能に関する情報

- [新機能および変更された機能に関する情報 \(1 ページ\)](#)

新機能および変更された機能に関する情報

次の表は、この最新リリースまでのガイドでの機能の主な変更点の概要を示したものです。ただし、今リリースまでのガイドにおける変更点や新機能の一部は表に記載されていません。

表 1: *Unified Communications Manager* と *IM and Presence* サービスの新機能と変更された動作

	説明	参照先
2023 年 12 月 18 日	Cisc VG410 アナログ音声ゲートウェイのサポートを導入	Cisco ゲートウェイの追加 (461 ページ)
2023 年 12 月 18 日	新しい LDAP ユーザーが Microsoft Active Directory から同期されたときに、Webex アプリまたは Cisco Jabber デバイスを自動プロビジョニングできるようにになりました。	Jabber デバイスの名前の変更 (150 ページ)



第 1 部

概要

- [Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール \(BAT\)](#) (5 ページ)



第 2 章

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT)

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) について説明します。

- [Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツールについて \(5 ページ\)](#)
- [BAT のインストール \(7 ページ\)](#)
- [BAT データ入力ファイル \(7 ページ\)](#)
- [BAT 設定マルチステッププロセスの実行 \(7 ページ\)](#)
- [BAT アプリケーション Web ブラウザに関する考慮事項 \(18 ページ\)](#)
- [BAT オンライン ヘルプへのアクセス \(18 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager バージョンの確認 \(19 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツールについて

Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) は、Unified Communications Manager データベースに対する一括トランザクションを実行するために使用できる、Web ベースのアプリケーションです。BAT を使用することで、類似する大量の電話、ユーザ、またはポートを一度に追加、更新、削除できます。Unified Communications Manager Administration を使用する場合はデータベーストランザクションごとに個別の手動操作が必要ですが、BAT を使用すると、そのプロセスを自動化することで、追加、更新、削除の操作を迅速に実行できます。



(注) [一括管理 (Bulk Administration)] メニューは、Unified Communications Manager サーバーの最初のノードでのみ表示されます。

Unified Communications Manager の管理ページの [一括管理 (Bulk Administration)] メニューから送信されたすべてのジョブは、Bulk Provision Service (BPS) によって管理および保守されます。このサービスは、Unified Communications Manager Serviceability から起動できます。

BPS サーバ サービス パラメータにより、このサービスが特定のサーバでアクティブ化されるかどうかが決まります。BPSは、Unified Communications Managerの最初のノード上でのみアクティブ化する必要があります。

BAT を使用して実行できるタイプのデバイスおよびレコードの操作は、以下のとおりです。

- Cisco Unified IP Phone（音声ゲートウェイ（VG）フォン、コンピュータ テレフォニー インターフェイス（CTI）ポート、H.323 クライアントを含む）の追加、更新、削除、および Skinny Client Control Protocol（SCCP）から Session Initiation Protocol（SIP）への移行
- ユーザの追加、更新、削除
- ユーザ デバイス プロファイルの追加、更新、削除
- Unified Communications Manager Assistant とマネージャの関連付けの追加、更新、削除
- Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール上のポートの追加、更新、削除
- Cisco VG200 および Cisco VG224 アナログ ゲートウェイおよびポートの追加、削除
- 強制承認コードの追加、削除
- クライアント マター コードの追加、削除
- コール ピックアップ グループの追加、削除
- CUP/CUPC ユーザ データの更新、エクスポート
- リージョンマトリクスの設定/設定解除
- アクセス リストの挿入、削除、エクスポート
- 設定のエクスポート、インポート
- リモート接続先およびリモート接続先プロファイルの挿入、削除、エクスポート
- インフラストラクチャ デバイスの追加



(注) 一括トランザクションを実行する際のレコード数は、最大 12,000 に制限されます。この制限は、BAT を使用してレコードを挿入、更新、削除、またはクエリする場合にも適用されます。

上記のデバイスをユーザ情報と組み合わせて操作することもできます。たとえば、CTI ポートとユーザを追加するには、BAT を使用して「CTI アプリケーションの使用を有効化」することができます。これにより、CTI ポートが必要なアプリケーション（Cisco IP SoftPhone など）を使用するユーザを追加する時間を節約できます。

BAT のオプションコンポーネントである Unified Communications Manager Auto-Register Phone Tool を使用すると、大規模システムの管理に伴う時間と作業をさらに削減することができます。大量の数の新しい電話機を追加する場合は、データ入力ファイルに各 Media Access Control (MAC) アドレスを入力する代わりに BAT を使用することで、それらのデバイスをダミー

MAC アドレスで追加することができます。電話機が設定された後、電話機のユーザまたは管理者は Unified CM Auto-Register Phone Tool 電話番号を呼び出して音声プロンプトに従うことで、それらの電話機に適切なユーザ デバイス プロファイルをダウンロードできます。

関連トピック

[Tool for Auto-Registered Phones Support \(TAPS\) の管理 \(741 ページ\)](#)

BAT のインストール

BAT は Unified Communications Manager 管理の一部としてインストールされます。

BAT データ入力ファイル

各デバイスは個々の属性、設定および情報フィールドを数多く含んでおり、デバイスはそれらによりネットワーク内で機能し、テレフォニー機能を提供することができます。多くのデバイスは同じ属性や設定を共通して持っていますが、電話番号などユーザまたはデバイスに固有の値もあります。BAT データ入力ファイルのコンテンツを簡略化するために、BAT はデバイスが通常共通して持っている設定のテンプレートを 사용합니다。

Cisco Unified Communications Manager データベースでの一括設定トランザクションには、BAT プロセスは2つのコンポーネントを使用します。デバイスタイプのテンプレートと、カンマ区切り値 (CSV) フォーマットのデータファイルで、このファイルは新しいデバイスを設定するための、またはデータベース内の既存のレコードを更新するための一意の値を含みます。CSV データ ファイルはデバイス テンプレートと組み合わせて使用します。

たとえば、Cisco IP Phones のグループに一括トランザクションを作成する場合、電話番号や MAC アドレスなどの各電話の一意の情報を含む CSV データ ファイルを設定します。さらに、Cisco IP Phone 7960 テンプレートなど、トランザクションのすべての電話に対する共通の設定を含む BAT テンプレートを設定または選択します。

BAT 設定マルチステップ プロセスの実行

BAT では、マルチステッププロセスを使用して一括設定トランザクションを準備します。BAT の [一括管理 (Bulk Administration)] メニュー オプションに従って段階的に設定タスクを行います。BAT プロセスには次のタスクが含まれます。

手順

- ステップ 1** データ入力用のテンプレートをセットアップします。
- ステップ 2** CSV データ ファイルの形式を定義します。
- ステップ 3** 一括トランザクションで各デバイスのデータを収集します。

- ステップ4** トランザクションに該当するターゲットと機能を選択してデータファイルをアップロードします。
- ステップ5** Cisco Unified Communications Manager データベースでデータ入力ファイルを検証します。
- ステップ6** 実行用のジョブを送信します。
- ステップ7** ジョブをスケジュールします。
- ステップ8** Cisco Unified Communications Manager データベースにデバイスを挿入するためのジョブを実行します。

(注) フィールドを空にするには、"NULL" (引用符不要) と入力します。フィールドを空白のままにしないでください。

BAT メニューについて

[一括管理 (Bulk Administration)]メニューからは、次のいずれかのデバイスまたは設定オプションを選択できます。

- ファイルのアップロード/ダウンロード
- 電話
- [ユーザ(Users)]
- 電話とユーザ
- マネージャ/アシスタント
- ユーザ デバイス プロファイル
- ゲートウェイ
- 強制承認コード
- [クライアント識別コード (Client Matter Codes)]
- [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]
- モビリティ
- リージョンマトリクス
- [インポート/エクスポート (Import/Export)]
- 電話の移行
- [EMCC]
- [Intercompany Media Engine]
- [CUPS]
- TAPS
- インフラストラクチャ デバイス
- ジョブ スケジューラ

オプションを選択すると、対応するメニュー項目が表示されます。たとえば、電話を選択すると、次のメニュー項目のリストが表示されます。

- [電話の確認 (Validate Phones)]: 電話レコードを検証します。
- [電話の挿入 (Insert Phones)]: 新しい電話機を追加します。

- [電話の更新 (Update Phones)] : 既存の電話機を見つけて変更します。
- [電話の削除 (Delete Phones)] : 電話機を見つけて削除します。
- [電話のエクスポート (Export Phones)] : 特定の電話レコードまたはすべての電話レコードを見つけてエクスポートします。
- [回線の追加/更新 (Add/Update Lines)] : 既存の電話機に新しい回線を追加したり、既存の電話機の回線を見つけて変更したりします。
- [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] : 電話機を見つけてリセットまたは再起動します。
- [電話レポートの作成 (Generate Phone Reports)] : カスタマイズした電話レポートを生成します。
- [電話の移行 (Migrate Phones)] : SCCP から SIP に電話機を移行します。

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューからメニュー オプションを選択すると、対応するウィンドウ ([電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウなど) が開きます。設定ウィンドウには、テンプレートを定義するための入力フィールドが表示されます。

BAT 設定テンプレート

BAT 設定プロセスの最初のタスクとして、設定しているデバイスにテンプレートを設定します。追加または変更する電話またはデバイスのタイプを指定し、その一括トランザクションですべての電話またはデバイスに共通の機能を含む BAT テンプレートを作成します。

次のタイプのデバイス オプションに対して BAT テンプレートを作成できます。

- 電話 : すべての Cisco Unified IP Phone と Cisco ATA 186、Cisco VGC Phone、CTI ポート、H.323 クライアント
- ゲートウェイ : Cisco VG200 および Cisco Catalyst 6000 FXS アナログ インターフェイス モジュール
- ユーザ デバイス プロファイル : Cisco Unified IP Phone 7900 シリーズと Cisco ソフトフォン

一括トランザクションですべてのデバイスに共通なテンプレートフィールドに値を指定することにより、BAT テンプレートを定義します。BAT テンプレートのフィールドには、Cisco Unified Communications Manager Administration でデバイスを追加するときに入力するのと同様の値が必要です。

BAT テンプレートを作成する前に、デバイス プール、場所、コーリング サーチ スペース、ボタンテンプレート、ソフトキーテンプレートなどの設定が Cisco Unified Communications Manager Administration 内ですでに設定済みであることを確認します。

BAT テンプレートを作成したら、名前を付けて保存します。設定プロセスの後半で、テンプレート名を CSV データファイルと関連付けます。テンプレートはシステムに保存されるので、以降の一括トランザクションに利用することができます。たとえば、Cisco IP Phone 7960 テンプレート特定のボタンテンプレートとコーリング サーチ スペースで設定し、次いで他の Cisco IP Phone 7960 テンプレートを別のボタンテンプレートで設定し、エクステンションモビ

リティ機能を有効化することができます。同じ設定の多数の電話を追加する必要がある場合、既存の BAT テンプレートを再利用できます。

標準電話テンプレート

複数回線を持つ電話機のグループを追加する場合は、複数回線を備え、特定の電話機モデルで最もよく使用される値を指定する標準電話テンプレートを作成できます。標準テンプレートを使用すると、マスター電話テンプレートの回線数を上限として、異なる数の回線を持つ複数の電話機を追加できます。たとえば、8 回線を持つ Cisco Unified IP Phone 7960 用のマスター電話テンプレートを作成するとします。このテンプレートを使用して追加する電話では、1 本、2 本、または最大 8 本の回線を指定できます。

CSV データ ファイルによるテンプレート値のオーバーライド

CSV データ ファイルには、電話番号、MAC アドレス、説明など個々の各デバイスについての情報と固有設定値が含まれています。CSV データ ファイルのすべての電話機とデバイスが同じ電話機やデバイスのモデルであり、BAT テンプレートと一致することを確認してください。CSV データ ファイルには BAT テンプレートの一部の値との重複が含まれる場合があります。CSV データ ファイルの値は、BAT テンプレートで設定されたすべての値をオーバーライドします。このオーバーライド機能は、特別な設定場面で使用できます。

テンプレートのオーバーライド例

電話機に関する CSV データ ファイルには、複数の電話番号が含まれていることがあります。CSV データ ファイルに入力する電話番号の数は、BAT 電話機テンプレートで設定されている回線数未満でなければならない点に注意してください。回線の数を超える場合、エラーが発生します。

一括トランザクションでほとんどの電話機をボイス メッセージング システムにリダイレクトするには、[話中転送 (内部/外部) (CFB) (Call Forward Busy (Internal/External)(CFB))] フィールドと [無応答時転送 (内部/外部) (CFNA) (Call Forward No Answer (Internal/External) (CFNA))] フィールドにボイス メッセージング番号を設定します。ただし、一括トランザクションのいくつかの電話機を、ボイス メッセージング システムの代わりに秘書にリダイレクトする必要がある場合は、CSV データ ファイルの [Call CFB] および [Call CFNA] フィールドに秘書の電話番号を指定できます。ほとんどの電話機は BAT 電話機テンプレートの CFB 値と DFNA 値を使用しますが、一部の電話機は CSV データ ファイルで指定されている秘書の電話番号を使用します。

CSV データ ファイルによる新規デバイスの追加

システムに新しいデバイスを追加するときに、BAT で使用するよう作成された Microsoft Excel スプレッドシートを使用できます。BAT スプレッドシートでは次の機能が役立ちます。

- 異なるデバイスのためのマクロ付きデータ ファイルテンプレート
- カスタマイズされたファイル形式の定義

- 複数電話回線のサポート
- レコードのエラー チェック
- CSV 形式へのファイル変換

新しいレコードを作成するときには、データを CSV 形式にエクスポートするとき、データが自動的に検証されるため、BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用します。



(注) BAT.xlt は、特定フィールドの有効な文字、データ型、フィールド長についてのみ、データを検証します。

CSV 形式のファイルでの作業に慣れている経験豊富な BAT ユーザの場合は、テキストエディタを使い、デバイスの挿入タスク ウィンドウで提供される次のサンプルテキストに従って、CSV データ ファイルを作成できます。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)

[CSV データファイルの電話機レコードの確認](#) (159 ページ)

[テキストベースの CSV ファイル](#) (797 ページ)

CSV データ ファイルによる既存のデバイスの更新

既存の電話機やデバイスを変更または更新するには、これらのデバイスのレコードを特定する必要があります。BAT は、電話機、ゲートウェイ、およびデバイスのプロファイルを特定するためのメソッドを 2 種類提供します。カスタマイズしたクエリを使用して検索するか、カスタム ファイルを使用して検索できます。

エクスポートユーティリティを使用して CSV データファイルに格納するため、Unified Communications Manager データベースから電話機のレコードグループを抽出することもできます。

カスタマイズしたクエリ検索

BAT はクエリ条件を定義するのに必要なウィンドウを提供します。デバイスの詳細の一覧および回線の詳細の一覧から、特定のデバイス モデルと条件のいずれかまたは両方を選択できます。特定のデバイスモデルのすべてのデバイスを特定するには、モデルのみを選択し、他の条件は検索に追加しないようにします。こうすると、データベースに設定されているすべての Cisco Unified IP Phones のレコードを取得できます。

カスタム ファイル検索

クエリに使用する共通属性がない場合は、BAT によりカスタム ファイル オプションが提供されます。カスタム ファイルにはデバイス名か電話番号が含まれています。各レコードを別々の行に入力することにより、カスタム テキスト ファイルを作成できます。検索により、条件に一致するすべてのレコードが表示されます。

CSV データ ファイルへの電話機レコードのエクスポート

電話機のグループを移動する必要がある場合は、エクスポートユーティリティを使用できます。エクスポートユーティリティを使用して、Unified Communications Manager データベースから既存のレコードを抽出し、CSV データファイルに移動します。電話機を移動するときには [電話のエクスポート - すべての電話の詳細 (Export Phones with the All Phone Details)] オプションを使用します。このオプションでは、すべての情報 (電話機に関連付けられているデバイス属性、回線属性、サービスなど) を含むレコードが記述されたエクスポートファイルが生成されます。また、電話機の回線設定が類似しており、テンプレートを使用する場合には、特定の詳細情報を含む電話機レコードをエクスポートすることもできます。

関連トピック

[エクスポートされる電話機レコードのフィールド \(198 ページ\)](#)

CSV データ ファイル形式とカスタム ファイル形式

CSV データ ファイルは、デバイスの属性と情報に関する文字列で構成されており、これらの情報がカンマ区切り値 (CSV) 形式で格納されています。Unified Communications Manager データベースにデータレコードを挿入する場合、各データファイルが CSV 形式であることを確認してください。BAT の以前のリリースでは、CSV ファイルは固定形式で次の 2 つのオプションがありました。

- [デフォルト (Default)] 形式 : 各デバイスに関する固定した限られた数の属性と設定を格納する CSV ファイル。
- [すべての詳細 (All details)] 形式 : エクスポートユーティリティを使用して作成された、各デバイスに関するすべての属性と設定を格納する CSV ファイル。

各 CSV データ ファイルの最初の行に、その CSV ファイルに含まれている各フィールドの名前が表示されており、これによりファイル形式がわかります。ファイル形式情報を使用すると、CSV データ ファイルに含まれる特定のフィールドのエントリを容易に特定できます。たとえば、次のサンプル CSV ファイルでは、ヘッダーの 4 番目のフィールドが USER ID となっており、この電話機の CSV ファイルの 5 番目のフィールドに「johns」と表記されています。



(注) フィールドを空にするには、「NULL」(引用符不要) と入力します。フィールドを空白のままにしないでください。

デフォルト ファイル形式のサンプル CSV データ ファイル

```
MAC ADDRESS,DESCRIPTION,LOCATION,USER ID,DIRECTORY NUMBER 1,DISPLAY 1,LINE TEXT LABEL
1,FORWARD BUSY EXTERNAL 1,FORWARD NO ANSWER EXTERNAL 1,FORWARD NO COVERAGE EXTERNAL
1,FORWARD BUSY INTERNAL 1,FORWARD NO ANSWER INTERNAL 1,FORWARD NO COVERAGE INTERNAL
1,CALL PICKUP GROUP 1,SPEED DIAL NUMBER 1,SPEED DIAL LABEL 1,
1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,Johns,9728437154,9728437154,Mike,9728437172,9728437196,
9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk,
9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,Marketing,1230000000,Helpdesk
```

これで、[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウから、CSV データ ファイルのファイル形式をカスタマイズできるようになりました。BAT テンプレ

トにも含まれるファイル形式に属性を追加できます。これにより、テンプレートのエントリをデバイスの特定の属性で上書きできます。たとえば、ファイル形式にルートパーティション属性を選択し、CSV データ ファイルのそれぞれの電話機に別々のパーティションを入力できます。

このウィンドウで、[デバイス (Device)] フィールドや [回線 (Line)] フィールドから特定の属性を選択できます。

次のデバイス属性は、各ファイル形式に必ず含まれます。

- [MAC アドレス (MAC Address)]
- 説明

[ファイル形式の設定 (File Format Configuration)] ダイアログボックスを使用すると、[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスでデバイス属性を選択してから、矢印をクリックしてその属性を [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに容易に移動できます。Ctrl キーを押したままにすると、同時に複数の属性を選択できます。

ファイル形式に含まれるデバイスの属性フィールドや回線の属性フィールドは、上下の矢印を使用して順序を変更できます。属性を選択してから上矢印をクリックすると、その項目が最初のレコードに近い側に移動し、下矢印をクリックするとその項目が最初のレコードから遠い側に移動します。回線の属性をデバイスの属性より前に移動したり、短縮ダイヤルの順番を変更したりすることはできません。



ヒント CSV ファイル形式をカスタマイズし、別のデータベースに保存されている従業員の電話情報の配置に一致させることができます。この方法を使用すると、会社のデータベースと Unified Communications Manager データベースの間でのデータのエクスポートを簡略化できます。

カスタマイズされたファイル形式のサンプル CSV データ ファイル

[デバイス (Device)] フィールド : MAC アドレス、説明、デバイス プール、コーリング サーチ スペース

[回線 (Line)] フィールド : 電話番号、パーティション、回線テキストラベル (ファイルの電話番号の後に移動済み)

このファイル形式には短縮ダイヤル コードが含まれていません。短縮ダイヤルを選択するには、[CSV 形式 (CSV Format)] チェックボックスで [短縮ダイヤルを含める (Include Speed Dials)] を選択します。

```
MAC ADDRESS,DESCRIPTION,DEVICE POOL,CSS,DIRECTORY NUMBER,LINE TEXT LABEL,
PARTITION,2234900AEF01,SEP2234900AEF01,DP_1,CSS_Restricted,
9725098827,LobbyPhone,Part1
```

カスタム ファイル形式の CSV データ ファイルとの関連付け

テキストエディタを使用して CSV データ ファイルを作成する際に、カスタマイズしたファイル形式を作成し、そのファイル形式で指定したのと同じ順序で値を入力することができます。カスタマイズしたファイル形式を使用するテキストベースの CSV データ ファイルを挿入する

前に、ファイル形式名を CSV データ ファイルと関連付ける必要があります。CSV データ ファイルと関連付けることができるファイル形式は、1 つだけです。

手順

-
- ステップ 1** [ファイル形式の追加 (Add File Format)] ウィンドウで、[ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストから <CSVfilename>.txt CSV データ ファイルの名前を選択します。
- ステップ 2** [ファイル形式名 (File Format Name)] ドロップダウンリストからファイル形式を選択します。CSV データ ファイルのデータは、選択されたカスタム ファイル形式と一致する必要があります。
-

CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する

BAT スプレッドシートを使用すると、簡単に CSV データファイルを作成できます。スプレッドシートの形式で、複数のデバイスを追加し、各デバイスのレコードを表示できます。また、スプレッドシート内でファイル形式をカスタマイズでき、さらに自動で検証とエラーチェックが提供されるので、設定エラーが減ります。BAT スプレッドシートには、BAT のデバイスとユーザのさまざまな組み合わせの必須データ入力フィールドにアクセスするために、スプレッドシートの下部に複数のタブがあります。



-
- (注) BAT.xlt は、特定フィールドの有効な文字、データ型、フィールド長についてのみ、データを検証します。
-

CSV データファイルは BAT テンプレートと組み合わせて使用します。たとえば、BAT スプレッドシートの [電話 (Phone)] タブを選択したときは、[場所 (Location)]、[話中転送の接続先 (Forward Busy Destination)]、または [コール ピックアップグループ (Call Pickup Group)] を空欄にしておくことができます。これらのフィールドには BAT 電話機テンプレートの値が使用されます。ただし、[話中転送の接続先 (Forward Busy Destination)] や [コール ピックアップグループ (Call Pickup Group)] の値を指定した場合、それらの値により BAT 電話機テンプレートで設定された値は上書きされます。



-
- ヒント** Unified Communications Manager のインストール時に、BAT スプレッドシート用の Microsoft Excel ファイルはノードの最初のデータベース サーバに置かれますが、しかし、ノードの最初のデータベース サーバでは Microsoft Excel は実行されていないのが普通だと考えられます。その場合は、最初のノードのデータベース サーバから、作業するローカル マシンにこのファイルをダウンロードする必要があります。
-

ファイル BAT.xlt を、Microsoft Excel がインストールされているローカル マシンにダウンロードします。BAT.xlt スプレッドシートを使用して CSV データファイルを作成するには、BAT.xlt ファイルをダブルクリックします。BAT スプレッドシートを開く際には、「」 [マクロを有効にする (enable macros)] を選択する必要があります。



- (注) BAT ファイルをローカル Windows マシンにダウンロードする場合のほとんどの場合、ブロックされたコンテンツの警告が表示されます。「このドキュメントのマクロは、セキュリティ上の理由から企業管理者によって無効にされています」です。この問題を解決するには、BAT ファイルを97-2003形式(新しい.xlsx形式ではなく.xls形式)でダウンロードします。BAT スプレッドシートを作成するには、この(*.xls)形式を使用します。

BATファイル機能は、Mac OS マシンではなく、Windows マシンで最適に機能します。Windows マシンで BAT ファイルを使用することをお勧めします。

スプレッドシートには属性見出しが付いた一連の列が表示されています。これらの列には、BAT のフィールド名、そのフィールドが必須フィールドかオプションフィールドか、そしてそのフィールドに入力できる最大文字数が指定されています。

スプレッドシートの下部には、各デバイスのタブが表示されています。作業するデバイスタイプのタブをクリックすると、選択したデバイスに関連するフィールドがすべて表示されるように列が調整されます。たとえば、電話とユーザを一度に追加するには、[電話-ユーザ (Phone-Users)] とマークが付いたタブをクリックします。



- ヒント スプレッドシートを開くときに [マクロを有効にする (enable macros)] 「」 オプションが表示されない場合は Excel プログラムのマクロのセキュリティが「高」に設定されている可能性があります。マクロを実行するためには、マクロのセキュリティが「中」または「低」であることを確認してください。マクロのセキュリティを「中」に設定するには、次のタスクを実行します。Excel メニューから [ツール (Tools)] > [マクロ (Macro)] > [セキュリティ (Security)] を選択します。[セキュリティレベル (Security Level)] を [中 (Medium)] に設定します。Excel プログラムを閉じ、再度開きます。このアクションにより、次回にスプレッドシートを開くときに「」 [マクロを有効にする (enable macros)] オプションが表示されるようになります。

次に、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンをクリックして、CSV データファイルのファイル形式を定義します。[フィールド選択 (Field Selection)] ダイアログボックスを使用して、CSV データファイルの項目とその順序を選択できます。[作成 (Create)] をクリックすると、スプレッドシート内の列が、指定した新しいファイル形式に合わせて調整されます。

最初の行で、すべての必須フィールドおよび関連するオプションフィールドにデバイスのデータを入力します。各デバイスについて、新しい行にデータを入力します。



- (注) システムはスプレッドシートの空白行を「ファイルの終わり」 「」 マーカーとして処理し、以降のレコードを廃棄します。

すべてのデバイスレコードの入力が完了したら、BAT スプレッドシートデータを CSV ファイル形式でエクスポートします。BAT は、CSV ファイル形式を使用して、Unified Communications Manager の最初のノードのデータベースに対してバルク トランザクションを実行します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールド エントリを二重引用符で囲みます。

CSV 形式ファイルは、ユーザが選択した別のフォルダにテキスト ファイルとして保存されません。ファイル名の形式：

```
<tabname><timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は作成したデバイス入力ファイルのタイプ（電話、ユーザデバイスプロフィールなど）を表し、<timestamp> は、ファイルが作成された正確な日時を表します。

次に、Unified Communications Manager Administration の一括管理で [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用して、変換した CSV データファイル (CSV 形式バージョン) を Unified Communications Manager データベース サーバにアップロードする必要があります。

関連トピック

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

[CSV データファイルの電話機レコードの確認](#) (159 ページ)

BAT データ入力ファイルの検証

システムでは、最初のノードのデータベースに照合して、CSV データ ファイルと BAT テンプレートにエラーがないかをチェックする検証ルーチンを実行します。これらのチェックには、次の項目が含まれています。

- データベース テーブルに依存しないフィールド（説明、表示テキスト、スピードダイヤルのラベルなど）で有効な文字を使用していること。
- BAT の検証 トランザクションで、データ型、長さ、およびリレーショナルの依存関係だけを検証していること。

次の例を考えてみましょう。

```
MAC ADDRESS,DESCRIPTION,PARTITION
```

```
AABBCC112233,Lab Phone,Dallas
```

PARTITION が存在しない場合、[検証 (Validate)] では「「Dallas は既存の PARTITION ではありません (Dallas is not an existing PARTITION)」」というエラーを表示します。

- デバイスに設定されている回線の数 デバイス テンプレートと一致していること。 ([固有の詳細 (Specific Details)] の場合のみ)。

検証では、ユーザの存在や、BAT で定義された必須フィールドまたはオプションフィールド（たとえば、ダミー MAC アドレス）についてはチェックされません。

手順

- ステップ 1** [ファイルの検証 (Validate File)] オプションを選択し、該当する場合、CSV データ入力ファイルの名前、デバイス用の BAT テンプレート、およびモデルを選択します。
CSV データ ファイルには、すべての詳細が含まれている必要があります。
- ステップ 2** 検証方法を選択します。
- [デフォルト (Default)] または [カスタム (Custom)] のファイル形式に従ったレコードを検証するには、[固有の詳細 (Specific Details)] を選択します。
 - [すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して、エクスポートユーティリティから生成されたファイルのレコードを検証するには、[すべての詳細 (All Details)] を選択します。

トランザクションが完了したら、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウの [ログ ファイル名 (Log File Name)] リンクをクリックして、正常に検証できなかったデバイスとエラーコードを表示するログ ファイルを確認します。

関連トピック

[BAT および TAPS のトラブルシューティングの管理 \(769 ページ\)](#)

データベースへの BAT データ入力ファイルレコードの挿入

データ入力ファイルの検証が正常に完了したら、[挿入 (Insert)] ウィンドウを使用してデバイスレコードを Unified Communications Manager の最初のノードデータベースに追加できます。

始める前に

CSV データ入力ファイルが有効である必要があります。電話機レコードに関するいずれかの回線情報に問題がある場合、BAT はその電話機レコードを挿入しません。

手順

- ステップ 1** [挿入 (Insert)] ウィンドウで、必要に応じて CSV データ入力ファイルの名前、デバイス用の BAT テンプレート、およびモデルを選択します。
CSV データ ファイルにはすべての詳細が含まれており、かつファイルが有効である必要があります。
- ステップ 2** 挿入する方法を選択します。
- [固有の詳細 (Specific Details)] を選択して、カスタマイズされたファイル形式を使用するレコードを挿入します。
 - [すべての詳細 (All Details)] を選択すると、[すべての詳細 (All Details)] オプションを使ってエクスポートユーティリティから生成されたファイルから、レコードを挿入できます。

ステップ 3 [ジョブ情報 (Job Information)] の詳細を入力して、[Submit (送信)] をクリックします。これによりジョブが作成され、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使ってそれにアクセスできます。[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用すると、ステータスを表示したり、ジョブをスケジュールおよびアクティブ化することができます。

(注) 電話機レコードに関するいずれかの回線情報に問題がある場合、BAT はその電話機レコードを挿入しません。

トランザクションが完了したら、[ジョブ (Job)] 設定ウィンドウの [ログ ファイル名 (Log File Name)] リンクをクリックすると、追加されたレコード数と失敗したレコード数およびエラーコードがログ ファイルに表示されます。

関連トピック

[BAT および TAPS のトラブルシューティングの管理 \(769 ページ\)](#)

[BAT データ入力ファイルの検証 \(16 ページ\)](#)

BAT アプリケーション Web ブラウザに関する考慮事項

BAT は Web ベースのアプリケーションなので、Web ブラウザを使用する必要があります。Web ブラウザは、大量のシステム メモリと CPU サイクルを消費する、多くのリソースを必要とするアプリケーションです。Web ブラウザが Unified Communications Manager からリソースを奪うと、コール処理に悪影響を及ぼします。



注意 Web サーバおよび Unified Communications Manager と同じマシンでブラウザを使用すると、ダイヤルトーンの遅延やコールのドロップが生じることがあります。

BAT オンライン ヘルプへのアクセス

オンライン ヘルプでは、複数の異なるヘルプ システムにアクセスできるマルチボリューム システムが提供されます (同じウィンドウからすべてにアクセスできます)。包括的な検索エンジンやインデックスにもアクセスできます。

手順

ステップ 1 [ヘルプ (help)] メニューを選択して、BAT オンライン ヘルプにアクセスします。

ステップ 2 ヘルプ機能を選択します。

- a) [コンテンツ (Contents)] や [インデックス (Index)] を選択して、情報を参照したり、インデックスを検索したりできる BAT ヘルプ ファイルを開きます。

- b) [このページのヘルプ (For This Page)] を選択し、現在表示しているウィンドウに関するヘルプを直接開きます。
ヘルプのそれ以外の部分を参照することも、インデックスを使用することもできます。
-

Cisco Unified Communications Manager バージョンの確認

手順

Unified Communications Manager の現在のバージョンを確認するには、[ヘルプ (Help)]>[バージョン情報 (About)] の順に選択します。



第 II 部

ファイルのアップロードとダウンロード

- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)



第 3 章

ファイルのアップロードおよびダウンロード

この章では、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードへのファイルのアップロード、およびローカルマシンへのファイルのダウンロードについて説明します。

- [サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索 \(23 ページ\)](#)
- [サーバからのファイルのダウンロード \(25 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)
- [サーバからのファイルの削除 \(26 ページ\)](#)

サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索

次の手順を使用して、Unified Communications Manager サーバーからダウンロード可能なファイルを検索します。

手順

- ステップ 1** **[Bulk Administration (一括管理)] > [Upload/Download Files (ファイルをアップロード/ダウンロード)]** の順に選択します。
- ステップ 2** 最初の **[ファイルの検索 (Find File where)]** ドロップダウン リストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 名前
 - タイプ
- ステップ 3** 2 番目の **[ジョブの検索 (Find Job where)]** のドロップダウン リストボックスで、次のいずれかを実行します。
 - ステップ 2 (23 ページ)** で **[名前 (Name)]** を選択した場合は、次のいずれかのオプションを選択し、**ステップ 4 (24 ページ)** に進みます。
 - ~で始まる

- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

b) [ステップ 2 \(23 ページ\)](#) で [タイプ (Type)] を選択した場合は、[ステップ 4 \(24 ページ\)](#) に進みます。

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのファイルを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(23 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(24 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 6 [ステップ 2 \(23 ページ\)](#) で [タイプ (Type)] を選択した場合は、[項目を選択するか、検索テキストを入力してください (Select item or Enter search text)] リストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- 挿入ファイル (Insert Files)
- エクスポートファイル (Export Files)
- レポートファイル (Report Files)
- カスタムファイル (Custom Files)
- ログファイル
- BAT Excel テンプレート (BAT Excel Template)

ステップ 7 [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたファイルのリストが、次の分類で表示されます。

- [ファイル名 (File Name)]
- 機能種別

[ステップ 2 \(23 ページ\)](#) で [タイプ (Type)] を選択した場合は、検出されたファイルのリストが次の分類で表示されます。

- [ファイル名 (File Name)]
- [起動日時 (Launch Date and Time)]

次のタスク

選択したファイルをダウンロードできます。

関連トピック

[サーバからのファイルのダウンロード](#) (25 ページ)

サーバからのファイルのダウンロード

次の手順を使用して、Cisco Unified Communications Manager サーバからファイルをダウンロードします。

手順

ステップ 1 ダウンロードするファイルを検索します。

ヒント サーバ上でファイルを検索するには、[サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索](#) (23 ページ) を参照してください。

ステップ 2 ダウンロードするファイルに対応するチェックボックスをオンにして、[選択項目のダウンロード (Download Selected)] をクリックします。

複数ファイルの一括ダウンロードを選択した場合は、それらのファイルが一般的な zip ファイルとしてダウンロードされます。

ヒント [すべて選択 (Select All)] をクリックして [選択項目のダウンロード (Download Selected)] をクリックすると、すべてのファイルをダウンロードできます。

ステップ 3 [ファイルのダウンロード (File Download)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 4 [名前をつけて保存 (Save As)] ポップアップ ウィンドウでファイルの保存場所を選択して、[保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 [ダウンロード完了 (Download Complete)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。ダウンロードしたファイルをすぐに開く場合は [開く (Open)] をクリックします。後で開く場合は [閉じる (Close)] をクリックします。

(注) Windows を使用している場合は、7-Zip ツールを使用して zip ファイルを抽出します。

サーバへのファイルのアップロード

次の手順を使用して、ユニファイドコミュニケーション マネージャ サーバにファイルをアップロードします。



(注) アップロードファイルの形式は、常に英数字 (A ~ Z、a ~ z、および 0 ~ 9) の文字を使用する必要があります。有効な文字は、ハイフン (-)、ドット (.)、アンダースコア (_) です。また、ファイル名はドットで始めたり、ドットを2つ使用したりすることはできません。

手順

- ステップ1 一括管理(Bulk Administration)> ファイルをアップロード/ダウンロード(Upload/Download Files)の順に選択します。
- ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ3 [ファイル (File)] テキストボックスに、アップロードするファイルのフルパスを入力するか、[参照 (Browse)] をクリックしてファイルを探します。
- ステップ4 [ターゲットの選択 (Select the Target)] ドロップダウンリストボックスから、ファイルを使用するターゲットを選択します。
- ステップ5 [トランザクションタイプ (Transaction Type)] ドロップダウンリストボックスから、ファイルで定義されるトランザクションタイプを選択します。
- ステップ6 同じ名前の既存のファイルを上書きする場合は、[ファイルが存在する場合は上書きする (Overwrite File if it Exists)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ7 [保存 (Save)] をクリックします。アップロードが成功したことを示すステータスが表示されます。

サーバからのファイルの削除

次の手順を使用して、Cisco Unified Communications Manager サーバからファイルを削除します。ジョブの実行に使用されているファイルを削除対象として選択した場合、そのようなファイルは削除されません。



注目 BAT.xlt ファイルは削除しないでください。

手順

- ステップ1 削除するファイルを検索します。
- ステップ2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、削除するファイルに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ3 [Delete Selected (選択したユーザを削除)] をクリックします。

(注) [検索結果 (Search Results)] 領域に表示されたすべてのファイルを削除するには、[すべて選択 (Select All)] と [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

ステップ 4 続行するには [OK] をクリックします。
これで、ファイルがサーバから削除されます。

関連トピック

[サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索 \(23 ページ\)](#)



第 III 部

電話

- [電話テンプレート \(31 ページ\)](#)
- [電話ファイル形式 \(151 ページ\)](#)
- [電話レコードの検証 \(159 ページ\)](#)
- [電話の挿入 \(163 ページ\)](#)
- [電話の更新 \(167 ページ\)](#)
- [電話の削除 \(191 ページ\)](#)
- [電話のエクスポート \(197 ページ\)](#)
- [電話回線の追加および更新 \(205 ページ\)](#)
- [電話のリセット/リスタート \(225 ページ\)](#)
- [電話レポート \(233 ページ\)](#)
- [電話の移行 \(241 ページ\)](#)
- [インターコムの追加および更新 \(245 ページ\)](#)



第 4 章

電話テンプレート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) では、Cisco Unified Communications Manager Administration で個々の更新を実行するのではなく、大量の電話を一括で追加、更新、または削除する迅速かつ効率的な方法を管理者に提供します。BATを使用して、次のタイプの電話を操作できます。

- CiscoUnifiedIPPhones (すべてのモデル)
- CTI ポート
- H.323 クライアント

この章では、BAT を使用して、電話テンプレートおよびその他の IP テレフォニー デバイスを操作する方法について説明します。

- [データベースへの電話機の追加 \(31 ページ\)](#)
- [BAT 電話機テンプレート \(32 ページ\)](#)
- [Jabber デバイスの更新 \(150 ページ\)](#)

データベースへの電話機の追加

BAT を使用して、電話およびその他の IP テレフォニー デバイスを Unified Communications Manager データベースに一括で追加する場合は、個々の電話に複数の回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。CTI ポートや H.323 クライアントを追加することもできます。

電話機の CSV データファイルの作成には、2つのオプションがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用して、データを CSV 形式にエクスポートする
- テキストエディタを使用して、CSV形式のテキストファイルを作成する (経験豊富なユーザ向け)

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 CSV ファイルを作成して、電話テンプレートを挿入します。

次のいずれかの選択肢を実行します。

- a) BAT スプレッドシートを使用して CSV データファイルを作成します。
- b) 以下のようにテキスト エディタを使用して CSV データファイルを作成します。
 1. [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。
 2. テキストエディタを使用して、電話機の CSV データファイルを作成します。このファイルは、使用するファイル形式に従います。
 3. [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の追加 (Add File Format)] を選択し、テキストベースのファイル形式を CSV データファイルと関連付けます。

ステップ 3 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の確認 (Validate Phones)] の順に選択します。

ステップ 4 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の挿入 (Insert phones)] を選択して、電話レコードを Unified Communications Manager データベースに挿入します。

関連トピック

- [テキストベースのファイル形式と CSV データファイルの関連付け \(157 ページ\)](#)
- [BAT 電話機テンプレート \(32 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データファイルの作成 \(116 ページ\)](#)
- [電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(798 ページ\)](#)
- [電話ファイル形式の検索 \(152 ページ\)](#)
- [Unified Communications Manager への電話の挿入 \(163 ページ\)](#)
- [電話レコードの検証 \(159 ページ\)](#)

BAT 電話機テンプレート

BAT 電話機テンプレートを使用して、共通の電話属性を定義して新しい電話のグループを追加します。テンプレートを作成する前に、デバイスプール、場所、コーリングサーチスペース、ボタンテンプレート、ソフトキーテンプレートなどの電話設定が Unified Communications Manager Administration 内ですでに設定済みであることを確認します。新しい設定を BAT で作成することはできません。

BAT 電話機テンプレートの検索

複数の電話テンプレートが使用される場合があることから、Unified Communications Manager では、ユーザが定義する検索条件に基づいて特定の電話テンプレートを検索できます。



- (注) ブラウザセッションでの作業中に、検索/一覧表示の検索設定がクライアントマシン上のCookieに保存されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを再度開いた場合でも、この Unified Communications Manager の検索設定が、検索条件を変更するまで維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

[電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウン リスト ボックスを使用してテンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [電話テンプレートの検索 (Find Phone Templates where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- デバイス名 (Device Name)
- 説明
- [電話番号 (Directory Number)]
- [ディレクトリ URI (Directory URI)]
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- デバイスタイプ
- [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]
- [LSC ステータス (LSC Status)]
- 認証文字列
- [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
- [セキュリティ プロファイル (Security Profile)]
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]

ステップ 3 2番目の [電話テンプレートの検索 (Find Phone Template where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- で始まる
- を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- が空ではない

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべての電話機テンプレートを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが表示されます。

ステップ 5 レコードのリストから、検索条件と一致するデバイス名をクリックします。ウィンドウに、選択した電話機テンプレートが表示されます。

新しいBAT 電話機テンプレートの作成

新しいBAT 電話機テンプレートを作成できます。電話テンプレートを作成したら、回線、サービス、および短縮ダイヤルを追加できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。[新しい電話テンプレートの追加 (Add a New Phone)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 電話タイプのドロップダウンリストから、テンプレートを作成する電話機モデルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 デバイスプロトコルの選択のドロップダウンリストから、デバイスのプロトコルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

[電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウが、選択したデバイスタイプのフィールドとデフォルト エントリと共に表示されます。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、最大 50 文字の英数字を使用できます。

ステップ 6 [デバイス情報 (Device Information)] 領域に、このバッチの共通の電話設定を入力します。一部の電話モデルとデバイスタイプには、一覧に示されている属性がすべて揃っていないものもあります。すべての属性の詳細については、電話機モデルのマニュアルを参照してください。

ステップ 7 このBAT 電話機テンプレートのすべての設定を入力したら、[保存 (Save)] をクリックします。

ステータスにトランザクションが完了したことが示されたら、回線の属性を追加できます。

BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新

BAT テンプレートに1つ以上の回線を追加したり、既存の回線を更新したりできます。BAT テンプレートに使用されるボタンテンプレートによって、追加または更新できる回線の数が決

定されます。複数回線を持つプライマリ電話テンプレートを作成することができます。その標準テンプレートを使用して、単一回線の電話機、または標準テンプレート内の回線数を上限とする複数回線の電話機を追加できます。このバッチ内のすべての電話機またはユーザデバイスプロフィールが、選択された設定を使用することになります。

回線テンプレートの値には英数字を使用することが推奨されています。数字のみを指定した場合、実際の電話番号と競合してしまう可能性があります。英数字を使用することにより、コールピックアップグループ番号や通話パーク番号などの機能とも競合せずに済みます。

BAT テンプレートに表示される回線の最大数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルおよびボタンテンプレートに応じて異なります。一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスと短縮ダイヤルもテンプレートに追加できます。

手順

ステップ 1 回線を追加する電話テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [回線 [1] - 新規 DN の追加 (Line [1] Add a new DN)] をクリックします。

[回線テンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 回線の設定に適切な値を入力するか、選択します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 その他の回線の設定を追加するには、[ステップ 2 \(35 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(35 ページ\)](#) を繰り返します。

[回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択した場合、[回線テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Line Template)] ウィンドウが表示されます。

- a) 既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。
- b) 新しい回線テンプレートを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

関連トピック

[BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新 \(35 ページ\)](#)

[BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(36 ページ\)](#)

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(32 ページ\)](#)

[標準電話テンプレート \(10 ページ\)](#)

BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新

この機能が BAT テンプレートに直接含まれている Cisco Unified IP Phone モデルに、Cisco Unified IP Phone サービスを登録できます。ユーザや電話を IP サービスに一括で登録するには、IP サービスに共通のサービスパラメータが必要で、電話テンプレートを使用して登録する必要があります。

ます。固有のサービスパラメータを持つ IP サービスは一括登録できません。固有のパラメータを持つサービスの場合、CSV ファイルを使用します。

手順

-
- ステップ 1 IP サービスを追加する電話テンプレートを見つけます。
 - ステップ 2 [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウから、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規SURLの追加 (Add a new SURL)] をクリックします。
ポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウで、使用可能な Cisco Unified IP Phone サービスに登録できます。
 - ステップ 3 [サービスの選択 (Select a Service)] ドロップダウンリスト ボックスで、すべての電話に登録するサービスを選択します。[サービスの説明 (Service Description)] ボックスには、選択したサービスの詳細が表示されます。
 - ステップ 4 [次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 5 [サービス名 (Service Name)] フィールドで、必要に応じてサービスの名前を変更します。
 - ステップ 6 選択したサービスを関連付けるか、他のサービスをテンプレートに追加します。
 - a) これらの電話サービスを電話テンプレートに関連付けるには、[保存 (Save)] をクリックします。
 - b) さらにサービスを追加するには、[ステップ 3 \(36 ページ\)](#) ~ [ステップ 6 \(36 ページ\)](#) を繰り返します。
 - c) すべてのサービスをテンプレートに追加するには、[更新 (Update)] をクリックします。選択したテンプレートに対してサービスの追加または更新を実行した後は、次のステップに進みます。
 - ステップ 7 ポップアップウィンドウを閉じます。

関連トピック

[BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(36 ページ\)](#)

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(32 ページ\)](#)

BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新

電話ボタンテンプレートに短縮ダイヤル ボタンがある場合、一般の電話用および Cisco VGC 電話用の BAT テンプレートで短縮ダイヤルを追加したり、更新したりできます。BAT テンプレートに使用される電話ボタンテンプレートによって、使用できる短縮ダイヤル ボタンの数が決定します。

手順

-
- ステップ 1 短縮ダイヤルを追加する電話テンプレートを見つけます。

- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウから、次のいずれかを実行します。
- a) [関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規 SD の追加 (Add a new BLF SD)] をクリックします。
 - b) ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [短縮ダイヤルの追加/更新 (Add/Update Speed Dials)] を選択します。
- ポップアップ ウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone と拡張モジュールの短縮ダイヤルボタンを指定できます。
- ステップ 3** [短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial Settings)] 領域の [番号 (Number)] フィールドに、電話番号 (アクセスコードまたは長距離コードを含む) を入力します。
- (注) 電話番号を入力する際に、必要に応じて、強制承認コード (FAC) /クライアント識別コード (CMC) を続けて入力することもできます。このフィールドには電話番号、FAC、CMC を連続して、またはカンマ (,) で区切って入力できます。短縮ダイヤルには、コールが接続された後に DTMF デジットとして送信される PIN、パスワード、またはその他の数字を含めることができます。短縮ダイヤルで接続するときに一時停止を必要とする場合、1 つ以上のカンマ (,) を入力することができます。各カンマは 2 秒間の一時停止を表します。DTMF デジットは、コールが接続され、カンマの数に対応する適切な一時停止期間が経過した後に送信されます。
- ステップ 4** [ラベル (Label)] フィールドに、短縮ダイヤル番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 5** [短縮ダイヤル設定 (Abbreviated Dial Settings)] 領域で、該当する IP フォンモデルの短縮ダイヤルを設定できます。 [ステップ 3 \(37 ページ\)](#) を繰り返します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によってテンプレートに短縮ダイヤルの設定が挿入され、ポップアップ ウィンドウが閉じます。

関連トピック

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(32 ページ\)](#)

BAT テンプレート内の話中ランプフィールドの追加または更新

電話ボタン テンプレートに短縮ダイヤル ボタンがある場合、一般の電話用および Cisco VGC 電話用の BAT テンプレートで話中ランプフィールドを追加したり、更新したりできます。BAT テンプレートに使用される電話ボタンテンプレートによって、使用できる BLF SD ボタンの数が決定します。

手順

- ステップ 1** 短縮ダイヤルを追加する電話テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。

- a) [関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規BLF SDの追加 (Add a new BLF SD)] をクリックします。
- b) ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから、[話中ランプフィールドスピードダイヤルの追加/更新 (Add/Update Busy Lamp Field Speed Dials)] を選択します。

ポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して話中ランプフィールド スピードダイヤル (BLF SD) ボタンを指定できます。

- ステップ 3** [短縮ダイヤルの設定 (Speed Dial Settings)] 領域の [接続先 (Destination)] フィールドに、接続先 (アクセスコードまたは長距離コードを含む) を入力します。
- ステップ 4** ドロップダウンリストから電話番号を選択します。[検索 (Find)] をクリックして、電話番号を検索できます。
- ステップ 5** [ラベル (Label)] フィールドに、BLF SD 番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 6** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によってテンプレートに BLF SD の設定が挿入され、ポップアップウィンドウが閉じます。

関連トピック

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(32 ページ\)](#)

BAT テンプレート内の話中ランプフィールド ダイレクト通話パークの追加または更新

電話ボタンテンプレートに短縮ダイヤル ボタンが備えられている場合、一般の電話用および Cisco VGC 電話用の BAT テンプレートで話中ランプフィールド (BLF) ダイレクト通話パークを追加したり、更新したりできます。この BAT テンプレートに使用される電話ボタンテンプレートによって、使用できる BLF ダイレクト通話パーク ボタンの数が決定されます。

手順

- ステップ 1** BLF ダイレクト通話パークを追加する電話テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、次のいずれかを実行します。
 - a) [関連情報 (Associated Information)] 領域にある [新規 BLF ダイレクト通話パークの追加 (Add a new BLF Directed Call Park)] をクリックします。
 - b) ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスから [BLF ダイレクト通話パークの追加/更新 (Add/Update BLF Directed Call Park)] を選択します。

ポップアップウィンドウが表示されます。このウィンドウで、Cisco Unified IP Phone および拡張モジュールに対して、BLF ダイレクト通話パーク ボタンを指定できます。
- ステップ 3** [割り当てられていない話中ランプフィールド/ダイレクトコールパークの設定 (Unassigned Busy Lamp Field/Directed Call Park Settings)] 領域で、ドロップダウンリストから電話番号を選択します。[検索 (Find)] をクリックして、電話番号を検索できます。

- ステップ 4** [ラベル (Label)] フィールドに、BLF ダイレクト通話パーク番号に対応するラベルを入力します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によってテンプレートに BLF ダイレクト通話パークの設定が挿入され、ポップアップウィンドウが閉じます。

関連トピック

[BAT 電話機テンプレートの検索](#) (32 ページ)

BAT テンプレート内のインターコムテンプレートの追加または更新

1つ以上のインターコムテンプレートをBATテンプレートに追加できます。または既存のインターコムテンプレートをBATテンプレートで更新できます。BATテンプレートに使用しているボタンテンプレートによって、追加または更新できる回線数が決定します。複数回線を持つ標準電話テンプレートを作成することができます。その標準テンプレートを使用して、単一回線の電話機、または標準テンプレート内の回線数を上限とする複数回線の電話機を追加できます。このバッチ内のすべての電話機またはユーザ デバイス プロファイルは、インターコムテンプレートに選択した設定を使用します。

インターコムテンプレートには英数字を使用することを推奨します。番号を指定すると、実際の電話番号と競合する可能性があるためです。英数字を使用することにより、コールピックアップグループ番号や通話パーク番号などの機能とも競合せずに済みます。

BAT テンプレートに表示される回線の最大数は、BAT 電話機テンプレートの作成時に選択したモデルおよびボタンテンプレートによって異なります。一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスと短縮ダイヤルもテンプレートに追加できます。

手順

- ステップ 1** インターコムテンプレートを追加する電話テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [インターコム[1]-新規インターコムの追加 (Intercom [1] - Add a new Intercom)] をクリックします。
[インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** インターコムテンプレートの設定に適切な値を入力するか、選択します。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。
BAT によって、インターコムテンプレートが電話テンプレートの設定に追加されます。
- ステップ 5** その他のインターコムテンプレートの設定を追加するには、[ステップ 2 \(39 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(39 ページ\)](#) を繰り返します。
[インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択した場合、[インターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。

- (注) [インターコムテンプレートの設定 (Intercom Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択した場合、[インターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。
- 既存のインターコム電話番号を検索するには、[検索 (Find)] をクリックし、適切な検索条件を入力します。
 - 新しいインターコム電話番号を追加するには、[インターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Number)] ウィンドウで、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

関連トピック

- [BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新 \(35 ページ\)](#)
- [BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(34 ページ\)](#)
- [BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(36 ページ\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートの検索 \(32 ページ\)](#)
- [標準電話テンプレート \(10 ページ\)](#)

BAT 電話機テンプレートの変更

手順

- ステップ 1** 変更する電話機テンプレートを検索します。
 - ステップ 2** [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、テンプレート内の設定を追加、変更、または削除します。詳細については、「[表 3: BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 \(88 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** 設定を変更してテンプレートを更新した後、[保存 (Save)] をクリックします。
-

次のタスク

さらに、BAT テンプレートに対して回線、IP サービス、または短縮ダイヤルを追加または更新することができます。

関連トピック

- [BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新 \(35 ページ\)](#)
- [BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(34 ページ\)](#)
- [BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(36 ページ\)](#)
- [BAT 電話機テンプレートの検索 \(32 ページ\)](#)

BAT 電話機テンプレートのコピー

一部のフィールドだけを変更したい場合は、既存の電話テンプレートのプロパティを新しい電話テンプレートにコピーできます。コピーでは、元のテンプレートで指定されていたすべての値が複製されます。



(注) 作成する新しいテンプレートが、Cisco IP Phone 7975 など、元のテンプレートと同じデバイスタイプであることを確認します。

手順

ステップ 1 コピーする電話テンプレートを検索します。

ステップ 2 電話テンプレートをコピーします。次のいずれかを実行します。

- [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、それがコピーするテンプレートであることを確認して、[コピー (Copy)] をクリックします。
- [電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウで、コピーする電話テンプレートに対応する [コピー (Copy)] 列内のアイコンをクリックします。
- テンプレートとそのテンプレートに関連付けられたすべての回線をコピーするには、[電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウで、コピーする電話テンプレートと回線に対応する [スーパーコピー (Super Copy)] 列内のアイコンをクリックします。

ステップ 3 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドに、テンプレートの名前を入力します。名前には、最大 50 文字の英数字を使用できます。

例：

Sales_7975

ステップ 4 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。

詳細については、「[表 3 : BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 \(88 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックします。

BAT に追加されたテンプレートは、左側の [電話テンプレート (Phone Templates)] に表示されます。

次のタスク

電話回線、IP サービス、および短縮ダイヤルのテンプレートへの追加または更新を続けて実行することができます。

関連トピック

[BAT テンプレートでの IP サービスの追加または更新 \(35 ページ\)](#)

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(34 ページ\)](#)

[BAT テンプレート内の短縮ダイヤルの追加または更新 \(36 ページ\)](#)

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(32 ページ\)](#)

BAT 電話機テンプレートの削除

BAT 電話機テンプレートを削除できます。



注意 特定の電話機テンプレートを使用するジョブを送信した場合、その電話機テンプレートを削除すると、そのジョブも削除されます。

手順

ステップ 1 削除する電話機テンプレートを検索します。

ステップ 2 電話機テンプレートを削除します。次のいずれかを実行します。

- a) [電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウで、それが削除対象のテンプレートであることを確認して、[削除 (Delete)] をクリックします。
- b) [電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウで、削除するテンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

削除操作の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 3 テンプレートを削除するには、[OK] をクリックします。そのテンプレート名が、[電話テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Phone Templates)] ウィンドウの電話機テンプレートのリストから消去されます。

関連トピック

[BAT 電話機テンプレートの検索 \(32 ページ\)](#)

BAT 電話機テンプレート フィールドの説明

次の表では、すべての IP テレフォニー デバイスの BAT 電話機テンプレートを追加するときに、表示される可能性のあるフィールドについて説明します。一部のデバイスタイプでは、すべての電話設定は必要ではなく、一部のフィールドにのみ、Unified Communications Manager 管理ページで設定された値が表示されます。BAT ユーザ インターフェイスでアスタリスクが付

いたフィールド名には入力が必要です。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

表 2: 電話テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[デバイス信頼モード (Device Trust Mode)]	デバイスを信頼できるかどうかを選択します。この設定項目は、SCCPを使用するアナログ電話機と、一部のサードパーティのエンドポイントに対して設定できます。
テンプレート名 (Template Name)	テンプレートの名前を入力します。
説明	作成する電話テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大50文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
オンボーディングにはアクティベーションコードが必要です	このテンプレートを使用する電話機のオンボードに、自動登録ではなくアクティベーションコードを使用する場合は、このチェックボックスをオンにします。 (注) このオプションは、アクティベーションコードをサポートする電話機でのみ使用できます。
デバイスプール	この電話機グループまたはポートグループのデバイスプールを選択します。 デバイスの場合、デバイスプールは、自動再登録に必要な共通の特性 (地域、日時グループ、Unified Communications Managerグループ、コーリングサーチスペースなど) のセットを定義します。

フィールド	説明
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	この電話機を割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられている属性（サービスまたは機能）が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。 共通デバイス設定を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	このグループ内のすべての電話機のボタンテンプレートを選択します。ボタンテンプレートにより、ボタンの内容（回線、短縮ダイヤル）と、電話機上のボタンの位置が決まります。ボタンテンプレートには拡張モジュールが含まれています。
[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]	このグループのすべての電話機に使用するソフトキーテンプレートを選択します。
[共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)]	ドロップダウンリストで、使用可能な共通の電話プロフィールのリストから共通の電話プロフィールを選択します。
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	電話機/ポートのこのグループのコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。
[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する、適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされる場合に、ルートパーティションのコレクションを指定します。このルートパーティションは、収集された（発信側）番号の他のルーティング方法を決定するために検索されます。

フィールド	説明
[メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>この電話グループまたはポートグループのメディアリソースグループリスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL には、優先順位付けされたメディアリソースグループのリストが表示されます。アプリケーションは、MRGL で定義されている優先順位に従って、使用可能なメディアリソースから必要なメディアリソースを選択します。</p>
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	<p>この電話グループまたはポートグループのユーザ保留音源を選択します。</p> <p>ユーザ保留音源は、ユーザがコールを保留にするとときに再生される音楽の音源を指定します。</p>
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	<p>この IP フォングループまたはポートグループのネットワーク保留音源を選択します。</p> <p>ネットワーク保留音源は、システムによりコールが保留されるとき (ユーザがコールを転送またはパークするときなど) に再生される音楽の音源を指定します。</p>
[所在地 (Location)]	<p>この IP フォングループまたはポートグループの適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、このロケーションに対して送受信可能な帯域幅の合計を指定します。設定値の [なし (None)] は、この Cisco IP Phone で使用される帯域幅がロケーション機能によって追跡されないことを意味します。</p>
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。</p> <p>[AAR グループ (AAR Group)] を [なし (None)] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>

フィールド	説明
[ユーザ ロケール (User Locale)]	<p>この IP フォングループに関連付ける国と言語設定を選択します。</p> <p>この選択項目によって、このユーザーの文化に依存する属性と、Unified Communications Manager のユーザーウィンドウおよび電話機でユーザーに表示される言語が決まります。</p>
[ネットワーク ロケール (Network Locale)]	<p>この電話機グループに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>ネットワーク ロケールは、シスコのゲートウェイおよび電話機が、特定の地域の PSTN およびその他のネットワークと通信する際に使用する、一連の呼び出し音とリズムを構成します。</p>
[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]	<p>[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウンリストを使用して ([On (オン)]、[Off (オフ)]、または [デフォルト (Default)] を選択)、割り込み機能用のビルトイン会議ブリッジを有効または無効にします。</p>
[プライバシー (Privacy)]	<p>プライバシーが必要な電話機のそれぞれに対して、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウンリストから [オン (On)] を選択します。</p>

フィールド	説明
[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)]	<p>ドロップダウンリストから、このデバイスのデバイス モビリティ機能をオンまたはオフにします。デフォルトのデバイス モビリティモードを使用する場合は、[デフォルト (Default)]を選択します。</p> <p>[現在のデバイスモビリティ設定の表示 (View Current Device Mobility Settings)]をクリックし、これらのデバイスモビリティパラメータの現在の値を表示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Managerグループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] • [デバイス プールのローミング (Roaming Device Pool)] • [所在地 (Location)] • [地域 (Regions)] • ネットワーク ロケール • AAR グループ (AAR Group) • AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) • デバイス コーリング サーチ スペース (Device Calling Search Space) • [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] • [SRST]
[所有者のユーザ ID (Owner User ID)]	プライマリ電話のユーザのユーザIDを入力します。

フィールド	説明
[モビリティ ユーザ ID (Mobility User ID)] (デュアルモード電話のみ)	<p>ドロップダウンリストから、このデュアルモード電話を割り当てるユーザーのユーザー ID を選択します。</p> <p>(注) モバイル ユーザ ID 設定は、デュアルモード電話の Cisco Unified Mobility およびモバイル音声アクセス機能に使用されます。</p> <p>(注) オーナー ユーザ ID とモビリティ ユーザ ID は異なっていても構いません。</p>
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	<p>ドロップダウンリストから、電話機のパーソナライゼーション設定を有効、または無効にするか、あるいは、[デフォルト (Default)] を選択して、[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] で設定した電話機のパーソナライゼーション設定を使用します。次のいずれかのオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Desabled)]: 電話機のいずれのパーソナライゼーション設定も有効にされません。 • [有効 (Enabled)]: この設定では、パーソナライズされた背景画像ファイルを電話機の画面に使用したり、プレビュー画像ファイルを一時的に表示したり、パーソナライズされたトーンファイルでデフォルトの呼出音をカスタマイズしたりできます。 • [デフォルト (Default)]: [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)] の電話機のパーソナライゼーション設定を使用します。

フィールド	説明
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	<p>ドロップダウンリストの次の値から、使用するサービスプロビジョニング設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内部 • 外部 URL • 両方 • デフォルト : [内部 (Internal)] <p>このパラメータは、設定ファイル (内部) 、サービス URL から受信するサービス (外部 URL) 、またはその両方にプロビジョニングされているサービスを電話機で使用するかを制御します。[外部 URL (External URLs)] オプションは、サードパーティ製プロビジョニングサーバとの後方互換性を提供します。[両方 (Both)] オプションを選択すると、ユーザは設定ファイルに指定されているサービスにサブスクライブできるだけでなく、外部プロビジョニングサーバのサービスも追加することができます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p>
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	<p>必要に応じてカスタムの電話ロードを入力します。</p> <p>(注) このフィールドに値を入力すると、選択したモデルのデフォルトの値は上書きされます。</p> <p>Cisco IP Phone ソフトウェアおよびその設定の詳細については、電話機のモデルに応じた『Cisco Unified IP Phone Administration Guide for Cisco Unified Communications Manager』を参照してください。</p>

フィールド	説明
ワンボタン割り込み (Single Button Barge)	<p>ドロップダウンリストボックスから、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービスパラメータの設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: この設定は、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたはC割り込み機能は引き続き動作します。 • [割り込み (Barge)]: この設定はワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C割込 (CBarge)]: この設定はワンボタンC割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)]: サービスパラメータのワンボタン割り込みまたはC割り込みの設定を使用します。
複数ライン同時通話 (Join Across Lines)	<p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスの [回線をまたいで参加 (Join Across Lines)] 機能を有効または無効にするか、あるいは [デフォルト (Default)] を選択してサービスパラメータ設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: この設定は [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を無効にします。 • [オン (On)]: この設定は [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)]: サービスパラメータの [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] の設定を使用します。

フィールド	説明
[信頼されたリレー ポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディア エンドポイントにトラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入できるかどうかを選択します。次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: この値を選択した場合、デバイスは、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレー ポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定を使用します。 • [オフ (Off)]: このデバイスでの TRP の使用を無効化する場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 • [オン (On)]: このデバイスでの TRP の使用を有効にする場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスは信頼できるリレーポイントとしてラベル付けされている MTP またはトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえばトランスコーダやRSVPAgent) が必要な場合、Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い位置に TRP を配置します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合は、TRP が必須の MTP として使用されません。</p>

フィールド	説明
<p>[BLF オーディオアラート設定（電話がアイドルのとき）（BLF Audible Alert Setting (Phone Idle)）]</p>	<p>ドロップダウン リスト ボックスの次の値から、使用する BLF 警告音設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン • オフ (Off) • Default <p>このパラメータは、話中ランプ フィールド (BLF) ボタンでモニタされている回線のいずれかにコールが着信したときに、現在アイドル状態の電話機で、ビジュアルアラートに加えてオーディオアラートも提供します。</p> <p>必須フィールドです。</p>
<p>[BLF オーディオアラート設定（電話がビジーのとき）（BLF Audible Alert Setting (Phone Busy)）]</p>	<p>必須フィールドであるこのパラメータは、話中ランプ フィールド (BLF) ボタンでモニタされている回線のいずれかにコールが着信すると、現在使用中の電話機にビジュアルアラートに加えてオーディオアラートも提供します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスの次の値から、使用する BLF 警告音設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default

フィールド	説明
常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [オフ (Off)] : 電話機がアイドルで、いずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からのコールに応答します。• [オン (On)] : 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにはプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールは鳴り続け、電話機ユーザはそれらの他の回線を選択して、これらのコールに応答する必要があります。• デフォルト : Unified Communications Manager は、[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] サービスパラメータの設定を使用します。これにより、Cisco CallManager サービスがサポートされます。

フィールド	説明
ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)	<p>ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)] : 電話機がアイドルの場合、電話機のユーザが電話機の [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、ボイスメッセージを受信するために電話のプライマリ回線がアクティブ回線になります。 • [オフ (Off)] : 電話機がアイドルの場合、電話機の [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、ボイスメッセージのある回線から、ボイスメッセージシステムを自動的にダイヤルします。Unified Communications Manager は、常に音声メッセージのある最初の回線を選択します。ボイスメッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話のユーザーが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。 • デフォルト : Unified Communications Manager は、[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] サービスパラメータの設定を使用します。これにより、Cisco CallManager サービスがサポートされます。
[位置情報 (Geo Location)]	<p>ドロップダウン リストから地理位置情報を選択します。</p> <p>位置情報で [未指定 (Unspecified)] を選択すると、このデバイスを位置情報に関連付けないように指定できます。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>

フィールド	説明
[機能コントロール ポリシー (Feature Control Policy)]	<p>この電話機グループの機能管理ポリシーを選択します。</p> <p>機能管理ポリシーは、電話機に表示される機能と関連付けられたソフトキーがどう表示されるかを指定します。</p>
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <p>[システム デフォルトを使用 (Use System Default)] : 電話機ではエンタープライズパラメータ [デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)] で指定された値が使用されません。</p> <p>[非セキュア (Non-secure)] : 電話機にはどのセキュリティ機能もありません。Unified Communications Manager への TCP 接続が開かれます。</p> <p>[Authenticated] : Unified Communications Manager は電話の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続が開きます。</p> <p>[Encrypted] : Unified Communications Manager は電話の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続が開きます。</p> <p>このフィールドが表示されるのは、電話機のモデルが認証や暗号化に対応している場合だけです。</p>

フィールド	説明
[ビデオ コールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントにだけ適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信した場合、そのコールはオーディオコールとしての接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。オンの場合、ビデオ コールとして接続できないコールは、コール制御に送られて再ルーティングされる前に、即座にオーディオ コールとして再試行されます。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合、ビデオとして接続できないビデオ コールをオーディオ コールとして接続する試行は行われません。そのコールはコール制御に送られ、コール制御によって自動代替ルーティング (AAR) やルート/ハントリストを介してルーティングされます。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))]	<p>コール単位でコール表示制限を設定する場合に、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は内線コールについて受信するすべての表示制限を無視します。</p>
[CTI からのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>CTI 制御可能なすべてのデバイスに対して、CTI からの制御を許可するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスは、[CTI 制御可能デバイス タイプ (CTI Controllable Device Type)] と [デバイス プロトコル (Device Protocol)] に基づいて、有効または無効にできます。</p> <p>(注) WiFi モードで動作している Android、iPhone、iPad などの Cisco デュアルモード デバイス (Jabber) は、CTI を介してモニターされ、制御されません。ただし、GSM モードで動作しているデバイスはモニターまたは制御できません。</p>

フィールド	説明
[ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)]	<p>このチェックボックスは、すべての電話機に対してデフォルトでオンにされていて、電話機が現在ハント リスト (グループ) にログインしていることを示します。電話機をハント リストに追加したら、管理者はこのチェックボックスをオン (またはオフ) にすることによって、ユーザをログインまたはログアウトさせることができます。</p> <p>ユーザーは電話のソフトキーを使用して、電話をハント リストにログインまたはログアウトします。</p>
[リモートデバイス (Remote Device)]	<p>SCCP を介したリモート サイトへの接続で遅延時間が発生する場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は電話デバイスの登録時にバッファを割り当て、SCCP メッセージを電話機にバンドルします。</p> <p>この機能はリソースを消費するため、SCCP を実行している電話機で、シグナルの遅延が発生している場合にのみ、このチェックボックスをオンにしてください。ほとんどのユーザにこのオプションは必要ありません。</p>

フィールド	説明
[保護されたデバイス (Protected Device)]	<p>電話機を保護されたデバイスとして指定するには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>「」この場合、電話機が2秒間トーンを再生してユーザにコールが暗号化されていることを通知します。また、発信側と着信側の両方の電話機が保護されたデバイスとして設定されます。このトーンは、コールが応答されたとき、発信側と着信側の両者に対して再生されます。このトーンは、発側と着側の両方の電話が「保護され」ていて、なおかつ暗号化メディア上でコールが行われたときでなければ再生されません。</p> <p>ヒント セキュアトーン機能および設定要件の詳細な説明については、『<i>Cisco Unity Connection System Administration Guide</i>』を参照してください。</p>
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>このデバイスをホットラインデバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。ホットラインデバイスは他のホットラインデバイスにのみ接続できます。これは PLAR の拡張機能です。PLAR では、電話がオフフックになった場合に自動的に1つの電話番号にダイヤルするよう電話を設定します。ホットラインによって、PLAR を使用するデバイスに追加の制限を適用できます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービスソフトキーを含まないソフトキーテンプレートを作成し、それをホットラインデバイスに適用する必要があります。</p>
[番号表示トランスフォーメーション (Number Presentation Transformation)]	
[この電話からのコールの発信者 ID (Caller ID For Calls From This Phone)]	

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーション CSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、コーディング検索スペース (CSS) を選択します。CSS には、この電話機がコールを発信するときに発信側番号に適用される、発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれます。</p> <p>この電話機がコールを開始すると、Unified Communications Manager は、一致する発呼側トランスフォーメーションパターンに設定された数字変換を使用して、発信者番号を変換します。この設定により、Unified Communications Manager がコールをルーティングする前に、発信者番号を変換できます。たとえば、トランスフォーメーションパターンで電話機の内線番号を E.164 に変更できます。これは一般に、ユーザが数字ではなく、URI を使用してダイヤルする場合に設定されます。Unified Communications Manager では、ユーザが数字を使用してダイヤルする場合、さまざまなパターンの発呼側トランスフォーメーションが可能です。この設定では、ユーザが URI を使用する場合でも同じようなトランスフォーメーションが提供されます。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーション CSS を使用 (この電話からのコールの発信者 ID) (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS (Caller ID For Calls From This Phone))]	<p>この電話機から開始されたコールの発信者番号のトランスフォーメーションを行うために、この電話機が属しているデバイスプールで設定された発呼側トランスフォーメーション CSS を使用する場合には、このチェックボックスを選択します。デバイスプールでは、[電話機の設定 (Phone Settings)]にある発呼側トランスフォーメーション CSS を使用して、この電話から開始されたコールの発信者番号が変換されます。</p> <p>このチェックボックスをオフのままにしておくと、この設定ウィンドウに表示されている発呼側トランスフォーメーション CSS が適用されます。</p>
リモート番号のトランスフォーメーション	

フィールド	説明
[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この電話機に着信したコールのリモート発信者番号に適用する、発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれているコーリングサーチスペース (CSS) を、ドロップダウンリストボックスから選択します。</p> <p>Unified Communications Manager は、発信者番号をこのデバイスに表示する前に、一致する発呼側トランスフォーメーションパターンに設定された数字変換を使用して、リモート発信者番号を変換します。</p> <p>たとえば、トランスフォーメーションパターンで E.164 形式のリモート番号をローカライズされたバージョンに変更できます。</p> <p>この設定を使用すると、この電話機から開始されたダイレクトコールのリモート接続番号が変換されます。この設定を使用すると、コールの方向に関係なく、この機能を呼び出した後に、リモート接続番号を変換することもできます。リモート接続番号のトランスフォーメーションは、サービスパラメータ [リモート番号にトランスフォーメーションを適用 (Apply Transformations on Remote Number)] (Cisco Call Manager サービスの [詳細 (Advanced)] セクションにあります) を使用して制御されます。詳細は、このパラメータの説明を参照してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用 (デバイスモビリティ関連情報) (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS (Device Mobility Related Information))]	<p>リモート発信者番号とリモート接続先番号を変換するために、この電話機が属しているデバイスプールで設定された発呼側トランスフォーメーションCSSを適用する場合には、このチェックボックスを選択します。デバイスプールでは、[デバイスモビリティ関連情報 (Device Mobility Related Information)] セクションにある発呼側トランスフォーメーションCSSを使用して、リモート発信者番号とリモート接続先番号が変換されます。</p> <p>このチェックボックスをオフのままにしておくと、リモート番号の変換のために、この設定ウィンドウに表示されている発呼側トランスフォーメーションCSSの設定が適用されません。</p>

フィールド	説明
	[関連付けられたモビリティ ID (Associated Mobility Identity)]: これらのモビリティ フィールドは、Nokia S60 デバイスおよび Cisco Unified Mobile Communicator フォンでのみ使用可能です。[新しいモバイル ID の追加 (Add New Mobile Identity)] リンクをクリックすると、[モバイル ID の設定 (Mobile Identity Configuration)] ページが表示されます。
名前	モバイル ID を識別する名前を入力します。
宛先番号 (Destination Number)	その ID の電話番号を入力します。市外局番、および外部回線を使用するために必要な追加番号を含めます。フィールドの最大長は 24 文字で、個々の文字には 0 から 9、*、および # を使用できます。発信者 ID にはスマートフォンの接続先を設定することを推奨します。 接続先番号をルーティングするために必要なトランスレーションパターンまたはルートパターンを追加します。
[呼び出し開始タイマー (Answer Too Soon Timer)]	携帯電話が応答できるようになるまでに経過する最小時間を、ミリ秒単位で入力します。 範囲: 0 ~ 10,000 ミリ秒 デフォルト: 1,500 ミリ秒
[呼び出し終了タイマー (Answer too late timer)]	携帯電話が応答しなければならない時まで経過する最大時間を、ミリ秒単位で入力します。 範囲: 10,000 ~ 300,000 ミリ秒 デフォルト: 19,000 ミリ秒
[呼び出し前の遅延タイマー (Delay before ringing timer)]	卓上電話からコールが転送されてから携帯電話を呼び出すまでの経過時間を入力します。 範囲: 0 ~ 30,000 ミリ秒 デフォルト: 4,000 ミリ秒
[時刻アクセス (Time of Day Access)]	ドロップダウンリストボックスから、この接続先に関連付ける時刻アクセスを選択します。

フィールド	説明
タイムゾーン	ドロップダウンリストボックスから、このリモート接続先に使用するタイムゾーンを選択します。 (注) このリモート接続先に使用するタイムゾーンは、時刻アクセス機能がこの接続先へのコールを許可またはブロックするために使用されます。
[携帯電話 (Mobile Phone)]	デスクの電話機で応答したコールを、リモート接続先としての携帯電話に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 (注) Cisco Unified Mobility でこのリモート接続先を操作する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。
[Cisco Unified Mobility を有効にする (Enable Cisco Unified Mobility)]	着信コールでデスクフォンとリモート接続先を同時に呼び出せるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[関連付けられたリモート接続先 (Associated Remote Destinations)] : [新しいリモート接続先の追加 (Add a New Remote Destination)] リンクをクリックすると、[リモート接続先の設定 (Remote Destination Configuration)] ページが表示されます。	
名前	リモート接続先を識別する名前を入力します。
宛先番号 (Destination Number)	その接続先の電話番号を入力します。市外局番、および外線の取得に必要な追加番号を含めてください。フィールドの最大長は24文字です。値には、0～9の数字、*、および#を入力できます。リモート接続先の発信者IDを設定することを推奨します。 接続先番号をルーティングするために必要なトランスレーションパターンまたはルートパターンを追加します。
[呼び出し開始タイマー (Answer Too Soon Timer)]	携帯電話が応答できるようになるまでに経過する最小時間を、ミリ秒単位で入力します。 範囲 : 0 ~ 10,000 ミリ秒 デフォルト : 1,500 ミリ秒

フィールド	説明
[呼び出し終了タイマー (Answer too late timer)]	携帯電話が応答しなければならない時まで経過する最大時間を、ミリ秒単位で入力します。 範囲：10,000 ～ 300,000 ミリ秒 デフォルト：19,000 ミリ秒
[呼び出し前の遅延タイマー (Delay before ringing timer)]	卓上電話からコールが転送されてから携帯電話を呼び出すまでの経過時間を入力します。 範囲：0 ～ 30,000 ミリ秒 デフォルト：4,000 ミリ秒
[時刻アクセス (Time of Day Access)]	ドロップダウンリストボックスから、このリモート接続先に関連付ける時刻アクセスを選択します。
タイムゾーン	ドロップダウンリストボックスから、このリモート接続先に使用するタイムゾーンを選択します。 (注) このリモート接続先に使用するタイムゾーンは、時刻アクセス機能がこのリモート接続先へのコールを許可またはブロックするために使用されます。
[携帯電話 (Mobile Phone)]	デスクの電話機で応答したコールを、リモート接続先としての携帯電話に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 (注) Cisco Unified Mobility でこのリモート接続先を操作する場合は、このチェックボックスをオンにする必要があります。
[Cisco Unified Mobility を有効にする (Enable Cisco Unified Mobility)]	着信コールでデスクフォンとリモート接続先を同時に呼び出せるようにする場合は、このチェックボックスをオンにします。
[プロトコル固有の情報 (Protocol Specific Information)]	

フィールド	説明
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、シグナルパケットキャプチャに設定するモードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)]: モードを指定しない場合は、[なし (None)]を選択します。 • [リアルタイムモード (Real-Time Mode)]: リアルタイムシグナルパケットキャプチャには、このモードを使用します。 • [バッチ処理モード (Batch Processing Mode)]: バッチ処理シグナルパケットキャプチャモードには、このモードを使用します。
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	<p>パケットキャプチャ時間 (分数) を入力します。入力できる最大の時間は 300 分です。デフォルトの時間は、60 分です。</p>
[BLF プレゼンス グループ (BLF Presence Group)]	<p>BLFプレゼンス機能と併用すると、SIPまたはSCCPを実行している電話機は、プレゼンスエンティティ (たとえば、電話機にBLF短縮ダイヤルボタンとして設定されている電話番号) に関するステータスをリクエストするので、ウォッチャとして機能します。</p> <p>プレゼンスエンティティのステータスを電話が受信できるようにするには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスの閲覧が許可されているBLFプレゼンスグループを選択します。この項目は、[BLFプレゼンスグループの設定 (BLF Presence Group Configuration)]ウィンドウで指定されます。</p>

フィールド	説明
[SIPダイヤルルール (SIP Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイヤル ルールを選択します。SIP ダイヤルルールは、SIP を実行している Cisco IP フォン 7940、7975 のローカルダイヤルプランを提供するため、ユーザは、コールが処理される前にキーを押したり、タイマーを待機したりする必要はありません。</p> <p>SIP を実行している IP フォンにダイヤルルールを適用しない場合は、[SIP ダイヤル ルール (SIP Dial Rules)] フィールドを [<なし (None) >] に設定したままにします。これは、コールが処理される前に、ユーザがダイヤルソフトキーを使用するか、タイマーが切れるまで待つ必要があることを意味します。</p>
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>SCCP または SIP を実行している電話機について、そのデバイスに適用するセキュリティプロファイルを選択します。</p> <p>すべての電話機に、セキュリティプロファイルを適用する必要があります。電話機でセキュリティがサポートされていない場合は、非セキュアプロファイルを選択してください。</p>
[MTP優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>メディアターミネーションポイントが SIP のコールに必要な場合は、ドロップダウンリストから使用するコーデックを選択します。</p>
[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストから、再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>リファラーの再ルーティングコーリングサーチスペースを使用して、参照先へのルートが検索されます。再ルーティングコーリングサーチスペースが原因で参照が失敗すると、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」メッセージによって要求を拒否します。</p> <p>リダイレクト (3xx) プリミティブおよび転送機能も再ルーティングコーリングサーチスペースを使用して、リダイレクト先または転送先を検索します。</p>

フィールド	説明
[アウトオブダイアログREFERコーリングサーチスペース (Out-of-Dialog Refer Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、適切なアウトオブダイアログREFERコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>Unified Communications Manager は、アウトオブダイアログ (OOD) REFER 認証コーリングサーチスペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログREFER を認証します。管理者は、参照元の OOD CSS を設定することでアウトオブダイアログREFER の使用を制限できます。Refer Primitive は OOD Refer 要求を「403 Forbidden」メッセージで拒否します。</p>
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space)]	<p>プレゼンス機能で使用される SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、電話機から発信されたサブスクリプション要求を Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。ドロップダウンリストボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p>
[SIPプロファイル (SIP Profile)]	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたは作成済みの特定のプロファイルを選択します。SIP プロファイルは、電話機の特定の SIP 情報 (デフォルトのテレフォニーイベントペイロードタイプ、登録タイマーおよびキープアライブタイマー、メディアポート、絞り、および動的DNSサーバアドレスなど) を提供します。</p>
[ダイジェストユーザ (Digest User)]	<p>ダイジェスト認証 (SIPセキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択するユーザのダイジェストクレデンシャルが [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで設定されていることを確認してください。</p> <p>電話の設定を保存して電話機をリセットすると、ここで選択するユーザのダイジェストクレデンシャルが電話の設定ファイルに追加されます。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>

フィールド	説明
[メディアターミネーションポイントが必要 (Media Termination Point Required)]	<p>このフィールドでは、H.323がサポートしない機能（保留や転送など）を実装するために、メディアターミネーションポイントを使用するかどうかを指示します。</p> <p>MTP を使用して機能を実装する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]チェックボックスをオンにします。MTP を使用して機能を実装しない場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)]チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323クライアントとH.245の機能セットをサポートしないH.323デバイスの場合、または単一のソースから、メディアストリーミングを終了させる場合にのみ使用します。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP と SCCP を実行している電話で DTMF 受信が必要な場合には、このチェックボックスをオンにします。
[RFC2833 が無効 (RFC2833 Disabled)]	SCCP を実行している電話で RFC2833 サポートを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
認証局プロキシ機能 (CAPF) 情報 (これらのパラメータは、認証または暗号化をサポートする機能のあるデバイスでのみ表示されます。)	

フィールド	説明
[証明書 の 操作 (Certificate Operation)]	<p data-bbox="943 300 1481 405">ドロップダウンリストボックスのオプションから、実行する [証明書 の 操作 (Certificate Operation)] を選択します。</p> <ul data-bbox="976 426 1481 909" style="list-style-type: none"><li data-bbox="976 426 1481 594">• [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : このデバイスに関して保留中の証明書の操作リストはありません。このオプションを選択すると、残りのCAPF フィールドが無効になります。<li data-bbox="976 625 1481 730">• [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : 証明書操作をインストールまたはアップグレードします。<li data-bbox="976 751 1481 814">• [削除 (Delete)] : 証明書操作を削除します。<li data-bbox="976 846 1481 909">• [トラブルシュート (Troubleshoot)] : 証明書操作をトラブルシュートします。

フィールド	説明
[認証モード (Authentication Mode)]	

フィールド	説明
	<p>ドロップダウンリストボックスで、次のオプションの中から、証明書操作の実行時にCAPFを使用して認証する電話機の認証モードを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [ヌルストリング (By Null String)] : ユーザ操作なしで、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。 • <[なし (None)]> <p>(注) このオプションでは、認証モードの値の指定を要求されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [認証文字列 (By Authentication String)] : ユーザが電話機に CAPF 認証文字列を入力した場合にのみ、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。 • [既存の証明書 (LSCが優先) (By Existing Certificate (Precedence to LSC))] : 電話機に製造元でインストールされる証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) が存在する場合に、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。 <p>(注) このオプションを選択する前に、電話機に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択して、電話機に証明書が存在しない場合、操作は失敗します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [既存の証明書 (MIC が優先) (By Existing Certificate (Precedence to MIC))] : 電話機に LSC または MIC が存在する場合に、ローカルで有効な証明書をインストール/アップグレード、削除、またはトラブルシューティングします。

フィールド	説明
	<p>(注) このオプションを選択する前に、電話機に証明書が存在することを確認してください。このオプションを選択して、電話機に証明書が存在しない場合、操作は失敗します。</p>
[認証文字列 (Authentication String)]	<p>セキュリティプロファイルの [認証モード (Authentication Mode)] ドロップダウン リストボックスから [認証文字列 (By Authentication String)] オプションを選択した場合、この設定が適用されます。4桁から10桁の数字を手動で入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、トラブルシューティングするには、電話機ユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>
[キーの順序 (Key Order)]	<p>このフィールドは、CAPFのキーの順序を指定します。ドロップダウンリストから、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [RSAのみ (RSA Only)] • [ECのみ (EC Only)] • [EC優先、RSAバックアップ (EC Preferred, RSA Backup)] <p>(注) [キーの順序 (Key Order)]、[RSAキーサイズ (RSA Key Size)]、および [ECキーサイズ (EC Key Size)]のフィールドの値に基づいて電話を追加すると、デバイスセキュリティプロファイルはその電話に関連付けられます。値 [ECのみ (EC Only)]と [ECキーサイズ (EC Key Size)]で256ビットの値を選択した場合、デバイスセキュリティプロファイルには [EC-256]の値が追加されます。</p>

フィールド	説明
[RSAキーサイズ (ビット) (RSA Key Size (Bits))]	<p>ドロップダウンリストから、512、1024、2048、3072、または4096のいずれかの値を選択します。</p> <p>(注) 一部の電話機モデルでは、CallManager の [証明書の目的 (Certificate Purpose)] に対して選択された RSA の [キーの長さ (key length)] が 2048 を超える場合、登録に失敗します。Cisco Unified Reporting Tool (CURT) の [Unified CM 電話機能リスト レポート (Unified CM Phone Feature List Report)] にあるサポート対象の電話機モデルの一覧で、3072/4096 RSA キーサイズのサポート機能を確認できます。</p>
[ECキーサイズ (ビット) (EC Key Size (Bits))]	ドロップダウンリストから、 256 、 384 、または 521 のいずれかの値を選択します。
[操作の完了期限 (Operation Completes By)]	このフィールドは、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、[証明書操作のトラブルシューティング (Troubleshoot Certificate Operation)] オプションをサポートし、操作を完了する必要がある日時を指定します。
[証明書の操作ステータス (Certificate Operation Status)]	このフィールドは証明書の操作の進捗状況、たとえば、<操作の種類> が保留中であるか、失敗したか、成功したかを示します。このとき、操作の種類は、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、または [証明書操作のトラブルシューティング (Troubleshoot Certificate Operation)] オプションのいずれかに等しくなります。このフィールドに表示される情報は変更できません。
拡張モジュール情報	
[モジュール 1 (Module 1)]	電話機に拡張モジュールがインストールされている場合、その拡張モジュールを選択します。

フィールド	説明
[モジュール 1 ロード名 (Module 1 Load Name)]	最初の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルトのロードを使用するには、このフィールドを空白にします。
[モジュール 2 (Module 2)]	電話機に拡張モジュールがインストールされている場合、その拡張モジュールを選択します。
[モジュール 2 ロード名 (Module 2 Load Name)]	2 番目の Cisco Unified IP Phone Expansion Module のファームウェア ロードを入力します (該当する場合)。デフォルトのロードを使用するには、このフィールドを空白にします。
Cisco Unified IP Phone - 外部データのロケーション	
情報	Cisco Unified IP Phone の情報ボタンに対応するヘルプテキスト URL を入力します。
ディレクトリ (Directory)	Cisco Unified IP Phone のディレクトリサーバーの URL を入力します。
メッセージ	Cisco Unified IP Phone のボイス メッセージング アクセス パイロット番号を入力します。
[サービス (Services)]	Cisco Unified IP Phone のサービスメニューに対応する URL を入力します。
認証サーバ	電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用する URL を入力します。認証 URL を指定しない場合、認証を必要とする Cisco Unified IP Phone モデルでの拡張機能が機能しません。デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。 この URL はデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified Communications の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。

フィールド	説明
[プロキシサーバ (Proxy Server)]	<p>電話機の HTTP クライアントからローカル ホスト アドレス以外に対するプロキシ HTTP のアクセス要求に使用するホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。</p> <p>電話機がサービスで URL (www.cisco.com など) を受信した場合、その電話機が cisco.com ドメインに設定されていない場合は、電話機はプロキシサーバを使用して URL にアクセスします。電話機が cisco.com ドメインに設定されている場合は、その電話機は URL と同じドメイン内にあるため、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p>
アイドル (Idle)	<p>[アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールドで指定した時間の間、電話が使用されなかった場合に、Cisco Unified IP Phone の LCD 画面にアイドル表示として表示される XML サービスの URL を入力します。たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合に、LCD 画面にロゴを表示できます。デフォルト値を使用するには、このフィールドを空白にします。</p>
[アイドルタイマー (Idle Timer)]	<p>[アイドル (Idle)] フィールドで指定されている URL を電話で表示するまでの経過時間 (秒数) を入力します。デフォルト値を使用するには、このフィールドを空白にします。</p>

フィールド	説明
[セキュア認証URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) セキュア認証 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルトで、この URL はインストール時に設定された [Cisco Unified CM ユーザ オプション (Cisco Unified CM User Options)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元サーバのセキュア URL を入力します。このパラメータには、ユーザが [電話帳 (Directory)] ボタンを押したときに Cisco Unified IP Phone が使用するセキュア URL を指定します。</p> <p>(注) セキュア ディレクトリ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>最大長 : 255</p>

フィールド	説明
[セキュアアイドルURL (Secure Idle URL)]	<p>電話機が使用されていない時間が[アイドルタイマー (Idle Timer)]フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合、LCD にロゴを表示できます。</p> <p>(注) セキュア アイドル URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュア情報URL (Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプのテキスト情報を検索できるサーバロケーションのセキュアな URL を入力します。この情報は、ユーザが電話機の情報 (i) ボタンまたは疑問符 (?) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) セキュア情報 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>

フィールド	説明
[セキュアメッセージURL (Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュア メッセージ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアサービスURL (Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。ユーザが [サービス (Services)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこのセキュア URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュア サービス URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
エクステンション モビリティ (デバイス プロファイル) 情報	
エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)	<p>エクステンション モビリティ機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。エクステンション モビリティでは、ユーザによる Cisco IP Phone へのログインおよびログアウトが可能です。</p>

フィールド	説明
[ログアウト プロファイル (Log Out Profile)]	<p>エクステンション モビリティのユーザがログアウトしたときに電話機がロードするプロファイルを選択します。ログアウト プロファイルが Unified Communications Manager Administration で設定されている必要があります。</p> <p>[現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Setting)]: この選択肢は、デフォルトのプロファイルとして、自動生成されるデバイス プロファイルを作成します。</p> <p>[ユーザ デバイス プロファイルを選択 (Select a User Device Profile)]: この選択肢は、既に定義されている、このデバイスのデフォルト デバイス プロファイルとなるユーザ デバイス プロファイルを割り当てます。</p> <p>どのユーザもログインしていない場合は、この選択されたユーザ デバイス プロファイルがデバイスにロードされます。</p>
マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報	

フィールド	説明
[MLPP通知 (MLPP Indication)]	<p>利用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none">• [デフォルト (Default)]: このデバイスは MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。• [オフ (Off)]: このデバイスは MLPP 優先コールの表示を送信しません。• [オン (On)]: このデバイスは MLPP 優先コールの表示を送信します。 <p>(注) デバイスの [MLPP通知 (MLPP Indication)] 設定が [オフ (Off)]、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が [強制 (Forceful)] という設定値の組み合わせは使用しないでください。</p>

フィールド	説明
[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウン リストから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスは MLPP プリエンプション設定をデバイスプールから継承します。 • [オフ (Off)]: このデバイスは MLPP 優先コールを行ったときに、進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [強制 (Forceful)]: このデバイスは MLPP 優先コールを行ったときに、進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p>(注) [MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]が[強制 (Forceful)]に設定されているときに、[MLPP 通知 (MLPP Indication)]を[オフ (Off)]に設定するという組み合わせでデバイスを設定しないでください。</p>
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] (「0000FF」 など)	このデバイスに関連付けられた MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。このフィールドは空白か、または、0 - FFFFFFF の値である必要があります。
[H.323 デバイス情報 (H.323 Device Information)]	
[シグナリング ポート (Signaling Port)]	<p>この値は、このデバイスが使用する H.225 シグナリング ポートを指定します。</p> <p>デフォルト値は 1720 です。有効な値は 1 ~ 65535 です。</p>

フィールド	説明
[ビデオ コールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio)]	<p>このチェックボックスは、コールを受信するビデオ エンドポイントにだけ適用されます。この電話機が、ビデオとして接続しないコールを受信した場合、そのコールはオーディオコールとしての接続を試みます。</p> <p>デフォルトでは、このチェックボックスはオンです。オンの場合、ビデオ コールとして接続できないコールは、コール制御に送られて再ルーティングされる前に、送信側デバイスにより即座にオーディオコールとして再試行されます。</p> <p>このチェックボックスをオフにした場合は、ビデオとして接続できないビデオコールはコール制御に失敗します。この時点で、コール制御はそのコールをルートリスト内で再ルーティングします。自動代替ルーティング (AAR) が設定されており、有効になっている場合も、コール制御はルートリスト間でコールを再ルーティングします。</p>
[遠端 H.245 端末の機能セットを待機 (Wait for Far End H.245 Terminal Capability Set)]	<p>このチェックボックスはデフォルトでオンになっており、Cisco Unified Communications Manager が機能の交換を開始することを指定しています。このチェックボックスは、Cisco Unified Communications Manager が、自身の H.245 端末機能セットを送信する前に、遠端の H.245 端末機能セットを受信する必要があることを指定します。</p>
[H.323 プロトコル固有情報 (H.323 Protocol Specific Information)]	
[SRTP 許可 (SRTP Allowed)]	<p>このチェックボックスをオンにした場合は、エンドツーエンドセキュリティを提供するために IPsec がネットワークで設定されていることを確認してください。設定されていないと、キーや他の情報が流出します。</p>
[MTP優先発信コーデック (MTP Preferred Originating Codec)]	<p>メディア ターミネーション ポイントが SIP のコールに必要な場合は、ドロップダウン リストから使用するコーデックを選択します。</p>

フィールド	説明
[メディア ターミネーション ポイントが必須 (Media Termination Point Required)]	<p>このフィールドを使用して、H.323がサポートしない機能（保留や転送など）を実装するために、メディア ターミネーション ポイント (MTP) を使用するかどうかを指示します。</p> <p>機能を実装するためにメディアターミネーションポイントを使用する場合は、[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオンにします。メディア ターミネーション ポイントを使用して機能を実装しない場合は[メディアターミネーションポイントが必須 (Media Termination Point Required)] チェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、H.323クライアントとH.245の機能セットをサポートしないH.323デバイスの場合、または単一のソースから、メディア ストリーミングを終了させる場合にのみ使用します。</p> <p>このチェックボックスをオンにして、MTPを必要とし、このデバイスがビデオ コールのエンドポイントになる場合、コールはオーディオとしてのみ機能します。</p>
H.323 情報	
[発信者 ID パターン (Outgoing Caller ID Pattern)]	電話機への着信コールについて、発信者IDに使用するパターンを0～24桁の数字列で入力します。

フィールド	説明
[発呼者の選択 (Calling Party Selection)]	<p>どの電話番号が送信されるのかを指定するオプションを、次の中から選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : リダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールをリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外線) (First Redirect Number(external))] : リダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外線) (Last Redirect Number(external))] : 最後にコールをリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。
[発呼側の表示 (Calling Party Presentation)]	<p>セントラル オフィスで発信者 ID を送信するか、またはブロックするかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • セントラル オフィスで発信者 ID を送信する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。 • セントラル オフィスで発信者 ID を送信しない場合は、[規制 (Restricted)] を選択します。 • [デフォルト (Default)] の場合は、コール ストリームの前のレベルで発信者 ID が規制されていない限り、発信者 ID が表示されます。
[表示 IE の配信 (Display IE Delivery)]	<p>発信側および着信側のネームデリバリ サービスにおいて、SETUP および CONNECT メッセージでの表示情報要素 (IE) を配信するには、このチェックボックスをオンにします。</p>

フィールド	説明
[番号 IE 配信のリダイレクト-アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>コール転送時に、Cisco Unified Communications Manager からの発信 SETUP メッセージに、コールの最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由を示すリダイレクト番号 IE を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>発信 SETUP メッセージから最初のリダイレクト番号とリダイレクト理由を除外する場合は、チェック ボックスをオフにします。</p> <p>番号 IE のリダイレクトは、音声メッセージング統合にのみ使用します。ボイスメッセージング システムが番号 IE のリダイレクトをサポートするように設定した場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE delivery - Inbound)]	<p>番号 IE のリダイレクトをサポートしているボイスメッセージング システムの統合を行う場合は、リダイレクト番号 IE を使用します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager への着信 SETUP メッセージに含まれるリダイレクト番号 IE を受け入れる場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager への着信 SETUP メッセージでリダイレクト番号 IE を除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p>
[ゲートキーパー情報 (Gatekeeper Information)]	

フィールド	説明
[ゲートキーパー名 (Gatekeeper Name)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、ゲートキーパー制御 H.323 デバイスのゲートキーパーを選択します。</p> <p>(注) リリース 15 以降、H.323 ゲートキーパー制御オプションはサポートされなくなりました。したがって、Location Bandwidth Manager (LBM) で SIP トランクを使用することをお勧めします。</p> <p>(注) デバイスを選択しない場合、システムにより [E.164]、[Technology Prefix]、および [ゾーン (Zone)] フィールドが無効になります。</p> <p>(注) デバイ스에複数の電話番号が設定されている場合、デバイスをゲートキーパー制御電話に変更することはできません。</p>
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御デバイスとして設定されていることを確認してください。</p> <p>(注) ゲートキーパー制御 H.323 クライアントの場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>

フィールド	説明
[Technology Prefix]	<p>Gw-type-prefix コマンドを設定するときに、各 Cisco Unified Communications Manager システムで IP アドレスを入力する必要がないように、この Technology Prefix を入力します。たとえば、ゲートキーパーで次の gw-type-prefix コマンドを使用できる場合は、このフィールドに 1#* と入力できます。</p> <p>gw-type-prefix 1#* default-technology</p> <p>(注) ゲートキーパー制御 H.323 クライアントの場合、このフィールドに値を入力することは必須です。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
[(Zone)]	<p>ゲートキーパー上で、Cisco Unified Communications Manager が登録する特定のゾーンを入力します。このゾーンは、このゾーンと別のゾーンの間のコールで使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>(注) ゲートキーパー制御電話の場合、このフィールドに値を入力することは必須です。このフィールドに入力できるのは、文字、数字、スペース、ダッシュ、ピリオド、およびアンダースコアだけです。</p>
[ゲートキーパー制御 H.323 クライアント (Gatekeeper Controlled H.323 Client)]	<p>制御ゲートキーパーとして H.323 クライアントゲートキーパーを設定するには、このチェックボックスをオンにします。</p>
サイレント (DND)	
サイレント (Do Not Disturb)	<p>DND を有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>
[DND オプション (DND Option)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、DND のオプションとして次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • [呼出音オフ (Ringer Off)]

フィールド	説明
[DND着信コール警告 (DND Incoming Call Alert)]	<p>ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • Disable • [点滅アラートのみ (Flash Only)] • [ビープ音のみ (Beep Only)]
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザー (Secure Shell User)]	<p>セキュア シェル ユーザーのユーザー ID を入力します。設定中の電話機がセキュア シェル アクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングにセキュアシェルを使用します。TAC にお問い合わせください。</p>
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	<p>セキュア シェル ユーザーのパスワードを入力します。設定している電話機がセキュア シェル アクセスをサポートしていない場合は、このフィールドは表示されません。TAC にお問い合わせください。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
デバイス メーカーにより定義されている、モデル固有の設定フィールド	<p>プロダクト固有の設定には、デバイスの製造元によってモデル固有のフィールドが指定されています。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「[?]」情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のデバイスのドキュメントを参照するか、製造元にお問い合わせください。</p>

BAT テンプレートの電話回線フィールドの説明

次の表では、BATテンプレートで回線を追加または更新したときに表示される可能性のある、すべてのフィールドについて説明しています。

- BAT 電話機テンプレート
- ゲートウェイ テンプレート
- UDP テンプレート
- リモート接続先テンプレート

一部のデバイスタイプでは、すべての電話設定を行う必要はありません。一部のフィールドにのみ、Unified Communications Manager 管理ページで設定された値が表示されます。BAT ユーザーインターフェイスでアスタリスクが付いたフィールド名には入力が必要です。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

表 3: BATテンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
ディレクトリ番号に関する情報	
[回線テンプレート名 (Line Template Name)]	回線テンプレートの一意の名前を入力します。 このフィールドは回線を追加する場合にのみ入力可能で、既存の回線を更新する際には入力できません。
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属しているルートパーティションを選択します。 (注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
説明	回線テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、山カッコ (<>) は使用できません。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	この名前は、共有電話番号への呼び出し中に表示される名前を表します。共有されていない電話番号の場合、呼び出し中は[表示 (Display)]フィールドに入力されている名前が表示されます。
ASCII呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)	このフィールドは[呼び出し表示 (Alerting Name)]フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのは ASCII 文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)]フィールドの内容が表示されます。

フィールド	説明
アクティブ (Active)	このチェックボックスをオンにすると、この DN へのコールを転送できます (転送が設定されている場合)。このチェックボックスがオフの場合、Cisco Unified Communications Manager は DN を無視します。
[ディレクトリ番号の設定 (Directory Number Settings)]	
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号を、この回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。このアクションは、この電話に設定されたボイス メッセージング サーバがない場合に便利です。
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	この電話番号からコールする番号の検索対象であるパーティションを選択します。 (注) 変更すると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされるピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンス グループ (Presence Group)]	プレゼンス機能と併用すると、電話番号はプレゼンス エンティティとして機能します。つまり、ウォッチャが電話番号のステータスをリクエストすると、その電話番号のリアルタイム ステータスがデバイスに表示されます。 プレゼンス エンティティのステータスを電話が受信できるようにするには、ウォッチャのプレゼンス グループに対して、電話番号に適用されるプレゼンス グループのステータスの閲覧が許可されていることを確認します。この項目は、[プレゼンスグループの設定 (Presence Group Configuration)] ウィンドウで指定されます。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	ユーザが HOLD を押してコールを保留にしたときに流れる保留音の音源を選択します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	ユーザがコールを転送したり、電話会議やコールパークを開始する間に、システムによりコールが保留にされるときに流れる保留音の音源を選択します。

フィールド	説明
自動応答 (Auto Answer)	<p>次のいずれかのオプションを選択して、その電話番号の自動応答機能を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [自動応答 オフ (Auto Answer Off)] (デフォルト) • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] <p>(注) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)]または[スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)]を選択するときには、ヘッドセットまたはスピーカフォンが無効になっていないことを確認してください。</p> <p>共有回線を持つデバイスに、自動応答を設定しないでください。</p>
[AAR 設定 (AAR Settings)]	<p>: このフィールド列の設定は、宛先に到達するために十分な帯域幅がないコールの処理方法を指定します。自動代替ルーティング (AAR) は、AAR宛先マスクまたはボイス メールに転送されるこうしたコールを処理します。</p>
[AAR ボイス メール (AAR Voice Mail)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>(注) このボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は [カバレッジ/接続先 (Coverage/Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。</p>
[AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask)]	<p>外線電話番号マスクの代わりにこの設定を使用すると、ダイヤル先の AAR 宛先が決まります。</p>
[AAR CSS]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。</p>

フィールド	説明
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。</p> <p>[AARグループ (AAR Group)]を [なし (None)]に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[この接続先を不在転送履歴に保持する (Retain this destination in the call forwarding history)]	<p>このチェックボックスをオンにすると、コールの AAR レックを [コール履歴 (Call History)] に表示できます。</p>
[視覚的なメッセージ受信インジケータのポリシー (Visual Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドを使用して、ハンドセットのランプ点灯ポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システム ポリシーを使用する (Use System Policy)] (電話番号はサービスパラメータ「」 [メッセージ受信点灯ポリシー (Message Waiting Lamp Policy)] の設定を参照します。) • [点灯およびプロンプト (Light and Prompt)] • [プロンプトのみ (Prompt Only)] • [ライトのみ (Light Only)] • なし (None) <p>この設定は、右側にある [共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスにのみ適用されます。(このチェックボックスは、この電話番号を他のデバイスと共有している場合のみ表示されます)。</p>

フィールド	説明
[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドは、オーディオメッセージ受信インジケータのポリシーを設定するために使用します次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフ • [オン (On)]: このオプションを選択すると、ハンドセットをオフフックにしたときに断続ダイヤルトーンが聞こえます。 • [デフォルト (Default)]: このオプションを選択すると、電話ではシステム レベルで設定されたデフォルト設定が使用されます。
[コール ピックアップ グループ オーディオアラートの設定 (電話がアイドルのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle))]	<p>このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コール ピックアップ グループ内のアイドル中の電話で短い呼び出し音が聞こえるか ([一度鳴らす (Ring Once)])、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)]: このフィールドの値は、Cisco CallManager サービス パラメータ [コールピックアップグループ警告音の設定 (電話のアイドル時) (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station)] の設定によって決定されます。 • [無効にする (Disable)]: コール ピックアップ グループのメンバーに呼出音は送信されません。 • [一度鳴らす (Ring Once)]: コール ピックアップ グループのメンバーに短い呼出音が送信されます。

フィールド	説明
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active))]	<p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内の使用中の電話でビープ音のみが聞こえるか、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager のサービスパラメータ [ビジーステーションのコールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station)] の設定により決まります。 • [無効にする (Disable)] : コールピックアップグループのメンバーにアラートは送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : コールピックアップグループのメンバーにビープ音が送信されます。

フィールド	説明
[録音オプション (Recording Option)]	<p>このフィールドではエージェントのライン アピアランスの録音オプションを決定します。デフォルトでは、録音オプションに [コール録音無効 (Call Recording Disabled)] が指定されています。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音無効 (Call Recording Disabled)] : エージェントがこのライン アピアランスで発信するコールは録音されません。 • [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : アプリケーションがコール録音を開始した場合、エージェントがこのライン アピアランスに発信したコールは録音されます。 <p>録音オプションを [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] に設定する場合、ラインアピアランスを録音プロファイルと関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効にされている場合、アプリケーションの録音要求は拒否されます。</p>
[録音プロファイル (Recording Profile)]	<p>このフィールドは、エージェントのライン アピアランスの録音プロファイルを決定します。</p>
[モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)]	<p>スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。</p> <p>スーパーバイザの回線表示ウィンドウでモニタリング用コーリングサーチスペースを設定します。ドロップダウンリストボックスから既存のコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p>
コール転送とピックアップの設定 (Call Forward and Pickup Settings)	

フィールド	説明
[ボイス メールへ転送 (Forward to Voice Mail)]	<p>ボイス メール プロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[不在転送の接続先 (Forward All Destination)] フィールドと [不在転送コーリングサーチスペース (Forward All Calling Search Space)] チェックボックスには関係ありません。</p>
[不在転送の接続先 (Forward All Destination)]	<p>すべてのコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、制限されていない限り外部の接続先を含む任意のダイヤル可能な電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送コーリングサーチスペース (Forward All Calling Search Space)]	<p>指定された接続先にコールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	<p>ドロップダウンリストボックスからセカンダリコーリングサーチスペース (CSS) を選択します。</p> <p>コール転送は回線ベースの機能のため、デバイスのコーリングサーチスペースが不明の場合、システムはコールを転送するのに回線のコーリングサーチスペースのみを使用します。回線のコーリングサーチスペースが制限されており、ルーティングできない場合は、転送を試行すると失敗します。</p> <p>[不在転送 (Call Forward All)] にセカンダリコーリングサーチスペースを追加すれば、転送が可能になります。不在転送のプライマリコーリングサーチスペースと不在転送のセカンダリコーリングサーチスペースは、不在転送が処理されるときに連結されます (プライマリ CFA CSS + セカンダリ CFA CSS)。Unified Communications Manager はこの組み合わせを使用して CFA 接続先を検証し、コールを転送します。</p>

フィールド	説明
[話中転送ボイス メール (内部) (Forward Busy Internal Voice Mail)]	<p>内線番号からボイス メールプロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Internal Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスには関係ありません。</p>
[話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Internal Destination)]	<p>回線が使用中のときに内線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能なすべての内線番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward Busy Internal Calling Search Space)]	<p>指定された接続先に内線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送ボイス メール (外部) (Forward Busy External Voice Mail)]	<p>外線番号からボイス メールプロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy External Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスには関係ありません。</p>
[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy External Destination)]	<p>回線が使用中のときに外線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、制限されていない限り外部の宛先を含む任意のダイヤル可能な外線電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送コーリングサーチスペース (外部) (Forward Busy External Calling Search Space)]	<p>指定された宛先に外線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[無応答時のボイスメール転送（内部）（Forward No Answer Internal Voice Mail）]	<p>内線番号からボイス メール プロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[無応答時転送の接続先（内部）（Forward No Answer Internal Destination）] フィールドと [コーリング サーチ スペース（Calling Search Space）] チェックボックスには関係ありません。</p>
[無応答時転送の接続先（内部）（Forward No Answer Internal Destination）]	<p>電話が無応答のときに内線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能なすべての内線番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送コーリング サーチ スペース（内部）（Forward No Answer Internal Calling Search Space）]	<p>指定された接続先に内線コールが転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送ボイス メール（外部）（Forward No Answer External Voice Mail）]	<p>ボイス メール プロファイルで選択した外線番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[無応答時転送の接続先（外部）（Forward No Answer External Destination）] フィールドと [外部コーリング サーチ スペース（External Calling Search Space）] チェックボックスには関係ありません。</p>
[無応答時転送の接続先（外部）（Forward No Answer External Destination）]	<p>電話が無応答のときに外線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、制限されていない限り外部の宛先を含む任意のダイヤル可能な外線電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送コーリング サーチ スペース（外部）（Forward No Answer External Calling Search Space）]	<p>指定された宛先に外線コールが転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。この設定値は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[無カバレッジ時転送ボイスメール (内部) (Forward No Coverage Internal Voice Mail)]	<p>内線番号からボイス メール プロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスには関係ありません。</p>
[無カバレッジ時転送の接続先 (内部) (Forward No Coverage Internal Destination)]	<p>電話のカバレッジがないときに内線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、ダイヤル可能なすべての内線番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward No Coverage Internal Calling Search Space)]	<p>指定された接続先に内線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無カバレッジ時転送ボイスメール (外部) (Forward No Coverage External Voice Mail)]	<p>外線番号からボイス メール プロファイルで選択した番号へコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにしても、[無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスには関係ありません。</p>
[無カバレッジ時転送の接続先 (外部) (Forward No Coverage External Destination)]	<p>電話のカバレッジがないときに外線コールを転送する電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定値は、制限されていない限り外部の宛先を含む任意のダイヤル可能な電話番号、およびこの電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (外部) (Forward No Coverage External Calling Search Space)]	<p>指定された宛先に外線コールが転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定値は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[CTI 障害時ボイスメール転送 (Forward on CTI Failure Voice Mail)]	<p>[CTI 障害時転送 (Forward on CTI Failure)] フィールドは、CTI ルート ポイントおよび CTI ポートにのみ適用されます。この行の設定は、CTI ルート ポイントまたは CTI ポートが失敗した場合に、この CTI ルート ポイントまたは CTI ポートへの外部コールの自動転送をどのように扱うのかを指定します。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。内線コールに対してこのチェックボックスをオンにすると、外線コールの [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスが自動的にオンになります。外線コールをボイスメッセージングシステムに転送しない場合は、外線コールに対して [ボイスメール (Voice Mail)] チェックボックスをオフにする必要があります。</p>
[CTI 障害時転送の接続先 (Forward on CTI Failure Destination)]	<p>この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールが自動転送される電話番号またはディレクトリ URI を指定します。任意のダイヤル可能な電話番号 (外部接続先を含む) を使用します。</p> <p>内線コールの接続先の値を入力すると、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドにこの値が自動的にコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに、別の値を入力する必要があります。</p>
[CTI 障害時転送のコーリングサーチスペース (Forward on CTI Failure Calling Search Space)]	<p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p> <p>内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに自動転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] で、別の設定値を選択する必要があります。</p>
[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration)]	<p>コールの呼び出し時間の秒数を入力します。この時間が過ぎるとコールが [無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)] に転送されます。</p>

フィールド	説明
[コール ピックアップグループ (Call Pickup Group)]	[ピックアップグループ名 (Pickup Group Name)] を選択して、コールピックアップグループを指定します。このグループは、該当するピックアップグループ番号にダイヤルして、この電話番号への着信コールに応答することができます。
パーク モニタリング	
[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]	パークされている側が外部の場合、パークしたユーザの [パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空欄の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]	パークされている側が内部の場合、パークしたユーザの [パークモニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] フィールドの値が空欄の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)	このパラメータは、自分がパークしたコールを取得するようユーザーに求めるまでに Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。 デフォルト : 60 秒 (注) 0以外の値を設定すると、その値によって、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が上書きされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。

フィールド	説明
[パーク モニタリング転送非取得時 ボイス メール (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロ ファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィン ドウの設定が使用されます。 (注) このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチ スペース (Calling Search Space)] の設定を無視 します。
[パーク モニタリング転送非取得時 の接続先ボイス メール (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロ ファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィン ドウの設定が使用されます。 (注) このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチ スペース (Calling Search Space)] の設定を無視 します。
パーク モニタリング転送非取得時 の外部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve External CSS)	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択しま す。
パーク モニタリング転送非取得時 の内部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal CSS)	その電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択 します。
[未登録内線の不在転送ボイスメ ール (内部) (Forward Unregistered Internal Voice Mail)]	このフィールドは、内線 DN コールにのみ適用されます。 コールは指定された宛先番号またはボイス メールに再ルー ティングされます。 未登録の内線番号からのコールをボイス メールプロファイ ルで選択した番号へ転送する場合は、このチェックボック スをオンにします。 このチェックボックスをオンにしても、[未登録内線の転送 接続先 (Forward Unregistered Internal Destination)] フィー ルドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスには関係ありません。
[未登録内線の転送接続先 (Forward Unregistered Internal Destination)]	回線が使用中のときに、未登録の内線コールの転送先とす る電話番号を入力します。 この設定は、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電 話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
[未登録内線の転送 CSS (Forward Unregistered Internal CSS)]	指定された宛先に未登録内線コールが転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[未登録外線の転送ボイス メール (Forward Unregistered External Voice Mail)]	このフィールドは、外線 DN コールにのみ適用されます。コールは、指定された宛先番号またはボイスメールに再ルーティングされます。 (注) 電話番号の [サービス パラメータ設定 (Service Parameters Configuration)] ウィンドウで、転送するコールの最大件数も指定する必要があります。
[未登録外線の転送接続先 (Forward Unregistered External Destination)]	回線が使用中のときに、外線コールの転送先とする電話番号を入力します。 この設定は、外線接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての外線電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[未登録外線の転送 CSS (Forward Unregistered External CSS)]	指定された宛先に外線コールが転送されるときに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 代替パーティ設定	
[転送先 (Target)]	この電話番号が優先コールを受信し、この番号もこのコールの転送先のいずれも優先コールに無応答の場合に、MLPP 優先コールがリダイレクトされる番号を入力します。 値には、数字およびシャープ#) とアスタリスク (*) を使用できます。
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウンリストボックスから、代替パーティのターゲット (宛先) の番号に関連付けるコーリング サーチ スペースを選択します。

フィールド	説明
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (秒) (MLPP No Answer Ring Duration (Seconds))]	<p>秒数 (4 秒から 30 秒) を入力します。この時間を過ぎてもこの電話番号およびそのコール転送先が優先コールに無応答の場合、MLPP 優先コールはこの電話番号の代替パーティにリダイレクトされます。</p> <p>Unified Communications Manager の [優先代替パーティ タイムアウト (Precedence Alternate Party Timeout)] エンタープライズパラメータの設定値を使用するには、この設定を空白のままにします。</p>
[この電話の回線設定 (Line Settings for This Phone)]	
[表示 (内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID))]	<p>このフィールドは、ラインアピランスに電話番号を表示させない場合にだけ使用します。回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。</p> <p>入力例としては、複数の電話番号を扱う秘書やアシスタントにとって複数の電話番号を識別できるような、上司の名前や部門名、その他適当な情報などがあります。</p>
[ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))]	<p>このフィールドは [表示 (内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID))] フィールドと同じ情報を提供しますが、入力は ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))] フィールドの内容が表示されます。</p> <p>この設定は、右側の [共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスにしか適用されません。(右側のチェックボックスは、この電話番号を他のデバイスと共有している場合のみ表示されます)。</p>
[回線テキスト レベル (Line Text Label)]	<p>回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。</p> <p>(注) デフォルトでは英語が指定されています。</p>
[外部電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールが発信されたときに、発信者 ID 情報として送信する電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 24 個の番号と文字「X」「」を入力できます。X は電話番号を表し、パターンの末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク 972813XXXX を指定すると、内線 1234 からの外部コールには、発信者 ID の番号として 9728131234 が表示されます。</p>

フィールド	説明
[視覚的なメッセージ受信インジケータのポリシー (Visual Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドを使用して、ハンドセットのランプ点灯ポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システム ポリシーを使用する (Use System Policy)] (電話番号はサービスパラメータ「」 [メッセージ受信点灯ポリシー (Message Waiting Lamp Policy)] の設定を参照します。) • [点灯およびプロンプト (Light and Prompt)] • [プロンプトのみ (Prompt Only)] • [ライトのみ (Light Only)] • なし (None) <p>この設定は、右側にある [共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにして [選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスにのみ適用されます。(このチェックボックスは、この電話番号を他のデバイスと共有している場合のみ表示されます)。</p>
[オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)]	<p>このフィールドは、オーディオメッセージ受信インジケータのポリシーを設定するために使用します次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] • [オン (On)]: このオプションを選択すると、ハンドセットをオフフックにしたときに断続ダイヤルトーンが聞こえます。 • [デフォルト (Default)]: このオプションを選択すると、電話ではシステム レベルで設定されたデフォルト設定が使用されます。

フィールド	説明
[呼出音設定（電話がアイドルのとき）（Ring Setting (Phone Idle)）]	<p>着信コールがあり、そのデバイスで他のアクティブ コールがない場合の、ライン アピアランスの呼び出し音設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用（Use System Default）] • Disable • [フラッシュのみ（Flash Only）] • [一度鳴らす（Ring Once）] • 呼び出し中（Ring）
[呼出音設定（電話がアクティブのとき）（Ring Setting (Phone Active)）]	<p>電話の別の回線にアクティブ コールがあるときに使用される呼び出し音の設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用（Use System Default）] • Disable • [フラッシュのみ（Flash Only）] • [一度鳴らす（Ring Once）] • 呼び出し中（Ring） • [ビーブ音のみ（Beep only）]
[コール ピックアップ グループ オーディオアラートの設定（電話がアイドルのとき）（Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle)）]	<p>このフィールドで、着信コールがコール ピックアップ グループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コール ピックアップ グループ内のアイドル中の電話で短い呼び出し音が聞こえるか（[一度鳴らす（Ring Once）]）、または何も聞こえません（[無効（Disabled）]）。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用（Use System Default）]：このフィールドの値は、Cisco CallManager サービス パラメータ [コール ピックアップ グループ 警告音の設定（電話のアイドル時）（Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station）] の設定によって決定されます。 • [無効にする（Disable）]：コール ピックアップ グループのメンバーに呼出音は送信されません。 • [一度鳴らす（Ring Once）]：コール ピックアップ グループのメンバーに短い呼出音が送信されます。

フィールド	説明
[コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active))]	<p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内の使用中の電話でビープ音のみが聞こえるか、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager のサービスパラメータ [ビジーステーションのコールピックアップグループオーディオアラートの設定 (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station)] の設定により決まります。 • [無効にする (Disable)] : コールピックアップグループのメンバーにアラートは送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : コールピックアップグループのメンバーにビープ音が送信されます。

フィールド	説明
[録音オプション (Recording Option)]	<p>このフィールドではエージェントのライン アピアランスの録音オプションを決定します。デフォルトでは、録音オプションに [コール録音無効 (Call Recording Disabled)] が指定されています。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音無効 (Call Recording Disabled)] : エージェントがこのライン アピアランスで発信するコールは録音されません。 • [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : アプリケーションがコール録音を開始した場合、エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは録音されます。 <p>録音オプションが [自動的にコール録音有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーション呼び出しによるコール録音有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] に設定されている場合は、ラインアピアランスを録音プロファイルと関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効の場合、アプリケーションによる録音要求は拒否されます。</p>
[録音プロファイル (Recording Profile)]	<p>このフィールドは、エージェントのライン アピアランスの録音プロファイルを決定します。ドロップダウンリストボックスから既存の録音プロファイルを選択します。録音プロファイルを作成するには、[デバイス (Device)] > [デバイス設定 (Device Settings)] > [録音プロファイル (Recording Profile)] メニュー オプションを使用します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p>

フィールド	説明
[モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)]	<p>スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。</p> <p>スーパーバイザの回線表示ウィンドウでモニタリング用コーリングサーチスペースを設定します。ドロップダウンリストボックスから既存のコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>デフォルト値は [なし (None)] です。</p>
[不在着信のログを取る (Log Missed Calls)]	<p>このチェックボックスを使用して、この機能を有効または無効にします。チェックボックスがオン (有効) として表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は電話機の該当する電話番号のコール履歴に不在着信を記録します。</p>

フィールド	説明
<p>[不在転送CSS アクティベーションポリシー (Forward All CSS Activation Policy)]</p>	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システム デフォルトの使用 (Use System Default)] • [設定済みCSSを使用 (With Configured CSS)] • [アクティブなデバイス/回線CSSを使用 (With Activating Device/Line CSS)] <p>[設定済み CSS を使用 (With Configured CSS)] オプションを選択した場合、[電話番号の設定 (Directory Number Configuration)] ウィンドウで明示的に設定された不在転送コーリングサーチスペースにより、不在転送のアクティベーションと自動転送が制御されます。Forward All コーリングサーチスペースを None に設定した場合、Forward All に対して CSS は設定されません。パーティションが設定された任意の電話番号への不在転送をアクティブにすることはできません。不在転送のアクティブ化中に、不在転送コーリングサーチスペースおよび不在転送セカンダリ コーリングサーチスペースの変更は発生しません。</p> <p>不在転送コーリングサーチスペースを明示的に設定せずに、電話番号のコーリングサーチスペースとデバイスのコーリングサーチスペースを組み合わせて利用する場合は、[コーリングサーチスペースのアクティベーションポリシー (Calling Search Space Activation Policy)] で [アクティブなデバイス/回線 CSS を使用 (With Activating Device/Line CSS)] を選択します。不在転送が電話機によってアクティブになっている場合にこのオプションを選択すると、不在転送コーリングサーチスペースと不在転送セカンダリ コーリングサーチスペースに、電話番号のコーリングサーチスペースとアクティブ化デバイスのデバイス コーリングサーチスペースが自動的に入力されます。</p>
<p>[保留復帰の呼び出し時間 (秒) (Hold Reversion Ring Duration (seconds))]</p>	<p>保留している通話者の電話機にコール復帰アラートを送信するまでの待機時間 (秒単位) を指定するには、0 ~ 1200 の数値 (両端の値も含む) を入力します。</p> <p>値 0 を入力した場合、Unified Communications Manager は保留通話の復帰機能呼び出しません。</p>

フィールド	説明
[保留復帰の通知間隔 (秒) (Hold Reversion Notification Interval (seconds))]	<p>0 ~ 1200 の数値 (両端の値も含む) を入力して、保留している電話にリマインダ アラートを送信する間隔 (秒) を指定します。</p> <p>値 0 を入力した場合、Unified Communications Manager はリマインダ アラートを送信しません。</p>
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] サービス パラメータに設定された値を使用します。 • [オン (On)] : 通常のコールがマルチパーティ コール (割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、参加コール) に変化すると、電話でトーンが再生されます。さらに、いずれかの通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイス、つまりマルチパーティ コールの発信元がビルトインブリッジの場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話者に対してトーンが再生されます。制御デバイス (会議コントローラなど) がコールに残っていないときや、制御デバイスがトーンを再生できない場合は、[オン (On)] を選択していてもトーンは再生されません。 • [オフ (Off)] : 通常のコールがマルチパーティ コールに変化しても、電話でトーンは再生されません。
複数コール/コール待機設定	
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの回線あたり最大 184 件のコールを設定できます。ただし、デバイスによって最大数は制限されます。1つの回線のコール数を設定すると、別の回線で使用できるコール数が減少します。</p> <p>デフォルト値は4です。電話機が各回線に対して複数のコールを許可しない場合、デフォルトで値が2に設定されます。</p> <p>CTI ルートポイントの場合、ポートごとに最大 10,000 件のコールを設定できます。デフォルトではコール数が 5000 に指定されます。</p> <p>このフィールドは [話中トリガー (Busy Trigger)] フィールドと組み合わせて使用します。</p>

フィールド	説明
[話中トリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と共に機能し、回線上に存在できるコールの最大数を決定します。たとえば、最大コール数を 50 に設定し、話中トリガーを 40 に設定した場合、41 番目の着信コールはビジーであるという理由で拒否されます。その際に、[話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送もされます。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーになるまで着信コールは拒否されません。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と組み合わせて使用します。デフォルトは 4500 コールです。</p>
このデバイスの転送呼の情報表示	
[発信者名 (Caller Name)]	転送呼を受信したときの表示に発信者名を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオンになっています。
[発信者番号 (Caller Number)]	転送呼を受信したときの表示に発信者番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[転送元番号 (Redirected Number)]	転送呼を受信したときの表示に転送元番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。
[ダイヤル番号 (Dialed Number)]	転送呼を受信したときの表示にダイヤル番号を含めるには、このチェックボックスをオンにします。デフォルト設定では、このチェックボックスはオンになっています。
[ディレクトリ URL (Directory URI)] フィールド	

フィールド	説明
[電話番号のURI (1-5) (URI(1-5) on Directory Number)]	<p>この電話機の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。1 つの電話番号に最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができます。</p> <p>(注) Cisco Unified CM Administration では、二重引用符またはカンマが組み込まれたディレクトリ URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符やコンマが組み込まれたディレクトリ URI を含む csv ファイルをインポートする場合には、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲み、組み込まれた二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared,"Jerry",Smith@test.com」というディレクトリ URI は、csv ファイルでは "Jared","Jerry",Smith@test.com" と入力する必要があります。</p>
[電話番号のURI (1-5) ルートパーティション (URI (1-5) Route Partition on Directory Number)]	<p>ディレクトリ URI が属するルートパーティションを入力します。ディレクトリ URI へのアクセスを制限しない場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>
電話番号のURI (1-5) をプライマリにする (URI (1-5) Is Primary on Directory Number)	<p>このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定するには、「t」 (True) と入力します。このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定しない場合は、「f」 (False) と入力します。</p> <p>(注) 1 つの電話番号に最大 5 個のディレクトリ URI を関連付けることができますが、プライマリディレクトリ URI に選択できるのは 1 つだけです。</p>

関連トピック

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(34 ページ\)](#)

[リモート接続先プロファイルテンプレートでの回線の追加または更新 \(631 ページ\)](#)

[既存の UDP への回線の追加 \(443 ページ\)](#)

[ゲートウェイテンプレートの追加または編集 \(471 ページ\)](#)

インターコムテンプレートを追加するためのBATテンプレートのフィールドの説明

次の表では、BAT 電話、ゲートウェイ、または UDP テンプレートにインターコム テンプレートを追加するときに表示される可能性のある、すべてのフィールドについて説明しています。一部のデバイスタイプでは、すべての電話設定を行う必要はありません。一部のフィールドにのみ、Unified Communications Manager 管理ページで設定された値が表示されます。BAT ユーザーインターフェイスでアスタリスクが付いたフィールド名には入力が必要です。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

表 4: BAT テンプレートにインターコム テンプレートを追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]	
[インターコム テンプレート名 (Intercom Template Name)]	インターコム テンプレートの一意の名前を入力します。
[ルート パーティション (Route Partition)]	電話番号が属しているルートパーティションを選択します。 (注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
説明	電話番号とルートパーティションの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、山カッコ (< >) は使用できません。
[表示 (内部発信者 ID) (Display Internal Caller ID)]	このフィールドは、ラインアピランランスに電話番号を表示させない場合にだけ使用します。回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。 入力例としては、複数の電話番号を扱う秘書やアシスタントにとって複数の電話番号を識別できるような、上司の名前や部門名、その他適当な情報などがあります。

フィールド	説明
[ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))]	このフィールドは [表示 (内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID))] フィールドと同じ情報を提供しますが、入力は ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 表示 (内部発信者 ID) (ASCII Display (Internal Caller ID))] フィールドの内容が表示されます。 この設定は、右側の [共有デバイス設定の更新 (Update Shared Device Settings)] チェックボックスをオンにし、[選択対象を反映 (Propagate Selected)] ボタンをクリックしない限り、現在のデバイスにしか適用されません (右側のチェックボックスは、この電話番号を他のデバイスと共有している場合のみ表示されます)。
[回線テキスト レベル (Line Text Label)]	回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。 (注) デフォルトでは英語が指定されています。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	この名前は、共有電話番号への呼び出し中に表示される名前を表します。共有されていない電話番号の場合、呼び出し中は [表示 (Display)] フィールドに入力されている名前が表示されます。
ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)	このフィールドは [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのは ASCII 文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)] フィールドの内容が表示されます。
短縮ダイヤル	ユーザが短縮ダイヤル ボタンを押したときにシステムがダイヤルする電話番号を入力します。入力できるのは、数字の 0 から 9 までと、*、#、および + (国際エスケープ文字) です。
[外部電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	この回線からコールが発信されたときに、発信者 ID 情報として送信する電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 24 個の番号と文字「X」「」を入力できます。X は電話番号を表し、パターン末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク 972813XXXX を指定すると、内線 1234 からの外部コールには、発信者 ID の番号として 9728131234 が表示されます。
インターコム電話番号の設定	

フィールド	説明
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	ド롭ダウン リスト ボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、この電話番号からコールを発信できる番号を検索するための、パーティションのリストで構成されます。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[プレゼンス グループ (Presence Group)]	プレゼンス機能でこのフィールドを設定します。 ド롭ダウン リスト ボックスから、この電話番号のプレゼンス グループを選択します。選択したグループは、この電話番号をモニタできるデバイス、エンドユーザ、アプリケーション ユーザを指定します。
自動応答	次のいずれかのオプションを選択して、この電話番号の自動応答機能を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • [自動応答 オフ (Auto Answer Off)] (デフォルト) • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] (注) 共有回線を持つデバイスに、自動応答を設定しないでください。
[デフォルトのアクティブデバイス (Default Activated Device)]	ド롭ダウン リスト ボックスから、この電話番号のデフォルトのアクティブ デバイスを選択します。選択されたデバイスは、この電話番号がデフォルトで有効になっている電話です。ド롭ダウン リスト ボックスにはインターコムをサポートするデバイスのみが表示されます。 (注) このインターコム電話番号がインターコム回線として有効になる、デフォルトのアクティブ デバイスを指定する必要があります。 (注) インターコム DN が Cisco Extension Mobility に設定されたデバイスプロファイルで指定されている場合、デバイスでインターコム機能がサポートされていれば、先のデバイスプロファイルを使用して指定されたデフォルトのアクティブ デバイスにユーザがログインするときのみ、そのインターコム DN がインターコム回線として表示されます。

BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、CSV データファイルを作成します。スプレッドシート内でファイル形式を定義できます。そうすると、BAT スプレッドシートは、そのデータファイル形式を使用して CSV データファイルのフィールドを表示します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールド エントリを二重引用符で囲みます。

BAT スプレッドシートに空の行を含めると、その空の行がファイルの終わりとして扱われます。空の行より後に入力されたデータは BAT 形式に変換されません。

CTI ポートの追加時に、ダミー MAC アドレス オプションを使用できます。このオプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、各 CTI ポートに一意のデバイス名が指定されます。このデバイス名は、後で または Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して手動で更新できます。ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ダミー MAC アドレス オプションは、自動的に、次の形式でダミー MAC アドレスを生成します。

XXXXXXXXXXXX

ここで、X は、任意の 12 文字の 16 進数値 (0 ~ 9 と A ~ F) を表します。



注目 BAT スプレッドシートで電話機用に定義する回線や短縮ダイヤルの数は、BAT 電話機テンプレートで定義された数を超えないようにしなければなりません。超えてしまうと、CSV データファイルや BAT テンプレートを挿入しようとするときにエラーが発生します。

BAT スプレッドシート内のすべてのフィールドの編集が終了したら、その内容を CSV 形式のデータファイルにエクスポートできます。エクスポートされた CSV 形式のデータファイルには、次のようなデフォルトのファイル名が割り当てられます。

<tabname>-<timestamp>.txt

ここで、<tabname> は電話機などの作成された入力ファイルのタイプを表し、<timestamp> はファイルが作成された正確な日時を表します。

エクスポートしたファイルをローカル ワークステーションに保存したら、CSV 形式のデータファイルの名前を変更できます。



(注) CSV ファイル名にカンマが含まれていると (例: abcd,e.txt) 、サーバにアップロードできません。

手順

- ステップ1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ3** 電話のオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [電話 (Phone)] タブをクリックします。
- ステップ4** 次のいずれかのデバイスタイプを表すラジオボタンを選択します。

選択するデバイス タイプによって、BAT スプレッドシートでのデータの検証基準が決まります。

- 電話機
- CTI ポート (CTI Port)
- H.323 クライアント (H.323 Client)
- VGC フォン (VGC Phones)
- VGC 仮想電話機 (VGC Virtual Phones)
- Cisco IP Communicator フォン (Cisco IP Communicator Phone)

スプレッドシートには、選択されたデバイスに対して選択可能なオプションが表示されます。たとえば、電話を選択すると、電話回線や短縮ダイヤルの数に関するフィールドが表示されます。

- ステップ5** 各電話機の BAT スプレッドシートに表示されるデバイスや回線のフィールドを選択します。次の手順を実行します。
- a) [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックします。
 - b) デバイスフィールドを選択するには、[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスでデバイス フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データファイルには、[MAC アドレス/デバイス名 (MAC Address/Device Name)] と [説明 (Description)] が含まれている必要があります。そのため、これらのフィールドは常に選択されたままになります。

ヒント リスト内のアイテムの範囲を選択するには、**Shift** キーを押したままにします。ランダムなフィールド名を選択するには、**Ctrl** キーを押しながらフィールド名をクリックします。
 - c) [回線フィールド (Line Field)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

ヒント [選択済みの回線 (Selected Line)] および [デバイス (Device)] ボックス内のアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択して、上矢印と下矢印を使用してそのフィールドをリスト内で上下に移動します。

- d) 既存の CSV 形式を上書きするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[作成 (Create)] をクリックして、CSV データファイル形式を変更します。
- e) [OK] をクリックします。
選択されたフィールドの新しい列が指定された順序で BAT スプレッドシート内に表示されます。

ステップ 6 右にスクロールして [電話回線数 (Number of Phone Lines)] ボックスを見つけ、電話機の回線数を入力します。

(注) BAT テンプレートで設定された回線の数を超えた回線数を入力することはできません。

ステップ 7 電話機では、[短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)] ボックスに、短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。

(注) BAT テンプレートで設定された短縮ダイヤルの数を超えた短縮ダイヤル数を入力することはできません。

数値を入力すると、短縮ダイヤル番号ごとの列が表示されます。

ステップ 8 [BLF 短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of BLF Speed Dials)] ボックスに、話中ランプ フィールド (BLF) 短縮ダイヤル ボタンの数を入力します。

数値を入力すると、BLF 短縮ダイヤル番号ごとの列が表示されます。

ステップ 9 スプレッドシートで、各回線の個々の電話についてデータを入力します。

すべての必須フィールドと関連するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。電話フィールドの説明については、オンライン ヘルプを参照してください。

ステップ 10 各電話の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。

注目 ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ステップ 11 BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータファイルにデータを移すには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

ヒント エクスポートされた CSV データファイルを読み取る方法については、BAT の [電話の挿入 (Insert phones)] ウィンドウにある [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

ファイルは、デフォルトのファイル名 <tablename>-<timestamp>.txt でローカルワークステーション上の選択したフォルダに保存されます。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)

[TAPS の概要](#) (741 ページ)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

BAT スプレッドシートの電話フィールドの説明

次の表で、CSV データ ファイルにデバイスおよび回線の詳細を追加するために使用できる電話フィールドの詳細について説明します。

表 5: BAT スプレッドシートの電話フィールドの説明

フィールド	説明
デバイスフィールド (Device Fields)	
MAC アドレス/デバイス名 (MAC Address/Device Name)	電話機、VGC 仮想電話機、VGC 電話機の MAC アドレスを入力します。CTI ポートまたは H.323 クライアントの場合は、固有 ID (デバイス名) を入力します。[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Addresses)] チェックボックスをオンにすると、デバイスの固有 ID を自動的に生成できます。
説明	電話機またはデバイスを識別する説明を入力します (「Conference Room A」、「John Smith」など)。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)	この電話機/ポート グループのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を入力します。 MRGL は、メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを指定します。アプリケーションは、使用可能なメディア リソースの中から MRGL で定義されている順に、必要なメディア リソースを選択できます。
ユーザー保留音のソース (User Hold Audio Source)	この IP フォンまたは CTI ポートのグループに使用されるユーザー保留音源を入力します。 ユーザー保留音源は、ユーザーがコールを保留にすると再生される保留音の音源を指定します。

フィールド	説明
ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)	<p>この IP フォンまたは CTI ポートのグループで使用するネットワーク保留音源を入力します。</p> <p>ネットワーク保留音源は、ユーザがコールを転送したり、パーク保留にする場合など、システムがコールを保留にするときに再生される音楽の音源を示します。</p>
ユーザーロケール (User Locale)	<p>この IP Phone のグループに関連付ける国/地域と言語の組み合わせを入力します。</p> <p>この選択項目によって、このユーザーの文化に依存する属性と、Unified Communications Manager のユーザーウィンドウおよび電話機でユーザーに表示される言語が決まります。</p>
ネットワーク ロケール (Network Locale)	<p>この電話機グループに関連付けるネットワークロケールを入力します。</p> <p>ネットワークロケールは、Cisco ゲートウェイおよび電話機が特定の地理的地域で PSTN およびその他のネットワークと通信する際に使用する一連のトーンとリズムで構成されます。</p>
ソフトキー テンプレート (Softkey Template)	このグループのすべての電話機に使用するソフトキーテンプレートを入力します。
共通の電話プロフィール (Common Phone Profile)	ドロップダウンリストボックスで、使用可能な共通の電話プロフィールのリストから共通の電話プロフィールを選択します。
デバイスプレゼンスグループ (Device Presence Group)	<p>プレゼンス機能で使用します。SIP または SCCP を実行する電話機は、プレゼンスエンティティに関するステータス (たとえば、電話機で BLF スピードダイヤル ボタンとして設定されている電話番号など) を要求するため、ウォッチャとして機能します。</p> <p>プレゼンスエンティティのステータスを電話機が受信できるようにするには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスの閲覧が許可されているプレゼンスグループ ([Presence Group Configuration (プレゼンスグループの設定)] ウィンドウで指定されています) を選択します。</p>
電話ロード名 (Phone Load Name)	<p>必要に応じて、カスタム電話ロードを入力します。</p> <p>(注) このフィールドに入力する値によって、選択した電話機のデフォルト値がオーバーライドされます。</p> <p>値は、CTI ポートには適用されません。</p>

フィールド	説明
セキュリティプロファイル (Security Profile)	<p>デバイスに適用するセキュリティプロファイルを入力します。選択したプロファイルを電話機がサポートしていない場合、Unified Communications Manager は設定の適用を許可しません。</p> <p>すべての電話機には、セキュリティプロファイルを適用する必要があります。電話機でセキュリティがサポートされていない場合は、非セキュアプロファイルを選択してください。</p>
デバイスSUBSCRIBEコーリングサーチスペース (Device SUBSCRIBE CSS)	<p>プレゼンス機能で使用される SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、電話機から発信されたサブスクリプション要求を Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。この機能に使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p>
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを選択します。</p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御デバイスとして設定されていることを確認してください。</p> <p>(注) ゲートキーパー制御 H.323 クライアントの場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
ユーザ ID	<p>電話ユーザのユーザ ID を入力します。</p>
メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)	<p>このリストには、メディアリソースグループの優先順位付けされたグループ化が表示されます。アプリケーションは、[メディアリソースリスト (Media Resource List)] で定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースの中から必要なメディアリソース (保留音サーバなど) を選択します。</p>
AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する適切なコーリングサーチスペースを入力します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。</p>
MLPP ドメイン (MLPP Domain)	<p>このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。この値は空白または 0 ~ FFFFFFF の値にしてください。</p>

フィールド	説明
MLPP通知 (MLPP Indication)	<p>SIPCodec_MTPPreferredOrigCodec</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理しません。 • [オン (On)] : MLPP 優先コールの通知を処理します。
MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)	<p>利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイス上で、MLPP 優先コールを発信する際にプリエンプション機能を使用するかどうかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : MLPP 表示設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)] : このデバイスは、MLPP 優先コールの通知を処理しません。 • [オン (On)] : MLPP 優先コールの通知を処理します。
シグナルパケットキャプチャモード (Signal Packet Capture Mode)	<p>シグナルパケットキャプチャに設定するモードを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [なし (None)] : モードを指定しない場合は、[なし (None)] を選択します。 • [リアルタイムモード (Real-Time Mode)] : リアルタイムシグナルパケットキャプチャには、このモードを使用します。 • [バッチ処理モード (Batch Processing Mode)] : バッチ処理シグナルパケットキャプチャモードには、このモードを使用します。
パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)	<p>パケットキャプチャ時間 (分数) を入力します。入力できる最大の時間は 300 分です。</p>
認証文字列 (Authentication String)	<p>4 ~ 10 桁の数字列を入力します。ローカルで有効な証明書をインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングするには、電話ユーザまたは管理者が電話機に認証文字列を入力する必要があります。</p>
表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicator)	<p>[はい (Yes)] または [いいえ (No)] を入力して、コールごとのコール表示制限を設定します。このチェックボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は内線コールについて受信するすべての表示制限を無視します。</p>
SIP プロファイル (SIP Profile)	<p>デフォルトの SIP プロファイルまたは作成済みの特定のプロファイルを入力します。SIP プロファイルでは、電話機特定の SIP 情報 (デフォルトテレフォニー イベント ペイロードタイプ、登録タイマーおよびキーブアライブタイマー、メディアポート、絞り、ダイナミック DNS サーバアドレスなど) を指定します。</p>

フィールド	説明
ダイジェストユーザ (Digest User)	<p>ダイジェスト認証 (SIP セキュリティ) で使用します。電話機に関連付けるエンドユーザを選択します。</p> <p>選択するユーザのダイジェストクレデンシャルが [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウで設定されていることを確認してください。</p> <p>電話の設定を保存して電話機をリセットすると、ここで選択するユーザのダイジェストクレデンシャルが電話の設定ファイルに追加されます。</p>
ログアウト プロファイル (Log Out Profile)	<p>エクステンションモビリティユーザがログアウトするときに電話機にロードするプロファイルを入力します。ログアウトプロファイルが Unified Communications Manager Administration で設定されている必要があります。</p> <p>[現在のデバイス設定を使用 (Use Current Device Setting)] : このオプションを選択すると、自動生成デバイス プロファイルがデフォルトのデバイス プロファイルとして作成されます。</p> <p>[ユーザ デバイス プロファイルを選択 (Select a User Device Profile)] : このオプションを選択すると、定義済みのユーザデバイス プロファイルがデフォルトのデバイス プロファイルとしてこのデバイスに割り当てられます。</p> <p>ユーザがログインするときには、ここで選択されたユーザデバイス プロファイルがデバイスにロードされます。</p>
[SIPCodec_MTPPreferredOrigCodec]	<p>SIP コールにメディア ターミネーション ポイントが必要な場合に使用するコーデックを入力します。</p>
[ダイヤルルール (Dial Rules)]	<p>必要に応じて、適切な SIP ダイヤルルールを入力します。SIP ダイヤルルールは、SIP を実行する Cisco Unified IP Phone 7940 および 7975 のローカルダイヤルプランを提供するため、ユーザは、コールが処理される前に、キーを押したり、タイマーを待機したりする必要はありません。</p> <p>SIP を実行している IP フォンにダイヤルルールを適用しない場合は、[SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)] フィールドを [<なし> (<None>)] に設定したままにします。この場合、ユーザがダイヤルソフトキーを使用するか、タイマーが切れるまで、コールは処理されません。</p>

フィールド	説明
[CSS再ルーティング (CSS Reroute)]	<p>再ルーティングに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>システムは参照元の再ルーティング コーリング サーチ スペースを使用して、参照先へのルートを検索します。再ルーティング コーリング サーチ スペースが原因で参照が失敗すると、Refer Primitive は「405 Method Not Allowed」 メッセージによって要求を拒否します。</p> <p>リダイレクト (3xx) プリミティブおよび転送機能も再ルーティング コーリング サーチ スペースを使用して、リダイレクト先または転送先を検索します。</p>
[電話の共通設定 (Common Phone Configuration)]	<p>この電話機に割り当てる共通の電話設定を入力します。共通の電話設定には、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。</p>
[コーリングサーチスペース参照 (Calling Search Space Refer)]	<p>アウト オブ ダイアログ REFER コーリング サーチ スペースを入力します。</p> <p>Unified Communications Manager は、アウトオブダイアログ (OOD) REFER 認証コーリングサーチスペース (CSS) を使用して SIP アウトオブダイアログ REFER を認証します。管理者は、参照元の OOD CSS を設定することでアウト オブ ダイアログ REFER の使用を制限できます。Refer Primitive は OOD Refer 要求を「403 Forbidden」 メッセージで拒否します。</p>
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	<p>実行する証明書の操作として、次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [保留中の操作なし (No Pending Operation)]: このデバイスに関して保留中の証明書の操作リストはありません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドが無効になります。 • [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]: 証明書の操作をインストールまたはアップグレードします。 • [削除 (Delete)]: 証明書の操作を削除します。 • [トラブルシューティング (Troubleshoot)]: 証明書の操作をトラブルシューティングします。
[証明書の操作完了時間 (Certificate Operation Completion Time)]	<p>このフィールドは、[インストール/アップグレード (Install/Upgrade)]、[削除 (Delete)]、[トラブルシューティング (Troubleshoot)] の証明書の操作オプションをサポートし、操作の完了期限を指定します。</p>

フィールド	説明
[セキュアシェルユーザー (Secure Shell User)]	セキュア シェル ユーザーのユーザー ID を入力します。設定中の電話機がセキュア シェルアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングにセキュア シェルを使用します。TAC にお問い合わせください。
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	セキュア シェルユーザーのパスワードを入力します。設定中の電話機がセキュア シェルアクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。TAC にお問い合わせください。
[デバイス プール (Device Pool)]	該当するデバイス プールを入力します。 デバイス プールは、このデバイスの一連のプロパティ (Communications Manager グループ、日時グループ、地域、デバイスの自動登録用コーリング サーチ スペースなど) を指定します。
ビルトインブリッジ (Built-in Bridge)	[オン (On)]、[オフ (Off)]、または[デフォルト (Default)]を入力して、ビルトイン会議ブリッジで割り込み機能を有効または無効にします。
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	該当するコーリング サーチ スペースを入力します。コーリング サーチ スペースは、この電話番号から発信された電話番号を検索するパーティションのコレクションで構成されます。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[所在地 (Location)]	このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションを[(ハブなし) Hub_None]に設定すると、ロケーション機能はこの電話機が消費する帯域幅を追跡しません。
モジュール 1	該当する拡張モジュールを入力するか、空白のままにします。
[モジュール1ロード名 (Module 1 Load Name)]	必要に応じて、該当する拡張モジュールのカスタムソフトウェアを入力します。 入力する値により、現在のモデルのデフォルト値が上書きされます。ファームウェアロードがモジュールロードと一致するようにしてください。
モジュール 2	該当する拡張モジュールを入力するか、空白のままにします。
[モジュール2ロード名 (Module 2 Load Name)]	必要に応じて、2 番目の拡張モジュールのカスタム ソフトウェアを入力します。 入力する値により、現在のモデルのデフォルト値が上書きされます。ファームウェアロードがモジュールロードと一致するようにしてください。

フィールド	説明
電話テンプレート (Phone Template)	このタイプの一括トランザクション用に作成した電話テンプレート名を入力します。
認証サーバ	電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用する URL を入力します。認証 URL を指定しないと、Cisco Unified IP Phone 上の認証を必要とする拡張機能は有効になりません。デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。 この URL はデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。
プロキシサーバ	電話機の HTTP クライアントからローカルホストアドレス以外に対するプロキシ HTTP のアクセス要求に使用するホストとポート (たとえば、proxy.cisco.com:80) を入力します。 電話機がサービスで URL (www.cisco.com など) を受信した場合、その電話機が cisco.com ドメインに設定されていない場合は、電話機はプロキシサーバを使用して URL にアクセスします。電話機が cisco.com ドメインに設定されている場合は、その電話機は URL と同じドメイン内にあるため、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。
アイドル (Idle)	電話機が使用されていない時間が [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone LCD 画面にアイドル表示として表示する XML サービスの URL を入力します。 たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合、LCD 画面にロゴを表示できます。
[アイドルタイマー (Idle Timer)]	[アイドル (Idle)] フィールドで指定されている URL を電話で表示するまでの経過時間 (秒数) を入力します。

フィールド	説明
[セキュア認証URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) セキュア認証 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>この URL はデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元サーバのセキュア URL を入力します。このパラメータには、ユーザが [電話帳 (Directory)] ボタンを押したときに Cisco Unified IP Phone が使用するセキュア URL を指定します。</p> <p>(注) セキュアディレクトリ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアアイドルURL (Secure Idle URL)]	<p>電話機が使用されていない時間が [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合、LCD にロゴを表示できます。</p> <p>(注) セキュアアイドル URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>

フィールド	説明
[セキュア情報URL (Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプ テキスト情報を見つけられるサーバロケーションのセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが電話機の情報 (i) ボタンまたは疑問符 (?) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) セキュア情報 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアメッセージURL (Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュア メッセージ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>
[セキュアサービスURL (Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。ユーザが [サービス (Services)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこのセキュア URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュア サービス URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長 : 255</p>

フィールド	説明
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>「T」または「F」と入力します。ホットライン デバイスは他のホットラインデバイスにのみ接続できます。これは PLAR の拡張機能です。PLAR では、電話がオフフックになった場合に自動的に 1 つの電話番号にダイヤルするよう電話を設定します。ホットラインによって、PLAR を使用するデバイスに追加の制限を適用できます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービスソフトキーを含まないソフトキーテンプレートを作成し、それをホットラインデバイスに適用する必要があります。</p>
[所有者のユーザ ID (Owner User ID)]	プライマリ電話ユーザのユーザ ID を入力します。
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	この電話機を割り当てる共通の電話プロファイルを入力します。共通の電話プロファイルには、特定のユーザに関連付けられた属性 (サービスまたは機能) が含まれています。
[デバイスモビリティモード (Device Mobility Mode)]	このデバイスのデバイスモビリティ機能をオンまたはオフにするか、デフォルトのデバイスモビリティモードを使用する場合は、[デフォルト (Default)] を入力します。
[DNDオプション (DND Option)]	次のいずれかの DND オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • [呼出音オフ (Ringer Off)]
[DND着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • Disable • [点滅アラートのみ (Flash Only)] • [ビープ音のみ (Beep Only)]
[プライバシー (Privacy)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default
Use Trusted Relay Point	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • Default • オフ (Off) • オン (On)
情報 (Information)	Cisco Unified IP Phone の情報ボタンに対応するヘルプテキスト URL を入力します。

フィールド	説明
ディレクトリ (Directory)	Cisco Unified IP Phone のディレクトリサーバーの URL を入力します。
メッセージ	Cisco Unified IP Phone のボイス メッセージング アクセス パイロット番号を入力します。
サービス (Services)	Cisco Unified IP Phone のサービスメニューに対応する URL を入力します。
[発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。入力する発信側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。
[ワンボタン割り込み (Single Button Barge)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: この設定は、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたはC割り込み機能は引き続き動作します。 • [割り込み (Barge)]: この設定はワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C 割込 (CBarge)]: この設定はワンボタン C 割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)]: サービス パラメータのワンボタン割り込みまたはC割り込みの設定を使用します。
[複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: この設定は [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を無効にします。 • [オン (On)]: この設定は [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)]: サービス パラメータで構成されている複数ライン同時通話機能する機能の設定を使用します。
[BLF可聴アラート設定 (電話のアイドル時) (BLF Audible Alert Setting (Phone Idle))]	BLF警告音設定として、次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default <p>この必須フィールドのパラメータは、ビジー回線フィールド (BLF) ボタンを使用してモニタされる回線のいずれかにコールが入ってきたときに現在使用されていない電話機に表示されるビジュアルアラートに加え、警告音も指定します。</p>

フィールド	説明
[BLF可聴アラート設定（電話がビジーのとき）（BLF Audible Alert Setting (Phone Busy)）]	この必須フィールドには、BLF 警告音設定として、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default
常にプライム回線を使用する	[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] 設定として、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default
ボイス メッセージに常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)	[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] 設定として、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン (On) • オフ (Off) • Default
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	この必須フィールドには、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • 内部 • 外部 URL • 両方 • デフォルト : [内部 (Internal)]
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] : 電話機のパーソナライゼーション設定はアクティブにされません。 • [有効 (Enabled)] : この設定では、パーソナライズされた背景画像ファイルを電話機の画面に使用したり、プレビュー画像ファイルを一時的に表示したり、パーソナライズされたトーンファイルでデフォルトの呼出音をカスタマイズしたりできます。 • [デフォルト (Default)] : 共通の電話プロファイルの電話機のパーソナライゼーション設定を使用します。
[モビリティアイデンティティ名 (Mobility Identity Name)]	リモート接続先を識別する名前を入力します。

フィールド	説明
[モビリティアイデンティティ接続先番号 (Mobility Identity Destination Number)]	<p>接続先の電話番号を入力します。市外局番、および外線の取得に必要な追加番号を含めてください。フィールドの最大長は24文字です。値には、0～9の数字、*、および#を入力できます。リモート接続先の発信者IDを設定することを推奨します。</p> <p>接続先番号をルーティングするために必要なトランスレーションパターンまたはルートパターンを追加してください。</p>
[モビリティアイデンティティ呼び出し開始タイマー (Mobility Identity Answer Too Soon Timer)]	<p>携帯電話に応答を許可するまでの最小経過時間 (秒数) を入力します。</p> <p>範囲：0～10,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト：1,500 ミリ秒</p>
[モビリティアイデンティティ呼び出し終了タイマー (Mobility Identity Answer Too Late Timer)]	<p>携帯電話に応答を許可する最大経過時間 (秒数) を入力します。</p> <p>範囲：10,000～300,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト：19,000 ミリ秒</p>
[モビリティアイデンティティ呼び出し前の遅延 (Mobility Identity Delay Before Ringing Cell)]	<p>卓上電話からコールが転送されてから携帯電話を呼び出すまでの経過時間を入力します。</p> <p>範囲：0～30,000 ミリ秒</p> <p>デフォルト：4,000 ミリ秒</p>
[モビリティアイデンティティ時刻アクセス (Mobility Identity Time of Day Access)]	<p>このリモート接続先に関連付ける時刻アクセスレコードを入力します。</p>
[モビリティアイデンティティタイムゾーン (Mobility Identity Time Zone)]	<p>このリモート接続先に使用するタイムゾーンを入力します。</p> <p>(注) このリモート接続先に使用するタイムゾーンは、時刻アクセス機能でこのリモート接続先へのコールを許可またはブロックするために使用されます。</p>
[モビリティアイデンティティモバイルコネクットの有効化 (Mobility Identity Enable Mobile Connect)]	<p>このフィールドに「T」または「F」と入力することで、着信コールによる卓上電話とリモート接続先の同時呼び出しを許可または禁止します。</p>
[モバイルスマートクライアントプロファイル (Mobile Smart Client Profile)]	<p>モバイルスマートクライアントプロファイルは、スマートクライアントデバイスおよびデュアルモード電話機用のスマートクライアントです。</p> <p>Cisco Unified Mobile Communicator を有効にするには、このフィールドに「Standard Cisco Unified Mobile Communicator Profile」と入力します。無効にするには、空白のままにします。</p>

フィールド	説明
地理的な場所	電話機に関連付ける位置情報を入力します。 電話機に位置情報を関連付けない場合は、「unspecified」と入力します。
機能コントロール ポリシー	この電話機グループの機能管理ポリシーを入力します。 機能管理ポリシーは、電話機に表示される機能とそれぞれの機能に関連付けられるソフトキーの外観を指定します。
回線フィールド (オプション)	
[電話番号 (Directory Number)]	電話機の電話番号を最大24文字の数字と特殊文字で入力します。
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属するルートパーティションを入力します。 (注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
ディスプレイ (Display)	着信側電話機のディスプレイに表示されるテキスト (たとえば、ユーザ名 (John Smith)、電話機のロケーション (Conference Room 1) など) を入力します。 (注) このフィールドが空白のままになっている場合、システムは [電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力されている値を使用します。 (注) デフォルト言語は英語です。
[回線テキストラベル (Line Text Label)]	回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。 (注) デフォルト言語は英語です。
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この操作は、電話機にボイスメッセージングサーバが設定されていない場合に役立ちます。
[回線コーリングサーチスペース (Line Calling Search Space)]	この電話番号から発信された番号を検索する対象のパーティションを入力します。 (注) この設定を変更すると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされているピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
[AAR グループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループは、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングするために使用するプレフィックス番号を提供します。</p> <p>AAR グループ設定を [<なし> (<None>)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
Forward All CSS	<p>コールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[不在転送のセカンダリコーリングサーチスペース (Secondary CSS for Forward All)]	セカンダリ コーリングサーチスペース (CSS) を入力します。
[不在転送の接続先 (Forward All Destination)]	<p>すべてのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送コーリングサーチスペース (外部) CSS (Forward Busy External CSS)]	<p>外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward Busy Internal CSS)]	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy Destination External)]	<p>外部番号から使用中の回線に入ってきたコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[話中転送の接続先（内部）（Forward Busy Destination External）]	<p>内部番号から使用中の回線に入ってきたコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め（制限されていない場合）、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送コーリングサーチスペース（外部）（Forward No Answer External CSS）]	<p>外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送コーリングサーチスペース（内部）（Forward No Answer Internal CSS）]	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送の接続先（外部）（Forward No Answer External Destination）]	<p>電話機が応答しないときに、外部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め（制限されていない場合）、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送の接続先（内部）（Forward No Answer Internal Destination）]	<p>電話機が応答しないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め（制限されていない場合）、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース（外部）（Forward No Coverage External CSS）]	<p>外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward No Coverage Internal CSS)]	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
無カバレッジ時転送の接続先 (外部) (Forward No Coverage External Destination)	<p>電話機にカバレッジがないときに、外部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
無カバレッジ時転送の接続先 (内部) (Forward No Coverage Internal Destination)	<p>電話機にカバレッジがないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
失敗時転送コーリングサーチスペース (外部/内部) (Calling Search Space Forward on Failure External/Internal)	<p>(CTI ポートのみ) 内部番号または外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
失敗時転送の接続先 (外部/内部) (Forward on Failure Destination External/Internal)	<p>(CTI ポートのみ) 電話または CTI アプリケーションが失敗したときに、内部番号または外部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p>
CTI障害時転送の接続先 (Forward on CTI Failure Destination)	<p>この設定は、電話番号を制御するアプリケーションが失敗した場合に、接続されなかった内線コールの転送先とする電話番号を指定します。任意のダイヤル可能な電話番号 (外部接続先を含む) を使用します。</p> <p>内線コールの接続先の値を入力すると、その値が自動的に外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドにコピーされます。外線コールを別の接続先に転送する場合は、外線コールの [接続先 (Destination)] フィールドに別の値を入力する必要があります。</p>

フィールド	説明
CTI 障害時転送のコーリングサーチスペース (Forward on CTI Failure Calling Search Space)	この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。 内線コールのコーリングサーチスペースを選択すると、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] 設定に、この値が自動的にコピーされます。外線コールを別のコーリングサーチスペースに自動転送する場合は、外線コールの [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] で、別の設定値を選択する必要があります。
Call Pickup Group	ピックアップグループ名を選択してコールピックアップグループを指定します。該当するピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、指定されたコールピックアップグループは、この電話番号への着信コールに応答できます。
外部電話番号マスク	この回線からコールが発信されたときに、発信者 ID 情報として送信する電話番号 (またはマスク) を入力します。 最大 24 個の番号と文字「X」「」を入力できます。X は電話番号を表し、パターンの末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク 972813XXXX を指定すると、内線 1234 による外部コールにより、発信者 ID の番号として 9728131234 が表示されます。
無応答時転送の呼び出し時間 (CFNA) (Forward No Answer Ring Duration (CFNA))	コールに呼び出しを許可する秒数を入力します。この時間に達すると、コールは無応答時接続先に転送されます。
宛先 (MLPP) (Target Destination (MLPP))	この電話番号が MLPP 優先コールを受信し、この電話番号だけでなくこの電話番号の転送先も優先コールに応答しない場合に MLPP 優先コールを転送する番号を入力します。 入力できる値は、数字、ポンド記号 (#)、およびアスタリスク (*) です。
コーリングサーチスペース (MLPP) (Calling Search Space (MLPP))	代替パーティターゲット (接続先) の番号に関連付けるコーリングサーチスペースを入力します。
無応答時の呼び出し時間 (MLPP) (No Answer Ring Duration (MLPP))	この電話番号も、この電話番号の転送先も優先コールに応答しない場合、ここに入力する時間 (4 ~ 30 秒) が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに転送されます。 Unified Communications Manager の [優先代替パーティ タイムアウト (Precedence Alternate Party Timeout)] エンタープライズパラメータの設定値を使用するには、この設定を空白のままにします。

フィールド	説明
コール最大数 (Maximum Number of Calls)	<p>クラスタ内のデバイスの回線には最大 200 のコールを設定できます。ただし、デバイス自体が制限要因となります。1つの回線のコール数を設定すると、別の回線で利用できるコール数が減少します。</p> <p>デフォルト値は 4 です。電話機が各回線に対して複数のコールを許可しない場合、デフォルトで値が 2 に設定されます。</p> <p>CTI ルートポイントの場合、ポートごとに最大 10,000 件のコールを設定できます。デフォルトではコール数が 5000 に指定されます。このフィールドは、[話中トリガー (Busy Trigger)] フィールドと組み合わせて使用します。</p>
話中トリガー (Busy Trigger)	<p>この設定は [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と共に機能し、回線上に存在できるコールの最大数を決定します。たとえば、最大コール数を 50 に設定し、話中トリガーを 40 に設定した場合、41 番目の着信コールはビジーであるという理由で拒否されます。その際に、[話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送もされません。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーになるまで着信コールは拒否されません。</p> <p>このフィールドは、CTI ルートポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と組み合わせて使用します。デフォルトではコール数が 4500 に指定されます。</p>
Alerting Name	<p>この名前は、共有電話番号への呼び出し中に表示される名前を表します。共有されていない電話番号の場合、呼び出し中は [表示 (Display)] フィールドに入力されている名前が表示されます。</p>
ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)	<p>このフィールドは [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのは ASCII 文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスには、[ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)] フィールドに指定された内容が表示されます。</p>

フィールド	説明
自動応答 (Auto Answer)	<p>次のいずれかのオプションを入力して、この電話番号の自動応答機能を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Auto Answer Off (デフォルト) • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] <p>(注) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] または [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] を選択するときには、ヘッドセットまたはスピーカフォンが無効になっていないことを確認してください。</p> <p>回線が共有されているデバイスに自動応答を設定することはできません。</p>
ルートフィルタ	<p>[ルートフィルタ名 (Route Filter Name)] フィールドに名前を入力します。名前には、最大 50 文字の英数字を入力できます。また、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アンダースコア (_) の各記号も任意の組み合わせで含めることができます。各ルートフィルタ名がルートプランに対して固有であることを確認してください。</p> <p>(注) 簡単に識別しやすい名前をルートフィルタに使用します。通常は、CompanynameLocationCalltype の形式を使用すると、必要十分な詳細を含めつつ、ルートフィルタをすばやく簡単に識別できる短い名前になります。たとえば、CiscoDallasMetro とすれば、ルートフィルタがダラスのシスコオフィスからの無料 Local Access and Transport Area (LATA) コール用であることを識別できます。</p>
ダイヤルプラン (Dial Plan)	ダイヤルプラン ([北米番号計画 (North American Numbering Plan)] など) を入力します。
[ユーザネットワーク保留MOH音源 (Line User Hold MOH Audio Source)]	ユーザが保留操作を開始したときに再生される保留音 (MOH) の音源を入力します。
[回線ネットワーク保留MOH音源 (Line Network Hold MOH Audio Source)]	ネットワークが保留操作を開始したときに再生される保留音 (MOH) の音源を入力します。

フィールド	説明
[呼出音設定 (電話のアクティブ時) (Ring Setting (Phone Active))]	<p>この電話の別の回線にアクティブコールがあるときに使用される呼び出し音の設定を入力します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] • Disable • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • 呼び出し中 (Ring) • [ビープ音のみ (Beep only)]
呼出音設定 (電話のアイドル時) (Ring Setting (Phone Idle))	<p>着信コールを受信したデバイスに他のアクティブコールがない場合のラインアピアランスの呼出音設定を入力します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] • Disable • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • 呼び出し中 (Ring)
E.164	<p>ゲートキーパーに登録されている E.164 アドレスを入力します。</p> <p>(注) H.323 クライアントがゲートキーパー制御デバイスとして設定されていることを確認してください。</p> <p>(注) ゲートキーパー制御 H.323 クライアントの場合は、このフィールドに値を入力する必要があります。このフィールドに入力できるのは、数字 (0 ~ 9) と特殊文字の # および * だけです。</p>
AAR接続先マスク (AAR Destination Mask)	<p>ダイヤルする AAR 接続先の決定に外線電話番号マスクの代わりに使用する設定を入力します。</p>
未登録内線の不在転送-接続先 (Forward Unregistered Internal Destination)	<p>回線が使用中のときに、未登録の内線コールの転送先とする電話番号を入力します。</p> <p>この設定は、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
未登録内線の不在転送コーリングサーチスペース (Forward Unregistered Internal CSS)	<p>未登録の内線コールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
未登録外線の不在転送：接続先 (Forward Unregistered External Destination)	<p>回線が使用中のときに、外線コールの転送先とする電話番号を入力します。</p> <p>この設定は、外線接続先を含め（制限されていない場合）、ダイヤル可能なすべての外線電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
未登録内線の不在転送コーリングサーチスペース (Forward Unregistered External CSS)	<p>外線コールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
オーディオメッセージ受信インジケータのポリシー (Audible Message Waiting Indicator Policy)	<p>このフィールドは、オーディオメッセージ受信インジケータのポリシーを設定するために使用します次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オフ • [オン (On)] : このオプションを入力した場合、ハンドセットをオフフックにすると、断続ダイヤルトーンを受信します。 • [デフォルト (Default)] : このオプションを入力した場合、電話機はシステムレベルで設定されているデフォルトを使用します。
コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (電話がアイドルのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Idle))	<p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内のアイドル中の電話で短い呼び出し音が聞こえるか ([一度鳴らす (Ring Once)])、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータ [コールピックアップグループ警告音の設定 (電話のアイドル時) (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Idle Station)] の設定によって決定されます。 • [無効にする (Disable)] : コールピックアップグループのメンバーに呼出音は送信されません。 • [一度鳴らす (Ring Once)] : コールピックアップグループのメンバーに短い呼出音が送信されます。

フィールド	説明
コールピックアップグループオーディオアラートの設定(電話がアクティブのとき) (Call Pickup Group Audio Alert Setting (Phone Active))	<p>このフィールドで、着信コールがコールピックアップグループのメンバーに送信する通知のタイプが判定されます。コールが着信した電話で応答されない場合、コールピックアップグループ内の使用中の電話でビープ音が聞こえるか、または何も聞こえません ([無効 (Disabled)])。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] : このフィールドの値は、Cisco CallManager サービスパラメータ [コールピックアップグループオーディオアラートの設定 (電話のアクティブ時) (Call Pickup Group Audio Alert Setting of Busy Station)] の設定によって決定されます。 • [無効にする (Disable)] : コールピックアップグループのメンバーにアラートは送信されません。 • [ビープ音のみ (Beep Only)] : コールピックアップグループのメンバーにビープ音が送信されます。
コール録音オプション (Call Recording Option)	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスの録音オプションを決定します。デフォルトでは、録音オプションは [コール録音を無効 (Call Recording Disabled)] に指定されます。</p> <p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音を無効 (Call Recording Disabled)] : エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは録音されません。 • [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : アプリケーションがコール録音を開始した場合、エージェントがこのラインアピアランスに発信したコールは録音されます。 <p>録音オプションを [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] または [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] に設定する場合、ラインアピアランスを録音プロファイルと関連付けることができます。</p> <p>自動録音が有効にされている場合、アプリケーションの録音要求は拒否されます。</p>
録音プロファイル (Recording Profile)	<p>このフィールドは、エージェントのラインアピアランスの録音プロファイルを決定します。</p>

フィールド	説明
モニタリング用コーリングサーチスペース (Monitoring Calling Search Space)	<p>スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。</p> <p>スーパーバイザのラインアピランスウィンドウでモニタリング用コーリングサーチスペースを入力します。</p> <p>デフォルト値は[なし (None)]です。</p>
不在転送 CSS アクティベーションポリシー (Forward All CSS Activation Policy)	<p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトの使用 (Use System Default)] • [設定済みCSSを使用 (With Configured CSS)]
パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)	<p>パーティ参加トーンに関する次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] サービスパラメータに設定されている値を使用します。 • [オン (On)] : 基本コールがマルチパーティコール (つまり、割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、または参加コール) に変更されると、電話機でトーンが再生されます。さらに、いずれかの通話者がマルチパーティコールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイス (つまりマルチパーティコールの発信元) にビルトインブリッジがある場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話参加者に対してトーンが再生されます。会議コントローラーなどの制御デバイスが通話に存在しない場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合、Unified Communications Manager は [オン (On)] を選択してもトーンを再生しません。 • [オフ (Off)] : 基本コールがマルチパーティコールに変更されても、電話機でトーンは再生されません。
[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve Ext Destination)]	<p>パークされている側が外部の場合、パークしたユーザの [パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パークモニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>

フィールド	説明
[パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Int Destination)]	パークされている側が内部の場合、パークしたユーザの [パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。 [パーク モニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
[パークモニタリング転送非取得時のボイスメール (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Int Voice Mail)]	この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 この設定を使用すると、Unified Communications Manager は [宛先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
パーク モニタリング転送非取得時のボイスメール (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve Ext Voice Mail)	この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 この設定を使用すると、Unified Communications Manager は [宛先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
パークモニタリング転送非取得時のコーリングサーチスペース (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve Ext CSS)	その電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
パークモニタリング転送非取得時のコーリングサーチスペース (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Int CSS)	その電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
[パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitor Reversion Timer)]	このパラメータは、自分がパークしたコールを取得するようユーザーに求めるまでに Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。 デフォルト : 60 秒 0 以外の値を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が、この値でオーバーライドされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。

フィールド	説明
不在着信のログを取る (Log Missed Calls)	このフィールドを使用して、この機能をオンまたはオフにすることができます。Unified Communications Manager が電話機のその電話番号に関するコール履歴に不在着信を記録できるようにするには、「T」と入力します。「F」と入力すると、この機能が無効になります。
[電話番号の URI (1-5) (URI (1-5) on Directory Number)]	この電話機の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。1 つの電話番号に最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができます。 (注) Cisco Unified CM Administration では、二重引用符またはカンマが組み込まれたディレクトリ URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符やコンマが組み込まれたディレクトリ URI を含む csv ファイルをインポートする場合には、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲み、組み込まれた二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared, "Jerry",Smith@test.com」というディレクトリ URI は、csv ファイルでは"Jared, ""Jerry"",Smith@test.com" と入力する必要があります。
[電話番号のURI(1-5)ルートパーティション (URI (1-5) Route Partition on Directory Number)]	ディレクトリ URI が属するルートパーティションを入力します。ディレクトリ URI へのアクセスを制限しない場合は、このフィールドを空白のままにします。
電話番号の URI (1-5) をプライマリにする (URI (1-5) Is Primary on Directory Number)	このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定するには、「t」 (True) と入力します。このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリ ディレクトリ URI として指定しない場合は、「f」 (False) と入力します。 (注) 1 つの電話番号に最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができます。ただし、1 つのプライマリ ディレクトリ URI を選択する必要があります。
エンタープライズをローカルルートパーティションに追加 (Enterprise Add to Local Route Partition)	このエンタープライズ代替番号をローカルルートパーティションに追加するには、「t」 と入力します。E.164 番号をローカルルーティングに含めない場合は、「f」 と入力します。
エンタープライズをグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)	ILS でこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」 と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」 と入力します。

フィールド	説明
エンタープライズは緊急 (Enterprise Is Urgent)	<p>この代替番号を緊急として分類するには、「t」と入力します。</p> <p>デフォルトでは、オーバーラップするルートパターンがダイヤルプランに含まれる場合、Unified Communications Manager は（ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても）桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。</p> <p>番号の優先順位を緊急としてマークすると、Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー（たとえば T302 タイマーサービスパラメータ）が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。</p>
エンタープライズ番号マスク (Enterprise Number Mask)	<p>電話番号に適用する番号マスクを入力します。Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなるエンタープライズ代替番号を作成します。</p>
エンタープライズルートパーティション (Enterprise Route Partition)	<p>このエンタープライズ代替番号の割り当て先となるルートパーティションを入力します。</p>
+E.164 をローカルルートパーティションに追加 (+E.164 Add to Local Route Partition)	<p>この E.164 代替番号をローカルルートパーティションに追加するには、「t」と入力します。E.164 番号をローカルルーティングに含めない場合は、「f」と入力します。</p>
[+E.164をグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)]	<p>ILS でこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」と入力します。</p>

フィールド	説明
+E.164 は緊急 (+E.164 Is Urgent)	<p>この代替番号を緊急として分類するには、「t」と入力します。</p> <p>デフォルトでは、オーバーラップするルートパターンがダイヤルプランに含まれる場合、Unified Communications Manager は（ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても）桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。</p> <p>番号の優先順位を緊急としてマークすると、Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー（たとえば T302 タイマーサービスパラメータ）が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。</p>
+E.164 番号マスク (+E.164 Number Mask)	電話番号に適用する番号マスクを入力します。Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなる +E.164 代替番号を作成します。
+E.164 ルートパーティション (+E.164 Route Partition)	この +E.164 代替番号を割り当てるローカルルートパーティションを入力します。
インターコム フィールド (オプション)	
[インターコムディレクトリ番号 (Intercom Directory Number)]	<p>ダイヤル可能な電話番号を入力します。値には、数字とルートパターンワイルドカード、および (.) と (@) を除く特殊文字を使用できます。</p> <p>入力した電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。</p> <p>国際番号用のエスケープ文字 + を使用する場合は、電話番号の先頭に \+ と入力します。このフィールドでは、\+ はワイルドカードを表しません。このフィールドに入力する \+ はダイヤルされる数字を表します。</p>
[インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)]	<p>この電話番号が属するパーティションを入力します。[インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)] フィールドに入力した電話番号が、選択するパーティション内で一意であることを確認してください。</p> <p>(注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。</p>
説明	電話番号とルートパーティションの説明を入力します。

フィールド	説明
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	発信側電話機に表示する名前を入力します。 この設定は、QSIG プロトコルの ID サービスをサポートし、共有または非共有の電話番号に適用されます。
ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)	このフィールドは [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのは ASCII 文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)] フィールドの内容が表示されます。
インターコム電話番号の設定	
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	該当するコーリング サーチ スペースを入力します。コーリング サーチスペースは、この電話番号からコールを発信できる番号を検索するための、パーティションのリストで構成されます。選択した値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[インターコムプレゼンスグループ (Intercom Presence Group)]	この電話番号のプレゼンス グループを入力します。選択したグループは、この電話番号をモニタできるデバイス、エンドユーザ、アプリケーションユーザを指定します。
[インターコム表示 (Intercom Display)]	システムに内線番号を表示させるには、このフィールドを空白にします。 最大 30 文字の英数字を使用します。通常はユーザ名または電話番号を使用します (電話番号を使用すると、コール受信者が発信者を的確に認識できない場合があります) 。
[インターコムASCII表示 (Intercom ASCII Display)]	このフィールドは [表示 (内部発信者 ID) (Display (Internal Caller ID))] フィールドと同じ情報を提供しますが、入力は ASCII 文字に制限する必要があります。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 表示 (ASCII Display)] (内線発信者 ID) フィールドの内容が表示されます。
[インターコム回線テキストラベル (Intercom Line Text Label)]	このフィールドは、ラインアピラン스에 インターコム電話番号を表示させない場合にだけ使用します。回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。
[インターコムスピードダイヤル (Intercom Speed Dial)]	ユーザがスピードダイヤルボタンを押したときにダイヤルされる電話番号を入力します。入力できるのは、数字の 0 から 9 まで、*、#、および + (国際エスケープ文字) です。

フィールド	説明
[インターコム外線電話番号マスク (Intercom External Phone Number Mask)]	この回線からコールが発信されたときに、発信者ID情報を送信するために使用する電話番号（またはマスク）を入力します。 24桁までの数値、国際番号用のエスケープ文字+、文字「X」を入力できます。「」Xは電話番号を表し、パターンの末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク972813XXXXを指定すると、内線1234による外部コールにより、発信者IDの番号として9728131234が表示されます。
[インターコム発信者名 (Intercom Caller Name)]	コール転送時に発信者名を表示できるようにするには、「T」と入力します。表示を無効にするには、「F」と入力します。
[インターコム発信者番号 (Intercom Caller Number)]	コール転送時に発信者番号を表示できるようにするには、「T」と入力します。表示を無効にするには、「F」と入力します。
[インターコムコール録音オプション (Intercom Call Recording Option)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [コール録音を無効 (Call Recording Disabled)] : エージェントがこのラインアピラン스에発信したコールは録音されません。 • [自動コール録音を有効 (Automatic Call Recording Enabled)] : エージェントがこのラインアピラン스에発信したコールは自動的に録音されます。 • [アプリケーションから呼び出されたコール録音を有効 (Application Invoked Call Recording Enabled)] : アプリケーションがコール録音を開始した場合、エージェントがこのラインアピラン스에発信したコールは録音されます。
[インターコム録音プロファイル (Intercom Recording Profile)]	エージェントのラインアピラン스의録音プロファイルを入力します。
[インターコムモニタリング用コーリング サーチスペース (Intercom Monitoring Calling Search Space)]	スーパーバイザの回線表示のモニタリング用コーリングサーチスペースに、エージェントの回線またはデバイスパーティションを含めてエージェントをモニタできるようにします。 既存のコーリングサーチスペースを入力します。 デフォルト値は[なし (None)]です。
自動応答 (Auto Answer)	次のいずれかのオプションを入力して、この電話番号の自動応答機能を有効にします。 <ul style="list-style-type: none"> • Auto Answer Off (デフォルト) • [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] • [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] (注) 回線が共有されているデバイスに自動応答を設定することはできません。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データファイルの作成](#) (116 ページ)

Jabber デバイスの更新

Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration (BAT) を使用すると、管理者は、Cisco Unified CM Administration のユーザーインターフェイスを使用して、LDAP 同期中に作成された自動プロビジョニングされた Cisco Jabber デバイスの名前を簡単かつ効率的に変更できます。

Jabber デバイスの名前の変更

始める前に

- すべての Cisco Jabber デバイスは、Unified CM サーバにすでに存在している必要があります。
- 新しい Cisco Jabber デバイス名に名前を変更する古い Cisco Jabber デバイス名のリストを含むテキスト (.txt) 形式のデータファイルが必要です。
- フィールドの値にカンマが含まれている場合、そのフィールドは二重引用符で囲む必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] [電話 (Phones)] [電話の更新 (Update Phones)] [クエリ (Query)] の順に選択します。
 - ステップ 2** [電話の移行情報 (Phone Migration Information)] セクションの [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリスト ボックスで、アップロードしたファイルを選択します。
 - ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
 - ステップ 4** デバイス名を更新する方法を選択します。以下のいずれかを実行。
 - すぐにユーザを更新するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] を選択します。
 - デバイス名を後で挿入するには、[後で実行 (Run Later)] を選択します。
 - ステップ 5** EMCC デバイスを更新するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
このジョブをスケジュールまたはアクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
-



第 5 章

電話ファイル形式

この章では、テキストエディタを使用して作成された CSV データ ファイルのファイル形式を設定する方法について説明します。

- [テキストエディタによる電話用 CSV データ ファイルの作成 \(151 ページ\)](#)
- [電話ファイル形式の検索 \(152 ページ\)](#)
- [CSV データ ファイル用の電話機ファイル形式の設定 \(153 ページ\)](#)
- [テキストベースのファイル形式と CSV データファイルの関連付け \(157 ページ\)](#)

テキストエディタによる電話用 CSV データ ファイルの作成

値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用して、CSV データ ファイルを作成できます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルは、テキスト情報を表形式で提供します。

CSV データ ファイル内のデバイス フィールドと回線フィールドを識別するには、次のいずれかのファイル形式オプションを使用します。

- [デフォルトの電話機 (Default Phone)] : 事前設定済みの電話機のデバイス フィールドと回線フィールドのセットが含まれています。
- [シンプルな電話機 (Simple Phone)] : 電話機の基本的なデバイス フィールドと回線フィールドが含まれています。
- [カスタム (Custom)] : 自分で選択して並べたデバイス フィールドと回線フィールドが含まれています。

[シンプルな電話機 (Simple Phone)] または [デフォルトの電話機 (Default Phone)] のファイル形式を変更または削除することはできません。



- (注) Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) スプレッドシートを使用して CSV データファイルを作成する場合は、スプレッドシート内でこのファイル形式を作成できます。テキストエディタを使用して CSV データファイルを作成する場合は、ファイル形式を作成するか、シンプルまたはデフォルトのファイル形式を使用する必要があります。値は、テキストベースのファイルに、ファイル形式で指定されているのと同じ順序で入力します。

関連トピック

[電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (798 ページ)

電話ファイル形式の検索

BAT を使用して、電話ファイル形式を検索できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。
[電話ファイル形式の検索/一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [形式名による電話ファイル形式の検索 (Find Phone File Format where Format Name)] ドロップダウンリスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- で始まる
 - を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - が空ではない
- ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ヒント すべての電話形式を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(152 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(152 ページ\)](#) を繰り返します。
- ヒント 指定したテキストをクリアするには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] をクリックします。
- ステップ 5** レコードのリストから、検索条件と一致するファイル形式名をクリックします。

[電話ファイル形式の作成 (Create Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

関連トピック

[電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(798 ページ\)](#)

CSV データ ファイル用の電話機ファイル形式の設定

CSV データ ファイル用の電話機ファイル形式を作成、コピー、変更、および削除できます。

テキスト エディタを使用したカスタム電話機ファイル形式の作成

テキスト エディタを使用して、テキストベースの CSV データファイルのカスタム電話機ファイル形式を作成できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

ステップ 3 [形式名 (Format Name)] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。

ステップ 4 カスタム ファイル形式に表示するフィールドを選択します。次の手順を実行します。

- デバイスフィールドを選択するには、[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスでデバイス フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データファイルには、[MAC アドレス/デバイス名 (MAC Address/Device Name)] と [説明 (Description)] が含まれている必要があります。そのため、これらのフィールドは常に選択されたままになります。

ヒント リスト内のアイテムの範囲を選択するには、**Shift** キーを押したままにします。ランダムなフィールド名を選択するには、**Ctrl** キーを押しながらフィールド名をクリックします。

- [回線フィールド (Line Field)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
- [インターコム DN フィールド (Intercom DN Field)] ボックスでインターコム DN フィールド名をクリックし、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックスに移動します。

ヒント [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックス、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックス、および [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックス内のアイテムの順序を変更できます。アイテムを選択して、上矢印と下矢印を使用してそのフィールドをリスト内で上下に移動します。

ステップ 5 [IP 電話サービスの最大数 (IP Phone Services Maximums)] 領域で、以下のフィールドに最大値を入力します。

- 短縮ダイヤルの最大数 (Maximum Number of Speed Dials)
- BLF 短縮ダイヤルの最大数 (BLF Maximum Number of Speed Dials)
- BLF ダイレクト通話パークの最大数 (Maximum Number of BLF Directed Call Parks)
- IP 電話サービスの最大数 (Maximum Number of IP Phone Services)
- IP 電話サービスパラメータの最大数 (Maximum Number of IP Phone Service Parameters)

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。

[電話ファイル形式の検索/一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウの [ファイル形式名 (File Format Names)] リストに、カスタム ファイル形式の名前が表示されます。

関連トピック

[電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(798 ページ\)](#)

CSV データ ファイル用のカスタム電話機ファイル形式のコピー

テキストベースの CSV データ ファイル用に既存のカスタム電話機ファイル形式をコピーできます。

手順

ステップ 1 コピーする電話機ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式を選択します。

[電話機ファイル形式の設定 (Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 選択したファイル形式のコピーを作成するには、[コピー (Copy)] をクリックします。

ヒント また、[電話ファイル形式の検索/一覧表示 (Find and List Phone File Formats)] ウィンドウの対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックしてファイル形式をコピーすることもできます。

ステップ 4 [形式名 (Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。

ステップ 5 コピーしたファイル形式に表示するフィールドを変更します。次の手順を実行します。

- a) ファイル形式に新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)]、[回線フィールド (Line Fields)]、または[インターコムDNフィールド (Intercom DN Fields)] ボックス内のフィールド名をクリックし、矢印をクリックして、フィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Field)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックスに移動します。
- b) ファイル形式からフィールドを削除するには、[選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Field)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックス内のフィールド名をクリックし、矢印をクリックして、フィールドを [デバイス フィールド (Device Fields)]、[回線フィールド (Line Fields)]、または [インターコム DN フィールド (IntercomDNFields)] ボックスに移動します。
 - (注) 必須フィールドである [回線数 (Number of lines)]、[MACアドレス (MAC address)]、および [説明 (description)] は削除できません。
- c) [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Field)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、および [選択済みのインターコムDNフィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックス内のアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択し、上矢印と下矢印を使ってそのフィールドをリスト内で上下に移動します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。
ファイル形式の編集後のコピーが保存されます。

関連トピック

[電話ファイル形式の検索](#) (152 ページ)

CSV データ ファイル用のカスタム ファイル形式の変更

テキストベースの CSV データ ファイルに関する既存のカスタム ファイル形式を変更できます。変更できるのはカスタム形式だけです。

手順

-
- ステップ 1** 変更する電話機ファイル形式を検索します。
 - ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、変更対象となるファイル形式を選択します。
[電話機ファイル形式の設定 (Phone File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3** ファイル形式内のフィールドを変更するには、次の手順を実行します。
 - a) ファイル形式に新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)]、[回線フィールド (Line Fields)]、または[インターコムDNフィールド (Intercom DN Fields)] ボックス内のフィールド名をクリックし、矢印をクリックして、フィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Field)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックスに移動します。

- b) ファイル形式からフィールドを削除するには、[選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Field)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、または [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックス内のフィールド名をクリックし、矢印をクリックして、フィールドを [デバイス フィールド (Device Fields)]、[回線フィールド (Line Fields)]、または [インターコム DN フィールド (IntercomDNFields)] ボックスに移動します。

(注) 必須フィールドである [回線数 (Number of lines)]、[MACアドレス (MAC address)]、および [説明 (description)] は削除できません。

- c) [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Field)]、[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]、および [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックス内のアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択し、上矢印と下矢印を使ってそのフィールドをリスト内で上下に移動します。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

カスタム ファイル形式の変更内容が保存されます。

関連トピック

[電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(798 ページ\)](#)

[電話ファイル形式の検索 \(152 ページ\)](#)

既存の CSV データ ファイル形式の削除

CSV データ ファイル用の既存のカスタム ファイル形式を削除できます。削除できるのはカスタム形式だけです。

手順

ステップ 1 編集する電話機ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、それが削除対象のファイルであることを確認します。

ステップ 3 リストからファイル形式を削除するには [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。ファイル形式の削除の確認を求めるメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続行します。

ヒント [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックする前に、表示されている結果リストの全体を必ず確認してください。

リストからファイル形式の名前が削除されます。

関連トピック

[電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(798 ページ\)](#)

[電話ファイル形式の検索 \(152 ページ\)](#)

テキストベースのファイル形式と CSV データファイルの関連付け

テキストエディタを使用して CSV データファイルを作成した際に、テキストベースのファイルに値を入力するため、ファイル形式を作成しました。ファイル形式によって指定された順序でテキストファイルに値を入力しました。

CSV データファイルに入力した後、ファイル形式をテキストベースの CSV データファイルと関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルと関連付けると、各フィールドの名前は CSV データファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、正しい順序で各フィールドに値を入力したことを確認できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話ファイル形式 (Phone File Format)] > [ファイル形式の追加 (Add File Format)] の順に選択します。[ファイル形式の追加 (Add File Format)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ファイル形式名 (Format File Name)] フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** 一致するファイル形式を CSV データファイルと関連付けるジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールおよび/またはアクティブ化します。

関連トピック

[電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(798 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 6 章

電話レコードの検証

この章では、電話機レコードの検証について説明します。[電話の確認 (Validate Phones)] を選択すると、システムで検証ルーチンが実行され、CSV データファイルと Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) の電話テンプレートでデバイスプールや場所などの必須フィールドがすべて設定されていることが検査されます。この検証では、最初のノードのデータベースとの不一致がないかどうかも検査されます。

追加するデバイスには BAT 電話機テンプレートが必要です。単一回線または複数回線の電話機を追加するには、複数回線を持つ標準電話テンプレートを使用できます。電話機またはその他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細が含まれたカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルも必要です。

- [CSV データファイルの電話機レコードの確認 \(159 ページ\)](#)
- [電話機レコードの検証関連のトピック \(161 ページ\)](#)

CSV データファイルの電話機レコードの確認

CSV データファイルの電話機レコードは確認することができます。

始める前に

- 追加するデバイスには BAT 電話機テンプレートが必要です。単一回線または複数回線の電話機を追加するには、複数回線を持つ標準電話テンプレートを使用できます。
- 電話機またはその他の IP テレフォニー デバイスに固有の詳細が含まれたカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが必要です。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の確認 (Validate Phones)] の順に選択します。
[電話の設定の確認 (Validate Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** カスタマイズされたファイル形式を使用する電話機レコードを確認するには、[電話固有の詳細の確認 (Validate Phones Specific Details)] オプション ボタンをクリックして、[ステップ 4 \(160 ページ\)](#) と [ステップ 5 \(160 ページ\)](#) を続けて行います。
- ステップ 3** [すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して生成したエクスポートされた電話ファイルから電話機レコードを確認するには、[電話のすべての詳細の確認 (Validate Phones All Details)] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** [ファイル名 (FileName)] ドロップダウンリストで、この特定のバルクトランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。
- ステップ 5** [固有の詳細 (Specific Details)] オプションの [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウンリスト ボックスで、このタイプの一括トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 6** 選択した CSV データファイルを最初のノードのデータベースで確認するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
ジョブが即座に送信されて実行されます。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [標準電話テンプレート \(10 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [電話機レコードの検証関連のトピック \(161 ページ\)](#)

電話の確認に関する考慮事項

電話の確認には次の制限があります。

- 確認プロセスで確認されるのは、テンプレートに設定されている回線の数のみです。テンプレートに設定されている回線番号は確認されません。電話テンプレートでサポートされる数より多くの回線が CSV データファイルに含まれている場合、[電話の確認 - 固有の詳細 (Validate Phones - Specific Details)] ジョブを実行すると、「警告 : CSV に電話テンプレートでサポートされているより多くの回線が含まれています (WARNING: CSV contains more number of lines than are supported by the phone template)」というメッセージがログに記録されます。[電話番号 (Directory Numbers)]、[短縮ダイヤル (Speed dial)]、および [ビジー ランプ フィールド スピード ダイヤル (Busy Lamp Field Speed Dials)] フィールドが 1 つでも空白になっている場合、サマリ ログ ファイルに記録される警告メッセージは正確でない可能性があります。
- 確認プロセスでは、CSV ファイルで必須フィールドが指定されているかどうかは確認されません。
- 電話テキスト ファイルで IP Phone サービス パラメータが指定されている場合、確認プロセスで確認されるのは、Cisco Unified Communications Manager 上の CSV ファイルで指定されている名前のパラメータの有無だけです。指定されているパラメータが IP Phone サービスで設定されているかどうかは確認されません。

電話機レコードの検証関連のトピック

- [電話テンプレート \(31 ページ\)](#)



第 7 章

電話の挿入

この章では、電話機、Cisco VGC Phone、CTI ポート、または H.323 クライアントを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する方法について説明します。

追加するデバイス用の Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) 電話テンプレート、および電話機またはその他の IP テレフォニーデバイス用の固有の詳細が含まれたカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが必要です。データファイルアップロードのターゲットと方法を選択することができます。電話機レコードは、挿入前に検証する必要があります。

- [Unified Communications Manager への電話の挿入 \(163 ページ\)](#)
- [電話の挿入関連のトピック \(166 ページ\)](#)

Unified Communications Manager への電話の挿入

電話機レコードを Unified Communications Manager データベースに挿入するときは、ターゲット CSV データファイルと、電話機レコードの挿入方法を定義します。既存の電話機レコードを上書きするには、次の操作から任意の組み合わせを選択します。または、アップロード時にレコードを挿入することもできます。

- 新しいスピードダイヤルを追加する前に既存のすべての短縮ダイヤルを削除
- 新しい BLF 短縮ダイヤルを追加する前に既存のすべての BLF 短縮ダイヤルを削除
- 新しい BLF ダイレクトコールパークを追加する前に既存のすべての BLF ダイレクトコールパークを削除
- 新しいサービスを追加する前に既存の登録済みサービスをすべて削除



(注) 電話機レコードは、挿入前に検証する必要があります。



(注) BAT は、次の形式による電話番号 URI フィールドを想定しています。

電話番号 1 での URI 1、電話番号 1 での URI 1 ルートパーティション、電話番号 1 での URI 1 プライマリ。

ダミー MAC アドレス オプションを使用できます。CTI ポートを追加するときこのオプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、各 CTI ポートに一意のデバイス名が指定されます。このデバイス名は、後で Unified Communications Manager Administration または Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して手動で更新できます。ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ダミー MAC アドレス オプションは、自動的に、次の形式でダミー MAC アドレスを生成します。

XXXXXXXXXXXX

ここで、X は、任意の 12 文字の 16 進数値 (0 ~ 9 と A ~ F) を表します。

始める前に

- 追加するデバイス用に、Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) の電話テンプレートが必要です。データファイルアップロードのターゲットと方法を選択することができます。電話機レコードは、挿入前に検証する必要があります。
- 電話機または他の IP テレフォニー デバイス固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが必要です。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の挿入 (Insert Phones)] の順に選択します。

ステップ 2 アップロードする電話機レコードのファイル形式タイプを指定します。

- a) カスタマイズされたファイル形式を使用する電話機レコードを挿入するには、[電話固有の詳細の挿入 (Insert Phones Specific Details)] ラジオ ボタンをクリックして、[ステップ 3 \(164 ページ\)](#) と [ステップ 5 \(165 ページ\)](#) に進みます。
- b) [すべての詳細 (All Details)] オプションを使用して生成したエクスポート済みの電話ファイルから電話レコードを挿入するには、[電話のすべての詳細の挿入 (Insert Phones All Details)] ラジオ ボタンをクリックします。

ステップ 3 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストボックスで、この特定の一括トランザクションのために作成した CSV データファイルを選択します。次に、[カスタムファイルを使用した電話の更新の許可 (Allow Update Phone with Custom File)] チェックボックスをオンにして、選択したカスタム ファイルを使用して電話機を更新できるようにします。

ステップ 4 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存の電話の設定が、挿入するファイルに含まれている情報で上書きされます。次に、アップロード中に実行するアップロードアクションの横にあるチェックボックスをオンにします。

[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにした場合は、次のアップロードアクションが選択可能になります。

- 新しい短縮ダイヤルを追加する前に既存のすべての短縮ダイヤルを削除
- 新しい BLF 短縮ダイヤルを追加する前に既存のすべての BLF 短縮ダイヤルを削除

- 新しい BLF ダイレクトコールパークを追加する前に既存のすべての BLF ダイレクトコールパークを削除
- 新しいサービスを追加する前に既存の登録済みサービスをすべて削除

(注) アップロード時に CSV データファイルの既存のレコードにこれらのレコードを追加する場合は、このチェックボックスをオフにします。

ステップ 5 [固有の詳細 (Specific Details)] オプションを選択した場合は、[電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウンリストで、このタイプのバルク トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。

注目 CSV データファイルに個別の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。この情報は後で手動で更新できます。[ステップ 8 \(165 ページ\)](#) にスキップします。データ入力ファイルで MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスがわからない場合には、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイス用に MAC アドレスが登録されます。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに電話機レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で電話レコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュール設定またはアクティブ化するには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

次のタスク

挿入される電話機が Cisco Unified Mobile Communicator タイプである場合は、挿入ジョブの完了後にデバイスをリセットする必要があります。電話機をリセットするには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] オプションを使用できます。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

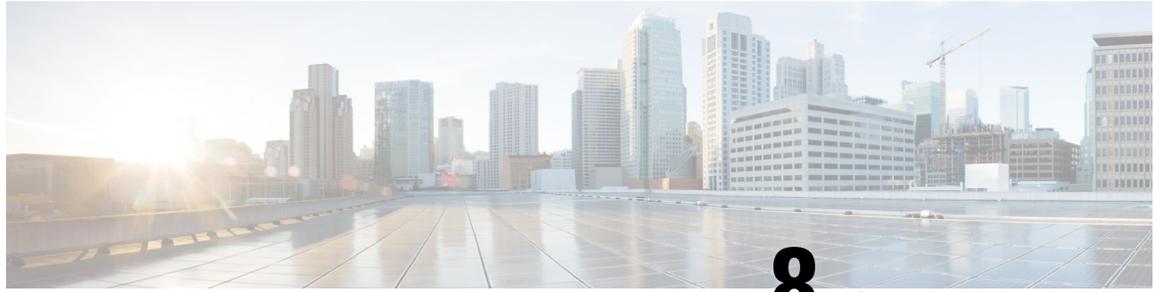
[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[TAPS の概要 \(741 ページ\)](#)

[電話の挿入関連のトピック \(166 ページ\)](#)

電話の挿入関連のトピック

- [電話テンプレート \(31 ページ\)](#)
- [電話ファイル形式 \(151 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)
- [電話レコードの検証 \(159 ページ\)](#)



第 8 章

電話の更新

この章では、[電話の更新 (Update Phones)] オプションを使用して、類似した電話のグループのデバイス プールまたはコーリング サーチ スペースの変更や追加など、電話の設定を更新する方法について説明します。クエリまたはカスタム ファイルのいずれかを使用して、更新する既存の電話機レコードを検索できます。電話機レコードを見つけたら、更新パラメータの定義に進むことができます。

- [クエリを使用した電話機の更新 \(167 ページ\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の更新 \(169 ページ\)](#)
- [更新パラメータの選択 \(170 ページ\)](#)
- [電話の更新フィールドの説明 \(171 ページ\)](#)

クエリを使用した電話機の更新

更新する電話機を特定するためのクエリを作成します。次の手順に従って電話機を特定した後、更新パラメータを選択する必要があります。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の更新 (Update Phones)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。

[電話機更新クエリ (Update Phones Query)] ウィンドウが表示されます。

(注) すべての電話機を更新するには、クエリを指定せずに [検索 (Find)] をクリックします。この手順の残りをスキップして、電話機の更新パラメータの選択手順に進みます。

ステップ 2 [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [デバイス名 (Device Name)]
- 説明

- 電話番号 (Directory Number)
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]
- LSC ステータス
- LSC 有効期限
- LSC 発行者
- LSC 発行者有効期限
- 認証文字列
- [所在地 (Location)]
- 電話機ロード名
- デバイス プロトコル
- セキュリティ プロファイル
- 最終アクティブ時
- 最終登録

(注) [LSC有効期限 (LSC Expires)]フィールドと [LSC発行者有効期限 (LSC Issuer Expires by)]フィールドのステータスは、新しいデバイスで LSC が発行されていない場合に [NA] 「」に設定されます。

[LSC有効期限 (LSC Expires)]フィールドと [LSC発行者有効期限 (LSC Issuer Expires by)]フィールドのステータスは、Unified Communications Manager11.5(1) へのアップグレード前に LSC がデバイスに発行された場合に 「[不明 (Unknown)]」 に設定されます。

2 番目の [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ～が次の日付より前 (is before)
- 次の文字列と完全に一致する
- ～が次の日付より後
- ～で始まる
- ～を含む
- ～が次の文字列で終わる
- 次の文字列と完全に一致する
- 空である
- ～が空ではない

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

- ステップ 4** さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(167 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(168 ページ\)](#) を繰り返します。
- ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。
検出された電話の一覧が表示されます。[電話の更新 (Update Phones)] ウィンドウに、選択した電話機の詳細が表示されます。

次のタスク

電話機の更新手順を完了するには、[更新パラメータの選択 \(170 ページ\)](#) に進みます。

カスタム ファイルを使用した電話機の更新

更新する電話機を特定するためのカスタムファイルを作成します。次の手順に従って電話機を特定した後、更新パラメータを選択する必要があります。



-
- (注) bat.xlt を使って作成した挿入トランザクションファイルまたはエクスポート トランザクションファイルを、更新トランザクションに使用しないでください。代わりに、更新する必要のある電話機レコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。更新トランザクションには、このファイルだけを使用してください。
-

始める前に

- 更新する必要のあるデバイスを特定します。
- 以下の各オプションがそれぞれ別の行に配置されたテキスト ファイルを作成します。
 - デバイス名
 - 電話番号
 - 説明



-
- (注) カスタム更新ファイルにデバイス名、説明、または電話番号の値を入力します。カスタム更新ファイルに見出しを含める必要はありません。
-
- テキストファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の更新 (Update Phones)] > [カスタムファイルの使用 (Use Custom File)] の順に選択します。

[電話の更新 (カスタム) (Update Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [電話の更新 (Update Phones where)] ドロップダウンリストボックスで、次の条件から作成したカスタム ファイルのタイプを選択します。

- [デバイス名 (Device Name)]
- Directory Number
- 説明

ステップ 3 カスタム ファイルのリストで、この更新操作のカスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックします。

適切なクエリ結果が表示されない場合は、カスタム ファイルの選択を変更できます。

次のタスク

電話機の更新手順を完了するには、[更新パラメータの選択 \(170 ページ\)](#) に進みます。

更新パラメータの選択

更新する電話を特定したら、パラメータを選択し、それらの電話を更新するための値を定義できます。

手順

ステップ 1 [電話の更新クエリ (Update Phones Query)] ウィンドウで、[次へ (Next)] を選択します。

[電話の更新 (Update Phones)] に、選択しているクエリのタイプが表示されます。クエリのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。

ステップ 2 更新する前にユーザをログアウトするには、[更新する前にユーザをログアウトする (Logout Users before Update)] チェックボックスをオンにします。

フィールドが選択されていない場合、ユーザを一括してログアウトするために、このオプションを使用できます。

ステップ 3 クエリまたはカスタムファイルで定義したすべてのレコードで更新する設定を指定します。更新する複数のパラメータを選択できます。パラメータの説明については、「[表 6: 電話を更新する際のフィールドの説明 \(172 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 4 更新するフィールドの左側にあるチェックボックスをオンにします。

この操作によって、フィールドの既存の値を上書きするよう BAT に指令が出されます。

(注) 更新チェックボックスをオンにしたフィールドのみが BAT によって更新されることに注意してください。

ステップ 5 オンにしたパラメータの [値 (Value)] フィールドに、新しい値を入力するか、リストボックスから値を選択します。

ステップ 6 [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] 領域で、次のいずれかをオンにします。

- [電話のリセット/電話のリスタート/設定の適用を実行しない (Don't Reset/Restart phones/Apply Config)] : 後でデバイスのリセット/リスタートを実行します。
- [電話のリセット (Reset phones)] : 電話機をリセット (電源の入れ直し) します。
- [電話のリスタート (Restart phones)] : 電源を入れ直さずに電話機をリセットします。
- [設定の適用 (Apply Config)] : 最後のリセット以降に変更された設定のみをリセットします。

ステップ 7 必要な電話パラメータを更新します。フィールドの説明については、「[表 6: 電話を更新する際のフィールドの説明 \(172 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 8 レコードを更新するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブにします。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

電話の更新フィールドの説明

次の表で、電話を更新する際に表示される可能性のあるすべてのフィールドの説明を記載します。デバイスタイプによっては、電話の設定項目の一部は必要ありません。

一部のフィールドには、Cisco Unified Communications Manager からの値が表示されます。それらの値は、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定する必要があります。



(注) 一部のフィールドには2つのチェックボックスがあることに注意してください。最初のチェックボックスは、そのフィールドを更新する必要があるかどうかを決定し、2番目のチェックボックスはそのフィールドに使用する値を決定 (オン/オフ) します。



ヒント フィールドを更新する必要がある場合は、最初のチェックボックスをオンにした上で、2番目のフィールドをオンにして、オンになっている値を選択した電話に適用します。たとえば、[応答不可 (Do Not Disturb)]フィールドの最初のチェックボックスをオンにして、2番目のチェックボックスをオフのままにすると、[応答不可 (Do Not Disturb)]フィールドのオフにされている値で電話が更新されます。

表 6: 電話を更新する際のフィールドの説明

フィールド	説明 (Description)
説明 (Description)	デバイスを認識するのに役立つ説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
デバイスプール (DevicePool)	この電話機/ポートのグループを割り当てるデバイスプールを選択します。デバイスの場合、デバイスプールは、自動再登録に必要な共通の特性 (地域、日時グループ、Unified Communications Manager グループ、コーリングサーチスペースなど) のセットを定義します。
共通デバイス設定 (Common Device Configuration)	この電話機を割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられている属性 (サービスまたは機能) が含まれています。 共通デバイス設定の詳細を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。
電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)	適切な電話ボタンテンプレートを選択します。電話ボタンテンプレートでは、電話機上のボタンを設定し、各ボタンにどの機能 (回線、スピードダイヤルなど) を使用するかを特定します。 Cisco Unified Communications Manager は、H.323 クライアントまたは CTI ポートに対してはこのフィールドを無効にします。
ソフトキーテンプレート (Softkey Template)	このグループのすべての電話機に使用するソフトキーテンプレートを選択します。
共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)	ドロップダウンリストで、使用可能な共通の電話プロファイルのリストから共通の電話プロファイルを選択します。

フィールド	説明 (Description)
コーリングサーチスペース (Calling Search Space)	この電話機/ポートのグループを割り当てるコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。
AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)	自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する、適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされる場合に、ルートパーティションのコレクションを指定します。このルートパーティションは、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されます。
メディアリソースグループリスト (Resource Group List)	この電話機/ポートのグループを割り当てるメディアリソースグループリスト (MRGL) を入力します。 MRGL は、メディアリソースグループの優先順位付けされたリストを指定します。アプリケーションは使用可能なメディアリソースの中から MRGL で定義されている優先順位の順に、必要なメディアリソースを選択できます。
ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)	この電話機またはポートのユーザ保留音源を選択します。 ユーザ保留音源は、ユーザがコールを保留にすると保留音を再生します。
ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)	IP フォンまたは CTI ポートのグループで使用するネットワーク保留音源を入力します。 ネットワーク保留音源は、システムがコールを保留にする際 (ユーザがコールを転送またはパーク保留にした場合など) に、保留音を再生します。
所在地 (Location)	この電話機/ポートのグループを割り当てるロケーションを選択します。 ロケーションは、制限された帯域幅接続を使用してアクセスするリモートロケーションを意味します。
AARグループ (AAR Group)	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AARグループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AARグループが指定されていない場合、Cisco Unified Communications Manager はデバイスプールまたは回線に関連付けられている AAA グループを使用します。

フィールド	説明 (Description)
ユーザ ロケール (User Locale)	このユーザに関連付ける国/地域と言語の組み合わせを選択します。 この選択項目によって、このユーザーの文化に依存する属性と、Unified Communications Manager のユーザーウィンドウおよび電話機でユーザーに表示される言語が決まります。
ネットワーク ロケール (Network Locale)	このユーザに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。 ネットワーク ロケールは、Cisco ゲートウェイおよび電話機が特定の地理的地域で PSTN およびその他のネットワークと通信する際に使用する一連のトーンとリズムで構成されます。
ビルトインブリッジ (Built In Bridge)	[ビルトインブリッジ (Built In Bridge)] ドロップダウンリストを使用して ([On (オン)]、[Off (オフ)]、または[デフォルト (Default)]を選択)、割り込み機能用のビルトイン会議ブリッジを有効または無効にします。
プライバシー (Privacy)	プライバシーが必要な電話機のそれぞれに対して、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウンリストから [オン (On)] を選択します。 設定の詳細については、『 <i>Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager</i> 』の「Barge and Privacy Features」を参照してください。
デバイスモビリティ モード (Device Mobility Mode)	ドロップダウンリストから、このデバイスのデバイス モビリティ機能をオンまたはオフにします。デフォルトのデバイス モビリティ モードを使用する場合は、[デフォルト (Default)] を選択します。 [現在のデバイス モビリティ設定の表示 (View Current Device Mobility Settings)] をクリックし、これらのデバイス モビリティパラメータの現在の値を表示します。 <ul style="list-style-type: none"> • [Cisco Unified Communications Managerグループ (Cisco Unified Communications Manager Group)] • デバイス プールのローミング (Roaming Device Pool) • 所在地 (Location) • 地域 (Regions) • ネットワーク ロケール • AAR グループ (AAR Group) • AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space) • デバイス コーリング サーチ スペース (Device Calling Search Space) • [メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] • [SRST]

フィールド	説明 (Description)
[モビリティユーザID (Mobility User ID)]	<p>ドロップダウンリストから、このデュアルモード電話を割り当てるユーザのユーザ ID を選択します。</p> <p>(注) [モビリティユーザ ID (Mobility User ID)]設定は、デュアルモードフォンのモバイルコネクトおよびモバイルボイスアクセスに使用されます。</p> <p>(注) オーナーユーザ ID とモビリティユーザ ID は異なっていても構いません。</p>
[所有者のユーザ ID (Owner User ID)]	<p>プライマリ電話ユーザのユーザ ID を入力します。</p>
[電話機のパーソナライゼーション (Phone Personalization)]	<p>ドロップダウンリストボックスを使用して、このデバイスに対して Cisco Unified Phone Designer 機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)]を選択して共通の電話プロフィールに設定されている電話機のパーソナライゼーションを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [無効 (Disabled)] : Cisco Unified Phone Application Suite 機能はいつでもアクティブにされません。 • [有効 (Enabled)] : この設定では、パーソナライズされた背景画像ファイルを電話機の画面に使用したり、プレビュー画像ファイルを一時的に表示したり、パーソナライズされたトーンファイルでデフォルトの呼出音をカスタマイズしたりできます。 • [デフォルト (Default)] : 共通の電話プロフィールの電話機のパーソナライゼーション設定を使用します。

フィールド	説明 (Description)
[サービスのプロビジョニング (Services Provisioning)]	<p>ドロップダウンリストの次の値から、使用するサービスプロビジョニング設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内部 • 外部 URL • 両方 • デフォルト : [内部 (Internal)] <p>このパラメータは、設定ファイル (内部) 、サービス URL から受信するサービス (外部 URL) 、またはその両方にプロビジョニングされているサービスを電話機で使用するかを制御します。[外部URL (External URLs)] オプションは、サードパーティ製プロビジョニング サーバとの後方互換性を提供します。[両方 (Both)] オプションを選択すると、ユーザは設定ファイルに指定されているサービスにサブスクライブできるだけでなく、外部プロビジョニング サーバのサービスも追加することができます。</p> <p>これは必須フィールドです。</p>
[電話ロード名 (Phone Load Name)]	<p>必要に応じて、カスタム電話ロードを入力します。</p> <p>(注) このフィールドに入力する値によって、選択したモデルのデフォルト値がオーバーライドされ、Cisco Unified IP Phone のカスタム ソフトウェアが指定されます。</p>
ワンボタン割り込み (Single Button Barge)	<p>ドロップダウンリスト ボックスから、ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)] を選択してサービス パラメータの設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : この設定は、ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたはC 割り込み機能は引き続き動作します。 • [割込 (Barge)] : この設定は、ワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C割込 (cBarge)] : この設定は、ワンボタンC 割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : この設定は、サービス パラメータの Single Button Barge/cBarge の設定を使用します。

フィールド	説明 (Description)
複数ライン同時通話 (Join Across Lines)	<p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスの [回線をまたいで参加 (Join Across Lines)] 機能を有効または無効にするか、あるいは [デフォルト (Default)] を選択してサービスパラメータ設定を使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 複数ライン同時通話を無効にします。 • [オン (On)] : この設定は [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービスパラメータの [複数ライン同時通話機能 (Join Across Lines)] 機能の設定を使用します。
[信頼されたリレーポイントの使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストで、Cisco Unified Communications Manager がこのメディアエンドポイントにトラステッドリレーポイント (TRP) デバイスを挿入できるかどうかを選択します。次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : この値を選択した場合、デバイスは、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定を使用します。 • [オフ (Off)] : このデバイスでの TRP の使用を無効にするには、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 • [オン (On)] : このデバイスで TRP の使用を有効にする場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 <p>信頼できるリレーポイント (TRP) デバイスは信頼できるリレーポイントとしてラベル付けされている MTP またはトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>エンドポイントに複数のリソース (たとえばトランスコーダやRSVPAgent) が必要な場合、Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイントデバイスに最も近い位置に TRP を配置します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合は、TRP が必須の MTP として使用されます。</p>

フィールド	説明 (Description)
[発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発信側トランスフォーメーションCSSに、このデバイスに割り当てる発信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>発呼側トランスフォーメーションCSSが存在するパーティションにパターンを割り当てると、デバイスは発呼側トランスフォーメーションパターンの属性を取得します。</p>
[地理位置情報 (GeoLocation)]	<p>ドロップダウン リストから地理位置情報を選択します。</p> <p>[未指定の地理位置情報 (Unspecified geolocation)]を選択すると、このデバイスを地理位置情報に関連付けられないように指定できます。</p> <p>さらに、[システム (System)]>[地理位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]メニュー オプションで設定した地理位置情報も選択できます。</p>
[緊急ロケーション (ELIN) グループ (Emergency Location (ELIN) Group)]	<p>この電話機のグループを割り当てる緊急ロケーション (ELIN) グループを選択します。ELIN グループは、ALI データベース内でこの ELIN グループの ELIN をマップするロケーションを識別します。</p>
[機能コントロールポリシー (Feature Control Policy)]	<p>この電話機グループの機能管理ポリシーを選択します。</p> <p>機能管理ポリシーは、電話機に表示される機能とそれぞれの機能に関連付けられるソフトキーの外観を指定します。</p>
[BLF可聴アラート設定 (電話のアイドル時) (BLF Audible Alert Setting (Phone Idle))]	<p>この必須フィールドには、ドロップダウンリストボックスの次の値から、使用する BLF 警告音設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン • 消灯 • デフォルト <p>このパラメータは、話中ランプフィールド (BLF) ボタンを使用してモニタされる回線のいずれかにコールが入ってきたときに現在使用されていない電話機に表示されるビジュアルアラートに加え、警告音も指定します。</p>

フィールド	説明 (Description)
[BLF可聴アラート設定 (電話がビジーのとき) (BLF Audible Alert Setting (Phone Busy))]	<p>この必須フィールドのパラメータは、話中ランプフィールド (BLF) ボタンを使用してモニタされる回線のいずれかにコールが入ってきたときに現在使用されている電話機に表示されるビジュアルアラートに加え、警告音も指定します。</p> <p>ドロップダウン リスト ボックスの次の値から、使用する BLF 警告音設定を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン • 消灯 • デフォルト
常にプライム回線を使用する	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] の設定として次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン • 消灯 • デフォルト
ボイス メッセージに常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、[ボイス メッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] の設定として次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン • 消灯 • デフォルト
[デバイスプールの発信側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられているデバイスプールに設定されている発信側トランスフォーメーションCSSを使用する場合は、このボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、デバイスはデバイス設定ウィンドウで設定した発信側トランスフォーメーションCSSを使用します。</p>
[表示インジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators)]	<p>システムで表示インジケータを無視する必要がある場合は、このチェックボックスをオンにします。</p>

フィールド	説明 (Description)
[ビデオ コールをオーディオとして再試行 (Retry Video Call as Audio)]	ビデオ コールをオーディオ コールとして再試行するには、このチェックボックスをオンにします。
[CTIからのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>CTI に対してこのデバイスの制御と監視を許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>関連付けられている電話番号が共有回線を指定している場合、少なくとも1つの関連付けられているデバイスがCTIでサポートするデバイスタイプとプロトコルの組み合わせをサポートしている限り、このチェックボックスをオンのままにする必要があります。</p> <p>(注) WiFi モードで動作している Android、iPhone、iPad などの Cisco デュアルモードデバイス (Jabber) は、CTI を介してモニターされ、制御されません。ただし、GSM モードで動作しているデバイスはモニターまたは制御できません。</p>
[ハントグループにログイン (Logged Into Hunt Group)]	<p>このチェックボックスは、すべての電話機に対してデフォルトでオンにされていて、電話機が現在ハントリスト (グループ) にログインしていることを示します。電話機をハントリストに追加したら、管理者はこのチェックボックスをオン (またはオフ) にすることによって、ユーザをログインまたはログアウトさせることができます。</p> <p>ユーザーは電話のソフトキーを使用して、電話をハントリストにログインまたはログアウトします。</p>
[リモートデバイス (Remote Device)]	<p>SCCPでリモートサイトへの接続時間の遅延が発生している場合は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウで [リモートデバイス (Remote Device)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は電話デバイスの登録時にバッファを割り当て、SCCP メッセージを電話機にバンドルします。</p> <p>(注) この機能はリソースを消費するため、SCCP を実行している電話機で、シグナリングの遅延が発生している場合にのみ、このチェックボックスをオンにしてください。ほとんどのユーザでは、このオプションは必要ありません。</p>
[保護されたデバイス (Protected Device)]	電話機を保護されたデバイスとして指定するには、このチェックボックスをオンにします。「」この場合、電話機が2秒間トーンを再生してユーザにコールが暗号化されていることを通知します。また、発信側と着信側の両方の電話機が保護されたデバイスとして設定されます。このトーンは、コールが応答されたとき、発信側と着信側の両者に対して再生されます。このトーンは、発側と着側の両方の電話が「保護され」ていて、なおかつ暗号化メディア上でコールが行われたときでなければ再生されません。

フィールド	説明 (Description)
[プロトコル固有の情報 (Protocol Specific Information)]	
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、シグナルパケットキャプチャに設定するモードを選択します。</p> <p>[なし (None)]: モードを指定しない場合は、[なし (None)]を選択します。</p> <p>[リアルタイムモード (Real-Time Mode)]: リアルタイムシグナルパケットキャプチャには、このモードを使用します。</p> <p>[バッチ処理モード (Batch Processing Mode)]: バッチ処理シグナルパケットキャプチャモードには、このモードを使用します。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]	パケットキャプチャ時間 (分数) を入力します。入力できる最大の時間は 300 分です。デフォルトの時間は、60 分です。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	<p>プレゼンス機能で使用します。SIP または SCCP を実行する電話機は、プレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話機で BLF スピードダイヤル ボタンとして設定されている電話番号など) を要求するため、ウォッチャとして機能します。</p> <p>プレゼンスエンティティのステータスを電話機が受信できるようにするには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスの閲覧が許可されているプレゼンスグループ ([Presence Group Configuration (プレゼンスグループの設定)] ウィンドウで指定されています) を選択します。</p>
[デバイスセキュリティプロファイル (Device Security Profile)]	<p>SCCP および SIP を実行する電話機の場合、デバイスに適用するセキュリティプロファイルを入力します。</p> <p>すべての電話機には、セキュリティプロファイルを適用する必要があります。電話機でセキュリティがサポートされていない場合は、非セキュアプロファイルを選択してください。</p> <p>ヒント このプロファイルで設定される CAPF 設定は、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウに表示される CAPF (Certificate Authority Proxy Function) の設定と連携します。製造元によってインストールされている証明書 (MIC) またはローカルで有効な証明書 (LSC) を管理する場合は、プロファイルと [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの両方で CAPF 設定を構成する必要があります。</p>
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	プレゼンス機能で使用される SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、電話機から発信されたサブスクリプション要求を Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。ドロップダウンリストボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。

フィールド	説明 (Description)
[発信コールのロールオーバー (Outbound Call Rollover)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、発信コールに使用するロールオーバー オプションを選択します。</p> <p>[ロールオーバーなし (No Rollover)]: ロールオーバー機能をオフにする場合は、このオプションを選択します。このモードでは、会議および転送は動作しません。</p> <p>[同一 DN 内のロールオーバー (Rollover Within Same DN)]: 同じ DN 内でロールオーバーを使用する場合は、このオプションを選択します。この場合、電話会議およびコール転送は同じ電話番号を使用して (異なる回線で) 行われます。</p> <p>[任意の回線へのロールオーバー (Rollover to any line)]: 任意の回線にロールオーバーする場合は、このオプションを選択します。会議およびコール転送は、元のコールとは異なる電話番号と回線を使用して行われます。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。
[DTMF受信が必要 (Require DTMF Reception)]	SIP と SCCP を実行している電話で DTMF 受信を必須にするには、このチェックボックスをオンにします。
[外部データ位置情報 (External Data Locations Information)]	
情報 (Information)	情報ボタンに対応するヘルプ テキスト URL を入力します。
ディレクトリ (Directory)	ディレクトリ サーバの URL を入力します。
メッセージ (Messages)	ボイス メッセージング アクセス パイロット番号を入力します。
サービス (Services)	サービス メニューの URL を入力します。
[認証サーバ (Authentication Server)]	<p>電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用する URL を入力します。認証 URL を指定しないと、Cisco Unified IP Phone 上の認証を必要とする拡張機能は有効になりません。デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p> <p>この URL はデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。</p>

フィールド	説明 (Description)
プロキシサーバ	<p>電話機の HTTP クライアントからローカル ホスト アドレス以外に対するプロキシ HTTP のアクセス要求に使用するホストとポート (たとえば、<code>proxy.cisco.com:80</code>) を入力します。</p> <p>電話機がサービスで URL (<code>www.cisco.com</code> など) を受信した場合、その電話機が <code>cisco.com</code> ドメインに設定されていない場合は、電話機はプロキシサーバを使用して URL にアクセスします。電話機が <code>cisco.com</code> ドメインに設定されている場合は、その電話機は URL と同じドメイン内にあるため、プロキシを使用せずに URL にアクセスします。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。</p>
アイドル (Idle)	<p>電話機が使用されていない時間が [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone の画面に表示する URL を入力します。たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合、画面にロゴを表示できます。デフォルト値を使用するには、このフィールドを空白にします。</p>
[アイドルタイマー (Idle Timer)]	<p>[アイドル (Idle)] フィールドで指定されている URL を電話で表示するまでの経過時間 (秒数) を入力します。デフォルト値を使用するには、このフィールドを空白にします。</p>
[セキュア認証URL (Secure Authentication URL)]	<p>電話 Web サーバに対する要求を検証するために電話機で使用するセキュア URL を入力します。</p> <p>(注) セキュア認証 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>この URL はデフォルトでは、インストール時に設定される Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにアクセスします。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。最大長は 255 文字です。</p>

フィールド	説明 (Description)
[セキュアディレクトリ URL (Secure Directory URL)]	<p>電話機がディレクトリ情報を取得する際の取得元サーバのセキュア URL を入力します。このパラメータには、ユーザが [電話帳 (Directory)] ボタンを押したときに Cisco Unified IP Phone が使用するセキュア URL を指定します。</p> <p>(注) セキュア ディレクトリ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルトの設定を受け入れるには、このフィールドを空白にします。 最大長は 255 文字です。</p>
[セキュアアイドル URL (Secure Idle URL)]	<p>電話機が使用されていない時間が [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールドで指定されている値に達した時点で Cisco Unified IP Phone のディスプレイに表示する情報のセキュア URL を入力します。たとえば、電話が 5 分間使用されていない場合、LCD にロゴを表示できます。</p> <p>(注) セキュア アイドル URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。 最大長は 255 文字です。</p>
[セキュア情報 URL (Secure Information URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone がヘルプテキスト情報を見つけられるサーバロケーションのセキュア URL を入力します。この情報は、ユーザが電話機の情報 (i) ボタンまたは疑問符 (?) ボタンを押すと表示されます。</p> <p>(注) セキュア情報 URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。 最大長は 255 文字です。</p>

フィールド	説明 (Description)
[セキュアメッセージ URL (Secure Messages URL)]	<p>メッセージサーバのセキュア URL を入力します。ユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、Cisco Unified IP Phone はこの URL にアクセスします。</p> <p>(注) セキュアメッセージ URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[セキュアサービス URL (Secure Services URL)]	<p>Cisco Unified IP Phone サービスのセキュア URL を入力します。この設定は、ユーザが [サービス (Services)] ボタンを押したときにセキュア Cisco Unified IP Phone がアクセスする場所を指定します。</p> <p>(注) セキュア サービス URL を指定しない場合、デバイスは非セキュアな URL を使用します。セキュアな URL と非セキュアな URL の両方を指定した場合、デバイスはその機能に基づいて適切な URL を選択します。</p> <p>デフォルト設定を受け入れるには、このフィールドを空白のままにします。</p> <p>最大長は 255 文字です。</p>
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>T または F と入力します。ホットラインデバイスは他のホットラインデバイスにのみ接続できます。これは PLAR の拡張機能です。PLAR では、電話がオフフックになった場合に自動的にダイヤルする特定の電話番号を設定します。ホットラインによって、PLAR を使用するデバイスに追加の制限を適用できます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービスソフトキーなしのソフトキーテンプレートも作成して、そのソフトキーテンプレートをホットラインデバイスに適用する必要があります。</p>
内線番号情報	
[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]	<p>エクステンションモビリティを有効にする場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>0 (オフ) を選択するとこの機能が無効になり、1 (オン) を選択するとこの機能が有効になります。</p> <p>ユーザはエクステンションモビリティを使用することで、Cisco Unified IP Phone にログイン/ログアウトできます。</p>

フィールド	説明 (Description)
[IPサービス1 (IP Services1)]	Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、設定済みの任意のサービスを選択します。
[IPサービス2 (IP Services2)]	Unified Communications Manager Administration を使用して、設定済みの任意のサービスを選択します。 Unified Communications Manager Bulk Administration Tool (BAT) を使用して、1回のトランザクションで2つ以上の IP サービスを更新することはできません。
[Certification Authority Proxy Function (CAPF) の情報 (Certification Authority Proxy Function (CAPF) Information)] (これらのパラメータは、認証または暗号化をサポートできるデバイスにのみ表示されます) 。	
[証明書の操作 (Certificate Operation)]	ドロップダウンリストボックスのオプションから、実行する [証明書の操作 (Certificate Operation)] を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : このデバイスに関して保留中の証明書の操作リストはありません。このオプションを選択すると、残りの CAPF フィールドが無効になります。 • [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : 証明書の操作をインストールまたはアップグレードします。 • [削除 (Delete)] : 証明書操作を削除します。 • [トラブルシューティング (Troubleshoot)] : 証明書の操作をトラブルシューティングします。
[一意の認証文字列を各デバイスに生成 (Generate unique authentication string for each device)]	デバイスごとに一意の認証文字列を生成するには、このチェックボックスをオンにします。
[認証文字列 (Authentication String)]	[認証モード (Authentication Mode)] が [認証ストリング (By Authentication String)] の場合、認証文字列を入力します。または、[文字列を生成 (Generate String)] をクリックしてシステムで文字列を生成させます。
[操作の完了期限 (Operation Completes By)]	証明書の操作の完了日を入力します。日付形式は YYYY: MM: DD: HH です。デフォルトの完了日は、現在のシステム日付から 10 日後です。
[マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報 (MultiLevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	

フィールド	説明 (Description)
[MLPP通知 (MLPP Indication)]	<p>利用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスは MLPP 通知設定をデバイスプールから継承します。 • [オフ (Off)]: このデバイスは MLPP 優先コールの通知を送信しません。 • [オン (On)]: このデバイスは MLPP 優先コールの通知を送信します。 <p>(注) デバイスの [MLPP通知 (MLPP Indication)] 設定が [オフ (Off)]、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が [強制 (Forceful)] という設定値の組み合わせは使用しないでください。</p>
[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスは MLPP プリエンプション設定をデバイスプールから継承します。 • [無効 (Disable)]: このデバイスは、MLPP 優先コールの発信時に進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [強制 (Forceful)]: このデバイスは、MLPP 優先コールの発信時に進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p>(注) デバイスの [MLPP通知 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] に設定すると同時に、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定することはできません。</p>
[MLPPドメイン (MLPP Domain)] (「0000FF」など)	<p>このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。この値は空白または 0 ~ FFFFFFFF の値にしてください。</p>
サイレント (DND)	

フィールド	説明 (Description)
サイレント (Do Not Disturb)	DND 機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[DNDオプション (DND Option)]	ドロップダウン リスト ボックスから、DND のオプションとして次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> なし (None) [呼出音オフ (Ringer Off)] [コール拒否 (Call Reject)] [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)]
DND呼出音 (DND Incoming Call Alert)	ドロップダウン リストから、次のオプションのいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> なし (None) 無効にする (Disable) [点滅アラートのみ (Flash Only)] [ビーブ音のみ (Beep Only)]
[セキュアシェル情報 (Secure Shell Information)]	
[セキュアシェルユーザー (Secure Shell User)]	セキュア シェル ユーザーのユーザー ID を入力します。設定中の電話機がセキュア シェル アクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。Cisco Technical Assistance Center (TAC) では、トラブルシューティングにセキュア シェルを使用します。TAC にお問い合わせください。
[セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]	セキュア シェル ユーザーのパスワードを入力します。設定中の電話機がセキュア シェル アクセスをサポートしていない場合、このフィールドは表示されません。TAC にお問い合わせください。
[Cisco IP Phoneサービスの割り当て (Assign IP Phone Services)]	
このテンプレートからすべてのサービスを追加 (Add All Services From This Template)	ドロップダウン リスト ボックスから、電話を更新するために使用するサービスのリストが含まれるテンプレートを選択します。 [IP Phone サービスの編集 (Edit IP Phone Service)] リンクをクリックして、このテンプレート内の登録済み Cisco Unified IP Phone サービスを更新できます。

フィールド	説明 (Description)
重複の削除 (Remove Duplicate)	重複する IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複するサービス登録が電話機およびユーザデバイス プロファイルから削除されます。IP システムは、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[プロダクト固有の情報 (Product Specific Information)]	
[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスに設定するモードを選択します。</p> <p>[システムデフォルトの使用 (Use System Default)] : 電話機は、[デバイスセキュリティモード (Device Security Mode)] エンタープライズ パラメータに指定された値を使用します。</p> <p>[非セキュア (Non Secure)] : この電話機にはセキュリティ機能がありません。Unified Communications Manager への TCP 接続が開かれます。</p> <p>[Authenticated] : Unified Communications Manager は電話の整合性と認証を提供します。NULL/SHA を使用する TLS 接続が開きます。</p> <p>[Encrypted] : Unified Communications Manager は電話の整合性、認証、および暗号化を提供します。AES128/SHA を使用する TLS 接続が開きます。</p> <p>このフィールドは、電話機モデルが認証または暗号化をサポートしている場合にのみ適用されます。</p>
[すべての電話およびデバイス プロファイルから、重複する IP サービスを削除する (Remove Duplicate IP Services from all Phones and Device Profiles)]	重複する IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複するサービス登録が電話機およびユーザデバイス プロファイルから削除されます。IP システムは、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
[スピーカフォンの無効化 (Disable SpeakerPhone)]	スピーカフォンを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[スピーカフォンとヘッドセットの無効化 (Disable Speakerphone And Headset)]	スピーカフォンとヘッドセットを無効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[転送の遅延 (Forwarding Delay)]	このフィールドを使用して、転送の遅延を有効または無効にします。コールを転送する前に、ポートに数秒待機させるには、[有効にする (Enable)] を選択します。

フィールド	説明 (Description)
[PC ポート (PC Port)]	このフィールドを使用して、スイッチが組み込まれた電話機の PC ポートを有効または無効にします。電話機背面の「10/100 PC」というラベルのポートを使用すると、電話機に PC またはワークステーションを接続できます。
[設定へのアクセス (Setting Access)]	このフィールドを使用して、ユーザに電話の設定へのアクセスを許可するかどうかを選択します。オプションは[有効 (Enabled)]と[無効 (Disable)]です。
[Gratuitous ARP]	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択して Gratuitous ARP を制御します。
[PC の音声 VLAN へのアクセス (PC Voice VLAN Access)]	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択して PC の音声 VLAN へのアクセスを制御します。
[ビデオ機能 (Video Capabilities)]	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択してビデオ機能へのアクセスを制御します。
[自動回線選択 (Auto Line Select)]	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択して、電話機で自動回線選択を有効または無効にします。
[Web アクセス (Web Access)]	[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択して電話機での Web アクセスを有効または無効にします。



第 9 章

電話の削除

この章では、電話機またはその他の IP テレフォニー デバイスのグループを Cisco Unified Communications Manager データベースから削除する方法について説明します。クエリまたはカスタム ファイルのいずれかを使用して、削除する既存の電話機レコードを検索できます。また、未割り当ての電話番号を検索して削除することもできます。

- [クエリを使用した電話機の削除 \(191 ページ\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機の削除 \(193 ページ\)](#)
- [未割り当ての電話番号の削除 \(195 ページ\)](#)

クエリを使用した電話機の削除

削除する電話機レコードを特定するためのクエリを作成します。



注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の削除 (Delete Phones)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
[電話の一括削除 (Bulk Phones Delete Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウンリスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - 説明
 - 電話番号 (Directory Number)
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]
 - [デバイスタイプ (Device Type)]

- [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]
- [LSC ステータス (LSC Status)]
- 認証文字列
- [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
- [セキュリティ プロファイル (Security Profile)]
- 未割り当ての DN
- [最後の登録 (Last Registered)]
- [最後のアクティブ (Last Active)]

2 番目の [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(191 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(192 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検出された電話機が次の分類で表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
- [ステータス (Status)]
- [最後の登録 (Last Registered)]
- [最後のアクティブ (Last Active)]
- Unified CM
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに電話機レコードを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で電話機レコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

注意 クエリ テキスト ボックスに何も情報を入力しない場合、システムはすべての電話機レコードを削除します。削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

ステップ 8 電話機レコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

(注) ジョブを送信する前に、表示された結果リストの全体を必ず確認してください。

このジョブをスケジュールするか、アクティブにするには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

カスタム ファイルを使用した電話機の削除

テキスト エディタを使用して、削除する電話機のカスタム ファイルを作成できます。同じカスタム ファイル内に MAC アドレスとデバイス名を含めることはできますが、その同じファイルに電話番号を含めることはできません。別々のファイル (デバイス名と MAC アドレスを含む 1 つのファイル、および電話番号を含むもう 1 つのファイル) を作成する必要があります。



(注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要がある電話機レコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。



注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

始める前に

1. 削除する電話機に関する次のいずれかの詳細情報を列挙したテキストファイルを作成します。
 - [デバイス名 (Device Name)]
 - 説明

- 電話番号



(注) カスタム削除ファイルに、デバイス名、説明、または電話番号の値を入力します。カスタム削除ファイルに見出しを含める必要はありません。

2. カスタムファイルを Unified Communications Manager サーバーにアップロードします。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の削除 (Delete Phones)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。

[電話の一括削除 (Bulk Phones Delete Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [電話の削除 (Delete Phones where)] ドロップダウンリストボックスで、次の条件のいずれかから作成済みのカスタム ファイルのタイプを選択します。

- [デバイス名 (Device Name)]
- Directory Number
- 説明

ステップ 3 カスタム ファイルのリストで、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックします。検索条件に一致する電話機のリストが表示されます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに電話機レコードを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で電話機レコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

ステップ 7 電話機レコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブにするには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

未割り当ての電話番号の削除

クエリを使って特定した電話機レコードで未割り当て電話番号を削除します。



注意 削除アクションは不可逆です。削除した未割り当て電話番号を復元することはできません。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の削除 (Delete Phones)] > [未定義のDNの削除 (Delete Unassigned DN)] の順に選択します。
[未定義の電話番号の削除 (Delete Unassigned Directory Numbers)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [未割り当ての電話番号の一括削除 (Delete Bulk Unassigned Directory Number where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- パターン
 - 説明
 - [ルート パーティション (Route Partition)]
- 2 番目の [未割り当ての電話番号の一括削除 (Delete Bulk Unassigned Directory Number where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない
- ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
- 次の条件に基づいて、検出された電話機のリストが表示されます。
- パターン
 - 説明
 - Partition
- ヒント** データベースに登録されているすべての未定義のディレクトリ番号を見つけるには、検索テキストを入力せずに、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- デフォルトの説明は [未定義のDNの削除 : クエリ (Delete Unassigned DN - Query)] です。

ステップ 6 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに未割り当て電話番号を削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で電話機レコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

注意 削除アクションは不可逆です。削除した未割り当て電話番号を復元することはできません。

ステップ 7 電話機レコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

(注) ジョブを送信する前に、表示された結果リストの全体を必ず確認してください。

このジョブをスケジュールするか、アクティブにするには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 10 章

電話のエクスポート

この章では、エクスポートユーティリティを使用して、複数の Cisco Unified Communications Manager サーバから 1 台の Cisco Unified Communications Manager サーバ上にレコードをマージする方法について説明します。

- [電話機レコードのエクスポート \(197 ページ\)](#)
- [エクスポートされる電話機レコードのフィールド \(198 ページ\)](#)
- [電話機レコードのエクスポート \(202 ページ\)](#)
- [エクスポートまたはインポートする複数のユーザ電話機 \(204 ページ\)](#)
- [電話のエクスポート関連のトピック \(204 ページ\)](#)

電話機レコードのエクスポート

Unified Communications Manager サーバ間でレコードを移動するには、電話機レコードのエクスポートオプションを使用します。移動対象のレコードのみをエクスポートします。エクスポートできるのは、以下のレコードです。

- 電話機レコード
- ユーザレコード
- ユーザデバイスプロファイルレコード

オプションで、テキストエディタを使用して CSV ファイルを編集できます。レコードは、そのレコードのファイル形式に指定された形式に従っていなければなりません。たとえば、電話機レコードは、電話ファイル形式に従っている必要があります。



注意 CSV ファイルを編集する際は、十分に注意してください。誤った形式のレコードを挿入すると、電話機が機能しなくなる可能性があります。

電話機レコードをエクスポートする場合、2つのオプションからファイル形式を選択できます。

- [固有の詳細 (Specific Details)] : 設定が類似している複数の電話機の場合

- [すべての詳細 (All Details)] : 回線の設定が異なる複数の電話機の場合 (複数のパーティションやコーリング サーチ スペースが使用されているなど)

エクスポートしたレコードを挿入する準備ができたなら、レコードを挿入する順序に注意してください。デバイスが既存のユーザに適切に関連付けられるよう、最初にユーザレコードを挿入する必要があります。

1. CSV ファイルを Unified Communications Manager にアップロードします。
2. ユーザレコードを挿入します。
3. 電話機レコードを挿入します。
4. ユーザデバイスプロファイルレコードを挿入します。
5. ログファイルでエラーの有無を確認します。

関連トピック

[BAT ログファイル \(771 ページ\)](#)

[電話機レコードのエクスポート \(202 ページ\)](#)

[ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート \(436 ページ\)](#)

[ユーザレコードのエクスポート \(293 ページ\)](#)

[電話のエクスポート関連のトピック \(204 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

エクスポートされる電話機レコードのフィールド

デフォルトの電話ファイル形式でエクスポートされるフィールド

エクスポートされるデフォルトの電話ファイル形式オプションは、設定が類似している電話機の電話ファイル形式をエクスポートするときに便利です。デフォルトの電話機レコードは、定義されているクエリを使用してエクスポートされます。

次の表に、デフォルトの電話ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドの一覧を示します。

表 7: デフォルトの電話ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドタイプ	エクスポートされるフィールド
[デバイスフィールド (Device Fields)]	[MACアドレス (MAC Address)]、[説明 (Description)]、[ロケーション (Location)]

フィールドタイプ	エクスポートされるフィールド
[回線フィールド (Line Fields)]	[電話番号 (Directory Number)]、[表示 (Display)]、[回線のテキストラベル (Line Text Label)]、[話中転送 (外部) (Forward Busy External)]、[話中転送 (内部) (Forward Busy Internal)]、[無応答時転送 (内部)]、[無応答時転送 (外部) (Forward No Answer External)]、[無カバレッジ時転送 (内部) (Forward No Coverage Internal)]、[無カバレッジ時転送 (外部) (Forward No Coverage External)]、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]

[すべての電話の詳細 (All Phone Details)] ファイル形式でエクスポートされるフィールド

[すべての電話の詳細 (All Phone Details)] オプションを使用して電話機レコードをエクスポートすると、電話の特定モデルの電話機レコードと、電話に関連付けられているすべてのデバイスフィールド情報、各種回線属性、サービスがエクスポートされます。あるいは、1つのファイルにすべての電話モデルをエクスポートすることもできます。すべての電話のタイプを1つのファイルにエクスポートするには、[デバイスタイプの選択 (Select the Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスから [すべての電話タイプ (All Phone Types)] を選択できます。クエリを使用してレコード数を制限することはできません。

次の表に、[すべての電話の詳細 (All Phone Details)] ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドの一覧を示します。



-
- (注) すべての [電話の詳細 (All Phone Details)] ファイル形式を使用してエクスポートするときには、MAC アドレスではなくデバイス名が保存されます。
-

表 8: [すべての電話の詳細 (All Phone Details)]ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドタイプ	エクスポートされるフィールド
[デバイス フィールド (Device Fields)]	[デバイス名 (Device Name)]、[説明 (Description)]、[所有者のユーザID (Owner User ID,)]、[デバイスプール (Device Pool)]、[CSS]、[AAR CSS]、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]、[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]、[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]、[ロケーション (Location)]、[ユーザロケール (User Locale)]、[ネットワークロケール (Network Locale)]、[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]、[拡張モジュールタイプ I (Expansion Module Type I)]、[拡張モジュールタイプII (Expansion Module Type II)]、[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]、[電話ロード名 (Phone Load Name)]、[モジュール1ロード名 (Module 1 Load Name)]、[モジュール2ロード名 (Module 2 Load Name)]、[ログインユーザID (Login user ID)]、[ビルトインブリッジ (Built in Bridge)]、[MLPP通知 (MLPP Indication)]、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]、[MLPPドメイン (MLPP Domain)]、[ビデオコールをオーディオとして再試行 (Retry Video call as Audio)]、[プライバシー (Privacy)]、[セキュリティモード (Security Mode)]、[プレゼンテーションインジケータを無視 (Ignore Presentation Indicators)]、[シングルパケットキャプチャモード (Single Packet Capture mode)]、[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]、[証明書操作 (Certificate Operation)]、[認証モード (Authentication Mode)]、[認証文字列 (Authentication String)]、[キーサイズ (ビット) (Key Size (bits))]、[操作の完了期限 (Operation Completes By)]
モデル固有のデバイス フィールド	[情報 (Information)]、[ディレクトリ (Directory)]、[メッセージ (Messages)]、[サービス (Services)]、[認証サーバ (Authentication Server)]、[プロキシサーバ (Proxy Server)]、[アイドル (Idle)]、[アイドルタイマー (Idle Timer)]、[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]、[ログアウトプロファイル (Logout Profile)]、[ログインユーザID (Login User ID)]、[ログイン時刻 (Login Time)]、[ログアウト時刻 (Logout Time)]、[プロダクト固有のXML (Product Specific XML)]

フィールドタイプ	エクスポートされるフィールド
[回線フィールド (Line Fields)]	[電話番号 (Directory Number)]、[パーティション (Partition)]、[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]、[回線CSS (Line CSS)]、[AARグループ (AAR Group)]、[回線ユーザ保留音源 (Line User Hold Audio Source)]、[回線ネットワーク保留音源 (Line Network Hold Audio Source)]、[自動応答 (Auto Answer)]、[ボイスメールへの不在転送 (Forward All to Voice Mail)]、[不在転送の接続先 (Forward All Destination)]、[不在転送CSS (Forward All CSS)]、[ボイスメールへの話中転送 (Forward Busy External to Voice Mail)]、[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy External Destination)]、[話中転送 (外部) CSS (Forward Busy External CSS)]、[ボイスメールへの無応答時転送 (外部) (Forward No Answer External to Voice Mail)]、[無応答時転送の接続先 (外部) (Forward No Answer External Destination)]、[無応答時転送 (外部) CSS (Forward No Answer External CSS)]、[ボイスメールへの失敗時転送 (Forward On Failure to Voice Mail)]、[失敗時転送の接続先 (Forward On Failure Destination)]、[失敗時転送CSS (Forward on Failure CSS)]、[コールピックアップグループ (Call pickup group)]、[ボイスメールへの話中転送 (内部) (Forward Busy Internal to Voice Mail)]、[話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Internal Destination)]、[話中転送 (内部) CSS (Forward Busy Internal CSS)]、[ボイスメールへの無応答時転送 (内部) (Forward No Answer Internal to Voice Mail)]、[無応答時転送の接続先 (内部) (Forward No Answer Internal Destination)]、[無応答時転送 (内部) CSS (Forward No Answer Internal CSS)]、[ボイスメールへのコール無カバレッジ時転送 (外部) (Forward No Call Coverage External to Voice Mail)]、[コール無カバレッジ時転送の接続先 (外部) (Forward No Call Coverage External Destination)]、[コール無カバレッジ時転送 (外部) CSS (Forward No Call Coverage External CSS)]、[ボイスメールへのコール無カバレッジ時転送 (内部) (Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail)]、[コール無カバレッジ時転送の接続先 (内部) (Forward No Call Coverage Internal Destination)]、[コール無カバレッジ時転送 (内部) CSS (Forward No Call Coverage Internal CSS)]、[表示 (Display)]、[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]、[メッセージ受信ランプポリシー (Message Waiting Lamp Policy)]、[電話機がアイドルのときの呼出音設定 (Ring Setting When Idle)]、[回線のテキストラベル (Line Text Label)]、[電話使用時の呼出音設定 (Ring Setting When Active)]、[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration)]、[MLPP ターゲット接続先 (MLPP Target Destination)]、[MLPPコーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]、[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration)]、[コール最大数 (Max Num Calls)]、[話中トリガー (Busy Trigger)]、[コール情報表示マスク (Call Info Display Mask)]、[呼び出し表示 (Alerting Name)]
ユーザフィールド	[ユーザID (User ID)]
[短縮ダイヤル (Speed Dials)]	[短縮ダイヤル番号 (Speed Dial Number)]、[短縮ダイヤルラベル (Speed Dial Label)]

フィールドタイプ	エクスポートされるフィールド
サービス (Services)	[サービス名 (Service Name)]、[登録済みサービス名 (Subscribed Service Name)]、[パラメータ名 (Parameter Name)]、[パラメータ値 (Parameter Value)]

電話機レコードのエクスポート

Cisco Unified Communications Manager データベースから電話機レコードをエクスポートできます。電話機レコードをエクスポートした後、[一括管理 (Bulk Administration)]メニューの[ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)]オプションを使ってエクスポート済みファイルを検索し、ダウンロードすることができます。

手順

ステップ 1 次のいずれかのオプションを選択します。

- [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のエクスポート (Export Phones)] > [固有の詳細 (Specific Details)] の順に選択します。[電話機クエリのエクスポート (Export Phones Query)] ウィンドウが表示されます。
- [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のエクスポート (Export Phones)] > [すべての詳細 (All Details)] の順に選択します。[電話機設定のエクスポート (Export Phone Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [すべての詳細 (All Details)] オプションで、[デバイス タイプ (Device Type)] ドロップダウンリストボックスから、デバイスのタイプまたは特定のモデルを選択します。[ステップ 4 \(203 ページ\)](#) にスキップします。

この形式でエクスポートされるフィールドのリストについては、「[表 7: デフォルトの電話ファイル形式でエクスポートされるフィールド \(198 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 3 [固有の詳細 (Specific Details)] では、エクスポートする電話機のセットを選択することによってエクスポートファイルをカスタマイズできますが、電話機の詳細を設定することはできません。

- a) 最初の [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウンリストボックスで、次のオプションの中から選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - 説明
 - 電話番号 (Directory Number)
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]
 - [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]
 - [LSC ステータス (LSC Status)]
 - [認証文字列 (Authentication String)]

- [セキュリティ プロファイル (Security Profile)]
 - 最後の登録
 - 最後のアクティブ
- b) 2 番目のドロップダウンリスト ボックスでは、次のオプションの中から選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない
- c) [検索 (Search)]フィールド/リストボックスで、デバイス名などの検索する値を選択または入力します。
- d) さらにクエリを定義するには、[絞り込み (Search Within Results)]チェックボックスをオンにし、[AND]または[OR]を選択して複数のフィルタを追加し、[3.a \(202 ページ\)](#) ~[3.c \(203 ページ\)](#) を繰り返します。
- e) [検索 (Find)]をクリックします。
検索結果が表示されます。
- f) [次へ (Next)]をクリックします。
[電話機設定のエクスポート (Export Phone Configuration)]ウィンドウが表示されます。
- g) [ファイル形式 (File Format)]ドロップダウンリストボックスから、電話機ファイル形式を選択します。

ステップ 4 [ファイル名 (File Name)]テキストボックスに、エクスポートファイルの名前を入力します。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)]領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 エクスポート方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに電話機レコードをエクスポートする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)]をクリックします。
- b) 後でエクスポートする場合は、[後で実行 (Run Later)]をクリックします。

ステップ 7 電話機レコードをエクスポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)]をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)]メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)]オプションを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[電話のエクスポート関連のトピック \(204 ページ\)](#)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

エクスポートまたはインポートする複数のユーザ電話機

エクスポートされたファイル名には、接尾辞としてタイムスタンプが付加されます。エクスポート電話機で繰り返し実行されるジョブがスケジュールされている場合は、情報が同じファイル名でエクスポートされますが、タイムスタンプが異なります。

ユーザが複数存在する電話機を含むエクスポートファイルをインポートすると、すべてのユーザが1つのレコードでエクスポートされます。

関連トピック

[電話のエクスポート関連のトピック](#) (204 ページ)

電話のエクスポート関連のトピック

- [電話機レコードのエクスポート](#) (202 ページ)
- [ユーザレコードのエクスポート](#) (293 ページ)
- [ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート](#) (436 ページ)



第 11 章

電話回線の追加および更新

この章では、特定のデバイスのグループまたはユーザデバイスプロファイルの回線属性を[回線の更新 (Update Lines)] オプションによって更新する方法について説明します。電話およびユーザデバイスプロファイルの回線は、これら両方がクエリ結果の一部である場合は同時に更新されます。



- (注) 電話が Cisco Unified Communications Manager データベースから削除された場合、その電話番号はデータベース内に残ります。これらの孤立した電話番号を管理するために、[回線の更新 (Update Lines)] オプションを使用して、未割り当ての電話番号を検索してから削除したり、それらの電話番号を更新したりできます。

Cisco Unified Communications Manager データベース内にある既存の電話のグループまたはユーザデバイスプロファイルに回線を追加できます。テンプレートを使用して新しい回線を追加する場合、電話サービスもスピードダイヤルも変更できません。Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) では、既存のデバイスに回線を追加する際、テンプレート上のそれらのフィールドは無視されます。

- [クエリを使用した電話回線の更新 \(205 ページ\)](#)
- [電話回線の更新フィールドの説明 \(207 ページ\)](#)
- [既存の電話機および UDP への電話回線の追加 \(216 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への電話回線の追加 \(217 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合の電話回線フィールドの説明 \(218 ページ\)](#)

クエリを使用した電話回線の更新

クエリを使用して電話回線を更新できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [回線の追加/更新 (Add/Update Lines)] > [回線の更新 (Update Lines)] または [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザーデバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [回線の追加/更新 (Add/Update Lines)] > [回線の更新 (Update Lines)] の順に選択します。

[回線更新クエリ (Update Lines Query)] ウィンドウが表示されます。

(注) クエリを指定しない場合、すべての回線を更新できます。電話回線の更新フィールドの説明 (207 ページ) にスキップします。

ステップ 2 最初の [回線の検索 (Find Line where)] ドロップダウンリスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [電話番号 (Directory Number)]
- [ルート パターン (Route Pattern)]
- [回線の説明 (Line Description)]
- [コーリングサーチスペース (電話機) (Calling Search Space (Phone))]
- Calling Search Space (Line)
- [デバイス プール (Device Pool)]
- Device Description
- Line Position
- 未割り当ての DN
- [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]

(注) 孤立した電話番号を特定して削除するには、[未定義の DN (Unassigned DN)] 「」を使用します。

2 番目の [回線の検索 (Find Line where)] ドロップダウンリスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 [検索 (Search)] フィールドリスト ボックスで、特定する値を選択または入力します。

例：

リストから [ルート パーティション (Route Partition)] を選択することも、電話番号の範囲を入力することもできます。

ヒント データベースに登録されているすべての回線を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

- ステップ 4** さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2](#) と [ステップ 3](#) を繰り返します。
- ステップ 5** 影響を受けるレコードを表示するには、[検索 (Find)] をクリックします。
検出された回線のリストが次の分類で表示されます。
- パターン/電話番号
 - パーティション (Partition)
 - 説明
- ステップ 6** [次へ (Next)] をクリックします。
[回線の更新 (Update Lines)] ダイアログボックスの一番上に、選択したクエリのタイプが表示されます。
- ヒント クエリのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。
- ステップ 7** クエリの中で定義したすべてのレコードを対象として更新する設定値を指定します。
更新する複数のパラメータを選択できます。フィールドの説明については、「[電話回線の更新フィールドの説明 \(207 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 8** オンに設定したパラメータの [値 (Value)] フィールドで、新しい値を入力するか、リストボックスから値を選択します。
- ステップ 9** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 10** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- a) すぐに回線を挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b) 後で挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 11** 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
このジョブをスケジュールするか、アクティブにするか、またはその両方を行うには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

電話回線の更新フィールドの説明

次の表で、回線詳細の更新に関するフィールドの説明を示します。

一部のフィールドには、Cisco Unified Communications Manager からの値が表示されます。それらの値は、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定する必要があります。

表 9: 回線の詳細を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
[ルートパーティション (Route Partition)]	パーティションを選択します。パーティションは、電話番号が属するルートパーティションを表します。 (注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
[コーリングサーチスペース (回線) (Calling Search Space (Line))]	この電話番号から発信された番号を検索する対象のパーティションを選択します。 (注) この設定を変更すると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされているピックアップグループ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[不在転送時コーリングサーチスペース (Secondary Calling Search Space for Forward All)]	コールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[不在転送の接続先 (Forward All Destination)]	すべてのコールの転送先とする電話番号を入力します。 (注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[すべてボイスメールに転送 (Forward to Voice Mail)]	ボイスメッセージングプロファイルで選択した番号にすべてのコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[不在転送の接続先 (Forward All Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスの値が適用されなくなります。
[話中転送コーリングサーチスペース (外部) (Calling Search Space Forward Busy External)]	外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
[未取得時のパークモニタリング外部転送の接続先 (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)]	パークされている側が外部の場合、パークしたユーザの [パークモニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータに指定された接続先にコールが転送されます。[パークモニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
[未取得時のパークモニタリング内部転送の接続先 (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)]	パークされている側が内部である場合、パークしたユーザの [未取得時のパークモニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] パラメータで指定された接続先にコールが転送されます。[パークモニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
[パークモニタリング転送非取得時のボイスメール (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
[パークモニタリング転送非取得時のボイスメール (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve External Voice Mail)]	このチェックボックスをオンにすると、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
パークモニタリング転送非取得時の外部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve External CSS)	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
パークモニタリング転送非取得時の内部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal CSS)	その電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。

フィールド	説明
[パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)]	<p>このパラメータは、自分がパークしたコールを取得するようユーザーに求めるまでに Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。</p> <p>デフォルト : 60 秒</p> <p>0 以外の値を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が、この値でオーバーライドされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。</p>
[不在着信のログを取る (Log Missed Calls)]	<p>このチェックボックスを使用して、この機能を有効または無効にします。チェックボックスがオン (有効) として表示されている場合、Cisco Unified Communications Manager は電話機の該当する電話番号のコール履歴に不在着信を記録します。</p>
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] サービスパラメータに設定されている値を使用します。 • [オン (On)] : 基本コールがマルチパーティコール (つまり割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、参加コール) に変更されるときに、電話でトーンが再生されます。さらに、いずれかの通話者がマルチパーティコールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイス (つまりマルチパーティコールの発信元) にビルトインブリッジがある場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話参加者に対してトーンが再生されます。会議コントローラーなどの制御デバイスが通話に存在しない場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合、Unified Communications Manager は [オン (On)] を選択してもトーンを再生しません。 • [オフ (Off)] : 通常コールがマルチパーティコールに変更されたときは、電話機でトーンを再生しません。
[話中転送コーリングサーチスペース (内部) (Calling Search Space Forward Busy External)]	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy Destination External)]	回線が使用中のときに、外部番号から発信されたコールの転送先とする電話番号を入力します。 (注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Destination External)]	回線が使用中のときに、内部番号から発信されたコールの転送先とする電話番号を入力します。 (注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[話中ボイス メール転送 (外部) (Forward Busy to Voice Mail External)]	回線の使用中に、ボイス メッセージング プロファイルで選択した番号に外部番号からのコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (外部) 接続先 (Forward Busy Destination External)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスの値が適用されなくなります。
[話中ボイス メール転送 (内部) (Forward Busy to Voice Mail Internal)]	回線の使用中に、ボイス メッセージング プロファイルで選択した番号に内線番号からのコールを転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[話中転送 (外部) 接続先 (Forward Busy Destination External)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスの値が適用されなくなります。
[無応答時転送コーリングサーチスペース (外部) (Calling Search Space Forward No Answer External)]	外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用されるコーリングサーチスペースを選択します。この設定は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無応答時転送コーリングサーチスペース (内部) (Calling Search Space Forward No Answer Internal)]	内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
[無応答時転送の接続先 (外部) (Forward No Answer Destination External)]	<p>電話機が応答しないときに、外部番号からのコールの転送先とする電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送の接続先 (内部) (Forward No Answer Destination Internal)]	<p>電話機が応答しないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時ボイス メール転送 (外部) (Forward No Answer to Voice Mail External)]	<p>外部番号からの無応答コールをボイス メッセージング プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)]フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]チェックボックスの値が適用されなくなります。</p>
[無応答時ボイス メール転送 (内部) (Forward No Answer to Voice Mail Internal)]	<p>内部番号からの無応答コールをボイス メッセージング プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)]フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]チェックボックスの値が適用されなくなります。</p>
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (外部) (Calling Search Space Forward No Coverage External)]	<p>外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (内部) (Calling Search Space Forward No Coverage Internal)]	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>(注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[無カバレッジ時転送の接続先 (外部) (Forward No Coverage Destination External)]	電話機にカバレッジがないときに、外部番号からのコールの転送先とする電話番号を入力します。 (注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無カバレッジ時転送の接続先 (内部) (Forward No Coverage Destination Internal)]	電話機にカバレッジがないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号を入力します。 (注) この設定は、外部接続先を含め (制限されていない場合)、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無カバレッジ時ボイスメール転送 (外部) (Forward No Coverage to Voice Mail External)]	電話機にカバレッジがないときに、ボイスメッセージングプロファイルで選択した番号に外部番号からのコールを転送するには、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスの値が適用されなくなります。
[無カバレッジ時ボイスメール転送 (内部) (Forward No Coverage to Voice Mail Internal)]	電話機にカバレッジがないときに、ボイスメッセージングプロファイルで選択した番号に外部番号からのコールを転送するには、このチェックボックスをオンにします。 このチェックボックスをオンにすると、[無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)] フィールドと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] チェックボックスの値が適用されなくなります。
[失敗時転送コーリングサーチスペース (外部/内部) (Calling Search Space Forward on Failure External/Internal)]	(CTI ポートのみ) 内部番号または外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用するコーリングサーチスペースを選択します。この設定はシステムで設定されている場合にのみ表示されます。 (注) この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[失敗時転送の接続先 (外部/内部) (Forward on Failure Destination External/Internal)]	(CTI ポートのみ) 電話または CTI アプリケーションが失敗したときに、内部番号または外部番号からのコールの転送先とする電話番号を入力します。

フィールド	説明
[失敗時ボイス メール転送 (外部/内部) (Forward on Failure to Voice Mail External/Internal)]	(CTI ポートのみ) 内部番号または外部番号からの失敗したコールをボイス メッセージング プロファイルで選択した番号に転送する場合は、このチェックボックスをオンにします。
[無応答時転送の呼び出し時間 (Call Forward No Answer Ring Duration)]	コールに呼び出しを許可する秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間に達すると、[無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)] フィールドに入力された接続先番号にコールが転送されます。 (注) Cisco Unified Communications Manager の [無応答時転送 タイマー (Forward No Answer Timer)] サービス パラメータの設定値を使用するには、このフィールドを空白のままにします。
[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]	ユーザが [保留 (Hold)] ボタンまたはソフトキーを押してコールを保留にすると再生される保留音の音源を選択します。
[ネットワーク保留音源 (Network Hold Audio Source)]	ユーザがコールを転送する際、または電話会議やコールパークを開始する際にシステムがコールを保留にすると再生される保留音の音源を選択します。
自動応答 (Auto Answer)	ここで更新されたすべての回線に自動応答機能を使用させる場合は、このパラメータを選択します。自動応答では、ヘッドセットが使用中の場合、Cisco Unified Communications Manager が自動的にコールに応答します。着信コールが接続されたことをユーザに通知するために、ジップ音が再生されます。
[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを選択します。この選択は、電話機にボイスメッセージングサーバが設定されていない場合に役立ちます。
[呼出音設定 (電話のアイドル時) (Ring Setting When Idle)]	電話機で着信コールに使用する呼出音のタイプを選択します。
[呼出音設定 (電話のアイドル時) (Ring Setting when Active)]	電話機の別の回線に別のアクティブコールがあるときに、電話機で着信コールに使用する呼出音のタイプを選択します。
[コール ピックアップ グループ名 (Call Pickup Group Name)]	ピックアップグループ名を選択してコール ピックアップグループを指定します。該当するピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、指定されたコール ピックアップグループは、この電話番号への着信コールに応答できます。

フィールド	説明
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。</p> <p>ブロックされるコールがルーティングされないようにするには、[AARグループ (AAR Group)] を [なし (<None>)] に設定します。</p>
[ターゲット (転送先) (Target (Destination))]	<p>この電話番号が MLPP 優先コールを受信し、この電話番号だけでなくこの電話番号の転送先も優先コールに応答しない場合に MLPP 優先コールを転送する番号を入力します。</p> <p>入力できる値は、数字、ポンド記号 (#)、およびアスタリスク (*) です。</p>
[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]	ドロップダウン リスト ボックスから、代替パーティ転送先 (接続先) 番号に関連付ける コーリング サーチ スペースを選択します。
[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration)]	<p>この電話番号も、この電話番号の転送先も優先コールに応答しない場合、ここに入力する秒数 (4 ~ 30) が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに転送されます。</p> <p>Unified Communications Manager の [優先代替パーティ タイムアウト (Precedence Alternate Party Timeout)] エンタープライズパラメータの設定値を使用するには、この設定を空白のままにします。</p>
[外部電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールが発信されたときに、発信者 ID 情報として送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 30 個の番号と文字「X」「」を入力できます。X は電話番号を表し、パターンの末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク 972813XXXX を指定すると、内線 1234 からの外部コールでは、発信者 ID の番号として 9728131234 が表示されます。</p>
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの回線には最大 184 のコールを設定できます。ただし、デバイス自体が制限要因となります。1つの回線のコール数を設定すると、別の回線で使用できるコール数が減少します。</p> <p>デフォルト値は 4 です。電話機が各回線に対して複数のコールを許可しない場合、デフォルトで値が 2 に設定されます。</p> <p>CTI ルートポイントの場合、ポートごとに最大 10,000 件のコールを設定できます。デフォルトではコール数が 5000 に指定されます。</p> <p>このフィールドは [話中トリガー (Busy Trigger)] フィールドと組み合わせて使用します。</p>

フィールド	説明
[話中トリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] と共に機能し、回線上に存在できるコールの最大数を決定します。たとえば、最大コール数を 50 に設定し、話中トリガーを 40 に設定した場合、41 番目の着信コールはビジーであるという理由で拒否されます。その際に、[話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送もされます。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジーでない限り、着信コールは拒否されません。</p> <p>このフィールドは、CTI ルートポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] と組み合わせて使用します。デフォルトではコール数が 4500 に指定されます。</p>

既存の電話機および UDP への電話回線の追加

既存の電話機および UDP テンプレートに回線を追加できます。

始める前に

- このトランザクション用の BAT テンプレートを用意しておく必要があります。
- このトランザクション用の CSV データ ファイルを用意しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [回線の追加/更新 (Add/Update Lines)] > [回線の追加 (Add Lines)] の順に選択します。
[電話回線の追加 (Phone Add Lines)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] フィールドで、この一括トランザクションで使用する BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 4** テンプレートで既存の電話機の電話設定を変更する場合、[既存の電話ボタンテンプレートの更新 (Update the existing phone button template)] チェックボックスをオンにします
このチェックボックスがオンになっている場合、ユーザの電話情報も更新されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
 - a) すぐに電話機レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b) 後で電話機レコードを挿入する場合は、[あとで実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ7 既存の電話機およびUDPに回線を追加するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブにするか、またはその両方を行うには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への電話回線の追加](#) (217 ページ)

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新](#) (34 ページ)

[BAT ログ ファイル](#) (771 ページ)

[スケジュールしたジョブの管理](#) (759 ページ)

BAT スプレッドシートを使用した既存の電話機への電話回線の追加

BAT スプレッドシートを使用して、既存の電話機に電話回線を追加する CSV データ ファイルを作成できます。

BAT スプレッドシートへの回線の追加を終了したら、その内容を CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。エクスポートされた CSV 形式のデータファイルには、次のようなデフォルトのファイル名が割り当てられます。

```
<tablename>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tablename> は電話機などの作成された入力ファイルのタイプを表し、<timestamp> はファイルが作成された正確な日時を表します。

システムによって、ファイルは C:\XLSDataFiles\ に保存されます。ローカルワークステーション上の既存の別のフォルダに保存することもできます。エクスポートしたファイルをローカルワークステーションに保存したら、CSV 形式のデータファイルの名前を変更できます。いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールド エントリを二重引用符で囲みます。



(注) CSV ファイル名にカンマが含まれていると (例: abcd,e.txt)、Unified Communications Manager サーバにアップロードできません。

スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱いません。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

ステップ1 BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。

ステップ 2 スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。

ステップ 3 フィールドを表示するには、スプレッドシートの下部にある [回線の追加 (Add Lines)] タブ をクリックします。

ステップ 4 [電話機 (Phones)] ラジオ ボタンを選択して、回線を電話機に追加します。

(注) [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profile)] ラジオ ボタンを選択することによって、ユーザ デバイス プロファイルに回線を追加することもできます。

ステップ 5 スプレッドシートで、各回線の個々の電話についてデータを入力します。

すべての必須フィールドと関連するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。フィールドの説明については、「[表 10: BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明 \(219 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータファイルにデータを移すには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

ヒント エクスポートされた CSV データファイルを読み取る方法については、BAT の [電話の挿入 (Insert phones)] ウィンドウにある [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

システムによって、ファイルはデフォルトのファイル名 <tablename>-<timestamp>.txt で C:\XLSDataFiles\ に保存されます。[参照 (Browse)] を使用して、ローカルワークステーション上の既存の別のフォルダに保存することもできます。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合の電話回線フィールドの説明

次の表に、BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明を記載します。

表 10: BAT スプレッドシートを使用して回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
MAC アドレス (MAC Address)	電話機、VGC 仮想電話機、VGC 電話機の MAC アドレスを入力します。CTI ポートおよび H.323 クライアントの固有 ID を入力します。
[回線インデックス (Line Index)]	電話の回線インデックスを表す数字 (1 ~ 34) を入力します。
[電話番号 (Directory Number)]	この回線の電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。
ディスプレイ (Display)	着信側電話機のディスプレイに表示されるテキスト (たとえば、ユーザ名 (John Smith)、電話機のロケーション (Conference Room 1) など) を入力します。 (注) このフィールドが空白のままになっている場合、システムは [電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力されている値を使用します。 (注) デフォルト言語は英語です。
[回線テキスト ラベル (Line Text Label)]	回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。 (注) デフォルトでは英語が指定されています。
[話中転送 (外部) (Forward Busy External)]	回線が使用中のときに、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。 (注) この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[無応答時転送 (外部) (Forward No Answer External)]	電話機が応答しない場合に、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。 (注) この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[カバレッジ無し時転送 (外部) (Forward No Coverage External)]	電話機のカバレッジがない場合に、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。 (注) この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
[話中転送（内部）（Forward Busy Internal）]	<p>回線が使用中のときに、内部番号から発信されたコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>（注） この設定は、外部の接続先（制限されていない場合）を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送（内部）（Forward No Answer Internal）]	<p>電話機が応答しないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>（注） この設定は、外部の接続先（制限されていない場合）を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジ無し時転送（内部）（Forward No Coverage Internal）]	<p>電話機にカバレッジがないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>（注） この設定は、外部接続先を含め（制限されていない場合）、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[コール ピックアップ グループ（Call Pickup Group）]	<p>ピックアップグループ名を入力してコールピックアップグループを指定します。このグループは、適切なピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信に回答できます。</p>
[未取得時のパークモニタリング外部転送の接続先（Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External）]	<p>パークされている側が外部である場合、パークしたユーザの[未取得時のパークモニタリング転送の接続先（外部）（Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External）]パラメータで指定された接続先にコールが転送されます。[パークモニタリング転送非取得時の接続先（外部）（Forward No Retrieve Destination External）]フィールドの値が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>
[未取得時のパークモニタリング内部転送の接続先（Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal）]	<p>パークされている側が内部である場合、パークしたユーザの[未取得時のパークモニタリング転送の接続先（内部）（Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External）]パラメータで指定された接続先にコールが転送されます。[パークモニタリング転送非取得時の接続先（内部）（Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal）]が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>

フィールド	説明
[パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)]	<p>このパラメータは、自分がパークしたコールを取得するようユーザーに求めるまでに Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザーが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。</p> <p>デフォルト : 60 秒</p> <p>0 以外の値を設定すると、その値によって、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が上書きされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されません。</p>
[パークモニタリング転送非取得時のボイスメール (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal Voice Mail)]	<p>この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。</p>
未取得時のパークモニタリング転送 (外部) ボイスメール (Park Monitoring Forward No Retrieve External Voice Mail)	<p>この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>このボックスをオンにすると、Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。</p>
パークモニタリング転送非取得時の外部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve External CSS)	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
パークモニタリング転送非取得時の内部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal CSS)	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
[不在着信のログを取る (Log Missed Calls)]	このフィールドを使用して、この機能をオンまたはオフにすることができます。Unified Communications Manager が電話機その電話番号に関するコール履歴に不在着信を記録できるようにするには、「T」と入力します。「F」と入力すると、この機能が無効になります。

フィールド	説明
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	<p>パーティ参加トーンに関する次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] サービス パラメータに設定された値を使用します。 • [オン (On)]: 基本コールがマルチパーティ コール (つまり割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、参加コール) に変更されるときに、電話でトーンが再生されます。さらに、いずれかの通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイス (つまりマルチパーティ コールの発信元) にビルトインブリッジがある場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話参加者に対してトーンが再生されます。会議コントローラーなどの制御デバイスが通話に存在しない場合、または制御デバイスがトーンを再生できない場合、Unified Communications Manager は [オン (On)] を選択してもトーンを再生しません。 • [オフ (Off)]: 通常コールがマルチパーティ コールに変更されたときは、電話機でトーンを再生しません。
[電話番号の URI (URI on Directory Number)]	<p>この電話機の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。</p> <p>(注) 1 つの電話番号に対して、最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができます。ただし、1 つのプライマリ ディレクトリ URI を選択する必要があります。</p>
[電話番号の URI ルートパーティション (URI Route Partition on Directory Number)]	<p>ディレクトリ URI が属するルートパーティションを入力します。ディレクトリ URI へのアクセスを制限しない場合は、このフィールドを空白のままにします。</p>
[電話番号の URI がプライマリ (URI Is Primary on Directory Number)]	<p>このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定するには、「t」 (True) と入力します。このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリ ディレクトリ URI として指定しない場合は、「f」 (False) と入力します。</p> <p>(注) 1 つの電話番号に対して、最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができます。ただし、1 つのプライマリ ディレクトリ URI を選択する必要があります。</p>

フィールド	説明
[エンタープライズをローカルルートパーティションに追加 (Enterprise Add to Local Route Partition)]	このエンタープライズ代替番号をローカルルートパーティションに追加するには、「t」と入力します。E.164 番号をローカルルーティングに含めない場合は、「f」と入力します。
エンタープライズをグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)	ILS でこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」と入力します。
エンタープライズは緊急 (Enterprise Is Urgent)	この代替番号を緊急として分類するには、「t」と入力します。 デフォルトでは、オーバーラップするルートパターンがダイヤルプランに含まれる場合、Unified Communications Manager は (ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても) 桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。 番号の優先順位を緊急としてマークすると、Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー (たとえば T302 タイマーサービスパラメータ) が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。
エンタープライズ番号マスク (Enterprise Number Mask)	電話番号に適用する番号マスクを入力します。Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなるエンタープライズ代替番号を作成します。
エンタープライズルートパーティション (Enterprise Route Partition)	このエンタープライズ代替番号の割り当て先となるルートパーティションを入力します。
+E.164 をローカルルートパーティションに追加 (+E.164 Add to Local Route Partition)	この E.164 代替番号をローカルルートパーティションに追加するには、「t」と入力します。E.164 番号をローカルルーティングに含めない場合は、「f」と入力します。
[+E.164をグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)]	ILS でこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」と入力します。

フィールド	説明
+E.164 は緊急 (+E.164 Is Urgent)	<p>この代替番号を緊急として分類するには、「t」と入力します。</p> <p>デフォルトでは、オーバーラップするルートパターンがダイヤルプランに含まれる場合、Unified Communications Manager は（ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても）桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。</p> <p>番号の優先順位を緊急としてマークすると、Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー（たとえば T302 タイマーサービスパラメータ）が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。</p>
+E.164 番号マスク (+E.164 Number Mask)	<p>電話番号に適用する番号マスクを入力します。Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなる +E.164 代替番号を作成します。</p>
+E.164 ルートパーティション (+E.164 Route Partition)	<p>この +E.164 代替番号の割り当て先となるルートパーティションを入力します。</p>



第 12 章

電話のリセット/リスタート

この章では、属性を更新せずにデバイスをリセットまたはリスタートする方法について説明します。以下の手順は、問題が発生して、一括トランザクションによって電話機をリセットまたはリスタートする必要がある場合に使用します。クエリまたはカスタムファイルのいずれかを使用して、リセットする電話機を検索できます。

- [クエリを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(225 ページ\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(227 ページ\)](#)
- [クエリを使用した電話のワイプまたはロック \(228 ページ\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した電話のワイプまたはロック \(230 ページ\)](#)

クエリを使用した電話機のリセットまたは再起動

リセットまたは再起動 (リスタート) する電話機を特定するためのクエリを作成できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
[電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - 説明
 - 電話番号 (Directory Number)
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]
 - [デバイスタイプ (Device Type)]
 - [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]
 - [LSC ステータス (LSC Status)]
 - 認証文字列

- [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
- [セキュリティ プロファイル (Security Profile)]
- 一般デバイス設定

2 番目の [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 さらにクエリを定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2 \(225 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(226 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
- ステータス (Status)
- IP アドレス

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件と一致するデバイス名をクリックします。

ステップ 7 次のオプションのいずれかをクリックします。

- [リセット (Reset)] : 電話機をリセットします (電源の入れ直し) 。
- [リスタート (Restart)] : 電源を入れ直さずに電話機をリセット (再起動) します。
- [設定の適用 (Apply Config)] : 最後のリセット以降に変更された設定のみをリセットします。

ステップ 8 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 9 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに電話機レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で電話機レコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

- ステップ 10** 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- このジョブをスケジュールするか、アクティブにするか、またはその両方を行うには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

カスタムファイルを使用した電話機のリセットまたは再起動

テキストエディタを使用して、リセットまたは再起動する電話機のカスタムファイルを作成できます。カスタムファイルでは、デバイス名または電話番号を使用できます。

始める前に

- リセットまたは再起動 (リスタート) する電話機に関する以下のいずれかの詳細情報を列挙したテキストファイルを作成します。
 - [デバイス名 (Device Name)]
 - 説明
 - 電話番号



(注) 各アイテムをテキストファイル内の別々の行に配置します。

- Unified Communications Manager の最初のノードにファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
[電話のリセット/リスタート (カスタム) (Reset/Restart Phones Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [電話の更新 (Update Phones where)] ドロップダウンリストボックスで、次の条件のいずれかから作成済みカスタムファイルのタイプを選択します。
- デバイス名
 - Directory Number

• 説明

ステップ 3 カスタム ファイルのリストで、この更新用のカスタム ファイルのファイル名を選択して、[検索 (Find)] をクリックします。

注意 クエリ テキスト ボックスに情報を何も入力しない場合、システムはすべての電話機をリセットまたは再起動します。

ステップ 4 次のいずれかをクリックします。

- [リセット (Reset)] : 電話機をリセットします (電源の入れ直し)。
- [リスタート (Restart)] : 電源を入れ直さずに電話機をリセット (再起動) します。
- [設定の適用 (Apply Config)] : 最後のリセット以降に変更された設定のみをリセットします。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに電話機レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で電話機レコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブにするには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

クエリを使用した電話のワイプまたはロック

クエリを作成して、ワイプとロックのいずれかまたは両方を実行する電話を検索することができます。



注意 ワイプ操作は取り消すことができません。この操作は、電話機をその工場出荷時の設定にリセットしても問題ないことに確信がある場合に限り実行してください。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のワイプおよびロック (Wipe and Lock Phones)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
[電話のワイプおよびロックの設定 (Wipe and Lock Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [電話の検索条件 (Find Phones where)] の最初のドロップダウンリストボックスから、次の条件の 1 つを選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - 説明
 - 電話番号 (Directory Number)
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]
 - [デバイスタイプ (Device Type)]
 - [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]
 - [LSC ステータス (LSC Status)]
 - 認証文字列
 - [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
 - [セキュリティ プロファイル (Security Profile)]
 - 一般デバイス設定
- 2 番目の [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない
- ステップ 3** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- ヒント** データベースに登録されているすべての電話を検索するには、検索テキストを入力せずに、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** クエリをさらに定義するために、[および (AND)] または [または (OR)] を選択して複数のフィルタを追加できます。追加した場合は、**ステップ 2** と **ステップ 3** を繰り返します。
- ステップ 5** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - 説明

- [デバイス プール (Device Pool)]
- [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
- ステータス (Status)
- IP アドレス

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件と一致するデバイス名をクリックします。

ステップ 7 次のオプションのいずれかをクリックします。

- [ロック (Lock)]: 電話をロックします
- [ワイプ (Wipe)]: 電話をワイプします
- [ワイプおよびロック (Wipe and Lock)]: 電話をワイプおよびロックします

(注) 選択した機能が電話機でサポートされていない場合、その電話機のトランザクションは失敗します。また、その電話機に対してその機能を要求済みの場合も失敗します。

ステップ 8 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 9 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- すぐに電話をワイプまたはロックするには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- 後で電話をワイプまたはロックするには、[あとで実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 10 電話のロックとワイプのいずれかまたは両方を実行するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブにするには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。

カスタムファイルを使用した電話のワイプまたはロック

テキストエディタを使用して、ワイプとロックのいずれかまたは両方を実行する電話機のカスタム ファイルを作成できます。カスタム ファイルでは、デバイス名と電話番号のどちらかを使用できます。

始める前に



注意 ワイプ操作は取り消すことができません。この操作は、電話機をその工場出荷時の設定にリセットしても問題ないことに確信がある場合に限り実行してください。

- ワイプとロックのいずれかまたは両方を実行する電話機に関する次の詳細のいずれかを選択したテキスト ファイルを作成します。

- [デバイス名 (Device Name)]

- 説明
- 電話番号



(注) 各アイテムをテキスト ファイル内の別々の行に配置します。

2. Unified Communications Manager の最初のノードにファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のワイプおよびロック (Wipe and Lock Phones)] > [カスタム ファイル (Custom File)] の順に選択します。
[電話のワイプおよびロックの設定 (Wipe and Lock Phones Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [電話の更新 (Update Phones where)] ドロップダウンリストボックスで、次の条件のいずれかから作成したカスタム ファイルのタイプを選択します。
- デバイス名
 - Directory Number
 - 説明
- ステップ 3** カスタムファイルのリストで、この更新用のカスタムファイルのファイル名を選択してから、[検索 (Find)] をクリックします。
- 注意** クエリ テキスト ボックスに情報が入力されなかった場合、システムではすべての電話機をワイプまたはロックします。
- ステップ 4** 次のいずれかをクリックします。
- [ロック (Lock)] : 電話をロックします
 - [ワイプ (Wipe)] : 電話をワイプします
 - [ワイプおよびロック (Wipe and Lock)] : 電話をワイプおよびロックします
- (注) 選択した機能が電話機でサポートされていない場合、その電話機のトランザクションは失敗します。また、その電話機に対してその機能を要求済みの場合も失敗します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- a) すぐに電話をワイプまたはロックするには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b) 後で電話をワイプまたはロックするには、[あとで実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** 電話のロックとワイプのいずれかまたは両方を実行するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブにするには、[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用します。



第 13 章

電話レポート

この章では、生成できる、CSVファイル形式のBATレポートについて説明します。電話とユーザデバイスプロファイルのBATレポートはカスタマイズできますが、ユーザ、マネージャ、アシスタント、およびゲートウェイのレポートは固定の形式のため、カスタマイズすることはできません。

- [電話レポートの生成 \(233 ページ\)](#)
- [電話レポートの生成 \(234 ページ\)](#)

電話レポートの生成

Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) が生成するレポートを使用することで、レコードを効果的に管理できます。電話、ユーザ、デバイスプロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイレコードに関する情報を提供するレポートを作成し、保存することができます。これらのレポートをファイル名を指定して最初のノードサーバ上のフォルダに保存し、確認および印刷することができます。

電話またはユーザデバイスプロファイルに関するBATレポートは、デバイスフィールドおよび回線フィールドのリストから項目を選択することで、特定のニーズに合わせてカスタマイズできます。また、レポート内のフィールドの配置方法も選択できます。レポートは、CSVファイル形式で生成されます。ユーザ、マネージャ、アシスタント、およびゲートウェイに関するレポートは固定の形式を持つため、これらをカスタマイズすることはできません。

例

すべての電話番号とそれぞれの電話機モデル別の転送先のリストが必要だとします。その場合、Cisco Unified IP Phone 7960 の電話レポートを生成し、クエリ詳細としてデバイス名、電話番号、話中転送先、無応答時転送、およびラベルを選択します。[電話番号 (Directory Number)] フィールドの後に [ラベル (Label)] フィールドがあり、その前に 2 つの転送先番号があるように、レポートのフィールドを配置できます。

電話レポートの生成

電話機および他の IP テレフォニー デバイスに関するレポートを生成できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話レポートの作成 (Generate Phone Reports)] の順に選択します。
[電話機レポートクエリ (Report Phone Query)] というウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [電話機の検索 (Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスで、[デバイス名 (Device Name)] や [電話番号 (Directory Number)] などの照合するフィールドを選択します。
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、[次で始まる (begins with)]、[次を含む (contains)]、[空白である (is empty)] などの検索条件を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Search)] フィールド/リストボックスで、リスト内のモデル名や電話番号の範囲など、検索する値を選択または入力します。
- ステップ 5** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべての電話機に関するレポートを生成するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、ステップ [ステップ 2 \(234 ページ\)](#) ~ [ステップ 5 \(234 ページ\)](#) を繰り返します。

検出された電話機のリストが表示されます。

- ステップ 6** 特定のレポートタイプに関する詳細を選択するには、[次へ (Next)] をクリックします。
[電話レポートの作成 (Generate Phone Report Configuration)] ウィンドウが開いて、選択したクエリが表示されます。

ヒント クエリのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。

- ステップ 7** [レポートファイル名 (Report File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

- ステップ 8** [使用可能なデバイス フィールド (Available Device Fields)] ドロップダウン リスト ボックスで、デバイス アイテムを選択して矢印をクリックすると、そのアイテムがこの [レポート (Report)] リストの [選択済みのフィールド (Selected Fields)] に移動します。

レポートを生成するには、少なくとも1つのデバイスフィールドを指定する必要があります。レポートに含める複数のフィールドを選択できます。デバイスフィールドと回線フィールドのリストについては、「[電話および IP テレフォニー デバイス レポート \(235 ページ\)](#)」を参照してください。

ヒント この [レポート (Report)] リストの [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] 内のアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択して上矢印または下矢印をクリックすると、そのアイテムがリスト内の別の位置に移動します。

ステップ 9 [使用可能な回線フィールド (Available Line Fields)] ドロップダウンリストボックスで、回線アイテムを選択して矢印をクリックすると、そのアイテムがこの[レポート (Report)] リストの[選択済みのフィールド (Selected Fields)] に移動します。

レポートを生成するには、少なくとも 1 つの回線フィールドを指定する必要があります。レポートに含める複数のフィールドを選択できます。

ヒント この[レポート (Report)] リストの[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] 内のアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択して上矢印または下矢印をクリックすると、そのアイテムがリスト内の別の位置に移動します。

ステップ 10 レポートに IP 電話サービス フィールドを含めるには、[スピードダイヤル サービス (Speed Dial Services)] チェックボックスや [IP Phone サービス (IP Phone Services)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 11 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 12 レポートを生成するタイミングを選択します。次のいずれかを実行します。

- すぐにレポートを生成する場合は [今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- 後でレポートを生成する場合は [後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 13 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブのスケジューリングまたはアクティブ化 (またはその両方) を実行します。

次のタスク

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用してレポート ファイルを検索し、ダウンロードすることができます。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

電話および IP テレフォニー デバイス レポート

すべての電話機および IP テレフォニー デバイスに関する電話レポートを生成することも、レポート対象を次のいずれかのオプションに制限することもできます。

- [デバイス名 (Device Name)] : フィルタを指定するか、正確な名前を使用します。
- [説明 (Description)] : フィルタを指定するか、正確な説明を使用します。
- [電話ロード名 (Phone Load Name)] : フィルタを指定するか、正確な名前を使用します。

- [デバイス プール (CDevice Pool)] : クラスタ内に設定されているデバイス プールのリストから 1 つ選択します。
- [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] : クラスタ内に設定されている CSS のリストから 1 つ選択します。
- [ロケーション (Location)] : クラスタ内に設定されているロケーションのリストから 1 つ選択します。
- [電話番号 (Directory Number)] : フィルタを指定するか、正確な番号を使用します。

電話レポートのタイプを選択した後、レポートに含めるデバイスおよび回線の詳細を選択できます。

次のデバイス フィールドの中から選択できます。

- [AAR コーリング サーチ スペース (AAR Calling Search Space)]
- [AAR 近隣 (AAR Neighborhood)]
- [認証文字列 (Authentication String)]
- [ビルトインブリッジ (Built In Bridge)]
- [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]
- [コーリング サーチ スペース再ルーティング (Calling Search Space Reroute)]
- [証明書の操作 (Certificate Operation)]
- [証明書のステータス (Certificate Status)]
- [共通プロファイル (Common Profile)]
- 国 (Country)
- 説明
- [デバイス名 (Device Name)]
- デバイスプール (Device Pool)
- デバイス プロファイル
- [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
- [デバイス デフォルト プロファイル (Device_Default Profile)]
- [ダイヤルルール (Dial Rules)]
- [最終ログイン ユーザ ID (Last Login user ID)]
- [ロード情報 (Load Information)]
- [所在地 (Location)]
- [ログイン期間 (Login Duration)]

- [ログイン時間 (Login Time)]
- [MLPPドメイン (MLPP Domain)]
- [MLPP通知 (MLPP Indication)]
- [メディアリソースリスト (Media Resource List)]
- [ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]
- [ネットワーク ロケーション (Network Location)]
- [パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)]
- [パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)]
- 電話テンプレート (Phone Template)
- [プリエンプション (Preemption)]
- [プライバシー (Privacy)]
- [製品 (Product)]
- [公開キー (Public Key)]
- [QSIG]
- [SIP プロファイル (SIP Profile)]
- [セキュアシェルパスワード (Secure Shell Password)]
- [セキュア シェル ユーザ ID (Secure Shell User ID)]
- [セキュリティ プロファイル (Security Profile)]
- [セキュリティ プロファイル (Security Profile)]
- [アップグレード終了時刻 (Upgrade Finish Time)]
- [ユーザID (User ID)]
- [地理的な場所 (Geo Location)]
- [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]
- [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)]

次の回線フィールドの中から選択できます。

- [呼び出し表示 (Alerting Name)]
- 自動応答 (Auto Answer)
- [デバイス障害時コーリング サーチ スペース (CSS_Device Failure)]
- [CSS_MWI]

- [コール転送期間 (Call Forward Duration)]
- [発呼者回線表示ビット (Calling Line Presentation Bit)]
- [発呼者名表示ビット (Calling Name Presentation Bit)]
- [発呼側プレフィックス番号 (Calling Party Prefix Digits)]
- [接続回線表示ビット (Connected Line Presentation Bit)]
- [接続名表示ビット (Connected Name Presentation Bit)]
- [デバイス障害電話番号 (Device Failure DN)]
- [電話番号 (Directory Number)]
- [不在転送 CSS (Forward All CSS)]
- [不在転送の接続先 (Forward All Destination)]
- [話中転送コーリングサーチスペース (外部) CSS (Forward Busy External CSS)]
- [話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy External Destination)]
- [話中転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward Busy Internal CSS)]
- [話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Internal Destination)]
- [無応答時転送コーリングサーチスペース (外部) (Forward No Answer External CSS)]
- [無応答時転送の接続先 (外部) (Forward No Answer External Destination)]
- [無応答時転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward No Answer Internal CSS)]
- [無応答時転送の接続先 (内部) (Forward No Answer Internal Destination)]
- [無応答時転送の呼び出し時間 (Forward No Answer Ring Duration)]
- [無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (外部) (Forward No Coverage External CSS)]
- [無カバレッジ時転送の接続先 (外部) (Forward No Coverage External Destination)]
- [無カバレッジ時転送コーリングサーチスペース (内部) (Forward No Coverage Internal CSS)]
- [無カバレッジ時転送の接続先 (内部) (Forward No Coverage Internal Destination)]
- [未登録内線の不在転送コーリングサーチスペース (Forward Unregistered External CSS)]
- [未登録外線の不在転送 : 接続先 (Forward Unregistered External Destination)]
- [未登録内線の不在転送コーリングサーチスペース (Forward Unregistered Internal CSS)]
- [未登録内線の不在転送 - 接続先 (Forward Unregistered Internal Destination)]
- [CTI 障害時転送コーリングサーチスペース (Forward on CTI Failure CSS)]

- [CTI障害時転送の接続先 (Forward on CTI Failure Destination)]
- [回線 AAR 近隣 (Line AAR Neighborhood)]
- [回線 ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)]
- [回線の説明 (Line Description)]
- [回線ネットワーク保留MOH音源 (Line Network Hold MOH Audio Source)]
- [MLPP 無応答時の呼び出し時間 (秒) (MLPP No Answer Ring Duration (Seconds))]
- [ルート パーティション (Route Partition)]
- [セカンダリ不在転送コーリング サーチ スペース (Secondary Call Forward All CSS)]
- [ターゲット CSS (Target CSS)]
- [宛先 (Target Destination)]
- [ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]
- [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]
- [不在着信のログを取る (Log Missed Calls)]
- [パークモニタリング転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve External Destination)]
- [パークモニタリング転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Internal Destination)]
- [パークモニタリング転送非取得時のボイス メール (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Internal Voice Mail)]
- [パークモニタリング転送非取得時のボイス メール (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve External Voice Mail)]
- [パークモニタリング転送非取得時のコーリング サーチ スペース (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve External CSS)]
- [パークモニタリング転送非取得時のコーリングサーチスペース (内部) CSS (Park Monitor Forward No Retrieve Internal CSS)]
- [パークモニタリング復帰タイマー (Park Monitor Reversion Timer)]
- [電話番号の URI (1-5) がプライマリ (URI Is Primary on Directory Number (1-5))]
- [電話番号の URI ルート パーティション (1-5) (URI Route Partition on Directory Number (1-5))]
- [電話番号の URI (1-5) (URI on Directory Number (1--5))]

ダミー MAC アドレスを含む電話機リストの生成

ダミー MAC アドレスを使用する電話機のリストを生成できます。

手順

-
- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話レポートの作成 (Generate Phone Reports)] の順に選択します。
[電話機レポートクエリ (Report Phone Query)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2 最初の [電話の検索 (Find Phone(s) where)] ドロップダウンリスト ボックスで、[デバイス名 (Device Name)] を選択します。
 - ステップ 3 2 番目のドロップダウンリスト ボックスで、[次で始まる (begins with)] を選択します。
 - ステップ 4 テキストフィールドに「**BAT**」と入力します。ダミー MAC アドレスを使って追加されたすべての電話機には、BAT で始まるデバイス名が付きます。
 - ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。デバイス名のテキストが BAT で始まり、クエリ テキスト ボックスに表示されます。
 - ステップ 6 [次へ (Next)] をクリックします。[電話レポートの作成 (Generate Phone Report Configuration)] ウィンドウが表示されます。
-

次のタスク

レポート生成手順を実行します。「[電話レポートの生成 \(234 ページ\)](#)」に進みます。
「[レポート ログ ファイル \(369 ページ\)](#)」を参照してください。



第 14 章

電話の移行

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、電話機のグループを Skinny Client Control Protocol (SCCP) から Session Initiation Protocol (SIP) に移行することができます。

- [SCCP から SIP への電話機の移行 \(241 ページ\)](#)
- [電話の移行関連のトピック \(243 ページ\)](#)

SCCP から SIP への電話機の移行

電話機を SCCP から SIP に移行できます。SCCP から SIP への移行では、電話機レポート内の SIP 固有のデフォルト値だけが移行されます。テンプレート内の他の値は移行されません。



- (注) SCCP を実行している電話機を SIP に移行する場合、移行中に電話機が自動的にリセットされるため、手動リセットは必要ありません。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話の移行 (Migrate Phones)] > [SCCP から SIP (SCCP to SIP)] の順に選択します。
[電話の移行 - SCCP から SIP (Migrate Phones - SCCP to SIP)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウンリスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - 説明
 - 電話番号 (Directory Number)
 - [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
 - [デバイスプール (Device Pool)]

- [デバイスタイプ (Device Type)]
- [コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]
- [LSC ステータス (LSC Status)]
- 認証文字列 (Authentication String)
- [所在地 (Location)]
- Phone Load Name
- [セキュリティ プロファイル (Security Profile)]

ステップ 3 2 番目の [電話の検索 (Find Phone where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

さらにクエリを定義するには、[絞り込み (Search Within Results Using)] ドロップダウン リスト ボックスに対応するチェックボックスをオンにします。[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加することができます。 [ステップ 2 \(241 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(242 ページ\)](#) を繰り返します。

ヒント データベースに登録されているすべての電話機を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検出された電話機のリストが、次の分類で表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- [デバイス プロトコル (Device Protocol)]
- ステータス (Status)
- IP アドレス

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 6 ドロップダウン リスト ボックスから、電話機テンプレートを選択します。

(注) SCCP から SIP への移行では、このテンプレートから SIP 固有のデフォルト値だけが移行中に選択されます。テンプレートにある他の値は選択されません。

ステップ 7 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 8 移行方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに電話機レコードを移行する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で電話機レコードを移行する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 9 電話機レコードを移行するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

次のタスク

電話機を SCCP から SIP に移行するためのジョブを送信した後、必ずこれらの電話機をリセットしてください。電話機をリセットするには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話のリセット/リスタート (Reset/Restart Phones)] > [クエリ (Query)] を使用します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [クエリを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(225 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [電話の移行関連のトピック \(243 ページ\)](#)

電話の移行関連のトピック

- [SCCP から SIP への電話機の移行 \(241 ページ\)](#)
- [クエリを使用した電話機のリセットまたは再起動 \(225 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 15 章

インターコムの追加および更新

インターコム機能を使用すると、特定のユーザから別のユーザにコールを発信でき、着信側がビジュー状態かアイドル状態かに関係なく、そのコールは発信側から着信側への一方向メディアで自動的に応答されます。

[インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] ユーティリティを使用して、Cisco Unified Communications Manager サーバとの間でインターコムの一括の追加または更新を行う方法について説明します。

- [インターコム DN の更新 \(245 ページ\)](#)
- [インターコム DN の追加 \(246 ページ\)](#)
- [\[インターコムDNの更新 \(Intercom DN Update\)\] フィールドの説明 \(247 ページ\)](#)

インターコム DN の更新

電話機またはデバイスのインターコム DN を更新できます。

手順

ステップ 1 更新するインターコム DN を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) 電話機のインターコム電話番号を更新するには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] > [インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Numbers)] の順に選択します。
- b) ユーザ デバイス プロファイルのインターコム電話番号を更新するには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] > [インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Numbers)] の順に選択します。

ステップ 2 最初の [更新するインターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers To Update where)] ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。

- [インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)]
- [ルート パーティション (Route Partition)]

- 説明

ステップ 3 2 番目の [更新するインターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers To Update where)] ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- ~が次の文字列で終わる
- 次の文字列と完全に一致する
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて、テキスト フィールドに適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのインターコム DN を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 さらにクエリを定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2 \(245 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(246 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 6 [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたインターコム DN のリストが次の分類で表示されます。

- Intercom DN Pattern
- [ルートパーティション (Route Partition)]
- 説明

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 クエリで定義したすべてのレコードを対象として更新する設定値を指定します。更新する複数のパラメータを選択できます。

関連トピック

[\[インターコム DN の更新 \(Intercom DN Update\) \] フィールドの説明 \(247 ページ\)](#)

インターコム DN の追加

Unified Communications Manager サーバーにインターコム DN を追加できます。

始める前に

- 電話またはその他の IP テレフォニー デバイスの固有の詳細を格納する、カンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルを用意する必要があります。

- 関連するターゲットやトランザクションの機能を選択することによって、データファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)]>[電話 (Phones)]>[インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)]>[インターコム電話番号の追加 (Add Intercom Directory Numbers)]の順に選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (FileName)]ドロップダウンリストボックスで、この特定の一括トランザクションのために作成した CSV データファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)]ドロップダウンリストボックスで、このタイプの一括トランザクションのために作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 4** 挿入するファイルに含まれる情報で既存の電話ボタンテンプレート設定を更新する場合は、[構成時の設定のオーバーライド (Override Configuration Settings)]チェックボックスをオンにします。
オプションとして、構成時の設定をオーバーロードすることを検討してください。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)]領域に、ジョブの説明を入力します。
このトランザクションに関するデフォルトのジョブの説明では、インターコム DN の挿入が指定されています。
- ステップ 6** インターコム DN を追加する方法を選択します。次のいずれかを実行します。
 - a) インターコム DN をすぐに追加する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)]をクリックします。
 - b) インターコム DN を後で追加する場合は、[後で実行 (Run Later)]をクリックします。
- ステップ 7** インターコム DN を追加するジョブを作成するには、[送信 (Submit)]をクリックします。
このジョブをスケジュールするか、アクティブにするには、[ジョブの設定 (Job Configuration)]ウィンドウを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[インターコムDNの更新 (Intercom DN Update)]フィールドの説明

次の表で、回線詳細の更新に関するフィールドの説明を示します。

表 11: インターコム DN 詳細を更新するためのフィールドの説明

フィールド	説明
[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]	
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属しているルート パーティションを選択します。 (注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
説明	デバイスを認識するのに役立つ説明を入力します。説明には、任意の言語で最大50文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、山カッコ (<>) は使用できません。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	この名前は、共有電話番号への呼び出し中に表示される名前を表します。共有されていない電話番号の場合、呼び出し中は [表示 (Display)] フィールドに入力されている名前が表示されます。
[ASCII呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)]	このフィールドは [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのはASCII文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスには、[ASCII呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)] フィールドに指定された内容が表示されます。
インターコム電話番号の設定	
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	この電話機/ポートのグループを割り当てるコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能で使用します。SIP または SCCP を実行する電話機は、プレゼンス エンティティに関するステータス (たとえば、電話機で BLF スピードダイヤル ボタンとして設定されている電話番号など) を要求するため、ウォッチャとして機能します。 プレゼンス エンティティのステータスを電話機が受信できるようにするには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスの閲覧が許可されているプレゼンスグループ ([Presence Group Configuration (プレゼンスグループの設定)] ウィンドウで指定されています) を選択します。



第 **IV** 部

ユーザ

- [ユーザの追加 \(251 ページ\)](#)
- [ユーザ テンプレート \(259 ページ\)](#)
- [ユーザの挿入 \(269 ページ\)](#)
- [ユーザの更新 \(273 ページ\)](#)
- [ユーザの削除 \(289 ページ\)](#)
- [ユーザ レコードのエクスポート \(293 ページ\)](#)
- [パスワードおよび PIN のリセット \(297 ページ\)](#)
- [ユーザ レポートの生成 \(303 ページ\)](#)
- [ラインアピアランス \(307 ページ\)](#)
- [エンドユーザ CAPF プロファイル \(313 ページ\)](#)



第 16 章

ユーザの追加

この章では、Cisco Unified Communications Manager の LDAP データベース内で、ユーザレコードを管理する方法、および電話機とユーザ、または CTI ポートとユーザレコードなどのユーザの組み合わせを使用する方法について説明します。

- [新しいユーザグループの追加およびユーザの関連付け \(251 ページ\)](#)
- [ユーザの追加 \(252 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用したユーザー用 CSV データファイルの作成 \(252 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートのユーザデータフィールドの説明 \(254 ページ\)](#)
- [ユーザの追加関連のトピック \(257 ページ\)](#)

新しいユーザグループの追加およびユーザの関連付け

Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、新規ユーザーのグループを追加したり、Unified Communications Manager データベースの電話やその他の IP テレフォニーデバイスにユーザーを関連付けたりします。



- (注) 社内ディレクトリを使用していて、Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) 同期を有効にしている場合 (Cisco Unified Communications Manager Administration で、**[システム (System)] > [LDAP] > [LDAP システム (LDAP System)]** の順に選択します)、BAT を使用してパスワードのリセットや、ユーザの挿入、更新、削除は実行できません。

関連トピック

- [ユーザの追加 \(252 ページ\)](#)
- [ユーザレコードのエクスポート \(293 ページ\)](#)
- [ユーザレポートの生成 \(303 ページ\)](#)

ユーザの追加

BAT スプレッドシートを使用して複数の新しいユーザを Unified Communications Manager データベースに一括で追加するには、CSV データファイルを作成する必要があります。Cisco IP SoftPhone のように CTI ポートを必要とするアプリケーションを使用するユーザのために、BAT で CTI ポートを既存のユーザに関連付けることができます。

手順

- ステップ 1** 追加する各ユーザに対して個別の値を定義するには、カンマ区切り値 (CSV) データファイルを作成します。
- ステップ 2** BAT を使用して、ユーザを Unified Communications Manager データベースに挿入します。

関連トピック

- [テキストベースの CSV ユーザ ファイルの作成 \(804 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用したユーザー用 CSV データファイルの作成 \(252 ページ\)](#)
- [Unified Communications Manager データベースへのユーザの挿入 \(269 ページ\)](#)
- [ユーザの追加関連のトピック \(257 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用したユーザー用 CSV データファイルの作成

Unified Communications Manager データベースに新しいユーザを追加するための詳細情報を BAT スプレッドシートに入力し、それを CSV データファイルに変換することができます。



- (注) BAT スプレッドシートに空の行を含めると、その空の行がファイルの終わりとして扱われず、空の行より後に入力されたデータは BAT 形式に変換されません。

BAT スプレッドシートでユーザを追加するためのフィールドを編集し終わったら、その内容を CSV 形式のデータファイルにエクスポートできます。エクスポートされた CSV 形式のデータファイルには、次のようなデフォルトのファイル名が割り当てられます。

```
<tabname>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は電話機などの作成された入力ファイルのタイプを表し、<timestamp> はファイルが作成された正確な日時を表します。

エクスポートしたファイルをローカルワークステーションに保存したら、CSV 形式のデータファイルの名前を変更できます。いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールド エントリを二重引用符で囲みます。



- (注) CSV ファイル名にカンマが含まれていると (例: abcd,e.txt)、Unified Communications Manager サーバにアップロードできません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (EnableMacros)] をクリックします。
- ステップ 3** ユーザを追加するには、スプレッドシートの下部にある [ユーザ (Users)] タブをクリックします。
- ステップ 4** すべての必須フィールドと関連するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。各行に、オンラインヘルプファイルの説明に従って情報を入力します。
- ユーザが複数のデバイスを使用している場合は、デバイスごとに、デバイス名フィールドに入力する必要があります。
 - 新規ユーザに関連付ける追加のデバイス名を入力するには、[制御するデバイスの数 (Number of Controlled Devices)] テキストボックスに値を入力します。
- (注) CTI ポート、ATA ポート、H.323 クライアントを含む、すべてのデバイスをユーザと関連付けることができます。
- ステップ 5** 新規ユーザに関連付ける追加のデバイス名を入力するには、[制御するデバイスの数 (Number of Controlled Devices)] テキストボックスに値を入力します。
- ステップ 6** [BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックして、BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式データファイルにデータを転送します。
- このファイルは、デフォルトのファイル名 (<tabname>-<timestamp>.txt) で、C:\XLSDataFiles に保存されます。または [参照 (Browse)] を使用して別の既存フォルダに保存することもできます。
- ヒント** エクスポートされた CSV データファイルを読み取る方法については、BAT の [ユーザの挿入 (Insert Users)] ウィンドウにある [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

CSV データファイルを Unified Communications Manager データベース サーバの最初のノードにアップロードして、BAT がデータファイルにアクセスできるようにする必要があります。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)

[ユーザの追加関連のトピック](#) (257 ページ)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

BAT スプレッドシートのユーザ データ フィールドの説明

次の表は、ユーザの詳細を追加するためのフィールドの説明を示しています。

表 12: ユーザを追加するための BAT スプレッドシートのフィールドの説明

フィールド	説明
名	電話ユーザの名を、64 文字以内で入力します。
[ミドル ネーム (Middle Name)]	電話ユーザのミドル ネームを、64 文字以内で入力します。
[姓 (Last Name)]	電話ユーザの姓を、1 文字以上 64 文字以下で入力します。
[ユーザID (User ID)]	電話ユーザの姓を、1 文字以上 128 文字以下で入力します。
パスワード (Password)	ユーザが Cisco IP Phone Configuration ウィンドウにアクセスするために必要なパスワードを、最大 128 文字で入力します。 ユーザ テンプレートを追加するときには、CSV データ ファイルで、または、BAT ユーザ インターフェイスを使用してパスワードを指定する必要があります。各ユーザまたはユーザ グループの個々のパスワードを適用する場合、CSV ファイルでパスワードの情報を指定します。すべてのユーザにデフォルトのパスワードを使用する場合は、ユーザを BAT に挿入するときにデフォルトのパスワードを指定します。
[マネージャ ユーザ ID (Manager User ID)]	この電話機のユーザのマネージャ ユーザ ID を最大 128 文字で入力します。
[部署名 (Department)]	この電話ユーザに対して、部署番号を 64 文字以内で入力します。

フィールド	説明
PIN	<p>エクステンションモビリティに使用する個人識別番号 (PIN) を、128 桁以下の数字で入力します。</p> <p>ユーザ テンプレートを追加するときには、CSV データ ファイルで、または、BAT ユーザ インターフェイスを使用して PIN を入力する必要があります。各ユーザまたはユーザのグループの個々の PIN を適用する場合は、CSV ファイルで PIN を指定します。すべてのユーザが使用できるデフォルト PIN を使用する場合、ユーザを BAT に挿入する際にデフォルト PIN を提供します。</p>
[デフォルト プロファイル (Default Profile)]	<p>このユーザとデバイスのデフォルト プロファイルを、50 文字以内で入力します。BAT に表示される Cisco Unified Communications Manager Administration の既存の UDP の一覧から、ユーザ デバイス プロファイルを選択できます。</p>
[ユーザ ロケール (User Locale)]	<p>このユーザと関連付ける言語と国のセットを、50 文字以内で入力します。この選択によって、このユーザに関して存在する文化依存の属性と、Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機に表示される言語が決定されます。</p>
[制御するデバイス 1 (Controlled Device 1)]	<p>このユーザと関連付ける電話とデバイスの名前を、50 文字以内で入力します。</p> <p>(注) [制御するデバイス (Controlled Device)] フィールドは、スプレッドシートが一番右にある [制御するデバイスの数 (Number of Controlled Devices)] フィールドが 0 よりも大きい値に設定されている場合に表示されます。</p>
[電話番号 (Telephone Number)]	<p>この電話のプライマリ内線 (通常は回線 1) に、電話番号を 64 桁以下の数字で入力します。</p>
[プライマリ内線 (Primary Extension)]	<p>このフィールドはユーザが追加された後に表示され、ユーザのプライマリ データベース番号を表します。デバイスをユーザに関連付ける場合は、プライマリ ラインを選択しません。ユーザは、電話機に複数の回線を接続できます。</p>
[関連付けられた PC (Associated PC)]	<p>このフィールドは Cisco ソフトフォンおよび Cisco Unified Communications Manager アテンダント コンソールのユーザには必須で、ユーザが追加された後に表示されます。</p>
[IPCC 内線 (IPCC Extension)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このユーザの IPCC 内線を選択します。</p>

フィールド	説明
[メールID (Mail ID)]	ユーザの電子メールアドレスを、255文字以下で入力します。
[制御するデバイス 2 (Controlled Device 2)]	このユーザと関連付ける追加の電話の名前を、50文字以内で入力します。 (注) [制御するデバイス (Controlled Device)] フィールドは、スプレッドシートが一番右にある [制御するデバイスの数 (Number of Controlled Devices)] フィールドが 0 よりも大きい値に設定されている場合に表示されます。
[プレゼンス グループ (Presence Group)]	データベース番号 (プレゼンスエンティティ) の状態をウォッチするプレゼンス グループを入力します。
[SUBSCRIBE コーリング サーチ スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	Cisco Unified Communications Manager Administration で設定するすべてのコーリング サーチ スペースが [SUBSCRIBE コーリング サーチ スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。 [コーリング サーチ スペースの登録 (SUBSCRIBE Calling Search Space)] では、Cisco Unified Communications Manager がエンドユーザから発行されたプレゼンス サブスクリプション要求をルーティングする方法が決定されます。この目的で明示的にコーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースを設定する場合と同じようにコーリング サーチ スペースを設定します ([コール ルーティング (Call Routing)] > [クラス制御 (Class Control)] > [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]) 。
[ダイジェストクレデンシャル (Digest Credentials)]	SIP を実行している電話のダイジェスト認証を設定する場合、電話が Cisco Unified Communications Manager に SIP リクエストを送信するたびに、Cisco Unified Communications Manager は電話のアイデンティティを確認します。このフィールドに入力したダイジェスト クレデンシャルは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェスト ユーザを選択した場合に、電話に関連付けられます。 最大 128 文字の英数字からなる文字列を入力します。 ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。

フィールド	説明
[ユーザ グループ (User Group)]	ユーザが所属するユーザ グループを入力します。 (注) [ユーザグループ (User Group)]フィールドは、スプレッドシートが一番右にある[ユーザグループの数 (Number of User Groups)]フィールドが0よりも大きい値に設定されている場合に表示されます。
[Directory URI]	このユーザのプライマリ エクステンションに関連付けるプライマリ Directory URIを入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。 (注) Cisco Unified CM の管理ページで、二重引用符またはコンマが組み込まれた複数の URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符やコンマが組み込まれたディレクトリ URI を含む csv ファイルをインポートする場合には、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲み、組み込まれた二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared,"Jerry",Smith@test.com」というディレクトリ URI は、csv ファイルでは「Jared,""Jerry""",Smith@test.com」と入力する必要があります。
[セルフサービス ユーザ ID (Self-Service User ID)]	セルフサービス ユーザ ID は、ユーザを識別するために使用される DTMF 数字列です (通常はユーザの電話番号と同じです)。
[プロファイル (User Profile)]	[ユーザプロファイル (User Profile)]は、ユーザのグループ全体にわたって共有される設定の集合です。このプロファイルは、新しいデバイスを作成する際に使用されます。
[EM 最大ログイン時間 (EM MAX LOGIN TIME)]	Extension Mobility (EM; エクステンションモビリティ) および Extension Mobility Cross Cluster のユーザの最大ログイン時間を入力します。値を分単位で入力します。値の範囲は 0 ~ 10080 分 (7 日間) です。

ユーザの追加関連のトピック

- [ユーザの追加 \(252 ページ\)](#)
- [ユーザレコードのエクスポート \(293 ページ\)](#)

- [ユーザ レポートの生成 \(303 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)。



第 17 章

ユーザ テンプレート

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) のユーザ テンプレートを
使用して共通のユーザ属性を定義して、新しいユーザのグループを追加する方法について説明
します。

- [BAT ユーザ テンプレートの検索 \(259 ページ\)](#)
- [新しい BAT ユーザ テンプレートの作成 \(260 ページ\)](#)
- [BAT ユーザ テンプレートの変更 \(261 ページ\)](#)
- [BAT ユーザ テンプレートのコピー \(261 ページ\)](#)
- [BAT ユーザ テンプレートの削除 \(262 ページ\)](#)
- [BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明 \(262 ページ\)](#)

BAT ユーザ テンプレートの検索

Unified Communications Manager を使用すると、特定の基準に基づいて特定のユーザーテンプレートを検索できます。これは、複数のユーザーテンプレートが存在する場合に便利です。



- (注) ブラウザセッションで作業中に、検索/一覧表示の検索設定がクライアントマシン上の Cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合や、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開き直した場合は、手動で検索を変更するまで、Unified Communications Manager の検索設定が保持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザテンプレート (User Template)] の順に選択します。

[ユーザテンプレートの検索/一覧表示 (Find and List User Templates)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用してテンプレートを検索します。

ステップ2 最初の [ユーザテンプレートの検索 (Find User Template where)] ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ユーザ テンプレート名
- [部署名 (Department)]

2番目の [ユーザテンプレートの検索 (Find User Template where)] ドロップダウン リストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべてのユーザテンプレートを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- ユーザ テンプレート (User Template)
- [部署名 (Department)]

ステップ4 レコードのリストから、検索条件と一致するユーザ テンプレートをクリックします。ウィンドウに、選択したユーザ テンプレートが表示されます。

新しいBAT ユーザ テンプレートの作成

新しいユーザ テンプレートを作成できます。

手順

ステップ1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザテンプレート (User Template)] の順に選択します。

[ユーザテンプレートの検索/一覧表示 (Find and List User Templates)] ウィンドウが表示されます。

ステップ2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

[ユーザ テンプレートの設定 (User Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ3 このグループのユーザの共通のユーザ設定を入力します。

フィールドの説明については、「[BAT ユーザテンプレートのフィールドの説明 \(262 ページ\)](#)」を参照してください。

- ステップ 4** [保存 (Save)]をクリックします。
ユーザテンプレートをデータベースに追加すると、ステータスにはトランザクションが完了したことが示されます。

BAT ユーザ テンプレートの変更

既存のユーザ テンプレートを表示または変更できます。

手順

-
- ステップ 1** 変更するユーザ テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [ユーザテンプレートの設定 (User Template Configuration)] ウィンドウで、テンプレート内の設定を追加、変更、または削除します。
フィールドの説明については、「[表 13 : BAT 内のユーザ テンプレートのフィールドの説明 \(263 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 3** 設定を変更してテンプレートを更新した後、[保存 (Save)]をクリックします。

関連トピック

[BAT ユーザ テンプレートの検索 \(259 ページ\)](#)

BAT ユーザ テンプレートのコピー

いくつかのフィールドだけを変更したい場合には、ユーザテンプレートのプロパティを新しいユーザテンプレートにコピーできます。

手順

-
- ステップ 1** コピーするユーザ テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [ユーザテンプレートの設定 (User Template Configuration)] ウィンドウで、これがコピー対象のテンプレートであることを確認して、[コピー (Copy)]をクリックします。
テンプレートが複製され、コピーが作成されます。コピーでは、元のテンプレートで指定されていたすべての値が複製されます。
- ステップ 3** 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。
フィールドの説明については、「[表 13 : BAT 内のユーザ テンプレートのフィールドの説明 \(263 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)]をクリックします。
-

関連トピック

[BAT ユーザ テンプレートの検索](#) (259 ページ)

BAT ユーザ テンプレートの削除

不要になった BAT ユーザ テンプレートを削除できます。次の手順を使用して、ユーザ テンプレートを削除します。



注意 削除アクションは不可逆です。削除したテンプレートを復元することはできません。

手順

ステップ 1 削除するユーザ テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [ユーザテンプレートの設定 (User Template Configuration)] ウィンドウで、それが削除するテンプレートであることを確認して、[削除 (Delete)] をクリックします。

(注) また、[ユーザテンプレートの検索/一覧表示 (Find and List User Templates)] ウィンドウからユーザテンプレートを削除することもできます。削除するテンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

削除操作の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 3 テンプレートを削除するには、[OK] をクリックします。テンプレート名が [UDP テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウのユーザテンプレートのリストから消去されます。

注意 特定のユーザテンプレートを使用するジョブを送信した場合、ジョブの実行前にそのユーザテンプレートを削除すると、そのジョブも削除されます。別のユーザテンプレートを作成してジョブを再送信する必要があります。

関連トピック

[BAT ユーザ テンプレートの検索](#) (259 ページ)

BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明

BAT ユーザ インターフェイスで、アスタリスクが付いているフィールド名は必須入力項目です。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

次の表では、BAT ユーザ テンプレートを追加した後に表示される可能性のある、すべてのフィールドについて説明しています。

表 13: BAT 内のユーザ テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
ユーザ テンプレート名	ユーザ テンプレートの一意の名前 (30 文字以内の英数字) を入力します。
[ユーザ ID をデフォルト パスワードにする (Default Password to User ID)]	ユーザ ID をすべてのユーザに対してデフォルト パスワードにする場合に、このチェックボックスをオンにします。
[電話番号をデフォルト暗証番号にする (Default PIN to Telephone Number)]	電話番号をデフォルト暗証番号にするには、このチェックボックスをオンにします。
[プライマリ エクステンションをデフォルト電話番号にする (Default Telephone Number to Primary Extension)]	電話番号をプライマリ エクステンションにするには、このチェックボックスをオンにします。
[ユーザ ID をデフォルト メール ID にする (Default Mail ID to User ID)]	メール ID をユーザ ID のデフォルトにするには、このチェックボックスをオンにします。
[マネージャ ユーザ ID (Manager User ID)]	この電話機のユーザのマネージャ ユーザ ID を最大 128 文字で入力します。
[部署名 (Department)]	この電話ユーザに対して、部署番号を 64 文字以内で入力します。
[ユーザ ロケール (User Locale)]	このユーザと関連付けたい言語と国のセットを、ドロップダウン リストから選択します。この選択により、このユーザに対して存在する文化依存属性と、Unified CM のユーザ ウィンドウと電話機でユーザに表示される言語が決まります。
[関連付けられた PC (Associated PC)]	このフィールドは Cisco ソフトフォンおよび Cisco Unified Communications Manager アテンダント コンソールのユーザには必須で、ユーザが追加された後に表示されます。
[デフォルト プロファイル (Default Profile)]	デフォルト プロファイル ドロップダウン リストからこのユーザのデフォルト プロファイルを選択します。
[BLF プレゼンス グループ (BLF Presence Group)]	ドロップダウン リストから、電話番号、つまり、プレゼンス エンティティのステータスを監視する BLF プレゼンス グループを選択します。

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリング サーチ スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>Unified CM Administration で設定したすべてのコーリング サーチ スペースが [SUBSCRIBE コーリング サーチ スペース (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウン リスト ボックスに表示されます。</p> <p>[コーリング サーチ スペースの登録 (SUBSCRIBE Calling Search Space)] では、Cisco Unified Communications Manager がエンド ユーザから発行されたプレゼンス サブスクリプション要求をルーティングする方法が決定されます。この目的で明示的にコーリング サーチ スペースを設定するには、すべてのコーリング サーチ スペースを設定する場合と同じようにコーリング サーチ スペースを設定します ([コール ルーティング (Call Routing)]>[クラス制御 (Class Control)]>[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)])。</p>
[CTIからのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>CTI に対してこのデバイスの制御と監視を許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>関連付けられた電話番号が共有回線を指定する場合、少なくとも1つの関連付けられたデバイスが CTI にサポートされるデバイス タイプとプロトコルの組み合わせを指定する限り、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) WiFi モードで動作している Android、iPhone、iPad などの Cisco デュアルモード デバイス (Jabber) は、CTI を介してモニターされ、制御されません。ただし、GSM モードで動作しているデバイスはモニターまたは制御できません。</p>
[EMCC の有効化 (EMCC Enabled)]	EMCC サービスを有効にする場合に、このチェックボックスをオンにします。
[ユーザ ランク (User Rank)]	ドロップダウン リスト ボックスから、このユーザに割り当てるランクを選択します。最高のランクは 1 で、最低のランクは 10 です。
[アクセス コントロール グループ (Access Control Group)]	ドロップダウン リストから、ユーザが所属するアクセス制御グループを選択します。選択できるのは、ユーザのランク以下のアクセス コントロール グループのみです。

フィールド	説明
[ダイジェストクレデンシャル (Digest Credentials)]	<p>SIP を実行している電話のダイジェスト認証を設定する場合、電話が Cisco Unified Communications Manager に SIP リクエストを送信するたびに、Cisco Unified Communications Manager は電話のアイデンティティを確認します。このフィールドに入力したダイジェストクレデンシャルは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェストユーザを選択した場合に、電話に関連付けられます。</p> <p>最大 128 文字の英数字からなる文字列を入力します。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>
[ダイジェストクレデンシャルの確認 (Confirm Digest Credentials)]	<p>ダイジェストクレデンシャルが正しく入力されたことを確認するために、このフィールドにクレデンシャルを再入力します。</p>
[ホームクラスタ (Home Cluster)]	<p>ユーザテンプレートのユーザのホームをこのクラスタにするには、このチェックボックスをオンにします。ユーザは、企業内の 1 つのクラスタのみをホームとして設定する必要があります。</p> <p>(注) ユーザが複数のホームクラスタに割り当てられている場合、IM and Presence が適切に機能しません。</p>
[Unified CM IM and Presence のユーザを有効にする (Enable User for Unified CM IM and Presence)]	<p>このユーザテンプレートのユーザを IM and Presence に対して有効化するには、このチェックボックスをオンにします。関連付けられたサービスプロファイルで IM and Presence を設定します。</p> <p>(注) Cisco Unified Communications Manager IM and Presence ノードを、Cisco Unified Communications Manager クラスタと共にインストールする必要があります。</p> <p>[ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Services)] メニューを使用して、IM and Presence サービスを設定します。</p>

フィールド	説明
[プレゼンスに会議情報を含める (Include meeting information in Presence)]	<p>ユーザが IM and Presence サービスで会議とカレンダーの情報を含まれるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>ユーザはホーム クラスタにおいて、IM and Presence を有効化している必要があります。また、Exchange プレゼンス ゲートウェイが Cisco Unified Communications Manager IM and Presence サービス サーバ上で設定されていることを確認します。</p>
[割り当て済みプレゼンスサーバ (Assigned Presence Server)]	<p>システムが非平衡の場合、ユーザを、クラスタにインストールされた IM and Presence Service サーバに割り当てます。一括管理ツールを使用して指定したサーバは、プレゼンス冗長グループに含める必要があります。</p> <p>IM and Presence サーバのユーザ割り当てモードが平衡化またはアクティブ/スタンバイに設定されたクラスタでは、一括管理ツールを使用して設定されたユーザ割り当てによって自動ユーザ割り当てがオーバーライドされます。</p>
[UC サービス プロファイル (UC Service Profile)]	<p>ドロップダウン リストから UC サービス プロファイルを選択します。</p> <p>(注) [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [サービス プロファイル (Service Profile)] メニューを使用して、ユーザのサービス プロファイルをセットアップします。</p>
[Mobility の有効化 (Enable Mobility)]	<p>Cisco Unified Mobility を有効化する場合に、このチェックボックスをオンにします。これによりユーザは、単一の電話番号を使用してコールを管理し、デスク フォンと携帯電話のコールをピックアップすることができます。</p>
[Mobile Voice Access の有効化 (Enable Mobile Voice Access)]	<p>ユーザがモバイル音声アクセス統合型音声応答 (IVR) システムにアクセスして Cisco Unified Mobility コールを開始し、Cisco Unified Mobility 機能をアクティブまたは非アクティブにできるようにするには、このチェックボックスをオンにします。</p>
[デスク ピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)]	<p>このユーザの最大待機時間を、5桁以下の数字で入力します。</p> <p>この値は、携帯電話からデスク フォンに転送されたコールをユーザがピックアップするまでに許可する最大時間を示します。</p>

フィールド	説明
最大ログイン時間(HHH:MM)	Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ) と Extension Mobility Cross Cluster のユーザの最大ログイン時間を、HHH:MM 形式で入力して設定します。 値の範囲は、00:01 ~ 168:00 時間です。 例 : 168:00、25:16、025:16、:30 または 00:30
[リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit)]	ユーザのデスク フォンからコールの転送が許可される電話の最大数を、2 桁以下の数字で入力します。



第 18 章

ユーザの挿入

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、ユーザのグループを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する方法について説明します。



(注) この機能では、UTF-8エンコーディング形式で保存されたカスタムファイルのみがサポートされます。

- [Unified Communications Manager データベースへのユーザの挿入 \(269 ページ\)](#)
- [ユーザの挿入関連のトピック \(271 ページ\)](#)

Unified Communications Manager データベースへのユーザの挿入

CSV データファイルを使用して、ユーザのグループを Unified Communications Manager データベースに追加できます。ユーザを挿入する目的で CSV ファイルに入力したフィールド値は、ユーザ テンプレートに入力された値よりも優先されます。



注目 クレデンシャル ポリシーで [単純すぎるパスワードの確認 (check for trivial password)] 「」が有効になっており、しかもユーザ テンプレート内のパスワードがユーザ ID である場合、単純すぎるパスワードに関する基準をユーザ ID が満たしていなければ、BAT を使ったユーザ挿入が失敗することがあります。

管理対象デバイスとしてどのデバイスも選択されないまま、プライマリエクステンションが設定された状態で、BAT を使用してユーザを挿入できます。それには、BAT を使用してユーザを挿入する前に、Unified Communications Manager で DN を定義しておく必要があります。DN を事前に設定する手順の概要は、次のとおりです。

1. DN ページで、ユーザのプライマリ内線番号に関連付ける DN の範囲を作成します。

2. プライマリ エクステンションが設定された BAT テンプレートを作成します（同じ DN の事前設定）。
3. 次の手順に示すように、BAT を使用してユーザを挿入します。

始める前に

ユーザ名、制御するデバイスの名前、および電話番号が格納されている、UTF-8 符号化形式で保存された CSV データファイルが必要です。次のいずれかの方法を使用して、CSV データファイルを作成できます。

- CSV 形式に変換される BAT スプレッドシート
- ユーザ データのエクスポート ファイルを生成するエクスポート ユーティリティ



- (注) エクスポート済み BAT ファイルを使ってユーザを挿入するとき、複数ファイルにエクスポートされたユーザに関して、[ユーザID はすでに存在します (User ID already exists)] 「」というエラーが表示されることがあります。たとえば、最初の回線マネージャのリストとユーザのリストの両方に、同じマネージャ ユーザ ID が含まれている場合です。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの挿入 (Insert Users)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。
- ステップ 3** エクスポートユーティリティを使って CSV データファイルを作成した場合は、[ユーザのエクスポートで作成されたファイル (File created with Export Users)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] ドロップダウンリストから、この挿入で使用するユーザ テンプレートを選択します。

(注) ユーザープロファイル、制御するデバイスの名前、およびディレクトリ番号が、Unified Communications Manager データベースに存在している必要があります。管理対象デバイス名の全体を入力する必要があります。デバイス名に MAC アドレスしか含まれていない場合は、デバイスが存在しないことを示すエラーが BAT に表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
 - a) ユーザ レコードをすぐに挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b) ユーザ レコードを後で挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

- ステップ7** ユーザレコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

- [BAT ログファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [ユーザの挿入関連のトピック \(271 ページ\)](#)

ユーザの挿入関連のトピック

- [新しい BAT ユーザ テンプレートの作成 \(260 ページ\)](#)
- [BAT ユーザ テンプレートのフィールドの説明 \(262 ページ\)](#)
- [Unified Communications Manager データベースへのユーザの挿入 \(269 ページ\)](#)



第 19 章

ユーザの更新

この章では、Cisco Unified Communications Manager データベース内の既存のユーザ レコードを更新する方法について説明します。

- [CSV データ ファイルを使用したユーザ情報の更新 \(273 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内のユーザ情報の更新 \(280 ページ\)](#)
- [ユーザ更新の設定 \(281 ページ\)](#)
- [ユーザの更新関連のトピック \(288 ページ\)](#)

CSV データ ファイルを使用したユーザ情報の更新

一括管理 (BAT) スプレッドシートで作成したカンマ区切り値 (CSV) データファイルを使用してデータベース内の既存のユーザー情報を更新することも、テキストベースのカスタム CSV ファイルを使ってユーザーファイル形式を更新することもできます。

Unified CM ディレクトリにすでに保存されている既存のユーザ情報と設定値を保持することができます。



- (注) テキストベースのカスタム CSV ファイルを使用したユーザ更新トランザクションでは、ユーザ テンプレートは必要ありません。ユーザ テンプレートを選択した場合、CSV で指定されていないフィールドがテンプレートから更新用に取得されます。それ以外の場合はフィールドが無視されます。また、無視すべきフィールド用に別の値 (# など) を指定した場合、値 # を持つフィールドが無視されます。そのようなフィールドでは、空白は無視すべき値ではないためです。

すでにエンド ユーザに関連付けられたデバイスを関連付け解除するために一括管理ツール (BAT) を使用することはできません。エクスポート済みエンド ユーザ レコードから管理対象デバイスを手動で削除した後、変更したユーザ レコードを Cisco Unified Communications Manager データベースにカスタム CSV データ ファイルとして挿入し直した場合、**[一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)]** を使ってジョブ結果を確認すると、挿入操作が成功したように見えます。しかし、エンド ユーザ ページに管理対象デバイスが表示されたままになります。

手順

- ステップ 1** 更新するユーザごとの値を定義した CSV データ ファイルを作成します。
- ステップ 2** データベースに存在する更新されたユーザーレコードを挿入するには、 を使用します。

関連トピック

- [BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成 \(275 ページ\)](#)
- [更新中の既存のユーザ情報の保持 \(274 ページ\)](#)
- [ユーザの更新関連のトピック \(288 ページ\)](#)
- [ユーザ ファイル形式の更新 \(806 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内のユーザ情報の更新 \(280 ページ\)](#)

更新中の既存のユーザ情報の保持

ユーザ レコードを更新するときに、すでに Unified CM ディレクトリに保存されたユーザに関する値や設定を保持できます。値を保持する必要のあるフィールドに対して、「#」などの記号を使用できます。次のサンプル CSV データ ファイルで使用される # は、DC ディレクトリに入力済みの値を [マネージャ (Manager)] フィールドに保持するよう BAT に指示します。

```
userid,#,department,,,123456789012,
```

保存済みの値を保持するために使用すべき値を識別するには、次の手順に従います。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの更新 (Update Users)] の順に選択します。
- [ユーザ更新の設定 (User Update Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] フィールドに注目してください。更新後のユーザ値を含む CSV データ ファイルを挿入するときには、このボックスで値の保持用に使用した記号を入力する必要があります。
- ステップ 3** 値を保持するために使用する記号を決定します。
- ステップ 4** [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] フィールド内のこの値を、BAT スプレッドシート ボックスに入力します。
- ステップ 5** BAT スプレッドシート フィールド内のこの記号を、保持すべき値に対して使用します。

関連トピック

- [ユーザの更新関連のトピック \(288 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、既存のユーザのグループを更新するための CSV データ ファイルを作成できます。

BAT スプレッドシートで行を追加した後、その内容を CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。エクスポート済みの CSV 形式ユーザ更新データ ファイルには、次のようなデフォルトのファイル名が割り当てられます：

Update_Users-timestamp.txt

ここで、<timestamp> はファイルが作成された正確な日時を表します。

システムはデフォルトのファイル名を使用して、ファイルを C:\XlsDataFiles\ に保存します。または、ローカルワークステーション上の既存の別のフォルダにファイルを保存することもできます。エクスポートしたファイルをローカルワークステーションに保存したら、CSV 形式のデータファイルの名前を変更できます。いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールド エントリを二重引用符で囲みます。



- (注) CSV ファイル名にカンマが含まれていると（例：abcd,e.txt）、サーバにアップロードできません。

スプレッドシートに空の行を含めた場合、システムでは空の行をファイルの終わりとして扱います。空白行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

すでにエンドユーザに関連付けられたデバイスを関連付け解除するために一括管理ツール (BAT) を使用することはできません。エクスポート済みエンドユーザーレコードから管理対象デバイスを手動で削除した後、変更したユーザーレコードを Unified Communications Manager データベースにカスタム CSV データファイルとして挿入し直した場合、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] を使ってジョブ結果を確認すると、挿入が成功したように見えます。しかし、管理対象デバイスは Cisco Unified Communications Manager Administration の [エンドユーザの設定 (End User Configuration)] ウィンドウのリストに引き続き含まれます。

手順

- ステップ 1** BAT.xlt ファイルをダウンロードして開きます。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** ユーザ情報を追加するには、スプレッドシートの下部にある [ユーザの更新 (Update Users)] タブをクリックします。
- ステップ 4** すべての必須フィールドと関連するオプション フィールドに値を入力します。

各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。フィールドの説明については、「[表 14: ユーザ更新のための BAT スプレッドシートのフィールドの説明 \(276 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 5 [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] フィールドでは、DC ディレクトリに保存されていた値を保持するよう BAT に指示するために使用する記号を入力します。保持するフィールドの値に、同じ値を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT にエクスポート (Export to BAT)] をクリックします。

システムはデフォルトのファイル名 `Update_Users-timestamp.txt` を使って `C:\XlsDataFiles\` にファイルを保存します。または、[参照 (Browse)] を使用して、ローカルワークステーション上の既存の別のフォルダにファイルを保存することもできます。

CSV データ ファイルの読み取り方法を確認するには、BAT 内の [ユーザの更新 (Update Users)] ウィンドウの [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] リンクをクリックしてください。

次のタスク

BAT から CSV データ ファイルにアクセスできるようにするには、CSV データ ファイルを Unified CM サーバの最初のノードにアップロードする必要があります。

関連トピック

[ユーザの更新関連のトピック \(288 ページ\)](#)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートのユーザ データ更新フィールドの説明

次の表では、BAT スプレッドシートでユーザ詳細を更新するためのフィールドについて説明します。

表 14: ユーザ更新のための BAT スプレッドシートのフィールドの説明

フィールド	説明
ユーザー ID	電話ユーザの姓を、1 文字以上 128 文字以下で入力します。
[マネージャ ユーザ ID (Manager User ID)]	この電話ユーザに対して、マネージャのユーザ ID を 128 文字以内で入力します。

フィールド	説明
パスワード (Password)	<p>ユーザが Cisco IP Phone Configuration ウィンドウにアクセスするために必要なパスワードを、最大 128 文字で入力します。</p> <p>ユーザ テンプレートを追加するときには、CSV データ ファイルで、または、BAT ユーザ インターフェイスを使用してパスワードを指定する必要があります。各ユーザまたはユーザ グループの個々のパスワードを適用する場合、CSV ファイルでパスワードの情報を指定します。すべてのユーザにデフォルトのパスワードを使用する場合は、ユーザを BAT に挿入するときにデフォルトのパスワードを指定します。</p>
[部署名 (Department)]	この電話ユーザに対して、部署番号を 64 文字以内で入力します。
[デフォルトのプロファイル (Default Profile)]	このユーザとデバイスのデフォルト プロファイルを、50 文字以内で入力します。BAT で表示される Unified CM の管理の、既存の UDP のリストから、ユーザ デバイス プロファイルを選択できます。
[ユーザ ロケール (User Locale)]	このユーザと関連付ける言語と国のセットを、50 文字以内で入力します。この選択により、このユーザに対して存在する文化依存属性と、Unified CM のユーザ ウィンドウと電話機でユーザに表示される言語が決まります。
パスワード (Password)	<p>ユーザが Cisco IP Phone Configuration ウィンドウにアクセスするために必要なパスワードを、最大 128 文字で入力します。</p> <p>ユーザ テンプレートを追加するときには、CSV データ ファイルで、または、BAT ユーザ インターフェイスを使用してパスワードを指定する必要があります。各ユーザまたはユーザ グループの個々のパスワードを適用する場合、CSV ファイルでパスワードの情報を指定します。すべてのユーザにデフォルトのパスワードを使用する場合は、ユーザを BAT に挿入するときにデフォルトのパスワードを指定します。</p>
PIN	<p>エクステンション モビリティに使用する個人識別番号 (PIN) を、128 桁以下の数字で入力します。</p> <p>ユーザ テンプレートを追加するときには、CSV データ ファイルで、または、BAT ユーザ インターフェイスを使用して PIN を入力する必要があります。各ユーザまたはユーザのグループの個々の PIN を適用する場合は、CSV ファイルで PIN を指定します。すべてのユーザにデフォルトの PIN を使用する場合は、ユーザを BAT に挿入するときにデフォルトの PIN を指定します。</p>

フィールド	説明
[電話番号 (Telephone Number)]	電話機のプライマリエクステンション (通常は、回線1) の電話番号を最大 64 桁の数字で入力します。
[プライマリ エクステンション (Primary Extension)]	このフィールドはユーザを追加した後に表示され、そのユーザのプライマリ電話番号を表します。デバイスをユーザに関連付ける場合は、プライマリ ラインを選択しません。ユーザは、電話機に複数の回線を接続できます。 Unity Ingegration 用にシステムを設定する場合は、[ボイス メールボックスの作成 (Create Voice Mailbox)] リンクが表示されます。
[関連付けられた PC (Associated PC)]	Cisco SoftPhone および Unified CM Attendant Console のユーザに必要なこのフィールドは、ユーザが追加された後に表示されます。
[IPCC 内線 (IPCC Extension)]	このユーザの IPCC 内線を最大 50 文字で入力します。
[メールID (Mail ID)]	ユーザの電子メールアドレスを、255 文字以下で入力します。
[BLF プレゼンス グループ (BLF Presence Group)]	データベース番号 (プレゼンス エンティティ) のステータスを監視する BLF プレゼンス グループを入力します。 BLF プレゼンス機能の詳細については、『 <i>Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager</i> 』を参照してください。
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space)]	Unified CM 管理で設定されたすべてのコーリングサーチスペースが、[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space)] ドロップダウンリストボックスに表示されます。 SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、Unified CM がユーザから発信された Presence サブスクリプション要求をルーティングする方法を決定します。この目的で明示的にコーリングサーチスペースを設定するには、すべてのコーリングサーチスペースを設定する場合と同じようにコーリングサーチスペースを設定します ([コールルーティング (Call Routing)] > [クラス制御 (Class Control)] > [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)])。 コーリングサーチスペースをセットアップするには、『 <i>Cisco Unified Communications Manager Online Help</i> 』を参照してください。

フィールド	説明
[Digest Credentials (ダイジェスト信用証明書)]	<p>SIP を実行している電話のダイジェスト認証を設定する場合、電話が Unified Communications Manager に SIP リクエストを送信するたびに、Unified CM は電話のアイデンティティを確認します。このフィールドに入力したダイジェスト資格情報は、【電話の設定 (Phone Configuration)】 ウィンドウで、ダイジェスト ユーザを選択した場合に、電話機に関連付けられます。</p> <p>最大で 128 文字の英数字を使用する文字列を入力します。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>
[ユーザ グループ (User Group)]	<p>ユーザが所属するユーザ グループを入力します。</p> <p>(注) [ユーザ グループ (User Group)] フィールドは、[ユーザ グループの数 (Number of User Group)] フィールドに 1 よりも大きな値を設定した場合に表示されます。</p>
[Directory URI]	<p>このユーザのプライマリ エクステンションに関連付けるプライマリ ディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。</p> <p>(注) Unified CM の管理ページで、引用符またはコンマが組み込まれた複数の URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符およびコンマが組み込まれた複数のディレクトリ URI が含まれている CSV ファイルをインポートする場合は、ディレクトリ URI 全体を引用符で囲み、組み込まれた引用符を引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared, "Jerry",Smith@test.com」というディレクトリ URI は、CSV ファイルでは「"Jared,""Jerry"" ,Smith@test.com"」と入力する必要があります。</p>
[セルフサービス ユーザ ID (Self-Service User ID)]	<p>セルフサービス ユーザ ID は、ユーザを識別するために使用される DTMF 数字列です (通常はユーザの電話番号と同じです)。</p>
[プロファイル (User Profile)]	<p>[ユーザプロファイル (User Profile)]は、ユーザのグループ全体にわたって共有される設定の集合です。このプロファイルは、新しいデバイスを作成する際に使用されます。</p>

フィールド	説明
[EM 最大ログイン時間 (EM MAX LOGIN TIME)]	Extension Mobility (EM; エクステンションモビリティ) および Extension Mobility Cross Cluster のユーザの最大ログイン時間を入力します。値を分単位で入力します。値の範囲は 0 ~ 10080 分 (7 日間) です。

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内のユーザ情報の更新

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリで、ユーザレコードのグループを更新できます。

始める前に

更新されるユーザ情報を含む .csv データファイルが必要です。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの更新 (Update Users)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。

[ユーザ更新の設定 (User Update Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリスト ボックスから、この一括トランザクション用に作成した .csv データファイルを選択します。

(注) アップロードした .csv データファイルを表示するには、[ファイルの表示 (View File)] をクリックします。

サンプル .csv データファイルを表示するには、[サンプルファイルの表示 (View Sample File)] をクリックします。

ステップ 3 [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] ドロップダウンリスト ボックスから、この一括トランザクション用に作成したユーザテンプレートを選択します。

ステップ 4 [無視するフィールドの値 (Value for fields to be ignored)] フィールドでは、DC ディレクトリに保存されていた値を保持するよう Unified CM 一括管理ツールに指示するための記号を入力します。

(注) ユーザ更新用に .csv ファイルに入力した値は、ユーザテンプレート内の値をオーバーライドします。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 ユーザレコードの更新方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- すぐにユーザレコードを更新する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- ユーザレコードを後で挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] を選択します。

ステップ 7 ユーザレコードを更新するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールまたはアクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データファイルの作成 \(275 ページ\)](#)

[更新中の既存のユーザ情報の保持 \(274 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[ユーザの更新関連のトピック \(288 ページ\)](#)

ユーザ更新の設定

一部のフィールドに表示される値は、 から取得されます。 を使用してこれらの値を設定する必要があります。



- (注) 一部のフィールドには2つのチェックボックスがあることに注意してください。最初のチェックボックスは、そのフィールドを更新する必要があるかどうかを決定し、2番目のチェックボックスはそのフィールドに使用する値を決定 (オン/オフ) します。



- ヒント そのフィールドを更新する必要がある場合は、1つ目のチェックボックスをオンにします。選択したユーザにオンにした値を適用する場合は、2つ目のチェックボックスをオンにします。たとえば、[ホーム クラスタ (Home Cluster)] の1つ目のボックスをオンにして、2つ目のボックスをオフにした場合は、[ホーム クラスタ (Home Cluster)] のオフ値でユーザが更新されます。

次の表に、クエリ オプションを使用してユーザを更新する場合に使用可能なすべてのフィールドの説明を示します。

表 15: ユーザの更新に関するフィールドの説明

フィールド	説明
ユーザ情報 (User Information)	

フィールド	説明
[マネージャユーザID (Manager User ID)]	この電話機のユーザのマネージャ ユーザ ID を最大 128 文字で入力します。
[部署名 (Department)]	この電話機のユーザの部門番号を最大 64 文字で入力します。
[関連付けられたPC (Associated PC)]	Cisco SoftPhone ユーザと Cisco Unified Communications Manager Attendant Console ユーザに必須のこのフィールドは、ユーザの追加後に表示されます。
[User Locale (ユーザ ロケール)]	このユーザに関連付ける言語と国のセットをドロップダウンリストから選択します。この選択によって、このユーザに関して存在する文化依存の属性と、Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウと電話機に表示される言語が決定されます。
[ダイジェストクレデンシャル (Digest Credentials)]	<p>実行中の電話機に対するダイジェスト認証を設定した場合は、電話機が Cisco Unified Communications Manager に SIP 要求を送信するたびに Cisco Unified Communications Manager が電話機の ID を確認します。このフィールドに入力したダイジェスト クレデンシャルは、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウでダイジェストユーザを選択するときに、電話機に関連付けられます。</p> <p>最大 128 文字の英数字からなる文字列を入力します。</p> <p>ダイジェスト認証の詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>
[ダイジェストクレデンシャルの確認 (Confirm Digest Credentials)]	ダイジェストクレデンシャルが正しく入力されたことを確認するために、このフィールドにクレデンシャルを再入力します。
[サービスの設定 (Service Setting)]	
[ホームクラスタ (Home Cluster)]	<p>エンドユーザがこのクラスタに関連付けられている場合に、このチェックボックスをオンにします。エンドユーザは社内の 1 つのクラスタに関連付ける必要があります。</p> <p>(注) エンドユーザが複数のホーム クラスタに関連付けられている場合は、IM and Presence 機能が正しく動作しません。</p>

フィールド	説明
<p>Enable User for Unified CM IM and Presence</p>	<p>IM and Presence 機能のエンドユーザ（ホーム クラスタ上）を有効にする場合に、このチェックボックスをオンにします。IM and Presence 機能は関連するサービス プロファイルで設定します。</p> <p>(注) IM and Presence 機能は、この Unified CM クラスタがホーム クラスタとして指定されているユーザに対してしか有効にすることができません。</p> <p>ヒント [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [UC サービス (UC Service)] メニューを使用して、IM and Presence 機能を設定します。</p>
<p>[割り当て済みプレゼンス サーバ (Assigned Presence Server)]</p>	<p>システムが非平衡の場合、エンドユーザーを、クラスタにインストールされた サーバーに割り当てます。一括管理ツールを使用して指定したサーバは、プレゼンス冗長グループに含める必要があります。</p> <p>IM and Presence サーバのユーザ割り当てモードが平衡化またはアクティブ/スタンバイに設定されたクラスタでは、一括管理ツールを使用して設定されたユーザ割り当てによって自動ユーザ割り当てがオーバーライドされます。</p>
<p>[UCサービスプロファイル (UC Service Profile)]</p>	<p>エンドユーザに関連付ける UC サービス プロファイルをドロップダウン リスト ボックスから選択します。</p> <p>(注) [ユーザ管理 (User Management)] > [ユーザ設定 (User Settings)] > [サービス プロファイル (Service Profile)] メニューを使用して、エンドユーザのサービスプロファイルをセットアップします。</p>
<p>[プレゼンスに会議情報を含める (Exchange Presence Gateway を CUCM IM and Presence サーバで設定する必要があります) (Include Meeting Information in Presence (Requires Exchange Presence Gateway to be configured on CUCM IM and Presence server))]</p>	<p>CUCM IM and Presence サーバ間の同期を確立して、プレゼンス機能で会議情報を追加できるようにする場合に、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>(注) [ホーム クラスタ (Home Cluster)] と [Unified CM IM and Presence でのユーザの有効化 (Enable User for Unified CM IM and Presence)] が有効になっている場合にのみ、このフィールドにアクセスできます。</p>
<p>Extension Mobility[エクステンションモビリティ]</p>	

フィールド	説明
[BLFプレゼンスグループ (BLF Presence Group)]	ドロップダウンリストから、電話番号、つまり、プレゼンス エンティティのステータスを監視する BLF プレゼンス グループを選択します。
[コーリングサーチスペースの登録 (SUBSCRIBE Calling Search Space)]	<p>Cisco Unified Communications Manager Administration で設定したすべてのコーリング サーチ スペースが [コーリング サーチスペースの登録 (SUBSCRIBE Calling Search Space)] ドロップダウンリストに表示されます。</p> <p>[コーリングサーチスペースの登録 (SUBSCRIBE Calling Search Space)] では、Cisco Unified Communications Manager がエンド ユーザから発行されたプレゼンス サブスクリプション要求をルーティングする方法が決定されます。[コールルーティング (Call Routing)]>[クラス管理 (Class Control)]>[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)] メニューを使用して、コーリング サーチ スペースをこの目的専用を設定します。</p>
最大ログイン時間(HHH:MM)	<p>Extension Mobility (EM; エクステンション モビリティ) と Extension Mobility Cross Cluster のユーザの最大ログイン時間を、HHH:MM 形式で入力して設定します。</p> <p>値の範囲は、00:01 ~ 168:00 時間です。</p> <p>例 : 168:00、25:16、025:16、:30 または 00:30</p>
[CTIからのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI)]	<p>CTIに対してこのデバイスの制御と監視を許可する場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>関連する電話番号が共有回線に指定されている場合、1つ以上の関連するデバイスでCTIでサポートされているデバイス タイプとプロトコルの組み合わせが指定されていれば、このチェックボックスをオンにする必要があります。</p>
[クラスタ間のエクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility Cross Cluster)]	[クラスタ間エクステンションモビリティのCSS (Extension Mobility Cross Cluster CSS)] 設定を有効にする場合に、このチェックボックスをオンにします。この設定は、ユーザが EMCC ログイン中にこのデバイス プロファイルを選択した場合に、リモート電話機のデバイス CSSとして使用されます。
[モビリティ情報 (Mobility Information)]	
[Mobility の有効化 (Enable Mobility)]	モバイルコネクトをアクティブにする場合に、このチェックボックスをオンにします。これにより、ユーザは、単一の電話番号を使用してコールを管理し、卓上電話と携帯電話でコールをピックアップまたは管理することができます。

フィールド	説明
[モバイルボイスアクセスの有効化 (Enable Mobile Voice Access)]	ユーザがモバイルボイスアクセス自動音声応答 (IVR) システムにアクセスして、モバイルコネクトコールを起動し、モバイルコネクト機能をアクティブまたは非アクティブにできるようにする場合に、このチェックボックスをオンにします。
[デスクピックアップの最大待機時間 (Maximum Wait Time for Desk Pickup)]	このユーザの最大待機時間を最大5桁の数字で入力します。これは、携帯電話からデスクフォンに転送されたコールをユーザがピックアップするまでに許可する最大時間を示します。
[リモート接続先の制限 (Remote Destination Limit)]	ユーザに卓上電話からのコールの転送を許可する電話機の最大数を最大2桁の数字で入力します。
[ジョブ情報 (Job Information)]	
[ジョブの説明 (Job Description)]	ジョブの説明を入力します。
[今すぐ実行 (Run Immediately)]	ユーザの更新ジョブをスケジュールしてすぐにアクティブにする場合に、このラジオボタンをクリックします。
[後で実行 (このジョブをスケジュールして有効にするには、[ジョブ スケジューラ] ページを使用します。) (Run Later (To schedule and activate this job, use Job Scheduler page.))]	ユーザの更新ジョブをスケジュールして後でアクティブにする場合に、このラジオボタンをクリックします。

関連トピック

[クエリを使用したユーザの更新 \(285 ページ\)](#)

[ユーザクエリの更新パラメータの選択 \(287 ページ\)](#)

クエリを使用したユーザの更新

この手順を使用して、更新するユーザを特定するクエリを作成します。ユーザを特定したら、更新するパラメータを選択する必要があります。

始める前に

すべてのユーザを更新する場合は、[検索 (Find)] を選択し、クエリは指定しません。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの更新 (Update Users)] > [クエリ (Query)] を選択します。

[ユーザの更新クエリ (Update Users Query)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [電話の検索条件 (Find Phones where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の基準の 1 つを選択します。

- 姓
- 名
- [ユーザID (User ID)]
- マネージャ (Manager)
- [部署名 (Department)]
- [ホーム クラスタが有効 (Has Home Cluster Enabled)]
- [ホーム クラスタが無効 (Does not have Home Cluster Enabled)]
- [IM およびプレゼンスが有効 (Has IM and Presence Enabled)]
- [IM およびプレゼンスが無効 (Does not have IM and Presence Enabled)]

ステップ 3 2 番目の [ユーザの検索条件 (Find Users where)] ドロップダウン リストから、次の基準の 1 つを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを入力せずに、[検索 (Find)] を選択します。

ヒント さらにクエリを定義し、複数のフィルタを追加するには、プラス (+) ボタンをクリックして、ステップ 2 ~ 3 を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] を選択します。

検出されたユーザのリストが表示されます。[ユーザの更新 (Update Users)] ウィンドウには、選択したユーザの詳細が表示されます。

次のタスク

ユーザの更新パラメータを選択します。

関連トピック

[ユーザクエリの更新パラメータの選択](#) (287 ページ)

[ユーザ更新の設定](#) (281 ページ)

ユーザクエリの更新パラメータの選択

更新するユーザを特定したら、次の手順を使用して、それらのユーザを更新するためのパラメータを選択して値を定義します。

手順

- ステップ 1** [ユーザの更新クエリ (Update Users Query)] ウィンドウで、[次へ (Next)] を選択します。クエリのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] を選択します。
[ユーザの更新 (Update Users)] に、選択しているクエリのタイプが表示されます。
- ステップ 2** 更新するフィールドの左側にあるチェックボックスをオンにします。
この選択によって、フィールドの既存の値を上書きするよう BAT に指示が出されます。
(注) BATによって、更新チェックボックスをオンにしたフィールドのみ更新されます。
- ステップ 3** 必要なユーザパラメータを更新します。トピック「ユーザ更新の設定項目」を参照してください。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** ユーザレコードを更新するには、次のいずれかの方法を選択します。
- すぐにユーザを更新するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] を選択します。
 - 後でユーザを更新する場合は、[あとで実行 (Run Later)] を選択します。
- ステップ 6** [送信 (Submit)] を選択します。
この操作で、レコードを更新するためのジョブが作成されます。
(注) [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブにします。
-

関連トピック

- [クエリを使用したユーザの更新](#) (285 ページ)
- [ユーザ更新の設定](#) (281 ページ)

ユーザの更新関連のトピック

- [CSV データ ファイルを使用したユーザ情報の更新](#) (273 ページ)
- [更新中の既存のユーザ情報の保持](#) (274 ページ)
- [BAT スプレッドシートを使用したユーザ更新用 CSV データ ファイルの作成](#) (275 ページ)
- [Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内のユーザ情報の更新](#) (280 ページ)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)



第 20 章

ユーザの削除

この章では、ユーザーのグループを Unified Communications Manager ディレクトリから削除する方法について説明します。クエリ検索またはカスタムファイルのいずれかを使用して、削除する既存のユーザレコードを検索できます。

- [クエリを使用したユーザの削除 \(289 ページ\)](#)
- [カスタムファイルを使用したユーザの削除 \(291 ページ\)](#)

クエリを使用したユーザの削除

削除するユーザに関するユーザレコードを特定するためのクエリフィルタを作成できます。



注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。

[ユーザの削除 (Delete Users Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [ユーザの検索 (Find User where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- マネージャ (Manager)

- [部門名 (Department Name)]

2 番目の [ユーザの検索 (Find User where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(289 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(290 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- マネージャ (Manager)
- [部門名 (Department Name)]
- LDAP 同期ステータス

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 ユーザレコードの削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザレコードを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でユーザレコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

ステップ 8 ユーザレコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

[BAT ログファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[ユーザの更新関連のトピック \(288 ページ\)](#)

カスタムファイルを使用したユーザの削除

1. 削除する各ユーザ ID が別々の行に配置されたテキストファイルを作成します。
2. カスタムファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードします。

ユーザを特定して削除するには、テキストエディタを使用して、ユーザ ID を含むカスタムファイルを作成できます。



(注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のあるユーザレコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイルでは見出しが不要で、ユーザ ID の値を入力できます。



注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザの削除 (Delete Users)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。

[ユーザの検索/一覧表示 - カスタムファイルの設定に基づいたユーザの削除 (Find and List Users - Delete Users Based on Custom File)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ユーザの削除 (Delete Users where)] ドロップダウンリストボックスで、次の条件のいずれかを選択します。

- [ユーザID (User ID)]

- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 3 [カスタムファイル (Custom file where)] ドロップダウンリスト ボックスで、カスタムファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 必要な情報がクエリに含まれていることを確認するには、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 ユーザ レコードの削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザレコードを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でユーザレコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

ステップ 7 ユーザレコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [ユーザの更新関連のトピック \(288 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)



第 21 章

ユーザ レコードのエクスポート

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用してユーザ レコードをエクスポートすると、エクスポートユーティリティによりデータベース内の組織階層に基づいてユーザがソートされます。

[ユーザのエクスポート (Export Users Configuration)] ウィンドウで、[ファイル形式 (File Format)] ドロップダウンリストボックスから [デフォルトのユーザ形式 (Default User Format)] を選択した場合、エクスポートユーティリティによって、ユーザに関連付けられているデフォルトのユーザ デバイス プロファイルのみがエクスポートされます。そのユーザ用の他のユーザ デバイス プロファイルは、Cisco Unified Communications Manager Administrator を使用して別途挿入する必要があります。

- [ユーザ レコードのエクスポート \(293 ページ\)](#)
- [ユーザ レコードのエクスポート関連のトピック \(295 ページ\)](#)

ユーザ レコードのエクスポート

BAT を使用してユーザーレコードをエクスポートするとき、Unified Communications Manager 3.1 より前で作成されたユーザーレコードに空白の PIN が含まれる可能性があります。その場合は、BAT ユーザ インターフェイスでユーザ レコードを再挿入する前にデフォルト PIN を指定する必要があります。



注意 エクスポート ファイル内のユーザ ID、PKID、パスワード、PIN、およびダイジェスト クレデンシャルに関する列は、いかなる状況でも変更すべきではありません。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ユーザのエクスポート (Export Users)] の順に選択します。

[エクスポートするユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users to Export)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** 最初の **[ユーザーの検索 (Find User where)]** ドロップダウンリストで、次のオプションから照合するフィールドを選択します。
- ユーザ ID (User ID)
 - [名 (First Name)]
 - [ミドルネーム (Middle Name)]
 - [姓 (Last Name)]
 - マネージャ (Manager)
 - 部署名 (Department)
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウンリストで、次の検索条件の中から選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない
- ステップ 4** **[検索 (Search)]** フィールド/リスト ボックスに、特定の名前やユーザ ID などの検索する値を入力します。
- (注) 複数の部署からユーザを選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 34 からユーザを選択するには、3 番目のボックスに「12, 34」と入力します。操作を別々に行う必要はありません。
- ステップ 5** さらにクエリを定義するには、**[絞り込み (Search Within Results)]** チェックボックスをオンにし、**[AND]** または **[OR]** を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2 \(294 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(294 ページ\)](#) を繰り返します。
- ステップ 6** **[検索 (Find)]** をクリックします。検索結果が表示されます。
- (注) データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを何も入力せずに **[検索 (Find)]** をクリックします。
- ステップ 7** **[次へ (Next)]** をクリックします。
- ステップ 8** **[ファイル名 (File Name)]** テキストボックスに、エクスポートユーザファイル名を入力します。
- ステップ 9** **[ファイル形式 (File Format)]** ドロップダウンリストからファイル形式を選択します。
- ステップ 10** **[ジョブ情報 (Job Information)]** 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 11** ユーザレコードのエクスポート方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザレコードをエクスポートする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でエクスポートする場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 12 ユーザレコードをエクスポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

次のタスク

エクスポートしたファイルは、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使って検索し、ダウンロードすることができます。



注意 エクスポート ファイル内のユーザ ID、PKID、パスワード、PIN、およびダイジェストクレデンシャルに関する列は、いかなる状況でも変更すべきではありません。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [ユーザレコードのエクスポート関連のトピック \(295 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

ユーザレコードのエクスポート関連のトピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)



第 22 章

パスワードおよび PIN のリセット

この章では、Cisco Unified IP Phone の [セルフ ケア ポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにログオンするために使用されるユーザーパスワード、および Cisco Unified IP Phone にログインするために使用されるエクステンションモビリティ機能の PIN をリセットする方法について説明します。

- [パスワードと PIN のリセット \(297 ページ\)](#)

パスワードと PIN のリセット

Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにログオンするときにユーザーが使用するパスワードを、リセットすることができます。また、Cisco Unified IP Phone にログインするときにユーザーが使用するエクステンションモビリティ機能の PIN をリセットすることもできます。他の属性を更新することなく、ユーザのグループをデフォルトパスワードまたはデフォルト PIN にリセットする必要がある場合に、この操作を使用します。

クエリ検索またはカスタム ファイルを使用することにより、パスワードや PIN のリセット対象となるユーザを選択できます。



- (注) リセット ページで選択されるクレデンシャル設定はパスワードと PIN の両方に適用されることに注意してください。

クエリを使用したユーザーパスワードおよび PIN のリセット

クエリを使用してユーザを特定し、パスワードと PIN をデフォルト値にリセットすることができます。

手順

- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [パスワード/暗証番号のリセット (Reset Password/PIN)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。

ステップ 2 リセットするユーザを特定するには、クエリ フィルタを定義します。

ステップ 3 最初の [ユーザの検索 (Find User where)] ドロップダウン リストから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- マネージャ (Manager)
- [部署名 (Department)]

2 番目の [ユーザの検索 (Find User where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

(注) 複数の部署からユーザを選択するには、複数の部署をカンマで区切ってこのフィールドに入力します。たとえば、部署 12 と部署 14 からユーザを選択するには、3 番目のボックスに「12, 14」と入力します。操作を別々に行う必要はありません。

ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 さらにクエリを定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 3 \(298 ページ\)](#) と [ステップ 4 \(298 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 6 [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたユーザのリストが次の分類で表示されます。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- マネージャ (Manager)

- [部門名 (Department Name)]
- LDAP 同期ステータス

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 8 クエリで定義したすべてのレコードを対象として更新する値を入力します。

- [パスワード (Password)] : ユーザーが Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにログオンする際に使用するデフォルトパスワードを入力します。
- [パスワードの確認 (Confirm Password)] : パスワードを再入力します。
- [暗証番号 (PIN)] : ユーザーが Cisco Unified IP Phone にログインするときに使用するエクステンション モビリティ機能用のデフォルト PIN を入力します。
- [暗証番号の確認 (Confirm PIN)] : PIN を再入力します。

(注) この PIN を使用してエンドユーザが Cisco Unity Connection ボイスメールにアクセスできるようにするには、Cisco Unity Connection サーバへの接続用に [アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウの [エンドユーザ PIN 同期の有効化 (Enable End User PIN Synchronization)] チェックボックスをオンにする必要があります。Cisco Unity Connection 内の PIN が正常に更新された場合にのみ、Cisco Unified Communications Manager の PIN が更新されます。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 パスワードまたは PIN の変更方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにパスワードまたは PIN を変更する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で変更する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 11 パスワードまたは PIN をリセットするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 12 このジョブをスケジュールしてアクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ヒント 更新されたユーザ数と、エラー コードを含む失敗したレコード数がログ ファイルに表示されます。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

カスタム ファイルを使用したユーザ パスワードと PIN のリセット

ユーザを特定してパスワードと PIN をデフォルト値にリセットするには、テキスト エディタを使用して、ユーザ ID のカスタム ファイルを作成できます。

始める前に

1. パスワードまたは PIN をリセットするユーザ ID を行単位で列挙したテキスト ファイルを作成します。
2. カスタムファイルを の最初のノードにアップロードします。



(注) bat.xlt を使って作成した挿入トランザクション ファイルまたはエクスポート トランザクション ファイルを、リセット トランザクションに使用しないでください。代わりに、リセット対象のユーザ レコードの詳細を含むカスタム ファイルを作成する必要があります。リセット トランザクションには、このファイルだけを使用してください。このカスタム リセット ファイルでは見出しが不要で、ユーザ ID の値を入力できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [パスワード/暗証番号のリセット (Reset Password/PIN)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。

ステップ 2 [ユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウで、次のオプションの中からカスタム ファイルで使用したフィールドを選択します。

- [ユーザ ID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 3 [カスタムファイル (In Custom File)] ドロップダウン リスト ボックスで、カスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 [次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 5 [ユーザパスワード/暗証番号のリセット (Reset Password/PIN for Users)] ウィンドウで、すべてのレコードに関して更新する値を入力します。

- [パスワード (Password)] : ユーザーが Cisco Unified IP Phone の [セルフケアポータル (Self Care Portal)] ウィンドウにログオンする際に使用するデフォルトパスワードを入力します。

- [パスワードの確認 (Confirm Password)] : パスワードを再入力します。
- [暗証番号 (PIN)] : ユーザーが Cisco Unified IP Phone にログインするときに使用するエクステンション モビリティ機能用のデフォルト PIN を入力します。
- [暗証番号の確認 (Confirm PIN)] : PIN を再入力します。

(注) この PIN を使用してエンド ユーザが Cisco Unity Connection ボイスメールにアクセスできるようにするには、Cisco Unity Connection サーバへの接続用に [アプリケーションサーバの設定 (Application Server Configuration)] ウィンドウの [エンドユーザ PIN 同期の有効化 (Enable End User PIN Synchronization)] チェックボックスをオンにする必要があります。Cisco Unity Connection 内の PIN が正常に更新された場合にのみ、Cisco Unified Communications Manager の PIN が更新されます。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 パスワードまたは PIN の変更方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにパスワードまたは PIN を変更する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で変更する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 パスワードまたは PIN をリセットするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 9 このジョブをスケジュールしてアクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

ヒント 更新されたユーザ数と、エラー コードを含む失敗したレコード数がログ ファイルに表示されます。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)



第 23 章

ユーザ レポートの生成

Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) が生成するレポートを使用することで、レコードを効果的に管理できます。電話、ユーザ、デバイスプロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイレコードに関する情報を提供するレポートを作成し、保存することができます。これらのレポートにファイル名を付けて、Unified Communications Manager の最初のノード上のフォルダ内に格納することにより、確認や印刷ができます。

- [ユーザ レポートの生成 \(303 ページ\)](#)

ユーザ レポートの生成

クエリ オプションを何も指定しないことにより、すべてのユーザに関するレポートを生成することも、クエリ オプションの限定セットを指定することもできます。ユーザに関するレポートの形式はカスタマイズ可能です。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザー (Users)] > [ユーザーレポートの作成 (Generate User Reports)] の順に選択します。

[ユーザの検索/一覧表示 (Find and List Users)] ウィンドウが表示されます。

(注) クエリを指定しないことによってすべてのユーザに関するレポートを生成することも、次の手順に従って特定のユーザに関するレポートを生成することもできます。

ステップ 2 [ユーザの選択 (Select Users Where)] スクロール ボックスで、クエリ オプション [ユーザ ID (User ID)]、[部署名 (Department)]、[名 (First Name)]、[ミドルネーム (Middle Name)]、[姓 (Last Name)]、[マネージャ (Manager)] の中から選択します。

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、次の検索条件の中から選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する

- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 [検索 (Search)] フィールド ボックスに、正確なユーザ ID やユーザの名 (Last Name) などの検索する値を入力します。

複数の値を [検索 (Search)] フィールド ボックスに入力するには、たとえば「JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ」のようにカンマで区切ります。

ヒント データベースに登録されているすべてのユーザに関するレポートを生成するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。検出されたユーザ レコードのリストが表示されます。

ステップ 6 特定のレポート タイプに関する詳細を選択するには、[次へ (Next)] をクリックします。

(注) クエリのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。

ステップ 7 [ファイル名 (File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須) 。

ステップ 8 [使用可能なフィールド (Available Fields)] ドロップダウン リスト ボックスで、アイテムを選択して矢印をクリックすると、そのアイテムがこのレポート リストの [選択済みのフィールド (Selected Fields)] に移動します。レポートに含める 1 つ以上のフィールドを選択できます。

ヒント このレポート リストの [選択済みのフィールド (Selected Fields)] 内でアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択して上矢印または下矢印をクリックすると、そのアイテムがリスト内の別の位置に移動します。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 レポートの生成方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにレポートを生成する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でレポートを生成する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 11 レポートを生成するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

次のタスク

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用してレポート ファイルを検索し、ダウンロードすることができます。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[レポート ログ ファイル](#) (369 ページ)

[スケジュールしたジョブの管理](#) (759 ページ)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)



第 24 章

ラインアピアランス

この章では、BAT の [ラインアピアランス (Line Appearance)] メニューを使用して、ラインアピアランスを表示、エクスポート、および更新する方法について説明します。

ラインアピアランスとは、デバイスへの回線のリンクのことです。エンドユーザは、回線ではなくラインアピアランスにリンクされるようになりました。

システムは、以前は共有回線などの関係に関する詳細なプレゼンス情報を Cisco Unified Presence に提供していませんでした。このため、プレゼンス状態が不正確または不完全なものになっていました。ラインアピアランス機能では、複数のラインアピアランスがユーザと関連付けられているという詳細情報を提供します。

- [ラインアピアランスの表示 \(307 ページ\)](#)
- [ラインアピアランスのエクスポート \(308 ページ\)](#)
- [ラインアピアランスの更新 \(310 ページ\)](#)

ラインアピアランスの表示

複数のラインアピアランス レコードが存在することがあるため、Unified Communications Manager では特定の基準に基づいて特定のレコードを検索できます。



- (注) ブラウザセッションでの作業中は、クライアントマシン上の Cookie に検索/一覧表示の検索設定が保存されます。他のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合や、ブラウザを閉じてから新しいブラウザ ウィンドウを開き直した場合は、手動で検索を変更するまで、Cisco Unified Communications Manager の検索設定が保持されます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ラインアピアランス (Line Appearance)] > [ラインアピアランスのエクスポート (Export Line Appearance)] の順に選択します。

[ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 データベース内のレコードをすべて表示するには、ダイアログボックスを空欄のままにして、**ステップ 3 (308 ページ)** に進みます。

レコードをフィルタまたは検索するには、次の手順を実行します。

- 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
- 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
- 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

(注) 検索条件をさらに追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定した条件をすべて満たしているレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックすると最後に追加した条件が削除され、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックすると追加した検索条件がすべて削除されます。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコードまたは一致するレコードが表示されます。1 ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択します。

(注) データベースから複数のレコードを削除するには、該当するレコードの横のチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。この選択で設定可能なすべてのレコードを削除するには、[すべて選択 (Select All)] をクリックして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

ステップ 4 表示されるレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

(注) ソート順を反転させるには、リスト見出しの上矢印または下矢印が使用可能であればそれをクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

ラインアピアランスのエクスポート

1. エクスポートするラインアピアランスの詳細を列挙したテキストファイルを作成します。
2. カスタム ファイルを Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。
3. エクスポートするラインアピアランス レコードを検索します。

エクスポートするラインアピアランス アイテムを選択した後、選択したラインアピアランスのエクスポートを進めることができます。

手順

- ステップ 1** エクスポートするアイテムを特定したら、[次へ (Next)] をクリックします。
[ライン アピアランスのエクスポートの設定 (Export Line Appearance Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [カスタムファイル (Custom File)] フィールドに、カスタムファイルのファイル名を入力します。
- ステップ 3** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスで、ファイル形式を選択します。
ライン アピアランス形式がデフォルトで使用可能です。
- ステップ 4** 次のチェックボックスをオンにします (複数可)。
- [CUP ユーザのラインアピアランスのみエクスポート (Export line appearances for Cisco Unified Presence users only)] : エクスポート操作は Cisco Unified Presence ユーザに対してのみ実行されます。
 - [すべてのプライマリ内線のラインアピアランスのエクスポート (Export line appearances for all the primary extensions)] : ユーザが関連付けられている回線を共有するすべてのデバイスのライン アピアランスがエクスポートされます。
 - [関連付けられているデバイスのラインアピアランスのエクスポート (Export line appearances for the devices associated)] : ユーザが関連付けられているデバイスを共有するすべての回線のライン アピアランスがエクスポートされます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** エクスポート方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- a) すぐにラインアピアランスをエクスポートする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b) 後でラインアピアランスをエクスポートする場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** レポートを生成するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

次のタスク

更新されたユーザ数と、エラー コードを含む失敗したレコード数がログ ファイルに表示されます。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

[ラインアピアランスの表示](#) (307 ページ)

ラインアピアランスの更新

- 更新するラインアピアランスに関する以下の詳細を列挙したテキストファイルを作成します。
 - [ユーザID (User ID)]
 - デバイス
 - 電話番号
 - パーティション (任意)
- 各アイテムをテキストファイル内の別々の行に配置します。
- カスタムファイルを Unified Communications Manager サーバーにアップロードします。

カスタムファイル内に列挙されたラインアピアランスを更新できます。



注目 [ラインアピアランスの更新 (Update Line Appearance)] トランザクションを正常に実行するには、回線がエンドユーザに関連付けられている必要があります。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [ラインアピアランス (Line Appearance)] > [ラインアピアランスの更新 (Update Line Appearance)] の順に選択します。[ラインアピアランス更新の設定 (Update Line Appearance Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストボックスから、カスタムファイルの名前を選択します。
- ステップ 3** 以下のチェックボックスをオンにして、これらのオプションを選択するか、[ステップ 4 \(310 ページ\)](#) にスキップします。
 - Cisco Unified Presence ユーザのラインアピアランスのみを更新する場合は、[CUPユーザのラインアピアランスのみ更新 (Update line appearance for CUP users only)] チェックボックスをオンにします。
 - ラインアピアランスの関連付けを解除するには、[ラインアピアランスの関連付け解除 (Disassociate line appearances)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** ラインアピアランスの更新方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにラインアピランスを更新する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でラインアピランスを更新する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 6 ラインアピランスを更新するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)



第 25 章

エンドユーザ CAPF プロファイル

この章では、Unified Communications Manager 一括管理ツールを使用して、Unified Communications Manager データベース内の既存のエンドユーザーに CAPF プロファイルを追加する方法について説明します。

- [エンドユーザ CAPF プロファイルの挿入 \(313 ページ\)](#)
- [エンドユーザ CAPF プロファイルの削除 \(314 ページ\)](#)
- [エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート \(315 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシート エンドユーザ CAPF プロファイルのフィールドの説明 \(317 ページ\)](#)

エンドユーザ CAPF プロファイルの挿入

CSV データファイルを使用して、既存のエンドユーザーレコードの CAPF プロファイルを Unified Communications Manager データベースに挿入できます。



注目 挿入中にレコードのいずれかの情報に問題が見つかった場合、BAT はその CAPF プロファイルレコードを挿入しません。

始める前に

エンドユーザ CAPF プロファイル固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが必要です。

次のいずれかの方法を使用して、CSV データファイルを作成できます。

- CSV 形式に変換される BAT スプレッドシート
- エンドユーザ CAPF プロファイルデータのエクスポート ファイルを生成するエクスポートユーティリティ

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [エンドユーザCAPFプロファイル (End User CAPF Profile)] > [エンドユーザCAPF プロファイルの挿入 (Insert End User CAPF Profile)] の順に選択します。
[エンドユーザCAPFプロファイル設定の挿入 (Insert End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスから、この特定の一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** 既存の CAPF プロファイル設定を、挿入するファイルに含まれる情報で上書きするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- すぐに CAPF プロファイルを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - 後で CAPF プロファイルを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 6** CAPF プロファイルを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- 注目** 挿入中にレコードのいずれかの情報に問題が見つかった場合、BATはそのCAPFプロファイルレコードを挿入しません。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

エンドユーザ CAPF プロファイルの削除

カスタムファイルを使用して、Unified Communications Manager データベースからエンドユーザ CAPF プロファイルを削除できます。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager Administration からエンドユーザ CAPF プロファイルを削除するには、その前に次のタスクを実行する必要があります。

- 削除する各エンドユーザ CAPF プロファイルが別々の行に配置されたテキストファイルを作成します。

- カスタムファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードします。



(注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のあるエンドユーザ CAPF プロファイルレコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。カスタム削除ファイルでは見出しが不要で、インスタンス ID またはエンドユーザ ID の値を入力できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)] > [エンドユーザ CAPF プロファイルの削除 (Delete End User CAPF Profile)] の順に選択します。
[エンドユーザ CAPF プロファイル設定の削除 (Delete End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [カスタムファイル内のエンドユーザ ID/インスタンス ID によるエンドユーザ CAPF プロファイルの削除 (Delete End User CAPF Profile where End User ID/ Instance ID in custom file)] ドロップダウンリスト ボックスから、エンドユーザ CAPF プロファイルの削除用にアップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
選択したエンドユーザ CAPF プロファイルと一緒に [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示されます。
- ステップ 4** ジョブをすぐに実行するか、または後で実行するかを選択できます (対応するラジオボタンを選択します)。
- ステップ 5** エンドユーザ CAPF プロファイルを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
[ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。
- ステップ 6** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

関連トピック

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート

BAT を使用して、エンドユーザ CAPF プロファイルをエクスポートできます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ (Users)] > [エンドユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)] > [エンドユーザ CAPF プロファイルのエクスポート (Export End User CAPF Profile)] の順に選択します。
[エクスポートするエンドユーザ CAPF プロファイルの検索/一覧表示 (Find and List End User CAPF Profiles To Export)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [エンドユーザ CAPF プロファイルの検索 (Find End User CAPF Profile where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションから照合するフィールドを選択します。
- インスタンス ID
 - エンドユーザ ID
- ステップ 3** 2 番目のドロップダウン リスト ボックスでは、次のオプションの中から選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない
- ステップ 4** [検索 (Search)] フィールドボックスに、特定のインスタンス ID やエンドユーザ ID などの検索する値を入力します。
- ステップ 5** さらにクエリを定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2 \(316 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(316 ページ\)](#) を繰り返します。
- ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。
- 条件を満たしているレコードがすべて表示されます。1 ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択します。
- ヒント データベースに登録されているすべてのユーザを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 7** 表示されるレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。
ウィンドウに、選択したレコードが表示されます。
- ステップ 8** [次へ (Next)] をクリックします。
- [エンドユーザ CAPF プロファイル設定のエクスポート (Export End User CAPF Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 9** [ファイル名 (File Name)] テキストボックスに、エクスポートするエンドユーザ CAPF ファイル名を入力します。
- ステップ 10** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リストボックスから、CAPF ファイル形式を選択します。
- ステップ 11** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 12** エクスポート方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- すぐにエンドユーザ CAPF プロファイルをエクスポートする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - 後でエンドユーザ CAPF プロファイルをエクスポートする場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 13** エンドユーザ CAPF プロファイルをエクスポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。
- (注) フィールドの説明については、「[BAT スプレッドシート エンドユーザ CAPF プロファイルのフィールドの説明 \(317 ページ\)](#)」を参照してください。

関連トピック

[BAT ログファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

BAT スプレッドシート エンドユーザ CAPF プロファイルのフィールドの説明

次の表で、エンドユーザ CAPF プロファイルを挿入、削除、またはエクスポートするときに表示されるフィールドについて説明します。

BAT ユーザ インターフェイスで、アスタリスクが付いているフィールド名は必須入力項目です。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

表 16: BAT 内のエンドユーザ CAPF プロファイルのフィールドの説明

フィールド	説明
[エンドユーザ ID (End User ID)]	エンドユーザのユーザ ID を入力します。
[インスタンス ID (Instance ID)]	1 ~ 128 文字の英数字 (a ~ z, A ~ Z, および 0 ~ 9) を入力します。インスタンス ID は、証明書を操作するユーザを識別します。

フィールド	説明
[証明書操作 (Certificate Operation)]	次のいずれかのオプションを入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • [保留中の操作なし (No Pending Operation)] : 証明書の操作が発生しない場合に表示されます。これが証明書の操作のデフォルト設定です。 • [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] : アプリケーションに新しい証明書をインストールするか、既存のローカルで有効な証明書をアップグレードします。
[認証モード (Authentication Mode)]	証明書操作の [インストール/アップグレード (Install/Upgrade)] の認証モードは、「認証文字列 (By Authentication String) 」を指定します。つまり、ユーザまたは管理者が CAPF 認証文字列を [JTAPI/TSP の設定 (JTAPI/TSP Preferences)] ウィンドウで入力した場合にのみ、CAPF はローカルで有効な証明書のインストール、アップグレード、またはトラブルシューティングを行います。
[認証文字列 (Authentication String)]	4 ~ 10 桁の数字を入力します。
[キー サイズ (ビット) (Key Size (bits))]	証明書のキーサイズを選択します。デフォルト設定では 1024 を指定します。その他のオプションには 512 と 2048 があります。
[操作完了期限 (Operation Completes by)]	このフィールドは操作を完了する必要がある期限の日時を指定します。このフィールドはすべての証明書操作に対応しています。



第 **V** 部

電話とユーザ

- [ユーザ付きの電話 \(321 ページ\)](#)
- [電話およびユーザ ファイル形式 \(325 ページ\)](#)
- [電話とユーザの検証 \(327 ページ\)](#)
- [電話とユーザの挿入 \(329 ページ\)](#)



第 26 章

ユーザ付きの電話

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理を使用して、ユーザのグループとそれらの電話を1つの一括トランザクションで Cisco Unified Communications Manager サーバに追加する方法について説明します。電話機の CSV データ ファイルを作成するためのオプションは、次の2つがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用して、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成します (経験豊富なユーザ向け)。

[ユーザ付きの電話の挿入 (Insert Phones with Users)] オプションは、Cisco Unified Communications Manager Administration メイン メニューから [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones and Users)] を選択してアクセスできます。

- [新しい電話機とユーザの追加 \(321 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用したユーザと電話機の追加 \(322 ページ\)](#)
- [ユーザ付きの電話関連のトピック \(322 ページ\)](#)

新しい電話機とユーザの追加

電話機とユーザを一緒に挿入するには、次の手順を使用します。

手順

ステップ 1 更新する電話機/ユーザ レコードに対して個別の値を定義するには、カンマ区切り値 (CSV) データファイルを作成します。

- [BAT スプレッドシートを使用したユーザと電話機の追加 \(322 ページ\)](#) を参照してください。
- テキストベースの CSV ファイルについては、[ユーザ付き電話機ファイル形式 \(800 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 2 ファイル形式を CSV データファイルに関連付けます。

- [電話およびユーザ ファイル形式の追加 \(325 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 3 電話機とユーザ レコードを検証します。

- [電話機レコードとユーザ レコードの検証 \(327 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 4 電話機とユーザ レコードを挿入します。

- [Unified Communications Manager への電話機とユーザの挿入 \(329 ページ\)](#) を参照してください。

BAT スプレッドシートを使用したユーザと電話機の追加

電話機とユーザを一括して追加するための CSV データファイルを作成します。

手順

ステップ 1 BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。

BAT.xlt ファイルをダウンロードできます。

ステップ 2 スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。

ステップ 3 スプレッドシートの下部にある [電話-ユーザ (Phone-Users)] タブをクリックします。

ステップ 4 [BAT スプレッドシートを使用した電話用 CSV データファイルの作成 \(116 ページ\)](#) のステップ 4 から 10 に従います。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)

[ユーザ付きの電話関連のトピック \(322 ページ\)](#)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

ユーザ付きの電話関連のトピック

- [新しい電話機とユーザの追加 \(321 ページ\)](#)
- [ユーザ付き電話機ファイル形式 \(800 ページ\)](#)
- [電話およびユーザ ファイル形式の追加 \(325 ページ\)](#)

- [電話機レコードとユーザレコードの検証 \(327 ページ\)](#)
- [Unified Communications Manager への電話機とユーザの挿入 \(329 ページ\)](#)



第 27 章

電話およびユーザ ファイル形式

この章では、電話とユーザ ファイルの形式をカンマ区切り値（CSV）データ ファイルを使用して更新する方法について説明します。

- [電話およびユーザ ファイル形式の追加（325 ページ）](#)
- [電話およびユーザ ファイル形式関連のトピック（326 ページ）](#)

電話およびユーザ ファイル形式の追加

テキストベースの CSV データファイルで電話とユーザのファイル形式を追加できます。CSV データファイルを作成した後、ファイル形式をテキストベースの CSV データファイルと関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルと関連付けると、各フィールドの名前は CSV データファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、正しい順序で各フィールドに値を入力したことを確認できます。

始める前に

更新する各ユーザに対して個別の値を定義する CSV データファイルを作成する必要があります。

テキスト エディタを使用して CSV データファイルを作成する際に、テキストベースのファイルに値を入力するためのファイル形式を作成します。ファイル形式によって指定した順序でテキスト ファイルに値を入力します。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones and Users)] > [電話とユーザのファイル形式 (Phones & Users File Format)] > [ファイル形式の割り当て (Assign File Format)] の順に選択します。

[ファイル形式の設定の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。

- ステップ 3** [ファイル形式名 (Format File Name)]フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データファイルと関連付けるジョブを作成するには、[送信 (Submit)]をクリックします。
- ステップ 5** このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)]メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)]オプションを使用します。
- (注) ファイル形式を追加すると、ユーザフィールドが自動的に作成されます。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [電話およびユーザ ファイル形式関連のトピック \(326 ページ\)](#)

電話およびユーザ ファイル形式関連のトピック

- [BAT スプレッドシートを使用したユーザと電話機の追加 \(322 ページ\)](#)
- [ユーザ付き電話機ファイル形式 \(800 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)



第 28 章

電話とユーザの検証

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、ユーザのグループとそれらの電話を 1 つの一括トランザクションで Cisco Unified Communications Manager サーバに追加できます。電話の CSV データファイルを作成するためのオプションは、次の 2 つがあります。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用して、データを CSV 形式にエクスポートする。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成します (経験豊富なユーザ向け)。

[ユーザ付きの電話の挿入 (Insert Phones with Users)] オプションは、Cisco Unified Communications Manager Administration メインメニューから [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones and Users)] を選択してアクセスできます。

- [電話機レコードとユーザレコードの検証 \(327 ページ\)](#)
- [電話とユーザの検証関連のトピック \(328 ページ\)](#)

電話機レコードとユーザレコードの検証

電話機とユーザに関する CSV データファイルレコードを検証できます。[電話/ユーザの確認 (Validate Phones/Users)] を選択すると、システムは検証ルーチンを実行して、CSV データファイルと BAT 電話機テンプレートにすべての必須フィールド (デバイスプールやロケーションなど) が入力されていることを検査します。この検証では、デバイスフィールドとその依存関係のみが検査されます。



(注) ユーザのプライマリ エクステンションとプライマリ ユーザ デバイスは検証されません。

始める前に

1. 追加するデバイスには BAT 電話機テンプレートが必要です。単一回線または複数回線を持つ電話を追加するには、複数回線を持つマスター電話テンプレートを使用できます。

2. 検証する電話機/ユーザごとの個別の値を定義したカンマ区切り値（CSV）データファイルを作成する必要があります。BAT スプレッドシート（BAT.xlt）を使って CSV データファイルを作成し、データを CSV 形式にエクスポートすることも、テキストエディターを使用して CSV 形式のカスタム テキスト ファイルを作成することもできます。
3. ファイル形式を CSV データファイルに関連付けます。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理（Bulk Administration）]>[電話とユーザ（Phones & Users）]>[電話/ユーザの確認（Validate Phones/Users）]の順に選択します。
[電話/ユーザの確認（Validate Phones/Users Configuration）]ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名（File Name）]フィールドで、この特定の一括トランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。
- ステップ 3** [電話テンプレート名（Phone Template Name）]フィールドで、この一括トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。
- ステップ 4** ユーザと電話機を検証するためのジョブを作成するには、[送信（Submit）]をクリックします。
- ステップ 5** このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理（Bulk Administration）]メインメニューの [ジョブ スケジューラ（Job Scheduler）] オプションを使用します。
-

関連トピック

- [テキストベースのファイル形式と CSV データファイルの関連付け（157 ページ）](#)
- [BAT ログ ファイル（771 ページ）](#)
- [標準電話テンプレート（10 ページ）](#)
- [ユーザ付き電話機ファイル形式（800 ページ）](#)
- [スケジュールしたジョブの管理（759 ページ）](#)
- [電話とユーザの検証関連のトピック（328 ページ）](#)
- [電話機レコードとユーザレコードの検証（327 ページ）](#)

電話とユーザの検証関連のトピック

- [ユーザ付き電話機ファイル形式（800 ページ）](#)
- [テキストベースのファイル形式と CSV データファイルの関連付け（157 ページ）](#)
- [BAT ログ ファイル（771 ページ）](#)
- [スケジュールしたジョブの管理（759 ページ）](#)



第 29 章

電話とユーザの挿入

この章では、電話とユーザのグループを Unified Communications Manager データベースおよびディレクトリに追加する方法について説明します。

- [Unified Communications Manager への電話機とユーザの挿入 \(329 ページ\)](#)
- [電話とユーザの挿入関連のトピック \(331 ページ\)](#)

Unified Communications Manager への電話機とユーザの挿入

電話とユーザのグループを Unified Communications Manager データベースとディレクトリに追加できます。



(注) 電話機レコードは、挿入前に検証する必要があります。

ダミー MAC アドレス オプションを使用できます。CTI ポートを追加するときにこのオプションを使用すると、ダミー MAC アドレスの形式で、各 CTI ポートに一意のデバイス名が指定されます。このデバイス名は、後で Unified Communications Manager Administration または Unified CM Auto-Register Phone Tool を使用して手動で更新できます。ダミー MAC アドレス オプションは、H.323 クライアント、VGC 電話機、または VGC 仮想電話機に使用しないでください。

ダミー MAC アドレス オプションは、自動的に、次の形式でダミー MAC アドレスを生成します。

XXXXXXXXXXXX

ここで、X は、任意の 12 文字の 16 進数値 (0 ~ 9 と A ~ F) を表します。

始める前に

1. カンマ区切り値 (CSV) データファイルを作成して、挿入する電話とユーザごとに個々の値を定義します。ユーザを伴う電話を追加するために BAT スプレッドシート (BAT.xlt)

を使って CSV データファイルを作成することも、ユーザと電話の組み合わせを追加するために CSV 形式のカスタム テキスト ファイルを作成することもできます。

2. ファイル形式を CSV データファイルに関連付けます。
3. 電話機とユーザ レコードを検証します。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話とユーザ (Phones & Users)] > [ユーザ付きの電話の挿入 (Insert Phones with Users)] の順に選択します。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。

ステップ 3 [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] フィールドで、このトランザクションに使用した BAT 電話機テンプレートを選択します。

注目 CSV データファイルに個別の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。この情報は後で手動で更新できます。データ入力ファイルで MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

ユーザに割り当てられている電話の MAC アドレスがわからない場合には、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイス用に MAC アドレスが登録されます。

ステップ 4 [ユーザテンプレート名 (User Template Name)] フィールドで、このトランザクションに使用した BAT ユーザ テンプレートを選択します。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザ付き電話を挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でユーザ付き電話を挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 電話機とユーザのレコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールしてアクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

[電話およびユーザ ファイル形式の追加 \(325 ページ\)](#)

[BAT スプレッドシートを使用したユーザと電話機の追加 \(322 ページ\)](#)

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[ユーザ付き電話機ファイル形式 \(800 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

- [TAPS の概要 \(741 ページ\)](#)
- [電話とユーザの挿入関連のトピック \(331 ページ\)](#)
- [電話機レコードとユーザレコードの検証 \(327 ページ\)](#)

電話とユーザの挿入関連のトピック

- [BAT スプレッドシートを使用したユーザと電話機の追加 \(322 ページ\)](#)
- [ユーザ付き電話機ファイル形式 \(800 ページ\)](#)
- [電話およびユーザファイル形式の追加 \(325 ページ\)](#)
- [電話機レコードとユーザレコードの検証 \(327 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [TAPS の概要 \(741 ページ\)](#)
- [BAT ログファイル \(771 ページ\)](#)



第 VI 部

マネージャとアシスタント

- [Cisco Unified Communications Manager Assistant \(335 ページ\)](#)
- [マネージャとアシスタントの挿入 \(353 ページ\)](#)
- [マネージャとアシスタントの削除 \(357 ページ\)](#)
- [マネージャの削除 \(359 ページ\)](#)
- [アシスタントの削除 \(363 ページ\)](#)
- [マネージャおよびアシスタント レポートの生成 \(367 ページ\)](#)



第 30 章

Cisco Unified Communications Manager Assistant

この章では、Cisco Unified Communications Manager Assistant 用にマネージャの電話機とアシスタントの電話機を共有回線またはプロキシ回線のいずれかで設定することに関する情報を提供します。BAT スプレッドシートを使用したマネージャ-アシスタント関連付けの追加と更新、およびマネージャ-アシスタント用のデフォルトおよびカスタムの CSV データ ファイルの作成に関する情報も提供します。

Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を管理できます。一括トランザクションで、マネージャまたはアシスタントをその関連付けとともに追加、更新、および削除することができます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant に関するタスクと情報の詳細については、『*Feature Configuration Guide for Cisco Unified Communications Manager*』 (<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/unified-communications-manager-callmanager/products-installation-and-configuration-guides-list.html>) を参照してください。

- [Cisco Unified Communications Manager Assistant 用電話機および回線](#) (335 ページ)
- [マネージャ - アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル](#) (346 ページ)
- [マネージャ-アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル関連のトピック](#) (351 ページ)

Cisco Unified Communications Manager Assistant 用電話機 および回線

Cisco Unified CM Assistant 機能は、いくつかの Cisco Unified IP Phone モデルおよびデバイス プロファイルで機能します。Cisco Unified CM Assistant では、Cisco Unified CM Assistant 機能と共に使用するために、マネージャとアシスタントの回線を設定するモードが2つ提供されています。

- **プロキシモード**: プライマリ マネージャ回線は、アシスタントの電話機上に異なる電話番号を持つプロキシ回線と関連付けられます。

- 共有回線モード：マネージャとアシスタントには、それらの電話機上に、同じ電話番号とパーティションを使用する共有回線があります。



- (注) ユーザーをデバイスまたは電話機に関連付けることができるのは、デバイスまたは電話機で Unified CM Assistant をサポートしている場合だけです。

BAT を使用して、マネージャの電話機とアシスタントの電話機をプロキシ回線または共有回線のいずれかで設定できます。

関連トピック

[Cisco Unified Communications Manager Assistant のプロキシ回線モードでの電話機のセットアップ](#) (336 ページ)

[Cisco Unified Communications Manager Assistant の共有回線モードでの電話機のセットアップ](#) (343 ページ)

[Cisco Unified Communications Manager へのマネージャ/アシスタントアソシエーションの挿入](#) (353 ページ)

Cisco Unified Communications Manager Assistant のプロキシ回線モードでの電話機のセットアップ

Unified CM Assistant プロキシ回線サポート用にマネージャ電話機とアシスタント電話機の設定を準備するには、次のタスクを実行する必要があります。

手順

- ステップ 1** システムで Unified CM Assistant 要件をセットアップして設定します。Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードを使用することをお勧めします。このウィザードは、Unified CM Assistant マネージャ/アシスタント用の電話機テンプレート、ルートポイント、パーティション、変換パターン、および Cisco Unified CM Assistant サービス用のコーリングサーチスペースを自動的に作成します。Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードを実行するには、BAT とウィザードが同じサーバー上に存在する必要があります。

Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードの実行方法については、『*Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド*』を参照してください。

- (注) Unified CM Assistant 設定ウィザードを一回だけ使用して、システムの Unified CM Assistant 設定要件をセットアップできます。設定ウィザードの実行後は、ウィザードで設定を表示することはできますが、変更はできません。

- ステップ 2** マネージャ用およびアシスタント用の新しい電話機とユーザーを追加するには、Unified CM Assistant 設定ウィザードによって BAT サーバ上に作成された Unified CM Assistant マネージャおよび Unified CM Assistant アシスタント電話機テンプレートを使用します。電話機をプロキシモード専用で設定するには BAT テンプレートを使用します。

ステップ 3 既存のマネージャ電話機とアシスタント電話機の場合は、次の方法のどちらかを使用して、Unified CM Assistant 電話機テンプレートに合わせてマネージャ電話機とアシスタント電話機を変更できます。

- BAT の [回線の追加 (Add Lines)] 機能を使用すると、Unified CM Assistant 電話機テンプレートに類似するよう既存の電話機を変更できます。
- マネージャ用およびアシスタント用の Unified CM Assistant 電話機テンプレートを使用して、元の電話機を削除し、新しい電話機を追加することができます。

ステップ 4 マネージャ用およびアシスタント用に電話機と回線を設定した後、Unified CM Assistant 制御のためにマネージャ回線とアシスタント回線を関連付けます。

関連トピック

[Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャ電話テンプレートのデフォルト設定 \(337 ページ\)](#)

[既存の電話機および UDP への電話回線の追加 \(216 ページ\)](#)

[データベースへの電話機の追加 \(31 ページ\)](#)

[マネージャおよびアシスタントのプロキシ回線の設定 \(338 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャ電話テンプレートのデフォルト設定

次の表に、Unified CM Assistant マネージャ電話テンプレートのデフォルト設定のリストを示します。

表 17: プロキシ回線用マネージャ電話テンプレートのデフォルト設定

フィールド	デフォルト値 (Default Value)
[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]	標準のソフトキー テンプレート マネージャ
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	Standard Cisco Unified IP Phone 7960 (2 回線)
[回線 1 (Line 1)]	プライマリ回線 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_I_E • パーティション = Generated_Managers
[回線 2 (Line 2)]	着信インターコム回線 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_I_E • パーティション = Generated_Everyone • ヘッドセット オプションによる自動応答も設定。
サービス (Services)	アシスタント プライマリ サービス

次の表に、Unified CM Assistant アシスタント電話テンプレートのデフォルト設定のリストを示します。

表 18: プロキシ回線用アシスタント電話テンプレートのデフォルト設定

フィールド	デフォルト値 (Default Value)
[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]	ソフトキー アシスタント
[電話ボタン テンプレート (Phone Button Template)]	Standard Cisco Unified IP Phone 7960 Assistant
[拡張モジュール 1 (Expansion Module 1)]	14 ボタン拡張モジュール
[電話本体に 1 回線、拡張モジュールに 5 回線 (One line on base phone and five lines on expansion module)]	プロキシ回線では、[電話本体に 1 回線、拡張モジュールに 5 回線 (One line on base phone and five lines on expansion module)] のデフォルト設定は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_M_E • パーティション = Generated_Everyone
[回線 7 (Line 7)] (拡張モジュール (On Expansion Module))	インターコム回線 <ul style="list-style-type: none"> • CSS = Generated_CSS_I_E • パーティション = Generated_Everyone • ヘッドセット オプションによる自動応答も設定。

マネージャおよびアシスタントのプロキシ回線の設定

BATは、電話機のプライマリマネージャ回線をアシスタント電話機のプロキシ回線にマップすることによって、Unified CM Assistant 回線設定を割り当てます。Unified CM Assistant ウィザードで作成した Unified CM Assistant のマネージャとアシスタントのデフォルトテンプレートを使用すると、1～5本のマネージャ回線を1台のアシスタント電話機に関連付けることができます。次の例に、Unified CM Assistant テンプレートを使用して設定した電話機に対して、2台のマネージャ電話機を1台のアシスタント電話機に関連付けるときの回線設定を示します。

マネージャ 1 の電話

- 回線 1 : プライマリ回線
- 回線 2 : インターコム回線

マネージャ 2 の電話

- 回線 1 : プライマリ回線

- 回線 2 : インターコム回線

アシスタントの電話

- 回線 1 : プライマリ回線
- 回線 2 : マネージャ 1 のプロキシ回線
- 回線 3 : マネージャ 2 のプロキシ回線
- 回線 4 ~ 6 は未割り当て
- 回線 7 : インターコム回線

アシスタントの電話

回線 4 ~ 6 は、他のマネージャとの関連付けに使用できます。

複数のマネージャを 1 台のアシスタント電話機に関連付けると、BAT は、CSV データファイル内での順序に基づいてプロキシ回線を作成します。BAT は、マネージャとアシスタント間の最初の回線を作成するとき、すべてのプライマリ マネージャ回線をアシスタント電話機の未割り当て回線にプロキシ回線として割り当てます。BAT はアシスタント電話機のすべての回線が割り当てられるまで、または CSV レコード内のすべてのマネージャが関連付けられるまで、CSV レコードの順序に基づいて、マネージャとアシスタント間のプロキシ回線を 1 つずつ作成し続けます。

複数のアシスタントを 1 本のマネージャ プライマリ回線に関連付けると、BAT は、CSV データファイル内での順序に基づいてアシスタントをマネージャに割り当てます。BAT は、使用可能な回線の最初のアシスタント番号を基に、プライマリ マネージャ回線を割り当てます。たとえば、マネージャの電話機にプライマリ回線が 2 本あるとします。CSV データファイルで最初にリストされているアシスタントには、使用可能な回線が 1 本しかありません。その結果 BAT は、マネージャの 1 本のプライマリ回線と、CSV レコードにリストされているすべてのアシスタント電話機の 1 本のプロキシ回線に関連付けます。

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャ電話回線の設定

次の表に、マネージャ-アシスタント関連付けを使用する際に BAT で設定できる、マネージャ電話で可能なすべての回線設定を示します。

表 19: マネージャ電話の回線設定

使用可能な回線の数	構成
1 回線	回線 1 : プライマリ回線 (Unified CM Assistant により制御) インターコム回線 (なし)

使用可能な回線の数	構成
2 回線 (デフォルトの Unified CM Assistant マネージャ電話テンプレート)	回線 1 : プライマリ回線 (Unified CM Assistant により制御) 回線 2 : インターコム回線 (オプション)
3 回線以上	最後の回線がインターコム回線として設定されます。 アシスタント電話で使用可能な回線の数は、プロキシ回線と関連付けられるマネージャ回線の数を決定します。

Unified CM Assistant 電話回線の設定

次の表では、マネージャ/アシスタントアソシエーション操作で BAT によって設定されるアシスタント電話機のデフォルトの回線設定を示します。

表 20: Assistant 電話回線の設定

使用可能な回線数	構成
1 回線	回線 1 : プロキシ回線 インターコム回線 (なし)
2 回線	回線 1 : プライマリ回線 回線 2 : プロキシ回線 インターコム回線 (なし)
3 回線	回線 1 : プライマリ回線 回線 2 : プロキシ回線 回線 3 : インターコム回線
4 回線以上	回線 1 : プライマリ回線 回線 2 : プロキシ回線 最後の回線はインターコム回線として設定される 他のすべての回線はプロキシ回線として設定される
7 回線 (デフォルトの Unified CM Assistant アシスタント電話機テンプレート)	回線 1 : プライマリ回線 回線 2 ~ 6 はプロキシ回線として設定可能で、最大 5 つのマネージャをサポートできる 回線 7 : インターコム回線

Cisco Unified Communications Manager Assistant マネージャ電話およびアシスタント電話のプロキシ回線例

それぞれが3つの既存の回線を持つ2つのマネージャを6つの未割り当ての回線を持つアシスタント電話に関連付けます。BATは、マネージャおよびアシスタントの電話で以下の回線設定を設定します。

マネージャ1の電話

- 回線1：マネージャプライマリ回線（DNは2355）。
- 回線2：マネージャプライマリ回線（DNは2366）。
- 回線3、マネージャインターコム回線。

マネージャ2の電話

- 回線1：マネージャプライマリ回線（DNは2656）。
- 回線2：マネージャプライマリ回線（DNは2666）。
- 回線3、マネージャインターコム回線。

アシスタントの電話

- 回線1：アシスタントプライマリ回線（DNは3333）。
- 回線2：マネージャ1のプロキシ回線1（DNは3455）。
- 回線3：マネージャ2のプロキシ回線1（DNは3656）。
- 回線4：マネージャ1のプロキシ回線2（DNは3366）。
- 回線5：マネージャ2のプロキシ回線2（DNは3666）。
- 回線6：使用可能。
- 回線7：アシスタントインターコム回線。

アシスタントの電話

既存のプライマリ回線を持つマネージャの電話を関連付ける場合、アシスタントの電話の未割り当て回線の数が、マネージャの電話のプライマリ回線の数と同数またはそれ以上あることを確認する必要があります。たとえば、BATで、4つの設定済みプライマリ回線が存在するマネージャと3つの使用可能な回線しかないアシスタントの間に関連付けを作成することはできません。

Cisco Unified Communications Manager Assistant の新しいマネージャ/アシスタント電話機でのプロキシ回線のセットアップ

新しい Unified CM Assistant マネージャ電話機とアシスタント電話機でプロキシ回線を使用するようにセットアップすることができます。

始める前に

1. Unified CM Assistant 設定ウィザードを実行して、Unified CM Assistant テンプレート、パーティション、およびコーリングサーチスペースを作成します。
2. 1つのアシスタントに5つ以上のマネージャを関連付けるには、Unified CM Assistant テンプレートにアクセスして、新しい名前で作成する必要があります。マネージャが追加されるごとに、テンプレートに行を追加していきます。

手順

ステップ 1 [BAT管理 (BAT Administration)] > [電話 (Phones)] > [電話テンプレート (Phone Template)] の順に選択します。

[電話テンプレートの設定 (Phone Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

(注) BAT Unified CM Assistant テンプレートは書き込み保護されているため、これらのテンプレートを変更するには、テンプレートのコピーを作成し、それを編集して変更する必要があります。デフォルトのマネージャ電話機テンプレートフィールドの説明については、「[表 17: プロキシ回線用マネージャ電話テンプレートのデフォルト設定 \(337 ページ\)](#)」を参照してください。デフォルトのアシスタント電話機テンプレートフィールドの説明については、「[表 18: プロキシ回線用アシスタント電話テンプレートのデフォルト設定 \(338 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 2 次のオプションを使用して、マネージャ電話機用の CSV データ ファイルとアシスタント電話機用の別のファイルを作成します。

- a) BAT スプレッドシートを使用して、[電話 (Phones)] タブを選択します。
- b) テキスト エディタを使用し、マネージャまたはアシスタント テンプレート フィールドをガイドして参照します。

次のタスク

「[データベースへの電話機の追加 \(31 ページ\)](#)」の手順に従って、新しい電話機を挿入します。

Cisco Unified Communications Manager Assistant の既存のマネージャ/アシスタント電話機でのプロキシ回線のセットアップ

既存の Unified CM Assistant マネージャ電話機とアシスタント電話機でプロキシ回線を使用するようにセットアップすることができます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [電話 (Phones)] > [回線の追加 (Add Lines)] の順に選択します。

[電話回線の追加 (Phone Add Lines)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 BAT 用に Unified CM Assistant テンプレートをコピーして変更しなければならない場合があります。

デフォルトのマネージャ電話機テンプレート フィールドの説明については「[表 17: プロキシ回線用マネージャ電話テンプレートのデフォルト設定 \(337 ページ\)](#)」を、デフォルトのアシスタント電話機テンプレート フィールドの説明については「[表 18: プロキシ回線用アシスタント電話テンプレートのデフォルト設定 \(338 ページ\)](#)」を参照してください。

(注) Cisco Unified CM Assistant 設定ウィザードを実行したときに、(パーティション名などの) 設定情報を変更した場合は、テンプレートを編集するときにフィールドで同じ設定情報を使用する必要があります。

ステップ 3 次のオプションのいずれかを使用して、マネージャ電話機用の CSV データ ファイルとアシスタント電話機用の別のファイルを作成します。

- BAT スプレッドシートを使用して、[回線の追加 (Add Lines)] タブを選択します。
- テキスト エディタを使用し、マネージャまたはアシスタント テンプレート フィールドをガイドして使用します。

次のタスク

既存の電話機のマネージャ回線とアシスタント回線をセットアップすることができます。

関連トピック

[既存の電話機および UDP への電話回線の追加 \(216 ページ\)](#)

[マネージャ-アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル関連のトピック \(351 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager Assistant の共有回線モードでの電話機のセットアップ

Cisco Unified Communications Manager データベースに新しい電話機を追加するための BAT テンプレートを作成するときに、共有回線を使用するようマネージャ電話機とアシスタント電話機

をセットアップできます。BATを使用して新しい電話機をセットアップするための手順に従います。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager での共有回線サポート用に Unified CM Assistant サービスパラメータをセットアップする必要があります。



(注) Cisco Unified IP Phone モデル 7960 では、5 回線以上を含む電話ボタンテンプレートが必要です。

手順

次のガイドラインに従って、新しいマネージャ電話機とアシスタント電話機を追加したり、既存のマネージャ電話機とアシスタント電話機を更新したりするための BAT テンプレートを作成します。

- a) マネージャ電話機については、「[共有回線モードのマネージャ電話の設定 \(344 ページ\)](#)」を参照してください。
- b) アシスタント電話機については、「[共有回線モードのアシスタント電話機の設定 \(345 ページ\)](#)」を参照してください。

次のタスク

Unified CM Assistant 制御用にマネージャ回線とアシスタント回線を関連付ける必要があります。「[マネージャ-アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル \(346 ページ\)](#)」の手順を実行します。

関連トピック

[データベースへの電話機の追加 \(31 ページ\)](#)

[既存の電話機および UDP への電話回線の追加 \(216 ページ\)](#)

共有回線モードのマネージャ電話の設定

BAT テンプレートを作成して、新しいマネージャ電話を共有回線に追加、または既存のマネージャ電話を共有回線で更新するときには、次の電話設定を使用します。

- ソフトキー テンプレートを割り当てる：標準共有モード マネージャ。
- 必要に応じてプライマリ回線を追加し、アシスタントと共有する。
- プライマリ回線で音声メッセージング プロファイルを設定する。
- 着信インターコム回線を追加する（オプション）。

- 発信インターコム ターゲットのスピードダイヤル ボタンを追加する（オプション）。
- ユーザ ロケールを設定する。

関連トピック

[データベースへの電話機の追加](#) (31 ページ)

[Cisco Unified Communications Manager Assistant の共有回線モードでの電話機のセットアップ](#) (343 ページ)

共有回線モードのアシスタント電話機の設定

BAT テンプレートを作成して共有回線による新しいアシスタント電話機を追加するか既存のアシスタント電話機を更新する場合、次の電話設定を使用します。

- ソフトキー テンプレートを割り当てます：標準アシスタント
- 付加的な回線に Cisco 14 ボタン拡張モジュール (7914) を使用している場合、BAT テンプレートで拡張モジュールのタイプを指定します。



(注) Cisco Unified IP Phone 7960 電話ボタン テンプレートには、拡張モジュール回線が含まれます。

- パーソナルプライマリ回線を追加します。
- 関連する各マネージャ用の共有回線を追加します。マネージャの電話のプライマリラインと同じ電話番号とパーティションを使用します。
- 着信インターコム回線を追加します（オプション）
- 短縮ダイヤルをマネージャのインターコム回線に追加します（オプション）
- ユーザ ロケールを設定します。

関連トピック

[データベースへの電話機の追加](#) (31 ページ)

[Cisco Unified Communications Manager Assistant の共有回線モードでの電話機のセットアップ](#) (343 ページ)

マネージャおよびアシスタントの共有回線の設定

BAT は、Cisco Unified CM Assistant の回線設定を、マネージャおよびアシスタントの電話機に割り当てられている共有回線に関連付けます。マネージャをアシスタントに関連付けるときには、マネージャの設定で共有回線モードを設定します。

共有回線モードでは、マネージャ回線が、アシスタント電話機の共有回線に対応します。たとえば、2人のマネージャと1人のアシスタントを関連付けるには、アシスタントの電話機に、マネージャの電話機のプライマリ回線と同じ電話番号およびパーティションを使用する2回線を追加します。

マネージャ 1 の電話

- 回線 1 : プライマリ回線 (DN は 2355)
- 回線 2 : インターコム回線 (オプション)

マネージャ 2 の電話

- 回線 1 : プライマリ回線 (DN は 2875)
- 回線 2 : インターコム回線 (オプション)

アシスタントの電話

- 回線 1 : アシスタントのプライマリ回線 (DN は 3356)
- 回線 2 : マネージャ 1 との共有回線 (DN は 2355)
- 回線 3 : マネージャ 2 との共有回線 (DN は 2875)
- 回線 4 ~ 6 は使用可能
- 回線 7 : インターコム回線 (オプション)

回線 4 ~ 6 は他のマネージャ用の共有回線として追加できます。

複数のマネージャ回線をアシスタントの電話機に追加した場合は、アシスタントの電話機のすべての回線で共有回線モードを使用する必要があります。アシスタントの電話機でプロキシ回線と共有回線を混在させることはできません。同様に、マネージャ 1 人に対し複数のアシスタントがいる場合は、すべての関連付けで共有回線モードを使用する必要があります。

共有回線モードを使用するマネージャに複数のアシスタントを関連付けると、BAT が Unified CM Assistant の関連付けを、共有回線モードを使用しているアシスタントにのみ適用します。

関連トピック

[マネージャ-アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル関連のトピック](#) (351 ページ)

マネージャ - アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル

BAT を使用してマネージャ - アシスタントの関連付けを Cisco Unified Communications Manager データベースに挿入する際に、新しい関連付けの追加や、既存の関連付けの更新ができます。

マネージャ - アシスタントの関連付けを追加または更新するのに必要な CSV データ ファイルは、次の 2 つの方法のいずれかで作成できます。BAT スプレッドシートを使用するか、テキストエディタを使用して、CSV 形式のテキストファイルを作成します。

新しいマネージャに対する関連付けを作成する場合は、デバイス名を入力する必要があります。既存の Unified CM アシスタント レコードを使用してマネージャを更新する場合、これら

のフィールドはオプションです。マネージャの回線数が3以上の場合、BATはマネージャのインターコム回線をアシスタントのプロキシ回線に割り当てることを許可しません。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用したマネージャ/アシスタント アソシエーションの追加または更新](#) (347 ページ)

[マネージャおよびアシスタントのファイル形式](#) (812 ページ)

[マネージャおよびアシスタントのプロキシ回線の設定](#) (338 ページ)

BAT スプレッドシートを使用したマネージャ/アシスタント アソシエーションの追加または更新

BAT スプレッドシートを使用して、Unified CM Assistant アソシエーションを新規で追加したり、既存のものを更新したりします。BAT スプレッドシートには、マクロを使用するデータファイルテンプレートが含まれているため、マネージャとアシスタントの関連付けを簡単に追加、更新、または削除できます。

手順

BAT スプレッドシートを使用して新規 Unified CM Assistant アソシエーションを追加します。

- マネージャ/アシスタント アソシエーションをデフォルトの回線設定で作成するには、[デフォルトのマネージャ-アシスタントの CSV データ ファイルの作成](#) (348 ページ) を参照してください。

マネージャおよびアシスタントの電話に関するデフォルト回線設定については、「[表 19: マネージャ電話の回線設定](#) (339 ページ)」および「[表 20: Assistant 電話回線の設定](#) (340 ページ)」を参照してください。

- デフォルトの回線設定に従わないプロキシ回線を割り当てるには、「[カスタムマネージャ/アシスタント CSV データ ファイルの作成](#) (350 ページ)」を参照してください。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)

BAT スプレッドシートを使用したマネージャとアシスタントの関連付けの追加および更新

BAT スプレッドシートには、マクロを使用するデータ ファイル テンプレートが含まれているため、マネージャとアシスタントの関連付けを簡単に追加、更新、または削除できます。

BAT スプレッドシートを使用して Unified CM Assistant の新しい関連付けを追加するときには、次の 2 つの方法でマネージャとアシスタントの関連付けを設定できます。

- デフォルトの回線設定を使用してマネージャとアシスタントの関連付けを作成する。マネージャとアシスタントの電話機のデフォルト回線設定については、「[表 19: マネージャ電話の回線設定 \(339 ページ\)](#)」および「[表 20: Assistant 電話回線の設定 \(340 ページ\)](#)」を参照してください。
- カスタム CSV データ ファイルを使用して、デフォルトの回線設定に従わないプロキシ回線を割り当てる。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)

[カスタム マネージャ/アシスタント CSV データ ファイルの作成 \(350 ページ\)](#)

[デフォルトのマネージャ-アシスタントの CSV データ ファイルの作成 \(348 ページ\)](#)

デフォルトのマネージャ-アシスタントの CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、プロキシモードと共有モードの両方でデフォルトのマネージャおよびアシスタントの関連付けを挿入、更新、削除するための CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシート内のすべてのフィールドの編集が終了したら、その内容を CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。ファイルは、ローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が割り当てられます。

```
<type of operation>ManagerAssistants-timestamp.txt
```

ここで、<type of operation> は insert または delete のいずれかになります。「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。

手順

-
- ステップ 1** BAT.xlt ファイルをダウンロードして開き、BAT スプレッドシートを開きます。
 - ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
 - ステップ 3** マネージャおよびアシスタントの関連付けオプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [デフォルトのマネージャ-アシスタント (Default Managers-Assistants)] タブをクリックします。
 - ステップ 4** オプション ボタンが表示されるまで、テンプレートの右側にスクロールし、このトランザクションの関連付けのタイプを選択します。
 - [1 つのマネージャと複数のアシスタント (One manager, multiple assistants)]
 - [1 つのアシスタントと複数のマネージャ (One assistant, multiple managers)]
 - ステップ 5** すべての必須フィールドと関連するオプションフィールドに値を入力します。

- a) [1つのマネージャと複数のアシスタント (One manager, multiple assistants)] ラジオ ボタンを選択した場合、各行に以下の情報を入力します。

- [マネージャID (Manager ID)] : マネージャのユーザ ID を最大 30 文字で入力します。
- [アシスタントID# (Assistant ID#)] : マネージャを関連付けるアシスタントのユーザ ID を最大 30 文字で入力します。ここで、# 記号はマネージャに割り当てられるアシスタントの数を表します。

ヒント 複数のアシスタントを追加するには、[その他のアシスタントの追加 (Add more Assistants)] をクリックします。

- b) [1つのアシスタントと複数のマネージャ (One assistant, multiple managers)] ラジオ ボタンを選択した場合、各行に以下の情報を入力します。

- [アシスタントID (Assistant ID)] : アシスタントのユーザ ID を最大 30 文字で入力します。
- [マネージャ ID# (Manager ID#)] : アシスタントを関連付けるマネージャのユーザ ID を最大 30 文字で入力します。ここで、# 記号はアシスタントに割り当てられるアシスタントの数を表します。

(注) 複数のマネージャを追加するには、[その他のマネージャの追加 (Add more Assistants)] をクリックします。

ステップ 6 実行する操作を選択します。

- 新規のマネージャおよびアシスタントの関連付けを作成するには、[挿入 (Insert)] をクリックします。
- マネージャおよびアシスタントの関連付けからマネージャまたはアシスタントを削除するには、[削除 (Delete)] をクリックします。

ステップ 7 BAT スプレッドシートから CSV データ ファイルにデータを転送するには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

ヒント エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法については、BAT 内の [マネージャ/アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 <type of operation>ManagerAssistants-timestamp.txt を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

次のタスク

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードデータベースサーバにアップロードすれば、BAT からその CSV データ ファイルにアクセスできるようになります。

関連トピック

[サーバからのファイルのダウンロード](#) (25 ページ)

[マネージャ-アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル関連のトピック](#) (351 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

カスタム マネージャ/アシスタント CSV データ ファイルの作成

既存の電話機をマネージャ/アシスタント アソシエーションを使ってセットアップするには、BAT スプレッドシートの [カスタムマネージャ/アシスタント アソシエーション (Custom Managers-Assistants)] タブを使用することができます。BAT スプレッドシートを使用して、アシスタント電話機上のプロキシ回線用のマネージャ/アシスタント アソシエーションを挿入または更新するためのカスタム CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシート内のすべてのフィールドの編集が終了したら、その内容を CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。システムはデフォルトのファイル名 Custom Manager-Assistants-timestamp.txt を使用して、C:\XLSDataFiles またはローカルワークステーション上の選択した別の既存のフォルダにファイルを保存します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サーバから、BAT.xlt ファイルをダウンロードします。
- ステップ 2** BAT.xlt ファイルを開きます。スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** マネージャ/アシスタント アソシエーション オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [カスタムマネージャ/アシスタント アソシエーション (Custom Managers-Assistants)] タブをクリックします。
- ステップ 4** テンプレートの右側にスクロールして、[プロキシ回線数 (Number of Proxy Lines)] ボックスを表示させます。このボックスで、アシスタントに割り当てるプロキシ回線の数を入力します。入力された数に基づいて [プロキシ回線 DN (Proxy Line DN)] 列と [マネージャ回線 DN (Manager Line DN)] 列がスプレッドシートに追加されます。

すべての必須フィールドと該当するオプション フィールドに値を入力します。

- [マネージャ ID (Manager ID)] : マネージャのユーザ ID を入力します。
- [デバイス名 (Device Name)] : マネージャ電話機に割り当てるデバイス名を入力します。
- [インターコムの DN (Intercom DN)] : マネージャのインターコム回線の電話番号を入力します。(オプション)
- [アシスタント ID (Assistant ID)] : マネージャに関連付けられるアシスタントのユーザ ID を入力します。
- [デバイス名 (Device Name)] : アシスタントの電話機に割り当てるデバイス名を入力します。

- [インターコムの DN (Intercom DN)] : アシスタントのインターコム回線の電話番号を入力します。(オプション)
- [プロキシ回線 DN# (Proxy Line DN#)] : アシスタント プロキシ回線の電話番号を入力します。
- [マネージャ回線 DN# (Manager Line DN#)] : マネージャ プロキシ回線の電話番号を入力します。

記号は、マネージャに関連付けられるプロキシ回線の数を表します。

ステップ 5 BAT スプレッドシートから CSV データ ファイルにデータを転送するには、[BAT形式にエクスポート (Export to BAT Format)] ボタンをクリックします。

ヒント エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法を確認するには、BAT 内の [マネージャ/アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] リンクをクリックします。

システムはデフォルトのファイル名 Custom Manager-Assistants-timestamp.txt を使用して、C:\XLSDataFiles またはローカル ワークステーション上の選択した別の既存のフォルダにファイルを保存します。

次のタスク

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード データベース サーバーにアップロードすれば、BAT からその CSV データファイルにアクセスできるようになります。

関連トピック

- [マネージャ-アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル関連のトピック \(351 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

マネージャ-アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル関連のトピック

- [Cisco Unified Communications Manager Assistant 用電話機および回線 \(335 ページ\)](#)
- [マネージャ - アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル \(346 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのマネージャ/アシスタントアソシエーションの挿入 \(353 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Assistant のプロキシ回線モードでの電話機のセットアップ \(336 ページ\)](#)

- [Cisco Unified Communications Manager Assistant](#) の共有回線モードでの電話機のセットアップ (343 ページ)
- [Cisco Unified Communications Manager](#) からの特定のマネージャ/アシスタント アソシエーションの削除 (357 ページ)

Cisco Unified CM Assistant に関連する詳細については、次のドキュメントを参照してください。

- *Cisco Unified Communications Manager* 機能設定ガイド
- 『*Cisco Unified Communications Manager Assistant User Guide*』



第 31 章

マネージャとアシスタントの挿入

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager で Cisco Unified Communications Manager Assistant 機能を管理する方法について説明します。BAT を使用すれば、プロキシ回線または共有回線のいずれかで、マネージャとアシスタントに IP フォンを追加できます。

Cisco Unified CM Assistant 機能は、いくつかの Cisco Unified IP Phone モデルおよびデバイス プロファイルで機能します。Cisco Unified CM Assistant では、Cisco Unified CM Assistant 機能と共に使用するために、マネージャとアシスタントの回線を設定するモードが2つ提供されています。

- プロキシモード：マネージャのプライマリ ラインは、アシスタントの電話機上に異なる電話番号を持つプロキシ回線と関連付けられます。「[Cisco Unified Communications Manager Assistant のプロキシ回線モードでの電話機のセットアップ \(336 ページ\)](#)」を参照してください。
- 共有回線モード：マネージャとアシスタントには、それらの電話機上に、同じ電話番号とパーティションを使用する共有回線があります。「[Cisco Unified Communications Manager Assistant の共有回線モードでの電話機のセットアップ \(343 ページ\)](#)」を参照してください。
- [Cisco Unified Communications Manager へのマネージャ/アシスタントアソシエーションの挿入 \(353 ページ\)](#)
- [マネージャとアシスタントの挿入関連のトピック \(355 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager へのマネージャ/アシスタントアソシエーションの挿入

新しいマネージャ/アシスタントアソシエーションを挿入するか、既存のアソシエーションを更新するには、CSV データ ファイルが必要です。

マネージャ/アシスタントアソシエーションの更新時に、BAT はインターコム電話番号や関連するデバイスに関する既存の Cisco Unified CM Assistant 回線設定を変更しません。



注意 アシスタント電話機が、最小 Cisco Unified CM Assistant 構成をサポートするのに十分な回線を備えていない場合は、マネージャ/アシスタントアソシエーションに問題が発生します。

始める前に

- 次の2つの手順のいずれかを使用して、マネージャとアシスタントの電話機がすでに設定されていることを確認します。
 - [Cisco Unified Communications Manager Assistant のプロキシ回線モードでの電話機のセットアップ \(336 ページ\)](#)
 - [Cisco Unified Communications Manager Assistant の共有回線モードでの電話機のセットアップ \(343 ページ\)](#)
- 新しいマネージャ/アシスタントアソシエーション固有の詳細を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャ/アシスタントの挿入 (Insert Managers/Assistants)] の順に選択します。
[マネージャ/アシスタント オプション (Manager/Assistant Options)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** マネージャがエクステンション モビリティを使ってログインする場合は、[マネージャがエクステンション モビリティを使用するように設定 (Configure managers as mobile managers)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** すべての電話機が共有回線を使用する場合は、[共有回線の使用 (Uses shared lines)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [オプションの挿入 (Insert Options)] 領域で、作成した CSV データ ファイルのタイプを選択します。
 - [デフォルト (Default)]: 標準の CSV データ ファイルを作成した場合は、CSV ファイル内のデータに基づいてこのトランザクション用のアソシエーションのタイプを選択します。
 - 1 人のマネージャに 1 人以上のアシスタントを割り当て (Associate one or more assistants to one manager)
 - 1 人のアシスタントに 1 人以上のマネージャを割り当て (Associate one or more managers to one assistant)

- [カスタム (Custom)] : プロキシモード用のカスタム CSV データ ファイルを作成した場合。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにマネージャ/アシスタント アソシエーションを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でマネージャ/アシスタント アソシエーションを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 マネージャ/アシスタント レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

このジョブをスケジュールしてアクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

注目 BAT がアシスタントまたはマネージャの設定を更新するときに、使用可能な回線が不足している場合は、変更が部分的にのみ完了し、トランザクションレコード全体に問題が発生します。

次のタスク

変更を反映するには、Cisco Unified CM Assistant サービスを再起動する必要があります。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [マネージャ - アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル \(346 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [マネージャとアシスタントの挿入関連のトピック \(355 ページ\)](#)

マネージャとアシスタントの挿入関連のトピック

- [Cisco Unified Communications Manager Assistant のプロキシ回線モードでの電話機のセットアップ \(336 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager Assistant の共有回線モードでの電話機のセットアップ \(343 ページ\)](#)
- [マネージャ - アシスタント関連付け用 CSV データ ファイル \(346 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)



第 32 章

マネージャとアシスタントの削除

この章では、Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、特定のマネージャ-アシスタント関連付けを Unified Communications Manager データベースから削除する方法について説明します。

- [Cisco Unified Communications Manager からの特定のマネージャ/アシスタント アソシエーションの削除 \(357 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager からの特定のマネージャ/アシスタント アソシエーションの削除

Cisco Unified Communications Manager から特定のマネージャ/アシスタント アソシエーションを削除できます。

始める前に

削除する特定のマネージャ/アシスタント アソシエーションのユーザ ID を含む CSV データファイルが必要です。

たとえば、ユーザ ID 「jmorgan」のアシスタントが、ユーザ ID 「rcraig」および「dbaker」の2人のマネージャに割り当てられているとします。アシスタント jmorgan が rcraig だけに割り当てられるようにマネージャ/アシスタント アソシエーションを変更するには、次のエントリを含む CSV データ ファイルを作成することにより、jmorgan と dbaker のアソシエーションを削除できます。

```
jmorgan,dbaker
```

手順

- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャ/アシスタントの削除 (Delete Managers/Assistants)] の順に選択します。
[マネージャ/アシスタントの削除 (Delete Managers/Assistants Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成した CSV ファイルを選択します。

ステップ 3 削除のタイプを次のように選択します。

- 1人のマネージャに割り当てられたアシスタントの削除 (Delete associated assistants for one manager)
- 1人のアシスタントに割り当てられたマネージャの削除 (Delete associated managers for one assistant)

ステップ 4 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 5 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにマネージャ/アシスタント アソシエーションを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でマネージャ/アシスタントアソシエーションを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 6 必要なマネージャ/アシスタント アソシエーションを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル](#) (771 ページ)

[Cisco Unified Communications Manager Assistant](#) (335 ページ)

[スケジュールしたジョブの管理](#) (759 ページ)



第 33 章

マネージャの削除

この章では、Unified Communications Manager データベースおよび LDAP ディレクトリからマネージャをそのマネージャ-アシスタント関連付けと共に削除する方法について説明します。削除する既存のレコードを検索するには、クエリ検索またはカスタム ファイルを使用できます。

- [Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除 \(359 ページ\)](#)
- [マネージャの削除関連のトピック \(362 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager からのマネージャの削除

Unified CM Assistant マネージャとすべてのマネージャ - アシスタント関連付けを Unified Communications Manager データベースと LDAP ディレクトリから削除すると、Cisco Unified Communications Manager はこのマネージャの情報をユーザーとしてディレクトリで維持します。たとえば、ユーザ ID が `rmartinez` のマネージャに、ユーザ ID が `dbell` と `jkent` の 2 名のアシスタントが関連付けられている場合、この両方のアシスタントと `rmartinez` の関連付けを解除するには、Cisco Unified Communications Manager データベースから `rmartinez` をマネージャとして削除します。`rmartinez` はその後もユーザとしてディレクトリに表示されます。

削除する既存のレコードを検索するには、クエリ検索またはカスタム ファイルを使用できます。

クエリを使用したマネージャ アソシエーションの削除

この手順を使用して、Cisco Unified Communications Manager ディレクトリでアシスタントとのアソシエーションからマネージャを削除できます。

手順

- ステップ 1 [BAT管理 (BAT Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャの削除 (Delete Managers)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。

ステップ 2 最初の [マネージャの検索 (Find Managers where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

2 番目の [マネージャの検索 (Find Managers where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべてのマネージャを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

- a) 複数の部署からマネージャを選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、操作を 2 回行う代わりに、3 番目のボックスに「12, 24」と入力します。
- b) さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウン ボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(360 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(360 ページ\)](#) を繰り返します。

検出されたマネージャのリストが次の分類で表示されます。

- [ユーザID (User ID)]
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 4 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 5 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにマネージャを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でマネージャを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 6 選択したマネージャを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[マネージャの削除関連のトピック \(362 ページ\)](#)

カスタムファイルを使用したマネージャ アソシエーションの削除

テキストエディタを使って作成したカスタムファイルを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースからマネージャ アソシエーションを削除できます。カスタムファイルを使用して、削除するマネージャ アソシエーションを特定します。



注目 bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要があるマネージャ アソシエーションレコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。

始める前に

1. 削除するマネージャのユーザ ID を列挙したカスタム テキストベースの CSV データ ファイルを作成します。各ユーザ ID を必ず別々の行に配置してください。



(注) このカスタム削除 CSV データ ファイルには見出しが不要で、マネージャ アソシエーション ID の値を入力できます。

2. カスタムファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

手順

ステップ 1 [BAT管理 (BAT Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャの削除 (Delete Managers)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。

- ステップ 2** [マネージャの選択 (Select managers where)] フィールドは、識別子 [ユーザID (User ID)] のままにします。
- ステップ 3** 2 番目のフィールドでは、[カスタムファイル (Custom File)] ドロップダウンリストボックスから、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)] をクリックします。
検出されたマネージャのリストが表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- すぐにマネージャを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - 後でマネージャを削除する場合は [後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** 選択したマネージャを削除するためのジョブを作成するには [送信 (Submit)] をクリックします。
[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

マネージャの削除関連のトピック

- [Cisco Unified Communications Manager からの特定のマネージャ/アシスタント アソシエーションの削除 \(357 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(363 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 34 章

アシスタントの削除

この章では、Cisco Unified Communications Manager データベースおよび LDAP ディレクトリからアシスタントを削除する方法について説明します。削除する既存のレコードを検索するには、クエリ検索またはカスタム ファイルを使用できます。

- [Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除 \(363 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager からのアシスタントの削除

CM Assistant アシスタントを Cisco Unified Communications Manager データベースと LDAP ディレクトリから削除すると、Cisco Unified Communications Manager はこのアシスタントの情報をユーザとしてディレクトリで維持します。たとえば、アシスタント thudson が 2 名のマネージャ、hart と dstewart に割り当てられているとします。thudson とこの両方のマネージャの関連付けを解除するには、Cisco Unified Communications Manager データベースで、thudson をアシスタントとして削除します。ディレクトリには、thudson がユーザとして引き続き表示されます。

削除する既存のレコードを検索するには、クエリ検索またはカスタム ファイルを使用できます。

クエリを使用したアシスタント アソシエーションの削除

Cisco Unified Communications Manager ディレクトリ内でマネージャとのアソシエーションからアシスタントを削除できます。

手順

- ステップ 1** [BAT 管理 (BAT Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [アシスタントの削除 (Delete Assistants)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
- ステップ 2** 最初の [アシスタントの検索 (Find Assistants where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ユーザ ID (User ID)
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

2 番目の [アシスタントの検索 (Find Assistants where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべてのアシスタントを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

- a) 複数の部署からアシスタントを選択するには、このフィールドに複数の部署を入力します。たとえば、部署 12 と部署 24 からマネージャを選択するには、操作を 2 回行う代わりに、3 番目のボックスに「12, 24」と入力します。
- b) さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、**[絞り込み (Search Within Results)]** チェックボックスをオンにして、ドロップダウンリストから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(363 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(364 ページ\)](#) を繰り返します。

検出されたアシスタントのリストが次の分類で表示されます。

- ユーザ ID (User ID)
- [名 (First Name)]
- [ミドルネーム (Middle Name)]
- [姓 (Last Name)]
- [部署名 (Department)]

ステップ 4 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 5 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにアシスタントを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。

b) 後でアシスタントを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 6 選択したアシスタントを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

カスタムファイルを使用したアシスタントアソシエーションの削除

テキストエディタを使って作成したカスタムファイルを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースからアシスタントアソシエーションを削除できます。カスタムファイルを使用して、削除するアシスタントアソシエーションを特定します。



注目 bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要があるアシスタントアソシエーションレコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。

始める前に

1. 削除するアシスタントのユーザ ID を列挙したテキストベースのカスタム CSV データファイルを作成します。各ユーザ ID を必ず別々の行に配置してください。



(注) このカスタム削除 CSV データファイルでは見出しが不要で、アシスタントアソシエーション ID の値を入力できます。

2. カスタムファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

手順

ステップ 1 [BAT 管理 (BAT Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [アシスタントの削除 (Delete Assistants)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。

ステップ 2 [アシスタントの選択 (Select Assistants where)] フィールドは、識別子 [ユーザ ID (User ID)] のままにします。

ステップ 3 2番目のフィールドでは、[カスタムファイル (Custom File)] ドロップダウンリストボックスから、このトランザクション用に作成したカスタム ファイルの名前を選択します。

ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにアシスタントを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でアシスタントを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 選択したアシスタントを削除するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)



第 35 章

マネージャおよびアシスタント レポートの生成

この章では、Cisco Unified CM Assistant のマネージャとアシスタントに関するレポートを生成する方法について説明します。これらのレポートは、固定の形式に従います。レポートは、マネージャまたはアシスタントのいずれかにクエリ オプションのセットを指定することで生成できます。

- [Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャとアシスタントに関するレポートの生成 \(367 ページ\)](#)
- [レポート ログ ファイル \(369 ページ\)](#)
- [マネージャとアシスタントに関するレポートの生成関連のトピック \(369 ページ\)](#)

Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャとアシスタントに関するレポートの生成

マネージャまたはアシスタントに関するレポートを生成できます。

手順

ステップ 1 次のオプションのいずれかを選択します。

- マネージャ レポートを生成するには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [マネージャ レポートの作成 (Generate Manager Reports)] の順に選択します。
- アシスタント レポートを生成するには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [マネージャ/アシスタント (Managers/Assistants)] > [アシスタント レポートの作成 (Generate Assistant Reports)] の順に選択します。

ステップ 2 クエリを指定しないことによってすべてのマネージャまたはアシスタントに関するレポートを生成することも、次の手順に従って特定のマネージャまたはアシスタントに関するレポートを生成することもできます。

- a) [マネージャの検索 (Find Managers where)] または [アシスタントの検索 (Find Assistants where)] ドロップダウンリストで、次のクエリオプションの中から選択します。
- ユーザ ID (User ID)
 - [名 (First Name)]
 - [ミドルネーム (Middle Name)]
 - [姓 (Last Name)]
 - 部署名 (Department)
- b) 2 番目のドロップダウンリストで、次の検索条件の中から選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない
- c) [検索 (Search)] フィールドボックスに、正確なユーザ ID やユーザの名 (Last Name) などの検索する値を入力して、[検索 (Find)] をクリックします。
- 複数の値を [検索 (Search)] フィールドボックスに入力するには、たとえば「JohnJ, PaulP, SueS, JoeJ」のようにカンマで区切ります。
- (注) さらにクエリを定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、ステップ 2.a (368 ページ) ~ 2.c (368 ページ) を繰り返します。

ステップ 3 特定のレポートタイプに関する詳細を選択するには、[次へ (Next)] をクリックします。

ヒント クエリのタイプを変更するには、[戻る (Back)] をクリックします。

ステップ 4 [ファイル名 (File Name)] フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

ステップ 5 [ファイル形式 (File Format)] フィールドで、ドロップダウンリストボックスからファイル形式を選択します。

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 レポートの生成方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- すぐにレポートを生成する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- 後でレポートを生成する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 レポートを生成するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

一括管理 (BAT) は、サーバーの最初のノードにレポートファイルを保存します。

次のタスク

[一括管理 (Bulk Administration)]メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)]オプションを使用してレポート ファイルを検索し、ダウンロードすることができます。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

レポート ログ ファイル

BAT は各レポート トランザクションに対してログ ファイルを生成し、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにそれらを保存します。レポートを生成した任意のジョブの [ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウから、ログ ファイルへのリンクを検索できます。表示するログファイルの対象となるジョブに対応する [ログファイル名 (Log File Name)] 列のリンクをクリックします。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

マネージャとアシスタントに関するレポートの生成関連のトピック

- [Cisco Unified Communications Manager Assistant のマネージャとアシスタントに関するレポートの生成 \(367 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 VII 部

ユーザ デバイス プロファイル

- ユーザ デバイス プロファイルの管理 (373 ページ)
- ユーザ デバイス プロファイル テンプレート (391 ページ)
- ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式 (401 ページ)
- ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の追加 (407 ページ)
- ユーザ デバイス プロファイルの検証 (409 ページ)
- UDP の生成 (413 ページ)
- ユーザ デバイス プロファイルの更新 (417 ページ)
- ユーザ デバイス プロファイルの削除 (427 ページ)
- ユーザ デバイス プロファイルのエクスポート (431 ページ)
- デバイス プロファイルおよびユーザ デバイス プロファイルの回線属性の更新 (439 ページ)
- UDP 回線の追加 (443 ページ)
- UDP レポートの生成 (451 ページ)
- UDP のインターコム DN の追加および更新 (455 ページ)



第 36 章

ユーザ デバイス プロファイルの管理

この章では、ユーザ デバイス プロファイルの管理について説明します。Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) の [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] (UDP) オプションを使用すると、大量のユーザ デバイス プロファイルを追加または削除できます。また、ユーザ デバイス プロファイルに対して回線の追加または更新を行うこともできます。システムでは、UDP をエクステンション モビリティ機能と組み合わせて使用します。

- [ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(373 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル関連のトピック \(390 ページ\)](#)

ユーザ デバイス プロファイルの追加

BAT を使用してユーザ デバイス プロファイルを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する際に、複数の回線やその他の機能を追加できます。

ユーザ デバイス プロファイル用の CSV データ ファイルを作成するための 2 つのオプションから選択します。

- BAT スプレッドシート (BAT.xlt) を使用して、データを CSV 形式にエクスポートします。
- テキスト エディタを使用して、CSV 形式のテキスト ファイルを作成します (経験豊富なユーザ向け)。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [ユーザ デバイス プロファイル テンプレート (User Device Profile Template)] の順に選択します。
[UDP テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 次のいずれかのオプションの手順に従って、CSV データ ファイルを作成します。

a) BAT スプレッドシート オプション

BAT スプレッドシートを開き、CSV データ ファイルを作成します。

b) テキスト エディタ オプション

1. [UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format)] を選択します。[UDP ファイル形式クエリ (UDP File Format Query)] ウィンドウが表示されます。
2. テキスト エディタを使用して、ユーザ デバイス プロファイル用の CSV データ ファイルを作成します。このファイルは、使用するファイル形式に従います。
3. [ファイル形式の追加 (Add File Format)] を選択します。[ファイル形式の設定の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ユーザ デバイス プロファイルの検証 (Validate User Device Profiles)] を選択します。
[ユーザ デバイス プロファイルの検証 (User Device Profiles Validation)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [ユーザ デバイス プロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles)] を選択します。
[ユーザ デバイス プロファイルの挿入の設定 (User Device Profiles Insert Configuration)] ウィンドウが表示されます。

関連トピック

[ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の追加 \(407 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイル一括管理ツール \(BAT\) テンプレートの作成 \(392 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(807 ページ\)](#)

[BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成 \(374 ページ\)](#)

[ユーザ デバイスに関するユーザ デバイス プロファイルの挿入 \(413 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイル関連のトピック \(390 ページ\)](#)

[ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の設定 \(401 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイルの検証 \(409 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して新しいユーザ デバイス プロファイルを追加するための CSV データ ファイルを作成できます。BAT スプレッドシートを使って新しいユーザ デバイス プロファイルを追加するときに、スプレッドシート内でファイル形式を定義できます。スプレッドシートでは、CSV データ ファイル用のフィールドを表示するためにデータ ファイル形式が使用されます。

BAT スプレッドシート内のすべてのフィールドの編集が終了したら、その内容を CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。ファイルは、C:\XLSDATAFILES またはローカル

ワークステーション上の選択した既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトファイル名が割り当てられます。

```
<tablename>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tablename> は電話機などの作成された入力ファイルのタイプを表し、<timestamp> はファイルが作成された正確な日時を表します。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager サーバから BAT.xlt ファイルをダウンロードします。
- ステップ 2** BAT スプレッドシートを開きます。スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] オプションを表示するには、スプレッドシートの下部にある [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profile)] タブをクリックします。
- ステップ 4** ユーザ デバイス プロファイルごとに定義可能なデバイス フィールドと回線フィールドを選択するには、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックします。[フィールドの選択 (Field Selection)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** デバイス フィールドを選択するには、[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスでデバイス フィールド名をクリックした後、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには [デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)] と [説明 (Description)] が含まれている必要があります。このため、これらのフィールドは常に選択されたままになります。

ヒント リスト内のアイテムの範囲を選択するには、**Shift** キーを押したままにします。ランダムなフィールド名を選択するには、**Ctrl** キーを押しながらフィールド名をクリックします。
- ステップ 6** [回線フィールド (Line Field)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

ヒント [選択されている回線 (Selected Line)] ボックスと [デバイス (Device)] ボックス内ではアイテムの順序を変更できます。フィールドをリストの上位に移動するには、アイテムを選択して上矢印を使用します。フィールドをリストの下位に移動するには、アイテムを選択して下矢印を使用します。
- ステップ 7** CSV データ ファイル形式を変更するには、[作成 (Create)] をクリックします。既存の CSV 形式を上書きするかどうかを尋ねるメッセージが表示されます。[OK] をクリックします。選択されたフィールドの新しい列が指定された順序で BAT スプレッドシート内に表示されます。
- ステップ 8** [電話回線数 (Number of Phone Lines)] ボックスを探すために、右にスクロールします。

ここで指定する回線数は、BAT テンプレートで設定された回線数を超えてはなりません。超える場合、CSV データ ファイルと UDP テンプレートを挿入したときにエラーが発生します。

ステップ 9 [スピードダイヤルの番号 (Number of Speed Dials)] ボックスに、短縮ダイヤル ボタンの数を入力する必要があります。数値を入力すると、短縮ダイヤル番号ごとの列が表示されます。

(注) ユーザ デバイス プロファイル テンプレートで設定された短縮ダイヤルの数を超えないようにしてください。超える場合、CSV データ ファイルと UDP テンプレートを挿入したときにエラーが発生します。

ステップ 10 スプレッドシートの各行で、個別のユーザデータプロファイルに関するデータを入力します。すべての必須フィールドと関連するオプション フィールドに値を入力します。

各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。フィールドの説明については、「[表 21 : BAT スプレッドシート内のユーザ デバイス プロファイルに関するフィールドの説明 \(377 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 11 BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを転送するには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムはデフォルトのファイル名 <tablename>-<timestamp>.txt を使用して、ファイルを C:\XLSDDataFiles\ またはローカルワークステーション上の選択した既存の別のフォルダに保存します。

(注) エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法を確認するには、BAT 内の [ユーザ デバイス プロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] リンクをクリックしてください。

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードします。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)

[サーバからのファイルのダウンロード \(25 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイル関連のトピック \(390 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートのユーザ デバイス プロファイル フィールドの説明

次の表で、BAT スプレッドシート内のすべてのユーザ デバイス プロファイル フィールドについて説明します。

表 21: BAT スプレッドシート内のユーザ デバイス プロファイルに関するフィールドの説明

フィールド	説明
デバイス フィールド (必須フィールド)	
デバイス プロファイル名 (Device Profile Name)	デバイス プロファイル名の固有 ID を入力します。
説明	電話機またはデバイスの識別に役立つ説明を入力します (「Conference Room A」、「John Smith」など)。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックslash (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
デバイス フィールド (オプションフィールド)	
[ユーザ ロケール (User Locale)]	この IP Phone のグループに関連付ける国/地域と言語の組み合わせを入力します。 この選択項目によって、このユーザの文化に依存する属性と、Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウおよび電話機でユーザに表示される言語が決まります。
[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]	このグループのすべての電話機で使用されるソフトキー テンプレートを入力します。
[ユーザ ID (User ID)]	電話ユーザのユーザ ID を入力します。
[ログインユーザ ID (Login User ID)]	デフォルト プロファイル用のログインユーザ ID を入力します。 ユーザデバイスプロファイルがログアウトプロファイルとして使用される場合は、電話機に関連付けるログインユーザ ID を指定します。ユーザがこのユーザデバイスプロファイルからログアウトすると、電話機はこのログインユーザ ID に自動的にログインします。
[ユーザ保留音のソース (User Hold Audio Source)]	この IP フォンまたは CTI ポートのグループに使用されるユーザ保留音源を入力します。 ユーザ保留音源は、ユーザがコールを保留にしたときに再生される保留音の音源を特定します。
電話テンプレート (Phone Template)	このユーザデバイス プロファイルに関連付ける電話テンプレート名を入力します。
[MLPP通知 (MLPP Indication)]	この設定は、優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。

フィールド	説明
MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)	利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	<p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: 電話がアイドル状態になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、電話のユーザは、コールを受信した回線からコールに応答します。 • [オン (On)]: 電話機がアイドル状態 (オフフック) になっているときにいずれかの回線でコールを受信すると、このコールにプライマリ回線が選択されます。他の回線のコールは鳴り続け、電話機ユーザはそれらの他の回線を選択して、これらのコールに応答する必要があります。 • [デフォルト (Default)]: Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] サービス パラメータの設定を使用します。
ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)	<p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [オン (On)]: 電話がアイドル状態の場合に電話のメッセージボタンを押すと、ボイスメッセージを受信するアクティブ回線として電話のプライマリ回線が使用されます。 • [オフ (Off)]: 電話がアイドル状態の場合、電話のメッセージボタンを押すと、ボイスメッセージが設定されている回線からボイスメッセージシステムに自動的にダイヤルされます。Cisco Unified Communications Manager は常に、ボイスメッセージがある最初の回線を選択します。ボイスメッセージが設定されている回線が存在しない場合に電話のユーザが [メッセージ (Messages)] ボタンを押すと、プライマリ回線が使用されます。 • [デフォルト (Default)]: Cisco Unified Communications Manager は、Cisco CallManager サービスをサポートする [ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] サービス パラメータの設定を使用します。
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	このデバイスに関連付けられる MLPP ドメインを表す 16 進数値を入力します。空白または 0 ~ FFFFFFF の値にする必要があります。

フィールド	説明
[機能コントロール ポリシー (Feature Control Policy)]	この電話機グループの機能管理ポリシーを選択します。 機能管理ポリシーは、電話機に表示される機能とそれぞれの機能に関連付けられるソフトキーの外観を指定します。
クラスタ間エクステンション モビリティの CSS (Extension Mobility Cross Cluster CSS)	クラスタ間エクステンションモビリティ CSS の設定は、ユーザが EMCC ログイン時にこのデバイスプロファイルを選択した場合に、リモート電話のデバイス CSS として使用されます。
回線フィールド (オプション フィールド)	
[電話番号 (Directory Number)]	電話機の電話番号を入力します。
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属しているルートパーティションを選択します。 この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
ディスプレイ (Display)	コール着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえばユーザ名「John Smith」や電話機の設置場所「Conference Room 1」など)。 このフィールドを空白のままにすると、[電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力された値が使用されます。 デフォルトの言語として英語が指定されています。
[転送コーリング サーチ スペース (Forward All CSS)]	指定の接続先にコールが転送されるときに使われるコーリング サーチ スペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
不在転送の接続先 (Forward All Destination)	すべてのコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
話中転送コーリング サーチ スペース (外部) CSS (Forward Busy External CSS)	外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使われるコーリング サーチ スペースを選択します。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。

フィールド	説明
話中転送コーリング サーチ スペース (内部) (Forward Busy Internal CSS)	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用されるコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
話中転送 (外部) 接続先 (Forward Busy Destination External)	<p>回線が使用中のときに、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
話中転送 (内部) 接続先 (Forward Busy Destination External)	<p>回線が使用中のときに、内線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
無応答時転送コーリング サーチ スペース (外部) (Calling Search Space Forward No Answer External)	<p>外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用されるコーリング サーチ スペースを選択します。この設定は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
無応答時転送コーリング サーチ スペース (内部) (Forward No Answer Internal CSS)	<p>内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使用されるコーリング サーチ スペースを選択します。この設定は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。</p> <p>この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
無応答時転送の接続先 (外部) (Forward No Answer External Destination)	<p>電話機が応答しない場合に、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
無応答時転送の接続先 (内部) (Forward No Answer Internal Destination)	<p>電話機が応答しない場合に、内線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
無カバレッジ時転送コーリング サーチ スペース (外部) (Forward No Coverage External CSS)	外部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使 われるコーリング サーチ スペースを入力します。この設定 は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに 適用されます。
無カバレッジ時転送コーリング サーチ スペース (内部) (Forward No Coverage Internal CSS)	内部番号からのコールが指定の接続先に転送されるときに使 われるコーリング サーチ スペースを入力します。この設定 は、システムで設定されている場合にのみ表示されます。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに 適用されます。
無カバレッジ時転送の接続先 (外 部) (Forward No Coverage External Destination)	電話機のカバレッジがない場合に、外線番号から着信したコ ールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力し ます。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、 ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用す るすべてのデバイスに適用されます。
無カバレッジ時転送の接続先 (内 部) (Forward No Coverage Internal Destination)	電話機のカバレッジがない場合に、内線番号から着信したコ ールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力し ます。 この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、 ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用す るすべてのデバイスに適用されます。
失敗時転送 (外部/内部) コーリ ング サーチ スペース (Calling Search Space Forward on Failure External/Internal)	(CTI ポートのみ) 内部番号または外部番号からのコールが 指定の接続先に転送されるときに使われるコーリング サ ーチ スペースを入力します。この設定はシステムで設定されて いる場合にのみ表示されます。 この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに 適用されます。
失敗時転送 (外部/内部) 接続先 (Forward on Failure Destination External/Internal)	(CTI ポートのみ) 電話または CTI アプリケーションに障害 が発生したときに、内部番号または外部番号からのコールの 転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。

フィールド	説明
無応答時転送の呼び出し時間 (Call Forward No Answer Ring Duration)	<p>コールに呼び出しを許可する秒数 (1 ~ 300) を入力します。この時間に達すると、コールは [無応答時転送の接続先 (Forward No Answer Destination)] フィールドに入力された接続先番号に転送されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager の [無応答時転送タイマー (Forward No Answer Timer)] サービス パラメータの設定値を使用するには、このフィールドを空白のままにします。</p>
[ルートフィルタ (Route Filter)]	<p>[ルートフィルタ名 (Route Filter Name)] フィールドに名前を入力します。名前には、最大 50 文字の英数字を入力できます。また、スペース、ピリオド (.)、ハイフン (-)、アンダースコア (_) の各記号も任意の組み合わせで含めることができます。各ルートフィルタ名がルートプランに対して固有であることを確認してください。</p> <p>簡単に識別しやすい名前をルート フィルタに使用します。通常は、「会社名/場所/コール タイプ」という形式を使用すると、適切な詳細情報を含めながら、ルートフィルタをすばやく簡単に識別できる短い名前になります。たとえば CiscoDallasMetro とすると、ダラスのシスコオフィスからの無料 Local Access and Transport Area (LATA) 内コールに関するルート フィルタであることを識別できます。</p>
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	<p>次のいずれかのオプションを入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] サービス パラメータに設定された値を使用します。 • [オン (On)] : 基本コールがマルチパーティ コール (つまり割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、参加コール) に変更されるときに、電話でトーンが再生されます。さらに、いずれかの通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイス (つまりマルチパーティ コールの発信元) にビルトインブリッジがある場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話参加者に対してトーンが再生されます。制御デバイス (会議コントローラなど) がコールに残っていない場合や、制御デバイスがトーンを再生できない場合には、[オン (On)] を選択してもトーンが再生されません。 • [オフ (Off)] : 基本コールがマルチパーティ コールに変更されたときに、電話でトーンが再生されません。

フィールド	説明
不在着信のログを取る (Log Missed Calls)	このフィールドを使用して、この機能をオンまたはオフにすることができます。Cisco Unified Communications Manager が電話機とその電話番号に関するコール履歴に不在着信を記録できるようにするには、「T」と入力します。この機能を無効にするには、「F」と入力します。
未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)	パークされている側が外部である場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータで指定された接続先にコールが転送されます。[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合、パークされた側のコールは、パークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)	パークされている側が内部である場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] パラメータで指定された接続先にコールが転送されます。[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] が空の場合、パークされた側のコールは、パークしたユーザの回線にリダイレクトされます。
未取得時のパーク モニタリング転送 (内部) ボイスメール (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal Voice Mail)	この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
未取得時のパーク モニタリング転送 (外部) ボイスメール (Park Monitoring Forward No Retrieve External Voice Mail)	この設定には、[ボイスメールプロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。 このボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。
パーク モニタリング転送非取得時の外部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve External CSS)	電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。
パーク モニタリング転送非取得時の内部 CSS (Park Monitoring Forward No Retrieve Internal CSS)	その電話番号に適用するコーリングサーチスペースを選択します。

フィールド	説明
パーク モニタリング復帰タイマー (Park Monitoring Reversion Timer)	このパラメータは、ユーザがパークしたコールを取得するよう同じユーザに促すまでに Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の [パーク (Park)] ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。 デフォルト : 60 秒 0 以外の値を設定すると、その値によって、[サービス パラメータ (Service Parameters)] ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が上書きされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービスパラメータ (Service Parameters)] ウィンドウの値が使用されます。
E164	常に一意の E.164 番号を使用します。Null 値は使用しないでください。
Voice Mail Profile	パイロット番号をこの回線の電話番号と同じにするには、このパラメータを入力します。この操作は、この電話機でボイスメッセージングサーバが設定されていない場合に役立ちます。
回線コーリングサーチスペース (Line Calling Search Space)	この電話番号から発信された番号を検索する対象のパーティションを入力します。 (注) この設定を変更すると、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] フィールドにリストされているコールピックアップ名が更新されます。この設定値は、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。
[AAR グループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを入力します。AAR グループは、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングするために使用するプレフィックス番号を提供します。 [AARグループ (AAR Group)] を [なし (None)] に設定すると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
回線ユーザ保留音源 (Line User Hold Audio Source)	ユーザが HOLD を押してコールを保留にしたときに流れる保留音の音源を入力します。
回線ネットワーク保留音源 (Line Network Hold Audio Source)	ユーザがコールを転送しているとき、または電話会議やコールパークを開始しているときに、システムがコールを保留にすると再生される保留音の音源を入力します。

フィールド	説明
自動応答 (Auto Answer)	<p>次のいずれかの値を入力して、この電話番号の自動応答機能を有効にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [自動応答オフ (Auto Answer Off)] (デフォルト) • ヘッドセットで自動応答 • スピーカフォンで自動応答 (インターコム) (Auto Answer with speakerphone (intercom)) <p>(注) [ヘッドセットで自動応答 (Auto Answer with Headset)] または [スピーカフォンで自動応答 (Auto Answer with Speakerphone)] を選択するときには、ヘッドセットまたはスピーカフォンが無効になっていないことを確認してください。</p>
無応答時の呼び出し時間 (CFNA) (No Answer Ring Duration (CFNA))	<p>コールに呼び出しを許可する秒数を入力します。この時間に達すると、コールは無応答時接続先に転送されます。</p>
[コール ピックアップ グループ (Call Pickup Group)]	<p>ピックアップグループ名を入力して、コールピックアップグループを指定します。このグループは、適切なピックアップグループ番号をダイヤルすることにより、この回線への着信コールに応答できます。</p> <p>BAT 電話機テンプレートのエントリを使用するには、このフィールドを空白のままにします。</p>
宛先 (MLPP) (Target Destination (MLPP))	<p>この電話番号が MLPP 優先コールを受信し、この電話番号と (この電話番号の) 転送先のどちらも優先コールに応答しない場合に、MLPP 優先コールの転送先となる番号を入力します。</p> <p>入力できる値は、数字、ポンド記号 (#)、およびアスタリスク (*) です。</p>
ターゲット CSS (MLPP) (Target CSS (MLPP))	<p>ドロップダウンリストボックスから、代替パーティターゲット (宛先) の番号に関連付けるコーリング検索スペースを選択します。</p>
無応答時の呼び出し時間 (MLPP) (No Answer Ring Duration (MLPP))	<p>この電話番号と、この電話番号の転送先のどちらも優先コールに応答しない場合、ここに入力する秒数 (4 ~ 30) が経過すると、MLPP 優先コールがこの電話番号の代替パーティに転送されます。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager エンタープライズ パラメータ [優先代替パーティ タイムアウト (Precedence Alternate Party Timeout)] に設定されている値を使用するには、この設定を空白のままにします。</p>

フィールド	説明
[回線テキストラベル (Line Text Label)]	<p>回線と電話の組み合わせについて、このディレクトリ番号を特定するテキストを入力します。</p> <p>デフォルトでは、テキストの言語が英語に指定されます。</p>
[外部電話番号マスク (External Phone Number Mask)]	<p>この回線からコールが発信されたときに、発信者 ID 情報として送信される電話番号 (またはマスク) を入力します。</p> <p>最大 30 個の番号と文字「X」「」を入力できます。X は電話番号を表し、パターンの末尾に使用する必要があります。たとえば、マスク 972813XXXX を指定すると、内線 1234 からの外部コールでは、発信者 ID の番号として 9728131234 が表示されます。</p>
[コール最大数 (Maximum Number of Calls)]	<p>クラスタ内のデバイスの回線あたり最大 200 件のコールを設定できます。ただし、デバイスによって最大数は制限されます。1つの回線のコール数を設定すると、別の回線で利用できるコール数が少なくなります。</p> <p>デフォルト値は 4 です。電話機が各回線に対して複数のコールを許可しない場合、デフォルトで値が 2 に設定されます。</p> <p>CTI ルート ポイントの場合、ポートごとに最大 10,000 件のコールを設定できます。デフォルトではコール数が 5000 に指定されます。このフィールドは[話中トリガー (Busy Trigger)]フィールドと組み合わせて使用します。</p>
[話中トリガー (Busy Trigger)]	<p>この設定は [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] および [話中転送 (Call Forward Busy)] フィールドと共に機能し、その回線に存在できる最大コール数を決定します。たとえば、最大コール数を 50 に設定し、話中トリガーを 40 に設定した場合、41 番目の着信コールはビジーであるという理由で拒否されます ([話中転送 (Call Forward Busy)] が設定されている場合は転送されます)。この回線が共有されている場合は、すべての回線がビジー状態になると着信コールが拒否されます。</p> <p>このフィールドは、CTI ルート ポイントの [コール最大数 (Maximum Number of Calls)] フィールドと組み合わせて使用します。デフォルトではコール数が 4500 に指定されます。</p>

フィールド	説明
メッセージ受信ランプ ポリシー (Message Waiting Lamp Policy)	<p>このフィールドを使用して、ハンドセットのランプ点灯ポリシーを設定します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システム ポリシーを使用する (Use System Policy)] (電話番号は[メッセージ受信点灯ポリシー (Message Waiting Lamp Policy)] サービス パラメータの設定を参照します。) 「」 • [ライトとプロンプト (Light and Prompt)] • [プロンプトのみ (Prompt Only)] • [ライトのみ (Light Only)] • なし (None)
[呼出音設定 (電話のアイドル時) (Ring Setting (Phone Idle))]	<p>着信コールがあり、そのデバイスで他のアクティブ コールがない場合の、ライン アピアランスの呼び出し音設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] • 無効にする (Disable) • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • 呼び出し中 (Ring) <p>(注) [無効 (Disable)] 「」または [フラッシュのみ (Flash Only)] 「」設定は、ハンドセットにのみ適用されます。電話回線ボタンのLED ランプは引き続き点滅します。</p>
[呼出音設定 (電話のアクティブ時) (Ring Setting (Phone Active))]	<p>電話の別の回線にアクティブ コールがあるときに使用される呼び出し音の設定を選択します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [システムデフォルトを使用 (Use System Default)] • 無効にする (Disable) • [フラッシュのみ (Flash Only)] • [一度鳴らす (Ring Once)] • 呼び出し中 (Ring) • [ビーブ音のみ (Beep only)] <p>(注) [無効 (Disable)] 「」または [フラッシュのみ (Flash Only)] 「」設定は、ハンドセットにのみ適用されます。電話回線ボタンのLED ランプは引き続き点滅します。</p>

フィールド	説明
電話番号の URI (1-5) (URI (1-5) on Directory Number)	<p>この電話機の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。</p> <p>(注) Cisco Unified CM の管理ページで、二重引用符またはコンマが組み込まれた複数の URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符やコンマが組み込まれたディレクトリ URI を含む csv ファイルをインポートする場合には、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲み、組み込まれた二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared, "Jerry",Smith@test.com」というディレクトリ URI は、csv ファイルでは「"Jared","Jerry","Smith@test.com"」と入力する必要があります。</p>
ルート パーティションの URI (1-5) (URI (1-5) on Route Partition)	ディレクトリ URI が属するパーティションを入力します。ディレクトリ URI へのアクセスを制限しない場合は、このフィールドを空白のままにします。
電話番号の URI (1-5) をプライマリにする (URI (1-5) Is Primary on Directory Number)	<p>このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定するには、「t」(True) と入力します。このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリ ディレクトリ URI として指定しない場合は、「f」(False) と入力します。</p> <p>(注) 1 つの電話番号に最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができます。ただし、1 つのプライマリディレクトリ URI を選択する必要があります。</p>
エンタープライズをローカルルートパーティションに追加 (Enterprise Add to Local Route Partition)	このエンタープライズ代替番号をローカルルートパーティションに追加するには、「t」と入力します。E.164 番号をローカルルーティングに含めない場合は、「f」と入力します。
エンタープライズをグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)	ILS でこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」と入力します。

フィールド	説明
エンタープライズは緊急 (Enterprise Is Urgent)	<p>この代替番号を緊急として分類するには、「t」と入力します。</p> <p>デフォルトでは、オーバーラップするルートパターンがダイヤルプランに含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は（ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても）桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Cisco Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。</p> <p>番号の優先順位を緊急としてマークすると、Cisco Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー（たとえば T302 タイマー サービスパラメータ）が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。</p>
エンタープライズ番号マスク (Enterprise Number Mask)	<p>電話番号に適用する番号マスクを入力します。Cisco Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなるエンタープライズ代替番号を作成します。</p>
エンタープライズルートパーティション (Enterprise Route Partition)	<p>このエンタープライズ代替番号の割り当て先となるルートパーティションを入力します。</p>
+E.164 をローカルルートパーティションに追加 (+E.164 Add to Local Route Partition)	<p>この E.164 代替番号をローカルルートパーティションに追加するには、「t」と入力します。E.164 番号をローカルルーティングに含めない場合は、「f」と入力します。</p>
[+E.164をグローバルでアドバタイズ (Enterprise Advertise via globally)]	<p>ILSでこの代替番号を ILS ネットワークの残りの部分にアドバタイズできるようにするには、「t」と入力します。ILS にこの番号をアドバタイズさせない場合は、「f」と入力します。</p>

フィールド	説明
+E.164 は緊急 (+E.164 Is Urgent)	<p>この代替番号を緊急として分類するには、「t」と入力します。</p> <p>デフォルトでは、オーバーラップするルート パターンがダイヤル プランに含まれる場合、Cisco Unified Communications Manager は（ダイヤルされた番号にルートが存在する可能性があるとしても）桁間タイマーが満了するまでコールをルーティングしません。この設定により、Cisco Unified Communications Manager はダイヤル文字列に関して可能なすべてのルートから最適一致を選択することができ、学習された番号と静的に設定された電話番号/番号パターンとのオーバーラップに対処できます。</p> <p>番号の優先順位を緊急としてマークすると、Cisco Unified Communications Manager はダイヤル番号と可能なルートとの間で一致を見つけたとき、桁間タイマー（たとえば T302 タイマー サービス パラメータ）が満了するのを待たずに、即時にコールをルーティングします。</p>
+E.164 番号マスク (+E.164 Number Mask)	電話番号に適用する番号マスクを入力します。Cisco Unified Communications Manager はこのマスクを適用して、この電話番号のエイリアスとなる +E.164 代替番号を作成します。
+E.164 ルート パーティション (+E.164 Route Partition)	この +E.164 代替番号の割り当て先となるルートパーティションを入力します。

ユーザ デバイス プロファイル関連のトピック

- [ユーザ デバイス プロファイルの追加 \(373 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイスに関するユーザ デバイス プロファイルの挿入 \(413 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの削除 \(427 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート \(436 ページ\)](#)
- [既存の電話機および UDP への電話回線の追加 \(216 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル レポートの生成 \(452 ページ\)](#)



第 37 章

ユーザ デバイス プロファイル テンプレート

この章では、ユーザ デバイス プロファイルの作成および変更について説明します。

- [ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索 \(391 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル一括管理ツール \(BAT\) テンプレートの作成 \(392 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートのユーザ デバイス プロファイル テンプレート フィールドの説明 \(394 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル BAT テンプレートの変更 \(397 ページ\)](#)

ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索

複数のユーザ デバイス プロファイル (UDP) テンプレートが存在する場合があるため、特定の基準に基づいて特定の UDP テンプレートを Cisco Unified Communications Manager データベース内で検索できます。



- (注) ブラウザセッションでの作業中に、検索/一覧表示の検索設定がクライアントマシン上の Cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動した後でこのメニュー項目に戻った場合や、ブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを開き直した場合は、手動で検索を変更するまで、Cisco Unified Communications Manager の検索設定が保持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [ユーザ デバイス プロファイル テンプレート (User Device Profile Template)] の順に選択します。

[UDP テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウン リスト ボックスを使用してテンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [UDP テンプレートの検索 (Find UDP Templates where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- プロファイル名 (Profile Name)
- プロファイルの説明 (Profile Description)
- [デバイスタイプ (Device Type)]

2 番目の [UDP テンプレートの検索 (Find UDP Templates where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべての UDP テンプレートを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- 名前
- 説明
- デバイスタイプ (Device Type)
- [プロファイルタイプ (Profile Type)]

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するテンプレート名をクリックします。
[UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ユーザ デバイス プロファイル一括管理ツール (BAT) テンプレートの作成

テンプレートを作成し、ユーザ デバイス プロファイルを一括して追加できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [ユーザデバイスプロファイルテンプレート (User Device Profile Template)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

ステップ 3 [デバイスタイプ (Device Type)] ドロップダウンリスト ボックスから、ユーザー デバイス プロファイルのモデルを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 個別のユーザデバイスプロファイルテンプレートに関するデータを、スプレッドシートに別々の行を使用して入力します。すべての必須フィールドと関連するオプションフィールドに値を入力します。

各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。フィールドの説明については、「表 22 : BAT スプレッドシート内のユーザ デバイスプロファイルテンプレートに関するフィールドの説明 (394 ページ)」を参照してください。

(注) デバイスのモデルによっては、一部のフィールドが表示されないことがあります。

ヒント [ログイン ユーザ ID (Login User ID)] フィールドの下にある [ログイン ユーザ ID の選択 (Select Login User ID)] リンクを選択すると、有効なログインユーザ ID を見つけるのに役立つ機能を利用できます。別のダイアログボックスがポップアップ表示されます。使用するログイン ユーザ ID の最初の何文字かを [ログイン ユーザ ID (Login User ID)] フィールドに入力すると、入力したパターンに一致するすべてのログインユーザ ID が [選択されたログインユーザ ID (Selected login user ID)] フィールドに表示されます。該当する ID を選択し、[OK] をクリックします。

ステップ 5 必要に応じて、[プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))] チェックボックスをオンにします。

ステップ 6 DND 機能を有効にする必要がある場合は、[応答不可 (Do Not Disturb)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [DND オプション (DND Option)] ドロップダウンリストから [DND] オプションを選択します。

ステップ 8 [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] ドロップダウンリストから [DND 着信呼警告 (DND Incoming Call Alert)] オプションを選択します。

- [なし (None)] : 着信コールを通知しない場合は、このオプションを選択します。
- [無効 (Disable)] : DND モードのときに、着信コールの通知を無効にする場合は、このオプションを選択します。
- [フラッシュのみ (Flash only)] : DND モードのときに、デバイスを点滅させる場合は、このオプションを選択します。
- [ビープ音のみ (Beep Only)] : DND モードのときに、デバイスでビープ音を鳴らす場合は、このオプションを選択します。

ステップ 9 [クラスタ間エクステンションモビリティの CSS (Extension Mobility Cross Cluster CSS)] ドロップダウンリストから [クラスタ間エクステンションモビリティの CSS (Extension Mobility Cross Cluster CSS)] を選択します。

ステップ 10 [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] ドロップダウンリストから [機能管理ポリシー (Feature Control Policy)] を選択します。

(注) このフィールドは、RoundTable 電話機の場合にのみ表示されます。

ステップ 11 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 12 選択する電話ボタンテンプレートに応じて、回線、短縮ダイヤル設定、登録済み Cisco IP Phone サービス設定、ビジーランプフィールド短縮ダイヤル設定を追加するためのリンクが表示されます。

一部の Cisco Unified IP Phone モデルでは、Cisco Unified IP Phone サービスや短縮ダイヤルをテンプレートに追加することができます。

関連トピック

[電話テンプレート](#) (31 ページ)

BAT スプレッドシートのユーザ デバイス プロファイル テンプレート フィールドの説明

次の表で、BAT スプレッドシート内のすべてのユーザ デバイス プロファイル テンプレート フィールドについて説明します。



(注) デバイスのモデルによっては、一部のフィールドが表示されない場合があります。

表 22: BAT スプレッドシート内のユーザ デバイス プロファイル テンプレートに関するフィールドの説明

フィールド	説明
ユーザ デバイス プロファイル テンプレート名 (User Device Profile Template Name)	デバイス プロファイル名の固有 ID を 50 文字以内で入力します。
説明	UDP テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
[ユーザ保留音のソース (User Hold Audio Source)]	この IP フォンまたは CTI ポートのグループに使用されるユーザ保留音源を入力します。 ユーザ保留音源は、ユーザがコールを保留にしたときに再生される保留音の音源を特定します。

フィールド	説明
[User Locale (ユーザ ロケール)]	この IP Phone のグループに関連付ける国/地域と言語の組み合わせを入力します。 この選択項目によって、このユーザの文化に依存する属性と、Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウおよび電話機でユーザに表示される言語が決まります。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	このプロファイルの電話ボタン テンプレートを選択します。
[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]	このグループのすべての電話機で使用されるソフトキー テンプレートを入力します。
[プライバシー (Privacy)]	このプロファイルの適切なプライバシー オプションを選択します。プライバシーが必要なデバイスごとに、[プライバシー (Privacy)] ドロップダウン リスト ボックスで [オン (On)] を選択します。
ワンボタン割り込み (Single Button Barge)	ワンボタン割り込み機能に関する適切なオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : この設定は、ワンボタン割り込み/C 割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたは C 割り込み機能は引き続き動作します。 • [割込 (Barge)] : この設定は、ワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C割込 (cBarge)] : この設定は、ワンボタン C 割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : この設定は、サービスパラメータの Single Button Barge/cBarge の設定を使用します。
複数ライン同時通話 (Join Across Lines)	複数ライン同時通話に関する適切なオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)] : 複数ライン同時通話を無効にします。 • [オン (On)] : 複数ライン同時通話を有効にします。 • [デフォルト (Default)] : サービスパラメータの Join Across Lines の設定を使用します。
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)] 設定として、次のいずれかの値を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン • 消灯 • デフォルト

フィールド	説明
ボイス メッセージに常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)	<p>[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] 設定として、次のいずれかの値を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • オン • 消灯 • デフォルト
[MLPP通知 (MLPP Indication)]	<p>MLPP 優先コールの発信時にデバイスが優先トーンを再生できるかどうかを指定するには、次のいずれかの値を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : デバイス プールから MLPP 通知を引き継ぎます。 • [オフ (Off)] : MLPP 通知トーンを送信しません。 • [オン (On)] : MLPP 優先コールの通知を送信します。
MLPP Preemption	<p>MLPP 優先コールの発信時に進行中のコールをデバイスがプリエンプション処理できるかどうかを指定するには、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : デバイス プールから MLPP プリエンプション設定を引き継ぎます。 • [無効 (Disable)] : MLPP 優先コールの発信時にコールをプリエンプション処理しません。 • [強制 (Forceful)] : MLPP 優先コールの発信時に進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p>(注) [MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] が [強制 (Forceful)] に設定されているときは、デバイスの [MLPP 通知 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] に設定しないでください。</p>
[MLPPドメイン (MLPP Domain)]	<p>このデバイスに関連付けられる MLPP ドメインを表す 16 進数値を入力します。空白または 0 ~ FFFFFFF の値にする必要があります。</p>
拡張モジュール情報 (Expansion Module Information)	<p>[モジュール 1 (Module 1)] および [モジュール 2 (Module 2)] について、拡張モジュールのタイプ (電話機に取り付けられている場合) または [なし (<None>)] を選択します。</p>

フィールド	説明
ログイン ユーザ ID (Login User ID)	<p>デフォルト プロファイル用のログイン ユーザ ID を入力します。ユーザがユーザ デバイス プロファイルからログアウトすると、ユーザ デバイス プロファイルはこのログイン ユーザ ID に自動的にログインして、デフォルト プロファイルを使用します。</p> <p>(注) [ログイン ユーザ ID (Login User ID)] フィールドの下にある [ログイン ユーザ ID の選択 (Select Login User ID)] リンクを選択すると、有効なログイン ユーザ ID を見つけるのに役立つ機能を利用できます。別のダイアログボックスがポップアップ表示されます。使用するログイン ユーザ ID の最初の何文字かを [ログイン ユーザ ID (Login User ID)] フィールドに入力すると、入力したパターンに一致するすべてのログイン ユーザ ID が [選択されたログイン ユーザ ID (Selected login user ID)] フィールドに表示されます。該当する ID を選択し、[OK] をクリックします。</p>

ユーザ デバイス プロファイル BAT テンプレートの変更

同じデバイスに関する 2～3 個のフィールドだけを変更したい場合には、既存の BAT テンプレートのプロパティを変更することで対応できます。

手順

- ステップ 1 変更する UDP テンプレートを検索します。
- ステップ 2 表示されたテンプレートのリストから、変更するテンプレート名をクリックします。選択したテンプレートの詳細が [UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウに表示されます。
- ステップ 3 それが変更するテンプレートであることを確認します。
- ステップ 4 必要に応じて、テンプレート フィールド内の詳細を変更します。
- ステップ 5 [保存 (Save)] をクリックして、既存のテンプレートの変更内容を保存します。

関連トピック

[ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索](#) (391 ページ)

ユーザ デバイス プロファイル テンプレートのコピー

一部のフィールドだけを変更したい場合は、テンプレートのプロパティを新しいテンプレートにコピーできます。



(注) 作成する新しいテンプレートは、Cisco IP ユーザー デバイス プロファイル モデル 7960 など、元のテンプレートと同じデバイスタイプである必要があります。

次の手順を使用して、既存の BAT テンプレートをコピーします。

手順

ステップ 1 コピーする UDP テンプレートを検索します。

ステップ 2 表示されたテンプレートのリストから、コピーするテンプレート名を選択します。

選択したテンプレートの詳細が [UDP テンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウに表示されます。

(注) コピーするテンプレートに対応する [コピー (Copy)] 列内のアイコンをクリックすることによって、テンプレートをコピーすることもできます。

ステップ 3 それがコピーしたいテンプレートであることを確認してから [コピー (Copy)] をクリックします。
テンプレートが複製され、コピーが作成されます。コピーでは、元のテンプレートで指定されていたすべての値が複製されます。

ステップ 4 [ユーザ デバイス プロファイル テンプレート名 (User Device Profiles Template Name)] フィールドに、英数字 50 文字以内で新しいテンプレート名を入力します。

ステップ 5 必要に応じて、新しいテンプレートのフィールドを更新します。

ステップ 6 [保存 (Save)] をクリックします。BAT に追加されたテンプレートは、左側の [テンプレート (Templates)] 列に表示されます。

関連トピック

[ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索](#) (391 ページ)

ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの削除

不要になった BAT ユーザ デバイス プロファイル テンプレートを削除できます。

手順

ステップ 1 削除する UDP テンプレートを検索します。

ステップ 2 表示されたテンプレートのリストから、削除するテンプレート名をクリックします。

選択したテンプレートの詳細が [UDPテンプレートの設定 (UDP Template Configuration)] ウィンドウに表示されます。

(注) テンプレートを削除するには、テンプレート名の横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

ステップ 3 それが削除するテンプレートであることを確認して、[削除 (Delete)] をクリックします。削除操作の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 4 [OK] をクリックして、テンプレートを削除します。
[UDPテンプレートの検索/一覧表示 (Find and List UDP Templates)] ウィンドウのテンプレートリストからテンプレート名が消去されます。

関連トピック

[ユーザ デバイス プロファイル テンプレートの検索 \(391 ページ\)](#)



第 38 章

ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式

この章では、テキスト エディタを使用して作成する CSV データ ファイルのユーザ デバイス プロファイルのファイル形式を設定する方法について説明します。

- [ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式の設定 \(401 ページ\)](#)

ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の設定

テキスト エディタを使用して作成する CSV データ ファイル用のユーザ デバイス プロファイルのファイル形式は、コピー、変更、および削除することができます。

テキスト エディタを使用して CSV データ ファイルを作成する場合、CSV データ ファイル内のデバイスフィールドと回線フィールドを識別するために1つのファイル形式を使用する必要があります。ファイル形式のオプションには、次のものがあります。

- デフォルトのユーザ デバイス プロファイル：事前設定済みのユーザ デバイス プロファイルのデバイス フィールドと回線フィールドのセットが含まれています。
- シンプルなユーザ デバイス プロファイル：ユーザ デバイス プロファイル用の基本的なデバイス フィールドと回線フィールドが含まれています。
- カスタマイズ：自分で選択して並べたデバイスフィールドと回線フィールドが含まれています。

テキスト エディタで CSV ファイルを作成する前に、既存のファイル形式を選択するか、または新規のファイル形式を作成する必要があります。次に、このファイル形式で指定した値をテキストベースの CSV データ ファイルに入力できます。

UDP ファイル形式の検索

BAT を使用して、ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式を検索します。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザー デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [UDP ファイル形式 (UDP File Format)] > [UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format)] の順に選択します。
[UDP ファイル形式の検索/一覧表示 (Find and List UDP File Formats)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [形式名によるUDPファイル形式の検索 (Find UDP File Format where Format Name)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない
- ステップ 3** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ヒント** データベースに登録されているすべての UDP テンプレートを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。
- 検出されたテンプレートのリストがファイル形式の名前別に表示されます。
- ステップ 4** レコードのリストから、検索条件と一致するファイル形式名をクリックします。
[UDP ファイル形式の設定 (UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
-

UDP ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用の UDP ファイル形式を作成できます。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザー デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format)] の順に選択します。
[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新しく追加 (Add New)] をクリックします。
[UDP ファイル形式の作成 (Create UDP File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [UDP のファイル形式名 (UDP File Format Name)] フィールドに、このカスタマイズ形式の名前を入力します。

ステップ 4 [デバイスフィールド (Device Fields)] で、ユーザ デバイス プロファイルごとに定義するデバイス フィールド名を選択します。

[デバイス フィールド (Device Field)] ボックスでデバイス フィールド名をクリックし、矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド順序 (Selected Device Fields Order)] ボックスに移動します。

(注) CSV データ ファイルには [デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)] と [説明 (Description)] が含まれている必要があります。そのため、これらのフィールドは常に選択されたままになります。

ヒント リストで複数のフィールド名をランダムに選択するには、**Ctrl** キーを押したまま矢印をクリックして、それらを一緒に選択します。アイテムの範囲を選択するには、**Shift** キーを使用します。

ステップ 5 [回線フィールド (Line Field)] ボックスで回線フィールド名をクリックし、矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスに移動します。

(注) ファイル形式で回線フィールドを選択した場合は、[電話番号 (Directory Number)] が必須フィールドになります。

ヒント [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスと [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックス内のアイテムの順序を変更できません。アイテムを選択し、上矢印を使ってフィールドをリストの上位に移動するか、下矢印を使ってフィールドをリストの下位に移動します。

ステップ 6 [インターコム DN フィールド (Intercom DN Field)] ボックスで Intercom DN フィールド名をクリックし、矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みのインターコム DN フィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックスに移動します。

ステップ 7 CSV ファイルに含める回線、短縮ダイヤル、IP 電話サービス、および IP 電話サービス パラメータの最大数を、それぞれ対応するテキスト ボックスに入力します。

(注) 短縮ダイヤル、IP 電話サービス、および IP 電話サービス パラメータの最大数に 0 を入力すると、これらが CSV ファイルに含まれなくなります。ただし、ファイル形式で回線フィールドが選択されている場合は、回線の最大数を 0 にすることはできません。

ステップ 8 カスタマイズしたファイル形式を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。[UDPファイル形式クエリ (UDP File Format Query)] ウィンドウに、ファイル形式の名前が表示されます。

UDP ファイル形式のコピー

CSV データ ファイル用に既存のユーザ デバイス プロファイル ファイル形式をコピーできます。

手順

- ステップ 1** コピーする UDP ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式名をクリックします。
[ファイル形式の設定 (File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 選択したファイル形式のコピーを作成するには、[コピー (Copy)] をクリックします。

(注) また、[UDPファイル形式クエリ (UDP File Format Query)] ウィンドウで、コピーする形式に対応する [コピー (Copy)] 列内のアイコンをクリックすることによって、ファイル形式をコピーすることもできます。
- ステップ 4** [ファイル形式名 (File Format Name)] フィールドに、コピーした形式の新しい名前を入力します。
- ステップ 5** 次のいずれかの方法で、コピーした形式を変更します。
 - a) 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)]、[回線フィールド (Line Fields)]、または[インターコムDNフィールド (Intercom DN Fields)] ボックスでそれらを選択し、矢印をクリックして、選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド順序 (Selected Device Fields Order)]、[選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)]、または [選択済みのインターコムDNフィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックスに移動します。
 - b) 選択したフィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド順序 (Selected Device Fields Order)]、[選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)]、または [選択済みのインターコムDNフィールド順序 (Selected Intercom DN Fields Order)] ボックスでそれらを選択し、矢印をクリックして、選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)]、[回線フィールド (Line Fields)]、または [インターコムDNフィールド (Intercom DN Fields)] ボックスに移動します。
 - c) フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド順序 (Selected Device Field Order)]、[選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)]、または [選択済みのインターコムDNフィールド順序 (Selected Intercom DN Field Order)] ボックスでフィールド名を選択し、上矢印または下矢印を使ってその位置を変更します。
- ステップ 6** 変更が終了した後、[保存 (Save)] をクリックすると、コピーしたファイル形式およびリストの変更内容が保存されます。

関連トピック

[UDP ファイル形式の検索](#) (401 ページ)

UDP ファイル形式の変更

CSV データ ファイル用の既存のユーザ デバイス プロファイル ファイル形式を変更できます。

手順

- ステップ 1** 更新する UDP ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、変更するファイル形式名をクリックします。[ファイル形式の設定 (File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 次のいずれかの方法で、コピーした形式を変更します。
 - a) 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)]、[回線フィールド (Line Fields)]、または[インターコム DN フィールド (Intercom DN Fields)] ボックスでそれらを選択して矢印をクリックすると、選択したフィールドが[選択済みのデバイスフィールド順序 (Selected Device Fields Order)]、[選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)]、または[選択済みのインターコム フィールド順序 (Selected Intercom Fields Order)] ボックスに移動します。
 - b) 選択したフィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド順序 (Selected Device Fields Order)]、[選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)]、または[選択済みのインターコムフィールド順序 (Selected Intercom Fields Order)] ボックスでそれらを選択して矢印をクリックすると、選択したフィールドが[デバイスフィールド (Device Fields)] または[回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。
 - c) フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Field)] または[選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスでフィールド名を選択し、上矢印または下矢印を使ってその位置を変更します。
- ステップ 4** 変更が終了したら、[保存 (Save)] をクリックしてファイル形式の変更内容を保存します。

関連トピック

[UDP ファイル形式の検索](#) (401 ページ)

UDP ファイル形式の削除

CSV データ ファイルについて、ユーザ デバイス プロファイルの既存のファイル形式を削除できます。

手順

- ステップ 1** 削除する UDP ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、削除するファイル形式名をクリックします。

[ファイル形式の設定 (File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。このファイル
を削除することを確認します。

ステップ 3 [ファイル形式名 (File Format Name)] リストからファイル形式を削除するには、[削除 (Delete)]
をクリックします。ファイル形式を削除することの確認を求めるメッセージが表示されます。
[OK] をクリックして続行します。

ファイル形式名がリストから削除されます。

ヒント また、対応するチェックボックスをオンにして [削除 (Delete)] をクリックするこ
とにより、ファイル形式を削除することもできます。[すべて選択 (Select All)] を
クリックしてから、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックすると、すべて
のファイル形式を削除できます。

関連トピック

[UDP ファイル形式の検索 \(401 ページ\)](#)



第 39 章

ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の追加

この章では、ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルに関連付ける方法について説明します。

ファイル形式で指定した順序ですべての値をテキストベースの CSV データ ファイルに入力したら、そのテキストベースの CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager 内の最初のノードにアップロードする必要があります。アップロード後に、ファイル形式をテキストベースの CSV データ ファイルと関連付ける必要があります。

- [ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の追加 \(407 ページ\)](#)
- [UDP ファイル形式の作成関連のトピック \(408 ページ\)](#)

ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の追加

BAT を使用して、テキストベースの CSV データ ファイルとファイル形式を関連付けます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)]>[ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)]>[UDP ファイル形式 (UDP File Format)]>[ファイル形式の追加 (Add File Format)]の順に選択します。
[ファイル形式の設定の追加 (Add File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ファイル形式名 (File Format Name)] フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データ ファイルに追加するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)]メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)]オプションでジョブが作成されます。 [ジョブの設定 (Job Configuration)]ウィンドウを使用して、ジョブスケジュールを変更します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

UDP ファイル形式の作成関連のトピック

- [ユーザー デバイス プロファイルのファイル形式の追加 \(407 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)



第 40 章

ユーザ デバイス プロファイルの検証

この章では、ユーザデバイスプロファイル用の CSV データ ファイル内のレコードに、デバイスプロファイル名や電話番号などの必須フィールドがすべてあることを検証する方法と、最初のノードのデータベース内にあるレコードとの不一致がないかを検査する方法について説明します。

- [ユーザ デバイス プロファイルの検証 \(409 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの検証関連のトピック \(411 ページ\)](#)

ユーザ デバイス プロファイルの検証

BAT を使用して、CSV データ ファイルのユーザ デバイス プロファイル レコードを検証する検証スクリプトを実行できます。[ユーザデバイスプロファイルの確認 (Validate User Device Profiles)] を選択すると、システムは検証ルーチンを実行して、CSV データ ファイルにすべての必須フィールド (デバイス プロファイル名や電話番号など) が入力されていることを検査し、最初のノード データベース内のレコードとの不一致があるかどうか検査します。

始める前に

- 追加するデバイス用のユーザ デバイス プロファイル テンプレートが必要です。単一回線を備えたユーザ デバイス プロファイルを追加するために、複数行からなるユーザ デバイス プロファイル テンプレートを使用できます。
- ユーザ デバイス プロファイル固有の詳細を含む CSV データ ファイルが必要です。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [ユーザデバイスプロファイルの確認 (Validate User Device Profiles)] の順に選択します。
[ユーザデバイスプロファイルの検証 (User Device Profiles Validation)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 CSV データ ファイルに対応する挿入オプションを次のように選択します。

- [UDP固有の詳細の確認 (Validate UDP Specific Details)] : ファイル形式を使用するユーザ デバイス プロファイル レコードを検証する場合。
- [UDPすべての詳細の確認 (Validate UDP All Details)] : [すべての詳細 (All Details)] オプションを使って生成されたエクスポート ファイルからのユーザ デバイス プロファイル レコードを検証する場合。

ステップ 3 [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この特定の一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 4 [UDP固有の詳細の確認 (Validate UDP Specific Details)] オプションの [UDP テンプレート名 (UDP Template Name)] フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成した Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) ユーザ デバイス プロファイル テンプレートを選択します。

ステップ 5 選択した CSV データ ファイルをデータベースで検証するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションでジョブが作成されます。[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、ジョブ スケジュールを変更します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイル 一括管理 ツール \(BAT\) テンプレートの作成 \(392 ページ\)](#)

[BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成 \(374 ページ\)](#)

[スケジューリングしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイルの検証 \(409 ページ\)](#)

ユーザ デバイス プロファイルの検証の制限事項

電話の確認には次の制限があります。

- 検証プロセスで検査するのは、テンプレート上に設定されている回線の数だけです。つまり、テンプレート上に設定されている回線番号は検査しません。CSV データ ファイルに電話 テンプレートでサポートされている回線数よりも多い回線数が含まれている場合、[UDP の確認 - 固有の詳細 (Validate UDP - specific details)] ジョブを実行した後、管理者はログ内に「警告：電話 テンプレートでサポートされる回線数より多くの回線が CSV に含まれています。(WARNING: CSV contains more number of lines than are supported by the phone template.)」というメッセージが表示されます。[電話番号 (Directory Numbers)]、[スピードダイヤル (Speed dials)]、[ビジー ランプ フィールド スピードダイヤル (Busy Lamp Field Speed Dials)] のいずれかが空、またはすべてが空の場合、要約ログ ファイル内に示された警告メッセージが正確ではない可能性があります。
- 確認プロセスでは、CSV ファイルで必須フィールドが指定されているかどうかは確認されません。

- 電話テキスト ファイルで IP Phone サービス パラメータが指定されている場合、確認プロセスで確認されるのは、Cisco Unified Communications Manager 上の CSV ファイルで指定されている名前のパラメータの有無だけです。指定されているパラメータが IP Phone サービスで設定されているかどうかは確認されません。

ユーザ デバイス プロファイルの検証関連のトピック

- [ユーザ デバイス プロファイル一括管理ツール \(BAT\) テンプレートの作成 \(392 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの検証の制限事項 \(410 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成 \(374 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)



第 41 章

UDP の生成

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、すべての IP フォンユーザのプロファイルを生成して挿入することによって、エクステンションモビリティをすばやくセットアップする方法について説明します。BAT では、ユーザが制御しているデバイスの数に関係なく、すべての電話機のユーザ デバイス プロファイルを生成します。たとえば、ユーザが 2 台のデバイスを制御している場合、BAT ではデバイスごとに 1 つずつ、合わせて 2 つの別個のユーザ デバイス プロファイルを生成して、それらを同じユーザに関連付けます。BAT は、生成したこれらのユーザ デバイス プロファイルの 1 つをそのユーザのデフォルトのユーザ デバイス プロファイルとして設定します。BAT は、電話機モデルごとの電話ボタンテンプレートに基づいて、すべての IP フォンのユーザ デバイス プロファイルを生成します。



(注) この操作を実行するために、ユーザ デバイス プロファイルテンプレートまたは CSV データファイルは使用しません。BAT でこれらのユーザ デバイス プロファイルを生成した場合、それらはそのユーザに関連付けられます。

- [ユーザ デバイスに関するユーザ デバイス プロファイルの挿入 \(413 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの生成関連のトピック \(415 ページ\)](#)

ユーザ デバイスに関するユーザ デバイス プロファイルの挿入

すべてのユーザに関するユーザ デバイス プロファイルを生成できます。

エクスポートユーティリティを使って生成されたファイルを挿入する場合、エクスポートユーティリティは、電話機上で設定される回線ごとに数字のサフィックス `_n` を付加します。たとえば、「sales_7960_1_3.txt」という名前のエクスポートファイルは、このファイル内のすべての電話機レコードで回線 1 と 3 が設定されていることを示します。UDP プロファイルの挿入時には、付加されたサフィックスを確認しながら、正しい回線設定を含む電話機テンプレートを選択できます。

CTI ポートの追加時にはダミー MAC アドレス オプションを使用できます。このオプションでは、ダミー MAC アドレスの形式で CTI ポートごとに一意のデバイス名が付与されますが、後で、Cisco Unified Communications Manager Administration または Unified CM 自動登録電話ツールを使用して手動で更新することができます。

ダミー MAC アドレス オプションは、自動的に、次の形式でダミー MAC アドレスを生成します。

XXXXXXXXXXXX

ここで、X は、任意の 12 文字の 16 進数値 (0 ~ 9 と A ~ F) を表します。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [ユーザデバイスプロファイルの挿入 (Insert User Device Profiles)] の順に選択します。
[ユーザデバイスプロファイルの挿入の設定 (User Device Profiles Insert Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) [ユーザデバイスプロファイルの固有の詳細の挿入 (Insert User Device Profiles Specific Details)] ラジオ ボタンをクリックして、カスタマイズされたファイル形式を使用する UDP レコードを挿入します。[ステップ 3 \(414 ページ\)](#) と [ステップ 4 \(414 ページ\)](#) に進みます。
- b) [ユーザデバイスプロファイルのすべての詳細の挿入 (Insert User Device Profiles All Details)] ラジオ ボタンをクリックすると、[すべての詳細 (All Details)] オプションを使って生成されたエクスポート済み UDP ファイルから UDP レコードを挿入できます。

ステップ 3 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストボックスで、この特定の一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

ステップ 4 [固有の詳細 (Specific Details)] オプションの [ユーザデバイスプロファイルテンプレート名 (User Device Profiles Template Name)] ドロップダウンリストボックスで、このタイプの一括トランザクション用に作成した BAT 電話機テンプレートを選択します。

ステップ 5 CSV データ ファイルに個別の MAC アドレスを入力しなかった場合は、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオンにする必要があります。
「[ステップ 9 \(415 ページ\)](#)」にスキップします。

ユーザに割り当てられる電話機の MAC アドレスがわからない場合に、このオプションを選択します。電話機が接続されると、そのデバイス用に MAC アドレスが登録されます。データ入力ファイルで MAC アドレスまたはデバイス名を指定した場合は、このオプションを選択しないでください。

ステップ 6 該当する場合には、次のオプションを選択します。

- テンプレート内の既存の電話機に関する電話機設定を変更する場合は、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、ユーザ デバイス プロファイル情報もまた更新されます。

- ユーザの現在の IP 電話に基づいてすべての電話機のユーザ デバイス プロファイル レコードを生成および挿入するよう BAT に指示するには、[ユーザが制御するデバイスを使用 (Based on devices controlled by users)] ラジオ ボタンを選択します。
- 生成されたユーザ デバイス プロファイルをログアウト プロファイルとして使用するようデバイスに指示するには、[ユーザ デバイス プロファイルをデバイスのログアウト プロファイルとして設定 (Set User Device Profile as Log Out Profile for the device)] チェックボックスをオンにします。

ステップ 7 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 8 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに UDP レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で UDP レコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 9 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールおよびアクティブ化します。

(注) レコードに関するいずれかの情報に問題がある場合、BAT はそのユーザ デバイス プロファイル レコードを挿入しません。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[TAPS の概要 \(741 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイルの生成関連のトピック \(415 ページ\)](#)

ユーザ デバイス プロファイルの生成関連のトピック

- [ユーザ デバイスに関するユーザ デバイス プロファイルの挿入 \(413 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [TAPS の概要 \(741 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)



第 42 章

ユーザ デバイス プロファイルの更新

この章では、類似したユーザ デバイス プロファイルのグループのデバイス プールまたはコーリング検索スペースの変更や追加など、ユーザ デバイス プロファイル (UDP) 設定を更新する方法について説明します。クエリ検索またはカスタムファイルのいずれかを使用して、更新する既存の UDP レコードを検索できます。

- [クエリを使用した UDP の更新 \(417 ページ\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した UDP の更新 \(418 ページ\)](#)
- [更新パラメータの選択 \(420 ページ\)](#)

クエリを使用した UDP の更新

更新する UDP を特定するためのクエリを作成できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [UDP の更新 (Update UDP)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。

[更新するユーザ デバイス プロファイルの検索/一覧表示 (Find and List User Device Profiles To Update)] ウィンドウが表示されます。

(注) クエリを指定せずに [検索 (Find)] をクリックすると、すべてのユーザ デバイス プロファイルを更新できます。「[更新パラメータの選択 \(420 ページ\)](#)」に進みません。

ステップ 2 最初の [ユーザ デバイス プロファイルの検索 (Find User Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- プロファイル名 (Profile Name)
- [プロファイルの説明 (Profile Description)]
- [プロファイルタイプ (Profile Type)]

- [プロファイル プロトコル (Profile Protocol)]

ステップ 3 2 番目の [ユーザデバイスプロファイルの検索 (Find User Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのユーザ デバイス プロファイルを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンリストから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(417 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(418 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 6 [検索 (Find)] をクリックします。
条件と一致するすべてのレコードの詳細が、[更新するユーザデバイスプロファイルの検索/一覧表示 (Find and List User Device Profiles To Update)] ウィンドウに表示されます。1 ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リストで別の値を選択します。

次のタスク

UDP の更新手順を完了するには、次の手順で更新パラメータを選択します。

関連トピック

[更新パラメータの選択 \(420 ページ\)](#)

カスタム ファイルを使用した UDP の更新

カスタムファイル内のUDPのリストを使用してUDPを更新できます。カスタムファイルを使用して、更新する データベース内のUDPを検索します。

始める前に

からUDPを更新するには、その前に次のタスクを実行する必要があります。

- 更新する必要がある UDP を特定します。
- 以下の各オプションがそれぞれ別の行に配置されたテキスト ファイルを作成します。
 - プロファイル名 (Profile Name)
 - 説明
 - プロファイルタイプ
 - [プロファイル プロトコル (Profile Protocol)]
- サーバーに、テキストファイルをアップロードします。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDPの更新 (Update UDP)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
[UDPの検索/一覧表示 (Find and List UDP)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [UDPの更新 (Update Bulk UDP where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次の条件から作成したカスタム ファイルのタイプを選択します。

- プロファイル名 (Profile Name)
- 説明
- デバイスタイプ (Device Type)
- デバイス プロトコル

ステップ 3 カスタム ファイルのリストから、この更新操作のカスタム ファイルのファイル名を選択します。

ステップ 4 [検索 (Find)] をクリックします。

(注) bat.xlt を使って作成した挿入トランザクション ファイルまたはエクスポート トランザクション ファイルを、更新トランザクションに使用しないでください。代わりに、更新する必要がある UDP レコードの詳細を含むカスタム ファイルを作成する必要があります。更新トランザクションには、このファイルだけを使用してください。このカスタム更新ファイルには見出しが不要で、プロファイル名、説明、プロファイルタイプ、またはプロファイル プロトコルの値を入力できます。

次のタスク

UDP の更新手順を完了するには、次の手順で更新パラメータを選択します。

関連トピック

[更新パラメータの選択](#) (420 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

更新パラメータの選択

UDP を検索するためにクエリまたはカスタム ファイルを定義したら、次の手順を使用して、パラメータを選択し、UDP を更新するための値を定義します。

手順

ステップ 1 次のいずれかを実行します。

- a) 更新する UDP を検索するために [クエリ (Query)] オプションを使用した場合、[更新するユーザ デバイス プロファイルの検索/一覧表示 (Find and List User Device Profiles To Update)] ウィンドウで [次へ (Next)] をクリックします。
- b) 更新する UDP を検索するために [カスタム ファイル (Custom File)] オプションを使用した場合、[UDP の検索/一覧表示 (Find and List UDP)] ウィンドウで [次へ (Next)] をクリックします。

[UDP の更新 (Update UDP)] ウィンドウに、選択しているクエリのタイプが表示されます。クエリのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。

ステップ 2 クエリまたはカスタムファイルで定義したすべてのレコードで更新する設定を指定します。更新する複数のパラメータを選択できます。

ステップ 3 必要な UDP パラメータを更新します。フィールドの説明については、「[表 23 : BAT で UDP を更新する場合のフィールドの説明 \(421 ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 4 更新するフィールドの左側にあるチェックボックスをオンにします。この操作によって、フィールドの既存の値を上書きするよう BAT に指令が出されます。

(注) 更新チェック ボックスをオンにしたフィールドのみが、BAT によって更新されます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 アクティブ化の方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザ デバイス プロファイルをアクティブにする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でユーザ デバイス プロファイルをアクティブにするようにスケジュールする場合は、[あとで実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 レコードを更新するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

(注) 検索結果に複数のタイプやプロトコルのデバイスが含まれている場合、[UDP の更新 (Update UDPs)] ウィンドウに特定のフィールドが表示されない場合があります。表示するすべてのフィールドに対して、同じタイプおよびプロトコルの UDP が使用されていることを確認します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル](#) (771 ページ)

[スケジュールしたジョブの管理](#) (759 ページ)

UDP 更新フィールドの説明

次の表で、UDP を更新するときに表示されるフィールドについて説明します。

BAT ユーザ インターフェイスでフィールド名にアスタリスクが付いている場合は必ず入力する必要があります。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

表 23: BAT で UDP を更新する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
Description	デバイスの識別に役立つ説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、および山カッコ (<>) は使用できません。
[ユーザ保留 MOH 音源 (User Hold MOH Audio Source)]	この UDP またはポートのグループ用の音源を選択します。ユーザがコールを保留にしたときに、ユーザ保留音源の音楽が再生されます。
[ユーザ ロケール (User Locale)]	このユーザに関連付ける国/地域と言語の組み合わせを選択します。 この選択項目により、このユーザの文化に依存する属性と、Cisco Unified Communications Manager のユーザ ウィンドウおよび電話機でユーザに表示される言語が決まります。
[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]	このプロファイル用の適切な電話ボタンテンプレートを選択します。 電話ボタンテンプレートでは、電話機上のボタンを設定し、各ボタンにどの機能 (回線、スピードダイヤルなど) を使用するかを特定します。
[ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]	このグループのすべての UDP で使用されるソフトキー テンプレートを選択します。
[プライバシー (Privacy)]	ドロップダウンリストボックスから、このプロファイル用の適切なプライバシー オプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: 各デバイスのプライバシーを有効にします。 • [オン (On)]: 各デバイスのプライバシーを無効にします。 • [デフォルト (Default)]: デフォルトのプライバシー設定をデバイスに適用します。

フィールド	説明
[SUBSCRIBE コーリングサーチスペース (Subscribe Calling Search Space)]	プレゼンス機能で使用される SUBSCRIBE コーリングサーチスペースは、電話機から発信されたサブスクリプション要求を Cisco Unified Communications Manager がルーティングする方法を決定します。ドロップダウンリストボックスから、この目的に使用するコーリングサーチスペースを選択します。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	ドロップダウンリストボックスから、この UDP グループのプレゼンスグループを選択します。選択したグループは、この電話番号をモニタできるデバイス、エンドユーザ、アプリケーションユーザを指定します。
ワンボタン割り込み (Single Button Barge)	ドロップダウンリストボックスから、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)]を選択してサービスパラメータの設定を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: この設定は、ワンボタン割り込み/C割り込み機能を無効にします。ただし、通常の割り込みまたはC割り込み機能は引き続き動作します。 • [割り込 (Barge)]: この設定は、ワンボタン割り込み機能を有効にします。 • [C割り込 (cBarge)]: この設定は、ワンボタンC割り込み機能を有効にします。 • [デフォルト (Default)]: この設定は、サービスパラメータで指定されたワンボタン割り込み/C割り込み (Single Button Barge/cBarge) 設定を使用します。
[複数ライン同時通話 (Join Across Lines)]	ドロップダウンリストボックスから、このデバイスの「複数ライン同時通話」機能を有効または無効にするか、[デフォルト (Default)]を選択してサービスパラメータの設定を使用します。 <ul style="list-style-type: none"> • [オフ (Off)]: 複数ライン同時通話を無効にします。 • [オン (On)]: 複数ライン同時通話を有効にします。 • [デフォルト (Default)]: この設定は、サービスパラメータで構成されている「複数ライン同時通話」 (Join Across Lines) 設定を使用します。
[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]	ドロップダウンリストボックスから、[常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line)]の設定として次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン • 消灯 • デフォルト

フィールド	説明
ボイスメッセージに常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)	ドロップダウンリストボックスから、[ボイスメッセージには常にプライム回線を使用する (Always Use Prime Line for Voice Message)] の設定として次のいずれかの値を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • オン • 消灯 • デフォルト
[機能コントロール ポリシー (Feature Control Policy)]	ドロップダウンリストボックスから、この UDP グループの機能管理ポリシーを選択します。 機能管理ポリシーは、UDP に表示される機能とそれに関連するソフトキーの外観を指定します。
プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))	システムにプレゼンテーションインジケータを無視させる必要がある場合は、このチェックボックスをオンにします。
サイレント (Do Not Disturb)	DND機能を有効にするには、このチェックボックスをオンにします。
[DNDオプション (DND Option)]	ドロップダウンリストボックスから、DND のオプションとして次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • [呼出音オフ (Ringer Off)] • [コール拒否 (Call Reject)] • [共通の電話プロファイル設定を使用 (Use Common Phone Profile Setting)]
DND呼出音 (DND Incoming Call Alert)	ドロップダウンリストボックスから、次のいずれかのオプションを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • なし (None) • 無効にする (Disable) • [点滅アラートのみ (Flash Only)] • ビープ音のみ (Beep Only)
クラスタ間エクステンションモビリティの CSS (Extension Mobility Cross Cluster CSS)	ドロップダウンリストボックスから、この UDP グループ用の適切な設定を選択します。 クラスタ間エクステンションモビリティ CSS の設定は、ユーザが EMCC ログイン時にこのデバイスプロファイルを選択した場合に、リモート電話のデバイス CSS として使用されます。

フィールド	説明
[マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPPドメイン (MLPP Domain)]	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。この値は、空白または 0 ~ FFFFFFFF の値にする必要があります。
[MLPP通知 (MLPP Indication)]	<p>利用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスは MLPP 通知設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)]: このデバイスは MLPP 優先コールの通知を送信しません。 • [オン (On)]: このデバイスは MLPP 優先コールの通知を送信します。 <p>(注) デバイスの [MLPP通知 (MLPP Indication)] 設定が [オフ (Off)]、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が [強制 (Forceful)] という設定値の組み合わせは使用しないでください。</p>
[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイスで、MLPP 優先コールの発信時にこの機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに割り当てる設定として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスは MLPP プリエンプション設定をデバイス プールから継承します。 • [無効 (Disable)]: このデバイスは、MLPP 優先コールの発信時に進行中のコールをプリエンプション処理しません。 • [強制 (Forceful)]: このデバイスは、MLPP 優先コールの発信時に進行中のコールをプリエンプション処理します。 <p>(注) デバイスの [MLPP通知 (MLPP Indication)] 設定が [オフ (Off)]、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] 設定が [強制 (Forceful)] という設定値の組み合わせは使用しないでください。</p>
ログアウト (デフォルト) プロファイル情報 (Logged Out (Default) Profile Information)	

フィールド	説明
ログインユーザ ID (Login User ID)	ドロップダウンリスト ボックスから、UDP を更新する前にログアウトするユーザ ID を選択します。
IP Phone サービスの割り当て	
このテンプレートからすべてのサービスを追加 (Add All Services From This Template)	ドロップダウンリスト ボックスから、UDP の更新で使用するサービスのリストが含まれているテンプレートを選択します。 [IP Phone サービスの編集 (Edit IP Phone Service)] リンクをクリックして、このテンプレート内の登録済み Cisco Unified IP Phone サービスを更新できます。
重複の削除 (Remove Duplicate)	重複する IP Phone サービスを削除するには、このチェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにすると、重複するサービス登録が電話機およびユーザデバイスプロファイルから削除されます。IP システムは、IP サービス名に基づいてサービスを削除します。
ジョブ情報(Job Information)	
[ジョブの説明 (Job Description)]	ジョブに関する適切な説明を入力します。
今すぐ実行 (Run Immediately)	ユーザ デバイス プロファイルの更新ジョブをスケジュールして、ただちにアクティブ化するには、このオプション ボタンをクリックします。
あとで実行 (Run Later)	ユーザ デバイス プロファイルの更新ジョブをスケジュールして、後でアクティブ化するには、このオプション ボタンをクリックします。



第 43 章

ユーザ デバイス プロファイルの削除

この章では、ユーザデバイスプロファイル (UDP) のグループを Cisco Unified Communications Manager データベースから削除する方法について説明します。クエリ検索またはカスタムファイルのいずれかを使用して、削除する既存の電話機レコードを検索できます。

- [クエリを使用した UDP の削除 \(427 ページ\)](#)
- [カスタムファイルを使用した UDP の削除 \(429 ページ\)](#)
- [UDP の削除関連のトピック \(430 ページ\)](#)

クエリを使用した UDP の削除

Cisco Unified Communications Manager データベースから削除する対象となる UDP レコードを特定するために、クエリ フィルタを定義できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロファイル (User Device Profiles)] > [UDPの削除 (Delete UDP)] > [クエリ (Query)] の順に選択します。
[削除するデバイスプロファイルの検索/一覧表示 (Find and List Device Profiles To Delete)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索 (Find)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - ユーザ (users)
 - [自動生成 (Autogenerated)]
 - すべて (All)
- ステップ 3** 最初の [デバイス プロファイル (Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
 - プロファイル名 (Profile Name)
 - 説明
 - デバイスタイプ (Device Type)

- ステップ 4** 2 番目の [デバイスプロファイル (Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない
- ステップ 5** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- ヒント** データベースに登録されているすべての UDP を検索するには、検索テキストを何も入力せずに、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 6** さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(427 ページ\)](#) と [ステップ 5 \(428 ページ\)](#) を繰り返します。
- ステップ 7** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。
- デバイス プロファイル名
 - 説明
 - デバイスタイプ (Device Type)
 - [プロファイルタイプ (Profile Type)]
- ステップ 8** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 9** 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- a) すぐに UDP レコードを削除するには、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b) 後で UDP レコードを削除するには、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 10** 電話機レコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。
- 注意** クエリ テキスト ボックスに何も情報を入力しない場合、システムはすべての UDP レコードを削除します。削除アクションは不可逆なため、削除されたレコードを復元することはできません。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[UDP の削除関連のトピック](#) (430 ページ)

カスタム ファイルを使用した UDP の削除

テキストエディタを使用して、削除する UDP のカスタム ファイルを作成できます。同じカスタム ファイル内にデバイス プロファイル名、デバイス プロファイルの説明、および電話番号を含めることができますが、その同じファイルに電話番号を含めることはできません。別々のファイル (デバイス名と MAC アドレスを含む 1 つのファイル、および電話番号を含むもう 1 つのファイル) を作成する必要があります。



(注) カスタム ファイルを使用して、共有回線を使用する UDP を削除することはできません。



(注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のある UDP レコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。

始める前に

1. 削除する UDP に関する次のいずれかの詳細情報を列挙したテキスト ファイルを作成します。
 - プロファイル名
 - プロファイルの説明



(注) カスタムファイルでは見出しが不要で、名前、説明、または電話番号の値を入力できます。各アイテムをテキストファイル内の別々の行に配置します。

2. の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [ユーザデバイスプロファイルの削除 (Delete User Device Profiles)] > [カスタムファイル (Custom File)] の順に選択します。
[ユーザデバイスプロファイルの削除 (カスタム) (Delete User Device Profiles Custom Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [削除 (Delete)] をクリックします。

ステップ 3 [デバイス プロファイル (Device Profiles where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次の条件のいずれかから作成済みのカスタム ファイルのタイプを選択します。

- プロファイル名 (Profile Name)
- プロファイルの説明 (Profile Description)
- [電話番号 (Directory Number)]

ステップ 4 カスタム ファイルのリストで、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択して、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件と一致する UDP のリストが表示されます。

ステップ 5 UDP を削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [UDP の削除関連のトピック \(430 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

UDP の削除関連のトピック

- [クエリを使用した UDP の削除 \(427 ページ\)](#)
- [カスタム ファイルを使用した UDP の削除 \(429 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [TAPS の概要 \(741 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)



第 44 章

ユーザデバイスプロファイルのエクスポート

この章では、ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポートについて説明します。ユーザデバイスプロファイルレコードをエクスポートする際、次の2つのファイル形式名のいずれかを選択できます。

- [すべてのユーザデバイスプロファイルの詳細 (All User Device Profile Details)] : ユーザデバイスプロファイルに関連付けられている、すべての回線属性、サービス、およびユーザ ID をエクスポートする場合。
- [特定のユーザデバイスプロファイルの詳細 (Specific User Device Profile Details)] : ユーザデバイスプロファイルに関連付けられている、限られた詳細のセットをエクスポートする場合。
- [すべてのユーザデバイスプロファイルの詳細形式 \(431 ページ\)](#)
- [固有のユーザデバイスプロファイル形式 \(435 ページ\)](#)
- [ユーザデバイスプロファイルレコードのエクスポート \(436 ページ\)](#)

すべてのユーザデバイスプロファイルの詳細形式

電話によって回線設定（複数のパーティションやコールサーチスペースなど）が異なる場合は、すべてのユーザデバイスプロファイルの詳細形式を使用します。

次の表に、すべてのユーザデバイスプロファイルの詳細ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドを一覧します。

表 24: すべてのユーザ デバイス プロファイルの詳細ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドタイプ	エクスポートされたフィールド
デバイスフィールド	[ユーザ デバイスプロファイル名 (User Device Profile Name)]、[説明 (Description)]、[デバイスプール (Device Pool)]、[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]、[AAR コーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]、[ユーザ 保留音サービス (User Hold Audio Service)]、[ネットワーク 保留音源 (Network Hold Audio Source)]、[ログイン ユーザID (Login User ID)]、[ユーザロケール (User Locale)]、[ネットワークロケール (Network Locale)]、[電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]、[拡張モジュールタイプI (Expansion Module Type I)]、[拡張モジュールタイプII (Expansion Module Type II)]、[ソフトキーテンプレート (Softkey Template)]、[電話ロード名 (Phone Load Name)]、[モジュール1ロード名 (Module 1 Load Name)]、[モジュール2ロード名 (Module 2 Load Name)]、[MLPP 通知 (MLPP Indication)]、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]、[MLPPドメイン (MLPP Domain)]
モデル固有のデバイスフィールド	[情報 (Information)]、[ディレクトリ (Directory)]、[メッセージ (Messages)]、[サービス (Services)]、[認証サーバ (Authentication Server)]、[プロキシサーバ (Proxy Server)]、[アイドル (Idle)]、[アイドルタイマー (Idle Timer)]、[エクステンションモビリティの有効化 (Enable Extension Mobility)]、[ログアウトプロファイル (Logout Profile)]、[ログインユーザID (Login User ID)]、[ログイン時刻 (Login Time)]、[ログアウト時刻 (Logout Time)]

フィールドタイプ	エクスポートされたフィールド
回線フィールド	

フィールドタイプ	エクスポートされたフィールド
	<p>[電話番号 (Directory Number)]、[パーティション (Partition)]、[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]、[回線CSS (Line CSS)]、[AARグループ (AAR Group)]、[回線ユーザ保留音源 (Line User Hold Audio Source)]、[回線ネットワーク保留音源 (Line Network Hold Audio Source)]、[自動応答 (Auto Answer)]、[ボイスメールへの不在転送 (Forward All to Voice Mail)]、[不在転送の接続先 (Forward All Destination)]、[不在転送 CSS (Forward All CSS)]、[ボイスメールへの話中転送 (Forward Busy External to Voice Mail)]、[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy External Destination)]、[話中転送 (外部) CSS (Forward Busy External CSS)]、[ボイスメールへの無応答時転送 (外部) (Forward No Answer External to Voice Mail)]、[無応答時転送の接続先 (外部) (Forward No Answer External Destination)]、[無応答時転送 (外部) CSS (Forward No Answer External CSS)]、[ボイスメールへの失敗時転送 (Forward On Failure to Voice Mail)]、[失敗時転送の接続先 (Forward On Failure Destination)]、[失敗時転送 CSS (Forward on Failure CSS)]、[コールピックアップグループ (Call pickup group)]、[ボイスメールへの話中転送 (内部) (Forward Busy Internal to Voice Mail)]、[話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Internal Destination)]、[話中転送 (内部) CSS (Forward Busy Internal CSS)]、[ボイスメールへの無応答時転送 (内部) (Forward No Answer Internal to Voice Mail)]、[無応答時転送の接続先 (内部) (Forward No Answer Internal Destination)]、[無応答時転送 (内部) CSS (Forward No Answer Internal CSS)]、[ボイスメールへのコール 無カバレッジ時転送 (外部) (Forward No Call Coverage External to Voice Mail)]、[コール無カバレッジ時転送の接続先 (外部) (Forward No Call Coverage External Destination)]、[コール無カバレッジ時転送 (外部) CSS (Forward No Call Coverage External CSS)]、[ボイスメールへのコール 無カバレッジ時転送 (内部) (Forward No Call Coverage Internal to Voice Mail)]、[コール 無カバレッジ時転送の接続先 (内部) (Forward No Call Coverage Internal Destination)]、[コール 無カバレッジ時転送 (内部) CSS (Forward No Call Coverage Internal CSS)]、[表示 (Display)]、[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]、[メッセージ受信ランプ ポリシー (Message Waiting Lamp Policy)]、[電</p>

フィールド タイプ	エクスポートされたフィールド
	話機がアイドルのときの呼出音設定 (Ring Setting When Idle)]、[回線のテキストラベル (Line Text Label)]、[電話使用時の呼出音設定 (Ring Setting When Active)]、[無応答時の呼び出し時間 (No Answer Ring Duration)]、[MLPP ターゲット接続先 (MLPP Target Destination)]、[MLPP コーリングサーチスペース (MLPP Calling Search Space)]、[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration)]、[コール最大数 (Max Num Calls)]、[話中トリガー (Busy Trigger)]、[コール情報表示マスク (Call Info Display Mask)]、[呼び出し表示 (Alerting Name)]
ユーザ フィールド	[ユーザ ID (User ID)]
[短縮ダイヤル (Speed Dials)]	[短縮ダイヤル番号 (Speed Dial Number)]、[短縮ダイヤルラベル (Speed Dial Label)]
サービス (Services)	[サービス名 (Service Name)]、[登録済みサービス名 (Subscribed Service Name)]、[パラメータ名 (Parameter Name)]、[パラメータ値 (Parameter Value)]

固有のユーザ デバイス プロファイル形式

ユーザ デバイス プロファイルに関連付けられている詳細の限定セットをエクスポートするには、デフォルトのユーザ デバイス プロファイル形式を使用します。特定のクエリ オプションを選択して、エクスポート ファイルをカスタマイズすることもできます。

次の表に、デフォルトのユーザ デバイス プロファイル形式を選択するときのエクスポートできるフィールドの一覧を示します。

表 25: デフォルトのユーザ デバイス プロファイル ファイル形式に含まれるエクスポートされたフィールド

フィールド タイプ	エクスポートされたフィールド
デバイスフィールド	MAC アドレス、説明、ログイン ユーザ ID
回線フィールド	ディレクトリ番号、表示、回線のテキストラベル、話中転送 (外部)、話中転送 (内部)、無応答時転送 (外部)、無応答時転送 (内部)、無カバレッジ時転送 (外部)、無カバレッジ時転送 (内部)、コールピックアップグループ

ユーザ デバイス プロファイル レコードのエクスポート

Cisco Unified Communications Manager からユーザ デバイス プロファイル をエクスポート できます。

手順

ステップ 1 次のいずれかのオプションを選択します。

- a) [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [ユーザ デバイス プロファイル のエクスポート (Export User Device Profiles)] > [固有の詳細 (Specific Details)] の順に選択します。
[エクスポート するユーザ デバイス プロファイル の検索/一覧表示 (Find and List User Device Profiles To Export)] ウィンドウが表示されます。
- b) [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [ユーザ デバイス プロファイル のエクスポート (Export User Device Profiles)] > [すべての詳細 (All Details)] の順に選択します。
[ユーザ デバイス プロファイル のエクスポート (Export User Device Profiles Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [すべての詳細 (All Details)] オプションでは、[デバイス タイプ (Device Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、デバイスのタイプまたは特定のモデルを選択します。 [ステップ 4 \(437 ページ\)](#) にスキップします。

ステップ 3 [固有の詳細 (Specific Details)] オプションでは、エクスポート ファイル をカスタマイズして、次の任意の詳細オプションを設定できます。

- a) ドロップダウン リスト ボックスから、[デバイス タイプ (Device Type)] と [デバイス プロトコル (Device Protocol)] を選択します。
- b) 最初目の [ユーザ デバイス プロファイル の検索 (Find a User Device Profile)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から選択します。
 - プロファイル名 (Profile Name)
 - プロファイルの説明 (Profile Description)
- c) 2 番目のドロップダウン リスト ボックスでは、次のオプションの中から選択します。
 - ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない

- d) [検索 (Search)] フィールド ボックスに、特定のプロファイルの名前や説明などの検索する値を入力します。
- e) さらにクエリを定義するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにし、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、[3.b \(436 ページ\)](#) ~ [3.d \(437 ページ\)](#) を繰り返します。
- f) [検索 (Find)] をクリックします。検索結果が表示されます。
- g) [次へ (Next)] をクリックします。
- h) [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスからファイル形式を選択します。

ステップ 4 [ファイル名 (File Name)] フィールドに、使用するファイル名を入力します。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 エクスポート方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにユーザ デバイス プロファイルをエクスポートする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でユーザ デバイス プロファイルをエクスポートする場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 ユーザ デバイス プロファイルをエクスポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 45 章

デバイス プロファイルおよびユーザ デバイス プロファイルの回線属性の更新

この章では、クエリを使用して、デバイスの回線およびユーザ デバイス プロファイルの回線を更新する方法について説明します。

- [デバイスおよび UDP 回線の更新 \(439 ページ\)](#)
- [クエリを使用したデバイスおよび UDP 回線の更新 \(439 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルの回線更新関連のトピック \(442 ページ\)](#)

デバイスおよび UDP 回線の更新

クエリを使用して、デバイスおよびユーザ デバイス プロファイルの回線を更新できます。特定のデバイスまたはユーザ デバイス プロファイルのグループの回線属性を更新するには、[回線の更新 (Update Lines)] オプションを使用します。電話およびユーザ デバイス プロファイルの両方がクエリ結果に含まれる場合、それらの回線が同時に更新されます。



ヒント 電話が Cisco Unified Communications Manager データベースから削除された場合、その電話番号はデータベース内に残ります。これらの孤立した電話番号を管理するには、[回線の更新 (Update Lines)] オプションを使って未割り当ての電話番号を検索し、これらの電話番号を削除したり更新したりできます。

クエリを使用したデバイスおよび UDP 回線の更新

クエリを使用して、デバイスおよびユーザ デバイス プロファイルの回線を更新します。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [回線の追加/更新 (Add/Update Lines)] > [回線の更新 (Update Lines)] の順に選択します。
[回線更新クエリ (Update Lines Query)] ウィンドウが表示されます。

(注) クエリを指定しない場合、すべての回線を更新できます。2 にスキップします。

ステップ 2 最初の [回線の検索 (Find Line where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [電話番号 (Directory Number)]
- [ルート パターン (Route Pattern)]
- [回線の説明 (Line Description)]
- [コーリングサーチスペース (電話機) (Calling Search Space (Phone))]
- Calling Search Space (Line)
- [デバイス プール (Device Pool)]
- Device Description
- Line Position
- 未割り当ての DN
- コール ピックアップ グループ

(注) 孤立した電話番号を特定して削除するには、[未定義の DN (Unassigned DN)] 「」を使用します。

ステップ 3 2 番目の [回線の検索 (Find Line where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 [検索 (Search)] フィールド リスト ボックスで、特定する値を選択または入力します。

たとえば、リストから [回線パーティション (Line Partition)] を選択することも、電話番号の範囲を入力することもできます。

ヒント データベースに登録されているすべての回線を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2](#) と [ステップ 3](#) を繰り返します。

ステップ 6 影響を受けるレコードを表示するには、[検索 (Find)] をクリックします。
検出された回線のリストが次の分類で表示されます。

- パターン/電話番号
- パーティション (Partition)
- 説明

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。
[回線の更新 (Update Lines)] ダイアログボックスの一番上に、選択したクエリのタイプが表示されます。

ヒント クエリのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)] をクリックします。

ステップ 8 クエリの中で定義したすべてのレコードを対象として更新する設定値を指定します。更新する複数のパラメータを選択できます。フィールドの説明については、「[BAT テンプレートの電話回線フィールドの説明 \(88 ページ\)](#)」を参照してください。

(注) いくつかのフィールドでは、Cisco Unified Communications Manager からの値が表示されます。これらの値は、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して設定する必要があります。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに回線を挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で回線を挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 11 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

(注) 回線レコードに関するいずれかの情報に問題がある場合、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) はその回線レコードを更新しません。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[ユーザ デバイス プロファイルの回線更新関連のトピック](#) (442 ページ)

ユーザ デバイス プロファイルの回線更新関連のトピック

- [クエリを使用したデバイスおよび UDP 回線の更新](#) (439 ページ)
- [BAT テンプレートの電話回線フィールドの説明](#) (88 ページ)
- [スケジュールしたジョブの管理](#) (759 ページ)
- [BAT ログ ファイル](#) (771 ページ)



第 46 章

UDP 回線の追加

この章では、既存のユーザ デバイス プロファイルのグループに回線を追加する方法について説明します。BAT テンプレートを 사용하여 新しい回線を追加する場合、電話サービスもスピードダイヤルも変更できません。Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) では、既存のデバイスに回線を追加する際、BAT テンプレート内のそれらのフィールドを無視します。

- [既存の UDP への回線の追加 \(443 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加 \(444 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートの UDP 回線フィールドの説明 \(446 ページ\)](#)
- [UDP 回線の追加関連のトピック \(450 ページ\)](#)

既存の UDP への回線の追加

CSV データ ファイルを使用して、既存のユーザ デバイス プロファイルに回線を追加できます。Cisco Unified Communications Manager の一括管理 (BAT) では、既存デバイスに回線を追加しても、電話サービスおよび短縮ダイヤルへの変更は無視されます。

始める前に

- このトランザクション用の BAT テンプレートを用意しておく必要があります。
- このトランザクション用の CSV データ ファイルを用意しておく必要があります。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザー デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [回線の追加/更新 (Add/Update Lines)] > [回線の追加 (Add Lines)] の順に選択します。
[UDP 回線の追加設定 (UDP Add Lines Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。

- ステップ 3** テンプレートで既存の電話機の電話設定を変更する場合、[既存の電話ボタンテンプレートの更新 (Update the existing phone button template)] チェックボックスをオンにしますこのチェックボックスがオンになっている場合は、ユーザ デバイス プロファイル情報も更新されます。
- ステップ 4** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドで、この一括トランザクションで使用するユーザ デバイス プロファイルテンプレートを選択します。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- すぐに電話機レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - 後で電話機レコードを挿入する場合は、[あとで実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** 電話機レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールおよび/またはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(34 ページ\)](#)

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成 \(374 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[UDP 回線の追加関連のトピック \(450 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加

- このトランザクション用の BAT テンプレートを用意しておく必要があります。
- このトランザクション用の CSV データ ファイルを用意しておく必要があります。

既存の UDP に回線を追加するため、BAT スプレッドシートを使用して CSV データ ファイルを作成します。Cisco Unified Communications Manager の一括管理 (BAT) では、既存デバイスに回線を追加する際、テンプレート内の電話サービスおよび短縮ダイヤルのフィールドへの変更は無視されます。

BAT スプレッドシートのフィールドの編集を完了した後、その内容を CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。エクスポートされた CSV 形式のデータファイルには、次のようなデフォルトのファイル名が割り当てられます。

```
<tabname>-<timestamp>.txt
```

ここで、<tabname> は、作成した入力ファイルのタイプ（UDP など）を表し、<timestamp> はファイルが作成された正確な日時を表します。



- (注) いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールド エントリを二重引用符で囲みます。

スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱いません。空の行より後に入力されたデータは BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** フィールドを表示するには、スプレッドシートの下部にある [回線の追加 (Add Lines)] タブをクリックします。
- ステップ 4** 以下のオプションから適切なラジオ ボタンを選択します。
- 電話
 - UDP
- ステップ 5** スプレッドシートで、各回線の個々のデバイス プロファイルについてデータを入力します。すべての必須フィールドと関連するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しではフィールドの長さが指定され、また必須であるか、オプションであるかも指定されます。フィールドの説明については、「[表 26 : BAT スプレッドシートを使用して UDP に回線を追加する場合のフィールドの説明 \(446 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 6** BAT Excel スプレッドシートから CSV 形式のデータ ファイルにデータを移すには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。
- ヒント** エクスポートされた CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT の [電話の挿入 (Insert Phones)] ウィンドウにある [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

システムは、デフォルトの名前 <tabname>-<timestamp>.txt を使用して C:\XLSDataFiles\ にファイルを保存します。または、[参照 (Browse)] を使用して、ローカルワークステーションの別の既存のフォルダにファイルを保存することもできます。

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

関連トピック

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新](#) (34 ページ)

[BAT ログ ファイル](#) (771 ページ)

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)

[BAT スプレッドシートを使用したユーザ デバイス プロファイル CSV データ ファイルの作成](#) (374 ページ)

[スケジュールしたジョブの管理](#) (759 ページ)

[UDP 回線の追加関連のトピック](#) (450 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

BAT スプレッドシートの UDP 回線フィールドの説明

次の表で、BAT スプレッドシートを使用して UDP に回線を追加するときのフィールドについて説明します。

表 26: BAT スプレッドシートを使用して UDP に回線を追加する場合のフィールドの説明

フィールド	説明
MAC アドレス/デバイス名 (MAC Address/Device Name)	電話機、VGC 仮想電話機、VGC Phone の MAC アドレスを入力します。CTI ポートおよび H.323 クライアントの固有 ID を入力します。UDP のデバイス名を入力します。
回線インデックス (Line Index)	電話の回線インデックスを表す数字 (1 ~ 34) を入力します。
[電話番号 (Directory Number)]	この回線の電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。
ディスプレイ (Display)	コールの着信側の電話機ディスプレイに表示するテキストを入力します (たとえばユーザ名「John Smith」や電話機の設置場所「Conference Room 1」など)。 (注) このフィールドを空白のままにすると、[電話番号 (Directory Number)] フィールドに入力された値が使用されます。 (注) デフォルトの言語として英語が指定されています。
[回線テキスト ラベル (Line Text Label)]	回線と電話の組み合わせについて、この電話番号を特定するテキストを入力します。 (注) デフォルトでは英語が指定されています。

フィールド	説明
[話中転送 (外部) (Forward Busy External)]	<p>回線が使用中のときに、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (外部) (Forward No Answer External)]	<p>電話機が応答しない場合に、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[カバレッジ無し時転送 (外部) (Forward No Coverage External)]	<p>電話機のカバレッジがない場合に、外線番号から着信したコールの転送先となる電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[話中転送 (内部) (Forward Busy Internal)]	<p>回線が使用中のときに、内部番号から発信されたコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
[無応答時転送 (内部) (Forward No Answer Internal)]	<p>電話機が応答しないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>
カバレッジ無し時転送 (内部) (Forward No Coverage Internal)	<p>電話機にカバレッジがないときに、内部番号からのコールの転送先とする電話番号またはディレクトリ URI を入力します。</p> <p>(注) この設定は、外部の接続先 (制限されていない場合) を含め、ダイヤル可能なすべての電話番号と、この電話番号を使用するすべてのデバイスに適用されます。</p>

フィールド	説明
[パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)]	<p>パーティ参加トーンに関する次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : [パーティ参加トーン (Party Entrance Tone)] サービス パラメータに設定された値を使用します。 • [オン (On)] : 基本コールがマルチパーティ コール (つまり割り込みコール、C 割り込みコール、アドホック会議、ミーティング会議、参加コール) に変更されるときに、電話でトーンが再生されます。さらに、いずれかの通話者がマルチパーティ コールを離れると、別のトーンが再生されます。制御デバイス (つまりマルチパーティ コールの発信元) にビルトインブリッジがある場合、制御デバイスで [オン (On)] を選択すると、すべての通話参加者に対してトーンが再生されます。制御デバイス (会議コントローラなど) がコールに残っていない場合や、制御デバイスがトーンを再生できない場合には、[オン (On)] を選択してもトーンが再生されません。 • [オフ (Off)] : 基本コールがマルチパーティ コールに変更されたときに、電話でトーンが再生されません。
パーク モニタリング 転送非取得時の接続先 (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve Ext Destination)	<p>パークされている側が外部である場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] パラメータで指定された接続先にコールが転送されます。[未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (外部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination External)] フィールドの値が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>
パーク モニタリング 転送非取得時の接続先 (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Int Destination)	<p>パークされている側が内部である場合、パークしたユーザの [未取得時のパーク モニタリング転送の接続先 (内部) (Park Monitoring Forward No Retrieve Destination Internal)] が空の場合、パークされた側のコールはパークしたユーザの回線にリダイレクトされます。</p>
パーク モニタリング 転送非取得時のボイス メール (内部) (Park Monitor Forward No Retrieve Int Voice Mail)	<p>この設定には [ボイス メール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>この設定を使用すると、Cisco Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。</p>
パーク モニタリング 転送非取得時のボイス メール (外部) (Park Monitor Forward No Retrieve Ext Voice Mail)	<p>この設定には、[ボイス メール プロファイルの設定 (Voice Mail Profile Configuration)] ウィンドウの設定が使用されます。</p> <p>この設定を使用すると、Cisco Unified Communications Manager は [接続先 (Destination)] ボックスと [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)] の設定を無視します。</p>

フィールド	説明
パークモニタリング 転送非取得時のコー リングサーチスペ ス（外部）（Park Monitor Forward No Retrieve Ext CSS）	その電話番号に適用するコーリング サーチ スペースを選択します。
パークモニタリング 転送非取得時のコー リングサーチスペ ス（内部）（Park Monitor Forward No Retrieve Int CSS）	その電話番号に適用するコーリング サーチ スペースを選択します。
[パークモニタリング 復帰タイマー（Park Monitor Reversion Timer）]	このパラメータは、ユーザがパークしたコールを取得するよう同じユーザに促すまでに Cisco Unified Communications Manager が待機する秒数を決定します。このタイマーが開始するのは、ユーザが電話機の[パーク（Park）]ソフトキーを押したときです。タイマーが時間切れになるとアラームが鳴ります。 デフォルト：60 秒 0以外の値を設定すると、[サービスパラメータ（Service Parameters）]ウィンドウで設定されたこのパラメータの値が、この値でオーバーライドされます。ただし、ここで値 0 を設定すると、[サービスパラメータ（Service Parameters）]ウィンドウの値が使用されます。
不在着信のログを取 る（Log Missed Calls）	このフィールドを使用して、この機能をオンまたはオフにすることができます。Cisco Unified Communications Manager が電話機のその電話番号に関するコール履歴に不在着信を記録できるようにするには、「T」を入力します。この機能を無効にするには「F」と入力します。
[コール ピックアッ プグループ（Call Pickup Group）]	ピックアップグループ名を入力して、コール ピックアップグループを指定します。このグループは、適切なピックアップグループ番号をダイヤルすることで、この回線への着信コールに応答できます。

フィールド	説明
電話番号の URI (1-5) (URI (1-5) on Directory Number)	<p>この電話機の電話番号に関連付けるディレクトリ URI を入力します。username@host の形式で入力してください。最大 47 文字の英数字からなるユーザ名を入力します。ホストアドレスには、IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名を入力します。</p> <p>(注) Cisco Unified CM の管理ページで、二重引用符またはコンマが組み込まれた複数の URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符やコンマが組み込まれたディレクトリ URI を含む csv ファイルをインポートする場合には、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲み、組み込まれた二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared, "Jerry",Smith@test.com」というディレクトリ URI は、csv ファイルでは"Jared, ""Jerry"",Smith@test.com" と入力する必要があります。</p>
[電話番号の URI (1-5) ルートパーティション (URI (1-5) Route Partition on Directory Number)]	ディレクトリ URI が属するルートパーティションを入力します。ディレクトリ URI へのアクセスを制限しない場合は、このフィールドを空白のままにします。
電話番号の URI (1-5) をプライマリにする (URI (1-5) Is Primary on Directory Number)	<p>このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定するには、「t」 (True) と入力します。このディレクトリ URI をこの内線番号のプライマリディレクトリ URI として指定しない場合は、「f」 (False) と入力します。</p> <p>(注) 1 つの電話番号に最大 5 つのディレクトリ URI を関連付けることができますが、1 つのプライマリディレクトリ URI を選択する必要があります。</p>

UDP 回線の追加関連のトピック

- [既存の UDP への回線の追加 \(443 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した既存の UDP への回線の追加 \(444 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートの UDP 回線フィールドの説明 \(446 ページ\)](#)
- [BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(34 ページ\)](#)



第 47 章

UDP レポートの生成

この章では、ユーザ デバイス プロファイル レポートの作成および保存について説明します。これらのレポートにファイル名を付けて、最初のノードサーバ上のフォルダ内に格納することにより、確認と印刷ができます。

- [BAT レポートの生成 \(451 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル レポートの生成 \(452 ページ\)](#)
- [UDP レポートの生成関連のトピック \(454 ページ\)](#)

BAT レポートの生成

Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) が生成するレポートを使用することで、レコードを効果的に管理できます。電話、ユーザ、デバイス プロファイル、マネージャとアシスタント、およびゲートウェイ レコードに関する情報を提供するレポートを作成し、保存することができます。

電話またはユーザ デバイス プロファイルに関する BAT レポートは、デバイス フィールドおよび回線 フィールドのリストから項目を選択することで、特定のニーズに合わせてカスタマイズできます。また、レポート内のフィールドの配置方法も選択できます。レポートは、CSV ファイル形式で生成されます。これらのレポートは、確認および印刷するために、ファイル名を付けて保存し、最初のノードサーバ上のフォルダ内に格納することができます。



(注) ユーザ、マネージャ、アシスタント、およびゲートウェイに関するレポート形式は固定されているため、これらのレポートをカスタマイズすることはできません。

例

すべての電話番号とそれぞれの電話機モデル別の転送先のリストが必要だとします。その場合、Cisco Unified IP Phone モデル 7960 の電話レポートを生成し、クエリ詳細としてデバイス名、電話番号、話中転送先、無応答時転送、およびラベルを選択します。[電話番号 (Directory Number)] フィールド、[ラベル (Label)] フィールド、その後に2つの転送先番号が続くようにレポートのフィールドを配置できます。

ユーザ デバイス プロファイル レポートの生成

BATを使用して、ユーザデバイスプロフィール（UDP）に関するレポートを生成します。UDPに関するレポートの形式はカスタマイズできません。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイスプロフィール (User Device Profiles)] > [UDPレポートの作成 (Generate UDP Reports)] の順に選択します。
- ステップ 2** [検索 (Find)] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。
- ユーザー (users)
 - [自動生成 (Autogenerated)]
 - すべて (All)
- ステップ 3** 最初の [デバイス プロファイル (Device Profiles where)] ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。
- プロファイル名
 - 説明
 - デバイスタイプ (Device Type)
- ステップ 4** 2番目の [デバイスプロフィール (Device Profiles where)] ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる
 - 空である
 - ~が空ではない
- ステップ 5** 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ヒント** データベースに登録されているすべての UDP を検索するには、検索テキストを何も入力せずに、[検索 (Find)] をクリックします。
- 検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。
- 名前

- 説明
- デバイスタイプ (Device Type)
- [プロファイル タイプ (Profile Type)]

(注) さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、**[絞り込み (Search Within Results)]**チェックボックスをオンにして、ドロップダウンから**[AND]**または**[OR]**を選択し、**ステップ 2 (452 ページ)** と **ステップ 5 (452 ページ)** を繰り返します。

ステップ 6 [次へ (Next)]をクリックして、レポートのタイプに関する詳細を選択します。

[デバイス プロファイル レポートの設定 (Device Profile Report Configuration)]ウィンドウが開いて、選択したクエリが表示されます。

ヒント クエリのタイプを変更するには、**[戻る (Back)]**をクリックします。

ステップ 7 [レポートファイル名 (Report File Name)]フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

ステップ 8 [使用可能なデバイスフィールド (Available Device Fields)]ドロップダウンリストで、デバイスアイテムを選択して矢印をクリックすると、そのアイテムをこのレポートリストの**[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)]**に移動します。レポートに含める1つ以上のフィールドを選択できます。

デバイス フィールドと回線フィールドのリストについては、「**電話および IP テレフォニー デバイス レポート (235 ページ)**」を参照してください。

ヒント このレポートリストの**[選択済みのフィールド (Selected Fields)]**内でアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択して上矢印または下矢印をクリックすると、そのアイテムがリスト内の別の位置に移動します。

ステップ 9 [使用可能な回線フィールド (Available Line Fields)]ドロップダウンリストで、回線アイテムを選択して矢印をクリックすると、そのアイテムがこの**[レポート (Report)]**リストの**[選択済みのフィールド (Selected Fields)]**に移動します。レポートに含める1つ以上のフィールドを選択できます。

ヒント このレポートリストの**[選択済みのフィールド (Selected Fields)]**内でアイテムの順序を変更するには、アイテムを選択して上矢印または下矢印をクリックすると、そのアイテムがリスト内の別の位置に移動します。

(注) レポートを生成するには、少なくとも1つのデバイスフィールドまたは回線フィールドを指定する必要があります。

ステップ 10 [追加の IP サービス フィールド (Additional IP Services Fields)]領域で、必要に応じて短縮ダイヤル サービスまたは IP 電話サービス用のチェックボックスをオンにします。

ステップ 11 [ジョブ情報 (Job Information)]領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 12 レポートの生成方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにレポートを生成する場合は、**[今すぐ実行 (Run Immediately)]**をクリックします。
- b) 後でレポートを生成する場合は、**[後で実行 (Run Later)]**をクリックします。

ステップ 13 UDPに関するレポートを生成するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

次のタスク

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用してレポートファイルを検索し、ダウンロードすることができます。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [UDP レポートの生成関連のトピック \(454 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

UDP レポートの生成関連のトピック

- [ユーザ デバイス プロファイル レポートの生成 \(452 ページ\)](#)
- [電話および IP テレフォニー デバイス レポート \(235 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)



第 48 章

UDP のインターコム DN の追加および更新

この章では、[インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)]ユーティリティを使用して、Cisco Unified Communications Manager サーバ内のユーザデバイス プロファイルのインターコムの一括の追加または更新を行う方法について説明します。

インターコム機能を使用すると、特定のユーザから別のユーザにコールを発信でき、着信側がビジュー状態かアイドル状態かに関係なく、そのコールは発信側から着信側への一方向メディアで自動的に応答されます。

- [ユーザ デバイス プロファイルのインターコム DN の更新 \(455 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルへのインターコム DN の追加 \(456 ページ\)](#)
- [UDP のインターコム DN 更新フィールドの説明 \(457 ページ\)](#)

ユーザ デバイス プロファイルのインターコム DN の更新

BAT を使用して、ユーザ デバイス プロファイルのインターコムDNを更新します。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザデバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] > [インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Numbers)] の順に選択します。

[インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されません。

ステップ 2 最初の [更新するインターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers To Update where)] ドロップダウンリスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- [インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)]
- [ルート パーティション (Route Partition)]
- 説明

ステップ 3 2 番目の [更新するインターコム電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Intercom Directory Numbers To Update where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- ~が次の文字列で終わる
- 次の文字列と完全に一致する
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて、テキストフィールドに適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべてのインターコム DN を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

さらにクエリを定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2](#) と [ステップ 3](#) を繰り返します。

検出されたインターコム DN のリストが次の分類で表示されます。

- Intercom DN Pattern
- [ルートパーティション (Route Partition)]
- 説明

ステップ 5 [次へ (Next)] をクリックします。次の [インターコム電話番号の更新 (Update Intercom Directory Number)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 6 クエリで定義したすべてのレコードを対象として更新する設定値を指定します。更新する複数のパラメータを選択できます。パラメータの説明については、[UDP のインターコム DN 更新フィールドの説明 \(457 ページ\)](#) を参照してください。

ユーザ デバイス プロファイルへのインターコム DN の追加

CSV データ ファイルを使用して、Cisco Unified Communications Manager サーバのユーザ デバイス プロファイルにインターコム DN を追加できます。

始める前に

- UDP またはその他の IP テレフォニー デバイス 固有の詳細を含むデータ ファイルをカンマ区切り値 (CSV) 形式で作成する必要があります。
- 関連するターゲットやトランザクションの機能を選択することによって、データ ファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ユーザ デバイス プロファイル (User Device Profiles)] > [インターコムの追加/更新 (Add/Update Intercom)] > [インターコム電話番号の追加 (Add Intercom Directory Numbers)] の順に選択します。
[UDPインターコムDN一括挿入 (Bulk UDP Intercom DN Insert)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (FileName)] ドロップダウンリストボックスで、この特定の一括トランザクションのために作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ユーザ デバイス プロファイル テンプレート名 (User Device Profile Template Name)] ドロップダウンリストボックスで、このタイプの一括トランザクションのために作成した BAT UDP テンプレートを選択します。
- ステップ 4** 挿入するファイルに含まれる情報で既存の UDP テンプレート設定を更新する場合は、[構成時の設定のオーバーライド (Override Configuration Settings)] チェックボックスをオンにします。オプションとして、構成時の設定をオーバーロードすることを検討してください。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
このトランザクションに関するデフォルトのジョブの説明では、インターコム DN の挿入が指定されています。
- ステップ 6** インターコム DN を追加するタイミングを選択します。次のいずれかを実行します。
- インターコム DN をすぐに追加する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - インターコム DN を後で追加する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7** インターコム DN を追加するジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブにします。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

UDP のインターコム DN 更新フィールドの説明

次の表では、ユーザ デバイス プロファイルの回線の詳細情報を更新するためのフィールドについて説明します。

表 27: UDP のインターコム DN 詳細を更新するためのフィールドの説明

フィールド	説明
[インターコム電話番号情報 (Intercom Directory Number Information)]	

フィールド	説明
[ルートパーティション (Route Partition)]	電話番号が属しているルートパーティションを選択します。 (注) この電話番号は、複数のパーティションで表示される可能性があります。
説明	デバイスの識別に役立つ説明を入力します。
[呼び出し表示 (Alerting Name)]	この名前は、共有電話番号への呼び出し中に表示される名前を表します。共有電話番号以外の番号の場合、呼び出し時には、[表示 (Display)] フィールドに入力された名前が使用されません。
[ASCII 呼び出し表示 (ASCII Alerting Name)]	このフィールドは [呼び出し表示 (Alerting Name)] フィールドと同じ情報を指定しますが、入力できるのは ASCII 文字だけです。Unicode (国際化) 文字をサポートしていないデバイスでは、[ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)] フィールドの内容が表示されます。
インターコム電話番号の設定	
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	この UDP/ポートのグループが属するコーリングサーチスペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。
[プレゼンスグループ (Presence Group)]	プレゼンス機能と共に使用される SIP または SCCP デバイスは、デバイスの BLF スピードダイヤルボタンとして設定されている電話番号などのプレゼンス エンティティのステータスを要求することで、ウォッチャとして機能します。 プレゼンス エンティティのステータスをデバイスで受信できるようにするには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスを閲覧できるプレゼンスグループを選択します (これは [Presence Group Configuration (プレゼンスグループの設定)] ウィンドウで指定されています)。



第 **VIII** 部

ゲートウェイ

- [ゲートウェイ テンプレート](#) (461 ページ)
- [ゲートウェイ ファイル形式](#) (541 ページ)
- [ゲートウェイの挿入](#) (547 ページ)
- [Cisco ゲートウェイの削除](#) (579 ページ)
- [Cisco ゲートウェイ レポートの生成](#) (583 ページ)



第 49 章

ゲートウェイ テンプレート

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースでの既存の Cisco ゲートウェイとポートを追加および更新する方法について説明します。

- [Cisco ゲートウェイの追加 \(461 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(469 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの追加または編集 \(471 ページ\)](#)
- [ゲートウェイの設定項目 \(487 ページ\)](#)
- [ポートの構成時の設定 \(533 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

Cisco ゲートウェイの追加

BAT を使用して、Cisco ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに一括して追加することができます。

関連トピック

- [BAT を使用した Cisco VG200 ゲートウェイの追加 \(461 ページ\)](#)
- [BAT を使用した Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイおよびポートの追加 \(462 ページ\)](#)
- [BAT を使用した Cisco VG224 ゲートウェイの追加 \(463 ページ\)](#)
- [BAT を使用した Cisco VG202 および Cisco VG204 ゲートウェイの追加 \(464 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

BAT を使用した Cisco VG200 ゲートウェイの追加

BAT を使用して Cisco VG200 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する際に、以下のタイプのトランクやポートを設定できます。

- アナログ デバイスの Foreign Exchange Station (FXS) ポート

- ループスタート トランクまたはグラウンドスタート トランク用の Foreign Exchange Office (FXO)
- ISDN サービス用の T1 一次群速度インターフェイス (PRI) トランク (北米)。現在 Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用可能です。
- ISDN サービス用の T1 一次群速度インターフェイス (PRI) トランク (欧州)。現在 Cisco VG200 ゲートウェイにのみ使用可能です。
- デジタル アクセス T1 ポート トランク

始める前に

VG200 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(472 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データ ファイルを作成します。「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データファイルの作成 \(547 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

BAT を使用した Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイおよびポートの追加

BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco Catalyst 6000 (FXS) を追加できます。アナログデバイス用に Cisco Catalyst 6000 (FXS) アナログインターフェイスモジュールに FXS ポートを追加することもできます。これらのポートを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、ゲートウェイ電話番号テンプレートを設定し、これらの FXS ポートおよび Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートと関連付ける必要があります。

始める前に

BAT を使用してアナログ インターフェイス モジュールの FXS ポートを追加するには、その前に以下のタスクを実行して Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイをインストールしておく必要があります。

1. Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイスを使用してゲートウェイを設定します。設定手順については、ゲートウェイに付属のドキュメントを参照してください。
2. Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイを追加します。Cisco Unified Communications Manager Administration で、[デバイス (Device)] > [ゲートウェイ (Gateway)] を選択し、[新規追加 (Add New)] を選択します。[Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway] とデバイス プロトコルを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

手順

- ステップ 1 Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートを作成します。[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイ テンプレートの作成 \(477 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 2 一連の FXS ポートに対して共通の値を定義するには、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成します。[FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(504 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 3 追加する FXS ポートに対して個別の値を設定するには、CSV データ ファイルを作成します。[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用の CSV データ ファイルの作成 \(550 ページ\)](#) を参照してください。
- ステップ 4 Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#) を参照してください。

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

BAT を使用した Cisco VG224 ゲートウェイの追加

BAT を使用して Cisco VG224 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する際に、以下のタイプのトランクやポートを設定できます。

- アナログ デバイスの Foreign Exchange Station (FXS) ポート

始める前に

VG224 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイ

イを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(478 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データ ファイルを作成します。「[Cisco VG224 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(551 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

BAT を使用した Cisco VG202 および Cisco VG204 ゲートウェイの追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

VG202 または VG204 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、シスコ ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(480 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データ ファイルを作成します。「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成 \(554 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。
-

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック](#) (538 ページ)

Cisco VG310 Gateway テンプレートの追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG310 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco VG310 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG310 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG310 Gateway テンプレートの作成 \(483 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データ ファイルを作成します。「[Cisco VG310 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(557 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ 3** Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。
-

Cisco VG320 Gateway テンプレートの追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG320 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco VG320 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ1 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG320 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG320 Gateway テンプレートの作成 \(483 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ2 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データファイルを作成します。「[Cisco VG320 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(560 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ3 Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。
-

Cisco VG350 Gateway テンプレートの追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG350 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco VG350 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ1 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG350 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG350 Gateway テンプレートの作成 \(484 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ2 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データファイルを作成します。「[Cisco VG350 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(562 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ3 Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。
-

BAT を使用した Cisco VG410 Gateway の追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG410 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に



重要 リリース 15 以降でサポートされます。

Cisco VG410 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG410 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG410 Gateway テンプレートの作成 \(485 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データファイルを作成します。「[BAT スプレッドシートを使用した VG 410 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(566 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。

BAT を使用した Cisco VG420 Gateway の追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG420 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に



重要 リリース 12.5(1)SU4 および 14SU1 以降でサポートされます。

Cisco VG420 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

-
- ステップ1 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG420 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG420 Gateway テンプレートの作成 \(485 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ2 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データファイルを作成します。「[BAT スプレッドシートを使用した VG 420 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(568 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ3 Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。
-

BAT を使用した Cisco VG450 Gateway の追加

以下のタスクを実行して、Cisco VG450 ゲートウェイを Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco VG450 ゲートウェイを Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドライン インターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

-
- ステップ1 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco VG450 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco VG450 Gateway テンプレートの作成 \(486 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ2 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データファイルを作成します。「[Cisco VG450 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(571 ページ\)](#)」を参照してください。
 - ステップ3 Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。
-

BAT を使用した Cisco ISR 4461 Gateway の追加

以下のタスクを実行して、Cisco ISR 4461 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager に追加する必要があります。

始める前に

Cisco ISR 4461 ゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに追加する前に、まず Cisco IOS ソフトウェアのコマンドラインインターフェイス (CLI) を使用してゲートウェイを設定する必要があります。ゲートウェイの設定手順やコマンドについては、ゲートウェイに付属の設定ドキュメントを参照してください。

手順

-
- ステップ 1** 一連のゲートウェイとポートに対して共通の値を定義するには、Cisco ISR 4461 ゲートウェイ テンプレートを作成します。「[Cisco ISR 4461 Gateway テンプレートの作成 \(487 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 2** 追加するゲートウェイとポートそれぞれに対して個別の値を定義するには、CSV データファイルを作成します。「[Cisco ISR 4461 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成 \(573 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 3** Cisco Unified Communications Manager データベースにゲートウェイとポートを挿入します。「[Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)」を参照してください。
-

ゲートウェイ テンプレートの検索

複数のゲートウェイ テンプレートが存在することがあるため、Cisco Unified Communications Manager では特定の基準に基づいて特定のテンプレートを検索できます。次の手順を使用して、テンプレートを検索します。



- (注) ブラウザセッションで作業中に、検索/一覧表示の検索設定がクライアントマシン上の Cookie に保存されます。他のメニュー項目に移動した後でこのメニュー項目に戻った場合や、ブラウザを閉じた後で新しいブラウザウィンドウを開き直した場合は、手動で検索を変更するまで、Cisco Unified Communications Manager の検索設定が保持されます。
-

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイ テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [ゲートウェイの検索 (Find gateways where)] ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。

- 名前
- 説明
- DN/ルート パターン
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- ルート グループ名
- [デバイスタイプ (Device Type)]

ステップ 3 2番目の[ゲートウェイの検索 (Find Gateways where)]ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを何も入力せずに、[検索 (Find)]をクリックします。

ステップ 5 3番目のドロップダウンリストから[表示 (Show)]を選択し、ゲートウェイに関連付けられたエンドポイントを表示して、[検索 (Find)]をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- ステータス (Status)
- IP アドレス

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件と一致するデバイス名をクリックします。
[ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)]ウィンドウが表示されます。

関連トピック

[ゲートウェイ設定関連のトピック](#) (538 ページ)

ゲートウェイ テンプレートの追加または編集

BAT を使用すると、Cisco Unified Communications Manager のデータベースで VG200、VG202、VG204、VG224、VG310、VG320、VG350、VG410、VG420、VG450、Cisco Catalyst 6000 (FXS) または Cisco ISR 4461 のゲートウェイテンプレートの追加または編集を行えます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

[ゲートウェイ テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

a) 既存のゲートウェイテンプレートを編集するには、[ゲートウェイテンプレートの検索 \(469 ページ\)](#) を参照してください。編集するゲートウェイを選択します。

ゲートウェイのフィールドの説明を参照してください。

- [VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(488 ページ\)](#)
- [VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(489 ページ\)](#)
- [VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(490 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(499 ページ\)](#)
- [VG310 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(491 ページ\)](#)
- [VG320 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(492 ページ\)](#)
- [VG350 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(493 ページ\)](#)
- [VG410 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(494 ページ\)](#)
- [VG420 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(495 ページ\)](#)
- [VG450 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(496 ページ\)](#)
- [ISR 4461 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(498 ページ\)](#)

b) 新しいゲートウェイを追加するには、[新規追加 (Add New)] をクリックします。

[新規ゲートウェイの追加 (Add a New Gateway)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次の手順のいずれかを実行します。

- a) VG200 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(472 ページ\)](#)」を参照してください。
- b) Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート テンプレートを作成するには、「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイ テンプレートの作成 \(477 ページ\)](#)」を参照してください。
- c) VG224 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(478 ページ\)](#)」を参照してください。
- d) VG202 または VG204 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(480 ページ\)](#)」を参照してください。
- e) Cisco VG310 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG310 Gateway テンプレートの作成 \(483 ページ\)](#)」を参照してください。
- f) Cisco VG320 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG320 Gateway テンプレートの作成 \(483 ページ\)](#)」を参照してください。
- g) Cisco VG350 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG350 Gateway テンプレートの作成 \(484 ページ\)](#)」を参照してください。
- h) Cisco VG410 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG410 Gateway テンプレートの作成 \(485 ページ\)](#)」を参照してください。
- i) Cisco VG420 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG420 Gateway テンプレートの作成 \(485 ページ\)](#)」を参照してください。
- j) Cisco VG450 テンプレートを作成するには、「[Cisco VG450 Gateway テンプレートの作成 \(486 ページ\)](#)」を参照してください。
- k) Cisco ISR 4461 テンプレートを作成するには、「[Cisco ISR 4461 Gateway テンプレートの作成 \(487 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG200 テンプレートを作成した後、ネットワークモジュールのエンドポイント識別子を追加する必要があります。BAT テンプレートに次のエンドポイント識別子を設定します。

- Foreign Exchange Station (FXS) ポート
- Foreign Exchange Office (FXO) トランク
- T1 PRI トランク
- E1 PRI トランク
- T1 CAS トランク

手順

- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスで、[Cisco VG200] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** すべてのフィールドに値を入力します。
「[VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(488 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 5** [Save] をクリックします。
挿入が完了すると、ペインに新しいフィールドが表示されます。
- ステップ 6** [サブユニット (Subunit)] フィールドで、各サブユニットフィールドに適切なタイプを選択します。
- VIC-2FXS : Foreign Exchange Station (FXS) 音声インターフェイス カード
 - VIC-2FXO : Foreign Exchange Office (FXO) 音声インターフェイス カード
 - VWIC-1MFT-T1 : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイスカード
 - VWIC-2MFT-T1 : T1 CAS または T1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイスカード
 - VWIC-1MFT-E1 : E1 PRI 用のエンドポイントを 1 つ備えた音声 WAN インターフェイスカード
 - VWIC-2MFT-E1 : E1 PRI 用のエンドポイントを 2 つ備えた音声 WAN インターフェイスカード
- ステップ 7** [保存 (Save)] をクリックします。
更新が完了したことがステータスにあると、サブユニットのドロップダウンリストの右側にあるリンクとしてエンドポイント ID が表示されます。
- ステップ 8** エンドポイント識別子 (1/0/0 など) をクリックして、デバイス プロトコル情報を設定し、インストールされている VIC のタイプ用のポートを追加します。
詳細については、次の手順を参照してください。
- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(474 ページ\)](#)
 - [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加 \(475 ページ\)](#)
 - [VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタルアクセス T1 \(T1-CAS\) ポートの追加 \(476 ページ\)](#)
 - [T1 PRI または E1 PRI デバイスの VG200 ゲートウェイ テンプレートへの追加 \(477 ページ\)](#)

ステップ 9 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

次のタスク

必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートへのポートの追加

VG200 ゲートウェイで設定できるデバイス プロトコルとポート タイプは、装着されている音声インターフェイス カードのタイプによって異なります。

関連トピック

- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(474 ページ\)](#)
- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加 \(475 ページ\)](#)
- [VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタルアクセス T1 \(T1-CAS\) ポートの追加 \(476 ページ\)](#)
- [T1 PRI または E1 PRI デバイスの VG200 ゲートウェイ テンプレートへの追加 \(477 ページ\)](#)

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、POTS デバイスに接続するために使用されます。以下の手順を使用して、VG200 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加します。

始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(472 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。
ウィンドウがリフレッシュされ、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウがエンドポイントのアイコンと共に表示されます。
- ステップ 3** 適切なゲートウェイ情報とポート情報の設定を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
フィールドの説明については、以下を参照してください。
- [FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(504 ページ\)](#)
 - [POTS ポートの設定項目 \(533 ページ\)](#)

(注) POTS ポートを挿入すると、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウの一番下に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に [新規DNの追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。

- ステップ 4** [新規DNの追加 (Add a new DN)] をクリックして、電話番号を POTS ポートに追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合、[ステップ 6 \(476 ページ\)](#) に移動します。
- ステップ 5** ポートを追加したゲートウェイのメイン VG200 の [ゲートウェイ テンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。
- ステップ 6** [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。
- ステップ 7** その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 1 \(474 ページ\)](#) ~ [ステップ 5 \(475 ページ\)](#) を繰り返します。

関連トピック

- [BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(34 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(469 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

VG200 ゲートウェイ テンプレートへの FXO ポートの追加

Foreign Exchange Office (FXO) ポートは、セントラル オフィスまたは PBX と接続するために使用されます。BAT を使用して、VG200 ゲートウェイ テンプレート上にループ スタート用またはグラウンド スタート用に FXO ポートを追加および設定できます。



- (注) Cisco Unified Communications Manager は、すべてのループ スタート トランクに確実な接続解除監視がないと見なします。グラウンド スタートとして確実な接続解除監視と共にトランクを設定することにより、Cisco Unified Communications Manager サーバ フェールオーバーの間、アクティブ コールを維持できます。

始める前に

ポートを設定する前に、VG200 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(472 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定する FXO ポートのエンドポイント識別子をクリックします。

ステップ 3 [ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウンリストから、[グラウンドスタート (Ground Start)] または [ループ スタート (Loop Start)] を選択します。

(注) VIC-2FXO ポートの両方のエンドポイント識別子に対して同じポートタイプを選択する必要があります。異なるポートタイプを選択すると、メッセージが表示されません。

ステップ 4 適切なゲートウェイ設定とポート情報設定を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。フィールドの説明については、「[FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(504ページ\)](#)」を参照してください。

ステップ 5 ポートを追加したゲートウェイのメイン VG200 のゲートウェイ テンプレートの設定ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで **[MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)]** を選択し、**[移動 (Go)]** をクリックします。

ステップ 6 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

ステップ 7 さらに FXO ポートを追加するには、[ステップ 2 \(475ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(476ページ\)](#) を繰り返します。

関連トピック

[ゲートウェイ テンプレートの検索 \(469 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

VG200 ゲートウェイ テンプレートへのデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートの追加

BAT を使用して、デジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートを VG200 ゲートウェイ テンプレートに追加できます。

手順

ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定するデジタル アクセス T1 (T1-CAS) ポートのエンドポイント識別子をクリックします。

表示される [デバイスプロトコル (Device Protocol)] ドロップダウンリストボックスで、[デジタルアクセスT1 (Digital Access T1)] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 3 適切なゲートウェイの構成時の設定を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

詳細は、[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでのデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明 \(513 ページ\)](#) を参照してください。

ステップ 4 ゲートウェイをリセットして変更を適用するには、[リセット (Reset)] をクリックします。

ステップ 5 選択したポートタイプに適した設定については、[ポートの構成時の設定 \(533ページ\)](#) を参照してください。

関連トピック

[ゲートウェイ テンプレートの検索](#) (469 ページ)

[ゲートウェイ設定関連のトピック](#) (538 ページ)

T1 PRI または E1 PRI デバイスの VG200 ゲートウェイ テンプレートへの追加

BAT を使用して、T1 PRI または E1 PRI デバイスを VG200 ゲートウェイ テンプレートに追加できます。

手順

ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウから、設定する T1 PRI または E1 PRI ポートのエンドポイント識別子をクリックします。

ステップ 3 T1 PRI または E1 PRI デバイスのプロトコル設定を設定します。

フィールドの説明については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでの T1 PRI または E1 PRI トランクのフィールドの説明](#) (518 ページ) 」を参照してください。

ステップ 4 [保存 (Save)] をクリックします。

ステップ 5 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

関連トピック

[ゲートウェイ テンプレートの検索](#) (469 ページ)

[ゲートウェイ設定関連のトピック](#) (538 ページ)

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイ テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco Catalyst 6000 FXS ゲートウェイ テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウン リスト ボックスで、[Cisco Catalyst 6000 24 Port FXS Gateway] を選択します。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 4** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
- ステップ 5** フィールドに設定値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
フィールドの説明については、「[Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(499 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 6** [新規ポートを追加 (Add a New Port)] をクリックします。
ポート設定ダイアログが別のウィンドウで開きます。
- ステップ 7** ドロップダウンリストで、設定しているゲートウェイモデルに基づくポートタイプとして **[POTS]** を選択します。
フィールドの説明については、「[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでの T1 PRI または E1 PRI トランクのフィールドの説明 \(518 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 8** 適切なポート設定を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
フィールドの説明については、「[POTS ポートの設定項目 \(533 ページ\)](#)」を参照してください。
POTS ポートを挿入した場合は、ウィンドウが更新表示され、左側のリストに POTS ポートが表示されます。新しいポートの右側に [DNの追加 (Add DN)] リンクが表示されます。
- ステップ 9** 電話番号を FXS ポートに追加するには、[DNの追加 (Add DN)] をクリックします。
- ステップ 10** [保存 (Save)] をクリックします。
ステータスに更新の完了が示されている場合は、テンプレートが [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウに表示されます。[検索/一覧表示 (Find and List)] ウィンドウに戻るには、ウィンドウ右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリスト ボックスで [検索/一覧表示に戻る (Back to Find and List)] を選択します。

関連トピック

- [BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(34 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成

CiscoVG224 テンプレートを作成した後、ネットワークモジュールのエンドポイント識別子を追加する必要があります。BAT テンプレートに次のエンドポイント識別子を設定します。

- Foreign Exchange Station (FXS) ポート

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG224] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG224ゲートウェイテンプレートのフィールドの説明 \(489 ページ\)](#)」を参照してください。

挿入が完了すると、新しいフィールドがペインに表示されます。

ステップ 6 [サブユニット 0 (Subunit 0)] フィールドで、ドロップダウンリストからサブユニットフィールドに適切なタイプを選択して、[保存 (Save)] をクリックします。

- VIC-2FXS : Foreign Exchange Station (FXS) 音声インターフェイスカード。

更新が完了したことがステータスにあると、サブユニットのドロップダウンリストの右側にあるリンクとしてエンドポイントIDが表示されます。

ステップ 7 エンドポイント識別子 (1/0/0 など) をクリックして、デバイスプロトコル情報を設定し、インストールされている VIC のタイプ用のポートを追加します。

ステップ 8 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

次のタスク

必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

関連トピック

[FXS ポートの VG224 ゲートウェイ テンプレートへの追加 \(479 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

FXS ポートの VG224 ゲートウェイ テンプレートへの追加

BAT を使用して、VG224 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加します。Foreign Exchange Station (FXS) は、POTS デバイ스에接続するために使用されます。

始める前に

ポートを設定する前に、VG224 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。

手順

ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。

ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。

ウィンドウがリフレッシュされ、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウがエンドポイントのアイコンと共に表示されます。

ステップ 3 適切なゲートウェイ情報とポート情報の設定を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、以下を参照してください。

- [FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(504 ページ\)](#)
- [POTS ポートの設定項目 \(533 ページ\)](#)

(注) POTS ポートを挿入すると、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウの一番下に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に [新規DNの追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。

ステップ 4 [新規 DN の追加 (Add a new DN)] をクリックして、電話番号を POTS ポートに追加します。または、別のタイプのポートを設定する場合、[ステップ 6](#) に移動します。

ステップ 5 ポートを追加したゲートウェイのメイン VG224 の [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [MGCPに戻る (Back to MGCP)] 設定を選択し、[移動 (Go)] をクリックします。

ステップ 6 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

ステップ 7 その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 1](#) ~ [ステップ 5](#) を繰り返します。

関連トピック

- [BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新 \(34 ページ\)](#)
- [Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(478 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(469 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成

Cisco VG202 または VG204 テンプレートを作成した後、ネットワークモジュールのエンドポイント識別子を追加する必要があります。BAT テンプレートに次のエンドポイント識別子を設定します。

- Foreign Exchange Station (FXS) ポート

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストボックスで、[Cisco VG202] または [Cisco VG204] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
フィールドの説明については、「[VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(490 ページ\)](#)」を参照してください。
挿入が完了すると、新しい [サブユニット 0 (Subunit 0)] フィールドがペインに表示されます。
- ステップ 6** [サブユニット 0 (Subunit 0)] フィールドで、ドロップダウンリストボックスからサブユニットフィールドに適切なタイプを選択して、[保存 (Save)] をクリックします。
ステータスに更新の完了が示されている場合は、エンドポイント識別子がサブユニットドロップダウンリストボックスの右側にリンクとして表示されます。
- ステップ 7** 1つのエンドポイント識別子 (たとえば 0/0) をクリックしてデバイスプロトコル情報を設定し、インストールされている VIC のタイプ用のポートを追加します。
- ステップ 8** [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。

次のタスク

必要に応じて、エンドポイント情報とポートの設定を続行します。

関連トピック

- [VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加 \(482 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(469 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック](#) (538 ページ)

VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートへの FXS ポートの追加

BAT を使用して、VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートに FXS ポートを追加します。Foreign Exchange Station (FXS) ポートは、POTS デバイスに接続するために使用されます。

始める前に

ポートを設定する前に、VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートを追加する必要があります。手順については、「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイ テンプレートの作成 \(480 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1 FXS ポートを追加するゲートウェイ テンプレートを見つけます。
 - ステップ 2 [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウから、設定する FXS VIC のエンドポイント識別子をクリックします。
ウィンドウがリフレッシュされ、[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウがエンドポイントのアイコンと共に表示されます。
 - ステップ 3 適切なゲートウェイ情報とポート情報の設定を入力し、[保存 (Save)] をクリックします。
フィールドの説明については、以下を参照してください。
 - [FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(504 ページ\)](#)
 - [POTS ポートの設定項目 \(533 ページ\)](#)

(注) POTS ポートを挿入すると、ウィンドウがリフレッシュされ、ウィンドウの一番下に POTS ポート情報が表示されます。左側のパネルの [電話番号情報 (Directory Number Information)] 領域に [新規DNの追加 (Add a new DN)] リンクが表示されます。
 - ステップ 4 [新規DNの追加 (Add a new DN)] をクリックして、電話番号を POTS ポートに追加します。または、別のタイプのポートを設定した場合、[ステップ 6 \(482 ページ\)](#) に移動します。
 - ステップ 5 ポートを追加したゲートウェイの VG202 または VG204 の [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] メインウィンドウに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストで [MGCP 設定に戻る (Back to MGCP Configuration)] を選択し、[移動 (Go)] をクリックします (MGCP ゲートウェイを設定している場合)。
 - ステップ 6 [リセット (Reset)] をクリックしてゲートウェイをリセットし、変更を適用します。
 - ステップ 7 その他の FXS ポートを追加する場合は、[ステップ 2 \(482 ページ\)](#) ~ [ステップ 5 \(482 ページ\)](#) を繰り返します。
-

関連トピック

[BAT テンプレート内の電話回線の追加または更新](#) (34 ページ)

[ゲートウェイ テンプレートの検索](#) (469 ページ)

[ゲートウェイ設定関連のトピック](#) (538 ページ)

Cisco VG310 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco VG310 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG310] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにこのテンプレートの一意の名前を入力します。

ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG310 Gateway テンプレートのフィールドの説明](#) (491 ページ)」を参照してください。

Cisco VG320 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco VG320 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
- [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- [新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG320] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- [ゲートウェイの設定 (Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
- [ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
- ステップ 6** すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
- フィールドの説明については、「[VG320 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(492 ページ\)](#)」を参照してください。
-

Cisco VG350 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、VG350 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
- [ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- [新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a New Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG350] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [MGCP] または [SCCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。

ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG350 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(493 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco VG410 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco VG410 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加] をクリックします。

ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG410] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [SIP]、[SCCP] または [MGCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。

ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG410ゲートウェイテンプレートのフィールドの説明 \(494 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco VG420 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco VG420 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
 - ステップ 2 [新規追加] をクリックします。
 - ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG420] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [SIP]、[SCCP] または [MGCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
 - ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG420ゲートウェイテンプレートのフィールドの説明 \(495ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco VG450 Gateway テンプレートの作成

BATを使用して、VG450 Gatewayテンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

-
- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイテンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 3 [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[VG450] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
 - ステップ 4 [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [SIP]、[SCCP] または [MGCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 5 [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
 - ステップ 6 すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

フィールドの説明については、「[VG450 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(496 ページ\)](#)」を参照してください。

Cisco ISR 4461 Gateway テンプレートの作成

BAT を使用して、Cisco ISR 4461 Gateway テンプレートを作成します。特に明記されていない限り、すべてのフィールドに入力する必要があります。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイ テンプレート (Gateway Template)] の順に選択します。
[ゲートウェイの検索/一覧表示 (Find and List Gateways)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[新しいゲートウェイテンプレートを追加 (Add a new Gateway Template)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストで、[Cisco ISR 4461] を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** [プロトコル (Protocol)] ドロップダウンリストから [SIP]、[SCCP] または [MGCP] を選択して、[次へ (Next)] をクリックします。
[ゲートウェイテンプレートの設定 (Gateway Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 5** [テンプレート名 (Template Name)] フィールドにテンプレートの一意の名前を入力します。
- ステップ 6** すべてのフィールドの値を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。
フィールドの説明については、「[ISR 4461 Gateway テンプレートのフィールドの説明 \(498 ページ\)](#)」を参照してください。

ゲートウェイの設定項目

BAT を使用して追加または更新できる、シスコでサポートするゲートウェイおよびポートすべてについて、以下に詳細なフィールドの説明を記載します。

関連トピック

[Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(499 ページ\)](#)

[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでのデジタルアクセス T1 トランクのフィールドの説明 \(513 ページ\)](#)

[FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明 \(504 ページ\)](#)

[ポートの構成時の設定 \(533 ページ\)](#)

[Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでの T1 PRI または E1 PRI トランクのフィールドの説明 \(518 ページ\)](#)

[VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(488 ページ\)](#)

[VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(490 ページ\)](#)

[VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明 \(489 ページ\)](#)

VG200 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、VG200 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 28: VG200 ゲートウェイの構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	リストから Unified Communications Manager 冗長性グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager 冗長性グループには、最大 3 つの Unified Communications Managers の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Unified Communications Manager は、プライマリ Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
(注)	一部の VIC に対して開始ポート番号を指定する必要があります。たとえば、サブユニット 0 の VIC が 0 で始まり、2 つのポート (0 と 1) が存在する場合、サブユニット 1 の VIC は 1 より大きいポート番号で開始する必要があります (2 と 3 または 4 と 5)。
(注)	VG200 ゲートウェイにはスロットが 1 つだけあります。

フィールド	説明
スロット 1 内のモジュール (Module in Slot 1)	<p>VG200 ゲートウェイで使用できるスロットについて、以下のタイプのモジュールから選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [NM-1V] : Network Module-1Voice には、FXS または FXO 用のサブユニット 0 の 1 つの音声インターフェイスカード (VIC) が存在します。 • [NM-2V] : Network Module-2Voice には、2 つの VIC が存在します。FXS または FXO のいずれかに対して、1 つはサブユニット 0 にあり、もう 1 つはサブユニット 1 にあります。 • [NM-HDV] : Network Module-High Density Voice には、T1 CAS または T1 PRI 用、あるいは E1 PRI 用のサブユニット 0 の 1 つの VIC が存在します。 • [なし (None)] : ネットワーク モジュールはインストールされません。
[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	<p>ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

VG224 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、VG224 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 29: VG224 ゲートウェイの構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	Cisco VG224 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 2 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG224 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウン リスト ボックスから [アナログ (Analog)] を選択します。
Subunit 0	VG224 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 0 について、ドロップダウン リスト ボックスからサブユニットとして [24FXS] を選択できます。 (注) VG224 ゲートウェイでは、スロット 2 のモジュールとサブユニット 0 しか使用できません。

VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、VG202 および VG204 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 30: VG202 および VG204 ゲートウェイの構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイテンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG202 または VG204 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストボックスから [アナログ (Analog)] を選択します。
Subunit 0	VG202 または VG204 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 0 について、ドロップダウンリストボックスからサブユニットとして [2FXS] を選択できます。 (注) VG202 または VG204 ゲートウェイでは、スロット 0 のモジュールとサブユニット 0 しか使用できません。

VG310 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG310 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 31 : VG310 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG310 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウンリストボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG310 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストボックスから [VG-2VWIC-MBRD] を選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG320 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG320 ゲートウェイテンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 32: VG320 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG320 ゲートウェイテンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG320 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストボックスから [VG-3VWIC-MBRD] を選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG350 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG350 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 33: VG350 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG350 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。

フィールド	説明
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager の冗長性グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位リストが含まれています。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または失敗した場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager に接続します。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG350 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストボックスから [NM-4VWIC-MBRD] を選択します。
[スロット 1/3 内のモジュール (Module in Slot 1/3)]	VG350 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストから [なし (NONE)] を選択します。
[スロット 2/4 内のモジュール (Module in Slot 2/4)]	VG350 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストから [アナログ (ANALOG)] を選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「？」情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG410 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG410 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 34 : VG410 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG410 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
Unified Communications Manager グループ	ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Unified Communications Manager の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Unified Communications Manager は、プライマリ Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG410 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストから [VG-1NIM-MBRD] を選択します。
Subunit 1	選択したプロトコルに基づいて、VG10 ゲートウェイで使用可能なサブユニット 1 について、ドロップダウンリストからサブユニットを選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある「[?]」情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログ ボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG420 ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG420 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 35: VG420 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG420 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
Unified Communications Manager グループ	ドロップダウンリストから、Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Unified Communications Manager の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Unified Communications Manager は、プライマリ Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG420 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリストから [ISR-2NIM-MBRD] を選択します。
スロット 1 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG420 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウンリスト ボックスから [アナログ (ANALOG)] を選択します。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある 「[?]」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

VG450 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG450 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 36 : VG450 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	VG450 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
Unified Communications Manager グループ	ドロップダウン リスト ボックスから、Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Unified Communications Manager の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Unified Communications Manager は、プライマリ Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	VG450 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウン リスト ボックスから [ISR-3NIM-MBRD] を選択します。
[スロット 1/2/3 内のモジュール (Module in Slot 1/2/3)]	VG450 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウン リスト ボックスから [アナログ (ANALOG)] を選択します。 [ANALOG] : ゲートウェイの SM-X スロットで、ユーザは、SM-X-16FXS/FXO、SM-X-24FXS/4FXO、SM-X-8FXS/12FXO、SM-X-56FXS または SM-X-72FXS のモジュールを選択できます。
製品固有の設定	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。 製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」情報アイコンをクリックして、ポップアップ ダイアログボックスにヘルプを表示します。 詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。

ISR 4461 Gateway テンプレートのフィールドの説明

次の表では、Cisco ISR 4461 ゲートウェイ テンプレートの構成時の設定に関する詳細な説明を示します。

表 37: ISR 4461 Gateway の構成時の設定

フィールド	説明
テンプレート名	ISR 4461 ゲートウェイ テンプレートを識別する最大 64 文字の名前を入力します。
説明	デバイスの目的を特定する説明を入力します。
[Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)]	ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager 冗長グループを選択します。 Cisco Unified Communications Manager 冗長グループには、最大 3 つの Cisco Unified Communications Manager の優先順位付けされたリストが含まれます。リストの最初の Cisco Unified Communications Manager は、プライマリ Cisco Unified Communications Manager として機能します。プライマリ Cisco Unified Communications Manager が利用可能でない、または動作していない場合、ゲートウェイは次にリストされている Cisco Unified Communications Manager への接続を試みます。
[設定済みのスロット、VIC、およびエンドポイント (Configured Slots, VICs and Endpoints)]	
スロット 0 内のモジュール (Module in Slot 1)	ISR 4461 ゲートウェイで使用できるスロットについて、ドロップダウン リスト ボックスから [ISR-3NIM-MBRD] を選択します。
[スロット 1/2/3 内のモジュール (Module in Slot 1/2/3)]	ISR 4461 ゲートウェイで使用できるスロットについて、以下のタイプのモジュールから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [ANALOG] : ゲートウェイの SM-X スロットで、ユーザは、SM-X-16FXS/FXO、SM-X-24FXS/4FXO、SM-X-8FXS/12FXO、SM-X-56FXS または SM-X-72FXS のモジュールを選択できます。 • [SM-X-NIM-ADPTR] : ゲートウェイの SM-X スロット内の NIM 用アダプタ。
製品固有の設定	

フィールド	説明
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	<p>ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ テンプレートのフィールドの説明

次の表は、Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイテンプレートの構成時の設定の一覧です。

表 38: Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイの構成時の設定

フィールド	説明
Description	デバイスの目的を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウンリストボックスから適切なデバイスプールを選択します。</p> <p>デバイスプールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Communications Manager グループ、日時グループ、地域、デバイスの自動登録用コーリングサーチスペースなど) を指定します。</p>
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	<p>このゲートウェイに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられている属性 (サービスまたは機能) が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)] ウィンドウで設定します。</p> <p>共通デバイス設定を表示するには、[詳細の表示 (View Details)] リンクをクリックします。</p>

フィールド	説明
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	このリストには、メディアリソースグループの優先順位付けされたグループ化が表示されます。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] で定義された優先順位に従って、利用可能なメディアリソースから必要なメディアリソース (保留音サーバなど) を選択します。
[ネットワーク保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	この IP ゲートウェイのグループに使用するネットワーク保留音の音源を選択します。 ネットワーク保留音源は、システムによりコールが保留されるとき (ユーザがコールを転送またはパークするときなど) に再生される音楽の音源を指定します。
コーリング サーチ スペース	ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された (発信側) 番号のルーティング方法を決定するために検索されるパーティションのコレクションを指定します。 このドロップダウンリストボックスに表示されるコーリングサーチスペースの数を設定するには、[リストボックス項目の最大数 (Max List Box Items)] エンタープライズパラメータを使用します。[リストボックス項目の最大数 (Maximum List Box Items)] エンタープライズパラメータで指定されている数より多くのコーリングサーチスペースがある場合は、ドロップダウンリストボックスの横に省略ボタン (...) が表示されます。[...] ボタンをクリックすると、[コーリングサーチスペースの選択 (Select Calling Search Space)] ウィンドウが表示されます。[次の名前が含まれる項目を一覧表示 (List items where Name contains)] フィールドに、コーリングサーチスペースの名前の一部を入力します。[使用する項目の選択 (Select item to use)] ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで、目的のコーリングサーチスペース名をクリックし、[OK] をクリックします。 (注) リストボックス項目の最大数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[Unified CMAAdmin パラメータ (Unified CMAAdmin Parameters)] を選択します。

フィールド	説明
[AAR コーリング サーチ スペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされる場合に、ルートパーティションのコレクションを指定します。このルートパーティションは、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[所在地 (Location)]	<p>このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションに対して送受信可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを[なし (None)]に設定すると、ロケーション機能はこのデバイスが消費する帯域幅を追跡しません。</p>
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AARグループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AAR グループ設定を[なし (None)]にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウンリストから、ゲートウェイに関連付けるロケールを選択します。ネットワークロケールは、特定の場所のハードウェアをサポートするための一連の詳細情報を識別します。ネットワークロケールには、特定の地理的領域のデバイスが使用するトーンとリズムの定義が含まれます。</p> <p>(注) すでにインストールされ、関連付けられたデバイスによってサポートされるネットワークロケールのみを選択してください。リストには、この設定に使用可能なすべてのネットワークロケールが表示されますが、すべてをインストールする必要はありません。デバイスが、ファームウェアでサポートされていないネットワークロケールに関連付けられている場合、そのデバイスは起動に失敗します。</p>

フィールド	説明
[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、Cisco Unified Communications Manager でこのメディア エンドポイントと共にトラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: この値を選択した場合、デバイスは、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレー ポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定を使用します。 • [オフ (Off)]: このデバイスでの TRP の使用を無効にするには、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 • [オン (On)]: このデバイスで TRP の使用を有効にする場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 <p>トラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスはトラステッドリレー ポイントとしてラベル付けされている MTP またはトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイントに必要な場合 (たとえばトランスコーダや RSVP Agent) 、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を選択します。</p> <p>TRP と MTP の両方がエンドポイントに必要な場合は、TRP が必須の MTP として使用されます。</p>
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	<p>ポートを選択する順序を選択します。使用するポートの順序がわからない場合は、[トップダウン方式 (TOP_DOWN)] を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [トップダウン方式 (TOP_DOWN)]: ポート 1 からポート 8 まで、ポートを降順に選択します。 • [ボトムアップ方式 (BOTTOM_UP)]: ポート 8 からポート 1 まで、ポートを昇順に選択します。
[ロード情報 (Load Information)]	<p>ゲートウェイに適したファームウェアのロード情報を入力します。</p> <p>ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。</p>

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判断します。</p> <p>送信側のデバイスに対してこのチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定が終端電話機のユーザ ロケールに一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザ ロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側のデバイスは、送信側のデバイスのデバイス プールのユーザ ロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザ ロケール設定が終端電話機のユーザ ロケールに一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で同じ言語グループに属していないユーザ ロケールが設定されると、電話機の表示が文字化けする可能性があります。</p>
[発信側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発信側トランスフォーメーション CSS に、このデバイスに割り当てる発信側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>発呼側トランスフォーメーションパターンを発呼側トランスフォーメーション CSS が存在するパーティションに割り当てると、デバイスはそのトランスフォーメーションパターンの属性を継承します。</p>
[デバイスプールの発信側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられているデバイス プールに設定されている発信側トランスフォーメーション CSS を使用する場合は、このボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、デバイスは [デバイス設定 (device configuration)] ウィンドウで設定した発信側トランスフォーメーション CSS を使用します。</p>
マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、このデバイスと関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにした場合、このデバイスは自身のデバイス プールに設定された値から、その MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに MLPP ドメインの設定がない場合は、このデバイスの MLPP ドメインは MLPP Domain Identifier エンタープライズパラメータの設定値から継承されます。</p>

フィールド	説明
[MLPP 通知 (MLPP Indication)]	このデバイス タイプにはこの設定はありません。
[MLPP プリエンプション (MLPP Preemption)]	この設定にはこのデバイス タイプはありません。
位置情報の設定	
地理的な場所	ドロップダウンリスト ボックスから位置情報を選択します。 [未指定 (Unspecified)]という位置情報を選択することもできます。この場合、デバイスに位置情報は関連付けられません。 また、[システム (System)]>[位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。
[位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]	ドロップダウンリスト ボックスから位置情報フィルタを選択します。 [なし (None)]の設定のままにした場合、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。 また、[システム (System)]>[位置情報フィルタ (Geolocation Filter)]メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。

FXS/FXO ポートの設定フィールドの説明

次の表に、FXS/FXO ポートの設定項目に関する詳細な説明を示します。

VG200 ゲートウェイの場合、一部のスイッチ エミュレーション タイプでネットワーク側がサポートされていません。ゲートウェイ スイッチ タイプの設定方法により、ネットワーク側を設定できるかどうかが決まります。

表 39: FXS/FXO ポートの設定項目

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
[エンドポイント名 (End-Point Name)]	VG200 ゲートウェイの場合、この表示専用フィールドには、Cisco Unified Communications Manager により生成される、VG200 アナログインターフェイスを識別する文字列が表示されます。

フィールド	説明
説明	<p>Cisco Unified Communications Manager は、アナログ MGCP 記述を一意に識別する文字列を生成します。</p> <p>次に例を示します。</p> <p>AALN/S0/SU1/1@domain.com</p> <p>このフィールドは編集できます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウンリストボックスから適切なデバイスプールを選択します。</p> <p>デバイスプールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Communications Manager グループ、日時グループ、地域、デバイスの自動登録用コーリングサーチスペースなど) を指定します。</p>
[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)]	<p>このリストには、メディアリソースグループの優先順位付けされたグループ化が表示されます。アプリケーションは、[メディアリソースグループリスト (Media Resource Group List)] で定義された優先順位に従って、使用可能なメディアリソースから必要なメディアリソース (保留音サーバなど) を選択します。</p>
[パケットキャプチャモード (Packet Capture Mode)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	<p>このフィールドは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイの暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合にのみ設定します。パケットキャプチャを設定すると、コール処理が中断することがあります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>
[パケットキャプチャ時間 (Packet Capture Duration)] (Cisco IOS MGCP ゲートウェイのみ)	<p>このフィールドは、Cisco IOS MGCP ゲートウェイの暗号化シグナリング情報のトラブルシューティングを行う場合にのみ設定します。パケットキャプチャを設定すると、コール処理が中断することがあります。このフィールドの詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Security Guide』を参照してください。</p>
[コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、適切なコーリングサーチスペースを選択します。コーリングサーチスペースは、収集された (発信側) 番号のルーティング方法を決定する際に検索される一連のルートパーティションで構成されます。</p>

フィールド	説明
[AAR コーリング サーチ スペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされる場合に、ルートパーティションのコレクションを指定します。このルートパーティションは、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[ロケーション (Location)]	<p>一元化されたコール処理システムでコールアドミッション制御 (CAC) を実装するには、ロケーションを使用します。CAC により、ロケーション間のリンク上でオーディオおよびビデオ通話に使用できる帯域幅の量を制限することで、オーディオの品質およびビデオの可用性を調整できます。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションを [Hub_None] に設定すると、ロケーション機能はこのデバイスが消費する帯域幅を追跡しません。ロケーションを [ファントム (Phantom)] に設定すると、H.323 プロトコルまたは SIP プロトコルを使用するクラスタ間トランクの間で、正常な CAC を有効にするロケーションが指定されます。</p> <p>新しいロケーションを設定するには、[システム (System)] > [ロケーション (Location)] メニュー オプションを使用します。</p>
[AARグループ (AAR Group)]	<p>このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AAR グループ設定を [なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。</p>

フィールド	説明
[ネットワークロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウンリストから、ゲートウェイに関連付けるロケールを選択します。ネットワークロケールは、特定の場所のハードウェアをサポートするための一連の詳細情報を識別します。ネットワークロケールには、特定の地理的領域のデバイスが使用するトーンとリズムの定義が含まれます。</p> <p>(注) 既にインストールされ、関連付けられたデバイスによってサポートされるネットワークロケールのみを選択してください。リストには、この設定に使用可能なすべてのネットワークロケールが表示されますが、すべてをインストールする必要はありません。デバイスが、ファームウェアでサポートされていないネットワークロケールに関連付けられている場合、そのデバイスは起動に失敗します。</p>

フィールド	説明
[トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、Cisco Unified Communications Manager でこのメディア エンドポイントと共にトラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスを挿入するかどうかを選択します。次の値のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: この値を選択した場合、デバイスは、このデバイスが関連付けられている共通デバイス設定の [信頼されたリレー ポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定を使用します。 • [オフ (Off)]: このデバイスでの TRP の使用を無効にするには、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 • [オン (On)]: このデバイスで TRP の使用を有効にする場合は、この値を選択します。この設定は、このデバイスに関連付けられている共通デバイス設定の [トラステッドリレーポイントを使用 (Use Trusted Relay Point)] 設定よりも優先されます。 <p>トラステッドリレー ポイント (TRP) デバイスはトラステッドリレー ポイントとしてラベル付けされている MTP またはトランスコーダ デバイスを指定します。</p> <p>複数のリソースがエンドポイントに必要な場合 (たとえばトランスコーダや RSVP Agent) 、Cisco Unified Communications Manager は関連付けられたエンドポイント デバイスに最も近い TRP を選択します。</p> <p>TRP と RSVP Agent の両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager はまず、TRP としても使用可能な RSVP Agent を検索します。</p> <p>TRP とトランスコーダの両方がエンドポイントに必要な場合、Cisco Unified Communications Manager は最初に、TRP としても指定可能なトランスコーダを検索します。</p>

フィールド	説明
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	<p>このデバイスは、デバイスのデバイスプールのユーザロケール設定を使用して、Unicodeを送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判断します。</p> <p>送信側のデバイスに対してこのチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイスプールのユーザロケール設定が終端電話のユーザロケールに一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザロケール設定が一致しない場合、デバイスは ASCII を送信します。</p> <p>受信側のデバイスは、送信側のデバイスのデバイスプールのユーザロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザロケール設定が終端電話機のユーザロケールに一致する場合、電話機に文字が表示されます。</p> <p>(注) トランクの両端で同じ言語グループに属していないユーザロケールが設定されると、電話機の表示が文字化けする可能性があります。</p>
[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]	<p>この設定は、(FXO ポートではなく) FXS ポートについて表示されます。この設定により、デバイスの発信者番号をローカライズできます。選択した発呼側変換 CSS に、このデバイスに割り当てる発呼側トランスフォーメーションパターンが含まれていることを確認してください。</p> <p>ヒント コールを発信する前に、デバイスは番号分析を使用して変換を適用する必要があります。[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]を[なし (None)]に設定した場合、トランスフォーメーションの照合と適用は行われません。ルーティングに使用されない Null 以外のパーティションで、必ず [発信側変換パターン (Calling Party Transformation Pattern)]を設定してください。</p>
[デバイスプールの発呼側トランスフォーメーションCSSを使用 (Use Device Pool Calling Party Transformation CSS)]	<p>このデバイスに割り当てられているデバイスプールに設定されている発呼側トランスフォーメーションCSSを使用する場合は、このボックスをオンにします。このチェックボックスをオンにしない場合、デバイスは[ゲートウェイ設定 (Gateway Configuration)]ウィンドウで設定した[発呼側トランスフォーメーションCSS (Calling Party Transformation CSS)]を使用します。</p> <p>FXO ポートではなく FXS ポートの設定が表示されます。</p>

フィールド	説明
[ホットラインデバイス (Hotline Device)]	<p>このデバイスをホットラインデバイスにするには、このチェックボックスをオンにします。ホットラインデバイスは他のホットライン デバイスにのみ接続できます。これは PLAR の拡張機能です。PLAR では、電話がオフフックになった場合に自動的に1つの電話番号にダイヤルするよう電話を設定します。ホットラインによって、PLAR を使用するデバイスに追加の制限を適用できます。</p> <p>ホットラインを実装するには、補足サービス ソフトキーを含まないソフトキー テンプレートを作成し、それをホットライン デバイスに適用する必要があります。</p>
[マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報 (Multilevel Precedence and Preemption (MLPP) Information)]	
[MLPPドメイン (MLPP Domain)]	<p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスと関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を [<なし> (None)] のままにした場合、このデバイスは自身のデバイス プールに設定された値から、その MLPP ドメインを継承します。デバイス プールに [MLPPドメイン (MLPP Domain)] の設定がない場合、このデバイスの MLPP ドメインは [MLPPドメイン ID (MLPP Domain Identifier)] エンタープライズ パラメータの設定値から継承されます。</p>
[MLPP通知 (MLPP Indication)]	<p>この設定は一部のデバイスでは利用できないことに注意してください。利用可能な場合、この設定は、優先トーンを再生できるデバイスで、MLPP 優先コールを発信するときその機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに割り当てる設定値として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)] : このデバイスは MLPP 通知設定をデバイス プールから継承します。 • [オフ (Off)] : このデバイスでは MLPP 優先コールの表示は処理されません。 • [オン (On)] : このデバイスでは MLPP 優先コールの表示を処理します。 <p>(注) デバイスを設定する際は、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)] を [強制 (Forceful)] に設定し、かつ [MLPP通知 (MLPP Indication)] を [オフ (Off)] または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)] の場合) に設定することは避けてください。</p>

フィールド	説明
[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]	<p>この設定は一部のデバイスでは利用できないことに注意してください。利用可能な場合、この設定は、進行中のコールをプリエンプションできるデバイスで、MLPP 優先コールを発信するときにプリエンプション機能を使用するかどうかを指定します。</p> <p>ドロップダウンリストボックスから、このデバイスに割り当てられる設定値として次のオプションのいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [デフォルト (Default)]: このデバイスはMLPPプリエンプション設定をデバイス プールから継承します。 • [無効 (Disabled)]: このデバイスは、優先順位の高いコールを完了する必要がある場合に、優先順位の低いコールのプリエンプションを許可しません。 • [強制 (Forceful)]: このデバイスは、優先順位の高いコールを完了する必要がある場合に、優先順位の低いコールのプリエンプションを許可します。 <p>(注) デバイスを設定する際は、[MLPPプリエンプション (MLPP Preemption)]を [強制 (Forceful)]に設定し、かつ [MLPP通知 (MLPP Indication)]を [オフ (Off)]または [デフォルト (Default)] (デフォルトが [オフ (Off)]の場合) に設定することは避けてください。</p>
[ポート情報 (Port Information)] (POTS)	
[ポートディレクション (Port Direction)]	<p>このポートを通過するコールの方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信 (Inbound)]: 着信コールのみに使用します。 • [発信 (Outbound)]: 発信コールに使用します。 • [両方 (Both Ways)]: 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
[プレフィックスDN (Prefix DN)] (FXS ポート)	<p>このトランクがインバウンド コールで受信する数字に付加するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、最初に [桁数 (Num Digits)] の設定に従って番号を短縮した後、プレフィックス番号を追加します。</p> <p>国際番号用のエスケープ文字 + も入力することができます。</p>

フィールド	説明
[桁数 (Num Digits)] (FXS ポート)	<p>収集する有意な桁の数 (0 ~ 32) を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコール先番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>このフィールドは、着信コールの処理に使用します。また、PRI スパンに着信するコールをルーティングするための、送信先番号の最後の数字から数えた桁数を指定します。[プレフィックスDN (Prefix DN)]を参照してください。</p>
[必要な桁数 (Expected Digits)] (FXS ポート)	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。このフィールドが使用されることはほとんどありませんが、必要な桁数がわからない場合は、デフォルト値の 0 のままにします。</p>
[SMDIポート番号 (0-4096) (SMDI Port Number (0-4096))]	<p>このフィールドは、ボイスメッセージングシステムに接続するアナログ アクセス ポートに使用します。</p> <p>SMDI ポート番号を、アナログ アクセス ポートが接続するボイスメッセージングシステム上の実際のポート番号と等しい番号に設定します。</p> <p>(注) 通常、ボイスメッセージングシステムが正常に動作するためには、ボイスメール論理ポートが、ボイスメッセージングシステムの物理ポートに一致する必要があります。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。</p>
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	
[地理的な場所 (Geo Location)]	<p>ドロップダウンリストボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスを位置情報に関連付けないことを指定する、[位置情報を指定しない (Unspecified geo location)]を選択することもできます。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)]メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>

フィールド	説明
位置情報フィルタ (Geo Location Filter)	<p>ドロップダウンリストボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p><None> 設定をそのままにした場合、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>また、[システム (System)] [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p> <p>(注) このフィールドは、FXS ゲートウェイではサポートされていません。</p>
[プロダクト固有の設定 (Product-Specific Configuration)]	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that are defined by the gateway manufacturer)]	<p>ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップ ダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでのデジタル アクセス T1 トランクのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG200 ゲートウェイで T1 CAS トランクの値を追加または更新するためのフィールドに関する詳細な説明を示します。

一部のフィールドには、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定された値が表示されます。

BAT ユーザ インターフェイスでフィールド名にアスタリスクが付いている場合は必ず入力する必要があります。アスタリスクが付いていないフィールドの入力は任意です。

表 40: デジタル アクセス T1 (T1-CAS) の構成時の設定

フィールド	説明
エンドポイント名 (End-Point Name)	<p>VG200ゲートウェイの場合、この読み取り専用フィールドには、VG200 デジタルインターフェイスを一意に識別する Cisco Unified Communications Manager によって生成される文字列が含まれます。</p> <p>次に例を示します。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット1、DS1-0はデジタルインターフェイス、@VG200-2 は VG200 のテンプレート名を指定します。</p>
説明	<p>デバイスの目的を特定する説明を入力します。説明には、任意の言語で最大50文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。</p>
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから適切なデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールは、このデバイスのプロパティのコレクション (Communications Manager グループ、日時グループ、地域、デバイスの自動登録用コーリングサーチスペースなど) を指定します。</p>
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>このパラメータによって、このゲートウェイを使用している着信コールがネットワーク外部のもの (OffNet) か、ネットワーク内部のもの (OnNet) かが決定します。</p> <p>[コールの分類 (Call Classification)] フィールドが [システム デフォルトの使用 (Use System Default)] として設定される場合、クラスタ全体に対する Cisco Unified Communications Manager の サービス パラメータ [コールの分類 (Call Classification)] の設定によって、ゲートウェイが OnNet であるか OffNet であるかが決定します。</p> <p>このフィールドにより、コールがオンネットの場合はオンネットアラート トーン、コールがオフネットの場合はオフネットアラート トーンが提供されます。</p>
[メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>このリストには、メディアリソースグループの優先順位付けされたグループ化が表示されます。アプリケーションは、[メディア リソース リスト (Media Resource List)] で定義された優先順位に従って、使用可能なメディア リソースから必要なメディア リソース (保留音サーバなど) を選択します。</p>

フィールド	説明
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。コーリング サーチ スペースは、収集された（発信側）番号のルーティング方法を決定するために検索されるルート パーティションのコレクションを指定します。</p> <p>このドロップダウン リスト ボックスに表示されるコーリング サーチ スペースの数を設定するには、[リストボックス項目の最大数 (Max List Box Items)] エンタープライズ パラメータを使用します。[リスト ボックス項目の最大数 (Maximum List Box Items)] エンタープライズ パラメータで指定されている数より多くのコーリングサーチスペースがある場合は、ドロップダウンリストボックスの横に省略ボタン (...) が表示されます。[...] ボタンをクリックすると、[コーリングサーチスペースの選択 (Select Calling Search Space)] ウィンドウが表示されます。[次の名前が含まれる項目を一覧表示 (List items where Name contains)] フィールドに、コーリング サーチ スペースの名前の一部を入力します。[使用する項目の選択 (Select item to use)] ボックスに表示されるコーリングサーチスペースのリストで、目的のコーリング サーチ スペース名をクリックし、[OK] をクリックします。</p> <p>(注) リストボックス項目の最大数を設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[Unified CMAAdmin パラメータ (Unified CMAAdmin Parameters)] を選択します。</p>
[AARコーリングサーチスペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する適切なコーリングサーチスペースを選択します。AAR コーリングサーチスペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされた場合に、収集された（発信側）番号の他のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。</p>
[所在地 (Location)]	<p>このデバイスの適切なロケーションを選択します。ロケーションは、このロケーションとの間のコールに使用可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを[なし (None)] に設定すると、ロケーション機能はこのデバイスが消費する帯域幅を追跡しません。</p>

フィールド	説明
[AARグループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AARグループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AARグループ設定を[なし (None)] にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
[MLPPドメイン (MLPP Domain)]	ドロップダウンリストボックスから、このデバイスと関連付ける MLPP ドメインを選択します。値を <None> のままにした場合、このデバイスは自身のデバイス プールに設定された値から、そのMLPPドメインを継承します。デバイスプールにMLPPドメインの設定がない場合は、このデバイスの MLPP ドメインは MLPP Domain Identifier エンタープライズ パラメータの設定値から継承されます。
[DTMF 優先シグナルの処理 (Handle DTMF Precedence Signals)]	このゲートウェイが特殊な DTMF シグナルを MLPP 優先レベルとして解釈できるようにするには、このボックスをオンにします。
ロード情報	ゲートウェイに適したファームウェアのロード情報を入力します。 ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。
[ポート選択順序 (Port Selection Order)]	最初 (最も小さい番号のポート) から最後 (最も大きい番号のポート) 、または最後から最初の順番で、発信コールに割り当てられるチャネルまたはポートの順番を選択します。 有効な入力値には [TOP_DOWN] (最初から最後) または [BOTTOM_UP] (下から上) があります。使用するポートの順序がわからない場合は、[TOP_DOWN] を選択します。
送信番号 (Digit Sending)	発信ダイヤルの送信番号タイプとして次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [DTMF] : Dual Tone Multifrequency (デュアル トーン多重周波数) 。通常のプッシュボタン信号ダイヤル • [MF] : 多重周波数 • [PULSE] : パルス (回転) ダイヤル

フィールド	説明
[ネットワーク ロケール (Network Locale)]	<p>ドロップダウンリストから、ゲートウェイに関連付けるロケールを選択します。ネットワーク ロケールは、特定の場所のハードウェアをサポートするための一連の詳細情報を識別します。ネットワーク ロケールには、特定の地理的領域のデバイスが使用するトーンとリズムの定義が含まれます。</p> <p>(注) すでにインストールされ、関連付けられたデバイスによってサポートされるネットワーク ロケールのみを選択してください。リストには、この設定に使用可能なすべてのネットワーク ロケールが表示されますが、すべてをインストールする必要はありません。デバイスが、ファームウェアでサポートされていないネットワーク ロケールに関連付けられている場合、そのデバイスは起動に失敗します。</p>
[SMDI基本ポート (SMDI Base Port)]	<p>T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。</p> <p>このパラメータを0以外の値に設定したときに、このゲートウェイがルートリストまたはルートグループの不明なタイプに属している場合、ハントがこのスパンを超えて続行されることはありません。</p>
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	
[地理的な場所 (Geo Location)]	<p>ドロップダウンリスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスを位置情報に関連付けないことを指定する、[位置情報を指定しない (Unspecified geo location)]を選択することもできます。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>
位置情報フィルタ (Geo Location Filter)	<p>ドロップダウンリストボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p><None> 設定をそのままにした場合、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報フィルタ (Geolocation Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p>
製品固有の設定	

フィールド	説明
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that the gateway manufacturer defines)]	<p>製品固有の設定下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイ メーカーが指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートでの T1 PRI または E1 PRI トランクのフィールドの説明

次の表では、Cisco VG200 ゲートウェイで T1 PRI または E1 PRI トランクの値を追加または更新するためのフィールドに関する詳細な説明を示します。

一部のフィールドでは、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定された値が表示されます。

BAT ユーザ インターフェイスでフィールド名にアスタリスクが付いている場合は必ず入力する必要があります。アスタリスクが付いていないフィールドの入力は任意です。

表 41: T1 PRI または E1 PRI のフィールドの説明

フィールド	説明
[デバイス情報 (Device Information)]	
Endpoint Name	<p>VG200 ゲートウェイの場合、この読み取り専用フィールドには、VG200 エンドポイントを一意に識別する Cisco Unified Communications Manager によって生成される文字列が含まれます。</p> <p>次に例を示します。</p> <p>S1/DS1-0@VG200-2</p> <p>S1 はスロット 1、DS1-0 はデジタル インターフェイス、@VG200-2 は VG200 のドメイン名を指定します。</p>
説明	<p>設定するエンドポイントの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。</p>

フィールド	説明
[デバイスプール (Device Pool)]	<p>ゲートウェイ/ポートのこのグループのデバイス プールを選択します。</p> <p>デバイス プールでは、地域、日時グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、自動登録用 コーリング サーチ スペースなど、デバイスに共通する特性のセットを定義します。</p>
[コールの分類 (Call Classification)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、オンネット、オフネット、またはシステムデフォルトとしてデバイスを設定するオプションを選択します。</p> <p>デバイス レベルで [システム デフォルトの使用 (Use System Default)] を選択した場合、デバイスが内部 (オンネット) にあるか、外部 (オフネット) にあるかを判別するために、システムによってサービスパラメータの値が使用されます。</p>
[ネットワーク ロケール (Network Locale)]	<p>このゲートウェイに関連付けるネットワーク ロケールを選択します。</p> <p>ネットワーク ロケールは、Cisco ゲートウェイおよび電話機が特定の地理的地域で PSTN およびその他のネットワークと通信する際に使用する一連のトーンとリズムで構成されます。</p>
[メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)]	<p>ゲートウェイ/ポートのこのグループのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。</p> <p>MRGL は、メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを指定します。アプリケーションは使用可能なメディア リソースの中から MRGL で定義されている優先順序に従って、必要なメディア リソースを選択します。</p>
[所在地 (Location)]	<p>ゲートウェイ/ポートのこのグループのロケーションを選択します。</p> <p>このロケーションは、制限付き帯域幅接続を使用してアクセスされるリモート ロケーションを示します。</p>

フィールド	説明
[AARグループ (AAR Group)]	このデバイスの自動代替ルーティング (AAR) グループを選択します。AAR グループはプレフィックス番号を設定します。この番号は、帯域幅不足のためにブロックされるコールをルーティングする際に使用されます。AARグループ設定を[なし (None)]にすると、ブロックされたコールの再ルーティングは行われません。
ロード情報	ゲートウェイに適したカスタムソフトウェアのロード情報を入力します。ここで入力する値は、このゲートウェイのデフォルト値を上書きします。 デフォルトのロードを使用するには、このフィールドを空白のままにします。
[発呼側名に UTF-8 を転送 (Transmit UTF-8 for Calling Party Name)]	このデバイスは、デバイスのデバイスプールのユーザロケール設定を使用して、Unicode を送信するかどうか、および受信した Unicode 情報を変換するかどうかを判断します。 送信側のデバイスに対してこのチェックボックスをオンにした場合に、デバイスのデバイスプールのユーザロケール設定が終端電話機のユーザロケールに一致すると、デバイスは Unicode を送信します。ユーザロケール設定が一致しない場合、デバイスはASCIIを送信します。 受信側のデバイスは、送信側のデバイスのデバイスプールのユーザロケール設定に基づいて、着信する Unicode 文字を変換します。ユーザロケール設定が終端電話機のユーザロケールに一致する場合、電話機に文字が表示されます。 トランクの両端で同じ言語グループに属していないユーザロケールが設定されると、電話機の表示が文字化けする可能性があります。
マルチレベル優先順位およびプリエンプション (MLPP) 情報	
[MLPP ドメイン (MLPP Domain)] (例: 「0000FF」)	このデバイスに関連付けられている MLPP ドメインの 16 進数値を入力します。値は空白または 0 ~ FFFFFFFF の値にしてください。
インターフェイス情報	

フィールド	説明
PRI プロトコル タイプ (PRI Protocol Type)	<p>スパンの通信プロトコルを選択します。</p> <p>E1 PRI スパンの場合、次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI AUSTRALIAN] : オーストラリアの ISDN • [PRI EURO] : ヨーロッパの ISDN • [PRI ISO QSIG E1] : ヨーロッパの PBX 間シグナリングプロトコル <p>T1 PRI スパンの場合、キャリアまたはスイッチに応じて複数のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [PRI 4ESS] : AT&T 長距離通信事業者、Lucent Definity スイッチ • [PRI 5E8 カスタム (PRI 5E8 Custom)] : Cisco Unified IP Phone、Nortel Meridian スイッチ、Lucent Definity スイッチ • [PRI 5E8 Teleos] : Madge Teleos ボックス • [PRI 5E8 インターコム (PRI 5E8 Intecom)] : インターコム PBX • [PRI5E9] : AT&T ファミリ地域交換スイッチまたは通信事業者 • [PRI NI2] : Sprint ファミリ地域交換スイッチまたは通信事業者 • [PRI DMS-100] : Sprint ファミリ地域交換スイッチまたは通信事業者 • [PRI DMS-250] : MCI および Sprint ファミリ地域交換スイッチまたは通信事業者 • [PRI ETSI SC] : T1 でのヨーロッパ地域通信事業者、日本の地域通信事業者 • [PRI ISO QSIG T1] : PBX 間シグナリングプロトコル
プロトコル側 (Protocol Side)	<p>適切なプロトコル側を選択します。この設定は、ゲートウェイがセントラル オフィスまたはネットワーク デバイスに接続するか、あるいはユーザ デバイスに接続するかどうかを指定します。</p> <p>PRI 接続の両端で逆の設定が使用されていることを確認してください。たとえば、PBX に接続しているときにその PBX がプロトコル側として [ユーザ (User)] を使用する場合、このデバイスには [ネットワーク (Network)] を選択してください。通常、セントラル オフィス (CO) 接続には [ユーザ (User)] を使用します。</p>

フィールド	説明
チャンネル選択順序 (Channel Selection Order)	<p>最初 (最も小さい番号のポート) から最後 (最も大きい番号のポート)、または最後から最初の順番で、有効化されるチャンネルまたはポートの順番を選択します。</p> <p>有効なエントリには、[TOP_DOWN] (最後から最初) または [BOTTOM_UP] (下から上) があります。使用するポートの順序がわからない場合は、[TOP_DOWN] を選択します。デフォルトは [BOTTOM_UP] です。</p>
チャンネル IE タイプ (Channel IE Type)	<p>次の値のいずれかを選択して、チャンネル選択がチャンネルマップとして提示されるか、スロットマップとして提示されるかを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [番号 (Number)] : B チャンネルの使用では、常にチャンネルマップ形式で提示されます。 • [スロットマップ (Slotmap)] : B チャンネルの使用では、常にスロットマップ形式で提示されます。 • [1B では番号を使用 (Use Number When 1B)] : チャンネルの使用時、B チャンネルが 1 つの場合にはチャンネルマップが提示されますが、複数の B チャンネルが存在する場合はスロットマップが提示されます。これがデフォルト値です。
PUnifiedCMType	<p>デジタルエンコード形式を指定します。次の形式のいずれか 1 つを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [a-law] : ヨーロッパおよびその他の地域で使用されています。 • [mu-law] : 北米、香港、台湾、日本で使用されています。
[最初の再起動での遅延 (Delay for First Restart)]	<p>このオプションのフィールドには、スパンがインサービスになる速度を入力します (1/8 秒単位)。システムで多数の PRI スパンが有効になっているときに、[Inhibit Restarts at PRI Initialization] チェックボックスがオフになっている場合、この遅延が発生します。デフォルト値は 32 です。</p> <p>たとえば、最初の 5 枚のカードを 0 に設定し、次の 5 枚のカードを 16 に設定します (インサービスにする前に 2 秒待機します)。</p>

フィールド	説明
[再起動間での遅延 (Delay Between Restarts)]	再起動間の時間を入力します (1/8 秒単位)。[再起動の抑止 (Inhibit Restarts)] チェックボックスがオフの場合に PRI RESTART が送信されると、この遅延が発生します。デフォルト値は 4 です。
[PRI 初期化での再起動の抑止 (Inhibit restarts at PRI initialization)]	再起動のメッセージで、PRI スパンのポートのステータスを確認します。RESTART が送信されない場合、Cisco Unified Communications Manager はポートがインサービスであると見なします。デフォルトでは、ボックスはオンになっています。 D チャンネルが別の PRI トランクの D チャンネルに正常に接続されるとき、このボックスがオフの場合は再起動を送信します。
[ステータスポーリングを有効化 (Enable status poll)]	このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager 拡張サービスパラメータ ([B チャンネル メンテナンス ステータスの変更 (Change B-Channel Maintenance Status)]) が有効になります。このサービスパラメータによって、B チャンネルがアクティブのときに、個々の B チャンネルをアウトオブサービスにできます。 このチェックボックスをオフにすると、サービスパラメータ [B チャンネル メンテナンス ステータスの変更 (Change B-Channel Maintenance Status)] は無効になります。 このフィールドは、デフォルトでオフになっています。
[不在ポート (Unattended Ports)]	このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。
コールルーティングに関する情報 - 着信コール (Call Routing Information - Inbound Calls)	

フィールド	説明
[優位な桁数 (Significant Digits)]	<p>このフィールドは、着信コールで PRI スパンを保持する必要のある末尾からの桁数を表します。有意な桁のあるトランクが有効な場合、着信コールに指定されたアドレスの最後の数桁以外をすべて短縮します。</p> <p>有意な桁を収集するかどうかによって、このチェックボックスをオンまたはオフにします。</p> <ul style="list-style-type: none"> このチェックボックスをオフにすると、Cisco Unified Communications Manager は着信番号を短縮しません。 このチェックボックスをオンにした場合、収集する有意な桁の数も選択する必要があります。デフォルトでは、ボックスはオンになっています。
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	<p>電話機/ポートのこのグループのコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>コーリング サーチ スペースは、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。</p>
[AAR コーリング サーチ スペース (AAR Calling Search Space)]	<p>自動代替ルーティング (AAR) を実行する際にデバイスが使用する、適切なコーリング サーチ スペースを選択します。AAR コーリング サーチ スペースは、帯域幅不足が原因でコールがブロックされる場合に、ルートパーティションのコレクションを指定します。このルートパーティションは、収集された (発信側) 番号の他のルーティング方法を決定するために検索されます。</p>
[プレフィックス DN (Prefix DN)]	<p>このオプションのフィールドでは、トランクが着信コールで受信する数字に付加するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、[桁数 (Num Digits)] の設定に従って番号を短縮した後に、プレフィックス番号を追加します。</p>
<p>コール ルーティングに関する情報 - 発信コール (Call Routing Information - Inbound Calls)</p>	

フィールド	説明
発信側回線 ID の表示 (Calling Line ID Presentation)	<p>Cisco Unified Communications Manager で発信者の電話番号を送信するかブロックするかを選択します。</p> <p>発信側回線 ID の表示を変更したくない場合、[Default] を選択します。Cisco Unified Communications Manager から「許可された発信側回線 ID」を送信する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。「」 Cisco Unified Communications Manager から「制限された発信側回線 ID」を送信する場合は、[制限あり (Restricted)] を選択してください。「」</p>
発呼者の選択 (Calling Party Selection)	<p>ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Originator : 発信側デバイスのディレクトリ番号を送信します。この番号はデフォルト値として機能します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : リダイレクト側デバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールをリダイレクトしたデバイスの電話番号を送信します。

フィールド	説明
[発呼者IE番号タイプが不明 (Calling party IE number type unknown)]	<p>発信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパのダイヤリング プランなどのダイヤリング プランの経験が豊富な場合を除き、デフォルト値を変更しないことを推奨します。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないため、ヨーロッパではデフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国タイプ以外の番号としてルーティングを使用する PBX に接続する場合にも、この設定を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します。このオプションがデフォルト値です。 • 国際 (International) : その国のダイヤリング プラン範囲外にダイヤルする場合に使用します。 • 国内 (National) : その国のダイヤリング プラン範囲内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : このオプションは、ダイヤリング プランが不明であることを示します。

フィールド	説明
Called Party IE Number Type Unknown	<p>着信側電話番号の番号タイプの形式を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、着信側電話番号 (DN) タイプを設定します。NANP やヨーロッパのダイヤリングプランなどのダイヤリングプランの経験が豊富な場合を除き、デフォルト値は変更しないことを推奨します。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないため、ヨーロッパではデフォルト値の変更が必要になる場合があります。国タイプ以外の番号としてルーティングを使用する PBX に接続する場合にも、この設定を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : デフォルト設定では、Cisco Unified Communications Manager が電話番号のタイプを設定します。 • 国際 (International) : その国のダイヤリングプラン範囲外にダイヤルする場合に使用します。 • 国内 (National) : その国のダイヤリングプラン範囲内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : このオプションは、ダイヤリングプランが不明であることを示します。

フィールド	説明
着信番号計画 (Called Numbering Plan)	<p>着信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、着信側 DN の番号計画を設定します。NANP やヨーロッパのダイヤリング プランなどのダイヤリング プランの経験が豊富な場合を除き、デフォルト値は変更しないことを推奨します。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないため、ヨーロッパではデフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国タイプ以外の番号としてルーティングを使用する PBX に接続する場合にも、この設定を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : デフォルト設定では、Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します。 • ISDN : その国のダイヤリング プラン範囲外にダイヤルする場合に、これを使用します。 • 国内標準 (National Standard) : その国のダイヤリング プラン範囲内でダイヤルする場合に使用します。 • [プライベート (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : このオプションは、ダイヤリング プランが不明であることを示します。

フィールド	説明
発呼番号計画 (Calling Numbering Plan)	<p>発信側電話番号の番号計画の形式を選択します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、発信側 DN の番号計画を設定します。NANP やヨーロッパのダイヤリング プランなどのダイヤリング プランの経験が豊富な場合を除き、デフォルト値は変更しないことを推奨します。Cisco Unified Communications Manager はヨーロッパの国別ダイヤルパターンを認識しないため、ヨーロッパではデフォルト値の変更が必要になる場合があります。また、国タイプ以外の番号としてルーティングを使用する PBX に接続する場合にも、この設定を変更できます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [Communications Manager] : デフォルト設定では、Cisco Unified Communications Manager が電話番号の番号計画を設定します。 • ISDN : その国のダイヤリング プラン範囲外にダイヤルする場合に、これを使用します。 • 国内標準 (National Standard) : その国のダイヤリング プラン範囲内でダイヤルする場合に使用します。 • [プライベート (Private)] : プライベート ネットワーク内でダイヤルする場合に使用します。 • [不明 (Unknown)] : このオプションは、ダイヤリング プランが不明であることを示します。
[削除桁数 (Number of Digits to Strip)]	<p>発信コールで削除する桁数 (0 ~ 32 桁) を選択します。デフォルト値は 0 です。</p> <p>たとえば、8889725551234 にダイヤルするときに、削除する桁数が 3 であるとしします。この例では、Cisco Unified Communications Manager は発信番号から 888 を削除します。</p>

フィールド	説明
[発信者ID DN (Caller ID DN)]	<p>発信者 ID に使用するパターンを 0 ～ 24 桁で入力します。</p> <p>たとえば、北米では次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発信者 ID。ここで、X は内線番号に相当します。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリア コードを追加します。 • 5555000 = 固定の発信者 ID。コールを発信した正確な内線番号ではなく社内番号を送信する場合に使用します。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリア コードを追加します。
[SMDI基本ポート (SMDI Base Port)]	T1 スパンの最初の SMDI ポート番号を入力します。
[PRI プロトコル タイプ固有情報 (PRI Protocol Type Specific Information)]	
[IE 配信の表示 (Display IE Delivery)]	このオプションのフィールドでは、発信側および着信側ネーム デリバリー サービスの SETUP メッセージおよび CONNECT メッセージで表示情報要素 (IE) の配信を有効にする場合、チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。
[番号 IE 配信のリダイレクト - アウトバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Outbound)]	<p>このオプションのフィールドでは、コール転送時に SETUP メッセージにリダイレクト番号 IE を含め、最初のリダイレクト番号とコールがリダイレクトされた理由を示す場合に、チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。</p> <p>この設定は、デジタルアクセス ゲートウェイのすべてのプロトコルの SETUP メッセージにのみ適用されます。</p>
[番号 IE 配信のリダイレクト - インバウンド (Redirecting Number IE Delivery - Inbound)]	<p>このオプションのフィールドでは、コール転送時に SETUP メッセージにリダイレクト番号 IE を含め、最初のリダイレクト番号とコールがリダイレクトされた理由を示す場合に、チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。</p> <p>この設定は、デジタルアクセス ゲートウェイのすべてのプロトコルの SETUP メッセージにのみ適用されます。</p>

フィールド	説明
IE 表示での付加先行文字を送る (Send Extra Leading Character in Display IE)	<p>[DisplayIE] フィールドに特殊な先頭文字バイト (ASCII 以外、表示不可) を含める場合は、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>[DisplayIE] フィールドからこの文字バイトを除外する場合は、このチェックボックスをオフにします。</p> <p>このチェックボックスは、DMS-100 プロトコルおよび DMS-250 プロトコルにのみ適用されます。</p> <p>デフォルトでは、この設定は無効になっています (オフ)。</p>
[非 ISDN プログレス インジケータ IE を有効に設定 (Setup of Non-ISDN Progress Indicator IE Enable)]	<p>このオプションのフィールドでは、このフィールドに値を指定して、一部の PBX でリングバックを強制することが必要な場合があります。</p> <p>デフォルトでは、オフになっています。ユーザが発信コールでリングバック トーンを受信しない場合のみ、このチェックボックスをオンにします。</p> <p>この設定を有効にすると、Cisco Unified Communications Manager は、[プログレス インジケータ (Progress Indicator)] フィールドが非 ISDN に設定されたデジタル (つまり、非 H.323) ゲートウェイに Q.931 SETUP メッセージを送信します。</p> <p>このメッセージは、Cisco Unified Communications Manager ゲートウェイが非 ISDN であり、接続先デバイスはインバンドのリングバックを再生する必要があることを、接続先デバイスに通知します。</p> <p>この問題は、通常、デジタルゲートウェイ経由で PBX に接続している Cisco Unified Communications Manager に関連しています。</p>
MCDN チャネル番号拡張ビットを 0 に設定 (MCDN Channel Number Extension Bit Set to Zero)	<p>このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルのみです。インターフェイス識別子が存在することを示す場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。</p>
ファシリティ IE でのコール名を送る (Send Calling Name in Facility IE)	<p>このフィールドが適用されるのは、DMS-100 プロトコルのみです。PBX プロバイダーから取得した値を入力します。有効な値の範囲は 0 ~ 255 です。</p>

フィールド	説明
インターフェイス識別子あり (Interface Identifier Present)	このフィールドが適用されるのは、DMS-100プロトコルのみです。インターフェイス識別子が存在することを示す場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、ボックスはオフになっています。
インターフェイス識別子の値 (Interface Identifier Value)	このフィールドが適用されるのは、DMS-100プロトコルのみです。PBXプロバイダーから取得した値を入力します。有効な値の範囲は 0 ~ 255 です。
[接続側回線IDの表示 (Connected Line ID Presentation)]	Cisco Unified Communications Manager で接続先の電話番号を許可するかブロックするかを選択します。 接続側回線 ID の表示を変更しない場合は、[Default] を選択します。Cisco Unified Communications Manager から許可された「接続先回線ID」を送信する場合は、[許可 (Allowed)] を選択します。「 Cisco Unified Communications Manager から「制限された接続先回線ID」を送信する場合は、[制限あり (Restricted)] を選択してください。「
[UUIE 設定 (UUIE Configuration)]	
[UUIEを介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)]	PRI 4ESS UUIE を介した MLPP 情報の通知を有効にする場合に、このチェックボックスをオンにします。このボックスは、DRSN スイッチと一緒に機能させるために使用します。 このゲートウェイの [PRI プロトコルタイプ (PRI Protocol Type)] の値に [PRI 4ESS] が指定されている場合にのみ、システムはこのチェックボックスを使用可能にします。 デフォルトではオフです。
[セキュリティアクセスレベル (Security Access Level)]	セキュリティ アクセス レベルの値を入力します。有効な値は、00 ~ 99 です。[UUIE を介した優先レベルの通知 (Passing Precedence Level Through UUIE)] チェックボックスがオンになっているときだけ使用できます。デフォルト値は 2 です。
[位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]	

フィールド	説明
[地理的な場所 (Geo Location)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報を選択します。</p> <p>このデバイスを位置情報に関連付けないことを指定する、[位置情報を指定しない (Unspecified geo location)] を選択することもできます。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報の設定 (Geolocation Configuration)] メニュー オプションで設定された位置情報を選択することもできます。</p>
位置情報フィルタ (Geo Location Filter)	<p>ドロップダウン リスト ボックスで、位置情報フィルタを選択します。</p> <p><None> 設定をそのままにした場合、このデバイスには位置情報フィルタは適用されません。</p> <p>また、[システム (System)] > [位置情報設定フィルタ (Geolocation Configuration Filter)] メニュー オプションで設定された位置情報フィルタを選択することもできます。</p>
<p>製品固有の設定</p> <p>ゲートウェイのメーカーは、製品固有の設定の下に、モデル固有の設定を指定します。製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップウィンドウにヘルプを表示します。詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照してください。</p>	

ポートの構成時の設定

すべてのポートタイプおよびシスコでサポートするゲートウェイの構成時の設定について、以下に詳細なフィールドの説明を記載します。

関連トピック

- [POTS ポートの設定項目 \(533 ページ\)](#)
- [デジタルアクセス T1 用 E & M ポートのフィールドの説明 \(536 ページ\)](#)
- [ゲートウェイの設定項目 \(487 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

POTS ポートの設定項目

次の表で POTS ポートの設定項目について説明します。

表 42: POTS ポートの設定項目

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リスト ボックスから、[POTS] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	<p>使用可能なすべてのポート、1つのポート、一定範囲のポートのいずれを追加して設定するかを選択するため、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに適切な値を設定します。 • 1つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドに同一値を設定します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)] フィールドの両方で [すべてのポート (All Ports)] を選択します。
[ポートディレクション (Port Direction)]	<p>このポートを通過するコールの方向を選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [着信 (Inbound)] : 着信コールのみに使用します。 • [発信 (Outbound)] : 発信コールに使用します。 • [両方 (Both Ways)] : 着信コールと発信コールに使用します (デフォルト)。
[IPネットワークへの音声信号の調整 (Audio Signal Adjustment into IP Network)]	<p>ポートアプリケーションタイプに関連して、受信した音声信号に適用されるゲインまたは損失を指定します。</p> <p>(注) ゲインを不適切に設定すると、音響エコーが発生します。この設定を調整する際は慎重に行ってください。</p>
[IPネットワークからの音声信号の調整 (Audio Signal Adjustment from IP Network)]	<p>ポートアプリケーションタイプに関連して、送信される音声信号に適用されるゲインまたは損失を指定します。</p> <p>(注) ゲインを不適切に設定すると、音響エコーが発生します。この設定を調整する際は慎重に行ってください。</p>
[プレフィックスDN (Prefix DN)]	<p>このトランクがインバウンドコールで受信する数字に付加するプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、[桁数 (Num Digits)] の設定に従って番号を短縮した後に、プレフィックス番号を追加します。</p>

フィールド	説明
[桁数 (Num Digits)]	<p>収集する有意な桁の数 (0 ~ 32) を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコール先番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>着信コールの処理に使用します。また、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信者番号を、最後の数字からの桁数で指定します。[プレフィックスDN (Prefix DN)]を参照してください。</p>
[必要な桁数 (Expected Digits)]	<p>トランクの着信側で必要な桁数を入力します。このフィールドが使用されることはほとんどありませんが、必要な桁数がわからない場合は、デフォルト値の 0 のままにします。</p>
[コールリスタートタイマー (1000 ~ 5000 ms) (Call Restart Timer (1000-5000 ms))]	<p>コールリスタートタイマー (1000 ~ 5000 ms)。「ms」はミリ秒単位の時間を示します。</p>
[オフフック検証タイマー (100 ~ 1000 ms) (Offhook Validation Timer (100-1000 ms))]	<p>オフフック検証タイマー (100 ~ 1000 ms)。「ms」はミリ秒単位の時間を示します。</p>
[オンフック検証タイマー (100 ~ 1000 ms) (Onhook Validation Timer (100-1000ms))]	<p>オンフック検証タイマー (100 ~ 1000 ms)。「ms」はミリ秒単位の時間を示します。</p>
[フックフラッシュタイマー (100 ~ 1500 ms) (Hookflash Timer (100-1500 ms))]	<p>フックフラッシュタイマー (100 ~ 1500 ms)。「ms」はミリ秒単位の時間を示します。</p>
[SMDIポート番号 (0-4096) (SMDI Port Number (0-4096))]	<p>このフィールドは、ボイスメッセージングシステムに接続するアナログアクセスポートに使用します。</p> <p>SMDIポート番号を、アナログアクセスポートが接続するボイスメッセージングシステム上の実際のポート番号と等しい番号に設定します。</p> <p>(注) 通常、ボイスメッセージングシステムが正常に動作するためには、ボイスメール論理ポートが、ボイスメッセージングシステムの物理ポートに一致する必要があります。</p>
[製品固有の設定 (Product-Specific Configuration)]	

フィールド	説明
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that the gateway manufacturer defines)]	<p>製品固有の設定下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイメーカーが指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)]見出しの右側にある [?]「」情報アイコンをクリックして、ポップアップ ダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

デジタル アクセス T1 用 E & M ポートのフィールドの説明

Cisco VG200 ゲートウェイの T1 CAS トランク用 E&M ポートの値を追加または更新する際に、次のフィールドの説明を参照してください。

一部のフィールドには、Cisco Unified Communications Manager Administration で設定された値が表示されます。

BAT ユーザ インターフェイスでフィールド名にアスタリスクが付いている場合は必ず入力する必要があります。アスタリスクが付いていないフィールドへの入力はオプションです。

次の表で、E & M ポートの設定項目について説明します。

表 43: E & M ポートの設定項目

フィールド	説明
[ポートタイプ (Port Type)]	[ポートタイプ (Port Type)] ドロップダウン リストボックスから、[EANDM] を選択します。
[開始ポート番号 (Beginning Port Number)] [終了ポート番号 (Ending Port Number)]	<p>使用可能なすべてのポート、1つのポート、一定範囲のポートのいずれを追加して設定するかを選択するため、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)]フィールドに値を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ポートの範囲を指定するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)]フィールドに適切な値を設定します。 • 1つのポートを作成するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)]フィールドに同一値を設定します。 • 使用可能なすべてのポートを追加するには、[開始ポート番号 (Beginning Port Number)]フィールドと [終了ポート番号 (Ending Port Number)]フィールドの両方で [すべてのポート (All Ports)]を選択します。

フィールド	説明
ポートの詳細	
[ポートディレクション (Port Direction)]	このポートを通過するコールの方向を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [着信 (Inbound)] : 着信コールのみに使用します。 • [発信 (Outbound)] : 発信コールに使用します。 • [両方 (Both Ways)] : 着信コールと発信コールの両方に使用します。
発呼者の選択 (Calling Party Selection)	ゲートウェイ上のすべての発信コールは、電話番号情報を送信できます。送信される電話番号を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [発信元 (Originator)] : 発信側デバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (First Redirect Number)] : リダイレクトを行うデバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (Last Redirect Number)] : 最後にコールをリダイレクトするデバイスの電話番号を送信します。 • [最初のリダイレクト番号 (外部) (First Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、リダイレクトを行う最初のデバイスの電話番号を送信します。 • [最後のリダイレクト番号 (外部) (Last Redirect Number (External))] : 外部電話マスクが適用されている、リダイレクトを行う最後のデバイスの電話番号を送信します。
[発信者 ID タイプ (Caller ID Type)]	発信者 ID タイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [ANI] : 非同期ネットワークインターフェイス (ANI) 発信者 ID タイプを使用する場合はこのタイプを選択します。 • [DNIS] : 着信番号識別サービス (DNIS) 発信者 ID タイプを使用する場合はこのタイプを選択します。
[発信者 ID DN (Caller ID DN)]	発呼者回線 ID に使用するパターンを 0 ~ 24 桁で入力します。たとえば、北米では次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> • 555XXXX = 可変の発呼者回線 ID。ここで、X は内線番号に相当します。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリアコードを追加します。 • 5555000 = 固定の発呼者回線 ID。コールの発信元の正確な内線番号の代わりに、社内番号を送信する場合に使用してください。市外局番を指定しない場合は、CO がこの番号にエリアコードを追加します。

フィールド	説明
[プレフィックスDN (Prefix DN)]	<p>着信コールの着信側番号に追加されるプレフィックス番号を入力します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、最初に [桁数 (Num Digits)] の設定に従って番号を短縮した後、プレフィックス番号を追加します。</p>
[桁数 (Num Digits)]	<p>収集する有意な桁の数 (0 ~ 32) を選択します。Cisco Unified Communications Manager は、有意な数字をコール先番号の右側 (最後の桁) からカウントします。</p> <p>[有意な数字 (Sig Digits)] チェックボックスをオンにしている場合に使用します。着信コールの処理に使用します。また、PRI スパンに入るコールのルーティングに使用する着信者番号を、最後の数字からの桁数で指定します。「Prefix DN」および「Sig Digits」を参照してください。</p>
[必要な桁数 (Expected Digits)]	<p>トランクの着信側に必要な桁数を入力します。必要な桁数がわからない場合は、フィールドのデフォルト値である 0 のままにします (このフィールドが使用されることはほとんどありません)。</p>
[不在ポート (Unattended Port)]	<p>このデバイスの不在ポートを指示する場合に、このチェックボックスをオンにします。</p>
[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)]	
[ゲートウェイのメーカーが定義するモデル固有の設定フィールド (Model-specific configuration fields that the gateway manufacturer defines)]	<p>製品固有の設定下にあるモデル固有のフィールドは、ゲートウェイメーカーが指定します。これらは動的に設定されるため、予告なしに変更される場合があります。</p> <p>製品固有の設定項目のフィールドの説明とヘルプを表示するには、[製品固有の設定 (Product Specific Configuration)] 見出しの右側にある [?] 「」 情報アイコンをクリックして、ポップアップダイアログボックスにヘルプを表示します。</p> <p>詳細情報が必要な場合は、設定する特定のゲートウェイのドキュメントを参照するか、メーカーにお問い合わせください。</p>

ゲートウェイ設定関連のトピック

- [Cisco ゲートウェイの追加 \(461 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの検索 \(469 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ テンプレートの追加または編集 \(471 ページ\)](#)
- [ゲートウェイの設定項目 \(487 ページ\)](#)

- [ポートの構成時の設定 \(533 ページ\)](#)
- [クエリを使用したシスコ ゲートウェイ レコードの削除 \(579 ページ\)](#)
- [シスコ ゲートウェイ レポートの生成 \(583 ページ\)](#)



第 50 章

ゲートウェイ ファイル形式

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベース内の Cisco ゲートウェイのファイル形式を一括して設定する方法について説明します。

- [ゲートウェイ ファイル形式の検索 \(541 ページ\)](#)
- [ゲートウェイ ファイル形式の設定 \(542 ページ\)](#)
- [ファイル形式の CSV データ ファイルとの関連付け \(545 ページ\)](#)

ゲートウェイ ファイル形式の検索

BAT を使用して、ゲートウェイ ファイル形式を検索します。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイファイル形式 (Gateway File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。[ゲートウェイファイル形式の検索/一覧表示 (Gateway File Format Find and List)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 次のいずれかを実行します。

- a) データベース内のレコードをすべて表示するには、ダイアログボックスを空欄のままにして、[ステップ 3 \(542 ページ\)](#) に進みます。
- b) レコードをフィルタまたは検索するには、次の手順を実行します。
 1. 最初のドロップダウン リスト ボックスで、検索パラメータを選択します。
 2. 2 番目のドロップダウン リスト ボックスで、検索パターンを選択します。
 3. 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

(注) 検索条件をさらに追加するには、[+] ボタンをクリックします。条件を追加すると、指定した条件をすべて満たしているレコードが検索されます。条件を削除するには、[-] ボタンをクリックすると最後に追加した条件が削除され、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックすると追加した検索条件がすべて削除されます。

ステップ 3 [検索 (Find)] をクリックします。

すべてのレコードまたは一致するレコードが表示されます。1 ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択します。

(注) データベースから複数のレコードを削除するには、該当するレコードの横のチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。この選択で設定可能なすべてのレコードを削除するには、[すべて選択 (Select All)] をクリックして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

ステップ 4 表示されたレコードのリストから、確認するレコードのリンクをクリックします。

ヒント ソート順を反転させるには、リスト見出しの上矢印または下矢印が使用可能であればそれをクリックします。

選択した項目がウィンドウに表示されます。

ゲートウェイ ファイル形式の設定

BAT を使用して、ゲートウェイ ファイル形式を作成、コピー、変更、または削除できます。

関連トピック

[CSV データ ファイル用のゲートウェイ ファイル形式の作成 \(542 ページ\)](#)

[既存のゲートウェイ ファイル形式のコピー \(543 ページ\)](#)

[既存のゲートウェイ ファイル形式の変更 \(544 ページ\)](#)

[CSV データ ファイルからのファイル形式の削除 \(545 ページ\)](#)

[ゲートウェイ設定関連のトピック \(538 ページ\)](#)

CSV データ ファイル用のゲートウェイ ファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用のゲートウェイ ファイル形式を作成できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイファイル形式 (Gateway File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。

ステップ 2 [新規追加 (Add New)] をクリックします。

[ゲートウェイファイル形式の作成 (Create Gateway File Format)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [形式名 (Format Name)] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。

ステップ 4 [デバイスフィールド (Device Fields)] で、ゲートウェイごとに定義するデバイス フィールド名を選択します。[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスで、デバイス フィールド名

をクリックし、矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

ゲートウェイ名と説明は常に選択されたままになります。

ヒント リストでランダムに複数のフィールド名を選択するには、**Ctrl** キーを押したまま、矢印をクリックしてそれらをまとめて選択します。アイテムの範囲を選択するには、**Shift** キーを使用します。

ステップ 5 [回線フィールド (Line Field)] ボックスで回線フィールド名をクリックし、矢印をクリックして、そのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

(注) ファイル形式として回線を選択した場合は、[電話番号 (Directory Number)] を必ず選択してください。

ヒント [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスと [選択済みのデバイスフィールド順序 (Selected Device Fields Order)] ボックス内のアイテムの順序を変更できます。アイテムを選択し、上矢印を使ってフィールドをリストの上位に移動するか、下矢印でフィールドをリストの下位に移動します。

ステップ 6 [IP 電話回線の最大数 (IP Phone Lines Maximums)] 領域で、[回線の最大数 (Maximum Number of Lines)] フィールドに最大値を入力します。

ステップ 7 カスタムファイル形式を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。[ゲートウェイファイル形式の検索/一覧表示 (Gateway File Format Find and List)] ウィンドウの [ファイル形式名 (File Format Names)] リストに、ファイル形式の名前が表示されます。

既存のゲートウェイ ファイル形式のコピー

既存のゲートウェイ ファイル形式をコピーできます。

手順

ステップ 1 コピーするゲートウェイ ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式を選択します。
[ゲートウェイファイル形式の設定 (Gateway File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 選択したファイル形式のコピーを作成するには、[コピー (Copy)] をクリックします。

ヒント ファイル形式をコピーするために、[ゲートウェイ ファイル形式の検索/一覧表示 (Gateway File Format Find and List)] ウィンドウで対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックすることもできます。

ステップ 4 [形式名 (Format Name)] フィールドに、コピーする形式の新しい名前を入力します。

- ステップ 5** 変更が終了したら、[保存 (Save)] をクリックして、リスト内の変更と一緒にコピーしたファイル形式を保存します。

関連トピック

- [ゲートウェイ ファイル形式の検索](#) (541 ページ)
- [既存のゲートウェイ ファイル形式の変更](#) (544 ページ)

既存のゲートウェイ ファイル形式の変更

BAT を使用して、既存のゲートウェイ ファイル形式を変更します。変更できるのはカスタムファイル形式だけです。

手順

- ステップ 1** 変更するゲートウェイ ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、変更するファイル形式を選択します。
[ゲートウェイファイル形式の設定 (Gateway File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 次の方法を使用して形式を変更します。
- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] または [回線フィールド (Line Fields)] ボックスでそれらを選択し、矢印をクリックすると、選択したフィールドが [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスに移動します。
 - フィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスでそれらを選択し、矢印をクリックすると、選択したフィールドが [デバイスフィールド (Device Fields)] または [回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。

(注) 必須フィールドである [ゲートウェイ名 (Gateway Name)] と [説明 (Description)] は削除できません。
 - フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド順序 (Selected Device Field Order)] または [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスでフィールド名を選択し、上矢印または下矢印を使って位置を変更します。
- ステップ 4** 変更が終了したら、[保存 (Save)] をクリックしてファイル形式の変更内容を保存します。

関連トピック

- [ゲートウェイ ファイル形式の検索](#) (541 ページ)

CSV データ ファイルからのファイル形式の削除

BAT を使用して、CSV データ ファイル用の既存のファイル形式を削除します。削除できるのはカスタム形式だけです。

手順

- ステップ 1** 削除するゲートウェイ ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、それが削除対象のファイルであることを確認します。
- ステップ 3** リストからファイル形式を削除するには、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。ファイル形式の削除の確認を求めメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続行します。

(注) [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックする前に、表示された結果リストの全体を必ず確認してください。

リストからファイル形式の名前が削除されます。

関連トピック

[ゲートウェイ ファイル形式の検索](#) (541 ページ)

ファイル形式の CSV データ ファイルとの関連付け

テキストベースの CSV データ ファイルとファイル形式を関連付けることができます。

テキストエディタを使用して CSV データファイルを作成した際に、テキストベースのファイルに値を入力するため、ファイル形式を作成しました。ファイル形式によって指定された順序でテキスト ファイルに値を入力しました。

CSV データファイルに入力した後、ファイル形式をテキストベースの CSV データファイルと関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルと関連付けると、各フィールドの名前は CSV データファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、正しい順序で各フィールドに値を入力したことを確認できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイファイル形式 (Gateway File Format)] > [ファイル形式の追加 (Add File Format)] の順に選択します。[ゲートウェイファイル形式の追加 (Add Gateway Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ファイル形式名 (Format File Name)] フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。

ステップ 4 一致するファイル形式を CSV データファイルと関連付けるジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 51 章

ゲートウェイの挿入

この章では、シスコでサポートするゲートウェイを Cisco Unified Communications Manager データベースに挿入する方法について説明します。

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成 \(547 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用の CSV データ ファイルの作成 \(550 ページ\)](#)
- [Cisco VG224 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(551 ページ\)](#)
- [Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成 \(554 ページ\)](#)
- [Cisco VG310 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(557 ページ\)](#)
- [Cisco VG320 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(560 ページ\)](#)
- [Cisco VG350 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(562 ページ\)](#)
- [Cisco VG410 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成 \(565 ページ\)](#)
- [Cisco VG420 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成 \(568 ページ\)](#)
- [Cisco VG450 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成 \(571 ページ\)](#)
- [Cisco ISR 4461 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成 \(573 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)

Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データ ファイルの作成

Cisco VG200 ゲートウェイとポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

関連トピック

- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(813 ページ\)](#)
- [BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG200 ゲートウェイおよび T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS または FXO ポート用の CSV データ ファイルの作成 \(548 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG200 ゲートウェイおよび T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS または FXO ポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、個々の T1 CAS、T1 PRI、E1 PRI、FXS または FXO ポートに関するドメイン名、MGCP の説明、ポート識別子などの詳細を含む CSV データ ファイルを作成します。

T1 CAS の場合に限り、BAT スプレッドシートで指定するポートは VG200 テンプレートで指定したポートと同じでなければなりません。CSV データ ファイル内では、テンプレートで設定されたポートの全部または一部を指定することも、何も指定しないこともできます。テンプレートで設定されていないポートを CSV データ ファイルで設定しないでください。そうしないと、BAT VG200 テンプレートと CSV ファイルを挿入する試行でエラーが発生します。

たとえば、テンプレートでポート 1、2、3、および 4 を設定した場合は、CSV ファイルでどのポートも設定しないようにすることも、ポート 1、2、3、4 を設定することも、ポート 1 と 2 だけを設定することもできます。いずれの場合も挿入操作は受け入れられます。しかし、テンプレートで設定されていないポート 5 と 6 を CSV ファイルで設定した場合は、BAT で挿入エラーが発生します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートに関するフィールドの編集が終了したら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、C:\XLSDataFiles またはローカル ワークステーション上の選択した既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトファイル名が使用されます。

```
VG200Gateways#timestamp.txt
```

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



注目 いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG200 T1-Pri T1-Cas E1-Pri FXSFXO] タブをクリックします。
- ステップ 4** T1 CAS エンドポイントの場合に限り、右にスクロールして [ポート識別子の数 (Number of Port Identifiers)] フィールドを表示させます。Cisco VG200 ゲートウェイごとに追加するポート識別子の数を入力します。ポート識別子が 1 つだけ必要な場合は、この手順をスキップします。

ステップ 5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

表 44: VG200 ゲートウェイ T1 CAS、T1-PRI、E1-PRI、FXS および FXO ポート フィールドの設定値

フィールド	説明
MGCP ドメイン名 (MGCP Domain Name)	<p>ゲートウェイを識別する 1～64 文字の名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。</p> <p>ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が <code>vg200-1</code> に解決されるようゲートウェイで設定され、IP ドメイン名が設定されていない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合は <code>vg200-1</code>)。ゲートウェイでホスト名が <code>vg200-1</code> と設定され、ゲートウェイで IP ドメイン名が <code>cisco.com</code> と設定されている場合、このフィールドには <code>vg200-1.cisco.com</code> と入力します。</p>
MGCP の説明 (MGCP Description)	ゲートウェイの説明を最大 100 文字で入力します。ゲートウェイを特定しやすくなるように、具体的な説明を使用してください。
ポートの説明	ポート 1 の説明を最大 50 文字で入力します。リスト内でポートを特定しやすくなるような説明を使用してください。これは、ポート 2～4 の説明フィールドにも当てはまります。
ポート電話番号 (Port Directory Number)	<p>このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2～4 の電話番号フィールドにも当てはまります。</p> <p>注目 FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドを空白のままにします。</p>
スロット (Slot)	設定するスロット番号を入力します。VG200 の場合は、常に 1 です。
サブユニット (Subunit)	サブユニット値の整数を入力します。
Port Number	ポート番号の整数を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

ファイルは C:\XLSDDataFiles またはローカル ワークステーション上の選択した既存の別のフォルダに保存され、デフォルトのファイル名 `VG200Gateways#timestamp.txt` が使用されます。ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。

- (注) エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法を確認するには、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプル ファイルの表示 (View Sample File)] リンクをクリックします。

次のタスク

BAT から CSV データファイルにアクセスできるようにするには、CSV データファイルを サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

関連トピック

- [CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)
- [T1 CAS T1 PRI または E1 PRI トランク ファイル形式 \(815 ページ\)](#)
- [FXO または FXS トランク用 CSV ファイル形式 \(814 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート用の CSV データ ファイルの作成

電話番号やポートの説明など、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成できます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを見つけてダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [Catalyst 6000 (FXS) ポート (Catalyst 6000 (FXS) Ports)] タブをクリックします。
- ステップ 4** 各ポート レコードに関する情報を 1 行で入力します。

すべての必須フィールドと該当するオプションフィールドに値を入力します。各列の見出しでは、フィールドの長さが指定されます。

- [MAC アドレス (MAC Address)]: ゲートウェイの 12 桁の MAC アドレスを入力します。
- [ポート番号 (Port Number)]: ゲートウェイに追加するポート番号 (1 ~ 24 の数値) を入力します。
- [電話番号 (Directory Number)]: このポートの電話番号を最大 24 個の数字と特殊文字で入力します。パーティションを指定する場合には、電話番号を入力する必要があります。(オプション)

- [パーティション (Partition)]: このポートが属するルートパーティションを最大 50 文字で入力します。電話番号と一緒に指定する場合を除き、パーティションを指定しないでください。(オプション)。

注意 システムは、スプレッドシート内の空白行を End of File (EOF) として扱い、以降のレコードを破棄します。

ステップ 5 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式にエクスポート (Export to BAT Format)]をクリックします。

システムは、C:\XLSDataFiles\または選択した既存の別のフォルダにファイルを保存します。

(注) エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法を確認するには、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] リンクをクリックします。

次のタスク

BAT から CSV データファイルにアクセスできるようにするには、CSV データファイルをサーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。詳細については、「[ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)」を参照してください。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)

[Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(827 ページ\)](#)
[ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

Cisco VG224 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG224 Gateway とポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データファイルを作成します。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG224 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 \(552 ページ\)](#)

[Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(816 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG224 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終えたら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG224Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG224] タブをクリックします。
 - a) MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
 - b) SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
 - a) [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(553 ページ\)](#) に進みます。
 - b) [SCCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 1. [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
 2. [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
 3. [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
6. [作成 (Create)] をクリックして、選択したフィールドを VG224 シートに追加します。

ステップ 5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- [ドメイン名 (Domain Name)] : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ゲートウェイで `vg224-1` に解決されるようホスト名を設定し、IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「`vg224-1`」)。ゲートウェイでホスト名を `vg224-1` として設定し、IP ドメイン名を `cisco.com` として設定する場合、このフィールドに「`vg224-1.cisco.com`」と入力します。

- [説明 (Description)] : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- [ポートの説明 (Port Description)] : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。
- [ポート電話番号 (Port Directory Number)] : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドを空白のままにします。

- [スロット 2 (Slot 2)] : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG224 の場合、スロットは常に 2 です。
- [サブユニット (Subunit)] : サブユニット値の整数を入力します。VG224 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- [ポート番号 (Port Number)] : ポート番号の整数を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 `VG224Gateways#timestamp.txt` を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択された既存の別のフォルダに保存します。

- (注) エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードすれば、BAT からそのデータ入力ファイルにアクセスできるようになります。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)

[VG224 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#) (817 ページ)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成

Cisco Unified Communications Manager データベースに VG202 および VG204 ゲートウェイとポートを挿入するための CSV データ ファイルを作成できます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG202 および VG204 の FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成](#) (554 ページ)

[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (829 ページ)

BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG202 および VG204 の FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終えたら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG202Gateways#timestamp.txt または VG204Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG202-VG204] タブをクリックします。
- MGCP の場合は、[MGCP] オプション ボタンをクリックします。
 - SCCP の場合は、[SCCP] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
- [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(555 ページ\)](#) に進みます。
 - [SCCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 - [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
 - [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
 - [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
 - [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
 - 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
 - [作成 (Create)] をクリックして、選択したフィールドを VG224 シートに追加します。
- ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- ドメイン名/MAC アドレス (Domain Name/MAC Address) : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネームシステム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。SCCP ゲートウェイの場合は、MAC アドレスを使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ゲートウェイで `vg204-1` に解決されるようホスト名を設定し、IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「`vg204-1`」)。ゲートウェイでホスト名を `vg204-1` として設定し、IP ドメイン名を `cisco.com` として設定する場合、このフィールドに「`vg204-1.cisco.com`」と入力します。

- 説明 (Description) : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- [スロット (Slot)] : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG202 および VG204 の場合、スロットは常に 0 です。
- サブユニット (Subunit) : サブユニット値の整数を入力します。VG202 および VG204 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- ポート電話番号 (Port Directory Number) : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドが必須であることを注意してください。

- ポート番号 (Port Number) : ポート番号の整数を入力します。
- ポートの説明 (Port Description) : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別する説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

デフォルトのファイル名 `VG202Gateways#timestamp.txt` または `VG204Gateways#timestamp.txt` を使用してファイルがローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択した既存の別のフォルダに保存されます。

(注) エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードすれば、BAT からそのデータ入力ファイルにアクセスできるようになります。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)

[VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV ファイル形式](#) (830 ページ)
[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

Cisco VG310 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG310 Gateway とポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データファイルを作成します。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG310 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成](#) (557 ページ)

[Cisco VG310 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (817 ページ)

BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG310 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終わったら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカル ワークステーション上の C:\XLSDDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

```
VG310Gateways#timestamp.txt
```

ここで、「timestamp」 はファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG310] タブをクリックします。
- MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプション ボタンをクリックします。
 - SSCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
- [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(553 ページ\)](#) に進みます。
 - [SCCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 - [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
 - [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
 - [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
 - [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
 - 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
 - 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG310 シートに追加します。

ステップ 5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- [ドメイン名 (Domain Name)]: 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG310-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「VG310-1」)。ゲートウェイでホスト名を VG310-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG310-1.cisco.com」と入力します。

- [説明 (Description)] : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- [ポートの説明 (Port Description)] : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。
- [ポート電話番号 (Port Directory Number)] : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。
 - (注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。
- [スロット 2 (Slot 2)] : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG310 の場合、スロットは常に 2 です。
- [サブユニット (Subunit)] : サブユニット値の整数を入力します。VG310 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- [ポート番号 (Port Number)] : ポート番号の整数を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 VG310Gateways#timestamp.txt を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

(注) エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)

[VG310 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#) (818 ページ)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

Cisco VG320 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG320 Gateway とポートを データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データファイルを作成します。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG320 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 \(560 ページ\)](#)

[VG320 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(819 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG320 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終わったら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG320Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG320] タブをクリックします。
 - a) MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
 - b) SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。

- a) [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(553 ページ\)](#) に進みます。
- b) [SCCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 1. [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
 2. [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
 3. [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
 4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
 5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
 6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG320 シートに追加します。

ステップ 5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- **ドメイン名 (Domain Name)** : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と正確に一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG320-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します（この場合、「VG320-1」）。ゲートウェイでホスト名を VG320-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG320-1.cisco.com」と入力します。
- **説明 (Description)** : ゲートウェイに関する説明を入力します（最大 100 文字）。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- **ポートの説明 (Port Description)** : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。
- **ポート電話番号 (Port Directory Number)** : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

- (注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。
- [スロット 2 (Slot 2)]: 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG320 の場合、スロットは常に 2 です。
 - [サブユニット (Subunit)]: サブユニット値の整数を入力します。VG320 の場合、サブユニットは常に 0 です。
 - [ポート番号 (Port Number)]: ポート番号の整数を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 `VG320Gateways#timestamp.txt` を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択された既存の別のフォルダに保存します。

- (注) エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

関連トピック

- [CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)
- [VG320 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#) (820 ページ)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

Cisco VG350 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG350 Gateway とポートを Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキスト エディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG350 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成 \(563 ページ\)](#)

[VG350 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(821 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG350 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終えたら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカル ワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG350Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG350] タブをクリックします。
 - a) MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプション ボタンをクリックします。
 - b) SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
 - a) [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(553 ページ\)](#) に進みます。
 - b) [SCCP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 1. [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。

2. [デバイスフィールド (Device Field)]ボックスから必須のデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)]ボックスに移動します。
3. [回線フィールド (Line Fields)]ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)]ボックスに移動します。
4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG350 シートに追加します。

ステップ 5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- [ドメイン名 (Domain Name)]: 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG350-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「VG350-1」)。ゲートウェイでホスト名を VG350-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG350-1.cisco.com」と入力します。

- [説明 (Description)]: ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- [ポートの説明 (Port Description)]: ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。
- [ポート電話番号 (Port Directory Number)]: このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)]および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。

- [スロット 2 (Slot 2)]: 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG350 の場合、スロットは常に 2 です。
- [サブユニット (Subunit)]: サブユニット値の整数を入力します。VG350 の場合、サブユニットは常に 0 です。

- [ポート番号 (Port Number)] : ポート番号の整数を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 VG350Gateways#timestamp.txt を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

(注) エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

関連トピック

- [CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)
- [VG350 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式 \(822 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

Cisco VG410 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成

VG410 Gateway とポートを Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

- [BAT スプレッドシートを使用した VG 410 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(566 ページ\)](#)

関連トピック

- [BAT スプレッドシートを使用した VG 410 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(566 ページ\)](#)
- [VG410 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(822 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用した VG 410 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドの編集を完了したら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG410Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

ステップ 1 BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。

ステップ 2 スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。

ステップ 3 [VG410] タブをクリックします。

- MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
- SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。
- SIP プロトコルの場合は、[SIP] オプションボタンをクリックします。

ステップ 4 以下のいずれかを実行。

- [MGCP] を選択した場合は、ステップ 6 に進みます。
- [SCCP] または [SIP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 - [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
 - [デバイス フィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

3. [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG410 シートに追加します。

ステップ 5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- **ドメイン名 (Domain Name)** : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネームシステム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG410-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「VG410-1」)。ゲートウェイでホスト名を VG410-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG410-1.cisco.com」と入力します。

- **説明 (Description)** : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- **ポートの説明 (Port Description)** : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。
- **ポート電話番号 (Port Directory Number)** : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。

- **スロット (Slot)** : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG410 の場合、スロットは 0 です。
- **サブユニット (Subunit)** : サブユニット値の整数を入力します。VG410 の場合、スロット 0 の場合、サブユニットは 1 になります。
- **ポート番号 (Port Number)** : ポート番号の整数を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 `VG410Gateways#timestamp.txt` を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択された既存の別のフォルダに保存します。

ヒント エクスポートした CSV データ ファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

Cisco VG420 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成

VG420 Gateway とポートを Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した VG 420 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(568 ページ\)](#)

[VG420 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(823 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用した VG 420 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドの編集を完了したら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

`VG420Gateways#timestamp.txt`

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG420] タブをクリックします。
- MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
 - SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。
 - SIP プロトコルの場合は、[SIP] オプションボタンをクリックします。
- ステップ 4** 以下のいずれかを実行。
- [MGCP] を選択した場合は、ステップ 6 に進みます。
 - [SCCP] または [SIP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 - [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
 - [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
 - [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
 - [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
 - 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
 - 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG420 シートに追加します。
- ステップ 5** 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- **ドメイン名 (Domain Name)** : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネームシステム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG420-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「VG420-1」)。ゲートウェイでホスト名を VG420-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG420-1.cisco.com」と入力します。

- **説明 (Description)** : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- **ポートの説明 (Port Description)** : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。
- **ポート電話番号 (Port Directory Number)** : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。

- **[スロット (Slot)]** : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG420 の場合、スロットは 0 または 1 です。
- **サブユニット (Subunit)** : サブユニット値の整数を入力します。VG420 のスロット 0 では、サブユニットが 1、2、または 3 になります。スロット 1 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- **ポート番号 (Port Number)** : ポート番号の整数を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 VG420Gateways#timestamp.txt を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

ヒント エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

Cisco VG450 Gateway およびポート用 CSV データ ファイルの作成

VG450 Gateway とポートを Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データ ファイルを作成します。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG450 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成](#) (571 ページ)

[VG450 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (824 ページ)

BAT スプレッドシートを使用した Cisco VG450 FXS ゲートウェイおよびポート用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、ポート ID などの詳細を含む個々の FXS ポート用の CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドの編集を完了したら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

VG450Gateways#timestamp.txt

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (EnableMacros)] をクリックします。
- ステップ 3** [VG450] タブをクリックします。
 - a) MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプションボタンをクリックします。
 - b) SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプションボタンをクリックします。

c) SIP プロトコルの場合は、[SIP] オプションボタンをクリックします。

ステップ 4 以下のいずれかを実行。

1. [MGCP] を選択した場合は、ステップ 6 に進みます。
2. [SCCP] または [SIP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 1. [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。
 2. [デバイスフィールド (Device Field)] ボックスから必須のデバイス フィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
 3. [回線フィールド (Line Fields)] ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
 4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
 5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
 6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG450 シートに追加します。

ステップ 5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- **ドメイン名 (Domain Name)** : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメイン ネーム システム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ホスト名が VG450-1 と解決されるようにゲートウェイを設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「VG450-1」)。ゲートウェイでホスト名を VG450-1 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「VG450-1.cisco.com」と入力します。

- **説明 (Description)** : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- **ポートの説明 (Port Description)** : ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。

- ポート電話番号 (Port Directory Number) : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。
 - (注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。FXO ポートの場合は、これらのフィールドをブランクのままにします。
- スロット 2 (Slot 2) : 設定しようとしているスロット番号を入力します。VG450 の場合、スロットは常に 2 です。
- サブユニット (Subunit) : サブユニット値の整数を入力します。VG450 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- ポート番号 (Port Number) : ポート番号の整数を入力します。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

システムは、デフォルトのファイル名 VG450Gateways#timestamp.txt を使用して、ファイルをローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存します。

ヒント エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

関連トピック

[CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)

[VG450 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#) (825 ページ)

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

Cisco ISR 4461 Gateway 用 CSV データ ファイルの作成

ISR 4461 Gateway を Cisco Unified Communications Manager データベースに挿入するための CSV データファイルを作成することができます。BAT スプレッドシートとテキストエディタのいずれかを使用して CSV データファイルを作成します。

関連トピック

[BAT スプレッドシートを使用した Cisco ISR 4461 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成 \(574 ページ\)](#)

BAT スプレッドシートを使用した Cisco ISR 4461 ゲートウェイ用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、ドメイン名、MGCP の説明、およびその他の関連情報などの詳細を含む CSV データ ファイルを作成します。

BAT スプレッドシートでゲートウェイ ポートのフィールドを編集し終えたら、ファイルをエクスポートします。ファイルは、ローカルワークステーション上の C:\XLSDataFiles または選択された既存の別のフォルダに保存され、次のデフォルトのファイル名が使用されます。

```
ISR4461Gateways-#timestamp.txt
```

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



ヒント いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行の後ろに入力したデータは、BAT 形式に変換されません。

手順

- ステップ 1** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 2** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 3** [ISR 4461] タブをクリックします。
 - a) MGCP プロトコルの場合は、[MGCP] オプション ボタンをクリックします。
 - b) SCCP プロトコルの場合は、[SCCP] オプション ボタンをクリックします。
 - c) SIP プロトコルの場合は、[SIP] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 4** 次のいずれかを実行します。
 - a) [MGCP] を選択した場合は、[ステップ 5 \(575 ページ\)](#) に進みます。
 - b) [SCCP] または [SIP] を選択した場合は、[ファイル形式の作成 (Create File Format)] ボタンがスプレッドシートに表示されます。
 1. [ファイル形式の作成 (Create File Format)] をクリックすると、[フィールドの選択 (Field Selection)] ウィンドウが表示されます。

2. [デバイスフィールド (Device Field)]ボックスから必須のデバイスフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。
3. [回線フィールド (Line Fields)]ボックスから回線のフィールドを選択し、[>>] ボタンをクリックしてそれらのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。
4. [上へ (Up)] ボタンと [下へ (Down)] ボタンをクリックして、選択したフィールドを再配置します。
5. 選択済みのフィールドのリストからフィールドを削除するには、そのフィールドを選択して [<<] ボタンをクリックします。
6. 必須フィールドの選択を終えたら、[作成 (Create)] をクリックして選択したフィールドを VG4461 シートに追加します。

ステップ 5 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- **ドメイン名/MAC アドレス (Domain Name/MAC Address)** : 1 から 64 文字でゲートウェイを識別する名前を入力します。正しく解決するように設定されていれば、ドメインネームシステム (DNS) ホスト名を使用します。それ以外の場合は、Cisco MGCP ゲートウェイで定義されたホスト名を使用します。SCCPゲートウェイの場合は、MACアドレスを使用します。

ホスト名は、Cisco IOS ゲートウェイで設定されているホスト名と一致している必要があります。たとえば、ゲートウェイで ISR 4461 と解決されるようにホスト名を設定し IP ドメイン名を設定しない場合は、このフィールドにホスト名を入力します (この場合、「ISR 4461」)。ゲートウェイでホスト名を ISR 4461 と設定し IP ドメイン名を cisco.com と設定する場合、このフィールドに「ISR 4461.cisco.com」と入力します。

- **[説明 (Description)]** : ゲートウェイに関する説明を入力します (最大 100 文字)。ゲートウェイを特定するのに役立つ固有の説明を使用します。
- **[スロット (Slot)]** : 設定しようとしているスロット番号を入力します。ISR 4461 の場合、スロットは 0、1、2、または 3 です。
- **[サブユニット (Subunit)]** : サブユニット値の整数を入力します。ISR 4461 のスロット 0 では、サブユニットが 1、2、または 3 になります。スロット 1、2、または 3 の場合、サブユニットは常に 0 です。
- **[ポート電話番号 (Port Directory Number)]** : このポートの電話番号を最大 24 文字の数字と特殊文字で入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の電話番号フィールドに適用されます。

(注) FXS ポートの場合のみ、[ポート 1 電話番号 (Port 1 Directory Number)] および [パーティション (Partition)] フィールドは必須です。

- **[ポート番号 (Port Number)]** : ポート番号の整数を入力します。

- [ポートの説明 (Port Description)]: ポート 1 の説明を 50 文字以内で入力します。ポートの一覧でそのポートを識別できる説明を入力します。これは、ポート 2 からポート 4 の説明フィールドに適用されます。

ステップ 6 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT形式でエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

デフォルトのファイル名 `ISR4461Gateways-#timestamp.txt` を使用して、ファイルがローカルワークステーション上の `C:\XLSDataFiles` または選択した既存の別のフォルダに保存されます。

(注) エクスポートした CSV データファイルの読み取り方法については、BAT 内の [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] ウィンドウで [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

BAT が、データ入力ファイルとなる CSV データファイルにアクセスできるように、そのファイルを Unified Communications Manager サーバーの最初のノードにアップロードする必要があります。

Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入

BAT スプレッドシートを使用して、シスコゲートウェイとポートを Cisco Unified Communications Manager に追加することができます。

始める前に

- Cisco VG200 ゲートウェイを挿入する場合は、トランク用またはポート用の Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートと、VG200 ゲートウェイポート用の CSV データファイルが必要です。「[Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートの作成 \(472 ページ\)](#)」および「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データファイルの作成 \(547 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco Catalyst 6000 ポートを挿入する場合は、Cisco Catalyst 6000 ポートテンプレートと、この一括トランザクション用のポート詳細を含む CSV データファイルが必要です。「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ゲートウェイテンプレートの作成 \(477 ページ\)](#)」および「[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート用の CSV データファイルの作成 \(550 ページ\)](#)」を参照してください。
- Cisco VG224 ゲートウェイを挿入する場合は、トランク用またはポート用の Cisco VG224 ゲートウェイテンプレートと、VG224 ゲートウェイポート用の CSV データファイルが必要です。「[Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートの作成 \(472 ページ\)](#)」および「[Cisco VG200 ゲートウェイ用 CSV データファイルの作成 \(547 ページ\)](#)」を参照してください。

- Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイを挿入する場合は、トランク用またはポート用の Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイテンプレートと、VG202 または VG204 ゲートウェイポート用の CSV データファイルが必要です。「[Cisco VG202 または VG204 ゲートウェイテンプレートの作成 \(480 ページ\)](#)」および「[Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用の CSV データファイルの作成 \(554 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways)] の順に選択します。
[ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ゲートウェイタイプ (Gateway Type)] ドロップダウンリストから、挿入するゲートウェイのタイプを選択します。
[ゲートウェイの挿入 (Insert Gateways Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [ファイル名 (File Name)] フィールド ドロップダウンリストで、追加する Cisco VG200 ゲートウェイ情報を含む CSV データファイルの名前を選択します。
- ステップ 4** [ゲートウェイテンプレート名 (Gateway Template Name)] フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成した VG200 または FXS ゲートウェイテンプレートの名前を選択します。
- ステップ 5** (任意) [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存のゲートウェイ設定が、挿入するファイルに含まれる情報によって上書きされます。
- ステップ 6** [ジョブ情報 (Job Information)] エリアにジョブの説明を入力します。
- ステップ 7** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
 - a) すぐにゲートウェイを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b) 後でゲートウェイを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 8** ゲートウェイを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 52 章

Cisco ゲートウェイの削除

この章では、データベースから削除するゲートウェイレコードを検索する方法について説明します。ゲートウェイのグループを削除するためのクエリフィルタを定義する必要があります。[ゲートウェイの削除 (Delete Gateways Configuration)]ウィンドウを使用して削除できるのは、Cisco VG200 および Cisco Catalyst 6000 のゲートウェイレコードだけです。

- [クエリを使用したシスコ ゲートウェイ レコードの削除 \(579 ページ\)](#)
- [Cisco ゲートウェイの削除関連のトピック \(581 ページ\)](#)

クエリを使用したシスコ ゲートウェイ レコードの削除

クエリを使用して、Cisco Unified Communications Manager から削除するゲートウェイレコードを特定できます。[ゲートウェイの削除 (Delete Gateway Configuration)]ウィンドウを使用して削除できるのは、Cisco VG200、VG202、VG204、VG224、VG310、VG320、VG350、VG410、VG420、VG450、ISR 4461 および Cisco Catalyst 6000 ゲートウェイのみです。



注意 削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)]>[ゲートウェイ (Gateways)]>[ゲートウェイの削除 (Delete Gateways)]の順に選択します。

ステップ 2 [ゲートウェイの削除 (Delete Gateways where)] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。

- 名前
- 説明
- DN/ルート パターン
- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]

- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]

ステップ 3 2番目の [ゲートウェイの検索 (Find Gateways where)] ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 3番目のドロップダウン リストで [表示 (Show)] を選択して、関連付けられたエンドポイントを表示します。

ステップ 5 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを何も入力せずに、[検索 (Find)] をクリックします。

さらにクエリを定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2 \(579 ページ\)](#) ~ [ステップ 5 \(580 ページ\)](#) を繰り返します。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 6 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 7 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにゲートウェイを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でゲートウェイを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 8 ゲートウェイ レコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 9 [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

注意 クエリ テキスト ボックスに何も情報を入力しない場合、システムはすべてのゲートウェイレコードを削除します。削除アクションは不可逆です。削除したレコードを復元することはできません。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [Cisco ゲートウェイの削除関連のトピック \(581 ページ\)](#)

Cisco ゲートウェイの削除関連のトピック

- [クエリを使用したシスコ ゲートウェイ レコードの削除 \(579 ページ\)](#)
- [Cisco Unified Communications Manager へのゲートウェイとポートの挿入 \(576 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)



第 53 章

Cisco ゲートウェイ レポートの生成

この章では、VGXXX ゲートウェイのレポートの生成について説明します。



(注) VG200、VG224、VG202、VG310、VG320、VG350、VG450、ISR 4461、VG410、VG420 および VG204 ゲートウェイのレポートのみ生成できます。

- [シスコ ゲートウェイ レポートの生成 \(583 ページ\)](#)
- [Cisco ゲートウェイ レポート関連のトピック \(585 ページ\)](#)

シスコ ゲートウェイ レポートの生成

すべての VGXXX ゲートウェイに関するレポートを生成することも、ゲートウェイの限定セットに関するレポートを生成することもできます。VGXXX ゲートウェイに関するレポートは固定形式です。



(注) VG200、VG224、VG202、VG310、VG320、VG350、VG450、ISR 4461、VG410、VG420 および VG204 ゲートウェイのレポートのみ生成できます。

手順

- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [ゲートウェイ (Gateways)] > [ゲートウェイレポートの生成 (Generate Gateway Reports)] の順に選択します。
- ステップ 2 [ゲートウェイの検索 (Find Gateways where)] ドロップダウンリストから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - 名前
 - 説明
 - DN/ルート パターン

- [コーリングサーチスペース (Calling Search Space)]
- [デバイスプール (Device Pool)]
- [デバイスタイプ (Device Type)]

ステップ 3 2番目の[ゲートウェイの検索 (Find Gateways where)]ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 3番目のドロップダウンリストで[表示 (Show)]を選択して、関連付けられたエンドポイントを表示します。

ステップ 5 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)]をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべてのゲートウェイを検索するには、検索テキストを何も入力せずに、[検索 (Find)]をクリックします。

さらにクエリを定義するには、[AND]または[OR]を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2 \(583 ページ\)](#) ~[ステップ 5 \(584 ページ\)](#) を繰り返します。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- [ステータス (Status)]
- [IP アドレス (IP Address)]

ステップ 6 [次へ (Next)]をクリックして、レポートのタイプに関する詳細を選択します。
[ゲートウェイレポートの設定 (Gateway Report Configuration)]ウィンドウが開いて、選択したクエリが表示されます。クエリのタイプを変更する場合は、[戻る (Back)]をクリックします。

ステップ 7 [ファイル名 (File Name)]フィールドに、このレポートの名前を入力します (必須)。

ステップ 8 ドロップダウンリストから、ファイル形式を選択します。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)]領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 レポートをいつ生成するかを選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにレポートを生成する場合には、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でレポートを生成する場合には、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 11 レポートを生成するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

次のタスク

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] オプションを使用してレポートファイルを検索し、ダウンロードすることができます。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [レポート ログ ファイル \(369 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [Cisco ゲートウェイ レポート関連のトピック \(585 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

Cisco ゲートウェイ レポート関連のトピック

- [シスコ ゲートウェイ レポートの生成 \(583 ページ\)](#)
- [レポート ログ ファイル \(369 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)



第 **IX** 部

強制承認コードおよびクライアント識別コード

- [クライアント識別コードと強制承認コード \(589 ページ\)](#)
- [強制承認コードとクライアント識別コードの削除 \(599 ページ\)](#)



第 54 章

クライアント識別コードと強制承認コード

この章では、BAT を使用して強制承認コード (FAC) とクライアント識別コード (CMC) を設定する方法について説明します。CSV データ ファイルまたはテキストベースのカスタム CSV ファイルのいずれかを使用して、CMC または FAC の設定の作成、更新、削除、または追加を行うことができます。

- [BAT を使用した CMC と FAC のセットアップ \(589 ページ\)](#)
- [CMC および FAC 機能の実装 \(590 ページ\)](#)
- [BAT.xlt を使用した CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの作成 \(591 ページ\)](#)
- [テキスト エディタを使用したクライアント識別コードと強制承認コード用 CSV データ ファイルの作成 \(593 ページ\)](#)
- [既存の CMC または FAC CSV データ ファイルの編集 \(593 ページ\)](#)
- [CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの設定項目 \(594 ページ\)](#)
- [BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新 \(595 ページ\)](#)
- [データベースの CMC および FAC を更新するための BAT 設定項目 \(597 ページ\)](#)
- [CMC および FAC 設定関連のトピック \(597 ページ\)](#)

BAT を使用した CMC と FAC のセットアップ

強制承認コード (FAC) とクライアント識別コード (CMC) を使用すると、コールアクセスとアカウントリングを管理できます。CMC は、請求可能なクライアントに対するコールアカウントリングと請求を支援するのに対して、強制承認コードは、特定のユーザが発信可能なコールのタイプを制御します。

クライアント識別コードの場合は、コールが特定のクライアント識別に関連することを示すコードを入力する必要があります。クライアント識別コードは、コールアカウントリングと請求を目的として、顧客、学生、またはその他のグループに割り当てることができます。強制承認コード機能の場合は、コールが完了する前に有効な承認コードを入力する必要があります。

CMC 機能と FAC 機能では、ルートパターンを変更したら、ルートパターンごとに有効または無効にした FAC と CMC が反映されるようにダイヤルブランドキュメントを更新する必要があります。

BAT を使用して CMC または FAC を設定する前に、次の情報を確認してください。

- CMC 用と FAC 用の別々の CSV ファイルを作成します。1 つの CSV ファイルに 2 つの機能を混在させないでください。
- 初めて CMC または FAC 設定を追加するときに、BAT.xlt 経由で CSV ファイルを作成することも、カスタムのテキストベースの CSV ファイルを作成することもできます。
- CMC または FAC 設定を更新、削除、または追加する（2 回目以降）には、既存の CSV ファイルを編集することも、カスタムのテキストベースの CSV ファイルを作成することもできます。
- ファイル/スプレッドシートでは、1 行に複数のコード（および対応する設定）を入力しないでください。コード（および対応する設定）ごとに改行します。たとえば、強制承認コード用のコードを入力する場合は次の形式を使用します。

（承認コード, 承認コード名, 承認レベル）

1234,John Smith,20

1235,Lisa Mendez,10

5551,Debbie Dunn,30

- ファイルから情報を削除しても、その情報を空白のままにしておくと、データベースからその情報は削除されません。つまり、空白の値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。値を更新すると、データベース内の既存の値が上書きされます。
- 適切な CSV ファイルが サーバーの最初のノードにアップロードされていることを確認してください。
- CSV ファイルを作成または変更した場合はいつでも、その CSV ファイルを BAT に挿入し、データベースを更新する必要があります。

関連トピック

[CMC および FAC 設定関連のトピック](#)（597 ページ）

[BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新](#)（595 ページ）

[ファイルのアップロードおよびダウンロード](#)（23 ページ）

CMC および FAC 機能の実装

一括管理（BAT）を使用して CMC および FAC 機能を実装できます。



- (注) CMC および FAC 機能を有効にするには、ルート パターンを変更し、各ルートパターンで CMC および/または FAC を有効または無効にしたことが反映されるようにダイヤル プラント キュメントを更新する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** CMC および FAC 機能に関する重要な BAT 情報および一般情報について、以下の資料を確認します。
- [BAT を使用した CMC と FAC のセットアップ \(589 ページ\)](#)
 - [Cisco Unified Communications Manager 機能設定ガイド](#)
- ステップ 2** CMC または FAC 用の CSV ファイルを作成し、CMC および FAC の設定情報を入力します。
- ステップ 3** データベースを更新するには、BAT で CSV ファイルを挿入します。
- ステップ 4** Administration でルートパターンを追加または更新することによって、FAC または CMC を有効にします。
- ステップ 5** ダイヤルプラン ドキュメントを更新するか、BAT CSV ファイルのプリントアウトをダイヤルプラン ドキュメントと共にまとめておきます。
- ダイヤルプラン ドキュメントを参照してください。
- ステップ 6** コードなど必要なすべての情報をユーザに提供し、機能の動作方法を説明します。

関連トピック

[CMC および FAC 設定関連のトピック \(597 ページ\)](#)

BAT.xlt を使用した CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシート BAT.xlt を使用して、CMC または FAC 用の CSV ファイルを作成できます。2つの別個の CSV ファイル (1つは CMC 用、もう1つは FAC 用) を作成する必要があります。



-
- (注) BAT.xlt ファイルは サーバーの最初のノードに存在しますが、サーバー上には通常、Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、ファイルを最初のノードからコピーして Microsoft Excel がインストールされたローカルマシンに移動します。
-

始める前に

BAT を使用して CMC または FAC を設定する前に、「[BAT を使用した CMC と FAC のセットアップ \(589 ページ\)](#)」に記載されている重要な考慮事項を確認してください。

手順

- ステップ 1** **[Bulk Administration (一括管理)] > [Upload/Download Files (ファイルをアップロード/ダウンロード)]** の順に選択します。
[ファイルの検索/一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、BAT.xlt ファイルをダウンロードします。
- ステップ 3** Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンに BAT.xlt をコピーします。
- ステップ 4** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 5** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。
- ステップ 6** 次のいずれかのタブをクリックします。
- [CMC の挿入 (Insert CMC)] : CMC CSV を作成する場合
 - [FAC の挿入 (Insert FAC)] : FAC CSV を作成する場合
- ステップ 7** CMC または FAC の設定を列に入力します。
構成時の設定の説明については、「[表 45: CMC および FAC の設定項目 \(594 ページ\)](#)」を参照してください。
- (注) すべてのコードを入力するまで、[ステップ 7 \(592 ページ\)](#) を繰り返します。
- ステップ 8** Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに転送するには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。
ローカルマシン上の C:\XlsDatafiles に CSV ファイルが自動的に保存されます。
- ヒント 別の場所を選択するには、[参照 (Browse)] をクリックします。
-

次のタスク

変更した CSV ファイルを サーバーの最初のノードにアップロードします。

CSV ファイルを BAT に追加し、そのファイルを挿入することによって、データベースを更新する必要があります。

関連トピック

[サーバからのファイルのダウンロード \(25 ページ\)](#)

[CMC および FAC 設定関連のトピック \(597 ページ\)](#)

[BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新 \(595 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

テキストエディタを使用したクライアント識別コードと強制承認コード用 CSV データ ファイルの作成

テキストエディタを使用して、クライアント識別コード用および強制承認コード用のテキストベースの CSV データ ファイルを作成できます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルは表形式でテキスト情報を提供し、複数の値をカンマで区切った ASCII テキストの行を含んでいます。

関連トピック

[クライアント識別コードおよび強制承認コード用のカスタムのテキストベースの CSV ファイルの作成 \(830 ページ\)](#)

[CMC および FAC 設定関連のトピック \(597 ページ\)](#)

既存の CMC または FAC CSV データ ファイルの編集

既存のコードを更新するには、テキストエディタを使用して手動で既存の CSV ファイルを更新するか、新しい CSV ファイルを作成します。

CMC CSV ファイルを更新している場合には、たとえば「5555,Acme Toys」と入力できます。ここで 5555 は必須のクライアント識別コードに相当し、Acme Toys は説明に相当します。

FAC CSV ファイルを更新している場合は、たとえば「1234,John Smith,20」と入力できます。ここで 1234 は強制承認コードに相当し、John Smith は承認コード名に相当し、20 は承認レベルに相当します。

既存のレコードのどの部分も変更できますが、コード (強制承認コードやクライアント識別コードなど) を含める必要があります。情報を削除して空白のままにしても、データベースから情報は削除されません。空白値によってデータベース内の既存の値は上書きされませんが、たとえば上記の例で値を Acme Toys, Inc. または John L. Smith に更新すると、データベース内の既存の値が上書きされます。

手順

- ステップ 1** 既存の CSV データ ファイルを編集するには、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードから、ローカルワークステーションに CSV ファイルをダウンロードします。
- ステップ 2** テキストエディタを使用して、既存の CSV ファイルを開いて編集します。

既存の設定を削除するか、新しいコードを追加するか、既存の設定を更新します。CMC と FAC の設定の説明については、「[表 45 : CMC および FAC の設定項目 \(594 ページ\)](#)」を参照してください。

- 注意** 更新と同時に新しいコードを追加する場合は、必要なすべての情報を必ず入力してください。
- 空白値によってデータベース内の既存の値は上書きされませんが、値を更新すると、データベース内の既存の値が上書きされます。

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

CSV ファイルを BAT に追加し、そのファイルを挿入することによって、Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する必要があります。

関連トピック

- [サーバからのファイルのダウンロード](#) (25 ページ)
- [CMC および FAC 設定関連のトピック](#) (597 ページ)
- [BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新](#) (595 ページ)
- [サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの設定項目

次の表に、CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの設定項目の説明を示します。

表 45: CMC および FAC の設定項目

設定/カラム	説明
CMC 用 CSV ファイル	
[クライアント識別コード (Client Matter Codes)]	ユーザがコールを発信するときに入力する一意のコードを、16 桁以下で入力します。クライアント識別コードは、このコードを使用するコールの CDR に表示されます。
説明	このオプションフィールドは、クライアントコードをクライアントと関連付けるのに役立ちます。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンバサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
FAC 用 CSV ファイル	

設定/カラム	説明
[Authorization Code (承認コード)]	16桁以下の一意の承認コードを入力します。ユーザは、FAC 対応ルートパターンを介してコールを発信するときに、このコードを入力します。
[承認コード名 (Authorization Code Name)]	50文字以下の一意の名前を入力します。承認コード名は、承認コードを特定のユーザまたはユーザグループに紐付けます。この名前はこのコードを使用するコールの CDR に表示されます。 ヒント 承認コードをシステム内の各ユーザに割り当てる予定である場合は、ユーザ名や、または、他の一意で取り扱いにそれほど注意が必要ではない ID (たとえば、電子メールエイリアスや従業員/学生番号) など、ユーザを識別するものを必ずコード名に含めてください。承認コードは、セキュアではない CDR に書き込まれるため、社会保障番号などの ID は使用しないでください。
[承認レベル (Authorization Level)]	0～255の範囲の3桁の承認レベルを入力します。デフォルトは0です。承認コードに割り当てるこのレベルによって、ユーザが FAC 対応ルートパターンを介してコールをルーティングできるかどうかが決まります。コールを正常にルーティングするには、ユーザ承認レベルが、そのコールのルートパターンに指定された承認レベル以上である必要があります。

BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新

Cisco Unified Communications Manager データベースを更新するには、BAT を使用して CMC (または FAC) CSV データ ファイルを挿入する必要があります。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager を更新するには、その前に CMC (または FAC) CSV ファイルを作成または編集する必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Administration で、次のオプションのいずれかを選択します。
- CMC の場合は、[一括管理 (Bulk Administration)] > [クライアント識別コード (Client Matter Codes)] > [クライアント識別コードの挿入 (Insert Client Matter Codes)] の順に選択します。
 - FAC の場合は、[一括管理 (Bulk Administration)] > [強制承認コード (Forced Authorization Codes)] > [強制承認コードの挿入 (Insert Forced Authorization Codes)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、更新されたコードを含む CSV ファイルを選択します。
- ヒント** 挿入するファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示 (View File)] をクリックします。
- ステップ 3** 既存のコード リストを更新する場合は、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- 設定の詳細については、「[データベースの CMC および FAC を更新するための BAT 設定項目 \(597 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- すぐに FAC と CMC を挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - 後で FAC と CMC を挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 6** FAC と CMC を挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。[一括管理 (Bulk Administration)] メイン メニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。
-

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [データベースの CMC および FAC を更新するための BAT 設定項目 \(597 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [CMC および FAC 設定関連のトピック \(597 ページ\)](#)

データベースの CMC および FAC を更新するための BAT 設定項目

次の表に、CMC および FAC の BAT 更新に関する、構成時の設定の説明を示します。

表 46: CSV ファイルを挿入するための BAT の設定

BAT の設定	説明
ファイル名	ドロップダウンリストボックスから、挿入する CMC または FAC ファイルを選択します。
[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)]	<p>既存の設定のコードを更新する場合、このチェックボックスが適用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、既存の承認コード名 (FAC)、承認レベル (FAC) または説明 (CMC) が、挿入するファイルに含まれている情報で上書きされます (既存の承認コードとクライアント識別コードは変更されません)。このチェックボックスをオンにしていない場合は、ログ ファイルにエラーが書き込まれ、承認コードまたはクライアント識別コードがすでに存在しているために、更新されないことを示します。</p>

CMC および FAC 設定関連のトピック

- [CMC および FAC 機能の実装 \(590 ページ\)](#)
- [BAT を使用した CMC と FAC のセットアップ \(589 ページ\)](#)
- [BAT.xlt を使用した CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの作成 \(591 ページ\)](#)
- [テキスト エディタを使用したクライアント識別コードと強制承認コード用 CSV データ ファイルの作成 \(593 ページ\)](#)
- [既存の CMC または FAC CSV データ ファイルの編集 \(593 ページ\)](#)
- [コード設定の削除例 \(599 ページ\)](#)
- [CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの設定項目 \(594 ページ\)](#)
- [BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新 \(595 ページ\)](#)
- [データベースの CMC および FAC を更新するための BAT 設定項目 \(597 ページ\)](#)
- [クライアント識別コードおよび強制承認コード用のカスタムのテキストベースの CSV ファイルの作成 \(830 ページ\)](#)



第 55 章

強制承認コードとクライアント識別コードの削除

この章では、削除するコードが含まれたカスタム ファイルを使用して、システムから CMC コードと FAC コードを削除する方法について説明します。前に挿入または更新した承認コードが含まれたカスタム ファイルを編集でき、また削除するコードを手動で入力した CSV ファイルを新規に作成することもできます。

- [コード設定の削除例 \(599 ページ\)](#)
- [強制承認コードとクライアント識別コードの削除 \(601 ページ\)](#)
- [強制承認コードとクライアント識別コード関連のトピック \(602 ページ\)](#)

コード設定の削除例

既存の CSV ファイルを編集する場合は、ファイルを更新して、削除するコードが含まれている行だけがファイルに残っているようにする必要があります。

CMC の例 (既存の CSV ファイル)

次の情報が含まれたファイルを入手して、クライアント識別コード、5550、5551、および 5555 を削除する場合を想定します。

- 5550,Phil Jones DDS
- 5551,Southwest Shades
- 5552,Happy Pharmaceuticals
- 5553,Weddings by Joyce
- 5554,Peterson Plumbing
- 5555,Acme Toys
- 5556,Chicago Paralegals

エントリを削除する前に、ファイルに次のエントリのみが含まれている必要があります。

- 5550,Phil Jones DDS
- 5551,Southwest Shades
- 5555,Acme Toys

CMC の例（新規 CSV ファイル）

コードを削除するために新しいファイルを作成する場合は、次の例に示すように、そのコードだけを、行で区切ってリストします。

5550

5551

5555

FAC の例（既存の CSV ファイル）

次の情報が含まれたファイルを入手して、John、Dave、およびBillに割り当てられた承認コードを削除する場合を想定します。

- 1233,Sandy Brown,30
- 1234,John Smith,20
- 1235,Dave Green,30
- 1236,John David,20
- 1237,Alex Anderson,30
- 1238,Bill Jones,20
- 1239,Jennifer Summers,20

John、Dave、およびBillのエントリを削除する前に、ファイルに次のエントリのみが含まれている必要があります。

- 1234,John Smith,20
- 1235,Dave Green,30
- 1238,Bill Jones,20

FAC の例（新規ファイル）

コードを削除するために新しいファイルを作成する場合は、次の例に示すように、そのコードだけを、行で区切ってリストします。

1234

1235

1238

関連トピック

[強制承認コードとクライアント識別コードの削除](#) (601 ページ)

[強制承認コードとクライアント識別コード関連のトピック](#) (602 ページ)

強制承認コードとクライアント識別コードの削除

カスタム CSV ファイルを使用することで、CMC レコードと FAC レコードを削除できます。



- (注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のある CMC または FAC レコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイルでは見出しが不要で、コードの値を入力できます。

始める前に

- 次のいずれかのタスクを使用して、削除するコード用の新しい CSV ファイルを作成します。
 - CMC については、[CMC の例 \(新規 CSV ファイル\)](#) (600 ページ) を参照してください。
 - FAC については、[FAC の例 \(既存の CSV ファイル\)](#) (600 ページ) を参照してください。
- サーバーで、サーバーの最初のノードから適切な CSV ファイルをダウンロードします。詳細については、「[サーバからのファイルのダウンロード](#) (25 ページ)」を参照してください。
- テキスト エディタで、既存の CSV ファイルを開いて編集し、エントリを削除します。
- 変更した CSV ファイルをサーバーの最初のノードにアップロードします。詳細については、「[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)」を参照してください。

手順

- ステップ 1** Administration で、クライアント識別コードと強制承認コードのどちらを削除するかに応じて、次のオプションのいずれかを選択します。
- a) CMC の場合は、**[一括管理 (Bulk Administration)] > [クライアント識別コード (Client Matter Codes)] > [クライアント識別コードの削除 (Delete Client Matter Codes)]** の順に選択します。

- b) FACの場合は、[一括管理 (Bulk Administration)] > [強制承認コード (Forced Authorization Codes)] > [強制承認コードの削除 (Delete Forced Authorization Codes)] の順に選択します。

ステップ 2 ドロップダウンリストからカスタムファイルを選択して、[検索 (Find)] をクリックします。[クライアント識別コードの検索/一覧表示 (Find and List Client Matter Codes)] ウィンドウまたは [強制承認コードの検索/一覧表示 (Find and List Forced Authorization Codes)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 4 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐに CMC または FAC を削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後で CMC または FAC を削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 5 FAC と CMC を削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

注意 削除用のジョブを送信する前に、表示された結果リストの全体を必ず確認してください。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[強制承認コードとクライアント識別コード関連のトピック \(602 ページ\)](#)

強制承認コードとクライアント識別コード関連のトピック

- [CMC および FAC 機能の実装 \(590 ページ\)](#)
- [BAT を使用した CMC と FAC のセットアップ \(589 ページ\)](#)
- [BAT.xlt を使用した CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの作成 \(591 ページ\)](#)
- [テキストエディタを使用したクライアント識別コードと強制承認コード用 CSV データ ファイルの作成 \(593 ページ\)](#)
- [既存の CMC または FAC CSV データ ファイルの編集 \(593 ページ\)](#)
- [CMC および FAC 用 CSV データ ファイルの設定項目 \(594 ページ\)](#)
- [BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新 \(595 ページ\)](#)
- [コード設定の削除例 \(599 ページ\)](#)



第 **X** 部

コール ピックアップ グループ

- [コール ピックアップ グループの管理 \(605 ページ\)](#)
- [コール ピックアップ グループの削除 \(613 ページ\)](#)



第 56 章

コール ピックアップ グループの管理

この章では、BAT を使用してコール ピックアップ グループをセットアップする方法について説明します。コール ピックアップを使用すれば、該当するピックアップ グループ番号にダイヤルする際に、自分のグループ内または他のグループ内の着信コールをピックアップすることができます。

- [BAT を使用したコール ピックアップ グループの設定 \(605 ページ\)](#)
- [BAT.xlt を使用したコールピックアップグループ用 CSV データファイルの作成 \(606 ページ\)](#)
- [テキスト エディタを使用したコールピックアップグループ用の CSV データ ファイルの作成 \(607 ページ\)](#)
- [既存のコールピックアップグループ CSV データ ファイルの編集 \(608 ページ\)](#)
- [コールピックアップグループ用 CSV ファイルの設定項目 \(609 ページ\)](#)
- [BAT を使用した CUCM データベース内のコールピックアップグループの更新 \(610 ページ\)](#)
- [データベースのピックアップグループを更新するための BAT 設定項目 \(611 ページ\)](#)
- [コールピックアップグループ関連のトピック \(612 ページ\)](#)

BAT を使用したコール ピックアップ グループの設定

BAT を使用してコールピックアップグループを設定する前に、次の情報を確認してください。

- コール ピックアップ グループ設定を初めて追加する場合は、BAT.xlt から CSV ファイルを作成することも、テキストベースのカスタム CSV ファイルを作成することもできます。
- コール ピックアップ グループ設定を更新する場合は、既存の CSV ファイルを編集することも、テキストベースのカスタム CSV ファイルを作成することもできます。
- 各ピックアップグループ名 (およびその設定) 用に、それぞれ1行を指定します。たとえば、ピックアップグループの情報を入力する場合、次のフォーマットを使用できます。
 - (ピックアップグループ名、ピックアップグループ番号、パーティション、他のピックアップグループ名 - メンバー 1... 他のピックアップグループ名 - メンバー 10)
 - マーケティング、7815、パート 1、マーケティング、部長、トレーニング

- 新しくピックアップグループを追加する場合、ピックアップグループ名やピックアップグループ番号のような必須フィールドすべてに値を入力する必要があります。この手順で必須と見なされるエントリには、ファイルで情報を提供する必要があります。
- ファイルから情報を削除しても、その情報を空白のままにしておくと、Cisco Unified Communications Manager データベースからその情報は削除されません。つまり、空白の値ではデータベース内の既存の値は上書きされません。値を更新すると、データベース内の既存の値が上書きされます。
- 適切な CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager クラスターの最初のノードにアップロードします。
- CSV ファイルを作成または変更した場合はいつでも、その CSV ファイルを BAT に挿入し、Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する必要があります。

BAT.xlt を使用したコールピックアップグループ用 CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシート BAT.xlt を使用して、コールピックアップグループ用の CSV ファイルを作成できます。



- (注) BAT.xlt ファイルは Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに存在しますが、サーバ上には通常、Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、ファイルを最初のノードからコピーして Microsoft Excel がインストールされたローカルマシンに移動します。

始める前に

BAT を使用してコールピックアップを設定する前に、「[BAT を使用したコールピックアップグループの設定 \(605 ページ\)](#)」に記載されている重要な考慮事項を確認してください。

手順

- ステップ 1** [Bulk Administration (一括管理)] > [Upload/Download Files (ファイルをアップロード/ダウンロード)] の順に選択します。
[ファイルの検索/一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、BAT.xlt ファイルをダウンロードします。
- ステップ 3** Microsoft Excel がインストールされているローカルマシンに BAT.xlt をコピーします。
- ステップ 4** BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。
- ステップ 5** スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。

ステップ 6 [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] タブをクリックします。

ステップ 7 コールピックアップグループ設定を列に入力します。

構成時の設定の説明については、「[表 47: コールピックアップグループの設定項目 \(609 ページ\)](#)」を参照してください。

(注) すべてのピックアップグループを入力するまで、[ステップ 7 \(607 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 8 Excel スプレッドシート形式を CSV ファイルに転送するには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

ローカルマシン上の C:\XlsDatafiles に CSV ファイルが自動的に保存されます。

ヒント 別の場所を選択するには、[参照 (Browse)] をクリックします。

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

CSV ファイルを BAT に追加し、そのファイルを挿入することによって、Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する必要があります。

関連トピック

[サーバからのファイルのダウンロード \(25 ページ\)](#)

[コールピックアップグループ関連のトピック \(612 ページ\)](#)

[BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新 \(595 ページ\)](#)

[ファイルのアップロードとダウンロード \(21 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

テキストエディタを使用したコールピックアップグループ用の CSV データ ファイルの作成

テキストエディタを使用して、コールピックアップグループ用のテキストベースの CSV データファイルを作成できます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルでは、テキスト情報が表形式で提供され、値をカンマで区切った ASCII テキストの行が含まれています。

関連トピック

[コールピックアップグループ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(834 ページ\)](#)

[コールピックアップグループ関連のトピック \(612 ページ\)](#)

既存のコールピックアップグループ CSV データ ファイルの編集

既存のコードを更新するには、テキストエディタを使用して手動で既存の CSV ファイルを更新するか、新しい CSV ファイルを作成します。



注意 ピックアップグループを更新すると、既存のその他のピックアップグループの関連付けが解除されます。その他のピックアップグループのフィールドを空白のままにしないでください。ピックアップグループに関連付けるその他のピックアップグループすべてを、続けて入力します。

既存のレコードのどの部分も変更できますが、ピックアップグループ名を含める必要があります。

手順

- ステップ 1** 既存の CSV データ ファイルを編集するには、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードからローカルワークステーションに CSV ファイルをダウンロードします。
- ステップ 2** テキストエディタを使用して、既存の CSV ファイルを開いて編集します。
既存の設定を削除するか、新しいコールピックアップグループを追加するか、既存の設定を更新します。設定の説明については、「[表 47: コールピックアップグループの設定項目 \(609 ページ\)](#)」を参照してください。

例 :

コールピックアップグループ CSV ファイルを更新するには、「Marketing,,Marketing,Managers,Training」と入力できます。ここで Marketing は必須のピックアップグループ名です。Marketing、Managers、および Training は、ピックアップグループ Marketing に関連付けられたその他のピックアップグループ名です。

注意 既存のレコードのどの部分も変更できますが、ピックアップグループ名を含める必要があります。ピックアップグループを更新すると、既存のその他のピックアップグループの関連付けが解除されます。その他のピックアップグループのフィールドを空白のままにしないでください。ピックアップグループに関連付けるその他のピックアップグループすべてを、続けて入力します。

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

CSV ファイルを BAT に追加し、そのファイルを挿入することによって、Cisco Unified Communications Manager データベースを更新する必要があります。

関連トピック

- [サーバからのファイルのダウンロード \(25 ページ\)](#)
- [コールピックアップグループ関連のトピック \(612 ページ\)](#)
- [BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新 \(595 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

コールピックアップグループ用 CSV ファイルの設定項目

次の表に、コールピックアップグループの設定項目の説明を示します。

表 47: コールピックアップグループの設定項目

設定/カラム	説明
CPG 用 CSV ファイル	
[ピックアップグループ名 (Pickup Group Name)]	この必須フィールドには、一意のコールピックアップグループ名を 50 文字以下の英数字で入力します。
[ピックアップグループ番号 (Pickup Group Number)]	この必須フィールドには、ユーザが着信コールをピックアップするときに入力するピックアップグループ番号を、24 桁以下で入力します。
パーティション	<p>電話番号 (ピックアップグループ番号) が属するルートパーティションを選択します。</p> <p>(注) この電話番号 (ピックアップグループ) は、複数のパーティションで表示される可能性があります。</p> <p>(注) [ピックアップグループ番号 (Pickup Group Number)] と [パーティション (Partition)] の組み合わせは一意である必要があります。</p> <p>このフィールドは任意です。</p>

設定/カラム	説明
[他のピックアップグループ名 - メンバー (x) (Other Pickup Group Name-Member(x))]	新しいピックアップグループに関連付ける他のピックアップグループの名前を入力します。このオプションフィールドでは各ピックアップグループを最大 10 の他のピックアップグループに関連付けることができます。

BAT を使用した CUCM データベース内のコールピックアップグループの更新

Cisco Unified Communications Manager を更新するには、BAT を使用してコールピックアップグループ CSV データ ファイルを挿入する必要があります。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager データベース内のピックアップグループを更新するには、その前に、コールピックアップグループ CSV ファイルを作成または編集して、それを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードする必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] > [コールピックアップグループの挿入 (Insert Call Pickup Groups)] の順に選択します。
[ピックアップグループの挿入 (Insert Pickup Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストボックスで、更新されたコールピックアップグループを含む CSV ファイルを選択します。
- ヒント 挿入するファイルの内容を表示するには、[ファイルの表示 (View File)] をクリックします。
- ステップ 3** コールピックアップグループの既存のリストを更新した場合は、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
設定の説明については、「[データベースのピックアップグループを更新するための BAT 設定項目 \(611 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- すぐにピックアップグループを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。

- b) 後でピックアップグループを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 6 ピックアップグループを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[コールピックアップグループ関連のトピック \(612 ページ\)](#)

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

データベースのピックアップグループを更新するためのBAT設定項目

次の表に、ピックアップグループのBAT更新に関する、構成時の設定の説明を示します。

表 48: CSV ファイルを挿入するためのBATの設定

BAT の設定	説明
ファイル名	ドロップダウンリストボックスから、挿入するコールピックアップファイルを選択します。

BAT の設定	説明
[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)]	<p>既存の設定のピックアップグループを更新する場合、このチェックボックスが適用されます。</p> <p>このチェックボックスをオンにすると、他のピックアップグループ名とメンバーが、挿入するファイルに含まれている情報で上書きされます。このチェックボックスをオンにしている場合は、ログファイルにエラーが書き込まれ、他のピックアップグループ名が既に存在していることを示します。従って、更新は行われません。</p> <p>(注) 各ピックアップグループについて、[ピックアップグループ番号 (Pickup Group Number)]と[パーティション (Partition)]が一意であることを確認してください。</p> <p>(注) ピックアップグループの更新中は、[ピックアップグループ番号 (Pickup Group Number)]と[パーティション (Partition)]の値は無視され、既存の[他のピックアップグループ (Other Pickup Groups)]の関連付けは解除されます。</p>

コールピックアップグループ関連のトピック

- [BAT を使用したコールピックアップグループの設定 \(605 ページ\)](#)
- [BAT.xlt を使用したコールピックアップグループ用 CSV データファイルの作成 \(606 ページ\)](#)
- [テキストエディタを使用したコールピックアップグループ用の CSV データファイルの作成 \(607 ページ\)](#)
- [既存のコールピックアップグループ CSV データファイルの編集 \(608 ページ\)](#)
- [コールピックアップグループの削除 \(613 ページ\)](#)
- [コールピックアップグループ用 CSV ファイルの設定項目 \(609 ページ\)](#)
- [BAT を使用した CUCM データベース内のコールピックアップグループの更新 \(610 ページ\)](#)
- [データベースのピックアップグループを更新するための BAT 設定項目 \(611 ページ\)](#)
- [コールピックアップグループ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(834 ページ\)](#)



第 57 章

コール ピックアップ グループの削除

この章では、削除するピックアップ グループ レコードを検索するためのクエリを作成して、コール ピックアップ グループを削除する方法について説明します。

- [コール ピックアップ グループの削除 \(613 ページ\)](#)

コール ピックアップ グループの削除

BAT を使用して、コール ピックアップ グループを排除できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [コールピックアップグループ (Call Pickup Group)] > [コールピックアップグループの削除 (Delete Call Pickup Groups)] の順に選択します。
[コールピックアップグループの検索/一覧表示 (Find and List Call Pickup Groups)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [コールピックアップグループの検索 (Find Call Pickup Groups where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションの中から選択します。
 - ピックアップグループ番号
 - ピックアップグループ名
 - パーティション (Partition)
- ステップ 3** 2 番目の [コールピックアップグループの検索 (Find Call Pickup Groups where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。
 - ~で始まる
 - ~を含む
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 次の文字列で終わる

- 空である
- ～が空ではない

ステップ4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。
複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、[AND] または [OR] を選択します。クエリをさらに定義するには、[ステップ2 \(613 ページ\)](#) ～[ステップ4 \(614 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ6 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにピックアップグループを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でピックアップグループを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ7 ピックアップグループを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

(注) クエリ テキスト ボックスに何も情報を入力しない場合、システムはすべてのピックアップグループレコードを削除するジョブを作成します。

注意 コールピックアップグループを削除するためのジョブを送信する前に、結果セット全体を参照して、結果セットに示されているすべてのピックアップグループを削除するかどうかを確認してください。

[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 **XI** 部

モビリティ

- [アクセスリスト \(617 ページ\)](#)
- [リモート接続先 \(623 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイル \(629 ページ\)](#)
- [モビリティプロファイル \(649 ページ\)](#)



第 58 章

アクセスリスト

この章では、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用してアクセスリストを挿入、削除、およびエクスポートする方法について説明します。アクセスリストには、少なくとも 1 つの **permit** ステートメント、および場合によっては 1 つ以上の **deny** ステートメントから構成される順次リストが含まれています。これらのステートメントは、IP アドレス、および場合によっては上位層 IP プロトコルに適用されます。アクセスリストには、参照に使用される名前があります。多くのソフトウェア コマンドは、構文の一部としてアクセスリストを受け取ります。

- [アクセスリストの挿入 \(617 ページ\)](#)
- [アクセスリストの削除 \(618 ページ\)](#)
- [アクセスリストのエクスポート \(619 ページ\)](#)

アクセスリストの挿入

BAT を使用して、アクセスリストを挿入できます。

始める前に

- アクセスリスト固有の詳細を含むデータ ファイルをカンマ区切り値 (CSV) 形式で作成する必要があります。
- トランザクションに関わるターゲットと機能に絞り込み、データ ファイルをアップロードします。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [アクセスリスト (Access List)] > [アクセスリストの挿入 (Access List Insert)] の順に選択します。

[アクセスリストの挿入 (Insert Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、アップロードしたファイルを選択します。

- ステップ 3** 既存の設定をオーバーライドするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの説明を入力します。デフォルトの説明は [アクセスリストの挿入 (Insert Access List)] です。
- ステップ 5** ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択できます (対応するラジオボタンを選択します)。
- ステップ 6** アクセス リストを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- [ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。
- ステップ 7** このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

アクセス リストの削除

BAT を使用してアクセス リストを削除できます。

始める前に

- アクセス リスト名を含むデータ ファイルが必要です。
- トランザクションに関わるターゲットと機能に絞り込み、データファイルをアップロードします。



- (注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポート トランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のあるアクセス リストレコードの詳細を含むカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイル内にはヘッダーが不要で、アクセス リスト名の値を入力できます。
-

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [アクセスリスト (Access List)] > [アクセスリストの削除 (Access List Delete)] の順に選択します。

[アクセスリストの削除 (Delete Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [カスタムファイル内の名前によるアクセスリストの削除 (Delete Access List where name in custom file)] ドロップダウンリストボックスから、アクセスリストの削除用にアップロードしたファイルを選択して、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 選択したアクセスリストと一緒に [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示されます。

ステップ 4 ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択できます (対応するラジオボタンを選択します)。

ステップ 5 アクセスリストを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。

ステップ 6 [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

アクセスリストのエクスポート

BAT を使用して、アクセスリストをエクスポートできます。



(注) [アクセスリストのエクスポート (Export Access List Configuration)] ウィンドウからヘルプにアクセスしている場合は、[ステップ 8 \(620 ページ\)](#) に進みます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [アクセスリスト (Access List)] > [アクセスリストのエクスポート (Access List Export)] の順に選択します。[アクセスリストのエクスポート (Export Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 最初の [アクセスリストの検索 (Find Access List where)] ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- 名前
- 説明
- オーナー (Owner)

ステップ 3 2 番目の [アクセスリストの検索 (Find Access List where)] ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- ~が次の文字列で終わる
- 次の文字列と完全に一致する
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのファイルを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 クエリをさらに定義するには、次の手順を実行できます。

- a) ドロップダウンリストボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(619 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(620 ページ\)](#) を繰り返します。
- b) フィルタを追加するには [+] ボタンをクリックし、フィルタを削除するには [-] ボタンをクリックします。
- c) 一度にすべてのフィルタを削除するには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックします。

ステップ 6 [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたファイルのリストが次の分類で表示されます。

- 名前
- 説明
- 許可
- オーナー (Owner)

ステップ 7 [次へ (Next)] をクリックします。

次の [アクセスリストのエクスポート (Export Access List Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 8 [アクセスリストのエクスポート (Export Access Lists)] セクションの [ファイル名 (File Name)] フィールドにファイル名を入力します。

ステップ 9 [一括アクセスリストのエクスポート形式 (Bulk Access List Export Format)] ドロップダウンリストボックスから、[アクセスリストの形式 (Access List Format)] を選択します。

ステップ 10 ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択できます ([ジョブ情報 (Job Information)] セクションで対応するラジオ ボタンを選択します)。

ステップ 11 アクセスリストをエクスポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。

ステップ 12 このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。



第 59 章

リモート接続先

この章では、BATを使用して、リモート接続先の詳細を挿入、削除、およびエクスポートする方法について説明します。

- [リモート接続先の挿入 \(623 ページ\)](#)
- [リモート接続先の削除 \(624 ページ\)](#)
- [リモート接続先のエクスポート \(625 ページ\)](#)

リモート接続先の挿入

BAT を使用して、リモート接続先の詳細を挿入できます。

始める前に

- リモート接続先固有の詳細情報を含むデータファイルをカンマ区切り値 (CSV) 形式で作成する必要があります。



(注) タイムゾーンの詳細は、丸カッコやアスタリスクを使用せずに入力します。たとえば、タイムゾーンとしてグリニッジ標準時を入力する場合は、「(GMT) Etc/GMT*」ではなく、「Etc/GMT」と入力します。

- トランザクションに関わるターゲットと機能に絞り込み、データファイルをアップロードします。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] > [リモート接続先の挿入 (Remote Destination Insert)] の順に選択します。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストボックスで、アップロードしたファイルを選択します。

- ステップ 3** 既存の設定をオーバーライドするには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの説明を入力します。[リモート接続先の挿入 (Insert Remote Destination)] がデフォルトの説明です。
- ステップ 5** ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択できます (対応するラジオボタンを選択します)。
- ステップ 6** リモート接続先を挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- [ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

リモート接続先の削除

BAT を使用してリモート接続先を削除できます。

始める前に

- リモート接続先固有の詳細情報を含むデータ ファイルをカンマ区切り値 (CSV) 形式で作成する必要があります。



(注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポート トランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除すべきリモート接続先レコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイルでは見出しが不要で、名前や説明の値を入力できます。

- 関連するターゲットやトランザクションの機能を選択することによって、データ ファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] > [リモート接続先の削除 (Remote Destination Delete)] の順に選択します。
- ステップ 2** [リモート接続先の削除 (Delete Remote Destination where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
- 名前
 - 通知先 (Destination)
 - [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]
 - デュアルモードフォン (Dual Mode Phone)
- ステップ 3** [カスタムファイル (custom file)] ドロップダウン リスト ボックスから、リモート接続先の削除用にアップロードしたファイルを選択して、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** 選択したリモート接続先と一緒に [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示されます。
- ステップ 5** ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択できます (対応するラジオボタンを選択します)。
- ステップ 6** リモート接続先を削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- [ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。
- ステップ 7** このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
- 注目** リモート接続先を削除すると、そのリモート接続先に関連付けられた時刻アクセスレコード、時間帯レコード、およびスケジュールレコードもまた削除されます。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

リモート接続先のエクスポート

BAT を使用してリモート接続先をエクスポートできます。



- (注) エクスポートするリモート接続先を選択した後、2 番目の [リモート接続先のエクスポート (Export Remote Destination Configuration)] ウィンドウからヘルプにアクセスしている場合は、[ステップ 8 \(627 ページ\)](#) に進みます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先 (Remote Destination)] > [リモート接続先のエクスポート (Remote Destination Export)] の順に選択します。
[リモート接続先のエクスポート (Export Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [リモート接続先の検索 (Find Remote Destination where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
- 名前
 - 通知先 (Destination)
 - [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]
 - デュアルモード電話
- ステップ 3** 2 番目の [リモート接続先の検索 (Find Remote Destination where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
- ~で始まる
 - ~を含む
 - ~が次の文字列で終わる
 - 次の文字列と完全に一致する
 - 空である
 - ~が空ではない
- ステップ 4** 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。
- ヒント** データベースに登録されているすべてのファイルを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 5** クエリをさらに定義するには、次の手順を実行します。
- ドロップダウン リスト ボックスから [AND] または [OR] を選択して、[ステップ 2 \(626 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(626 ページ\)](#) を繰り返します。
 - フィルタを追加するには [+] ボタンをクリックし、フィルタを削除するには [-] ボタンをクリックします。
 - 一度にすべてのフィルタを削除するには、[フィルタのクリア (Clear Filter)] ボタンをクリックします。
- ステップ 6** [検索 (Find)] をクリックします。
- 検出されたファイルのリストが次の分類で表示されます。
- 名前
 - 通知先 (Destination)
 - [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]
 - デュアルモード電話

- ステップ7** [次へ (Next)] をクリックします。
次の [リモート接続先のエクスポート (Export Remote Destination Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ8** [リモート接続先のエクスポート (Export Remote Destination)] セクションの [ファイル名 (File Name)] フィールドにファイル名を入力します。
- ステップ9** [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスから、[リモート接続先形式 (Remote Destination Format)] を選択します。
- ステップ10** ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択できます ([ジョブ情報 (Job Information)] セクションで対応するラジオ ボタンを選択します)。
- ステップ11** リモート接続先をエクスポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。
- ステップ12** このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
-



第 60 章

リモート接続先プロファイル

この章では、リモート接続先プロファイル (RDP) について、Cisco Unified Communications Manager Administration によって個々の更新を実行するのではなく、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して一括で形式設定、挿入、削除、およびエクスポートする方法について説明します。

- [リモート接続先プロファイルテンプレート \(629 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイルのファイル形式 \(635 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイルの挿入 \(641 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイルの削除 \(642 ページ\)](#)
- [エクスポートユーティリティを使用したリモート接続先プロファイルのエクスポート \(644 ページ\)](#)

リモート接続先プロファイルテンプレート

BAT リモート接続先プロファイルテンプレートを使用して、デバイスプール、場所、コーリングサーチスペース、プレゼンスグループ、およびプライバシー情報などのリモート接続先の共通属性を定義できます。

関連トピック

- [リモート接続先プロファイルテンプレートでの回線の追加または更新 \(631 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイルテンプレートの作成 \(631 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイルテンプレートの削除 \(632 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイルテンプレートの検索 \(629 ページ\)](#)

リモート接続先プロファイルテンプレートの検索

複数のリモート接続先プロファイル (RDP) テンプレートが存在することがあるため、Cisco Unified Communications Manager では特定の基準に基づいて特定のテンプレートを検索できません。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルテンプレート (Remote Destination Profile Template)] の順に選択します。

[リモート接続先テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Remote Destination Templates)] ウィンドウが表示されます。2つのドロップダウンリストボックスを使用してテンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [UDP テンプレートの検索 (Find UDP Templates where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- 名前
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- コーリング サーチ スペース

2番目の [リモート接続先テンプレートの検索 (Find Remote Destination Template where)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- ~が次の文字列で終わる
- 次の文字列と完全に一致する
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべてのリモート接続先テンプレートを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが次の分類で表示されます。

- テンプレート名 (Template Name)
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- コーリング サーチ スペース

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するテンプレート名をクリックします。

[リモート接続先プロファイルテンプレートの設定 (Remote Destination Profile Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。

リモート接続先プロファイル テンプレートの作成

テンプレートを作成し、リモート接続先プロファイルを一括して追加できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイル テンプレート (Remote Destination Profile Template)] の順に選択します。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[リモート接続先テンプレートの設定 (Remote Destination Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** 表示されるフィールドに、設定の詳細情報を入力します。
フィールドの説明については、「[リモート接続先プロファイルテンプレートのフィールドの説明 \(632 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 4** [保存 (Save)] をクリックします。

次のタスク

ステータスにトランザクションが完了したことが示されたら、回線の属性を追加できます。

リモート接続先プロファイルテンプレートでの回線の追加または更新

BAT テンプレートに 1 つ以上の回線を追加したり、既存の回線を更新したりできます。

手順

- ステップ 1** 回線を追加する RDP テンプレートを見つけます。
- ステップ 2** [リモート接続先プロファイルテンプレートの設定 (Remote Destination Profile Template Configuration)] ウィンドウで、[関連情報 (Associated Information)] 領域にある [回線[1]-新規 DNの追加 (Line [1] Add a new DN)] をクリックします。
- ステップ 3** 「[表 3 : BAT テンプレートに回線を追加する場合のフィールドの説明 \(88 ページ\)](#)」で説明されている回線設定の適切な値を入力または選択し、[保存 (Save)] をクリックします。
BATによって、回線が電話テンプレートの設定に追加されます。このバッチ内のすべてのRDPは、この回線に選択した設定を使用します。
(注) 適切な値を入力または選択したら、このページに戻って手順を完了する必要があります。
- ステップ 4** 他の回線の設定を追加するには、[ステップ 2 \(631 ページ\)](#) から [ステップ 3 \(631 ページ\)](#) を繰り返します。

- (注) [回線テンプレートの設定 (Line Template Configuration)] ウィンドウの右上隅にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択すると、[電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Number)] ウィンドウが表示されます。既存の回線テンプレートを検索するには、適切な検索条件を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。新規回線テンプレートを追加するには、[回線テンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Line Template)] ウィンドウにある [新規追加 (Add New)] をクリックします。

シスコでは、回線テンプレートに英数字を使用することを推奨します。数字のみを指定した場合、実際の電話番号と競合してしまう可能性があるためです。この方法を使用することにより、コールピックアップグループ番号やコールパーク番号などの機能とも競合せずに済みます。

関連トピック

[リモート接続先プロファイルテンプレートの検索](#) (629 ページ)

リモート接続先プロファイルテンプレートの削除

不要になった RDP テンプレートを削除できます。

手順

- ステップ 1** 削除する RDP テンプレートを検索します。
 - ステップ 2** [リモート接続先プロファイルテンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile Templates)] ウィンドウで、削除するテンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。
削除操作の確認を求めるメッセージが表示されます。
 - ステップ 3** テンプレートを削除するには、[OK] をクリックします。[リモート接続先プロファイルテンプレートの検索/一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile Templates)] ウィンドウのテンプレートリストからテンプレート名が消去されます。
- 注意** 特定の RDP テンプレートを使用するジョブを送信した場合、そのテンプレートを削除すると、そのジョブも削除されます。

関連トピック

[リモート接続先プロファイルテンプレートの検索](#) (629 ページ)

リモート接続先プロファイルテンプレートのフィールドの説明

次の表で、リモート接続先プロファイルテンプレートのフィールドについて説明します。



- (注) BAT ユーザ インターフェイスで名前にアスタリスクが付いているフィールドには、必ず値を入力する必要があります。アスタリスクが付いていないフィールドはオプションとして扱ってください。

表 49: リモート接続先プロファイル テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
テンプレート名	テンプレート名を入力します。
説明	作成する RDP テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
[ユーザ ID (User ID)]	Cisco Unified Communications Manager ユーザ ID を入力します。
[デバイス プール (Device Pool)]	この RDP グループのデバイス プールを選択します。
[コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]	この RDP グループのコーリング サーチ スペースを選択します。 コーリングサーチスペースは、ダイヤルされた番号のルーティング方法を決定するために検索されるルートパーティションのコレクションを指定します。
[メディア リソース リスト (Media Resource List)]	この RDP グループのメディア リソース グループ リスト (MRGL) を選択します。 MRGL は、メディア リソース グループの優先順位付けされたリストを指定します。アプリケーションは、使用可能なメディア リソースの中から MRGL で定義されている順に、必要なメディア リソースを選択できます。
[ユーザ 保留音の ソース (User Hold Audio Source)]	この RDP グループのユーザ 保留音源を選択します。 ユーザ 保留音源は、ユーザがコールを保留にすると再生される保留音の音源を指定します。
[ネットワーク 保留 MOH 音源 (Network Hold MOH Audio Source)]	ユーザがコールを転送する際、または電話会議やコールパークを開始する際にシステムがコールを保留にすると再生される保留音の音源を選択します。

フィールド	説明
[所在地 (Location)]	<p>この RDP グループに適切なロケーションを選択します。</p> <p>ロケーションは、このロケーションに対して送受信可能な帯域幅の合計を指定します。ロケーションを [なし (None)] に設定した場合、ロケーション機能はこのデバイスが消費する帯域幅を追跡しません。</p>
ユーザ ロケール (User Locale)	<p>ドロップダウンリストボックスから、電話機のユーザーインターフェイスに関連付けるロケールを選択します。ユーザ ロケールは、言語とフォントを含め、ユーザをサポートするための一連の詳細情報を識別します。</p> <p>Cisco Unified Communications Manager は、ローカリゼーションをサポートしている電話機モデルに対してのみこのフィールドを有効にします。</p> <p>(注) ユーザー ロケールを指定しない場合、Cisco Unified Communications Manager では、デバイスプールに関連付けられているユーザー ロケールを使用します。</p> <p>(注) ユーザが英語以外の言語で (電話機に) 情報を表示する必要がある場合は、ユーザ ロケールを設定する前に、ロケールインストーラがインストールされていることを確認してください。Cisco Unified Communications Manager ロケールインストーラの資料を参照してください。</p>
[プライバシー (Privacy)]	<p>[プライバシー (Privacy)] ドロップダウンリストボックスから、[オン (On)]、[オフ (Off)]、または [デフォルト (Default)] を選択します。</p>
[プレゼンス グループ (Presence Group)]	<p>プレゼンス エンティティのステータスを RDP が受信できるようにするには、電話番号に適用されるプレゼンスグループのステータスの閲覧が許可されているプレゼンスグループ ([Presence Group Configuration (プレゼンスグループの設定)] ウィンドウで指定されています) を選択します。</p>

フィールド	説明
[再ルーティング用コーリングサーチスペース (Rerouting Calling Search Space)]	<p>ドロップダウン リスト ボックスから、再ルーティングに使用するコーリング サーチ スペースを選択します。</p> <p>参照元の再ルーティング コーリングサーチ スペースを使用して、参照先へのルートが検索されます。コーリングサーチ スペースの再ルーティングが原因で参照操作が失敗すると、参照のプリミティブは「405 Method Not Allowed」 メッセージで要求を拒否します。</p> <p>リダイレクト (3xx) プリミティブおよび転送機能も再ルーティング コーリング サーチ スペースを使用してリダイレクト先または転送先を検索します。</p>
[プレゼンテーションインジケータを無視 (内線コールのみ) (Ignore Presentation Indicators (internal calls only))]	<p>このチェックボックスをオンにすると、Cisco Unified Communications Manager は内部コールに対して受信したすべての表示制限を無視します。</p>

リモート接続先プロファイルのファイル形式

テキストエディタを使用して作成された CSV データ ファイルのファイル形式を設定することができます。

関連トピック

- [リモート接続先ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け \(640 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイルのファイル形式の設定 \(637 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(836 ページ\)](#)
- [テキストエディタを使用したリモート接続先用 CSV データファイルの作成 \(635 ページ\)](#)
- [リモート接続先ファイル形式の検索 \(636 ページ\)](#)

テキスト エディタを使用したリモート接続先用 CSV データ ファイルの作成

値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用して、CSV データ ファイルを作成できます。カンマ区切り値 (CSV) ファイルは、表形式のテキスト情報を提供します。

デフォルトのリモート接続先のファイル形式を変更したり削除したりすることはできません。



- (注) Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) スプレッドシートを使用して CSV データファイルを作成するときには、スプレッドシート内でファイル形式を作成できます。テキストエディタを使用して CSV データファイルを作成する場合は、ファイル形式を作成するか、デフォルトファイル形式を使用する必要があります。テキストベースのファイルでは、ファイル形式で指定されているのと同じ順序で値を入力します。

関連トピック

[リモート接続先プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (836 ページ)

リモート接続先ファイル形式の検索

BAT を使用して、リモート接続先ファイル形式を検索できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルのファイル形式 (Remote Destination Profile File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。

[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 (Create Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから、[検索/リストに戻る (Back to Find/List)] を選択し、[実行 (Go)] をクリックします。

ステップ 3 [形式名によるリモート接続先ファイル形式の検索 (Find Remote Destination File Format where Format Name)] ドロップダウンリストボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- ~が次の文字列で終わる
- 次の文字列と完全に一致する
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント すべてのリモート接続先プロファイル形式を検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 5 さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンボックスから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 3 \(636 ページ\)](#) と [ステップ 4 \(636 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 6 レコードのリストから、検索条件と一致するファイル形式名をクリックします。

[リモート接続先ファイル形式の設定 (Remote Destination File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

リモート接続先プロファイルのファイル形式の設定

BATを使用して、リモート接続先プロファイルのファイル形式を作成、検索、コピー、変更、または削除できます。

関連トピック

[リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成 \(637 ページ\)](#)

[リモート接続先プロファイルのファイル形式のコピー \(638 ページ\)](#)

[リモート接続先プロファイルのファイル形式の変更 \(639 ページ\)](#)

[リモート接続先プロファイルのファイル形式の削除 \(640 ページ\)](#)

リモート接続先プロファイルのファイル形式の作成

テキストベースの CSV データ ファイル用のファイル形式を作成できます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルのファイル形式 (Remote Destination Profile File Format)] > [ファイル形式の作成 (Create File Format)] の順に選択します。

[リモート接続先プロファイル ファイル形式の設定 (Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [形式名 (Format Name)] フィールドに、このカスタム形式の名前を入力します。

ステップ 3 [デバイスフィールド (Device Fields)] で、リモート接続先プロファイルごとに定義するデバイスフィールド名を選択します。[デバイスフィールド (Device Field)] ボックスで、デバイスフィールド名をクリックし、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] ボックスに移動します。

CSV データ ファイルには、[デバイスプロファイル名 (Device Profile Name)] と [説明 (Description)] が含まれている必要があります。そのため、これらのフィールドは常に選択されたままになります。

ヒント リストでランダムに複数のフィールド名を選択するには、**Ctrl** キーを押したまま、矢印をクリックしてそれらをまとめて選択します。アイテムの範囲を選択するには、**Shift** キーを使用します。

ステップ 4 [回線フィールド (Line Field)] ボックスで回線フィールド名をクリックしてから、矢印をクリックしてそのフィールドを [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスに移動します。

ヒント [選択済みの回線フィールド (Selected Line Fields)] ボックスと [選択済みのデバイスフィールド順序 (Selected Device Fields Order)] ボックス内のアイテムの順序を変更できます。アイテムを選択してから上矢印を使用してアイテムをリストの上位に移動するか、下矢印を使用してアイテムをリストの下位に移動します。

ステップ 5 [IP 電話サービスの最大数 (IP Phone Services Maximums)] 領域で、[回線の最大数 (Maximum Number of Lines)] フィールドに最大値を入力します。

ステップ 6 カスタム ファイル形式を保存するには、[保存 (Save)] をクリックします。[リモート接続先プロファイルファイル形式の検索/一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile File Formats)] ウィンドウの [ファイル形式名 (File Format Names)] リストに、ファイル形式の名前が表示されます。

リモート接続先プロファイルのファイル形式のコピー

BAT を使用して CSV データ ファイルの既存の形式をコピーできます。

手順

ステップ 1 コピーするリモート接続先プロファイル ファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、コピーするファイル形式を選択します。[リモート接続先プロファイルファイル形式の設定 (Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 選択したファイル形式のコピーを作成するには、[コピー (Copy)] をクリックします。

(注) [リモート接続先プロファイルファイル形式の検索/一覧表示 (Find and List Remote Destination Profile File Formats)] ウィンドウで対応する [コピー (Copy)] アイコンをクリックすることによっても、ファイル形式をコピーできます。

ステップ 4 [形式名 (Format Name)] フィールドに、コピーする形式の新しい名前を入力します。

ステップ 5 次のいずれかの方法でコピーした形式を変更します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] または [回線フィールド (Line Fields)] ボックスで新たなフィールドを選択してから、矢印をクリックして選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスに移動します。
- 選択したフィールドを削除するには、[選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスでフィールドを選択してから、矢印をクリックして選択したフィールドを [デバイスフィールド (Device Fields)] または [回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。

- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Field)] または [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスでフィールド名を選択して、上矢印または下矢印を使用してその位置を変更します。

ステップ 6 変更が終了したら、[保存 (Save)] をクリックして、リスト内の変更と一緒にコピーしたファイル形式を保存します。

関連トピック

[リモート接続先ファイル形式の検索](#) (636 ページ)

リモート接続先プロファイルのファイル形式の変更

BAT を使用して、CSV データ ファイルの既存のファイル形式を変更できます。変更できるのはカスタム形式だけです。

手順

ステップ 1 変更するリモート接続先プロファイルのファイル形式を検索します。

ステップ 2 [検索結果 (Search Results)] 領域で、変更するファイル形式を選択します。
[リモート接続先プロファイルファイル形式の設定 (Remote Destination Profile File Format Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 3 次のいずれかの方法を使用して、コピーした形式を変更します。

- 新しいフィールドを追加するには、[デバイスフィールド (Device Fields)] または [回線フィールド (Line Fields)] ボックスで新たなフィールドを選択してから、矢印をクリックして選択したフィールドを [選択済みのデバイスフィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスに移動します。
- 選択したフィールドを削除するには、[選択済みのデバイス フィールド (Selected Device Fields)] または [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスでそれを選択し、矢印をクリックすると、選択したフィールドが [デバイスフィールド (Device Fields)] または [回線フィールド (Line Fields)] ボックスに移動します。
(注) 必須フィールドである [リモート接続先プロファイル名 (Remote Destination Profile Name)] と [説明 (Description)] は削除できません。
- フィールドの順序を変更するには、[選択済みのデバイスフィールド順序 (Selected Device Field Order)] または [選択済みの回線フィールド順序 (Selected Line Fields Order)] ボックスでフィールド名を選択し、上矢印または下矢印を使ってその位置を変更します。

ステップ 4 変更が終了したら、[保存 (Save)] をクリックしてファイル形式の変更内容を保存します。

関連トピック

[リモート接続先ファイル形式の検索](#) (636 ページ)

リモート接続先プロファイルのファイル形式の削除

CSV データ ファイル用の既存のファイル形式を削除できます。削除できるのはカスタム形式だけです。

手順

- ステップ 1** 削除するリモート接続先プロファイル ファイル形式を検索します。
- ステップ 2** [検索結果 (Search Results)] 領域で、それが削除対象のファイルであることを確認し、そのチェックボックスをオンにして形式を選択します。
- ステップ 3** リストからファイル形式を削除するには、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。ファイル形式の削除の確認を求めるメッセージが表示されます。[OK] をクリックして続行します。

注目 [選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックする前に、表示された結果リストの全体を必ず確認してください。

リストからファイル形式の名前が削除されます。

関連トピック

[リモート接続先ファイル形式の検索 \(636 ページ\)](#)

リモート接続先ファイル形式と CSV データ ファイルの関連付け

テキストベースの CSV データ ファイルとファイル形式を関連付けることができます。テキストエディタを使用して CSV データファイルを作成した際に、テキストベースのファイルに値を入力するため、ファイル形式を作成しました。ファイル形式によって指定された順序でテキストファイルに値を入力しました。

CSV データファイルに入力した後、ファイル形式をテキストベースの CSV データファイルと関連付ける必要があります。ファイル形式を CSV ファイルと関連付けると、各フィールドの名前は CSV データファイルの最初のレコードとして表示されます。この情報を使用して、正しい順序で各フィールドに値を入力したことを確認できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルのファイル形式 (Remote Destination Profile File Format)] > [ファイル形式の追加 (Add File Format)] の順に選択します。
[ファイル形式の追加 (Add File Format)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (FileName)] フィールドで、このトランザクション用に作成したテキストベースの CSV ファイルを選択します。

- ステップ 3** [ファイル形式名 (File Format Name)] フィールドで、このタイプの一括トランザクション用に作成したファイル形式を選択します。
- ステップ 4** 一致するファイル形式を CSV データファイルと関連付けるジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

リモート接続先プロファイルの挿入

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用することで、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して個々のリモート接続先プロファイル (RDP) を更新する代わりに、RDP を一括で挿入できます。

Cisco Unified Communications Manager でのリモート接続先プロファイルの挿入

リモート接続先プロファイルを Cisco Unified Communications Manager に挿入できます。

始める前に

- 追加するデバイス用の Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) リモート接続先プロファイル テンプレートが必要です。
- リモート接続先プロファイル固有の詳細情報を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータファイルが必要です。
- トランザクションに関わるターゲットと機能に絞り込み、データファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルの挿入 (Remote Destination Profile Insert)] の順に選択します。
[リモート接続先プロファイルの挿入 (Insert Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストボックスで、この特定の一括トランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。

ステップ 3 [リモート接続先プロファイルテンプレート名 (Remote Destination Profile Template Name)] ドロップダウン リスト ボックスで、このタイプの一括トランザクション用に作成した BAT リモート接続先プロファイルテンプレートを選択します。

(注) リモート接続先プロファイルを挿入するとき、リモート接続先プロファイルテンプレートを使用するかどうかは任意選択です。リモート接続先プロファイルテンプレートを選択しない場合は、CSV データ ファイルに「デスク電話機名 (Desk Phone Name)」が含まれていることを確認してください。

ステップ 4 [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存のリモート接続先プロファイル設定が、挿入するファイルに含まれる情報によって上書きされます。

ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 6 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにリモート接続先プロファイル レコードを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でリモート接続先プロファイル レコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 7 リモート接続先プロファイルレコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 8 ゲートウェイを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

リモート接続先プロファイルの削除

[Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified Communications Manager Administration)] を使用して個々のリモート接続先プロファイル (RDP) を更新する代わりに [一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用することで、RDP を一括で削除およびエクスポートできます。

カスタム ファイルを使用したリモート接続先プロファイルの削除

テキスト エディタを使用して、削除するリモート接続先プロファイルのカスタム ファイルを作成します。同じカスタムファイル内に MAC アドレスとデバイス名を含めることはできませんが、その同じファイルに電話番号を含めることはできません。別々のファイル (デバイス名と MAC アドレスを含む 1 つのファイル、および電話番号を含むもう 1 つのファイル) を作成する必要があります。

始める前に

1. 削除対象の RDP に関する次のいずれかの詳細情報を列挙したテキストファイルを作成します。
 - 名前
 - 説明
 - [デバイス プール (Device Pool)]
 - [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]
2. 各アイテムをテキストファイル内の別々の行に配置します。
3. カスタムファイルを CiscoUnifiedCallManager サーバーにアップロードします。ファイルのアップロードの詳細については、「[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)」を参照してください。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)]>[モビリティ (Mobility)]>[リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]>[リモート接続先プロファイルの削除 (Remote Destination Profile Delete)]の順に選択します。
[リモート接続先プロファイルの削除 (Delete Remote Destination Profile Configuration)]ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [リモート接続先プロファイルの削除 (Delete Remote Destination Profile where)] ドロップダウンリスト ボックスで、次のいずれかの条件から作成済みのカスタム ファイルのタイプを選択します。
- 名前
 - 説明
 - [デバイス プール (Device Pool)]
 - [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]
- ステップ 3** カスタム ファイルのリストで、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択します。
- ステップ 4** [検索 (Find)]をクリックします。検索条件と一致する RDP のリストが表示されます。
- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)]領域に、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 6** 削除方法を選択します。次のいずれかを実行します。
- a) すぐに RDP レコードを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)]をクリックします。
 - b) 後で RDP レコードを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)]をクリックします。
- ステップ 7** RDP レコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)]をクリックします。
- ステップ 8** ゲートウェイを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)]をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

エクスポートユーティリティを使用したリモート接続先プロファイルのエクスポート

エクスポートユーティリティを使用して、複数の Cisco Unified CallManager サーバーから 1 台の Cisco Unified CallManager サーバー上にレコードをマージすることができます。この手順を使用して、ある Cisco Unified CallManager サーバーから別の Cisco Unified CallManager サーバーにレコードを移動します。

エクスポートユーティリティを使用したリモート接続先プロファイルのエクスポート

リモート接続先プロファイルの詳細をエクスポートできます。



(注) エクスポートするリモート接続先を選択した後に 2 番目の [リモート接続先プロファイルのエクスポート (Export Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウからヘルプにアクセスしている場合は、[ステップ 7 \(645 ページ\)](#) に進みます。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)] > [リモート接続先プロファイルのエクスポート (Remote Destination Profile Export)] の順に選択します。
- [リモート接続先プロファイルのエクスポート (Export Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [リモート接続先プロファイルの検索 (Find Remote Destination Profile)] ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。
- 名前
 - 説明
 - [デバイス プール (Device Pool)]

- [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]

2番目の [リモート接続先プロファイルの検索 (Find Remote Destination Profile where)] ドロップダウンリストから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- ~が次の文字列で終わる
- 次の文字列と完全に一致する
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて、適切な検索テキストを指定します。

ヒント データベースに登録されているすべてのリモート接続先プロファイルを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 4 さらにクエリを定義して複数のフィルタを追加するには、[絞り込み (Search Within Results)] チェックボックスをオンにして、ドロップダウンリストから [AND] または [OR] を選択し、[ステップ 2 \(644 ページ\)](#) と [ステップ 3 \(645 ページ\)](#) を繰り返します。

ステップ 5 [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたリモート接続先プロファイルのリストが次の分類で表示されます。

- 名前
- 説明
- [デバイス プール (Device Pool)]
- [コーリング サーチ スペース (Calling Search Space)]

(注) ジョブを送信する前に、表示された結果のリスト全体を参照してください。

ステップ 6 [次へ (Next)] をクリックします。

次の [リモート接続先プロファイルのエクスポート (Export Remote Destination Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 [ファイル名 (File Name)] フィールドに、エクスポート ファイルの名前を入力します。

ステップ 8 [ファイル形式名 (File Format Name)] ドロップダウンリストからファイル形式を選択します。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。[リモート接続先プロファイルの削除 (Delete Remote Destination Profiles)] がデフォルトの説明です。

ステップ 10 エクスポート方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにリモート接続先プロファイルレコードをエクスポートする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。

- b) 後でリモート接続先プロファイルレコードをエクスポートする場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 11 リモート接続先プロファイルレコードを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 12 このジョブをスケジュールするか、アクティブ化するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

デフォルトのリモート接続先プロファイルファイル形式

デフォルトのリモート接続先プロファイルファイル形式オプションを使用してリモート接続先プロファイルのレコードをエクスポートすると、リモート接続先プロファイルのレコードと、そのリモート接続先プロファイルに関連付けられている各種回線属性がエクスポートされます。クエリを使用してレコード数を制限することはできません。

次の表に、[デフォルトのリモート接続先プロファイル形式 (Default Remote Destination Profile Format)] ファイル形式を選択した場合にエクスポートされるフィールドの一覧を示します。

表 50: [デフォルトのリモート接続先プロファイル (Default Remote Destination Profile)] ファイル形式でエクスポートされるフィールド

フィールドタイプ	エクスポートされたフィールド
デバイスフィールド	[リモート接続先プロファイル名 (Remote Destination Profile Name)]、[説明 (Description)]、[ユーザID (User ID)]、[デバイスプール (Device Pool)]、[CSS]、[AAR CSS]、[メディアリソースリスト (Media Resource List)]、[ユーザ保留音源 (User Hold Audio Source)]、[ロケーション (Location)]、[プライバシー (Privacy)]、[デバイスプレゼンスグループ (Device Presence Group)]、[再ルーティング CSS (Rerouting CSS)]

フィールドタイプ	エクスポートされたフィールド
回線フィールド	<p>[電話番号 (Directory Number)]、[パーティション (Partition)]、[ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]、[回線 CSS (Line CSS)]、[AAR グループ (回線) (AAR Group(Line))]、[回線ユーザ保留音源 (Line User Hold Audio Source)]、[回線ネットワーク保留音源 (Line Network Hold Audio Source)]、[不在転送の接続先 (Forward All Destination)]、[不在転送 CSS (Forward All CSS)]、[話中転送の接続先 (内部) (Forward Busy Internal Destination)]、[話中転送 (内部) CSS (Forward Busy Internal CSS)]、[話中転送の接続先 (外部) (Forward Busy External Destination)]、[話中転送 (外部) CSS (Forward Busy External CSS)]、[無応答時転送の接続先 (内部) (Forward No Answer Internal Destination)]、[無応答時転送 (内部) CSS (Forward No Answer Internal CSS)]、[無応答時転送の接続先 (外部) (Forward No Answer External Destination)]、[無応答時転送 (外部) CSS (Forward No Answer External CSS)]、[無カバレッジ時転送の接続先 (内部) (Forward No Coverage Internal Destination)]、[無カバレッジ時転送 (内部) CSS (Forward No Coverage Internal CSS)]、[無カバレッジ時転送の接続先 (外部) (Forward No Coverage External Destination)]、[無カバレッジ時転送 (外部) CSS (Forward No Coverage External CSS)]、[無応答時転送の呼び出し時間 (Forward No Answer Ring Duration)]、[コールピックアップグループ (Call Pickup Group)]、[MLPP ターゲット (MLPP Target)]、[MLPP CSS]、[MLPP 無応答時の呼び出し時間 (MLPP No Answer Ring Duration)]、[外線電話番号マスク (External Phone Number Mask)]、[コール最大数 (Maximum Number Of Calls)]、[話中トリガー (Busy Trigger)]、[呼び出し表示 (Alerting Name)]、[ASCII 呼び出し表示 (Alerting Name ASCII)]、[表示 (Display)]、[回線の説明 (Line Description)]、[回線プレゼンスグループ (Line Presence Group)]、[不在転送のセカンダリ CSS (Secondary CSS For Forward All)]、[ASCII 表示 (ASCII Display)]、[CTI 障害時転送 - 接続先 (Forward On CTI Failure Destination)]、[CTI 障害時転送 CSS (Forward On CTI Failure CSS)]、[AAR 接続先マスク (AAR Destination Mask)]、[未登録内線の不在転送 - 接続先 (Forward Unregistered Internal Destination)]、[未登録内線の不在転送 CSS (Forward Unregistered Internal CSS)]、[未登録外線の不在転送 - 接続先 (Forward Unregistered External Destination)]、[未登録外線の不在転送 CSS (Forward Unregistered External CSS)]、[保留復帰の呼び出し時間 (Hold Reversion Ring Duration)]、[保留復帰の通知間隔 (Hold Reversion Notification Interval)]</p>



第 61 章

モビリティ プロファイル

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツールを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベース内のモビリティ プロファイルを一意的 ID で管理する方法について説明します。モビリティ プロファイルは、BAT を使用して挿入、削除、およびエクスポートすることができます。

- [モビリティ プロファイルの挿入 \(649 ページ\)](#)
- [モビリティ プロファイルの削除 \(650 ページ\)](#)
- [モビリティ プロファイルのエクスポート \(651 ページ\)](#)

モビリティ プロファイルの挿入

BAT を使用して、モビリティ プロファイルを一括して挿入できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティ プロファイル (Mobility Profile)] > [モビリティ プロファイルの挿入 (Insert Mobility Profile)] の順に選択します。
[モビリティ プロファイル設定の挿入 (Insert Mobility Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスから、この特定の一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにすると、既存のモビリティ プロファイル設定が、挿入するファイルに含まれる情報によって上書きされます。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] フィールドに、ジョブの説明を入力します。
- ステップ 5** 挿入方法を選択します。次のいずれかを実行します。
 - a) すぐにプロファイルを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
 - b) 後でプロファイルを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 6 モビリティプロファイルを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュール追加またはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[モビリティ プロファイルのファイル形式 \(847 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

モビリティ プロファイルの削除

Cisco Unified Communications Manager データベースからモビリティプロファイルを削除できます。

始める前に

Cisco Unified Communications Manager Administration からモビリティプロファイルを削除するには、その前に次の手順を実行する必要があります。

- 削除する各モビリティプロファイルが別々の行に配置されたテキストファイルを作成します。
- カスタムファイル Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

カスタムファイルを使用してモビリティプロファイルを削除するには、次の手順を使用します。



-
- (注) bat.xlt で作成された挿入トランザクションまたはエクスポートトランザクションのファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のあるモビリティプロファイルレコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。カスタム削除ファイルでは見出しが不要で、名前、説明、またはモバイルクライアントコーリングオプションの値を入力できます。
-

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティプロファイル (Mobility Profile)] > [モビリティプロファイルの削除 (Delete Mobility Profile)] の順に選択します。

[モビリティプロファイル設定の削除 (Delete Mobility Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 2** [カスタムファイル内の名前/説明/モバイルクライアント呼オプションによるモビリティ プロファイルの削除 (Delete Mobility Profile where Name/Description/Mobile Client Calling Option in custom file)] ドロップダウン リスト ボックスから、モビリティ プロファイルの削除用にアップロードしたファイルを選択します。
- ステップ 3** [検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** 選択したモビリティ プロファイルと一緒に [ジョブ情報 (Job Information)] セクションが表示されます。
- ステップ 5** ジョブをすぐに実行するか、または後で実行するかを選択できます (対応するラジオボタンを選択します)。
- ステップ 6** モビリティ プロファイルを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- [ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード \(23 ページ\)](#)

モビリティ プロファイルのエクスポート

BAT を使用して、モビリティ プロファイルをエクスポートします。



- (注) [モビリティプロファイル設定のエクスポート (Export Mobility Profile Configuration)] ウィンドウからヘルプにアクセスしている場合は、[ステップ 7 \(652 ページ\)](#) に進みます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [モビリティ (Mobility)] > [モビリティプロファイル (Mobility Profile)] > [モビリティプロファイルのエクスポート (Export Mobility Profile)] の順に選択します。
- [エクスポートするモビリティプロファイルの検索/一覧表示 (Find and List Mobility Profiles To Export)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [モビリティプロファイルの検索 (Find Mobility Profile where)] ドロップダウン リスト ボックスで、次のオプションから照合するフィールドを選択します。
- 名前

- 説明
- モバイル クライアント コーリング オプション

ステップ 3 2 番目のドロップダウン リスト ボックスでは、次のオプションの中から選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 [検索 (Search)] フィールドボックスで、特定のプロファイルの名前や説明などの検索する値を入力し、[検索 (Find)] をクリックします。

さらにクエリを定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2 \(651 ページ\)](#) ~ [ステップ 4 \(652 ページ\)](#) を繰り返します。

条件を満たしているレコードがすべて表示されます。1 ページあたりの項目の表示件数を変更するには、[ページあたりの行数 (Rows per Page)] ドロップダウン リスト ボックスで別の値を選択します。

ステップ 5 表示されるレコードのリストで、表示するレコードのリンクをクリックします。

データベースに登録されているすべてのモビリティプロファイルを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。ウィンドウに、選択したレコードが表示されます。

ステップ 6 [次へ (Next)] をクリックします。

[モビリティプロファイル設定のエクスポート (Export Mobility Profile Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 7 [ファイル名 (File Name)] テキストボックスに、エクスポートするモビリティ プロファイル ファイル名を入力します。

ステップ 8 [ファイル形式 (File Format)] ドロップダウン リスト ボックスから、モビリティプロファイルのファイル形式を選択します。

ステップ 9 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

ステップ 10 エクスポート方法を選択します。次のいずれかを実行します。

- a) すぐにモビリティプロファイルをエクスポートする場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。
- b) 後でモビリティ プロファイルをエクスポートする場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

ステップ 11 モビリティプロファイルをエクスポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 12 [一括管理 (Bulk Administration)]メインメニューの[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)]オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 **XII** 部

リージョンマトリクス

- [リージョンマトリクスの更新 \(657 ページ\)](#)



第 62 章

リージョンマトリクスの更新

この章では、BATの[リージョンマトリクス (Region Matrix)]メニューを使用して、リージョン (地域) マトリクスの設定または設定解除を行う方法について説明します。リージョンテーブルでは物理的な場所を定義するのに対して、リージョンマトリクステーブルではリージョン内部およびリージョン間の使用可能な帯域幅を定義します。

- [リージョンマトリクスの実装と実装解除 \(657 ページ\)](#)

リージョンマトリクスの実装と実装解除

BAT を使用して、リージョンマトリクスを実装または実装解除します。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [リージョンマトリクス (Region Matrix)] > [リージョンマトリクスの実装/実装解除 (Populate/Depopulate Region Matrix)] の順に選択します。[リージョンマトリクス設定 (Region Matrix Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [リージョンマトリクスオプション (Region Matrix Options)] セクションで、必要な操作に応じて [リージョンマトリクスの実装 (Populate Region Matrix)] または [リージョンマトリクスの実装解除 (Depopulate Region Matrix)] を選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションに、ジョブの名前を入力します。これにより、ジョブの識別が容易になります。
- ステップ 4** ジョブを実行するタイミングとして、[今すぐ実行 (Run now)] または [後で実行 (Run later)] を選択します。
- ステップ 5** [Submit (送信)] ボタンをクリックします。
- ステップ 6** [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、送信したジョブのステータスを確認します。

必要に応じて、このウィンドウを使ってジョブを再スケジュールすることができます。

- (注) 他の BAT プロセスとは異なり、リージョンマトリクスを実装または実装解除するジョブの進捗度は、成功/失敗した、または処理されたレコード数として測定できません。プロセス全体が完了して初めて、結果を確認できます。

(注) レコード数の基準は、このトランザクションには当てはまりません。

管理者はリージョン帯域幅デフォルトを変更できますが、BATメニューを介してそれを行うことはできません。

(注) リージョン帯域幅デフォルトにアクセスするには Cisco Unified Communications Manager で [システム (System)] > [サービスパラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。パラメータタイプが Cisco Unified Communications Manager を示し、該当する 4 つのパラメータが [クラスタ全体のパラメータ (Clusterwide Parameter)] ([システム (System)] - [ロケーションとリージョン (Location and Region)] セクションに含まれます。



第 **XIII** 部

インポート/エクスポート

- [インポート/エクスポート メニュー \(661 ページ\)](#)
- [構成データのインポート \(675 ページ\)](#)
- [インポートファイルの検証 \(683 ページ\)](#)



第 63 章

インポート/エクスポート メニュー

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツール (BAT) の [Import/Export (インポート/エクスポート)] メニューを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースのデータの一部を、別のサーバ、または同じサーバ (データに変更を加える場合) との間でエクスポートまたはインポートする方法について説明します。これにより、事前設定済みのデータベースをインストール済みの Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートするために必要になる設定の時間が短縮されます。

- [設定データのエクスポート \(661 ページ\)](#)
- [.tar ファイルの編集 \(672 ページ\)](#)
- [\[インポート/エクスポート \(Import/Export\)\] メニュー関連のトピック \(673 ページ\)](#)

設定データのエクスポート

BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager から設定データをエクスポートします。



(注) Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限版を使用している場合は、[インポート/エクスポート (Import/Export)] で VPN 詳細をエクスポートすることはできません。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [エクスポート (Export)] と選択します。
[データのエクスポート (Export Data)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ジョブ情報 (Job Information)] セクションの [Tar ファイル名 (Tar File Name)] フィールドに、.tar ファイル名を拡張子なしで入力します。
BPS は、このファイル名を使用して設定の詳細情報をエクスポートします。

- (注) 同時にエクスポートされるすべてのファイルは、まとめてバンドルされ (.tar) 、サーバからダウンロードできます。

ステップ 3 [エクスポートする項目の選択 (Select items to Export)] セクションで、エクスポートするオプションを選択します。

- a) [システム データ (System Data)] で、該当するチェックボックスをオンにします。
設定データのエクスポートオプション (663 ページ) にある「システムデータのオプション」を参照してください。
- b) [コールルーティングデータ (Call Routing Data)] で、該当するチェックボックスをオンにします。
設定データのエクスポートオプション (663 ページ) にある「コールルーティングデータのオプション」を参照してください。
- c) [メディア リソース (Media Resources)] で、該当するチェックボックスをオンにします。
設定データのエクスポート オプション (663 ページ) にある「メディアリソースのオプション」を参照してください。
- d) [ユーザデータ (User Data)] で、該当するチェックボックスをオンにします。
設定データのエクスポート オプション (663 ページ) にある「ユーザーデータオプション」を参照してください。
- e) [デバイス データ (Device Data)] で、該当するチェックボックスをオンにします。
設定データのエクスポート オプション (663 ページ) にある「デバイスデータオプション」を参照してください。
- f) [拡張機能 (Advanced Features)] で、該当するチェックボックスをオンにします。
設定データのエクスポートオプション (663 ページ) にある「高度な機能のオプション」を参照してください。

- (注) Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限バージョンを使用している場合は、[VPN プロファイル (VPN Profile)]、[VPN ゲートウェイ (VPN Gateway)]、[VPN グループ (VPN Group)]、[VPN 機能設定 (VPN Feature Configuration)] のチェックボックスが表示されません。Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限版を使用している場合は、[インポート/エクスポート (Import/Export)] で VPN 詳細をエクスポートすることはできません。

ステップ 4 [すべて選択 (Select All)] ボタンを使用して一度にすべてのチェックボックスをオンにすることも、[すべてクリア (Clear All)] ボタンを使用してすべてのチェックボックスをオフにすることもできます。

ステップ 5 [ジョブ説明 (Job Description)] フィールドに、ジョブに関する説明を入力します。[設定のエクスポート (Export Configuration)] がデフォルトの説明です。

ステップ 6 ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択できます (対応するラジオボタンを選択します) 。

ステップ7 関連レコードも確実にエクスポートするためにテーブルの相互依存性を確認するには、[依存関係の確認 (Check Dependency)] をクリックします。

(注) 依存関係を確認した後、任意のチェックボックスをオフにすることができます。また、依存関係の確認を省略することもできます。

(注) 依存関係の確認では、最大1つの依存関係レベルの依存アイテムが選択されます。たとえば、あるアイテムがCSSに依存している場合はCSSのみが選択され、CSSが依存しているアイテムは選択されません。

ステップ8 選択したデータをエクスポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。

ステップ9 [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

設定データのエクスポートオプション

BAT を使用して Cisco Unified Communications Manager から設定データをエクスポートするときにはエクスポートオプションを選択できます。

- システムデータのオプション
- コールルーティングデータのオプション
- メディアリソースのオプション
- ユーザデータのオプション
- デバイスデータのオプション
- 高度な機能のオプション

システムデータのオプション

- Cisco Unified Communications Manager
- Cisco Unified Communications Manager グループ (Cisco Unified Communications Manager Group)
- [日時グループ (Date/Time Group)]
- [デバイスプール (Device Pool)]

- [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)]
- [所在地 (Location)]
- 電話用 NTP 参照 (Phone NTP Reference)
- [地域 (Regions)]
- サーバ (Server)
- [サービスパラメータ (Service Parameter)]
- [SRST]
- セキュリティプロファイル (電話および SIP トランク) (Security Profile (Phone & SIP Trunk))
- Physical Location
- Device Mobility Group
- [プレゼンスグループ (Presence Group)]
- LDAP システム (LDAP System)
- [デバイスモビリティ情報 (Device Mobility Info)]
- [DHCP サーバ (DHCP Server)]
- DHCP サブネット (DHCP Subnet)
- アプリケーションサーバ
- LDAP ディレクトリ
- [LDAP 認証 (LDAP Authentication)]
- [MLPPドメイン (MLPP Domain)]
- [リソース優先度ネームスペースネットワークドメイン (Resource Priority Namespace Network Domain)]
- リソース優先度ネームスペースリスト (Resource Priority Namespace List)
- CUMA サーバセキュリティプロファイル (CUMA Server Security Profile)
- [位置情報の設定 (Geo Location Configuration)]
- [位置情報フィルタ (Geo Location Filter)]
- エンタープライズ電話の設定 (Enterprise Phone Configuration)
- 証明書
- [ユーザのLDAPカスタムフィルタ (LDAP Custom Filter for Users)]
- [グループのLDAPカスタムフィルタ (LDAP Custom Filter for Groups)]

- [ロケーション帯域幅マネージャ グループ (Location Bandwidth Manager Group)]
- オーディオ コーデック プリファレンス リスト
- LDAP検索

コールルーティング データのオプション

- アプリケーションダイヤルルール (Application Dial Rules)
- CSS (コントロールのクラス) (CSS (Class of Control))
- パーティション (コントロールのクラス) (Partitions (Class of Control))
- [ルートフィルタ (Route Filter)]
- 時間帯 (コントロールのクラス) (Time Period (Class of Control))
- スケジュール (コントロールのクラス) (Time Schedule (Class of Control))
- [トランスレーションパターン (Translation Pattern)]
- [AAR グループ (AAR Group)]
- 強制承認コード (Forced Authorization Codes)
- ディレクトリ検索ダイヤルルール (Directory Lookup Dial Rules)
- [クライアント識別コード (Client Matter Codes)]
- コールパーク
- コールピックアップグループ (Call Pickup Group)
- [電話番号 (Directory Number)]
- ミートミー番号 (MeetMe Number)
- Cisco Attendant Console のパイロットポイント (Cisco Attendant Console Pilot Point)
- [ダイレクトコールパーク (Directed Call Park)]
- [SIP ダイヤルルール (SIP Dial Rules)]
- [回線グループ (Line Group)]
- [ルートグループ (Route Group)]
- [ハントリスト (Hunt List)]
- [ルートリスト (Route List)]
- [ハントパイロット (Hunt Pilot)]
- [インターコムルートパーティション (Intercom Route Partition)]
- インターコムの CSS (Intercom CSS)

- アクセス リスト (Access List)
- [ルート パターン (Route Pattern)]
- 着信側トランスフォーメーションパターン (Called Party Transformation Pattern)
- [SIP ルート パターン (SIP Route Pattern)]
- インターコム電話番号 (Intercom Directory Number)
- インターコム トランスフォーメーションパターン (Intercom Translation Pattern)
- 発呼側トランスフォーメーションパターン (Calling Party Transformation Pattern)
- 時刻アクセス (Time Of Day Access)
- 論理パーティション ポリシー (Logical Partition Policy)
- CCD 要求サービス (CCD Requesting Service)
- ホスト DN グループ (Hosted DN Group)
- 学習パターンのブロック (Block Learned Patterns)
- ホスト DN パターン (Hosted DN Patterns)
- CCD アドバタイジング サービス (CCD Advertising Service)
- 外部コール制御プロファイル (External Call Control Profile)
- トランスフォーメーションプロファイル (Transformation Profile)
- CDD 機能設定 (CCD Feature Configuration)
- CDD パーティション (CCD Partition)
- モビリティ プロファイル設定 (Mobility Profile Configuration)
- ハンドオフ設定 (Handoff Configuration)
- [エンタープライズ機能アクセスの設定 (Enterprise Feature Access Configuration)]
- ELIN グループ (Elin Group)

メディア リソースのオプション

- [アナンシエータ (Annunciator)]
- [会議ブリッジ (Conference Bridge)]
- メディア リソース グループ (Media Resource Group)
- メディア リソース グループ リスト (Media Resource Group List)
- [メディア ターミネーション ポイント (Media Termination Point)]
- [トランスコーダ (Transcoder)]

- 保留音サーバー
- モバイル ボイス アクセス
- 保留音サーバー
- IVR

ユーザ データのオプション

- SIP レalm (SIP Realm)
- [アプリケーション ユーザ (Application User)]
- [アクセス コントロール グループ (Access Control Group)]
- ロール (Role)
- アプリケーション ユーザ CAPF プロファイル (Application User CAPF Profile)
- クレデンシヤル ポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)
- クレデンシヤル ポリシー (Credential Policy)
- エンド ユーザ
- エンド ユーザ CAPF プロファイル (End User CAPF Profile)
- [UC サービス (UC Service)]
- サービス プロファイル
- [セルフプロビジョニング (Self-Provisioning)]
- [ユーザ プロファイル (User Profile)]
- 機能グループ テンプレート
- ユニバーサル デバイス テンプレート
- ユニバーサル回線テンプレート

デバイス データのオプション

- [ソフトキー テンプレート (Softkey Template)]
- ゲート キーパー (Gate Keeper)
- トランク
- [SIP プロファイル (SIP Profile)]
- 電話機サービス
- [電話ボタンテンプレート (Phone Button Template)]

- [共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]
- ゲートウェイ
- [Device Defaults (デバイスのデフォルト)]
- Device Profile
- [共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]
- CTI ルート ポイント (CTI Route Point)
- [電話 (Phone)]
- [録音プロファイル (Recording Profile)]
- [リモート接続先 (Remote Destination)]
- [リモート接続先プロファイル (Remote Destination Profile)]
- [機能コントロール ポリシー (Feature Control Policy)]
- デフォルトのデバイス プロファイル (Default Device Profile)
- SIP 正規化スクリプト (SIP Normalization Script)
- [SDP透明性プロファイル (SDP Transparency Profile)]
- [ワイヤレス LAN プロファイルグループ (Wireless LAN Profile Group)]
- ワイヤレス LAN プロファイル
- [ネットワーク アクセス プロファイル (Network Access Profile)]
- [Wi-Fi ホットスポットプロファイル (Wi-Fi Hotspot Profile)]
- Expressway-C

高度な機能のオプション



(注)

Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限バージョンを使用している場合は、[VPN プロファイル (VPN Profile)]、[VPN ゲートウェイ (VPN Gateway)]、[VPN グループ (VPN Group)]、[VPN 機能設定 (VPN Feature Configuration)] のチェックボックスが表示されません。Cisco Unified Communications Manager の米国輸出無制限バージョンを使用している場合は、[インポート/エクスポート (Import/Export)] 経由で VPN 詳細をエクスポートすることができません。

- メッセージ受信番号 (Message Waiting Number)
- [ボイスメールパイロット (Voice Mail Pilot)]
- [ボイスメールプロファイル (Voice Mail Profile)]
- ボイスメールポート (Voice Mail Port)
- SAF フォワーダ (SAF Forwarder)
- SAF セキュリティプロファイル (SAF Security Profile)
- EMCC リモート クラスタ (EMCC Remote Cluster)
- EMCC クラスタ間サービス プロファイル (EMCC Intercluster Service Profile)
- Intercompany Media Engine サーバ接続 (Intercompany Media Engine Server Connections) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Engine : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Engine : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service の信頼要素 (Intercompany Media Services Trust Element) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service の登録済みパターン (Intercompany Media Services Enrolled Pattern) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service の登録済みグループ (Intercompany Media Services Enrolled Group) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service の除外グループ (Intercompany Media Services Exclusion Group) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- フォールバックプロファイル (Fall Back Profile) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。

- Intercompany Media Service の学習ルート (Intercompany Media Services Learned Route) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- VPN プロファイル (VPN Profile)
- [VPN ゲートウェイ (VPN Gateway)]
- VPN グループ (VPN Group)
- EMCC 機能設定 (EMCC Feature Config)
- Intercompany Media Service のファイアウォール (Intercompany Media Services Learned Firewall) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service 除外番号 (Intercompany Media Services Exclusion Number) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service E.164 トランスフォーメーション (Intercompany Media Services E.164 Transformation) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- Intercompany Media Service 機能設定 (Intercompany Media Services Feature Configuration) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- フォールバック機能設定 (Fallback Feature Configuration) : このフィールドを設定する前に、Cisco IME サーバがインストールされており、使用可能であることを確認します。
- VPN 機能設定 (VPN Feature Configuration)
- 着信側トレース
- 電話番号エイリアス検索および同期
- [コール制御エージェントプロファイル (Call Control Agent Profile)]
- インフラストラクチャ デバイス (Infrastructure Device)

ログファイル

1回のエクスポートトランザクションで複数のログファイルが作成されます。トランザクション全体に関する1つのファイルと、エクスポート用に選択された項目ごとに1つずつのファイルが作成されます。これらのログファイルには項目ごとに結果が書き込まれます。ログファイル名には、識別しやすいように項目名が先頭に付加されます。

これらのファイルには、[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ページからアクセスできません。

関連項目

「[\[インポート/エクスポート \(Import/Export\)\]メニュー関連のトピック \(673 ページ\)](#)」を参照してください。

.tar ファイルの編集

tar ファイルは、複数の CSV ファイルと 1 つのヘッダー ファイルのリストとして構成されます。ヘッダーファイルを使用して、エクスポートの実行元となったサーバとエクスポート実行時刻の詳細を参照できます。また、ヘッダーファイルにはパッケージ内のファイルに関する詳細も含まれます。

BAT を使用して必要なデータをエクスポートした後、エクスポート済み .tar ファイルを直接変更することができます。エクスポート済み .tar ファイルは、Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに配置されます。

手順

ステップ 1 **[Bulk Administration (一括管理)] > [Upload/Download Files (ファイルをアップロード/ダウンロード)]** の順に選択します。

[ファイルの検索/一覧表示 (Find and List Files)] ページが表示されます。

ステップ 2 更新する .tar ファイルをダウンロードします。

ステップ 3 `tar -xvf` コマンドを使用して、マシン上の特定の場所に .tar ファイルを展開します。

指定した場所に .csv ファイルが抽出されます。

(注) 「`tar -xvf`」 コマンドは Windows サーバ上では機能しないことがあります。WWW で入手可能なフリーウェア 7-Zip を使用すると、Windows で TAR 操作と UNTAR 操作を実行できます。

(注) .csv ファイルの名前は常にアイテム名と同じです。

ステップ 4 Microsoft Excel を使用して .csv ファイルを編集し、変更を保存します。

(注) テキストエディタを使用して .csv ファイルを編集することもできますが、Microsoft Excel を使って .csv ファイルを編集することをお勧めします。

.csv ファイルのファイル名とファイル形式は決して変更しないでください。新しいファイルを tar パッケージに追加する場合は、Cisco Unified Communications Manager からエクスポートした場合と同じファイル名およびファイル形式になるようにしてください。また、新しいファイル名を必ずヘッダー ファイルに追加してください。

ヒント 新しいアイテムを追加する予定の場合は、必ず Cisco Unified Communications Manager からそのアイテムをエクスポートするようにしてください (そのアイテムのレコードが存在しない場合でも)。これにより、正しい名前とファイル形式の .csv ファイルが作成されます。

ステップ 5 tar -cvf コマンドを使ってファイルを再び tar し、新しい .tar ファイルを必ずデフォルトの共通場所に保存します。

(注) 「tar-cvf」 コマンドは Windows サーバ上で機能しない可能性があります。WWW で入手可能なフリーウェア 7-Zip を使用すると Windows で TAR 操作と UNTAR 操作を実行できます。

注意 ファイルを再び tar するとき、.tar ファイルの元のディレクトリ構造が維持されるようにする必要があります。これは、BPS がデフォルト場所でのみ .tar ファイルを検索するためです。

ステップ 6 .tar ファイルをインポート用にアップロードします。

(注) [インポート/エクスポート (Import/Export)]として[ターゲット (Target)]を必ず選択し、[インポート (Import)]として[トランザクションタイプ (Transaction Type)]を必ず選択します。

(注) テキストエディタを使用してファイルを更新することにした場合は、ファイル形式内の新しいエントリごとにカンマを追加する必要があります。

(注) インポート/エクスポートツールでは、パスワードと PIN の属性を更新できません。これらは暗号化形式でエクスポートファイルにエクスポートされるため、平文に変換できません。クレデンシャルを持つエンティティは、共通の電話プロファイル、SIP レルム、アプリケーションユーザ、LDAP 認証、LDAP ディレクトリ、Cisco Attendant Console、およびエンドユーザです。エクスポート済みファイル内の enduser.csv の User ID、User Pkid、Password、および Pin の各フィールドを変更してはならないことに注意してください。

関連トピック

- [サーバからのファイルのダウンロード \(25 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

[インポート/エクスポート (Import/Export)]メニュー関連のトピック

- [設定データのエクスポート \(661 ページ\)](#)
- [.tar ファイルの編集 \(672 ページ\)](#)
- [サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索 \(23 ページ\)](#)
- [サーバからのファイルのダウンロード \(25 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

- [サーバからのファイルの削除 \(26 ページ\)](#)
- [サーバーへの設定のインポート \(675 ページ\)](#)



第 64 章

構成データのインポート

この章では、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して、Cisco Unified Communications Manager に構成データをインポートする方法について説明します。

[インポート/エクスポート (Import/Export)] を使用して更新できるのは、既存のエンタープライズパラメータまたはサービスパラメータだけです。インポートする .csv ファイルに IPMA に固有のテンプレートがある場合は、必ずターゲットサーバ上で IPMA ウィザードを実行してから、インポートのトランザクションに進んでください。

- [サーバーへの設定のインポート \(675 ページ\)](#)
- [循環依存関係 \(678 ページ\)](#)
- [オーバーライドのみ \(679 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード \(680 ページ\)](#)
- [インポート/エクスポートメニュー関連のトピック \(681 ページ\)](#)

サーバーへの設定のインポート

[一括管理 (Bulk Administration)] メニューを使用して、Unified Communications Manager に設定データをインポートできます。



- (注) BAT を使用してサービスプロファイルデータをエクスポートする場合、[ユーザー管理 (User Management)] > [ユーザー設定 (User Settings)] > [サービスプロファイル (Service Profile)] > [ディレクトリプロファイル Unified CM 管理 (Directory Profile Unified CM Administration)] インターフェイスで設定された LDAP パスワードは、暗号化された形式でエクスポートされません。Unified Communications Manager サーバーから別のサーバーにサービスプロファイルデータをインポートするには、エクスポートした .csv ファイルにプレーンテキスト形式でパスワードを手動で再入力する必要があります。これは、復号キーがサーバーごとに異なるため、同じパスワードをインポートできないためです。

認証に LDAP クレデンシャルを使用している場合は、Jabber クライアント設定 (jabber-config.xml) ファイルで設定された **DiagnosticsToolEnabled** パラメータを使用して [Cisco Jabber 診断ツール (Cisco Jabber Diagnostic Tool)] を無効にする必要があります。

エンタープライズパラメータまたはサービスパラメータを正常にインポートするためには、インポート場所で Cisco Unified Communications Manager Administration の [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)] または [サービスパラメータ (Service Parameter)] ウィンドウからパラメータを更新する必要があります。その場合は、インポートを実行する前に、Cisco Unified Communications Manager Administration の [エンタープライズパラメータ (Enterprise Parameter)] または [サービスパラメータ (Service Parameter)] ウィンドウで、何も変更せずに [保存 (Save)] をクリックしてください。



注目 [インポート/エクスポート (Import/Export)] を使用して更新できるのは、既存のエンタープライズパラメータまたはサービスパラメータだけです。データベースで一部のパラメータが欠落している場合、パラメータのインポートが失敗します。

「[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)]」 オプションを使用すると、アイテムがサーバーに存在する場合はそれを更新し、存在しない場合はそれを挿入するよう BPS に指示できます。この上書き (オーバーライド) オプションを使って電話機やユーザーデバイスプロファイルをインポートするとき、IP 電話サービスは更新されず、既存のエンティティのセットに付加されるだけです。



(注) 同じ名前の複数の IP 電話サービスが存在する可能性がありますが、このようなサービスを区別する一意のキーが存在しないため、[インポート/エクスポート (Import or Export)] 操作でどのサービスを更新するか特定できず、代わりにサービスを付加します。

始める前に

import.csv ファイルに IPMA 固有のテンプレートが含まれている場合は、インポートトランザクションを実行する前に、ターゲットサーバー上で IPMA ウィザードを必ず実行してください。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [インポート (Import)] の順に選択します。

ステップ 2 [ファイル名 (File Name)] フィールドで .tar ファイル名を選択し、[次へ (Next)] をクリックします。

(注) [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストに、アップロードされたすべての .tar ファイルが表示されます。

ステップ 3 [インポートの設定 (Import Configuration)] セクションに、.tar ファイルのすべてのコンポーネントが一覧表示されます。インポートするオプションに対応するチェックボックスをオンにします。

ステップ 4 アイテムが存在する場合はそれを更新し、存在しない場合はそれを挿入するよう BPS に指示するには、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。

既存の設定をオーバーライドするかどうかは任意選択です。

(注) ファイルが変更される場合、更新中にファイル名とファイル形式を変更してはなりません。

ステップ 5 [すべて選択 (Select All)] をクリックすると、同時にすべてのオプションが選択され、[すべてをクリア (Clear All)] をクリックすると、すべての選択がクリアされます。

ステップ 6 対応するラジオボタンを選択して、ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択します。

ステップ 7 選択されたデータをインポートするためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

[ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。

ステップ 8 [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

次のタスク

ジョブの実行が失敗した後、修正済みの同じ tar ファイルを実行するときに「上書き」を使用できます。



(注) Unified Communications Manager サーバーが作成される時、バックグラウンドでデータベーストリガーが起動し、これによって会議ブリッジ (CFB) やメディアターミネーションポイント (MTP) などのエンティティが自動的に作成されます。これらのエンティティには CFB_1 や MTP_1 などの名前が付けられます。

ユーザーがこの情報を TAR ファイルにエクスポートして、それを別の Unified Communications Manager サーバーにインポートすると、システムは CFB や MTP などのアイテムを作成します。新しい Unified Communications Manager サーバー上の名前は、インポート前の名前と同じになることも、異なる名前になることもあります。

関連トピック

[ログファイル](#) (671 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

循環依存関係

Cisco Unified Communications Manager の一部のエンティティは、別のエンティティをインポートしないと、あるエンティティをインポートできない、というように相互に依存しています。そのようなエンティティのインポート/エクスポートでは、2段階でインポートプロセスを実行します。

1. 優先順位が高いエンティティが最初にインポートされ、対応するエンティティの値は空白になります。



(注) これは、対応エンティティの値が同時に使用できないからです。

2. .tar 内のすべてのエンティティをインポートした後、インポート/エクスポートは対応するエンティティの値を使用して優先度の高いエンティティを更新し、インポートプロセスを完了します。



(注) 対応するエンティティの値は次回のサイクルで使用可能になります。

例

循環型依存関係が機能する方法を理解するために、以下の例を考えてみましょう。

デバイスプールとメディアリソースグループリスト (MRGL) : まず、デバイスプール (優先度の高いエンティティ) がインポートされ、MRGL (対応するエンティティ) の値は同時に使用できないため、空白になります。tar ファイル内のすべてのエンティティをインポートした後、インポート/エクスポートはデバイスプールを更新して、空白の値を MRGL の真の値で置き換え、インポートプロセスを完了します。

循環型依存関係に縛られるエンティティとして、次のものがあります。

- デバイスプールと MRGL
- デバイスプールとルートグループ
- パーティションとスケジュール
- アプリケーションユーザとユーザグループ
- ライセンス

サンプルレコード

devicepool.csv

```
DEVICE POOL NAME,CISCO UNIFIED CALLMANAGER GROUP,DATE/TIME GROUP,REGION,SRST
REFERENCE,CALLING SEARCH SPACE FOR AUTO-REGISTRATION,AAR CALLING SEARCH SPACE,DEVICE
```

MOBILITY CALLING SEARCH SPACE, MEDIA RESOURCE GROUP LIST, LOCATION, NETWORK LOCALE, CONNECTION MONITOR DURATION, DEVICE MOBILITY GROUP, AAR GROUP, REVERTED CALL FOCUS PRIORITY, LOCAL ROUTE GROUP, CALLING PARTY TRANSFORMATION CSS, CALLED PARTY TRANSFORMATION CSS, INCOMING CALLING PARTY NATIONAL NUMBER PREFIX, INCOMING CALLING PARTY INTERNATIONAL NUMBER PREFIX, INCOMING CALLING PARTY UNKNOWN NUMBER PREFIX, INCOMING CALLING PARTY SUBSCRIBER NUMBER PREFIX, PHYSICAL LOCATION

Branch_0000, CMG 1 Phones, Central, region_0001, Disable, NULL, NULL, NULL, Intrn_MRGL-1_Volkswagen Intn.,, NULL, -1, NULL, NULL, Default, NULL, NULL, NULL, Default, Default, Default, Default, NULL

mediaresourcegrouplist.csv

NAME, MEDIA RESOURCE GROUP 1, SORT ORDER 1

Intrn_MRGL-1_Volkswagen Intn.,,



- (注) インポート/エクスポートは、依存関係にあるエンティティをインポートする度に、2つのログファイルを生成します。最初のログファイルは最初のエンティティの挿入のステータスを示し、もう一方のログファイルは対応するエンティティの値によって、最初のエンティティが正常に更新されたかどうかを示します。

インポートまたはエクスポートでサポートされていない項目

次の項目は、インポートまたはエクスポートでサポートされません。

- [ダイヤルプランインストーラ (Dial Plan Installer)]
- [ルートプランレポート (Route Plan Report)]
- MOH Audio Source
- [固定 MOH 音源 (Fixed MOH Audio Source)]
- [MOH オーディオファイル管理 (MOH Audio File Management)]
- [Cisco ボイス メール ポート ウィザード (Cisco Voice Mail Port wizard)]
- [ファームウェア ロード情報 (Firmware load information)]
- ライセンス
- 発表

オーバーライドのみ

[インポート/エクスポート (Import/Export)]では、Cisco Unified Communications Manager データベースの以下のエンティティに対する挿入機能はサポートされません。これらのエンティティは、更新/オーバーライドのみ行えます。

- Cisco Unified CM
- LDAP システム (LDAP System)

- [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)]
- [サービス パラメータ (Service Parameter)]
- モビリティ設定
- アナシエータ/MOH サーバ : Cisco Unified Communications Manager サーバを作成すると、データベース トリガーが MOH サーバやアナシエータなどのエンティティを作成します。この情報を TAR ファイルにエクスポートして、それを別の Cisco Unified Communications Manager サーバにインポートすると、システム トリガーが MOH サーバやアナシエータなどのアイテムを作成します。[インポート/エクスポート (Import/Export)]は、既存の MOH サーバ (サーバアソシエーション/アナシエータ) の更新のみをサポートします。インポートする前に CSV ファイルに有効な関連付けが存在するように、TAR ファイルを編集できます。最初にサーバをインポートすることをお勧めします。その次に、作成した関連付けに基づいて、CSV ファイルを編集して、インポートしてオーバーライドを実行できます。
- [デバイスのデフォルト (Device Defaults)]
- クレデンシャル ポリシーのデフォルト (Credential Policy Default)
- 証明書 : Cisco Unified Communications Manager Administration から新規証明書を作成/アップロードできないため、[インポート/エクスポート (Import/Export)]は、既存の証明書の更新のみをサポートします。証明書の [キャッシュの有効期間 (Duration in Cache)]パラメータのみ、更新できます。
- セルフプロビジョニング

Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード

Cisco Unified CallManager 4.x リリースからアップグレードした後にエンティティをインポートする場合は、次の点に注意してください。

- BAT は、同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager 間のインポート/エクスポートのみをサポートします。Cisco Unified CallManager 4.x リリースからアップグレードした後、ソース サーバとターゲット サーバの両方で同じバージョンの Cisco Unified Communications Manager が使用されていることを確認してください。
- アップグレード前にソース サーバで実行されていた以前の Cisco Unified CallManager 4.x バージョンに該当するアプリケーション ユーザに関連付けられたユーザ グループの中には、ターゲット サーバで実行される Cisco Unified Communications Manager バージョンに該当しないものが含まれている可能性があります。このようなユーザグループのインポート トランザクションは失敗します。

インポート/エクスポートメニュー関連のトピック

- [設定データのエクスポート \(661 ページ\)](#)
- [.tar ファイルの編集 \(672 ページ\)](#)
- [ログファイル \(671 ページ\)](#)
- [オーバーライドのみ \(679 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CallManager 4.x リリースからのアップグレード \(680 ページ\)](#)
- [サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索 \(23 ページ\)](#)
- [サーバからのファイルのダウンロード \(25 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)
- [サーバからのファイルの削除 \(26 ページ\)](#)



第 65 章

インポート ファイルの検証

この章では、BAT の [インポート ファイルの検証 (Validate Import File)] ページを使用して、インポートする .tar ファイルを検証する方法について説明します。

- [インポート ファイルの検証項目 \(683 ページ\)](#)
- [インポート ファイルの検証 \(683 ページ\)](#)
- [インポート ファイルの検証関連のトピック \(684 ページ\)](#)

インポート ファイルの検証項目

BAT の [インポート ファイルの検証 (Validate Import File)] ページでは、import.tar ファイル内の次の項目が検証されます。

- .tar ファイルにヘッダー ファイルが含まれているか。
- ヘッダーファイルに列挙されたすべてのファイルが実際に .tar ファイル内に存在するか。
- .tar ファイル内のすべてのファイルがヘッダー ファイルに列挙されているか。
- ファイル名が正しいか (インポート/エクスポート規則に従って)。
- .tar ファイル内の CSV ファイルのファイル形式が正しいか。



(注) この機能には、有効な文字、文字列、長さなどに関するフィールドレベルの検証は含まれていません。

インポート ファイルの検証

BAT の [インポート ファイルの検証 (Validate Import File)] ページを使用して、インポート .tar ファイルを検証します。



(注) 検証手順は、インポート .tar ファイルで指定された項目に対してのみ実行されます。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [インポート/エクスポート (Import/Export)] > [インポートファイルの検証 (Validate Import File)] の順に選択します。
[インポートファイルの検証 (Validate Import File)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [Tarファイル名 (Tar File Name)] フィールドで .tar ファイル名を選択し、[送信 (Submit)] をクリックします。
[ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リスト ボックスに、アップロードされたすべての .tar ファイルが一覧表示されます。
[ステータス (Status)] セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。
- ステップ 3** ジョブのステータスを確認するには、[一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用します。
-

次のタスク

検証中に問題が発生した場合は、ログファイルにそれが書き込まれます。

関連トピック

- [インポートファイルの検証項目 \(683 ページ\)](#)
- [ログファイル \(671 ページ\)](#)
- [インポートファイルの検証関連のトピック \(684 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

インポートファイルの検証関連のトピック

- [設定データのエクスポート \(661 ページ\)](#)
- [.tar ファイルの編集 \(672 ページ\)](#)
- [サーバ上のダウンロード可能なファイルの検索 \(23 ページ\)](#)
- [サーバからのファイルのダウンロード \(25 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)
- [サーバからのファイルの削除 \(26 ページ\)](#)



第 **XIV** 部

電話の移行

- [電話の移行の管理 \(687 ページ\)](#)



第 66 章

電話の移行の管理

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理ツールの [電話の移行 (Phone Migration)] 機能を使用して、電話機をあるタイプから別のタイプに一括して移行する方法について説明します。[電話の移行 (Phone Migration)] サブメニューには、Cisco Unified Communications Manager の [一括管理 (Bulk Administration)] メニューからアクセスできます。

- [電話の移行に関する考慮事項 \(687 ページ\)](#)
- [電話の移行 \(689 ページ\)](#)

電話の移行に関する考慮事項

電話を移行するには、テキストベースの CSV データ ファイルを使用します。CSV データ ファイルは、BAT スプレッドシートまたはテキストエディタのいずれかを使用して作成できます。

電話を移行する際は、次の制限事項に注意してください。

- スピードダイヤルまたは回線の数が少ない電話に移行しても、回線やスピードダイヤルは削除されません。ただし、回線/スピードダイヤルの一部が電話機に表示されなくなります。電話の設定ページには引き続き元のすべての回線/スピードダイヤルが表示されません。
- 新しい電話に移行するとしても、SIP から SCCP、またはその逆に移行する場合は機能が消失する可能性があります。
- 移行できるのは既存の電話のみです。存在していないデバイスを CSV ファイルに入力すると、エラーメッセージが表示されます。
- 電話が正常に移行されると、古い電話機は新しい電話機の設定で更新されます。
- リセットまたは再起動オプションを選択すると、新しい電話機がリセットされます。

BAT スプレッドシートを使用した電話移行用の CSV データ ファイルの作成

BAT スプレッドシートを使用して、電話の移行の詳細を含む CSV データ ファイルを作成できます。

BAT スプレッドシートのフィールドの編集を完了した後、その内容を CSV 形式のデータ ファイルにエクスポートできます。エクスポートされた CSV 形式のデータ ファイルには、次のようなデフォルトのファイル名が割り当てられます。

```
PhoneMigration#timestamp.txt
```

ここで、「timestamp」はファイルが作成された正確な日時を表します。



(注) いずれかのフィールドにカンマを入力すると、BAT 形式にエクスポートする際に BAT.xlt はそのフィールドエントリを二重引用符で囲みます。

スプレッドシートに空の行を含める場合、システムは空の行をファイルの終わりとして扱います。空の行より後に入力されたデータは BAT 形式に変換されません。

手順

ステップ 1 BAT スプレッドシートを開くには、BAT.xlt ファイルを探してダブルクリックします。

ステップ 2 スプレッドシートの機能を使用するように求められたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] をクリックします。

ステップ 3 [電話の移行 (Phone Migration)] タブをクリックします。

ステップ 4 各行で、次のフィールドの情報を入力します。

- [古いデバイス名 (Old Device Name)] : 移行する電話機の名前を、古いデバイスを識別する 1 から 50 文字で入力します。このフィールドは必須です。
- [新しいデバイスの MAC アドレス (New Device MAC Address)] : 新しいデバイスの MAC アドレス (12 文字) を入力します。これは必須フィールドです。
- [説明 (Description)] : 説明を 50 文字以内で入力します。これはオプションのフィールドです。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。

ステップ 5 BAT Excel スプレッドシートから CSV ファイルにデータを転送するには、[BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。

デフォルトのファイル名 PhoneMigration#timestamp.txt で、C:\XLSDataFiles にファイルが保存されます。[参照 (Browse)] を使用して、ローカルワークステーションの別の既存のフォルダにファイルを保存することもできます。

- (注) エクスポートした CSV データ ファイルを読み取る方法については、BAT の [電話の移行設定 (Phone Migration Configuration)] ウィンドウにある [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] へのリンクをクリックします。

次のタスク

CSV データ ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードすると、BAT からそのデータ入力ファイルにアクセスできるようになります。

関連トピック

- [CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する](#) (14 ページ)
- [電話移行用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (837 ページ)
- [ファイルのアップロードおよびダウンロード](#) (23 ページ)

電話の移行

BAT の電話移行機能を使用して、電話機を一括して移行します。

始める前に

- 移行する電話機のデバイス名、新しい電話機の MAC アドレス、および新しい電話機の説明を含むカンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。
- 特定のタイプの電話機テンプレートが作成済みで、移行に使用するプロトコルの設定と使用準備が完了している必要があります。
- トランザクションに関わるターゲットと機能に絞り込み、データファイルをアップロードします。

手順

-
- ステップ 1** [Bulk Administration (一括管理)] > [電話の移行 (Phone Migration)] の順に選択します。[電話の移行設定 (Phone Migration Configuration)] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2** 電話機をリセットまたは再起動するよう選択するには、[情報のリセット/リスタート (Reset/Restart Information)] セクションで適切なラジオ ボタンを選択できます。
[電話をリセット/リスタートしない (Don't Reset/Restart phones)] がデフォルト設定です。
 - ステップ 3** [電話の移行情報 (Phone Migration Information)] セクションの [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリスト ボックスで、アップロードしたファイルを選択します。
 - ステップ 4** [電話テンプレート名 (Phone Template Name)] ドロップダウンリスト ボックスから、移行に使用する電話テンプレートを選択します。

- ステップ 5** [ジョブ情報 (Job Information)]セクションに、ジョブの説明を入力します。
デフォルトの説明は[電話の移行 (Phone Migration)]です。
- ステップ 6** ジョブをすぐに実行するか、それとも後で実行するかを選択できます (対応するラジオボタンを選択します)。
- ステップ 7** 電話機を移行するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)]をクリックします。
- ステップ 8** 機能やデータが失われる可能性があることを伝える警告メッセージが表示されます。次のいずれかを実行します。
- [キャンセル (Cancel)]をクリックして、ジョブを送信せずに[電話の移行設定 (Phone Migration Configuration)]ウィンドウに戻ります。
 - [OK]をクリックして、ジョブの送信に進みます。
- [ステータス (Status)]セクション内のメッセージで、ジョブが正常に送信されたことを確認できます。
- ステップ 9** [一括管理 (Bulk Administration)]メインメニューの[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)]オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)



第 **XV** 部

Extension Mobility Cross Cluster (EMCC)

- [Extension Mobility Cross Cluster テンプレート \(693 ページ\)](#)
- [EMCC デバイスの挿入、更新、および削除 \(699 ページ\)](#)



第 67 章

Extension Mobility Cross Cluster テンプレート

この章では、Extension Mobility Cross Cluster (EMCC) に対して Cisco Unified Communications Manager Administration によって個々の更新を実行するのではなく、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して一括で挿入、更新、または削除する方法について説明します。

- [EMCC テンプレート \(693 ページ\)](#)
- [EMCC テンプレート関連のトピック \(697 ページ\)](#)

EMCC テンプレート

BAT EMCC テンプレートを使用して、共通の EMCC 属性を定義して新しい EMCC のグループを追加します。テンプレートを作成する前に、EMCC 設定が Cisco Unified Communications Manager Administration 内ですでに設定済みであることを確認します。新しい設定を BAT で作成することはできません。

EMCC テンプレートの検索

複数の EMCC テンプレートが存在することがあるため、では特定の基準に基づいて特定のテンプレートを検索できます。次の手順を使用して、テンプレートを検索します。



- (注) ブラウザセッションでの作業中に、検索/一覧表示の検索設定がクライアントマシン上の Cookie に保存されます。別のメニュー項目に移動してからこのメニュー項目に戻った場合、またはブラウザを閉じてから新しいブラウザウィンドウを再度開いた場合でも、この検索設定が、検索条件を変更するまで維持されます。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC テンプレート (EMCC Template)] の順に選択します。

[EMCC テンプレートの検索/一覧表示 (EMCC Template Find and List)] ウィンドウが表示されます。2 つのドロップダウンリスト ボックスを使用してテンプレートを検索します。

ステップ 2 最初の [EMCC テンプレートの検索 (Find EMCC Template where)] ドロップダウンリスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- テンプレート名 (Template Name)
- 説明

2 番目の [EMCC テンプレートの検索 (Find EMCC Templates where)] ドロップダウン リスト ボックスから、次の条件のいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 3 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

ヒント データベースに登録されているすべての EMCC テンプレートを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたテンプレートのリストが表示されます。

ステップ 4 レコードのリストから、検索条件と一致するデバイス名をクリックします。ウィンドウに、選択した EMCC テンプレートが表示されます。

関連トピック

[EMCC テンプレート関連のトピック \(697 ページ\)](#)

新しい EMCC テンプレートの作成

BAT を使用して、EMCC テンプレートを作成します。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC テンプレート (EMCC Template)] の順に選択します。
[EMCCテンプレートの検索/一覧表示 (EMCC Template Find and List)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[EMCC テンプレートの設定 (EMCC Template Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** このバッチで共通に設定する EMCC 設定を入力します。
フィールドの説明については、「[表 51 : EMCC テンプレートのフィールドの説明 \(696 ページ\)](#)」を参照してください。
- ステップ 4** この EMCC テンプレートのすべての設定を入力したら、[保存 (Save)] をクリックします。
これにより、テンプレートが作成されます。

次のタスク

テンプレートを作成した後に、[挿入 (Insert)] ページからデフォルトのテンプレートを設定します。[一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCC の挿入/更新 (Insert/Update EMCC)] から [挿入 (Insert)] ページにアクセスできます。

関連トピック

[EMCC テンプレート関連のトピック \(697 ページ\)](#)

EMCC テンプレートの削除

不要になった EMCC BAT テンプレートを削除できます。



- (注) デフォルト EMCC テンプレートとして設定されているテンプレートをシステムから削除することはできません。[EMCCの挿入/更新 (Insert/Update EMCC)] ページまたは [EMCCの削除 (Delete EMCC)] ページから、デフォルト EMCC テンプレートを検索できます。また、[EMCC テンプレート検索リスト (EMCC Template Find List)] ページから検索することもできます。[検索リスト (Find List)] ページでは、デフォルトテンプレートに対応するチェックボックスが表示されません。

手順

- ステップ 1** 削除する EMCC テンプレートを検索します。
- ステップ 2** [EMCCテンプレートの設定 (EMCC Template Configuration)] ウィンドウで、それが削除対象のテンプレートであることを確認して、[削除 (Delete)] をクリックします。

(注) また、[EMCCテンプレートの検索/一覧表示 (EMCC Template Find and List)] ウィンドウから EMCC テンプレートを削除することもできます。削除するテンプレートの横にあるチェックボックスをオンにして、[選択項目の削除 (Delete Selected)] をクリックします。

削除操作の確認を求めるメッセージが表示されます。

ステップ 3 テンプレートを削除するには、[OK] をクリックします。そのテンプレート名が、[EMCCテンプレートの検索と一覧表示 (Find and List EMCC Templates)] ウィンドウの EMCC テンプレートリストから消去されます。

注意 特定の EMCC テンプレートを使用するジョブを送信した場合、そのテンプレートを削除すると、そのジョブも削除されます。

関連トピック

[EMCC テンプレートの検索 \(693 ページ\)](#)

[EMCC テンプレート関連のトピック \(697 ページ\)](#)

BAT EMCC テンプレートのフィールドの説明

次の表では、EMCCテンプレートを追加する際に表示される可能性のある、すべてのフィールドについて説明しています。

一部のフィールドには、Cisco Unified Communications Manager 管理ページで設定された値が表示されます。

BAT ユーザ インターフェイスで、アスタリスクが付いているフィールド名は必須入力項目です。アスタリスクが付いていないフィールドについては、任意指定です。

表 51: EMCC テンプレートのフィールドの説明

フィールド	説明
デバイス情報	
Template Name	テンプレートの名前を入力します。
説明	作成する EMCC テンプレートの説明を入力します。説明には、任意の言語で最大 50 文字を指定できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、山カッコ (<>) は使用できません。
DevicePool	この EMCC のデバイス プールを選択します。 デバイスの場合、デバイスプールは、自動再登録に必要な共通の特性 (地域、日時グループ、Cisco Unified Communications Manager グループ、コーリングサーチスペースなど) のセットを定義します。

フィールド	説明
[SIPプロファイル (SIP Profile)]	デフォルトのSIPプロファイルまたは作成済みの特定のプロファイルを選択します。SIPプロファイルは、電話機特定のSIP情報（デフォルトのテレフォニー イベント ペイロードタイプ、登録タイマーおよびキープアライブ タイマー、メディア ポート、絞り、および動的 DNS サーバアドレスなど）を提供します。
[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]	このEMCCに割り当てる共通デバイス設定を選択します。共通デバイス設定には、特定のユーザに関連付けられている属性（サービスまたは機能）が含まれています。共通デバイス設定は、[共通デバイス設定 (Common Device Configuration)]ウィンドウで設定します。 共通デバイス設定を表示するには、[詳細の表示 (View Details)]リンクをクリックします。
[共通の電話プロファイル (Common Phone Profile)]	ドロップダウンリストボックスで、使用可能な共通の電話プロファイルのリストから共通の電話プロファイルを選択します。

EMCC テンプレート関連のトピック

- [EMCC テンプレート \(693 ページ\)](#)
- [新しいEMCC テンプレートの作成 \(694 ページ\)](#)
- [EMCC テンプレートの削除 \(695 ページ\)](#)
- [BAT EMCC テンプレートのフィールドの説明 \(696 ページ\)](#)



第 68 章

EMCC デバイスの挿入、更新、および削除

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに対して、EMCC デバイスの挿入、更新、および削除を行う方法について説明します。

- [EMCC デバイスの挿入 \(699 ページ\)](#)
- [EMCC デバイスの更新 \(700 ページ\)](#)
- [EMCC デバイスの削除 \(701 ページ\)](#)

EMCC デバイスの挿入

BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに EMCC デバイスを追加します。

EMCC デバイスごとに、EMCC1、EMCC2 などの形式で一意的な名前が付きます。BAT は、最後に使用された番号を取得することにより、EMCC デバイス番号を割り当てます。電話機、UDP、RDP、EMCC テンプレートなどの他のエンティティに同じ形式 (EMCC1、EMCC2) の名前が付いている場合、BAT Insert EMCC は命名の重複に関するエラーを生成します。そのため、EMCC デバイスを挿入する前に、同じ名前形式の上記のエンティティを必ず名前変更してください。

例

管理者ユーザが 27 台の EMCC デバイスを挿入するとします。まず BAT は、UCM で使用された最後の EMCC デバイスシリアル番号 (たとえば EMCC123) を探します。その後、その次の番号からデバイスの挿入を開始します (EMCC124 ~ EMCC150)。UDP デバイスに EMCC135、EMCC137、EMCC150 という名前がすでに使用されている場合、BAT Insert EMCC は命名エラーを生成します。UDP デバイスの名前を変更しない限り、上記の名前を持つ EMCC デバイスは作成されません。

始める前に

EMCC デバイスを挿入する前に、有効な EMCC テンプレートをデフォルトとして設定する必要があります。EMCC デバイスの更新手順に従って、デフォルトテンプレートを設定します。

追加する EMCC デバイスの数を判別するには、登録済み電話機の数調べて、現時点で登録されていない可能性のあるデバイスを考慮するためにそれに 5% を加えます。100 台の電話機がある場合は、100 に 0.05 を掛けて 5 を算出します。結果 (5) を合計 (100) に加えます。EMCC デバイスの数は 105 です。

Cisco Unified Communications Manager 上の登録済みの電話機、ゲートウェイ、およびメディアリソース デバイスの数に関する情報を表示するには、RTMT を開いて、[音声/ビデオ (Voice/Video)] > [デバイス (Device)] > [デバイスの要約 (Device Summary)] の順に選択します。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCCの挿入/更新 (Insert/Update EMCC)] の順に選択します。
[EMCC設定の挿入/更新 (Insert/Update EMCC Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [EMCC デバイスの挿入 (Insert EMCC Devices)] ラジオ ボタンが選択されていることを確認します。
- ステップ 3** [追加する EMCC デバイスの数 (Number of EMCC Devices to be added)] フィールドに、デバイスの数を入力します。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
[EMCC デバイスの挿入 (Insert EMCC Devices)] がデフォルトの説明です。
- ステップ 5** すぐに EMCC デバイスを挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。後でデバイスを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 6** EMCC デバイスを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 7** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [EMCC デバイスの更新 \(700 ページ\)](#)

EMCC デバイスの更新

BAT を使用して、データベースで EMCC デバイスを更新します。

手順

- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCCの挿入/更新 (Insert/Update EMCC)] の順に選択します。
- ステップ 2 [EMCCデバイスの更新 (Update EMCC Devices)] ラジオ ボタンを選択します。
- ステップ 3 デフォルト テンプレートを設定するには、[デフォルトのEMCCテンプレート (Default EMCC Template)] ドロップダウン リスト ボックスから、EMCC テンプレートを選択します。
- ステップ 4 すべてのデバイスをリセットする場合は[リセット (Reset)] を、そうでない場合は[リセットしない (Don't Reset)] を選択します。
- ステップ 5 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
[EMCCデバイスの更新 (Update EMCC Devices)] がデフォルトの説明です。
- ステップ 6 すぐにEMCCレコードを更新する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオボタンをクリックします。後でレコードを更新する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 7 EMCC デバイスを更新するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 8 [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

EMCC デバイスの削除

BAT を使用することで、EMCC デバイスを一括して削除できます。次の手順により、EMCC デバイスを削除します。

手順

- ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [EMCC] > [EMCCの削除 (Delete EMCC)] の順に選択します。
[EMCC設定の削除 (Delete EMCC Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [削除するEMCCデバイスの数 (Number of EMCC Devices to be deleted)] フィールドに、削除するデバイスの数を入力します。
- ステップ 3 [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
デフォルトの説明は、[EMCCの削除 (Delete EMCC)] です。

- ステップ 4** すぐに EMCC デバイスを削除する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] をクリックします。後でデバイスを削除する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 5** EMCC デバイスを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 **XVI** 部

Intercompany Media Engine (IME)

- [信頼要素 \(705 ページ\)](#)
- [信頼グループ \(709 ページ\)](#)
- [登録済みグループ \(713 ページ\)](#)
- [除外グループ \(717 ページ\)](#)
- [フォールバック プロファイル \(721 ページ\)](#)



第 69 章

信頼要素

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに対して信頼要素のレコードの挿入または削除を行う方法について説明します。

- [信頼要素設定の挿入 \(705 ページ\)](#)
- [IME 信頼要素設定の削除 \(706 ページ\)](#)
- [IME 関連のトピック \(707 ページ\)](#)

信頼要素設定の挿入

BAT を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに信頼要素設定を追加します。

始める前に

- 要素名、説明、要素タイプ、および信頼グループを含む CSV データファイルが必要です。
- CSV 形式に変換される BAT スプレッドシートを使用して、CSV データ ファイルを作成できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [信頼要素 (Trust Element)] > [信頼要素の挿入 (Insert Trust Element)] の順に選択します。
[信頼要素設定の挿入 (Insert Trust Element Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。
- ステップ 3** (任意) システム内の既存の信頼要素に関する設定を更新する場合は、[既存の設定の上書き (Override the existing configuration)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 4** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
デフォルトの説明は、[信頼要素の挿入 (Insert Trust Element)] です。

- ステップ5** Insert Cisco Trust Element レコードをすぐに挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオボタンをクリックします。後でレコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ6** Unified 信頼要素レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ7** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [IME 関連のトピック \(707 ページ\)](#)

IME 信頼要素設定の削除

カスタム CSV データ ファイルを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースから信頼要素を削除できます。



- (注) bat.xlt を使って作成された挿入トランザクションファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のある信頼要素レコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイルでは見出しが不要で、名前や説明などの値を入力できます。

始める前に

- 削除する信頼要素の要素名を列挙したテキスト ファイルを作成します。
- カスタム ファイルを Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードにアップロードします。

手順

- ステップ1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [信頼要素 (Trust Element)] > [信頼要素の削除 (Delete Trust Element)] の順に選択します。
[信頼要素設定の削除 (Delete Trust Element Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ2** [カスタムファイル内の名前による信頼要素の削除 (Delete Trust Element where Name in custom file)] ドロップダウンリストボックスから、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択して、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する信頼要素が表示されます。
- ステップ3** 信頼要素を削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 4 [一括管理 (Bulk Administration)]メインメニューの[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)]オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [IME 関連のトピック \(707 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

IME 関連のトピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)
- [IME 信頼要素設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(838 ページ\)](#)
- [CSV データ ファイルによるテンプレート値のオーバーライド \(10 ページ\)](#)
- [IME 信頼要素設定の削除 \(706 ページ\)](#)
- [信頼要素設定の挿入 \(705 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)



第 70 章

信頼グループ

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに対して信頼グループのレコードの挿入または削除を行う方法について説明します。

- [IME 信頼グループ設定の挿入 \(709 ページ\)](#)
- [IME 信頼グループ設定の削除 \(710 ページ\)](#)
- [IME 信頼グループの設定関連のトピック \(711 ページ\)](#)

IME 信頼グループ設定の挿入

カスタム CSV データ ファイルを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに信頼グループ設定を追加できます。

始める前に

名前、説明、および信頼の詳細を含む CSV データ ファイルが必要です。

CSV 形式に変換される BAT スプレッドシートを使用して、CSV データ ファイルを作成できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [信頼グループ (Trust Group)] > [信頼グループの挿入 (Insert Trust Group)] の順に選択します。
[信頼グループ設定の挿入 (Insert Trust Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
デフォルトの説明は [信頼グループの挿入 (Insert Trust Group)] です。

- ステップ 4** Insert Unified Trust Group レコードをすぐに挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオ ボタンをクリックします。後でレコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 5** Insert Unified Trust Group レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [IME 信頼グループの設定関連のトピック \(711 ページ\)](#)

IME 信頼グループ設定の削除

カスタム CSV データファイルを使用して、データベースから除外グループを削除できます。



- (注) bat.xlt を使って作成された挿入トランザクションファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要のある信頼グループ レコードの詳細を含むカスタム ファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイル内にはヘッダーが不要で、名前、説明、グループ タイプ、またはシスコ リンク ルート フィルタ グループ プロファイルの値を入力できます。

始める前に

1. 削除する信頼グループの名前を列挙したテキスト ファイルを作成します。
2. の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany] > [メディアサービス (Media Services)] > [信頼グループ (Trust Group)] > [信頼グループの削除 (Delete Trust Group)] の順に選択します。
- [信頼グループの削除 (Delete Trust Group Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [カスタムファイル内の名前による信頼グループの削除 (Delete Trust Group where Name in custom file)] ドロップダウン リスト ボックスから、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択して、[検索 (Find)] をクリックします。
- 検索条件に一致する信頼グループが表示されます。
- ステップ 3** 信頼グループを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 4 [一括管理 (Bulk Administration)]メインメニューの[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)]オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [IME 信頼グループの設定関連のトピック \(711 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

IME 信頼グループの設定関連のトピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)
- [IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(839 ページ\)](#)
- [CSV データ ファイルによるテンプレート値のオーバーライド \(10 ページ\)](#)
- [IME 信頼グループ設定の削除 \(710 ページ\)](#)
- [IME 信頼グループ設定の挿入 \(709 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)



第 71 章

登録済みグループ

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに対して登録済みグループのレコードの挿入または削除を行う方法について説明します。

- [IME 登録済みグループ設定の挿入 \(713 ページ\)](#)
- [IME 登録済みグループ設定の削除 \(714 ページ\)](#)
- [IME 登録済みグループの設定関連のトピック \(715 ページ\)](#)

IME 登録済みグループ設定の挿入

カスタム CSV データ ファイルを使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに登録済みグループ設定を追加できます。

始める前に

グループ名、説明、フォールバック プロファイルを含む CSV データ ファイルが必要です。グループ内のすべてのパターンはエイリアス データです。

CSV 形式に変換される BAT スプレッドシートを使用して、CSV データ ファイルを作成できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [登録済みグループ (Enrolled Group)] > [登録済みグループの挿入 (Insert Enrolled Group)] の順に選択します。
[登録済みグループ設定の挿入 (Insert Enrolled Group Configuration)] ウィンドウが表示されません。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
デフォルトの説明は [登録済みグループの挿入 (Insert Enrolled Group)] です。

- ステップ 4** Insert Unified Enrolled Group レコードをすぐに挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオ ボタンをクリックします。後でレコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 5** Insert Unified Enrolled Group レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [IME 登録済みグループの設定関連のトピック \(715 ページ\)](#)

IME 登録済みグループ設定の削除

カスタム CSV データファイルを使用して、データベースから除外グループを削除できます。



- (注) bat.xlt を使って作成された挿入トランザクションファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要がある登録済みグループレコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイルでは見出しが不要で、名前の値を入力できます。

始める前に

1. 削除する登録済みグループのグループ名を列挙したテキストファイルを作成します。
2. サーバーの最初のノードにカスタムをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [登録済みグループ (Enrolled Group)] > [登録済みグループの削除 (Delete Enrolled Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** [カスタムファイル内の名前による登録済みグループの削除 (Delete Enrolled Group where Name in custom file)] ドロップダウンリストボックスから、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択して、[検索 (Find)] をクリックします。
検索条件に一致する登録済みグループが表示されます。
- ステップ 3** 登録済みグループを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。

ステップ 4 [一括管理 (Bulk Administration)]メインメニューの[ジョブスケジューラ (Job Scheduler)]オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [IME 登録済みグループの設定関連のトピック \(715 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

IME 登録済みグループの設定関連のトピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)
- [IME 登録グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(840 ページ\)](#)
- [CSV データ ファイルによるテンプレート値のオーバーライド \(10 ページ\)](#)
- [IME 登録済みグループ設定の削除 \(714 ページ\)](#)
- [IME 登録済みグループ設定の挿入 \(713 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)



第 72 章

除外グループ

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに対して除外グループのレコードの挿入または削除を行う方法について説明します。

- [IME 除外グループ設定の挿入 \(717 ページ\)](#)
- [IME 除外グループ設定の削除 \(718 ページ\)](#)
- [IME 除外グループの設定関連のトピック \(719 ページ\)](#)

IME 除外グループ設定の挿入

カスタム CSV データファイルを使用して、データベースに除外グループ設定を追加できます。

始める前に

- 名前と説明を含む CSV データ ファイルが必要です。
- CSV 形式に変換される BAT スプレッドシートを使用して、CSV データ ファイルを作成できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [除外グループ (Exclusion Group)] > [除外グループの挿入 (Insert Exclusion Group)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
デフォルトの説明は [除外グループの挿入 (Insert Exclusion Group)] です。
- ステップ 4** Insert Unified Exclusion Group レコードをすぐに挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオボタンをクリックします。後でレコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。

- ステップ 5** Insert Unified Exclusion Group レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [IME 除外グループの設定関連のトピック \(719 ページ\)](#)

IME 除外グループ設定の削除

カスタム CSV データファイルを使用して、データベースから除外グループを削除できます。



- (注) bat.xlt を使って作成された挿入トランザクションファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要がある除外グループ レコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイルでは見出しが不要で、名前の値を入力できます。
-

始める前に

1. 削除する除外グループの名前を列挙したテキスト ファイルを作成します。
2. の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1**
- ステップ 2** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [除外グループ (Exclusion Group)] > [除外グループの削除 (Delete Exclusion Group)] の順に選択します。
- ステップ 3** [カスタムファイル内の名前による除外グループの削除 (Delete Exclusion Group where Name in custom file)] ドロップダウンリストから、削除するカスタムファイルのファイル名を選択し、[検索 (Find)] をクリックします。
- ステップ 4** 除外グループを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 5** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。
-

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [IME 除外グループの設定関連のトピック \(719 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

IME 除外グループの設定関連のトピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)
- [IME 除外グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(842 ページ\)](#)
- [CSV データ ファイルによるテンプレート値のオーバーライド \(10 ページ\)](#)
- [IME 除外グループ設定の削除 \(718 ページ\)](#)
- [IME 除外グループ設定の挿入 \(717 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)



第 73 章

フォールバック プロファイル

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) を使用して、Cisco Unified Communications Manager データベースに対してフォールバック プロファイルのレコードの挿入または削除を行う方法について説明します。

- [フォールバック プロファイル設定の挿入 \(721 ページ\)](#)
- [フォールバック プロファイル設定の削除 \(722 ページ\)](#)
- [フォールバック プロファイルの設定関連のトピック \(723 ページ\)](#)

フォールバック プロファイル設定の挿入

カスタム CSV データ ファイルを使用して、データベースにフォールバックプロファイル設定を追加できます。

始める前に

- 名前、説明、アドバタイズされたフォールバックディレクトリ E.164 番号、フォールバック QOS 重要度レベル、フォールバック コール応答タイマー、フォールバック電話番号パーティション、フォールバック電話番号、発信者 ID の部分一致の桁数、フォールバック コール CSS といった情報を含む CSV データファイルが必要です。
- CSV 形式に変換される BAT スプレッドシートを使用して、CSV データ ファイルを作成できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [フォールバック プロファイル (Fallback Profile)] > [フォールバック プロファイルの挿入 (Insert Fallback Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、この一括トランザクション用に作成した CSV データファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。

デフォルトの説明は、[フォールバックプロファイルの挿入 (Insert Fallback Profile)] です。

- ステップ 4** Insert Unified Fallback Profile レコードをすぐに挿入する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオボタンをクリックします。後でレコードを挿入する場合は、[後で実行 (Run Later)] をクリックします。
- ステップ 5** Insert Unified Fallback Profile レコードを挿入するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 6** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[フォールバック プロファイルの設定関連のトピック \(723 ページ\)](#)

フォールバック プロファイル設定の削除

カスタム CSV データ ファイルを使用して、データベースからフォールバック プロファイルを削除できます。



- (注) bat.xlt を使って作成された挿入トランザクションファイルを削除トランザクションに使用しないでください。代わりに、削除する必要があるフォールバック プロファイル レコードの詳細を含むカスタムファイルを作成する必要があります。削除トランザクションにはこのファイルだけを使用してください。このカスタム削除ファイルでは見出しが不要で、名前の値を入力できます。

始める前に

1. 削除するフォールバック プロファイルの名前を列挙したテキストファイルを作成します。
2. の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [Intercompany Media Service] > [フォールバック プロファイル (Fallback Profile)] > [フォールバック プロファイルの削除 (Delete Fallback Profile)] の順に選択します。
- ステップ 2** [カスタムファイル内の名前によるフォールバック プロファイルの削除 (Delete Fallback Profile where Name in custom file)] ドロップダウンリストから、この削除用のカスタム ファイルのファイル名を選択して、[検索 (Find)] をクリックします。検索条件に一致するフォールバック プロファイルが表示されます。

- ステップ 3** フォールバック プロファイルを削除するためのジョブを作成するには、[送信 (Submit)] をクリックします。
- ステップ 4** [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [フォールバック プロファイルの設定関連のトピック \(723 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

フォールバック プロファイルの設定関連のトピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [CSV データファイルを作成するために BAT スプレッドシートのデータを収集する \(14 ページ\)](#)
- [フォールバック プロファイル設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(843 ページ\)](#)
- [CSV データ ファイルによるテンプレート値のオーバーライド \(10 ページ\)](#)
- [フォールバック プロファイル設定の削除 \(722 ページ\)](#)
- [フォールバック プロファイル設定の挿入 \(721 ページ\)](#)
- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)



第 **XVII** 部

機密アクセス レベルの設定

- [機密アクセス レベルの設定 \(727 ページ\)](#)



第 74 章

機密アクセス レベルの設定

この章では、Cisco Unified Communications Manager Administration を使用して機密アクセス レベル (CAL) を設定する方法について説明します。

- [機密アクセス レベルの設定について \(727 ページ\)](#)
- [CAL 強制レベル \(729 ページ\)](#)
- [CAL の制限 \(729 ページ\)](#)
- [機密アクセス レベルのセットアップ \(731 ページ\)](#)

機密アクセス レベルの設定について

Cisco Unified Communications Manager Administration で、メニューパス [一括管理 (Bulk Administration)] > [機密アクセス レベル (Confidential Access Level)] > [機密アクセス レベル マトリックス (Import Confidential Access Level)] を使用して CAL を設定します。CAL 機能は、発信やその他の補足機能 (転送、Meet-Me などの会議など) を制限するために使用されます。

CAL は以下のエンティティに指定される数値です。

- デバイス (IP フォンなど)
- 回線 (電話番号など)
- トランク (SIP トランクなど)

CAL には 2 つの主要機能があります。

- 設定に基づいて発信の完了を制御します。
- 発信について付加的な情報を伝える、電話に関する情報を表示します。

CAL マトリックスのフォーマット

機密アクセス レベル (CAL) マトリックスは、発信ポリシーを実装するために、ある CAL を他の CAL と比較するのに使用される X/Y マトリックスです。発信側番号からの CAL は、マトリックスの X 軸方向に選択され、マトリックスの Y 軸方向に着信側番号と比較されます。こ

れら2つの値の交点は解決済み CAL と呼ばれます。解決済み CAL は、発信が続行されるべきかを判定し、またユーザに表示されるメッセージも判定します。

次に、CAL マトリックスの例を示します。

列 1	列 2	列 3	列 4	列 5
説明	CAL	1	2	3
制限なし	1	1	1	1
制限付	2	1	2	2
社外秘	3	1	2	3
終了	説明	制限なし	制限あり	社外秘



重要 マトリックスは対称である必要があります。例えば、上記のサンプル CAL マトリックスで、CAL 2 と CAL 3 の交点にある値は CAL 3 と CAL 2 の交点にある値と同じです。それで、どちらの場合も解決済み CAL は 2 です（制限あり）。Cisco Unified Communications Manager は、インポートされたマトリックスが対称かどうかを検証しません。したがって、目的の発信ポリシーと一致するマトリックスを設定する責任は管理者にあります。

要件に合わせて異なる CAL を設定することができます。次の CAL がこのサンプルマトリックスで設定されています。

- 1：制限なし
- 2：制限あり
- 3：機密

CAL マトリックスの最初の行は、Cisco Unified Communications Manager にインポートしたい有効な CAL をすべて含む必要があります。説明と CAL 値は任意です。残りの列の CAL には、インポートしたい任意の数値を指定することができます。続く行は、列 1 ではテキストによる説明を、列 3 および続く列では他の CAL との関係を定義します。第 1 の行に入力された各 CAL に対して、その値についてのテキストの説明を含む結果の行があるべきです。言い換えると、列 1 は、第 1 の行に入力されるすべての CAL についてのテキストの説明を含む必要があります。最後の行（終了、説明）は、CAL マトリックスの終了を示します。この行を超える CAL はインポートされません。

発信が、CAL が 1（制限なし）である番号から CAL が 2（制限あり）である着信番号に対してなされた場合、解決済み CAL は 1（CAL 1 と CAL 2 の交点）になります。したがって、CAL 1 に対応するテキストである「制限なし」が両方の電話に表示されます。同様に、制限された側（CAL 2）と機密側（CAL 3）との間の発信の場合、「制限あり」（解決済み CAL 2 に対応）が両方の電話に表示されます。したがって、CAL マトリックスは発信に関わるすべての当事者の中で最も大きい共通の値に解決されます。

CAL 強制レベル

Cisco Unified Communications Manager 10.0(1) では、ダイレクト コールパーク、ビルトインブリッジなどの機能で使用される内部 Cisco Unified Communications Manager デバイス上、また MGCP BRI デバイス、モビリティ、CTI ベースのエンドポイントなどのいくつかのエンドポイント上で、CAL 機能は設定できません。すべてのコールに対して CAL 解決の制限を厳密に適用した場合、望ましくないコールの失敗の原因になる可能性があります。また、CAL 値をすべてのデバイスに割り当てずに CAL の制限を適用すると、コールの失敗の原因になる可能性もあります。

望ましくないコールの失敗を避け、CAL 機能を円滑に導入するために、Cisco Unified Communications Manager リリース 10.0(1) では、次のモードの CAL 強制が実装されています。

- ストリクト（厳格）モード：このモードでは、[CAL 強制レベル (CAL Enforcement Level)] エンタープライズ パラメータが [ストリクト (Strict)] に設定されます。CAL 値がデバイスに対して設定されていない場合または CAL をサポートしない機能が呼び出されている場合、コールは許可されます。
- リニエント（厳格でない）モード：このモードでは、[CAL 強制レベル (CAL Enforcement Level)] エンタープライズ パラメータが [リニエント (Lenient)] に設定されます。CAL 値がデバイスに対して設定されていない場合または CAL をサポートしない機能が呼び出されている場合でも、コールは許可されます。ただし、CAL 値がすべてのデバイスに対して設定されていて CAL 解決が失敗した場合は、コールは許可されません。



(注) シスコでは、CAL 機能をリニエント モードで Cisco Unified Communications Manager リリース 10.0(1) に導入することをお勧めします。



(注) CAL 強制レベルを設定するには、[システム (System)] > [エンタープライズ パラメータ (Enterprise Parameters)] の順に選択し、[CAL 強制レベル (CAL Enforcement Level)] ドロップダウンリストから CAL 強制レベルを選択します。



重要 リニエント モードが正しく機能するように、[CAL 解決の警告メッセージテキスト (CAL Resolution Warning Message Text)] エンタープライズ パラメータで、適切な警告テキストを設定することを強くお勧めします。たとえば、「Warn: CAL unknown」です。CAL 値が設定されていないがコールが許可される場合、常にこの警告テキストが電話に表示されます。

CAL の制限

CAL 機能には、次の制限が適用されます。

- 電話の組み込みブリッジ (BIB) は、割り当てられた CAL 値ではありません。割り込み機能とモニタリング機能には BIB が使用されるため、これらの機能を使用する電話では、警告メッセージが表示されます。[CAL 解決の警告メッセージテキスト (CAL Resolution Warning Message Text)] エンタープライズパラメータで設定されている警告メッセージを基に、警告テキストが表示されます。
- SIP トランクとは異なり、MGCP デバイスや H323 デバイスは解決済み CAL 値をクラスタ間で渡さないため、コールの発信側と着信側で異なる解決済み CAL 値が表示される場合があります。
- CAL 機能は、一部の電話モデルではサポートされていません。ご利用の電話で CAL がサポートされているかを確認するには、その電話モデルの『Cisco Unified IP Phone User Guide』を参照してください。
- Cisco Unified Communications Manager リリース 10.0(1) では、ダイレクト コール パークおよびモビリティ機能はリニエントモードでのみ動作します。
- エクステンションモビリティは、回線に関連付けられている CAL 値のみを適用します。
- CAL ヘッダーが SIP 180 呼び出しメッセージに含まれている場合でも、発信側の SIP 電話には、コールに応答があるまで PENDING メッセージは表示されません。この制限を回避するために、電話に関連付けられている SIP プロファイルレベルで LUA スクリプトを適用できます。LUA スクリプトが SIP 180 呼び出しメッセージに含まれる CAL ヘッダーを削除し、Remote Party ID を PENDING に更新します。LUA スクリプトの例を次に示します。このスクリプトを適用すると、コールに応答があるまで、発信側電話機に PENDING メッセージが表示されます。

```
M = {}
trace.enable()
function M.outbound_180_INVITE(msg)
local cal =msg.getHeader("Confidential-Access-Level")
if cal then
msg.removeHeader("Confidential-Access-Level")
1
CAL limitations
REVIEW DRAFT - CISCO CONFIDENTIAL
local rpi =msg.getHeaderValues("Remote-Party-ID")
local uri = "\"PENDING\" "
rpi[1] = uri .. string.match(rpi[1], "(<.+)")
msg.modifyHeader("Remote-Party-ID", rpi[1])
msg.addHeader("Remote-Party-ID", rpi[2])
end
end
return M
```

- 自動ピックアップを無効にすると、ピックアップ中に CAL 解決が失敗した場合、418 Incompatible SIP メッセージは電話機に送信されません。
- この回線に関連付けられた CAL を持つ電話が、From ヘッダーの電話番号がその電話の Cisco Unified Communications Manager データベースで設定されている値と異なる INVITE メッセージを受信すると、CAL 機能が有効な場合、Cisco Unified Communications Manager はこの電話に SIP 418 Invalid CAL メッセージを送信します。CAL 機能が無効な場合は、Cisco Unified Communications Manager は元の動作を維持し、SIP403 Forbidden メッセージを送信します。

機密アクセス レベルのセットアップ

次の手順を実行して、機密アクセス レベルをセットアップします。

手順

ステップ 1 [一括管理 (Bulk Administration)] > [機密アクセスレベル (Confidential Access Level)] > [機密アクセスレベルマトリクスのインポート (Import Confidential Access Level Matrix)] の順に選択します。

[機密アクセスレベルマトリクスのアップロード (Confidentiality Access Level Matrix Upload)] ウィンドウが開きます。

ステップ 2 [参照 (Browse)] をクリックして、アップロードする csv ファイルを選択します。

(注) csv ファイルには、解決される CAL 値を検索するための X/Y マトリクスである CAL テーブルが含まれています。

ステップ 3 [アップロード (Upload)] をクリックします。

(注) [アップロード (Upload)] ボタンは、CCM スーパー ユーザと標準機密アクセス レベルユーザのアクセス グループに対してのみ有効になります。



第 **XVIII** 部

CUPS

- [CUP メニューを使用したライセンスの更新およびエクスポート \(735 ページ\)](#)



第 75 章

CUP メニューを使用したライセンスの更新 およびエクスポート

この章では、BAT の [CUPS] メニューを使用して、すべての Unified Presence ユーザと Cisco Unified Personal Communicator ユーザのライセンスを更新およびエクスポートする方法について説明します。

Cisco Unified Communications 環境のすべての価値を提供するための重要なコンポーネントである Cisco Unified Presence は、ユーザの在席状況に関する情報を収集します。この情報を使用して、Cisco Unified Personal Communicator および Cisco Unified Communications Manager などのアプリケーションでは、コラボレーション通信に最も効果的な方法を決定して生産性を向上できます。

- [CUP および CUPC ユーザ ライセンスの更新とエクスポート \(735 ページ\)](#)

CUP および CUPC ユーザ ライセンスの更新とエクスポート

BAT 内の CUPS メニューを使用して、CUPS および CUPC ユーザ ライセンスを更新またはエクスポートすることができます。

手順

次のオプションから選択します。

- CUPS/CUPC ユーザを更新するには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [CUPS] > [CUPS/CUPCユーザの更新 (Update CUPS/CUPC Users)] の順に選択します。
- CUPS/CUPC ユーザをエクスポートするには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [CUPS] > [CUPS/CUPCユーザのエクスポート (Export CUPS/CUPC Users)] の順に選択します。

CUPS および CUPC ユーザ ライセンスの追加または更新

BAT を使用して、ライセンスを追加したり、変更したりできます。

手順

ステップ 1 [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] ウィンドウを使用して、csv ファイルをアップロードします。

(注) csv ファイルをアップロードする際は、正しい BAT ターゲットおよびトランザクションタイプを選択していることを確認する必要があります。

ステップ 2 [CUPSの更新 (Update CUPS)] ウィンドウに移動して、アップロードする csv ファイルを選択し、ジョブを送信します。

(注) それぞれのラジオボタンをクリックすることによって、ジョブをすぐに実行することも、後で実行することも選択できます。[後で実行 (Run Later)] を選択した場合、[ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用してこのジョブをスケジュールしたり、アクティブにしたりできます。

ステップ 3 送信された BAT ジョブの進行状況を監視するには、[ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウを使用します。

すべての CUPS/CUPC ユーザ ライセンス情報をエクスポートする

[ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウを使用して、Unified Presence と Cisco Unified Personal Communicator のすべてのユーザに関する現在のライセンス情報を入手できます。



(注) Unified Presence ユーザのサブセットを選択するオプションは現時点で存在しません。システム内のすべての Unified Presence ユーザがファイルにエクスポートされます。

手順

ステップ 1 [ユーザエクスポートのクエリー (Export Users Query)] ウィンドウに移動します。

ステップ 2 基本的なユーザ情報とライセンスステータスを確認するには、[検索 (Find)] をクリックします。

ステップ 3 CUPS/CUPC のエクスポート ウィンドウを表示するには、[次へ (Next)] をクリックします。

ステップ 4 エクスポートするファイル名を指定し、[送信 (Submit)] をクリックして BAT ジョブを開始します。

ステップ 5 [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに移動して、送信された BAT ジョブのステータスを表示します。

(注) ジョブが完了したら、[ファイルのアップロード/ダウンロード (**Upload/Download Files**)] ウィンドウにアクセスして、エクスポートした .csv ファイルをダウンロードできます。

■ すべての CUPS/CUPC ユーザ ライセンス情報をエクスポートする



第 **XIX** 部

Tool for Auto-Registered Phones Support

- [Tool for Auto-Registered Phones Support \(TAPS\) の管理 \(741 ページ\)](#)
- [Tool for Auto-Registered Phone Support \(TAPS\) ユーザ ロケール \(753 ページ\)](#)



第 76 章

Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) の管理

この章では、Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) のインストール、設定、および使用について説明します。

- [TAPS の概要 \(741 ページ\)](#)
- [TAPS のインストール \(745 ページ\)](#)
- [UCCX アプリケーション サーバでの TAPS アプリケーションの設定 \(746 ページ\)](#)
- [TAPS サービスのアクティブ化 \(746 ページ\)](#)
- [TAPS の開始、停止、および再起動 \(747 ページ\)](#)
- [TAPS オプションの設定項目 \(748 ページ\)](#)
- [TAPS 自動登録の設定 \(748 ページ\)](#)
- [TAPS セキュア電話番号オプション \(749 ページ\)](#)
- [TAPS ログ ファイルの表示 \(751 ページ\)](#)
- [関連項目 \(752 ページ\)](#)

TAPS の概要

Tool for Auto-Registered Phones Support (TAPS) を使用すると、電話機ユーザは TAPS の電話番号をコールし、ユーザの電話番号用に事前に設定された電話設定をダウンロードできます。TAPS は、Cisco Unified Communications Manager Administration と連携して次の機能を提供します。

- TAPS の設定：自動登録を使用するすべての電話機で TAPS を使用できるようにします。または、ダミー MAC アドレスを使って BAT で追加された電話機でのみ TAPS を使用できるように制限することもできます。
- TAPS のセキュリティ保護：TAPS で一部の電話番号が更新されないように設定できます。
- TAPS のユーザ ロケール：TAPS プロンプトの言語を選択できます。

TAPS コンポーネントは、Cisco Unified Communications Manager インストール環境の一部として Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにインストールされます。TAPS が機

能するためには、Cisco Unified Communications Manager で自動登録を有効にする必要があります。さらに、最初のノードが電話機登録に使用されない場合でも、最初のノードでCallManager サービスを有効にする必要があります。



- (注) TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager での自動登録範囲が減少します。TAPS による更新後、電話機に自動登録された電話番号 (DN) は未定義の DN になります。BAT を定期的を使用して未割り当ての DN を削除することで、自動登録範囲を解放してください。

TAPS アプリケーションを Cisco Unified Contact Center Express (Cisco UCCX) サーバーにインストールする必要があります。TAPS のユーザーインターフェイスとプロンプトには、Cisco UCCX サーバー上で稼動する Cisco IP Interactive Voice Response (IP IVR) アプリケーションが必要です。

TAPS を使用して各自の新しい電話機を設定する手順を、管理者がエンドユーザに説明する必要があります。



- (注) TAPS を使用して Cisco Unified Communications Manager データベースに電話機を追加しない場合は、TAPS サービスを停止することを推奨します。

関連トピック

[新しい電話での TAPS プロンプトの言語の選択](#) (755 ページ)

[TAPS 自動登録の設定](#) (748 ページ)

[TAPS セキュア電話番号オプション](#) (749 ページ)

[Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール](#) (753 ページ)

[関連項目](#) (752 ページ)

TAPS の自動登録オプション

TAPS を使用して自動登録電話機を更新するために、次のオプションを設定できます。

- MAC アドレスを更新し、新しい電話機用の事前定義された設定をダウンロードします。
- 交換した電話機用に設定をリロードします。

新しい電話機での TAPS の例

ダミー MAC アドレスを使用した新しい電話機設定が BAT によって Cisco Unified Communications Manager Administration に追加されたら、電話機をネットワークに接続できます。管理者または電話機ユーザが TAPS 電話番号をダイヤルすると、電話機に設定がダウンロードされます。同時に、その電話機は Cisco Unified Communications Manager Administration で正しい MAC アドレスに更新されます。TAPS が機能するためには、Cisco Unified Communications Manager Administration で自動登録を有効にする必要があります。



- (注) TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager での自動登録範囲が減少します。TAPS による更新後、電話機に自動登録された電話番号 (DN) は未定義の DN になります。BAT を定期的に使用して未割り当ての DN を削除することで、自動登録範囲を解放してください。

例

100 名の新入社員が月曜日から出勤するとします。これらのユーザとその新しい電話機を Cisco Unified Communications Manager Administration に追加する必要があります。BAT を使用して、100 台の電話の電話機テンプレート、および電話機とユーザの CSV データ ファイルを作成できます。CSV データ ファイルでダミー MAC アドレス オプションを使用すれば、新しい電話機に個々の MAC アドレスを追加する必要はありません。Cisco Unified Communications Manager で自動登録が有効になっている状態で、電話機をネットワークに直接接続できます。管理者または新入社員は、TAPS 電話番号をダイヤルし、ボイスプロンプトの指示に従って設定をロードできます。

TAPS を使用した設定のリロード

機能していない既存の電話機を交換する必要がある場合、TAPS を使用して既存の電話機の設定を新しい電話機にダウンロードできます。新しい電話機を受け取った後、電話機をネットワークに接続してから、TAPS ディレクトリ番号をダイヤルして前の電話機の設定をダウンロードします。このプロセス中にユーザが行う設定の変更はありません。

Cisco Unified Communications Manager Administration で、自動登録を有効にする必要があります。ユーザが既存の電話機の設定をダウンロードできるように、必ずすべての電話機に対して TAPS を使用できるように設定してください。



- (注) TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager での自動登録範囲が減少します。TAPS による更新後、電話機に自動登録された電話番号 (DN) は未定義の DN になります。BAT を定期的に使用して未割り当ての DN を削除することで、自動登録範囲を解放してください。

詳細については、*Cisco Unified Communications Manager* オンライン ヘルプを参照してください。

例

John の Cisco Unified IP Phone モデル 7940 が落雷によって短絡しました。新しい Cisco Unified IP Phone モデル 7940 を受け取り、ネットワークに接続します。John が TAPS ディレクトリ番号をダイヤルすると、新しい電話機が、損傷した電話機で使用していた設定をダウンロードします。TAPS は自動的に Cisco Unified Communications Manager Administration のデバイス情報を更新します。

関連トピック

[TAPS 自動登録の設定](#) (748 ページ)

[関連項目](#) (752 ページ)

保護された電話番号

TAPS では電話番号の置換が可能であるため、特定の電話番号が上書きされないように保護することができます。重要な電話番号を保護するには、[セキュア TAPS (Secure TAPS)] オプションを使用できます。

例

電話番号 5000 で、システムのボイス メッセージング アクセスを提供しているとします。新規ユーザに、新しい電話機に対して電話番号 5000 を誤って設定させたくありません。[セキュア TAPS (Secure TAPS)] オプションを使用すると、TAPS が電話番号「5000」にアクセスできないことを指定できます。

関連トピック

[TAPS セキュア電話番号オプション](#) (749 ページ)

[関連項目](#) (752 ページ)

TAPS ユーザに対する言語プロンプト

複数言語で再生するように TAPS のユーザプロンプトを設定できます。管理者は、ユーザが使用できる言語を選択できます。

英語のプロンプト以外の言語プロンプトを使用する必要がある場合は、TAPS をインストール、アップグレード、または設定する前に、各クラスタ ノードで Cisco Unified Communications Manager Locale Installer を実行し、各ノードを再起動します。

Locale Installer を使用すると、電話機に対応した最新版の翻訳テキスト、翻訳された音声ガイドダンス、各国固有の電話トーン、および各国固有のゲートウェイ トーンを確実に使用できます。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer の詳細については、特定のロケール インストーラのドキュメントを参照してください。



(注) CLI コマンド `file get tftp <AAR file name>` を使用すると、Cisco Unified Communications Manager の TFTP ディレクトリ内の AAR ファイルを取得できます。

関連トピック

[Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール](#) (753 ページ)

[関連項目](#) (752 ページ)

TAPS のインストール

ここでは、TAPS のインストール、再インストール、およびアンインストールについて説明します。TAPS には、Cisco Unified Communications Manager サーバおよび Cisco Customer Response Solution サーバの両方とのインターフェイスがあります。このインストール手順では、UCCX サーバに TAPS をインストールします。



- (注) インストールする TAPS バージョンと互換性のある Cisco UCCX バージョンを検索するには、『Cisco Unified Contact Center Express (Cisco Unified CCX) Software and Hardware Compatibility Guide』を参照してください。

始める前に

BAT での TAPS インストールには、次の前提条件が該当します。

- Cisco Unified Communications Manager の最初のノードが設定され、稼働中であることを確認します。
- Cisco Unified Communications Manager の最初のノードサーバの IP アドレスを取得します。
- Cisco UCCX サーバが設定されていることを確認します。Cisco UCCX アプリケーションは、専用のサーバ上に存在することができます。
- ここでは、必ずロケールインストーラを使用して、国専用の TAPS プロンプトを作成してください。

UCCX アプリケーション サーバに TAPS をインストールします。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager の最初のノードデータベースを実行しているシステムに管理者権限を使ってログオンします。
- ステップ 2** [アプリケーション (Applications)] > [プラグイン (Plugins)] の順に選択します。
[プラグインの検索/一覧表示 (Find and List Plugins)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** TAPS リンクを見つけて [ダウンロード (Download)] をクリックし、TAPS_AAR.aar プラグインをローカルマシンに保存します。
- ステップ 4** [アプリケーション (Applications)] > [AAR 管理 (AAR Management)] で TAPS ユーザとして UCCX アプリ管理ページにログインし、AAR 管理ページから TAPS_AAR.aar をアップロードします。
- ステップ 5** [アプリケーション (Applications)] > [アプリケーション管理 (Application Management)] の順に選択します。
[アプリケーション管理 (Application Management)] ページが表示されます。

ステップ 6 TAPS アプリケーションをクリックします。

ステップ 7 [Cisco_Unified_CM_IP_Address] チェックボックスをオンにして、Cisco Unified Communications Manager の IP アドレスを二重引用符で囲んで指定します。

(注) デフォルトで IP アドレスは「」となるため、引用符の間に IP アドレスを入力する必要があります。

ステップ 8 次のコマンドを使用して、Tomcat と Cisco Unified CCX Cluster View Daemon を再起動します。

- `utils service 「Cisco Tomcat」 stop/start`
- `utils service 「Cisco Unified CCX Cluster View Daemon」 stop/start`

(注) TAPS_AAR.aar の管理の詳細については、『Cisco Unified Contact Center Express Administration Guide』を参照してください。

関連トピック

[関連項目](#) (752 ページ)

UCCX アプリケーションサーバでの TAPS アプリケーションの設定

Cisco UCCX アプリケーションサーバの資料を参照するには、www.cisco.com の Cisco Voice Applications and Tools にアクセスしてください。アプリケーションの設定方法については、『Cisco Unified Contact Center Express Administration Guide』を参照してください。



(注) TAPS アプリケーションは、Cisco UCCX Standard ライセンスでは動作しません。Enhanced または Premium ライセンスを使用する必要があります。

関連トピック

[関連項目](#) (752 ページ)

TAPS サービスのアクティブ化

適切な URL を使用してアクセスした後、Cisco Unified Communications Manager Serviceability を使用して TAPS サービスのアクティブ化や非アクティブ化を実行できます。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Serviceability にアクセスします。
- ステップ 2 [ツール (Tools)] > [サービスの起動 (Service Activation)] の順に選択します。
[サービスのアクティブ化 (Service Activation)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3 ドロップダウン リスト ボックスから適切なサーバを選択します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4 [Unified CM Services のデータベースおよび管理者サービス (Database and Admin Services of Unified CM Services)] リストから [TAPS サービス (TAPS Service)] を選択し、[保存 (Save)] をクリックします。

(注) サービスが既にアクティブな場合、[Activation Status] に [Activated] と表示されません。

サービスがアクティブになり、[アクティベーション ステータス (Activation Status)] 列に [アクティブ (Activated)] とステータスが表示されます。

TAPS の開始、停止、および再起動

TAPS サービスは、Cisco Unified Communications Manager Serviceability を使用してアクティブ化することで自動的に開始されます。ここでは、TAPS サービスを停止または再起動する手順について説明します。

手順

- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロール センター：機能サービス (Control Center - Feature Services)] の順に選択します。
[Control Center-Feature Services] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2 [サーバ (Servers)] ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

TAPS サービスは、Unified CM Services の [データベースおよび管理者サービス (Database and Admin Services)] 列のリストに表示されます。

(注) TAPS がすでにアクティブになっている場合は、[ステータス (Status)] に [アクティブ (Activated)] と表示されます。
- ステップ 3 TAPS サービスに対応するチェックボックスをオンにします。
- ステップ 4 TAPS サービスを再起動するには、[再起動 (Restart)] をクリックします。

サービスが再起動し、「Service Successfully Restarted」というメッセージが表示されます。

ステップ 5 TAPS サービスを停止するには、[停止 (Stop)] をクリックします。

サービスが終了し、「Service Successfully Stopped」というメッセージが表示されます。

ステップ 6 停止した TAPS サービスを開始するには、[開始 (Start)] をクリックします。

サービスが起動し、「Service Successfully Started」というメッセージが表示されます。

関連トピック

[TAPS サービスのアクティブ化 \(746 ページ\)](#)

TAPS オプションの設定項目

管理者は、Cisco Unified Communications Manager システムでの TAPS の使用方法を選択できます。これらの TAPS 機能オプションにより、電話機の更新や電話プロファイルのダウンロードをユーザに対してより柔軟に許可できます。TAPS オプションには、自動登録、TAPS セキュア電話番号、自動登録済み電話機サポート用のユーザ ロケールなどが含まれます。

TAPS 自動登録の設定

TAPS 設定オプションによって、Cisco Unified Communications Manager データベースに自動登録される電話を TAPS を使用して更新する 2 つの方法が提供されます。

- BAT を使用して追加され、ダミー MAC アドレスを持つ電話の場合。
- Cisco Unified Communications Manager Administration の既存の電話の場合。

デフォルト設定では、TAPS の使用は、ダミー MAC アドレスを持つ、プレフィックス「BAT」で始まるデバイス名の電話機に限定されます。

すべての電話（標準 MAC アドレスを持つ電話も含む）を Cisco Unified Communications Manager システムに自動登録できるように、TAPS 設定オプションを設定できます。



-
- (注) TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager での自動登録範囲が減少します。TAPS による更新後、電話機に自動登録された電話番号 (DN) は未定義の DN になります。BAT を定期的を使用して未割り当ての DN を削除することで、自動登録範囲を解放してください。
-

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager Administration] ウィンドウから、[システム (System)] > [サービス パラメータ (Service Parameters)] の順に選択します。

[サービス パラメータ設定 (Service Parameter Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リストから適切なサーバを選択します。

ステップ 3 [サービス (Service)] ドロップダウン リストから、[TAPS サービス (TAPS Service)] を選択します。

ステップ 4 [パラメータ値 (Parameter Value)] ドロップダウン リスト ボックスから 2 つのオプションのいずれかを選択し、[保存 (Save)] をクリックします。

a) [ダミーMACアドレスがあるプロファイルを持つ自動登録済み電話機のリセットを許可 (Allow Auto-Registered phones to reset with a profile with a dummy MAC address)]

TAPS は、自動登録された電話を、ダミー MAC アドレスを持つプロファイルのみで更新します。

b) [自動登録された電話機を任意のプロファイルでリセットすることを許可する (Allow Auto-Registered phones to reset with any profile)]

TAPS は、自動登録された電話を任意のプロファイルで更新します。

更新が完了したことを示すステータス メッセージが表示されます。

次のタスク

TAPS オプション ウィンドウに戻るには、[戻る (Back)] をクリックします。

関連トピック

[関連項目 \(752 ページ\)](#)

TAPS セキュア電話番号オプション

TAPS セキュア オプションを使用すると、TAPS からアクセスできない電話番号を指定できます。電話番号が別の電話機に誤って割り当てられないようにしたい場合に、この機能を使用できます。



- (注) TAPS を使用すると、Cisco Unified Communications Manager での自動登録範囲が減少します。TAPS による更新後、電話機に自動登録された電話番号 (DN) は未定義の DN になります。BAT を定期的に使用して未割り当ての DN を削除することで、自動登録範囲を解放してください。

制限されている電話番号を見つけたり、電話番号の制限をさらに追加したりするには、次の各項を使用してください。

関連トピック

[セキュアな電話番号の検索 \(750 ページ\)](#)

[電話番号制限の削除 \(751 ページ\)](#)

[電話番号の制限 \(750 ページ\)](#)

[関連項目](#) (752 ページ)

セキュアな電話番号の検索

制限付きの電話番号を検索して一覧表示することができます。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [セキュアTAPS (Secure TAPS)] の順に選択します。
[保護する電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers to Secure)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 該当する検索条件を入力して、[検索 (Search)] をクリックします。
使用可能な保護された電話番号が存在する場合は、それらが一覧表示されます。
-

次のタスク

その後、電話番号の制限を設定したり、制限を解除したりできます。

関連トピック

- [関連項目](#) (752 ページ)
- [電話番号制限の削除](#) (751 ページ)
- [電話番号の制限](#) (750 ページ)
- [TAPS セキュア電話番号オプション](#) (749 ページ)

電話番号の制限

指定した電話番号を TAPS が使用できないようにブロックできます。TAPS は、保護された電話番号のリストに含まれている電話番号を使用できません。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [セキュアTAPS (Secure TAPS)] の順に選択します。
[セキュアにする電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers to Secure)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
[電話番号の保護の設定 (Secure Directory Numbers Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 3** [電話番号 (Directory Number)] フィールドに、TAPS から保護する番号を入力して、[保存 (Save)] をクリックします。

ヒント 複数の電話番号を入力するには、それぞれの電話番号を行単位で入力します。

- ステップ 4** [保護する電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Directory Numbers)] ウィンドウに戻るには、ウィンドウの右上にある [関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストボックスから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find and List)] を選択して、[実行 (Go)] をクリックします。
- TAPS は、このリストに含まれている電話番号を使用できません。ユーザがこのリスト内のいずれかの電話番号を入力してデバイスプロファイルを更新しようとする、TAPS はその要求を拒否します。

関連トピック

[関連項目 \(752 ページ\)](#)

電話番号制限の削除

TAPS がアクセスできない電話番号のリストから、電話番号を削除することができます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [セキュアTAPS (Secure TAPS)] の順に選択します。
- [セキュアな電話番号の検索/一覧表示 (Find and List Secure Directory Numbers)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 2** 削除する電話番号を検索します。
- ステップ 3** セキュアな電話番号リストから削除する電話番号を選択して、[削除 (Delete)] をクリックします。

関連トピック

[セキュアな電話番号の検索 \(750 ページ\)](#)

[関連項目 \(752 ページ\)](#)

TAPS ログ ファイルの表示

BAT を使用して TAPS ログ ファイルを表示します。ログ ファイルの各行はそれぞれの TAPS トランザクションを表します。

手順

- [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [TAPS ログファイルの表示 (View Taps Log File)] の順に選択します。

[TAPSログファイルの表示 (View TAPS Log File)] ウィンドウが表示されます。

関連トピック

[関連項目 \(752 ページ\)](#)

関連項目

- [TAPS の概要 \(741 ページ\)](#)
- [TAPS のインストール \(745 ページ\)](#)
- [TAPS サービスのアクティブ化 \(746 ページ\)](#)
- [TAPS サービスのアクティブ化 \(746 ページ\)](#)
- [TAPS の開始、停止、および再起動 \(747 ページ\)](#)
- [TAPS オプションの設定項目 \(748 ページ\)](#)
- [TAPS の自動登録オプション \(742 ページ\)](#)
- [TAPS ログ ファイルの表示 \(751 ページ\)](#)
- [Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール \(753 ページ\)](#)
- [新しい電話での TAPS プロンプトの言語の選択 \(755 ページ\)](#)



第 77 章

Tool for Auto-Registered Phone Support (TAPS) ユーザ ロケール

この章では、TAPS プロンプト用の言語の追加または削除について説明します。

TAPS が機能するためには、少なくともユーザ ロケールを 1 つ選択する必要があります。ユーザ ロケールのサポートをインストールするには、Locale Installer を使用します。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer の詳細については、特定のロケールインストーラのドキュメントを参照してください。

- [Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール \(753 ページ\)](#)
- [Tool for Auto-Registered Phone Support プロンプトへの言語の追加 \(754 ページ\)](#)
- [Tool for Auto-Registered Phones Support プロンプトから言語を削除する \(755 ページ\)](#)
- [新しい電話での TAPS プロンプトの言語の選択 \(755 ページ\)](#)
- [Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール関連のトピック \(756 ページ\)](#)

Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール

管理者は、[TAPS のユーザ ロケール (User Locales for TAPS)] オプションを使用して TAPS ボイスプロンプトの言語を指定できます。TAPS のユーザプロンプトは複数の言語で設定できます。

Locale Installer を実行して、ユーザ ロケールのサポートをインストールする必要があります。



- (注) Cisco Unified Communications Manager にインストールされている TAPS ユーザ ロケールは、TAPS コールが発信されるときに Cisco Unified Contact Center Express に自動的にコピーされません。Cisco Unified Contact Center Express の [プロンプト管理 (Prompt Management)] ページでは TAPS ユーザ ロケールを使用できません。

Locale Installer を使用すると、最新の翻訳済みテキスト、翻訳済みボイスプロンプト、各国/地域固有の電話トーン、および各国/地域固有のゲートウェイ トーンを電話機で利用できるようになります。Cisco Unified Communications Manager Locale Installer の詳細については、ロケールインストーラのマニュアルを参照してください。



(注) TAPS が機能するには、少なくとも 1 つのユーザ ロケールを選択する必要があります。

Tool for Auto-Registered Phone Support プロンプトへの言語の追加

TAPS プロンプトに言語を追加できます。

手順

ステップ 1 [Cisco Unified Communications Manager Administration] ウィンドウで、[一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [TAPS のユーザ ロケール (User Locales for TAPS)] の順に選択します。

[ユーザ ロケール設定 (User Locales Configuration)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [ユーザ ロケール (User Locales)] リスト ボックスで、ユーザプロンプトに使用する言語を選択します。矢印をクリックして、選択した言語を [選択済みユーザ ロケール (Selected User Locales)] リスト ボックスに移動します。

[ユーザ ロケール (User Locales)] リスト ボックスは、Cisco Unified Communications Manager にインストールされている言語のリストです。

ユーザプロンプトに対して、必要に応じて最大 20 言語まで選択し、[選択済みユーザ ロケール (Selected User Locales)] リストボックスに移動できます。

(注) 希望する言語が表示されない場合、ロケールインストーラを Cisco.com からダウンロードして、その言語をコンピュータ ノードにインストールする必要があります。

(注) [ロケール (Locales)] ペインに追加するすべての言語は、ユーザへのオプションとして提供されます。ユーザがサポート プロンプト言語設定を電話機で設定するため、[ロケール (Locales)] ペインにおけるロケールの順序は重要ではありません。

ステップ 3 ユーザプロンプトの言語を選択した後、[保存 (Save)] ボタンをクリックして、ジョブを作成します。

ステップ 4 [一括管理 (Bulk Administration)] メインメニューの [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] オプションを使用して、このジョブをスケジュールまたはアクティブ化します。

関連トピック

[BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)

[スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)

[Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール関連のトピック \(756 ページ\)](#)

Tool for Auto-Registered Phones Support プロンプトから言語を削除する

TAPS プロンプト用の言語を削除できます。

手順

-
- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [TAPS のユーザロケール (User Locales for TAPS)] の順に選択します。
[ユーザロケールの選択 (Select User Locales)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [選択済みのユーザロケール (Selected User Locales)] リストボックスで、削除する言語を選択します。矢印をクリックして、選択した言語を [ユーザロケール (User Locales)] リストボックスに移動します。

[選択済みのユーザロケール (Selected User Locales)] リストボックスは、ユーザプロンプト用に選択された言語のリストです。ユーザプロンプトから1つ以上の言語を選択して、それらを [ユーザロケール (User Locales)] リストボックスに移動できます。
- ステップ 3** [保存 (Save)] をクリックします。
更新が完了したことを示すステータスメッセージが表示されます。
-

次のタスク

TAPS オプション ウィンドウに戻るには、[戻る (Back)] をクリックします。

関連トピック

[Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザロケール関連のトピック \(756 ページ\)](#)

新しい電話での TAPS プロンプトの言語の選択

エンドユーザは、使用する電話での TAPS プロンプトの言語を選択できます。

手順

-
- ステップ 1** 電話機をポートに接続します。
電話機に番号が自動で登録され、表示されます。

(注) 電話プロファイルをダウンロードし、最初のノードとディレクトリで必要な更新を実行するのに、約 20 ~ 25 秒かかります。

ステップ 2 システム管理者によって提供される CTI ルート ポイントの番号をダイヤルし、プロンプトに従います。

ステップ 3 システム管理者が指定した TAPS 内線番号をダイヤルします。

ステップ 4 ボイス プロンプトによって、使用する言語を選択するよう求められます。適宜選択します。

ステップ 5 システム管理者が指定した個人の内線番号をダイヤルし、続けて「#」を押します。

(注) 完全な電話番号（地域コードを含む）を入力するように指示される場合があります。

ステップ 6 確認するには、もう一度個人の内線番号をダイヤルし、続けて「#」を押します。

ステップ 7 確認のプロンプトを受け取ります。

ステップ 8 電話を切ります。

電話機の内線番号がリセットされ、表示されます。

次のタスク

問題がある場合は、システム管理者にお問い合わせください。

関連トピック

[Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール関連のトピック](#) (756 ページ)

Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール 関連のトピック

- [Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール](#) (753 ページ)
- [新しい電話での TAPS プロンプトの言語の選択](#) (755 ページ)
- [TAPS のインストール](#) (745 ページ)
- [TAPS サービスのアクティブ化](#) (746 ページ)
- [TAPS サービスのアクティブ化](#) (746 ページ)
- [TAPS の開始、停止、および再起動](#) (747 ページ)
- [TAPS オプションの設定項目](#) (748 ページ)
- [TAPS セキュア電話番号オプション](#) (749 ページ)



第 **XX** 部

ジョブのスケジュール設定

- [スケジュールしたジョブの管理 \(759 ページ\)](#)



第 78 章

スケジュールしたジョブの管理

この章では、BPS のアクティブ化とジョブのスケジュール設定について説明します。

一括トランザクションのスケジュールを設定して、これらのトランザクションを開始する必要がある時刻を指定できます。Cisco Unified Communications Manager Administration の [一括管理 (Bulk Administration)] メニューから送信されたジョブはすべて、Bulk Provisioning Service (BPS) のキューに入れられます。ジョブに対して指定した開始時刻によって、トランザクションの実行が開始されます。開始時刻が指定されていない場合、トランザクションは受信された順番で実行されます。

- [Bulk Provisioning Service のアクティブ化 \(759 ページ\)](#)
- [BPS の起動、停止、および再起動 \(760 ページ\)](#)
- [BPS の非アクティブ化とログアウト \(761 ページ\)](#)
- [BPS に送信されたジョブの検索 \(761 ページ\)](#)
- [送信済みジョブのスケジュール \(763 ページ\)](#)

Bulk Provisioning Service のアクティブ化

実行するためにジョブを送信する前に、Bulk Provisioning Service (BPS) をアクティブにする必要があります。

BPS は、アクティブ化されると自動的に起動します。サービスが起動するごとに、BPS は Cisco Unified Communications Manager データベースと同期されます。

手順

- ステップ 1** [Cisco Unified Communications Manager Serviceability] ウィンドウから、[ツール (Tools)] > [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] の順に選択します。
[サービスのアクティブ化 (Service Activation)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストボックスから、Cisco Unified Communications Manager を実行しているサーバを選択します。
- ステップ 3** [データベースおよび管理者サービス (Database and Admin Services)] 領域で、**Cisco Bulk Provisioning Service** に対応するチェックボックスをオンにします。

(注) サービスが既にアクティブな場合、[Activation Status] に [Activated] と表示されま
す。

ステップ 4 [Update] をクリックします。

ウィンドウが更新され、Bulk Provisioning Service に対応する [アクティブ化ステータス (Activation Status)] に [アクティブ化 (Activated)] と表示されます。

関連トピック

[BPS の起動、停止、および再起動 \(760 ページ\)](#)

[Tool for Auto-Registered Phone Support のユーザ ロケール関連のトピック \(756 ページ\)](#)

BPS の起動、停止、および再起動

Bulk Provisioning Service (BPS) を手動で停止または再起動できます。



(注) BPS は、Cisco Unified Communications Manager Serviceability を使用してアクティブ化することで自動的に開始されます。

手順

ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[ツール (Tools)] > [コントロール センター：機能サービス (Control Center - Feature Services)] の順に選択します。

[コントロールセンター：機能サービス (Control Center-Feature Services)] ウィンドウが表示されます。

ステップ 2 [サーバ (Servers)] ドロップダウンリストボックスから Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。

Cisco Bulk Provisioning Service が、[データベースおよび管理者サービス (Database and Admin Services)] 領域の [サービス名 (Service Name)] 列のリストに表示されます。

(注) BPS がすでにアクティブになっている場合は、[アクティベーションステータス (Activation Status)] に [アクティブ (Activated)] と表示されます。

ステップ 3 BPS に対応するチェックボックスをオンにして、次のいずれかを実行します。

- a) BPS を再起動するには、[再起動 (Restart)] をクリックします。
サービスが再起動し、「Service Successfully Restarted」というメッセージが表示されます。
- b) BPS を停止するには、[停止 (Stop)] をクリックします。
サービスが終了し、「Service Successfully Stopped」というメッセージが表示されます。
- c) 停止した BPS を開始するには、[開始 (Start)] をクリックします。

サービスが起動し、「Service Successfully Started」というメッセージが表示されます。

BPS の非アクティブ化とログアウト

BPS を非アクティブにした後は、このツールを使用する必要がなければログアウトすることができます。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[ツール (Tools)] [サービスのアクティブ化 (Service Activation)] の順に選択します。
[サービスのアクティブ化 (Service Activation)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Servers)] ドロップダウンリストボックスから Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
Cisco Bulk Provisioning Service が、[データベースおよび管理者サービス (Database and Admin Services)] 領域の [サービス名 (Service Name)] 列に表示されます。
- ステップ 3** Cisco Bulk Provisioning Service に対応するチェックボックスをオフにして、[更新 (Update)] をクリックします。
サービスが非アクティブになり、[ステータス (Status)] 列に [非アクティブ (Deactivated)] ステータスが表示されます。

BPS に送信されたジョブの検索

Cisco Unified Communications Manager Administration 上の [一括管理 (Bulk Administration)] メニューを介してすでに BPS に送信されたジョブを検索できます。

手順

- ステップ 1** [Bulk Administration (一括管理)] > [Job Scheduler (ジョブスケジューラ)] を選択します。
[ジョブの検索/一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** 最初の [ジョブの検索 (Find Job where)] ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。
 - ユーザ
 - ステータス
 - Job ID
 - 説明

- Scheduled Date Time

(注) ジョブを検索するときには、人間が判読できる日付ではなく、エポックタイムを使用してください。たとえば、「July 2015」ではなく「1438171」を使って検索します。

ステップ 3 2番目の[ジョブの検索 (Find Job where)] ドロップダウンリストボックスから、次のオプションのいずれかを選択します。

- ~で始まる
- ~を含む
- 次の文字列と完全に一致する
- 次の文字列で終わる
- 空である
- ~が空ではない

ステップ 4 3番目のドロップダウンリストボックスから、[表示 (Show)] を選択して、完了したジョブを表示します。

ステップ 5 必要に応じて適切な検索テキストを指定し、[検索 (Find)] をクリックします。

さらにクエリを定義するには、[AND] または [OR] を選択して複数のフィルタを追加し、[ステップ 2 \(761 ページ\)](#) ~ [ステップ 5 \(762 ページ\)](#) を繰り返します。

ヒント データベースに登録されているすべてのジョブを検索するには、検索テキストを何も入力せずに [検索 (Find)] をクリックします。

検出されたジョブのリストが次の分類で表示されます。

- Job ID
- Scheduled Date Time
- 送信日時
- [シーケンス (Sequence)]
- 説明
- ステータス
- [最後のユーザ (Last User)]

(注) ジョブのスケジュール時に [後で実行 (Run Later)] ラジオ ボタンを選択した場合は、[ステータス (Status)] に [保留 (Hold)] と表示されます。[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオ ボタンを選択した場合は、[ステータス (Status)] に [処理中 (Pending)] と表示されます。ジョブが完了している場合は [ステータス (Status)] に [完了 (Completed)] と表示され、エラーが発生したために完了できなかったジョブの場合は [未完了 (Incomplete)] と表示されます。

ステップ 6 スケジュール設定する (またはアクティブにする) 処理中または保留中のジョブのジョブ ID をクリックします。

[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウが表示されます。

送信済みジョブのスケジュール

送信済みジョブをスケジュールできます。

手順

ステップ 1 スケジュールするジョブを検索します。

ステップ 2 [ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウで、ジョブのスケジュールとアクティブ化に関する設定を入力します。

次の表を参照してください。

表 52: ジョブの設定

フィールド	説明
[ジョブ ID (Job ID)]	ジョブの送信時に作成されたジョブ ID が表示されます。
[ジョブ ステータス (Job Status)]	次のいずれかのジョブ ステータスが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • 保留 (Hold) • Pending • [完了 (Completed)] • [未完了 (Incomplete)]
Scheduled Date Time	ドロップダウンリストから、月、日、年を選択します。ジョブをスケジュールリングする時刻を入力します。
送信日時	ジョブが送信された日時が表示されます。
[シーケンス (Sequence)]	ドロップダウンリストから、ジョブの実行順序を選択します。1 から 20 までの番号を選択できます。 (注) 複数のジョブのスケジュール日時が同じである場合は、シーケンス番号に従ってジョブがBPS内のキューに入れられます。スケジュールされた日時と順序が同じである場合は、送信された日時に従ってジョブがキューに入れられます。
[職務内容 (Job Description)]	ジョブの作成時に入力した説明が表示されます。この説明は、任意の言語で最大 50 文字を含めるように編集できますが、二重引用符 (")、パーセント記号 (%)、アンパサンド (&)、バックスラッシュ (\)、および山カッコ (<>) を含めることはできません。

フィールド	説明
[頻度 (Frequency)]	次のオプションの中から、トランザクションの頻度を選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • [一度 (Once)] • 月 1 回 • 週 1 回 • 毎日 • Hourly たとえば [毎日 (Daily)] を選択すると、毎日、[スケジュール日時 (Schedule Time and Date)] フィールドに入力された時刻にトランザクションが実行されます。
Job End Time	反復的な (頻度の高い) ジョブの終了時刻が表示されます。
[最終更新者 (Last Modified By)]	このジョブを最後に変更した管理者のユーザ ID が表示されます。

ステップ 3 スケジュールされた時刻のジョブをアクティブにするには [ジョブのアクティブ化 (Activate job)] をクリックします。または後でジョブをアクティブにする場合は、[保存 (Save)] をクリックして設定を保存します。

[ジョブの検索/一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウが表示されます。

(注) ジョブが保存されていても、まだアクティブになっていない場合は、ジョブのステータスが [保留 (Hold)] と表示されます。このようなジョブをアクティブ化しない限り、BPS では処理されません。

ステップ 4 すでにアクティブ化したジョブのジョブ ID をクリックします。[ジョブの設定 (Job Configuration)] ウィンドウで、完了、未完了、停止要求中、または処理中のすべてのジョブに関する次の情報が [ジョブの結果 (Job Results)] 領域に表示されます。

- ジョブの実行日時 (Job Launched Date Time)
- ジョブの結果の状況 (Job Result Status)
- 処理されたレコードの数 (Number of records Processed)
- 失敗したレコードの数 (Number of Records Failed)
- レコードの総数 (Total Number of Records)
- ログ ファイル名

(注) [ログファイル名 (Log FileName)] 列のリンクをクリックすると、このトランザクションのログファイルが表示されます。

次のタスク

ジョブのリストに戻るには、[関連リンク (Related Links)] ドロップダウンリストから [検索/一覧表示に戻る (Back to Find/List)] を選択して [実行 (Go)] をクリックします。

関連トピック

[BPS に送信されたジョブの検索](#) (761 ページ)



第 **XXI** 部

BAT および TAPS のトラブルシューティング

- [BAT および TAPS のトラブルシューティングの管理 \(769 ページ\)](#)



第 79 章

BAT および TAPS のトラブルシューティングの管理

この章では、Cisco Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) または Tool for Auto-Registered Phones Support の使用時に発生する可能性があるさまざまな問題やメッセージに関する情報を提供します。

- [構成ファイルを表示するトレースの有効化 \(769 ページ\)](#)
- [設定ファイルのトレースの無効化 \(771 ページ\)](#)
- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [BAT のトラブルシューティング \(772 ページ\)](#)
- [BAT パフォーマンスのトラブルシューティング \(777 ページ\)](#)
- [BAT および TAPS のトラブルシューティング \(778 ページ\)](#)
- [BAT および TAPS のトラブルシューティング関連のトピック \(779 ページ\)](#)

構成ファイルを表示するトレースの有効化

Cisco Unified Communications Manager Serviceability の [サービス制御 (Service Control)] ウィンドウから、トレース ファイルの書き込み機能を有効にすることができます。

トレース ファイルには、ツールの機能の問題を追跡する手段が用意されています。システムは、BAT と TAPS 用のトレース ファイルを、BAT と TAPS がインストールされているサーバに書き込みます。

BAT 用および TAPS 用のトレース ファイルは次のように表示されます。

```
bps<index number>.log
```

```
taps<index number>.log
```

ここで、<index number> は 1 ～ 250 の範囲です。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[トレース (Trace)] > [トレース設定 (Trace Configuration)] を選択します。
[Trace Configuration] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [サーバ (Server)] ドロップダウンリストボックスから、Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
- ステップ 3** [設定済みサービス (Configured Services)] ドロップダウンリストボックスから、次のサービスのいずれかを選択します。
- BAT トレースファイル設定の場合は Cisco Bulk Provisioning サービスを選択します。
 - TAPS トレースファイル設定の場合は TAPS Service を選択します。
- ステップ 4** トレース機能をアクティブにするには、[トレース オン (Trace On)] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5** [トレース フィルタ設定 (Trace Filter Settings)] の [デバッグ トレース レベル (Debug Trace Level)] ドロップダウンリストボックスから、設定するトレース レベルを選択します。
次の表の説明に従って、必要なデバッグ トレース レベルをクリックします。

表 53: デバッグ トレース レベル

レベル	説明
[致命的 (Fatal)]	アプリケーションが中断する可能性がある重大なエラー イベントをトレースします。
エラー (Error)	アラーム状態およびイベントをトレースします。異常なパスで生成されたすべてのトレースに使用します。最小の CPU サイクル数を使用します。
[警告 (Warn)]	損害が発生する可能性がある状況をトレースします。
[情報 (Info)]	サーバレットの問題の多数をトレースし、システム パフォーマンスに最小限の影響を与えます。
[デバッグ (Debug)]	通常運用時に発生するすべての状態遷移条件とメディア レイヤ イベントをトレースします。 すべてのロギングを有効にするトレース レベル。

- ステップ 6** 必要に応じて、[Cisco Bulk Provisioning サービス トレース フィールド (Cisco Bulk Provisioning Service Trace Fields)] と [デバイス名ベースのトレース モニタリング (Device Name Based Trace Monitoring)] のチェックボックスをオンにします。
- ステップ 7** [トレース 出力設定 (Trace Output Settings)] で、ファイルの最大数、ファイルごとの最大行数、およびファイルごとの最大分数の値を入力して、[更新 (Update)] をクリックします。
機能が有効になると、トレース ファイルがサーバ上の次の場所書き込まれます。

- BAT トレース ファイル : /var/log/active/cm/trace/bps/log4j
- TAPS トレース ファイル : /var/log/active/cm/trace/taps/log4j

ステップ 8 [更新 (Update)] をクリックします。

次のタスク

トレース ファイルに含める情報を設定した後は、Real-Time Monitoring Tool (RTMT) で trace および log central オプションを使用して、トレース ファイルを収集および表示できます。詳細については、『Cisco Unified Communications Manager Serviceability システムガイド』を参照してください。

設定ファイルのトレースの無効化

Cisco Unified Communications Manager Serviceability の [サービス制御 (Service Control)] ウィンドウから、トレース ファイルの書き込みを無効にすることができます。

手順

-
- ステップ 1 Cisco Unified Communications Manager Serviceability で、[トレース (Trace)] > [トレース設定 (Trace Configuration)] を選択します。
[Trace Configuration] ウィンドウが表示されます。
 - ステップ 2 [サーバ (Server)] ドロップダウン リスト ボックスから Cisco Unified Communications Manager サーバを選択します。
 - ステップ 3 [設定済みサービス (Configured Services)] ドロップダウン リスト ボックスから [Cisco Bulk Provisioning Service] を選択します。
 - ステップ 4 トレース機能を非アクティブにするには、[トレースオン (Trace On)] チェックボックスをオフにします。
 - ステップ 5 [更新 (Update)] をクリックします。
このアクションによって、この機能が無効になります。
-

BAT ログ ファイル

BAT は、一括トランザクションごとにログ ファイルを生成します。ログ ファイルにはレコードのキー値が示されるので、管理者はレコードを再検証できます。電話機の MAC アドレスは、電話機の追加、更新、または変更を行う際のキー値として機能します。ユーザが追加されると、ユーザ ID がキー値として機能します。BAT で作成された各ジョブのログ ファイルを表示するには、該当するジョブを見つけ、[ログファイル名 (Log File Name)] 列のリンクをク

リックします。ポップアップ ウィンドウに、そのジョブのログ ファイルの詳細が表示されます。

ログ ファイル名は、実行された操作と、その操作が終了した日時を示しています。

- ログ ファイル名：ファイル名はジョブ ID を示します。これはジョブが送信されたときにシステムにより作成される一意の ID です。
- タイムスタンプ：ログ ファイル名に含まれるタイムスタンプの形式は、mmddyyyyhhmmss です。
- ログ ファイル名は `jobid#timestamp.txt` の形式で表わされます。

関連トピック

[BPS に送信されたジョブの検索](#) (761 ページ)

[BAT および TAPS のトラブルシューティング関連のトピック](#) (779 ページ)

BAT のトラブルシューティング

問題 次に、発生する可能性があるシナリオと、可能な解決策を示します。

管理ページに[一括管理 (Bulk Administration)]メニューが表示されない

問題 Cisco Unified Communications Manager 管理ページに [一括管理 (Bulk Administration)] メニューが表示されません。

考えられる原因 [一括管理 (Bulk Administration)] メニューは、Cisco Unified Communications Manager の最初のノードからのみアクセスできます。

解決法 Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにログインしていることを確認してください。

完全な一括管理機能にアクセスできない

問題 完全な一括管理機能にアクセスできない

考えられる原因 Cisco Unified Communications Manager Administration にログインしたのに、どの [一括管理 (Bulk Administration)] ウィンドウにもアクセスできません。

解決法 この問題は、そのユーザ ID に付与されているアプリケーションへのアクセス権が制限されている場合に発生することがあります。必要なアクセス許可を得るため、システム管理者にお問い合わせください。

BAT.xlt ファイルで [BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] ボタンが機能しない

問題 BAT.xlt ファイルで [BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] ボタンが機能しない

考えられる原因 BAT.xlt ファイルで [BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] ボタンをクリックしても、何も実行されないようです。

解決法 空白のセルをクリックします。カーソルがセル内のテキストまたはテキスト ボックスにある場合は、ボタンが無効になっているように見えます。

データを CSV 形式でエクスポート中に BAT Excel スプレッドシートでコンパイルエラーが発生する

問題 データを CSV 形式でエクスポート中に BAT Excel スプレッドシートでコンパイルエラーが発生する

考えられる原因 使用している Microsoft Excel のバージョンを確認してください。Excel 97 を使用している顧客から、BAT.xlt に関する問題が報告されています。

解決法 Microsoft Excel 2000 以降を使用してください。

BAT Excel スプレッドシートが操作に応答しない

問題 BAT Excel スプレッドシートが操作に応答しない

考えられる原因 BAT Excel スプレッドシートが、回線の追加などの操作に応答しません。

解決法 BAT Excel スプレッドシートを開く際に [マクロを有効にする (Enable Macros)] が選択されていることを確認します。BAT.xlt でマクロを有効にするには、次の手順を実行します。

1. BAT.xlt を開きます。
2. [メニュー (Menu)] > [ツール (Tools)] > [マクロ (Macro)] > [セキュリティ (Security)] に移動します。
3. [セキュリティ レベル (Security Level)] を [中 (Medium)] に設定します。
4. BAT.xlt を閉じ、再度開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] を選択します。

データファイル (CSV) 形式が電話テンプレート/サンプルファイルに一致しない

問題 データ ファイル (CSV) 形式が電話テンプレート/サンプル ファイルに一致しません。

考えられる原因 データ ファイルに含まれる回線の数は BAT 電話機テンプレートで設定されている回線数以下である必要がありますが、そうなっていません。たとえば、電話テン

更新された CSV ファイルが [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスに表示されない

プレートに 3 つの回線があり、回線 1、回線 2、回線 3 が設定されています。最大で 3 つの回線が設定された電話データ ファイルを使用する必要があります。1111、2222、4444 とした場合、Line1-1111、Line2-2222、Line3-none、Line4-4444 になります。

解決法 使用する BAT 電話機テンプレートを確認します。CSV データ ファイルで指定される回線の数が、BAT 電話機テンプレートで設定されている回線の数を超えることはできません。また、CSV データ ファイルで指定する短縮ダイヤルの数も、使用する BAT 電話機テンプレートで使用できる短縮ダイヤルの最大数を超えることはできません。

更新された CSV ファイルが [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスに表示されない

問題 更新された CSV ファイルが [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスに表示されない

考えられる原因 [ファイルのアップロード (File Upload Configuration)] ウィンドウを使用して Cisco Unified Communications Manager サーバにアップロードした CSV ファイルが、さまざまな操作の [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスに表示されません。たとえば、[一括管理 (Bulk Administration)] メニューの [ファイルのアップロード/ダウンロード (Uploading/Downloading)] メニュー オプションを使用して、電話機を挿入するための CSV ファイルをアップロードした場合、そのファイルが [電話の挿入 (Insert Phones Configuration)] ウィンドウの [ファイル名 (File Name)] ドロップダウン リストボックスにオプションの 1 つとして表示されません。

解決法 そのファイルが正しい機能用にアップロードされていることを確認してください。前の例では、「電話の挿入 - すべての詳細 (Phones - Insert All details)」用としてアップロードした CSV ファイルが、実際には「電話の挿入 - 特定の詳細 (Phones - Insert Specific details)」に属するファイルだった可能性があります。

[ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] メニュー オプションからファイルを削除し、正しい機能用としてファイルをアップロードしてください。

スケジュール時刻が過ぎてもジョブが保留中状態のままである

問題 スケジュール時刻が過ぎてもジョブが保留中状態のままです。

考えられる原因 ジョブは特定のスケジュール時刻に実行するようにスケジュールされます。しかし、スケジュール時刻が過ぎてもジョブが保留中状態のままです。

解決法 次の詳細をチェックしてください。

1. Cisco Bulk Provisioning Service (BPS) が開始されていることを確認します。
2. 処理中状態のジョブが他に存在しないことを確認します。BPS は一度に 1 つのジョブしか処理できません。
3. BPS トランザクションに対して処理の停止が要求されているかどうかをチェックします。その場合は、[ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに移動して、[ジョブのアクティブ化 (Activate Job)] をクリックします。

ジョブが保留状態のままである

問題 ジョブが保留状態のままです。

考えられる原因 必要なすべてのデータと一緒にジョブを送信した後、[ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウでジョブが [保留 (Hold)] 状態として表示されます。このようなジョブは実行されません。

解決法 保留状態のジョブを BPS で実行するには、アクティブにする必要があります。[ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウに移動して、ジョブをアクティブにするプロセスを実行します。

[ジョブの検索/一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウにジョブが表示されない

問題 [ジョブの検索/一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウにジョブが表示されません。

考えられる原因 必要なすべてのデータと一緒にジョブを送信したら、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブ スケジューラ (Job Scheduler)] の順に選択します。スケジュールしたジョブに該当する検索条件を入力して、[検索 (Find)] をクリックします。ジョブが検索結果に表示されません。[ジョブの検索/一覧表示 (Find and List Jobs)] ウィンドウの [検索オプション (Search Options)] 領域にある 3 つ目のドロップダウンリストボックスで [非表示 (Hide)] が選択されているかどうかをチェックします。このオプションは完了したすべてのジョブを非表示にします。送信したジョブが既に完了している場合は、[検索結果 (Search Results)] 領域に表示されません。

解決法 [ジョブの検索/一覧表示 (Find and List jobs)] ウィンドウで、3 つ目のドロップダウンウィンドウから [表示 (Show)] を選択して、再度 [検索 (Find)] をクリックします。これで、検索結果に完了したジョブも表示されます。

テンプレートでポート番号が設定されていない

問題 テンプレートでポート番号が設定されていない

考えられる原因 CSV ファイルでポート番号が指定されていますが、対応するポートが BAT テンプレートで設定されていません。

解決法 BAT テンプレートの中で、CSV ファイルで指定したポートを設定してください。

ダミー MAC アドレス値を使用したい場合にファイルで MAC アドレスの値を使用できない

問題 ダミー MAC アドレス値を使用したい場合にファイルで MAC アドレスの値を使用できない

考えられる原因 CSV ファイルには MAC アドレスが記述されています。MAC アドレスが CSV ファイルのいずれかの行に存在する場合、ダミー MAC アドレスは指定できません。

解決法 ダミー MAC アドレスを使用するには、MAC アドレスを指定していないレコードだけが含まれている CSV ファイルを新規に作成します。あるいは、CSV ファイルに MAC アドレスを指定し、[ダミー MAC アドレスの作成 (Create Dummy MAC Address)] チェックボックスをオフにすることもできます。

BAT.xlt スプレッドシートが Microsoft Excel XP (Office XP) で機能しない

問題 BAT.xlt スプレッドシートが Microsoft Excel XP (Office XP) で機能しない

考えられる原因 Office XP パッケージの Microsoft Excel では、マクロのセキュリティがデフォルトで「高」に設定されています。この設定のため、BAT.xlt のマクロが実行できず、BAT.xlt を使用できません。

解決法 BAT.xlt でマクロを有効にするには、次の手順を使用します。

1. BAT.xlt を開きます。
2. [メニュー (Menu)] > [ツール (Tools)] > [マクロ (Macro)] > [セキュリティ (Security)] に移動します。
3. [セキュリティ レベル (Security Level)] を [中 (Medium)] に設定します。
4. BAT.xlt を閉じ、再度開きます。プロンプトが表示されたら、[マクロを有効にする (Enable Macros)] を選択します。

[電話の移行 - SCCP から SIP (Migrate Phones - SCCP TO SIP)] ウィンドウで SCCP 電話の SIP への移行要求を送信した後も、7940 および 7960 モデルが引き続き SCCP 電話機として表示される

問題 [電話の移行 - SCCP から SIP (Migrate Phones - SCCP TO SIP)] ウィンドウで SCCP 電話の SIP への移行要求を送信した後も、Cisco Unified IP Phone の 7940 および 7960 モデルが引き続き SCCP 電話機として表示される。

解決法 この問題を解決するには、移行の後で各電話の電源を再投入 (電源をオフした後にオン) してください。



(注) Cisco Unified IP Phone (モデル 7911、7941、7961、7970、および 7971) では移行のアクティビティが正しく機能し、移行後は SIP として電話が登録されます。

レコードが選択したファイル形式に一致しない

問題 レコードが選択したファイル形式に一致しない

考えられる原因 MS Excel を使用して CSV ファイルを作成し、最終列を空白にすると、行 15 以降、MS Excel が最終列にカンマを追加しません。このエラーは、BAT 操作でこのような CSV ファイルを使用すると発生します。

解決法 CSV ファイルの最終列を空白にするには、次の手順に従います。

1. CSV ファイルの作成時に、最終列にダミー値を入力します。
2. CSV ファイルを保存して閉じます。
3. 保存した CSV ファイルをテキスト エディタまたはメモ帳で開きます。
4. ダミー値をブランクの値に置き換え、ファイルを保存します。

Microsoft Excel 2007 で BAT.xlt が互換モードで機能している

問題 Microsoft Excel 2007 で BAT.xlt が互換モードで機能している

考えられる原因 Excel テンプレート bat.xlt は、Microsoft Excel 2003 ファイルです。このファイルを Microsoft Excel 2007 で開くと、ファイルは互換モードで開きます。互換モードでは、Excel テンプレートは Microsoft Excel 2003 ファイルと同じように機能し、Microsoft Excel 2007 の機能は使用できません。

解決法 BAT.xlt が通常モードであることを確認してください。Bat.xlt を開き、[ファイル (File)] > [名前を付けて保存 (Save As)] を選択し、[Excel マクロ有効ブック (Excel Macro Enabled Workbook)] をクリックします。名前を指定し、[Save (保存)] をクリックします。bat.xlt を閉じ、保存したファイル (名前を付けて保存したファイル) を開きます。

BAT パフォーマンスのトラブルシューティング

低トラフィックの時間帯に一括トランザクションを送信することをお勧めします。Unified Communications Manager が大量のコールを処理しているときに BAT ファイルを最初のノードデータベースに挿入すると、BAT トランザクションが遅くなる可能性があります。実際、Unified Communications Manager によるコール処理に悪影響が及ぶ可能性もあります。

ファイルサイズを1ファイルあたり 12000 レコード未満に制限することにより、BAT パフォーマンスが改善する可能性があります。

また、BAT ファイルを最初のノードデータベースに挿入する前に、Unified Communications Manager の最初のノードサーバで TFTP サービスを停止することでも、BAT パフォーマンスを改善できます。挿入トランザクションが完了したら、TFTP サービスを再起動する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** [Cisco Unified Serviceability] ウィンドウで、[ツール (Tools)] > [コントロール センター - 機能サービス (Control Center - Feature Services)] を選択します。
 - ステップ 2** 対応するラジオボタンをクリックして、[Unified CM サービスからの Cisco TFTP (Cisco TFTP from the Unified CM Service)] リストを選択します。

ステップ3 [停止 (Stop)] をクリックして、[OK] をクリックします。

(注) 挿入トランザクションが完了した後、TFTP サービスを再起動する必要があります。同じ手順に従い、[開始 (Start)] をクリックしてサービスを再起動します。

関連トピック

[BAT および TAPS のトラブルシューティング関連のトピック \(779 ページ\)](#)

BAT および TAPS のトラブルシューティング

原則として、TAPS が使用されていない場合は、TAPS サービスを停止することをお勧めします。このサービスを停止することによって、TAPS の不要な使用を防ぐことができ、また CPU 時間をある程度節約することもできます。

関連トピック

[BAT および TAPS のトラブルシューティング関連のトピック \(779 ページ\)](#)

Tool for Auto-Registered Phones Support ログ ファイルの表示

TAPS では、TAPS ログ ファイルごとに 1 行の情報を生成します。

TAPS ログ ファイルを表示するには、[一括管理 (Bulk Administration)] > [TAPS] > [TAPS ログファイルの表示 (View TAPS Log File)] の順に選択します。

Tool for Auto-Registered Phones Support のエラー メッセージ

Cisco UCCX サーバーで TAPS の実行中に次のメッセージが表示されることがあります。

関連トピック

[BAT および TAPS のトラブルシューティング関連のトピック \(779 ページ\)](#)

TAPS ルート ポイント番号をダイヤルすると、発信者にビジー トーンが聞こえる

問題 TAPS ルート ポイント番号をダイヤルすると、発信者はビジー トーンを受け知ります。

考えられる原因 このビジー トーンは、TAPS の最大同時セッション数に達したことを示します。TAPS の最大セッション数は、UCCX 設定で TAPS アプリケーションに割り当てられたポート数と同じです。

解決法 この状況を回避するには、Cisco UCCX で TAPS アプリケーションに割り当てられるポート数を増やす必要があります。

Cisco UCCX サーバーの起動時に、JTAPI サブシステムで部分的サービスまたはアウトオブサービスと表示されます。

問題 Cisco UCCX サーバーの起動時に、JTAPI サブシステムで部分的サービスまたはアウトオブサービスと表示されます。

考えられる原因 メッセージが発生する理由は、Cisco Unified Communications Manager または Cisco UCCX サーバの設定に問題があるためです。

解決法 問題が修正されるまで、次のいずれかまたはすべての手順を実行してください。

- Cisco Unified Communications Manager が起動していることを確認します。
- Cisco UCCX サーバで JTAPI が使用可能であることを確認します。
- UCCX サーバ上の JTAPI バージョンが、Cisco Unified Communications Manager にインストールされている JTAPI バージョンと同じであることを確認します。
- Cisco Unified Communications Manager でルートポイントと CTI ポートが適切に設定されていることを確認します。
- JTAPI ユーザの [CTI からのデバイスの制御を許可 (Allow Control of Device from CTI)] チェックボックスがオンになっていることを確認します。これは、Cisco Unified Communications Manager Administration のユーザ ウィンドウで確認できます。
- CTI Manager サービスが開始されていることを確認します。
- Cisco Unified Communications Manager のユーザ設定で、ポートとルートポイントがユーザに関連付けられていることを確認します。

さらにトラブルシューティングを行うには、Cisco UCCX サーバの MIVR ログ ファイルを収集して確認してください。

BAT および TAPS のトラブルシューティング関連のトピック

- [BAT ログ ファイル \(771 ページ\)](#)
- [構成ファイルを表示するトレースの有効化 \(769 ページ\)](#)
- [BAT のトラブルシューティング \(772 ページ\)](#)
- [BAT パフォーマンスのトラブルシューティング \(777 ページ\)](#)
- [BAT および TAPS のトラブルシューティング \(778 ページ\)](#)



第 **XXII** 部

インフラストラクチャ デバイス

• [インフラストラクチャ デバイスの管理 \(783 ページ\)](#)



第 80 章

インフラストラクチャ デバイスの管理

- [BAT を使用したインフラストラクチャ デバイスのセットアップ \(783 ページ\)](#)
- [BAT.xlt を使用したインフラストラクチャ デバイス用 CSV データ ファイルの作成 \(784 ページ\)](#)
- [テキストエディタを使用したインフラストラクチャ デバイス用 CSV データ ファイルの作成 \(784 ページ\)](#)
- [インフラストラクチャ デバイスの挿入 \(785 ページ\)](#)
- [インフラストラクチャ デバイス挿入の例 \(787 ページ\)](#)

BAT を使用したインフラストラクチャ デバイスのセットアップ

BAT スプレッドシート BAT.xlt を使用して、インフラストラクチャ デバイス用の CSV ファイルを作成できます。



- (注) BAT.xlt ファイルは Cisco Unified Communications Manager サーバの最初のノードに存在しますが、通常はサーバ上に Microsoft Excel がインストールされていません。その場合は、ファイルを最初のノードからコピーして Microsoft Excel がインストールされたローカルマシンに移動します。

手順

- ステップ 1** [Bulk Administration (一括管理)] > [Upload/Download Files (ファイルをアップロード/ダウンロード)] の順に選択します。
[ファイルの検索/一覧表示 (Find and List Files)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [検索 (Find)] をクリックして、BAT.xlt ファイルをダウンロードします。

BAT.xlt を使用したインフラストラクチャ デバイス用 CSV データ ファイルの作成

手順

- ステップ 1** テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成できる BAT.xlt スプレッドシートを開きます。
- ステップ 2** 追加するインフラストラクチャデバイスごとに別々の行を使用して値を入力します。CSV ファイルには、以下をカンマで列挙した列が含まれます。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - IPv4 アドレス
 - IPv6 アドレス
 - BSSID
 - 説明
- ステップ 3** [BAT 形式にエクスポート (Export to BAT Format)] をクリックします。この操作により、[Cisco CallManager 一括管理ツール (Cisco CallManager Bulk Administration Tool)] ポップアップ ウィンドウが表示されます。
- ステップ 4** [OK] をクリックして、ローカルワークステーションに保存される .txt ファイルを作成します。

例 :

C:\XlsDataFiles\Infrastructuredevice-04222015144259.

次のタスク

[一括管理 (Bulk Administration)] > [ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)] を使用して、作成したファイルをアップロードします。

テキストエディタを使用したインフラストラクチャ デバイス用 CSV データ ファイルの作成

メモ帳などのテキストエディタを使用して、インフラストラクチャ デバイス用の CSV テキスト ファイルを作成できます。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** CSV ファイルの先頭行は、「ACCESSPOINT OR SWITCH NAME,IPV4 ADDRESS,IPV6 ADDRESS,BSSID,DESCRIPTION」にする必要があります。
- ステップ 3** 追加するインフラストラクチャデバイスごとに別々の行を使用して値を入力します。CSV ファイルには、以下をカンマで列挙した列が含まれます。
- [デバイス名 (Device Name)]
 - IPv4 アドレス
 - IPv6 アドレス
 - BSSID
 - 説明
- ステップ 4** サンプル CSV データ ファイルを表示するには、[一括管理 (Bulk Administration)]>[インフラストラクチャデバイス (Infrastructure Device)]>[インフラストラクチャデバイスの挿入 (Insert Infrastructure Device)] の順にクリックします。
[インフラストラクチャデバイス設定の挿入 (Insert Infrastructure Device Configuration)] ウィンドウが開きます。
- ステップ 5** [サンプル ファイルの表示 (View Sample File)] をクリックします。

インフラストラクチャ デバイスの挿入

次の手順を使用して、CSV ファイルから データベースにワイヤレス アクセス ポイント インフラストラクチャを一括インポートします。この手順を使用して、Cisco Prime Infrastructure からエクスポートされた CSV ファイルをインポートしたり、またはサードパーティ ワイヤレス アクセス ポイント コントローラからアクセスポイントをインポートしたりできます。

始める前に

次に列挙する列を含む、カンマ区切り値 (CSV) 形式のデータ ファイルが必要です。

- アクセス ポイントまたはスイッチ名
- IPv4 アドレス
- IPv6 アドレス
- BSSID : ワイヤレス アクセス プロトコル (WAP) インフラストラクチャ デバイスの場合に必要
- 説明 : 場所識別子、スイッチ タイプと場所の組み合わせ、または他の意味のある識別子



(注) IPv4 アドレスと IPv6 アドレスの両方を定義することも、どちらか一方だけを定義することもできます。

Meraki アクセスポイントの場合、は、データベース内の基本サービスセット識別子 (BSSID) をそのベース BSSID に正規化した後に更新します。Meraki アクセスポイントの BSSID マスキング計算の詳細については、「[Cisco Meraki BSSID MAC アドレスの計算](#)」を参照してください。

Meraki 以外のアクセスポイントの場合、Unified CM は、最後のバイトを 0 でマスクすることにより、データベース内の BSSID を更新します。

このマスキングロジックにより、Unified CM はアクセスポイントの個々のチャンネルの BSSID ではなく、アクセスポイントを一意に識別できます。

手順

- ステップ 1** [一括管理 (Bulk Administration)] > [インフラストラクチャ デバイス (Infrastructure Device)] > [インフラストラクチャ デバイスの挿入 (Insert Infrastructure Device)] の順に選択します。
[インフラストラクチャ デバイス設定の挿入 (Insert Infrastructure Device Configuration)] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 2** [ファイル名 (File Name)] フィールドで、このトランザクション用に作成した CSV データ ファイルを選択します。
- ステップ 3** [ジョブ情報 (Job Information)] 領域に、ジョブの説明を入力します。
デフォルトの説明は、[インフラストラクチャ デバイスの挿入 (Insert Infrastructure Device)] です。
- ステップ 4** ジョブを実行するタイミングを次のように選択します。
- すぐにジョブを実行する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオ ボタンを選択します。
 - 後でジョブを実行する場合は、[後で実行 (Run Later)] ラジオ ボタンを選択します。
- ステップ 5** [送信 (Submit)] をクリックします。
すぐにジョブを実行するように選択した場合は、ジョブが実行されます。
- ステップ 6** 後でジョブを実行するように選択した場合は、ジョブを実行するタイミングをスケジュールします。
- a) [一括管理 (Bulk Administration)] > [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] を選択します。
 - b) [検索 (Find)] をクリックして、さきほど作成したジョブを選択します。
 - c) [ジョブスケジューラ (Job Scheduler)] ウィンドウで、ジョブを実行するタイミングをスケジュールします。
 - d) [保存 (Save)] をクリックします。

スケジュールされた時刻に、ジョブが実行されます。

インフラストラクチャ デバイス挿入の例

インフラストラクチャ デバイス挿入の例

正しく書式設定されたインフラストラクチャ デバイス エントリの例を以下に示します。

- SFO12-32-AP2,10.77.29.28,FE80::0202:B3FF:FE1E:8330,EC:E1:A9:DA:85:30,SF->Bldg12->3rdFloor
- SFO12-42-AP1,10.77.29.52,,3C:CE:73:56:2A:10,SF->Bldg12->4rdFloor
- NYC01-3560SW1,10.177.34.50,,,NYC->Blgd1->-IDF1
- CHI-3650,10.190.23.33,,,Chicago->1060AddisonSt
- RCDN-AP2,,,AA:17:D8:07:CF:4D,Bldg0-F1



(注) Meraki 以外のアクセスポイントの場合、は、最後のバイトを0でマスクすることにより、データベース内の BSSID を更新します。この BSSID は、個別のワイヤレス ネットワークの ID と同じにしないでください。

「RCDN-AP2,,,AA:17:D8:07:CF:4D,Bldg0-F1」の例は、Meraki 以外のアクセスポイント用です。Meraki アクセスポイントの BSSID マスキング計算の詳細については、[「Cisco Meraki BSSID MAC アドレスの計算」](#)を参照してください。



第 **XXIII** 部

ディレクトリ **URI** とパターンの管理

• [ディレクトリ URI とパターンの管理 \(791 ページ\)](#)



第 81 章

ディレクトリ URI とパターンの管理

この章では、Cisco Unified Communications Manager との間で、ディレクトリ URI、+E.164 パターン、および PSTN フェールオーバールールをインポートおよびエクスポートする方法について説明します。

- [ローカルディレクトリ URI と +E.164 パターンのエクスポート \(791 ページ\)](#)
- [非 ILS システムからのディレクトリ URI およびパターンのインポート \(792 ページ\)](#)
- [Directory URI の形式 \(794 ページ\)](#)

ローカルディレクトリ URI と +E.164 パターンのエクスポート

この手順では、すべてのローカル設定されたディレクトリ URI、+E.164 番号パターン、および関連する PSTN フェールオーバールールを、他のコール制御システムにインポート可能な CSV ファイル形式でエクスポートする方法について説明します。



(注) Cisco Unified Communications Manager は、ローカルクラスタ内で設定されたディレクトリ URI と +E.164 番号パターンのみを CSV ファイルに書き込みます。Cisco Unified Communications Manager には、LDAP ディレクトリからローカルクラスタにインポートされたディレクトリ URI と +E.164 パターンが含まれていますが、ILS を介して学習されたり、サードパーティ URI カタログからインポートされたりしたディレクトリ URI とパターンは含まれません。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ディレクトリ URI とパターン (Directory URIs and Patterns)] > [ローカルディレクトリ URI とパターンのエクスポート (Export Local Directory URIs and Patterns)] の順に選択します。
- ステップ 2** 次のラジオ ボタンのいずれかをクリックして、エクスポート ファイルに付加するドメイン名を定義します。

- [組織の最上位ドメイン (Organizational Top Level Domain)] : エクスポート ファイルのドメイン名として [組織の最上位ドメイン (Organizational Top Level Domain)] エンタープライズ パラメータの値を使用するには、このラジオ ボタンをクリックします。
- [ルート文字列ドメイン (Route String Domain)] : エクスポート ファイルのドメイン名として、[ILS 設定 (ILS Configuration)] で設定された [ルート文字列 (Route String)] フィールドの値を使用する場合には、このラジオ ボタンをクリックします。
- [ユーザ定義ドメイン (User Defined Domain)] : エクスポート ファイルに付加するカスタマイズされたドメイン名を作成するには、このラジオ ボタンをクリックします。

ステップ 3 [ユーザ定義ドメイン (User Defined Domain)] を選択した場合は、[ドメイン名 (Domain Name)] テキスト ボックスにドメイン名を入力します。

ステップ 4 [ローカルディレクトリ URI とパターンのエクスポート (Export Local Directory URIs and Patterns)] ボタンをクリックします。

ステップ 5 CSV ファイルをローカル ドライブに保存します。

非 ILS システムからのディレクトリ URI およびパターンのインポート

ローカルクラスタ上で Intercluster Lookup Service (ILS) を実行している場合、Cisco TelePresence Video Communication Server (VCS) やサードパーティ製コール制御システムなどの ILS を実行していないコール制御システム用の CSV ファイルから (ディレクトリ URI、+E.164 番号パターン、または PSTN フェールオーバー ルールを含む) グローバルダイヤルプラン カタログをインポートするには、次の手順に従います。

この手順を実行するには、ILS ネットワーク内のハブクラスタとして設定されたローカルクラスタ上で Cisco Bulk Provisioning Service が稼働している必要があります。カタログを Cisco Unified Communications Manager にインポートすると、ILS はインポートされたカタログを ILS ネットワーク内の他のクラスタに複製します。



- (注) インポートに使用する CSV ファイルに、ご使用の Cisco Unified Communications Manager バージョンとの互換性があることを確認してください。たとえば、バージョン 9.0(1)へのインポート用に互換性がある CSV ファイルは、バージョン 10.0(1)とは互換性がありません。ご使用のリリース用のサンプル CSV ファイルを表示するには、Cisco Unified CM Administration で、[一括管理 (Bulk Administration)] > [ディレクトリ URI とパターン (Directory URIs and Patterns)] > [ローカルディレクトリ URI とパターンの挿入 (Insert Directory URIs and Patterns)] の順に選択して、[サンプル ファイルの表示 (View Sample File)] をクリックします。



- (注) Cisco Unified CM Administration で、埋め込み二重引用符またはカンマを使用してディレクトリ URI を入力することができます。ただし、埋め込み二重引用符やカンマが付いたディレクトリ URI を含む CSV ファイルをインポートするために一括管理を使用する場合、ディレクトリ URI 全体を二重引用符で囲んで、埋め込み二重引用符を二重引用符でエスケープする必要があります。たとえば Jared, 「Jerry」, Smith@test.com というディレクトリ URI は、CSV ファイルに 「Jared」, 「「Jerry」」, 「Smith@test.com」 として入力する必要があります。

手順

- ステップ 1** Cisco Unified CM Administration で、[**コールルーティング (Call Routing)**] > [**グローバルダイヤル プランレプリケーション (Global Dial Plan Replication)**] > [**インポート済みグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalogs)**] の順に選択します。
- ステップ 2** [名前 (Name)] フィールドに、カタログの名前を入力します。
- ステップ 3** [説明 (Description)] フィールドに、カタログの説明を入力します。
- ステップ 4** [ルート文字列 (Route String)] フィールドに、カタログをインポートしているシステムのルート文字列を作成します。
- ステップ 5** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 6** Cisco Unified CM Administration で、[**一括管理 (Bulk Administration)**] > [**ファイルのアップロード/ダウンロード (Upload/Download Files)**] の順に選択します。
- ステップ 7** [新規追加 (Add New)] をクリックします。
- ステップ 8** [参照 (Browse)] をクリックして、インポートするカタログの CSV ファイルを選択します。
- ステップ 9** [ターゲットの選択 (Select the Target)] ドロップダウンリストボックスから [**インポート済みディレクトリ URI およびパターン (Imported Directory URIs and Patterns)**] を選択します。
- ステップ 10** [トランザクションタイプの選択 (Select Transaction Type)] ドロップダウンリストボックスから [**インポート済みディレクトリ URI およびパターンの挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns)**] を選択します。
- ステップ 11** [保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 12** [Cisco Unified CM の管理 (Cisco Unified CM Administration)] で、[**一括管理 (Bulk Administration)**] > [**ディレクトリ URL とパターン (Directory URIs and Patterns)**] > [**インポートしたディレクトリ URL とパターンを挿入 (Insert Imported Directory URIs and Patterns)**] を選択します。
- ステップ 13** [ファイル名 (File Name)] ドロップダウンリストボックスで、インポートするカタログを含む CSV ファイルを選択します。
- ステップ 14** [インポート済みディレクトリ URI カタログ (Imported Directory URI Catalog)] ドロップダウンリストボックスでは、[**インポート済みグローバルダイヤルプランカタログ (Imported Global Dial Plan Catalog)**] ウィンドウで指定したカタログを選択します。
- ステップ 15** [ジョブ説明 (Job Description)] テキストボックスに、これから実行するジョブの名前を入力します。
- ステップ 16** ジョブを実行するタイミングを選択します。

- すぐにジョブを実行する場合は、[今すぐ実行 (Run Immediately)] ラジオボタンをクリックして、[送信 (Submit)] をクリックします。
 - 指定した時刻にジョブを実行するようにスケジュールする場合は、[後で実行 (Run Later)] ラジオボタンをクリックして、[送信 (Submit)] をクリックします。このオプションを選択した場合、一括管理のジョブスケジューラを使用して、ジョブの実行のタイミングをスケジュールする必要があります。
- (注) Cisco Unified Communications Manager は、インポートされたすべての +E.164 パターンを Global Learned +E.164 Patterns パーティションに保存します。

Directory URI の形式

Directory URI は、@ 記号で区切られたユーザとホストアドレスで構成される英数字の文字列です。Cisco Unified Communications Manager は次のディレクトリ URI の形式をサポートしています。

- user@domain (例: joe@cisco.com)
- user@ip_address (例: joe@10.10.10.1)

Cisco Unified Communications Manager は、Directory URI のユーザ部 (@ 記号の前の部分) で次の形式をサポートしています。

- 使用できる文字は次のとおりです。a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9、!、\$、%、&、*、_、+、~、-、=、\、?、\、'、,、,、,、/。
- ユーザ部分は最大 47 文字までです。
- ユーザ部には、%2[0-9A-F] から %7[0-9A-F] までのパーセントエンコーディングを使用できます。使用できる一部の文字に関しては、Unified CM が自動的にパーセントエンコーディングを適用します。パーセントエンコーディングの詳細については、次の項を参照してください。
- URI ルックアップポリシーのエンタープライズパラメータの値に応じて、ユーザ部で大文字と小文字が区別されるか、区別されないかが決まります。デフォルトでは、大文字と小文字が区別されます。

Cisco Unified Communications Manager は、ディレクトリ URI のホスト部分 (@ 記号の後の部分) で次の形式をサポートしています。

- IPv4 アドレスまたは完全修飾ドメイン名をサポートします。
- 有効な文字は、a ~ z、A ~ Z、0 ~ 9、ハイフン、およびドットです。
- ホスト部の先頭と末尾にはハイフンを使用できません。
- ホスト部には 2 つのドットを連続して使用できません。

- 最低 2 文字必要です。
- ホスト部では、大文字と小文字は区別されません。

データベースの制約により、Directory URI フィールドの長さは最大 254 文字です。



(注) Directory URI のユーザ部に電話番号を入力することもできます。ただし、SIP プロファイル用に選択した [ダイヤル文字列の解釈 (Dial String Interpretation)] オプションによっては、Cisco Unified Communications Manager が Directory URI を電話番号として扱う場合があります。



(注) サードパーティ コール制御システムとの互換性を保つため、URI ルックアップ ポリシーのエントラプライズパラメータの値を大文字と小文字の区別なしに設定することをお勧めします。

Directory URI のパーセント エンコーディング

Directory URI がデータベースに保存される際、この Directory URI のユーザ部に含まれる次の文字に対して、Unified CM は自動的にパーセント エンコーディングを適用します。

#% ^ ` { } | \ : " < > [] \ ' およびスペース

パーセント エンコーディングが適用されると、この Directory URI の桁数が増えます。たとえば、Directory URI として joe smith#@cisco.com (20 文字) と入力した場合、Cisco Unified Communications Manager はこの Directory URI を joe%20smith%23@cisco.com (24 文字) としてデータベースに保存します。データベースの制約により、Cisco Unified Communications Manager は 254 文字を超過する Directory URI を保存しようとする試行をすべて拒否します。

一括管理する場合の Directory URI 形式の例外

Cisco Unified CM の管理ページで、二重引用符またはコンマが組み込まれた複数の URI を入力できます。ただし、一括管理を使用して、二重引用符およびコンマが組み込まれた複数のディレクトリ URI が含まれている CSV ファイルをインポートする場合は、ディレクトリ URI 全体を引用符で囲み、組み込まれた引用符を引用符でエスケープする必要があります。たとえば、「Jared, "Jerry", Smith@test.com」というディレクトリ URI は、CSV ファイルでは「"Jared, ""Jerry"", Smith@test.com"」と入力する必要があります。



付録 **A**

テキストベースの CSV ファイル

Unified Communications Manager 一括管理 (BAT) では、カンマ区切り値 (CSV) ファイル形式で入力されたデータを使用して、最初のノードサーバー上の Unified Communications Manager データベースへの挿入トランザクション用に情報を提供します。CSV データ形式を使用することで、データ レコードを表形式で格納したテキストファイルを作成できます。

CSV データファイルは、Notepad++ などのテキストエディタを使用して作成できます。レコードごとに別個の行を使用してデータを入力する必要があります。各データフィールドをカンマで区切り、空白のフィールドにもカンマ区切り文字を指定します。CSV ファイルに空白の行を入力すると、挿入トランザクション中にエラーが発生するため、データファイルのすべての行にデータを入力してください。

Unified Communications Manager データベースにデータレコードを挿入するとき、BAT は、最初のノードデータベースを実行しているサーバー上に存在する一連の指定されたフォルダにアクセスします。BAT がトランザクション用の該当する CSV データファイルにアクセスできるようにするには、CSV データファイルを Unified Communications Manager の最初のノードデータベース サーバにアップロードする必要があります。



(注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウン リストから [バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

- [電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(798 ページ\)](#)
- [テキストベースの CSV ユーザファイルの作成 \(804 ページ\)](#)
- [ユーザファイル形式 \(805 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(807 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタントの関連付け用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(811 ページ\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(813 ページ\)](#)
- [Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(816 ページ\)](#)

- Cisco VG310 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (817 ページ)
- VG320 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (819 ページ)
- VG350 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (821 ページ)
- VG410 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (822 ページ)
- VG420 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (823 ページ)
- VG450 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (824 ページ)
- ISR 4461 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (826 ページ)
- Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (827 ページ)
- Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート ファイル形式 (828 ページ)
- Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (829 ページ)
- クライアント識別コードおよび強制承認コード用のカスタムのテキストベースの CSV ファイルの作成 (830 ページ)
- コール ピックアップ グループ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (834 ページ)
- リモート接続先プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (836 ページ)
- 電話移行用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (837 ページ)
- IME 信頼要素設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (838 ページ)
- IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (839 ページ)
- IME 登録グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (840 ページ)
- IME 除外グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (842 ページ)
- フォールバック プロファイル設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (843 ページ)
- エンド ユーザ CAPF プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (844 ページ)
- モビリティ プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (846 ページ)
- インフラストラクチャデバイス用のテキストベースの CSV ファイルの作成 (847 ページ)
- 関連項目 (848 ページ)

電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキスト エディタを使用して、電話機用、IP テレフォニー デバイス用、およびユーザの組み合わせ用の CSV テキスト ファイルを作成できます。

電話機を追加するとき、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成して使用できます。CSV データ ファイル形式は、電話機のタイプによって異なります。CSV テキスト ファイルに適切な電話機ファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8形式ではASCII文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、 からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** に追加するそれぞれの電話機、IP テレフォニー デバイス、またはユーザーの組み合わせごとに、別個の行を使って値を入力します。デバイスのタイプごとに別々の CSV ファイルを作成する必要があります。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
- フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。
 - 電話機がユーザに関連付けられる場合は、ユーザ ID を指定します。
 - 電話番号フィールドは、回線を含まない BAT テンプレートで使用する CSV ファイルを作成する場合でのみ、省略可能です。BAT 電話機テンプレートで回線が設定されている場合は、デバイスごとに CSV ファイルで電話番号を指定する必要があります。
 - 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。
 - CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードに CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[電話用 CSV データ ファイル形式](#) (800 ページ)

[すべての電話の詳細のフィールドのエクスポート オプション](#) (802 ページ)

[電話用 CSV ファイルの例](#) (803 ページ)

電話用 CSV データ ファイル形式

電話のタイプごとに、必要なデータ形式が異なります。電話ファイル形式でオプションとしてラベルされているフィールドが、特定の条件が満たされると必須フィールドになることに注意してください。

関連トピック

[ユーザ付き電話機ファイル形式 \(800 ページ\)](#)

[CTI ポート/H.323 クライアント ファイル形式 \(800 ページ\)](#)

[CTI ポート-ユーザおよび H.323 クライアント-ユーザの結合ファイル形式 \(801 ページ\)](#)

ユーザ付き電話機ファイル形式

次の例は、電話機と固定ユーザ形式のテキストベースの CSV ファイルについて、フィールドの長さ、およびフィールドがオプションまたは必須のいずれかを示しています。

First Name (Optional, up to 64 characters), Last Name (Mandatory, 1 to 64 characters), User ID (Mandatory, 1 to 128 characters), Password (Optional, up to 128 characters), Manager User ID (Optional, up to 128 characters, must use the ID that exists in global directory), Department (Optional, up to 64 characters), PIN (Optional, up to 20 numerals), Default Profile (Optional, up to 50 characters), User Locale (Optional, up to 50 characters), Telephone Number (Optional, up to 20 numerals), Primary Extension (Optional, up to 50 numerals), Associated PC (Optional, up to 50 characters), ICD Extension (Optional, up to 50 numerals), Mail ID (Optional, up to 255 characters), Presence Group (Optional, up to 50 characters), Subscribe Calling Search Space (Optional, up to 50 characters), MAC Address (Mandatory, up to 12 characters), Description (Optional, up to 50 characters), Location (Optional, up to 50 characters), Directory Number (Optional, up to 24 numerals and special characters), Display (Optional, up to 30 characters), Line Text Label (Optional, up to 30 characters), Forward Busy External (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Answer External (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Coverage External (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward Busy Internal (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Answer Internal (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Coverage Internal (Optional, up to 50 numerals and special characters), Call Pickup Group (Optional, up to 50 characters), Speed Dial (Optional, up to 50 numerals and special characters), Speed Dial Label (Optional, up to 30 characters)

例

```
John,Smith,johns,abcde,Daviss,12,12345,johnProfile,English United
States,1,1231123245AB,Dallas,
9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557112,
9725557127,9725557158,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

CTI ポート/H.323 クライアント ファイル形式

次の例では、CTI ポートおよび H.323 クライアント形式のテキストベースの CSV ファイルについて、フィールドの長さ、およびフィールドがオプションか必須かを示しています。

Device Name (Mandatory, up to 15 characters for CTI ports and up to 50 characters for H.323 Clients), Description (Optional, up to 50 characters) Location (Optional, up to 50 characters), UserID (Optional, 1 to 30 characters), Directory Number (Optional, up to 24 numerals and special characters), Display (Optional, up to 30 characters), Line Text Label (Optional, up to 30 characters), Forward Busy External (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Answer External (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Coverage External (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward Busy Internal (Optional, up to 50 numerals and special characters),

Forward No Answer Internal (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Coverage Internal (Optional, up to 50 numerals and special characters), Call Pickup Group (Optional, up to 50/50 characters)

例

```
TAPS Port 1,CTI TAPS Port 1,Dallas,johns,9728437154,9728437154,
Mike,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,
9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

CTI ポート-ユーザおよび H.323 クライアント-ユーザの結合ファイル形式

次の例では、CTI ポートとユーザ形式、および H.323 クライアントとユーザ形式のテキストベースの CSV ファイルについて、フィールドの長さ、およびフィールドがオプションか必須かを示しています。

First Name (Optional, up to 64 characters), Last Name (Mandatory, 1 to 64 characters), User ID (Mandatory, 1-128 characters), Password (Optional, up to 128 characters), Manager User ID (Optional, up to 128 characters, must use existing ID in global directory), Department (Optional, up to 64 characters), PIN (Optional, up to 128 numerals), Default Profile (Optional, up to 50 characters), User Locale (Optional, up to 50 characters), Telephone Number (Optional, up to 64 numerals), Primary Extension (Optional, up to 50 numerals), Associated PC (Optional, up to 50 characters), ICD Extension (Optional, up to 50 numerals), Mail ID (Optional, up to 255 characters), Presence Group (Optional, up to 50 characters), Subscribe Calling Search Space (Optional, up to 50 characters), Device Name (Mandatory, up to 15 characters for CTI ports-users combination and up to 50 characters for H.323client-users combinations), Description (Optional, up to 50 characters), Location (Optional, up to 50 characters), Directory Number (Optional, up to 24 numerals and special characters), Display (Optional, up to 30 characters), Line Text Label (Optional, up to 30 characters), Forward Busy External (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Answer External (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Coverage External (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward Busy Internal (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Answer Internal (Optional, up to 50 numerals and special characters), Forward No Coverage Internal (Optional, up to 50 numerals and special characters), Call Pickup Group (Optional, up to 50 characters)

例

```
John,Smith,johns,abcde,Daviss,12,12345,JohnProfile,English United States,1,TAPS Port
1,CTI
TAPS Port
1,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557112,9725557127,9725557158,
9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```



- (注) フィールドのいずれかの値の一部にカンマや二重引用符を使用する場合は、そのテキスト値全体を二重引用符で囲み、それが単一の値であることを明示する必要があります。

たとえば、John, Bill をテキスト値として入力する場合は、この値を 「John,Bill」 として入力する必要があります。

二重引用符を値の中で使用する場合は、その二重引用符の代わりに、二重引用符を2つ続けて使用し、値全体を二重引用符で囲む必要があります。たとえば、John 「Chiefは「John」 「Chief」 として入力する必要があります。

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

すべての電話の詳細のフィールドのエクスポートオプション

エクスポートユーティリティを使用して、電話機レコードのすべての詳細情報が含まれているファイルを作成する場合、エクスポートファイルの形式は次のようになります。



注意 エクスポートユーティリティで生成されたファイルを編集することは推奨されません。システムにより動的に生成されるログアウト時刻やログイン時刻などのフィールドは、編集してはなりません。[ログインユーザ ID (Login User ID)] フィールドと [製品固有の XML (Product Specific XML)] フィールドが適切に機能するために、これらのフィールドの内容が正しいことを確認してください。また、これらのフィールドは編集しないでください。製品固有の設定を更新するには、BAT を使用してください。

Device Name,Description,Device Pool,Phone Template,CSS,AAR CSS,Location,Extension Mobility,Network Locale,Media Resource Group List,User Hold Audio Source,Network Hold Audio Source,Device User Locale,Signal Packet Capture Mode,Packet Capture Duration,Built in Bridge,Privacy,Retry Video Call as Audio,Ignore Presentation Indicators,Softkey Template,Module 1,Module 2,Phone Load Name,Module 1 Load Name,Module 2 Load Name,Information,Directory,Messages,Services,Authentication Server,Proxy Server,Idle,Idle Timer,MLPP Indication,MLPP Preemption,MLPP Domain,Device Type,User ID,Common Profile,Owner User ID,Allow CTI Control Flag,Device Presence Group,Security Profile,Device Subscribe CSS,Unattended Port,Require DTMF Reception,RFC2833 Disabled,Certificate Operation,Authentication String,Certification Operation Completion Time,Device Protocol,Secure Shell User,Secure Shell Password,XML,Dial Rules,CSS Reroute,CSS Refer,DTMF Signalling,Default DTMF Capability,SIP Profile,SIPCodec_MTPPPreferredOrigCodec,Logout Profile,MTP Required,Digest User,Always Use Prime Line,Always Use Prime Line for Voice Messages,Geo Location

Directory Number,Partition,Voice Mail Profile,Line CSS,AAR Group,Line User Hold Audio Source,Line Network Hold Audio Source,Auto Answer,Forward All Voice Mail,Forward All Destination,Forward All CSS,Forward Busy Internal Voice Mail,Forward Busy Internal Destination,Forward Busy Internal CSS,Forward Busy External Voice Mail,Forward Busy External Destination,Forward Busy External CSS,Forward No Answer Internal Voice Mail,Forward No Answer Internal Destination,Forward No Answer Internal CSS,Forward No Answer External Voice Mail,Forward No Answer External Destination,Forward No Answer External CSS,Forward No Coverage Internal Voice Mail,Forward No Coverage Internal Destination,Forward No Coverage Internal CSS,Forward No Coverage External Voice Mail,Forward No Coverage External Destination,Forward No Coverage External CSS,Forward No Answer Ring Duration,Call Pickup Group,MLPP Target,MLPP CSS,MLPP No Answer Ring Duration,Line Text Label,External Phone Number Mask,Maximum Number of Calls,Busy Trigger,Message Waiting Lamp Policy,Ring setting (Phone Idle),Ring Setting (Phone Active),Caller Name,Caller Number,Redirected Number,Dialed Number,Line Description,Alerting Name,Alerting Name ASCII,Line Presence Group,Secondary CSS for Forward All,Forward on CTI Failure Voice Mail,Forward on CTI Failure Destination,Forward on CTI Failure CSS,Display,ASCII DisplayParty Entrance Tone,Log Missed Calls,Park Monitor Forward No Retrieve Ext Voice Mail,Park Monitor Forward No Retrieve Int Voice Mail,Park Monitor Forward No Retrieve Ext CSS,Park Monitor Forward No Retrieve Int CSS,Park Monitor Forward No Retrieve Ext Destination,Park Monitor Forward No Retrieve Int Destination,Park Monitor Reversion Timer

Speed Dial Number,Speed Dial Label,Speed Dial Label ASCII,Service Name,Subscribed Service Name,Subscribed Service Name ASCII,Parameter Name,Parameter Value,Busy Lamp Field Destination,Busy Lamp Field Directory Number,Busy Lamp Field Label,Busy Lamp Field Label ASCII

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

電話用 CSV ファイルの例

次に、一般的に使用される電話用 CSV データ ファイルの例を示します。

テンプレート属性 ([話中転送の接続先 (Forward Busy Destination)]) の使用

電話テンプレートの [話中転送の接続先 (Forward Busy Destination)] が 3001 である場合、[話中転送の接続先 (Forward Busy Destination)] に値が指定されていない CSV ファイルのすべてのレコードは 3001 を使用します。

```
1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

電話の説明に入力がない

電話の説明が空白の場合、次の形式を使用します。

```
1231123245AB,,Dallas,johns,9728437154,9728437154,Mike,9728437172,9728437196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9728437121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

アクティブ回線またはロケーションの入力がない

アクティブ回線が必要なく、ロケーションが空白の場合は、次の形式を使用します。

```
1231123245AB,SEP1231123245AB,,,1230000000,HelpDesk
```

2つのアクティブ回線

2つのアクティブ回線を必要とする場合は、次の形式を使用します。

```
1231123245AB,SEP1231123245AB,Dallas,johns,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9725557121/TollByPass,9725557155,9725557155,Kelvin,9725557133,9725557196,9728437112,9728437145,9728437187,9728437198,9725557112/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```



(注) MAC アドレスについては、MAC アドレスの値を入力するか、ダミー MAC アドレスを作成するオプションをオンにします。

必須の電話の入力

1つの回線が必須で、必須の値のみを含め、オプションの値は含めない場合、次の形式を使用します。

```
1231123245AB,,,,,9725557154,,,,,
```

ダミー MAC アドレスを使用するオプション

ダミー MAC アドレスに関するオプションがオンにされ、1つの回線を使用する場合、次の形式を使用します。

```
,Dallas,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9728437127,9728437154,9728437178,9728437189,9725557121/TollByPass,johns,1230000000,Helpdesk
```

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

テキストベースの CSV ユーザ ファイルの作成

Notepad++ などのテキスト エディタを使用して、ユーザ用の CSV テキスト ファイルを作成できます。

ユーザを追加するとき、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ユーザ CSV テキスト ファイル用のユーザ ファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキスト エディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウン リストから [バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成できるアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ユーザごとに別々の行を使用して、Cisco Unified Communications Manager に追加する各ユーザの値を入力します。

レコードの最後にカンマで区切ったすべてのデバイスのデバイス名を付加することにより、任意の数の既存のデバイスを新しいユーザに関連付けることができます。

ユーザがデバイスを管理していない場合でも、電話番号をユーザに関連付けることができます。

- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。

ステップ 3 CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

[ユーザ ファイル形式](#) (805 ページ)

ユーザ ファイル形式



ヒント CSV ファイルで、またはファイルを挿入するために BAT を使用するとき、PIN およびパスワードの値を指定する必要があります。ユーザまたはユーザ グループごとの個別の PIN またはパスワードを適用する場合、CSV ファイルで PIN およびパスワードの情報を指定します。すべてのユーザが使用できるデフォルトの PIN およびパスワードを使用する場合は、CSV ファイルで PIN やパスワードの値は指定しません。その代わりに、BAT を使用して Cisco Unified Communications Manager に CSV ファイルを挿入するとき、この情報を指定します。

次のサンプル形式では、ユーザのテキストベースの CSV ファイルについて、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示しています。

First Name (Optional, up to 64 characters), Last Name (Mandatory, 1 to 64 characters), User ID (Mandatory, up to 128 characters), Manager User ID (Optional, up to 128 characters, must use existing ID in global directory), Department (Optional, up to 64 characters), PIN (Optional, up to 128 numerals), Default Profile (Optional, up to 50 characters), User Locale (Optional, up to 50 characters), Telephone Number (Optional, up to 64 numerals), Primary Extension (Optional, up to 50 numerals), Associated PC (Optional, up to 50 characters), ICD Extension (Optional, up to 50 numerals), Mail ID (Optional, up to 255 characters), Presence Group (Optional, up to 50 characters), Subscribe Calling Search Space (Optional, up to 50 characters).

例

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns_profile,English  
United States,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234
```

フィールドが空白でも、区切り文字を指定する必要があります。CSV ファイルの作成時には、次の例およびサンプル CSV レコードを参照してください。

例 1

ユーザのマネージャが空欄の場合は、次の形式を使用します。

```
John,Smith,johns,abc123de,,0012055,9989,johns profile,English United States,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234
```

例 2

必須フィールドのみに入力したい場合は、次の形式を使用します。

```
Smith,johns,,,,,,,,,
```

例 3

必須フィールドのみに入力し、ユーザを電話に関連付ける場合は、次の形式を使用します。

```
Smith,johns,,,,,,,,,SEP1231123245AB,
```

例 4

ユーザは、複数のデバイスを制御できます。追加のデバイス名を、レコードの末尾に追加できます。

- そのユーザが 1 つのデバイスのみを制御する場合は、次の形式を使用します。

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English United States,SEP1231123245AB,9725557154
```

- そのユーザが 3 つのデバイスを制御する場合は、次の形式を使用します。

```
John,Smith,johns,abc123de,karend,0012055,9989,johns profile,English UnitedStates,SEP1231123245AB,9725557154,SEP0010EB001234,SEP0010EB432101
```

ユーザ ファイル形式の更新

テキスト エディタを使用して、ユーザを更新するための CSV テキスト ファイルを作成します。最初のノードサーバに、ファイルをアップロードします。

レコードを更新する際に、ファイルのすべての必須フィールドを指定する必要があります。オプション フィールドに値を格納していた場合に、空白のオプション フィールドでレコードを更新すると、それらの値は空白にリセットされます。それでも更新時に、以前に格納した値を保持することができます。

次のサンプル形式には、フィールド長と文字列の種類が示されています。その後には、ユーザを更新するための CSV ファイルの例が示されています。

```
User ID (Mandatory, 1 to 128 characters), Password (Optional, up to 128 characters), Manager (Optional, up to 128 characters, must use existing ID in global directory), Department (Optional, up to 64 characters), PIN (Optional, up to 128 numerals), Default Profile (Optional, up to 50 characters), User Locale (Optional, up to 50 characters), Telephone Number (Optional, up to 64 numerals), Primary Extension (Optional, up to 50 numerals), Associated PC (Optional, up to 50 characters), ICD Extension (Optional, up to 50 numerals), Mail ID (Optional, up to 255 characters).
```

例

```
johns,Daviss,123,johnProfile,English United States,SEP8612113425AC,9725557154
```



- (注) フィールドが空白でも、区切り文字を指定する必要があります。CSV ファイルの作成時には、次の例およびサンプル CSV レコードを参照してください。

例 1

ユーザのマネージャが空欄の場合は、次の形式を使用します。

```
johns,,123,johnProfile,English United States,SEP8612113425AC,9725557154
```

例 3

必須フィールドには、次のフィールドが含まれます。

```
John,Daviss,123,johnProfile,,,
```

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

[更新中の既存のユーザ情報の保持](#) (274 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキストエディタを使用して、ユーザ デバイス プロファイル用の CSV テキスト ファイルを作成できます。

ユーザ デバイス プロファイルを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。CSV テキスト ファイルにはユーザ デバイス プロファイルのファイル形式を使用する必要があります。



- (注) フィールドのいずれかで文字列の一部としてカンマまたは二重引用符を使用する場合、二重引用符でテキスト文字列全体を囲む必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウン リストから [バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

-
- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** Cisco Unified Communications Manager に追加する各ユーザ デバイス プロファイルに関する値を、ユーザ デバイス プロファイルごとに別々の行を使用して入力します。
- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。
-

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード サーバにアップロードします。

関連トピック

- [IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(839 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式 \(808 ページ\)](#)

ユーザ デバイス プロファイルのファイル形式

次のサンプル形式ではフィールド長と文字列の種類を示し、その後にユーザ デバイス プロファイル用の CSV ファイルの例を示します。

```
Device Profile Name(Mandatory, 1 to 50 characters),Description(Optional, 1 to 50
characters),Login UserID (Optional, 4 to 30 characters),Directory Number(Optional, up
to 24 numerals and special characters),Display(Optional, for internal Caller ID, up to
30 characters),Line Text Label(Optional, up to 30 characters),Forward Busy External
Destination(Optional, up to 50 numerals),Forward No Answer External Destination(Optional,
up to 50 numerals),Forward No Coverage External(Optional, up to 50 numerals),Forward
Busy Internal Destination(Optional, up to 50 numerals),Forward No Answer Internal
Destination(Optional, up to 50 numerals),Forward No Coverage Internal(Optional, up to
50 numerals),Call Pickup Group(Optional, up to 50/50 characters),Speed Dial
Number(Optional, up to 50 numerals),Speed Dial Label(optional, up to 30 characters)
```

例

```
John Profile,John's Profile,Johns,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,
9725557126,9725557154,9725557178,9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

例 1

フィールドが空白でも、区切り文字を指定する必要があります。次の例は、Display 設定値を指定しない場合の正しい形式を示しています。

```
John Profile,John's
Profile,Johns,9725557154,,Mike,9725557172,9725557196,9725557126,9725557154,9725557178,
9725557189,9725557121/TollByPass,1230000000,Helpdesk
```

例 2

0行のプロファイルを作成し、必須のフィールドのみを追加する場合は、次の例を使用します。

```
John Profile,,,,
```

例 3

必須のフィールドのみを入力し、ユーザ デバイス プロファイルを1つの電話番号のみに関連付ける場合は、次の形式を使用します。

```
John Profile,,,9725557154,,,,
```

2つの回線と2つの短縮ダイヤルを含むユーザ デバイス プロファイル

次の形式の例には、2つの回線を含むユーザ デバイス プロファイルの CSV ファイルのフィールドの長さや文字列の種類が示されています。

```
User Device Profile Name(Mandatory, 1 to 50 characters),Description(Optional, 1 to 50
characters),Login UserID (Optional, 4 to 30 characters),Directory Number1(Optional, up
to 24 numerals and special characters),Display1(Optional, for internal Caller ID, up to
30 characters),Line Text Label1(Optional, up to 30 characters),Forward Busy External
Destination1(Optional, up to 50 numerals),Forward No Answer External Destination1(Optional,
up to 50 numerals),Forward No Coverage External Destination1(Optional, up to 50
numerals),Forward Busy Internal Destination1(Optional, up to 50 numerals),Forward No
Answer Internal Destination1(Optional, up to 50 numerals),Forward No Coverage Internal
Destination1(Optional, up to 50 numerals),Call Pickup Group1(Optional, up to 50/50
characters),Directory Number2(Optional, up to 24 numerals and special
characters),Display2(Optional, for internal Caller ID, up to 30 characters),Line Text
Label2(Optional, up to 30 characters),Forward Busy External Destination2(Optional, up
to 50 numerals),Forward No Answer External Destination2(Optional, up to 50
numerals),Forward No Coverage External Destination2(Optional, up to 50 numerals),Forward
Busy Internal Destination2(Optional, up to 50 numerals),Forward No Answer Internal
Destination2(Optional, up to 50 numerals),Forward No Coverage Internal
Destination2(Optional, up to 50 numerals),Call Pickup Group2(Optional, up to 50/50
characters),Speed Dial Number1(Optional, up to 50 numerals),Speed Dial Label1(optional,
up to 30 characters),Speed Dial Number2(Optional, up to 50 numerals),Speed Dial
Label2(optional, up to 30 characters)
```

例

```
John Profile,John's
Profile,John's,9725557154,9725557154,Mike,9725557172,9725557196,9725557126,9725557154,
9725557178,9725557189,9725557121/TollByPass,9725557155,9725557155,Kelvin,9725557133,9725557196,
9725557113,9725557145,9725557187,9725557198,9725557112/TollByPass,1230000000,Helpdesk,
2149523460,Keith
```

ユーザ デバイス プロファイルのエクスポート ファイルのフィールド (すべての詳細オプションを使用)

エクスポートユーティリティを使用して、ユーザ デバイス プロファイルのすべての詳細を含むファイルを生成すると、エクスポートファイルの形式は次のようになります。この例は、すべての詳細を含むエクスポート ファイル内のフィールドの長さの種類を示しています。

エクスポートユーティリティは、ユーザ デバイス プロファイルに関するモデル固有のフィールドを生成しません。



注意 エクスポートユーティリティで生成されたファイルを編集することは推奨されません。いくつかのフィールド (ログアウト時間やログイン時間など) がシステムで動的に生成されますが、これらを決して編集しないでください。ログインユーザ ID フィールドと製品固有の XML フィールドが正常に機能するには、これらのフィールドが正確である必要があります、これらを編集してはなりません。製品固有の設定を更新するには、BAT を使用してください。

Device Profile Name,Description,Device Pool,Phone Template,CSS,AAR CSS,Location,Extension Mobility,Network Locale,Media Resource Group List,User Hold Audio Source,Network Hold Audio Source,Device User Locale,Signal Packet Capture Mode,Packet Capture Duration,Built in Bridge,Privacy,Retry Video Call as Audio,Ignore Presentation Indicators,Softkey Template,Module 1,Module 2,Phone Load Name,Module 1 Load Name,Module 2 Load Name,Information,Directory,Messages,Services,Authentication Server,Proxy Server,Idle,Idle Timer,MLPP Indication,MLPP Preemption,MLPP Domain,Device Type,User ID,Common Profile,Owner User ID,Allow CTI Control Flag,Device Presence Group,Security Profile,Device Subscribe CSS,Unattended Port,Require DTMF Reception,RFC2833 Disabled,Certificate Operation,Authentication String,Certification Operation Completion Time,Device Protocol,Secure Shell User,Secure Shell Password,XML,Dial Rules,CSS Reroute,CSS Refer,DTMF Signalling,Default DTMF Capability,SIP Profile,SIPCodec_MTPPreferredOrigCodec,Logout Profile,MTP Required,Digest User,Always Use Prime Line,Always Use Prime Line for Voice Message

Directory Number,Partition,Voice Mail Profile,Line CSS,AAR Group,Line User Hold Audio Source,Line Network Hold Audio Source,Auto Answer,Forward All Voice Mail,Forward All Destination,Forward All CSS,Forward Busy Internal Voice Mail,Forward Busy Internal Destination,Forward Busy Internal CSS,Forward Busy External Voice Mail,Forward Busy External Destination,Forward Busy External CSS,Forward No Answer Internal Voice Mail,Forward No Answer Internal Destination,Forward No Answer Internal CSS,Forward No Answer External Voice Mail,Forward No Answer External Destination,Forward No Answer External CSS,Forward No Coverage Internal Voice Mail,Forward No Coverage Internal Destination,Forward No Coverage Internal CSS,Forward No Coverage External Voice Mail,Forward No Coverage External Destination,Forward No Coverage External CSS,Forward No Answer Ring Duration,Call Pickup Group,MLPP Target,MLPP CSS,MLPP No Answer Ring Duration,Line Text Label,External Phone Number Mask,Maximum Number of Calls,Busy Trigger,Message Waiting Lamp Policy,Ring setting (Phone Idle),Ring Setting (Phone Active),Caller Name,Caller Number,Redirected Number,Dialed Number,Line Description,Alerting Name,Alerting Name ASCII,Line Presence Group,Secondary CSS for Forward All,Forward on CTI Failure Voice Mail,Forward on CTI Failure Destination,Forward on CTI Failure CSS,Display,ASCII Display,Party Entrance Tone,Log Missed Calls,Park Monitor Forward No Retrieve Ext Voice Mail,Park Monitor Forward No Retrieve Int Voice Mail,Park Monitor Forward No Retrieve Ext CSS,Park Monitor Forward No Retrieve Int CSS,Park Monitor Forward No Retrieve Ext Destination,Park Monitor Forward No Retrieve Int Destination,Park Monitor Reversion Timer

Speed Dial Number,Speed Dial Label,Speed Dial Label ASCII,Service Name,Subscribed Service Name,Subscribed Service Name ASCII,Parameter Name,Parameter Value,Busy Lamp Field

Destination, Busy Lamp Field Directory Number, Busy Lamp Field Label, Busy Lamp Field Label
ASCII



(注) ブール値を使用する設定には True と False を使用してください。

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(839 ページ\)](#)

Cisco Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタントの関連付け用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキストエディタを使用して、Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタント用の CSV テキストファイルを作成できます。

Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタントを追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。CSV テキストファイルにはマネージャおよびアシスタントのファイル形式を使用する必要があります。



(注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

ステップ 1 テキストエディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。

ステップ 2 Cisco Unified Communications Manager に追加する各マネージャおよびアシスタントの値を、マネージャおよびアシスタントの関連付けごとに別々の行を使用して入力します。

(注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。

レコードの最後に、マネージャおよびアシスタントのユーザ ID をカンマで区切って入力することによって、複数のアシスタントをマネージャに割り当てることができます。

ステップ 3 CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード サーバにアップロードします。

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

[マネージャおよびアシスタントのファイル形式](#) (812 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

マネージャおよびアシスタントのファイル形式

次のサンプル形式と例は、Unified Communications Manager Assistant におけるマネージャとアシスタントの関連付けのフィールド長とストリングタイプを示します。[マネージャID (Manager ID)] にはマネージャのユーザID を使用し、[アシスタントID (Assistant ID)] にはアシスタントのユーザID を使用します。多数のマネージャを 1 人のアシスタントに関連付けるには、最初に [アシスタント ID (Assistant ID)] を指定し、その後 [マネージャ ID (Manager ID)] のリストを指定します。CSV ファイルを挿入するときには、関連付けのタイプを選択します。

デフォルトのマネージャ - アシスタント関連付け

マネージャ - アシスタント関連付けには次のデフォルトの形式を使用します。

```
ManagerID (Mandatory, 1 to 30 characters),AssistantID 1 (Mandatory, 1 to 30
characters),AssistantID 2 (Optional, 1 to 30 characters)...AssistantID # (Optional, 1
to 30 characters)
```

例

```
Johns, Mikeh, Larryh
```

デフォルトのアシスタント - マネージャ関連付け

アシスタント - マネージャ関連付けには次のデフォルトの形式を使用します。

```
AssistantID (Mandatory, 1 to 30 characters),ManagerID 1 (Mandatory, 1 to 30
characters),ManagerID 2 (Optional, 1 to 30 characters)...ManagerID # (Optional, 1 to 30
characters)
```

例

```
Larryh, Johns, Mikeb, Karend
```

カスタム マネージャ-アシスタント関連付け

プロキシ回線の設定では、このフォーマットを使用して、アシスタント電話にプロキシ回線を指定する CSV データ ファイルを作成できます。

ManagerID (Mandatory, 1 to 30 characters), Device Name (Optional, 15 characters), Intercom DN (Optional, 1 to 24 characters), Assistant User ID (Mandatory, 1 to 30 characters), Device Name (Optional, 15 characters), Intercom DN (Optional, 1 to 24 characters), Proxy Line DN (Mandatory, 1 to 24 characters), Manager Line DN (Mandatory, 1 to 24 characters)

例

Johns, SEP1231123245AB, 90001, Mikeh, SEP2342342342AB, 20001, 20002, 90002

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキスト エディタを使用して、VG200 ゲートウェイ用の CSV テキスト ファイルを作成できます。

Cisco VG200 ゲートウェイを追加する場合、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのトランクおよびポートのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキスト エディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウン リストから [バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成できるアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに個別の行を使用して、Cisco Unified Communications Manager に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。

(注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。

ステップ 3 CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノード サーバにアップロードします。

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

[FXO または FXS トランク用 CSV ファイル形式](#) (814 ページ)

[T1 CAS T1 PRI または E1 PRI トランク ファイル形式](#) (815 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

FXO または FXS トランク用 CSV ファイル形式

次のサンプル形式に、必須フィールドの長さや文字列のタイプを示します。その後、Cisco VG200 ゲートウェイ用の CSV ファイルの例を示します。

MGCP Domain Name (Mandatory, 1 to 64 characters), Description (Optional, up to 100 characters), Slot (Mandatory, up to 3 numerals), Subunit (Mandatory, up to 3 numerals), Port Number (Mandatory, up to 3 numerals), Port Description (Optional, up to 50 characters), Port Directory Number (Optional, up to 24 numerals and special characters)

例

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 0, 1, 0, Port 0, 97255576601MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 0, 1, 1, Port 1, 97255572001
```



(注) フィールドが空白でも、カンマ区切り文字を指定する必要があります。電話番号とルートパーティションを指定するのは、Cisco VG200 ゲートウェイ テンプレートのポートタイプが POTS の場合だけです。

例 1

Cisco VG200 ゲートウェイの説明が空白の場合は、次の形式を使用します。

```
MGCPTest, , 0, 1, 0, Port 0, 97255576601
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

T1 CAS T1 PRI または E1 PRI トランク ファイル形式

次のサンプル形式では、必要なフィールドの長さや文字列の種類を示し、さらに Cisco VG200 ゲートウェイ用の CSV ファイルの例を示します。

T1 CAS トランク

MGCP Domain Name (Mandatory, 1 to 64 characters), Description (Optional, up to 100 characters), Slot (Mandatory, up to 3 numerals), Subunit (Mandatory, up to 3 numerals), Port Number (Mandatory, up to 3 numerals), Port Description (Optional, up to 50 characters), CAS Port Number (Optional, up to 3 numerals)

サンプル 1

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 001, 001, 001, , ,
```

T1 PRI または E1 PRI

MGCP Domain Name (Mandatory, 1 to 64 characters), Description (Optional, up to 100 characters), Slot (Mandatory, up to 3 numerals), Subunit (Mandatory, up to 3 numerals), Port Number (Mandatory, up to 3 numerals), Port Description (Optional, up to 50 characters)

サンプル 2

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 001, 001, 001, , ,
```



(注) フィールドが空白でも、カンマ区切り文字を指定する必要があります。

両方のトランク オプションの例

必須の値のみを指定する場合は、次の形式を使用します。

```
MGCPTest, , 001, 001, 001, , ,
```

T1 CAS の例

Cisco VG200 ゲートウェイの説明が空白の場合は、次のオプションを使用します。

```
MGCPTest, , 001001, 001, 001, MGCP Port, ,
```

ポート ID は、最初の桁が 0 または 1 (サブユニット 0 またはサブユニット 1 を指定) で、その後にはポート番号 (01 ~ 24) が続く必要があります。可能な値は 001 ~ 024 または 101 ~ 124 です。Cisco VG200 ゲートウェイテンプレートに 3 つのポート ID がある場合は、次のオプションを使用します。

```
MGCPTest, VG200 Lab Gateway, 001, 002, 003
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

Cisco VG224 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキスト エディタを使用して、VG224 ゲートウェイ用の CSV テキスト ファイルを作成できます。

Cisco VG224 ゲートウェイを追加する場合、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのトランクおよびポートのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキスト エディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに個別の行を使用して、に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。
- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

- [IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)
- [VG224 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#) (817 ページ)
- [サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

VG224 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式

次のサンプル形式には、必須フィールドの長さや文字列の種類が示されています。その後は、Cisco VG224 ゲートウェイ用の CSV ファイルのサンプルが示されています。

MGCP Domain Name (Mandatory, 1 to 64 characters), Description (Optional, up to 100 characters), Slot (Mandatory, up to 3 numerals), Subunit (Mandatory, up to 3 numerals), Port Number (Mandatory, up to 3 numerals), Port Description (Optional, up to 50 characters), Port Directory Number (Optional, up to 24 numerals and special characters)

例

```
MGCPTest, VG224 Lab Gateway, 2, 0, 0, Port 0, 97255576601 MGCPTest, VG224 Lab Gateway, 2, 0, 1, Port 1, 97255572001
```



- (注) フィールドが空白でも、カンマ区切り文字を指定する必要があります。Cisco VG224 ゲートウェイテンプレートのポートタイプが POTS の場合のみ、電話番号とルートパーティションを指定します。

例 1

Cisco VG224 ゲートウェイの説明が空欄の場合は、次の形式を使用します。

```
MGCPTest, , 2, 0, 0, Port 0, 97255576601
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

Cisco VG310 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキストエディタを使用して、VG310 ゲートウェイ用の CSV テキストファイルを作成できます。

Cisco VG200 ゲートウェイを追加する場合、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのトランクおよびポートのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

ステップ 1 テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。

ステップ 2 ゲートウェイごとに個別の行を使用して、に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。

(注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。

ステップ 3 CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

[VG310 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#) (818 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

VG310 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式

次のサンプル形式に、必須フィールドの長さと言文字列のタイプを示します。その後、Cisco VG310 ゲートウェイ用の CSV ファイルの例を示します。

MGCP Domain Name (Mandatory, 1 to 64 characters), Description (Optional, up to 100 characters), Slot (Mandatory, up to 3 numerals), Subunit (Mandatory, up to 3 numerals), Port Number (Mandatory, up to 3 numerals), Port Description (Optional, up to 50 characters), Port Directory Number (Optional, up to 24 numerals and special characters)

例

```
MGCPTest, VG310 Lab Gateway, 2, 0, 0, Port 0, 97255576601MGCPTest, VG310 Lab Gateway, 2, 0, 1, Port 1, 97255572001
```



- (注) フィールドが空白でも、カンマ区切り文字を指定する必要があります。Cisco VG310 ゲートウェイテンプレートのポートタイプが POTS の場合のみ、電話番号とルートパーティションを指定します。

例 1

Cisco VG310 ゲートウェイの説明が空白の場合は、次の形式を使用します。

```
MGCPTest, ,2,0,0,Port 0,97255576601
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

VG320 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキストエディタを使用して、VG320 ゲートウェイ用の CSV テキストファイルを作成できます。

Cisco VG320 ゲートウェイを追加する場合、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのトランクおよびポートのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキストエディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに個別の行を使用して、に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。

- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。

ステップ 3 CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)

[VG320 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#) (820 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

VG320 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式

次のサンプル形式に、必須フィールドの長さや文字列のタイプを示します。その後、Cisco VG320 ゲートウェイ用の CSV ファイルの例を示します。

```
MGCP Domain Name (Mandatory, 1 to 64 characters), Description (Optional, up to 100
characters), Slot (Mandatory, up to 3 numerals), Subunit (Mandatory, up to 3 numerals),
Port Number (Mandatory, up to 3 numerals), Port Description Optional, up to 50
characters), Port Directory Number (Optional, up to 24 numerals and special characters)
```

例

```
MGCPTest, VG320 Lab Gateway, 2, 0, 0, Port 0, 97255576601MGCPTest, VG320 Lab Gateway, 2, 0, 1, Port
1, 97255572001
```



- (注) フィールドが空白でも、カンマ区切り文字を指定する必要があります。Cisco VG320 ゲートウェイテンプレートのポートタイプが POTS の場合のみ、電話番号とルートパーティションを指定します。

例 1

Cisco VG320 ゲートウェイの説明が空白の場合は、次の形式を使用します。

```
MGCPTest, , 2, 0, 0, Port 0, 97255576601
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

VG350 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキストエディタを使用して、VG350 ゲートウェイ用の CSV テキストファイルを作成できます。

CiscoVG200 ゲートウェイを追加する場合、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのトランクおよびポートのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。



-
- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。
-

手順

-
- ステップ 1** テキストエディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに個別の行を使用して、に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。
- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。
-

次のタスク

の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

- [IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)
- [VG350 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式](#) (822 ページ)
- [サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

VG350 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式

次のサンプル形式に、必須フィールドの長さや文字列のタイプを示します。その後、Cisco VG350 ゲートウェイ用の CSV ファイルの例を示します。

MGCP Domain Name (Mandatory, 1 to 64 characters), Description (Optional, up to 100 characters), Slot (Mandatory, up to 3 numerals), Subunit (Mandatory, up to 3 numerals), Port Number (Mandatory, up to 3 numerals), Port Description (Optional, up to 50 characters), Port Directory Number (Optional, up to 24 numerals and special characters)

例

```
MGCPTest, VG350 Lab Gateway, 2, 0, 0, Port 0, 97255576601 MGCPTest, VG350 Lab Gateway, 2, 0, 1, Port 1, 97255572001
```



- (注) フィールドが空白でも、カンマ区切り文字を指定する必要があります。Cisco VG350 ゲートウェイテンプレートのポートタイプが POTS の場合のみ、電話番号とルートパーティションを指定します。

例 1

Cisco VG350 ゲートウェイの説明が空白の場合は、次の形式を使用します。

```
MGCPTest, , 2, 0, 0, Port 0, 97255576601
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

VG410 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキストエディタを使用して、VG410 ゲートウェイ用の CSV テキストファイルを作成できます。

Cisco VG410 ゲートウェイを追加する場合、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのトランクおよびポートのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキストエディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに個別の行を使用して、Unified Communications Manager に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。
- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

CSV ファイルを Unified Communications Manager の最初のノードサーバーにアップロードします。

VG420 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキストエディタを使用して、VG420 ゲートウェイ用の CSV テキストファイルを作成できます。

Cisco VG420 ゲートウェイを追加する場合、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのトランクおよびポートのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに個別の行を使用して、Unified Communications Manager に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。
- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

CSV ファイルを Unified Communications Manager の最初のノードサーバーにアップロードします。

VG450 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキスト エディタを使用して、VG450 ゲートウェイ用の CSV テキスト ファイルを作成できます。

Cisco VG200 ゲートウェイを追加する場合、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのトランクおよびポートのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに個別の行を使用して、に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。
- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

- [IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(839 ページ\)](#)
- [VG450 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式 \(825 ページ\)](#)
- [サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

VG450 対応 FXS トランク用 CSV ファイル形式

次のサンプル形式に、必須フィールドの長さと言文字列のタイプを示します。その後、Cisco VG450 ゲートウェイ用の CSV ファイルの例を示します。

```
MGCP Domain Name(Mandatory, 1 to 64 characters),Description(Optional, up to 100
characters),Slot(Mandatory, up to 3 numerals), Subunit (Mandatory, up to 3 numerals),
Port Number(Mandatory, up to 3 numerals), Port Description Optional, up to 50
characters),Port Directory Number(Optional, up to 24 numerals and special characters)
```

例

```
MGCPTest,VG450 Lab Gateway,2,0,0,Port 0,97255576601MGCPTest,VG450 Lab Gateway,2,0,1,Port
1,97255572001
```



- (注) フィールドが空白でも、カンマ区切り文字を指定する必要があります。Cisco VG450 ゲートウェイテンプレートのポートタイプが POTS の場合のみ、電話番号とルートパーティションを指定します。

例 1

Cisco VG450 ゲートウェイの説明が空白の場合は、次の形式を使用します。

```
MGCPTest, ,2,0,0,Port 0,97255576601
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

ISR 4461 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++などのテキストエディタを使用して、VG4461 ゲートウェイ用の CSV テキストファイルを作成できます。

Cisco VG4461 ゲートウェイを追加する場合、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのトランクおよびポートのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキストエディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに個別の行を使用して、Unified Communications Manager に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。

- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。

- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

CSV ファイルを Unified Communications Manager の最初のノードサーバーにアップロードします。

Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキストエディタを使用して、Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用の CSV テキスト ファイルを作成できます。

Cisco Catalyst 6000 FXS ポートを追加するとき、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイのタイプに適切なファイル形式を使用する必要があります。

手順

-
- ステップ 1** テキストエディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成できるアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** ゲートウェイごとに個別の行を使用して、に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。
- (注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[Cisco Catalyst 6000 \(FXS\) ポート ファイル形式 \(828 ページ\)](#)

[関連項目 \(848 ページ\)](#)

Cisco Catalyst 6000 (FXS) ポート ファイル形式

CSV ファイルには各ポートに関する情報がレコードとして含まれています。各レコードはゲートウェイの MAC アドレスとそのゲートウェイのポート番号を指定しており、このレコードに対してポートの詳細を追加、更新します。



- (注) BAT は、Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイを追加しません。既存のゲートウェイにポートを追加または更新するだけです。

MAC アドレスには、既存の Cisco Catalyst 6000 (FXS) ゲートウェイの MAC アドレス値を入力しません。この MAC アドレスではゲートウェイ名の最後の 12 文字が使用されます。

CSV ファイルのレコードで、パーティションにどの値も指定しない場合、システムではこれらのフィールドに BAT テンプレートの値を使用します。

次のサンプル形式には、必須フィールドの長さや文字列の種類が示されています。その後には、Catalyst 6000 (FXS) ポート用の CSV ファイルの例が示されています。

MAC Address (Mandatory, 12 characters), Port Number (Mandatory, 2 numerals), Directory Number (Optional, up to 24 numerals and special characters)

例

```
1231123245AB,23,9725557250
```



- (注) フィールドが空白でも、カンマ区切り文字を指定する必要があります。



- (注) 電話番号を指定しなかった場合は、パーティションを指定しないでください。

例

ポートの電話番号が空欄の場合は、次の形式を使用します。

```
1231123245AB,23,
```

必須の値のみを追加する場合は、次の形式を使用します。

```
1231123245AB,23,
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキストエディタを使用して、VG202 または VG204 ゲートウェイ用の CSV テキストファイルを作成できます。

Cisco VG202 および VG204 ゲートウェイを追加するとき、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。ゲートウェイに適切なファイル形式を使用する必要があります。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

ステップ 1 テキストエディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。

ステップ 2 ゲートウェイごとに個別の行を使用して、に追加するそれぞれのゲートウェイとポートの値を入力します。

(注) CSV ファイルに空白行が含まれていると、エラーが発生します。

ステップ 3 CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

- [IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成](#) (839 ページ)
- [VG202 および VG204 ゲートウェイ用 CSV ファイル形式](#) (830 ページ)
- [サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

- FAC の場合：ステップ 3 および 4

ヒント 2つの別個の CSV ファイル（1つは CMC、もう1つは FAC 用）を作成する必要があることに注意してください。

ステップ 3 CMC CSV ファイルを作成するには、対応する情報を入力します。x、y は以下のフィールドを表します。

- x：クライアント識別コード（追加、更新、削除のいずれの場合にも必須のエントリ）
- y：説明（エントリを更新する場合はオプション）

たとえば、「5555,Acme Toys」と入力することができます。ここで、「5555」は必須クライアント識別コードに相当し、「Acme Toys」は説明に相当します。

ステップ 4 FAC CSV ファイルを作成するには、対応する情報を入力します。x、y は以下のフィールドを表します。

- x：強制承認コード（追加、更新、削除のいずれの場合にも必須のエントリ）
- y：承認コード名（エントリを更新する場合はオプション）
- z：承認レベル（エントリを更新する場合はオプション）

たとえば、「1234,John Smith,20」と入力することができます。ここで、「1234」は強制承認コードに相当し、「John Smith」は承認コード名に相当し、「20」は承認レベルに相当します。

注意 新しいコードを更新と同時に追加する場合は、必要な情報がすべて入力されていることを確認してください。既存のレコードのどの部分も変更できますが、コード（強制承認コードやクライアント識別コードなど）を含める必要があります。情報を削除してそれを空白のままにしてもデータベースから情報は削除されません。空白の値ではデータベース内の既存の値は上書きされませんが、たとえば、上の例の値を Acme Toys, Inc. または John L. Smith などに更新すると、更新値でデータベース内の既存の値が上書きされます。

ステップ 5 の最初のノードに CSV ファイルをアップロードします。

CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

(注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

ステップ 6 次のいずれかの操作を行います。

- 追加または更新を実行する場合、BAT を使用して CUCM データベースにファイルを挿入します。
- コード設定を削除できます。

(注) 同じ CSV ファイルで挿入および更新操作を同時に実行できません。挿入と更新のために別々の CSV ファイルを作成する必要があります。

関連トピック

[コード設定の削除例](#) (599 ページ)

[関連項目](#) (848 ページ)

[BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新](#) (595 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

CMC ファイル形式

次のサンプル形式と例では、クライアント識別コードのテキストベースの CSV ファイルについて、フィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示しています。

Client Matter Code (Mandatory, 1 to 16 numerals), Description (Optional, 1 to 50 Characters)

例

```
1234567890123456,Marketing
```

例

フィールドの値にカンマが含まれている場合、そのフィールドは二重引用符で囲む必要があります。カンマがあるフィールドには、次の形式を使用します。

```
1234567890123456, "Marketing, team"
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

CMC ファイル形式の更新

テキストエディタを使用して、クライアント識別コードを更新するための CSV テキストファイルを作成します。

次のサンプル形式ではフィールド長と文字列の種類を示し、その後にクライアント識別コードを更新するための CSV ファイルの例を示します。

Client Matter Code (Mandatory, 1 to 16 numerals), Description (Optional, 1 to 50 Characters)

例

```
1234567890123456,Marketing
```

例

説明が空白の場合は、次の形式を使用します。

```
1234567890123456,
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

FAC ファイル形式

次のサンプル形式と例に、強制承認コードのテキストベース CSV ファイル内のフィールドとフィールドの長さ、および各フィールドがオプションまたは必須のどちらであることを示します。

```
Forced Authorization Code (Mandatory, 1 to 16 numerals), Authorization Code Name (Mandatory, 1 to 50 Characters), Authorization Level (Mandatory, values range from 0 to 255)
```

例

```
1234567890123456, John FAC, 251
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

FAC ファイル形式の更新

テキストエディタを使用して、強制承認コードを更新するための CSV テキスト ファイルを作成します。

次のサンプル形式ではフィールド長と文字列の種類を示し、その後に強制承認コードを更新するための CSV ファイルの例を示します。

```
強制承認コード (Forced Authorization Code) (必須、1 ~ 16 桁の数字) , 承認コード名 (Authorization Code Name) (必須、1 ~ 50 文字) , 承認レベル (Authorization Level) (必須、値の範囲は 0 ~ 255)
```

例

```
1234567890123456, John FAC, 251
```

例

更新しない値にも、区切り文字を含める必要があります。承認コード名のみを更新する必要がある場合は、次の形式を使用します。

```
1234567890123456, John FAC,
```

承認レベルのみを更新する必要がある場合は、次の形式を使用します。

```
1234567890123456, John FAC, 220
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

コールピックアップグループ用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキスト エディタを使用して、コールピックアップグループ用のカスタムのテキストベースの CSV ファイルを作成できます。

手順

ステップ 1 テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。

コールピックアップグループ名ごとに別々の行を使用します。

ステップ 2 [ピックアップグループ名 (Pickup Group Name)]、[ピックアップグループ番号 (Pickup Group Number)]、[パーティション (Partition)]、[その他のピックアップグループ名 Member1 (Other Pickup Group Name-Member1)]... [その他のピックアップグループ名 Member10 (Other Pickup Group Name-Member10)]に入力します。

たとえば、「Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training」と入力できます。ここで、「Marketing」は必須のピックアップグループ名で、「7815」は必須のピックアップグループ番号です。「Part1」はパーティションで、「Marketing」、「Managers」、「Training」は、ピックアップグループ Marketing に関連付けられたその他のピックアップグループ名です。

注意 情報を削除してそれを空白のままにしてもデータベースから情報は削除されません。空白の値ではデータベース内の既存の値はを上書きされませんが、値を更新すると（たとえば、前述の例の「Marketing」を「Sales」に更新すると）、更新値でデータベース内の既存の値が上書きされます。

ステップ 3 の最初のノードに CSV ファイルをアップロードします。

CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

(注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキスト エディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、 からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

ステップ 4 次のいずれかの操作を行います。

- 追加または更新を実行する場合、BAT を使用して CUCM データベースにファイルを挿入します。
- コールピックアップグループの設定を削除できます。

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

[コード設定の削除例](#) (599 ページ)

[BAT を使用した CUCM データベース内の CMC または FAC の更新](#) (595 ページ)

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

CPG ファイル形式

次のサンプル形式と例では、コールピックアップグループのテキストベースの CSV ファイルについて、フィールド、フィールド長、およびフィールドがオプションか必須かを示しています。

```
Pickup Group Name(Mandatory, 1 to 50 characters),Pickup Group Number(Mandatory, 1 to 24
numerals),Partition(Optional, 1 to 50 Characters),Other Pickup Group Name-Member1...
Other Pickup Group Name-Member10(Optional, 1 to 50 Characters)
```

例

```
Marketing,7815,Part1,Marketing,Managers,Training
```

例

現時点で指定する必要がないオプション値も、[他のピックアップグループ (Other Pickup Group)] のメンバーを除き、デリミタ (カンマ) を含める必要があります。

ピックアップグループの [パーティション (Partition)] が空欄の場合は、次の形式を使用します。

```
Marketing,7815,
```

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

CPG ファイル形式の更新

テキストエディタを使用して、コールピックアップグループを更新するための CSV テキストファイルを作成します。

次のサンプル形式ではフィールド長と文字列の種類を示し、その後にコールピックアップグループを更新するための CSV ファイルの例を示します。

```
Pickup Group Name(Mandatory, 1 to 50 characters),Pickup Group Number(Mandatory, 1 to 24
numerals),Partition(Optional, 1 to 50 Characters),Other Pickup Group Name-Member1...
Other Pickup Group Name-Member10(Optional, 1 to 50 Characters)
```

例

```
Marketing,,Marketing,Managers,Training
```

例

```
Marketing,,Managers,Marketing,Training
```

他のピックアップグループメンバーを更新しない場合は、区切り文字（カンマ）を含めないでください。次の形式を使用します。

関連トピック

[関連項目](#) (848 ページ)

リモート接続先プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成

リモート接続先プロファイル（RDP）を追加するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値（CSV）ファイルを作成できます。Notepad++ などのテキストエディタを使用できます。



(注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** に追加する RDP ごとに、別々の行を使用して値を入力します。CSV データ ファイルを作成する場合は、次の規則に留意してください。
 - フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。
 - RDP をユーザに関連付ける場合はユーザ ID を指定します。
 - 回線が含まれていない BAT テンプレートと一緒に使用する CSV ファイルを作成する場合にのみ、電話番号フィールドをオプションと見なすことができます。BAT RDP テンプレートで回線を設定する場合は、RDP ごとに CSV ファイルに電話番号を指定する必要があります。

- 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。

ステップ 3 CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードに CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

電話移行用のテキストベースの CSV ファイルの作成

電話を移行するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。Notepad++ などのテキスト エディタを使用できます。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキスト エディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウン リストから [バイトオーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、 からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 移行する電話ごとに、別々の行を使用して値を入力します。CSV データ ファイルを作成する場合は、次の規則に留意してください。
- フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。
 - 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードに CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

電話移行ファイル形式

次のサンプル形式および例に、電話の移行用のテキストベース CSV ファイルのフィールドとフィールドの長さ、および各フィールドがオプションまたは必須のどちらであることを示します。

Old Device Name (Mandatory, 1 to 50 characters), New Device MAC Address (Mandatory, 12 characters) Description (Optional, 1 to 50 characters).

例

旧デバイス名, 新規デバイス MAC アドレス, 説明

SEP123456789012, 123333789012, Marketing

IME 信頼要素設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成

IME 信頼要素設定を挿入するとき、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。Notepad++ などのテキストエディタを使用できます。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウン リストから [バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成できるアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する IME 信頼要素設定ごとに別個の行を使って値を入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
 - フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。

- 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。

ステップ 3 CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードサーバーに、CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

IME 信頼要素設定ファイルの形式

次のサンプル形式と例は、IME 信頼要素設定に関するフィールド、フィールド長、およびそのフィールドがテキストベースの CSV ファイルに必須か省略可能かを示しています。

Name (必須、1 ~ 50 文字)、Description (省略可能、1 ~ 128 文字)、Element Type (必須、1 ~ 50 文字)、Cisco IME Link Route Filter Group (必須、1 ~ 50 文字)。

例

Name, Description, Element Type, Cisco IME Link Route Filter Group

Elem1, sample_file, Prefix, grp1

IME 信頼グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成

IME 信頼グループ設定を挿入する際は、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。Notepad++ などのテキストエディタを使用できます。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

-
- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成できるアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する IME 信頼グループ設定ごとに別個の行を使って値を入力します。CSV データ ファイルを作成するときには、次の規則に注意してください。
- フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。
 - 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。
-

次のタスク

の最初のノードに CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

IME 信頼要素設定ファイルの形式

次のサンプル形式と例は、IME 信頼グループ設定に関するフィールド、フィールド長、およびそのフィールドがテキストベースの CSV ファイルに必須か省略可能かを示しています。

Name (必須、1 ~ 50 文字)、Description (省略可能、1 ~ 128 文字)、Element Type (必須、1 ~ 50 文字)、Cisco IME Link Route Filter Group (必須、T/F)。

例

Name, Description, Trusted

grp1,sample_file,t

IME 登録グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成

IME 登録グループ設定を挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。Notepad++ などのテキスト エディタを使用できます。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、 からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する IME 登録済みグループ設定ごとに別々の行を使用して値を入力します。CSV データ ファイルを作成する場合は、次の規則に留意してください。
- フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。
 - 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードに CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

IME 登録済みグループ設定ファイルの形式

次のサンプル形式と例は、IME 登録済みグループ設定に関するフィールド、フィールド長、およびそのフィールドがテキストベースの CSV ファイルに必須か省略可能かを示しています。

Group Name (必須、1 ~ 50 文字)、Description (省略可能、1 ~ 128 文字)、Fallback Profile (省略可能、1 ~ 50 文字)、All Patterns In Group Are Aliases (省略可能、T/F)。

例

Group Name, Description, Fallback Profile, All Patterns In Group Are Aliases

```
Enrol_grpl, sample_file, profile1, t
```

IME 除外グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成

IME 除外グループ設定を挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。Notepad++ などのテキスト エディタを使用できます。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキスト エディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウン リストから [バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加する IME 除外グループ設定ごとに別々の行を使用して値を入力します。CSV データ ファイルを作成する場合は、次の規則に留意してください。
- フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。
 - 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウン リストで、[バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードに CSV ファイルをアップロードします。「[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)」を参照してください。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード \(25 ページ\)](#)

IME 除外グループ設定ファイルの形式

次のサンプル形式と例は、IME 除外グループ設定に関するフィールド、フィールド長、およびそのフィールドがテキストベースの CSV ファイルに必須か省略可能かを示しています。

Group Name (必須、1 ~ 50 文字)、Description (省略可能、1 ~128 文字)。

例

Name,Description

Exclu_grp1,sample_file

フォールバック プロファイル設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成

フォールバック プロファイル設定を挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。Notepad++ などのテキスト エディタを使用できます。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキスト エディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加するフォールバック プロファイル設定ごとに別々の行を使用して値を入力します。CSV データ ファイルを作成する場合は、次の規則に留意してください。
 - フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。
 - 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

の最初のノードに CSV ファイルをアップロードします。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

フォールバック プロファイル設定ファイル形式

次のサンプル形式と例に、フォールバック プロファイル設定のテキストベース CSV ファイル内のフィールドとフィールドの長さ、および各フィールドがオプションまたは必須のどちらであるかを示します。

[名前 (Name)] (必須、1～50 文字) 、[説明 (Description)] (オプション、1～128 文字) 、[アドバタイズされたフォールバックの E.164 番号 (Advertised Fallback Directory E.164 Number)] (オプション、1～16 文字) 、[フォールバックの QOS の重要度レベル (Fallback Qos Sensitivity Level)] (必須、1～2 文字) 、[フォールバックのコール CSS (Fallback Call CSS)] (必須、1～2 文字) 、[フォールバックのコール応答タイマー (Fallback Call Answer Timer)] (必須、1～2 文字) 、[フォールバックの電話番号パーティション (Fallback Directory Number Partition)] (必須、1～50 文字) 、[フォールバックの電話番号 (Fallback Directory Number)] (必須、1～50 文字) 、[発信者 ID の部分一致の桁数 (Number of Digits for Caller Id Partial Match)] (必須、1～2 文字)

例

名前 (Name) ,説明 (Description) ,アドバタイズされたフォールバックの E.164 番号 (Advertised Fallback Directory E.164 Number) ,フォールバックの QOS の重要度レベル (Fallback Qos Sensitivity Level) ,フォールバックのコール CSS (Fallback Call CSS) ,フォールバックのコール応答タイマー (Fallback Call Answer Timer) ,フォールバックの電話番号パーティション (Fallback Directory Number Partition) ,フォールバックの電話番号 (Fallback Directory Number) ,発信者 ID の部分一致の桁数 (Number of Digits for Caller Id Partial Match)

```
profile1,sample_file,+91233232,1,Trunk Reroute Calling Search Space,2,partition1,1212,1
```

エンドユーザ CAPF プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成

エンドユーザ CAPF プロファイルを挿入するとき、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。Notepad++ などのテキスト エディタを使用できます。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキストエディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキストエディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成できるアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加するエンドユーザ CAPF プロファイルごとに、別個の行を使って値を入力します。CSV データファイルを作成する際は、次の規則に注意してください。
- フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。
 - 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコードファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイトオーダーマーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

エンドユーザ CAPF プロファイルのファイル形式

次のサンプル形式と例に、エンドユーザ CAPF プロファイルのテキストベース CSV ファイル内のフィールドとフィールドの長さ、および各フィールドがオプションまたは必須のどちらであるかを示します。

[インスタンス ID (Instance ID)] (必須、1 ~ 132 文字)、[エンドユーザ ID (End User ID)] (必須、1 ~ 128 文字)、[証明書の操作 (Certificate Operation)] (必須、1 ~ 100 文字)、[認証モード (Authentication Mode)] (必須、1 ~ 100 文字)、[認証文字列 (Authentication String)] (オプション、1 ~ 50 文字)、[キーサイズ (Key Size)] (必須、1 ~ 4 文字)、[操作の完了期限 (Operation Completes By)] (必須、1 ~ 15 文字)

例

インスタンス ID (Instance ID) ,エンド ユーザ ID (End User ID) ,証明書の操作 (Certificate Operation) ,認証モード (Authentication Mode) ,認証文字列 (Authentication String) ,キーサイズ (Key Size) ,操作の完了期限 (Operation Completes By)

```
11,user,No Pending Operation,By Existing Certificate (precedence to LSC),1234567,512,2010:1:21:12
```

モビリティ プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成

モビリティ プロファイルを挿入するときに、データ入力に BAT スプレッドシートを使用する代わりに、値をカンマで区切った ASCII テキストの行を使用してカンマ区切り値 (CSV) ファイルを作成できます。Notepad++ などのテキスト エディタを使用できます。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキスト エディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストから [バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** 追加するモビリティ プロファイルごとに別々の行を使用して値を入力します。CSV データ ファイルを作成する場合は、次の規則に留意してください。
- フィールドが空でも、必ずカンマ区切り文字を指定します。
 - 空の行がある CSV ファイルを挿入すると、エラーが発生します。
- ステップ 3** CSV ファイルを保存する際は、UTF-8 エンコード ファイルとして保存します。Notepad++ の [エンコーディング (Encoding)] ドロップダウンリストで、[バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。

次のタスク

CSV ファイルを Cisco Unified Communications Manager の最初のノードにアップロードします。

関連トピック

[サーバへのファイルのアップロード](#) (25 ページ)

モビリティ プロファイルのファイル形式

次のサンプル形式および例に、モビリティ プロファイルに使用するテキストベース CSV ファイル内のフィールドとフィールドの長さ、および各フィールドがオプションまたは必須のどちらであるかを示します。

Mobility Profile Name (Mandatory, 1 to 50 characters), Description (Optional, 1 to 128 characters), Service Access Number (Optional, 1 to 50 characters), Enterprise Feature Access Number/Partition (Optional, 1 to 50 characters), Callback Caller ID (Optional, 1 to 50 characters), Mobile Client Calling Option (Mandatory, 1 to 50 characters).

例

Mobility Profile Name,Description,Service Access Number,Enterprise Feature Access Number/Partition,Callback Caller Id,Mobile Client Calling Option

MoProfile1,testexport,2323,123456 in part1,33,Dial via Office Reverse

インフラストラクチャ デバイス用のテキストベースの CSV ファイルの作成

Notepad++ などのテキスト エディタを使用して、インフラストラクチャ デバイス用の CSV テキスト ファイルを作成できます。



- (注) UTF-8 形式では ASCII 文字以外の文字を保存できるため、この形式で保存したテキストベースの CSV ファイルのみをアップロードすることをお勧めします。Notepad++ などのテキスト エディタを使用すると、[エンコーディング (Encoding)] ドロップダウン リストから [バイト オーダー マーク (BOM) なしの UTF-8 (UTF-8 without Byte Order Mark (BOM))] を選択できます。UTF-8 以外の形式で保存したテキストベースの CSV ファイルは、Cisco Unified Communications Manager からダウンロードしたときに文字化けする可能性があります。

手順

- ステップ 1** テキスト エディタを開くか、テキストベースの CSV ファイルをエクスポートまたは作成可能な別のアプリケーションを開きます。
- ステップ 2** CSV ファイルの先頭行は、「ACCESSPOINT OR SWITCH NAME,IPV4 ADDRESS,IPV6 ADDRESS,BSSID,DESCRIPTION」にする必要があります。
- ステップ 3** 追加するインフラストラクチャデバイスごとに別々の行を使用して値を入力します。CSV ファイルには、以下をカンマで列挙した列が含まれます。

- [デバイス名 (Device Name)]
- IPv4 アドレス
- IPv6 アドレス
- BSSID
- 説明

ステップ 4 サンプル CSV データ ファイルを表示するには、[一括管理 (Bulk Administration)]>[インフラストラクチャデバイス (Infrastructure Device)]>[インフラストラクチャデバイスの挿入 (Insert Infrastructure Device)] の順にクリックします。

[インフラストラクチャデバイス設定の挿入 (Insert Infrastructure Device Configuration)] ウィンドウが開きます。

ステップ 5 [サンプルファイルの表示 (View Sample File)] をクリックします。

関連項目

- [電話機用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(798 ページ\)](#)
- [テキストベースの CSV ユーザ ファイルの作成 \(804 ページ\)](#)
- [ユーザ デバイス プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(807 ページ\)](#)
- [Cisco Unified CM Assistant マネージャおよびアシスタントの関連付け用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(811 ページ\)](#)
- [Cisco VG200 ゲートウェイ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(813 ページ\)](#)
- [Cisco Catalyst 6000 FXS ポート用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(827 ページ\)](#)
- [クライアント識別コードおよび強制承認コード用のカスタムのテキストベースの CSV ファイルの作成 \(830 ページ\)](#)
- [コール ピックアップ グループ用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(834 ページ\)](#)
- [リモート接続先プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(836 ページ\)](#)
- [電話移行用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(837 ページ\)](#)
- [IME 信頼要素設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(838 ページ\)](#)
- [IME 登録グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(840 ページ\)](#)
- [IME 除外グループ設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(842 ページ\)](#)
- [フォールバック プロファイル設定用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(843 ページ\)](#)
- [エンド ユーザ CAPF プロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(844 ページ\)](#)

- [モビリティプロファイル用のテキストベースの CSV ファイルの作成 \(846 ページ\)](#)



付録 **B**

BAT パフォーマンス

- [BAT パフォーマンス \(851 ページ\)](#)

BAT パフォーマンス

次の表に、さまざまな BAT トランザクションのパフォーマンスの値を示します。



- (注) リストされているパフォーマンスデータは、ラボ条件で発生したものです。したがって、このデータは Cisco Unified Communications Manager のアクティビティに応じて変わる可能性があります。オフピーク時の数値は、トランザクション全体の時間を判断するための、おおよその目安を提供するだけです。

表 54: さまざまなトランザクションの **BAT** パフォーマンスの測定値

トランザクション	1 分間に処理されるレコードの数
強制承認コード	
FAC の挿入	200
FAC の削除	500
クライアント識別コード	
CMC の挿入	250
CMC の削除	500
コール ピックアップ グループ	
CPG の挿入	200
CPG の削除	500

トランザクション	1 分間に処理されるレコードの数
電話/ユーザ	
電話/ユーザの確認	100
電話/ユーザの挿入	30
ユーザー (Users)	
ユーザの挿入	150
ユーザの更新	65
パスワード/PIN のリセット (クエリ)	500
パスワード/PIN のリセット (カスタム)	350
ユーザ レポートの生成	500
ユーザのエクスポート - 特定ユーザ	250
ユーザのエクスポート - すべてのユーザ	200
ユーザの削除 - クエリ	300
ユーザの削除 - カスタム	300
マネージャ アシスタント	
マネージャ/アシスタントの挿入	75
マネージャ/アシスタントの CSV ベースの削除	300
マネージャ/アシスタントのクエリ ベースの削除	300
マネージャ/アシスタントのカスタム ファイルベースの削除	300
UDP トランザクション	
UDP の検証	300
UDP の固有の詳細の挿入	65
すべての詳細のエクスポート	50
回線 UDP の追加	75
UDP のレポート	125

トランザクション	1 分間に処理されるレコードの数
UDP の削除	70
電話機のトランザクション	
電話の確認	250
特定の電話機の挿入	45
すべての詳細のエクスポート	75
電話の更新	150
電話機の回線の追加	75
電話機のリセット/再起動	500
電話レポートの生成	300
電話機の削除 (クエリ)	75
インフラストラクチャ デバイス	
インフラストラクチャ デバイスの挿入	500

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。